高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊

多肥松林遺跡

1999. 3

香　川　県　教　育　委　員　会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊

多肥松林遺跡

1999．3

香　川　県　教　育　委　員　会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

序　　文

香川県教育委員会では，四国横断自動車道や高松東道路の建設などの大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査と，それに伴う出土品の整理及び発掘調査報告書作成の業務を，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施しております。

このたび，「高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊」として刊行いたしますのは，高松市多肥上町及び多肥下町にあります高松桜井高等学校の新設工事に伴い，平成４年度から６年度にかけて調査を行いました多肥松林遺跡についてであります。

この遺跡の調査では，縄文時代晩期から中世にかけての多くの遺構・遺物が出土しておりますが，そのなかでも，弥生時代中期の川跡から検出した大量の土器及び木製品は，本県においては出土例の少ないものであります。特に，大量の木製品は，当時の日常生活・文化を鮮やかによみがえらせるものであり，貴重なものと考えております。

本報告書が香川県の歴史を考える資料として広く活用されますとともに，埋蔵文化財に対する理解と関心を深められるものとなれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査から報告書の刊行に至るまでの間，香川県土木部高松土木事務所及び関係諸機関並びに地元関係各位に多大な御協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに，今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申しあげます。

平成11年３月

香川県教育委員会

教育長　金森越哉

例　　言

1．本報告書は，高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告の第１冊で，香川県高松市多肥上町及び多肥下町に所在する多肥松林遺跡（たひまつばやしいせき）の報告を収録した。

2．発掘調査は，香川県教育委員会から委託され，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3．発掘調査の期間及び担当は以下の通りである。

予備調査期間　平成５年２月，３月
担当　真下拓也，宮崎哲治，藤本和貴

本調査　期間　平成５年４月26日～平成８年９月31日
担当　土佐修治，中川芳和，真下拓也，山下平重，宮崎哲治，井原靖子，陶山仁美

4．調査にあたって，下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同，敬称略）
香川県土木部高松土木事務所，同建築課，高松市教育委員会，地元自治会

5．本報告書の作成は，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。
本報告書の執筆，編集は山下平重が担当した。

6．本報告書の作成にあたっては，下記の方々に御教示を得た。記して謝意を表したい。（順不同，敬称略）
香川大学教育学部　谷山穣，岡山市教育委員会　扇崎由　安川満，㈶徳島県埋蔵文化財センター　植地岳彦，㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター　筒井三菜，高松市教育委員会　山元敏裕，高松市歴史資料館　川畑聰，出土木器研究会参加者

7．本報告書で用いる方位の北は，国土座標系第Ⅳ系の北であり，標高はＴ．Ｐ．を基準としている。
また，遺構は下記の略号により表示している。

ＳＡ　柵列	ＳＢ　掘立柱建物跡	ＳＤ　溝状遺構	ＳＥ　井戸
ＳＨ　竪穴住居跡	ＳＫ　土坑	ＳＰ　柱穴	ＳＸ　不明遺構
ＳＲ　川跡			

8．石器実測図中の網目は摩滅痕を，輪郭線の回りの点線は潰れ痕，実線は磨滅痕及び研磨痕，多数の点による表現は自然面をそれぞれ表す。剥離面の風化の程度が違う場合，新しい剥離面は黒丸で，古い剥離面は白丸で表現している。なお，現代の折損は濃く黒で潰している。また，石器石材について特に記載が無い場合はサヌカイト製である。

9．木器の実測図において，１点鎖線は炭化した部分の輪郭をしめし，炭化部分は矢印で示す。また断面図周りでは，波線は樹皮の範囲，実線は皮剥面，破線は割面を示している。また断面図内の線は年輪を模式的に示したものである。なお木器の名称については基本的に下記文献に従った。
奈良国立文化財研究所『木器集成図録　近畿原始編』1993

10．遺物量の表記については，概ねコンテナは28リットル入りのもので表し，袋は20cm×30cmの袋で表している。

11．遺構断面図の水平線上の数値は，水平線の標高値（単位m）である。

12．挿図の一部に国土地理院地形図　高松南部（1/25,000）及び高松市都市計画図（1/2,500）を使用した。

13．本遺跡の報告にあたっては，下記の機関に分析を委託した。
樹種同定，花粉分析　　パリノ・サーヴェイ株式会社
プラント・オパール分析　　株式会社古環境研究所

14．一部の石材の鑑定は，香川大学教育学部教授　谷山穣氏に依頼した。

15．本書では，隣接して高松市教育委員会が調査した日暮・松林遺跡の成果を参考にしている。この成果は以下の報告書で参照している。文中において日暮・松林遺跡の事例を引用した場合は，すべてこの報告書の記載からのものであり，文中ではその都度引用元にはふれない。また，日暮・松林遺跡に続く遺構の挿図の作成にあたっては，高松市教育委員会作成の航空図面を使用した。
高松市教育委員会『高松市埋蔵文化財調査報告第34集　都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮・松林遺跡』1997.3

16．付図には予備調査時のトレンチ位置及び遺構検出時の遺構平面形を合わせて掲載しているが，不十分な測量体制での調査のため，その位置の精度はあまり高くないことをお断りしておく。

17　土器観察表の中の色調は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色表監修『新版標準土色帖1992年版』を使用して表す。また，残存率は遺物の図化部分にしめる実物の割合であり，完形品に対する割合ではない。

目　　次

序文

例言

第１章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1
　　１　調査の経過 …… 1
　　２　発掘調査及び整理作業の体制 …… 2
第２章　遺跡の立地と環境 …… 5
　第１節　地理的環境 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　調査の成果 …… 8
　第１節　調査の方法 …… 8
　第２節　土層序 …… 8
　第３節　遺構・遺物 …… 11
　　１　縄文時代晩期 …… 11
　　川跡 …… 11
　　包含層出土の土器 …… 11
　　２　弥生時代前期 …… 13
　　溝跡 …… 13
　　３　弥生時代中期 …… 16
　　竪穴住居跡 …… 16
　　掘立柱建物跡 …… 22
　　土坑 …… 25
　　不明遺構 …… 27
　　溝跡 …… 27
　　川跡 …… 29
　　包含層出土の遺物 …… 148
　　４　弥生時代後期～終末期 …… 150
　　竪穴住居跡 …… 150
　　掘立柱建物跡 …… 153
　　柵列 …… 154
　　土坑 …… 154
　　不明遺構 …… 154
　　溝跡 …… 155

5　古墳時代後期～平安時代前半 ……180
土坑 ……180
溝跡 ……180
6　平安時代後半 ……182
掘立柱建物跡 ……182
土坑 ……184
井戸 ……186
溝跡 ……186
不明遺構 ……190
7　中世 ……190
掘立柱建物跡 ……190
柵列 ……191
土坑 ……192
溝跡 ……193
その他 ……197
畑状遺構 ……197
8　近世以降 ……198
土坑 ……198
不明遺構 ……200
溝跡 ……200
その他 ……202
9　時期不明の遺構 ……204
掘立柱建物跡 ……204
柵列 ……205
土坑 ……205
不明遺構 ……208
溝跡 ……208
10　包含層等出土の遺物 ……210
第４章　自然科学調査の成果 ……217
第１節　香川県、多肥松林遺跡におけるプラント・オパール分析 ……217
第２節　多肥松林遺跡の古植生復元 ……223
第３節　多肥松林遺跡から出土した木製品の樹種 ……228
第５章　まとめ ……239
第１節　遺構の変遷 ……239
第２節　川跡出土の木製品について ……247
1　川跡出土の弥生時代木製品の構成 ……247
2　広鍬状木製品について ……248
第３節　石器について ……250

土器観察表 ……251
石器観察表 ……338
写真図版
報告書抄録
付図　4枚

挿図目次

第1図　遺跡位置図(1) …… 6
第2図　遺跡位置図(2)(1/25,000　高松南部) …… 6
第3図　周囲の遺跡(1/5,000) …… 7
第4図　調査区割図(1/1,250) …… 9
第5図　予備調査トレンチ位置図(1/1,250) ……10
第6図　西②区ＳＲ101断面図(1/100) ……11
第7図　西②区ＳＲ101出土土器(1/4)及び石器(1/2) ……12
第8図　包含層出土の土器(1/4) ……13
第9図　Ⅵ区ＳＤ06・Ⅺ区ＳＤ03断面図(1/50)及び出土土器(1/4) ……13
第10図　ＳＤ01断面図(1/50)及び出土土器(1)(1/4) ……14
第11図　ＳＤ01出土土器(2)(1/4)及び石器(1/2) ……15
第12図　西③区ＳＤ11断面図(1/50) ……16
第13図　西③④区ＳＤ12・08断面図(1/50) ……16
第14図　Ⅴ区ＳＨ01平面図(1/100) ……16
第15図　Ⅴ区ＳＨ02平面図(1/100) ……17
第16図　Ⅴ区ＳＨ03平面図(1/100) ……17
第17図　Ⅴ区ＳＨ05平面図(1/100) ……17
第18図　Ⅷ区ＳＨ02平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4) ……17
第19図　Ⅷ区ＳＨ01平・断面図(1/100)及び出土石器(1/2) ……18
第20図　Ⅸ区ＳＨ01平・断面図(1/100) ……18
第21図　Ⅸ区ＳＨ01柱穴断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2・1/3) ……19
第22図　Ⅸ区ＳＨ01出土石器(2)(1/2・1/3) ……20
第23図　Ⅸ区ＳＨ02平・断面図(1/100) ……21
第24図　Ⅹ区ＳＨ01・02平・断面図(1/100)及び出土石器(1/2・1/3) ……21
第25図　ⅫⅢ区ＳＨ01平・断面図(1/100) ……22
第26図　東①区ＳＨ01平・断面図(1/100) ……22
第27図　Ⅱ区ＳＢ01平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4) ……23
第28図　Ⅱ区ＳＢ02・Ⅴ区ＳＢ02・Ⅴ区ＳＢ04・Ⅶ区ＳＢ01平・断面図(1/100) ……23
第29図　Ⅶ区ＳＢ02・Ⅸ区ＳＢ01・Ⅹ区ＳＢ01・Ⅹ区ＳＢ02平・断面図(1/100)及び出土石器(1/2) ……24
第30図　東①区ＳＢ03(1/100)・Ⅱ区ＳＫ01・Ⅸ区ＳＫ03(1/50)平・断面図及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……25
第31図　Ⅸ区ＳＫ04・西④区ＳＫ01・西③区ＳＸ01・西③区ＳＸ02平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……26
第32図　Ⅶ区ＳＤ05・08・Ⅸ区ＳＤ03・Ⅸ区ＳＤ09・10断面図(1/50)及び出土石器(1/2) ……27
第33図　Ⅺ区ＳＤ02・10・Ⅺ区ＳＤ04・Ⅺ区ＳＤ05・Ⅺ区ＳＤ06・07・ⅫⅢ区ＳＤ15・16断面図(1/50)及び出土土器(1/4) ……28
第34図　ⅫⅢ区ＳＤ08断面図(1/50)及び出土土器(1/4) ……29
第35図　ＳＲ01断面図(Ⅰ区北壁)(1/100) ……30
第36図　ＳＲ01(Ⅰ区)出土土器(1)(1/4) ……31
第37図　ＳＲ01(Ⅰ区)出土土器(2)(1/4) ……32
第38図　ＳＲ01(Ⅰ区)出土土器(3)(1/4)及び石器(1)(1/2) ……33
第39図　ＳＲ01(Ⅰ区)出土石器(2)(1/2)及び木器(1/6) ……34
第40図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土土器(1)(1/4) ……35
第41図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土土器(2)(1/4) ……36
第42図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土土器(3)(1/4) ……37
第43図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土土器(4)(1/4) ……38
第44図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土土器(5)(1/4) ……39
第45図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土土器(6)(1/4) ……40
第46図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土土器(7)(1/4)及び石器(1)(1/2) ……41
第47図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土石器(2)(1/2) ……42
第48図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土石器(3)(1/2)及び木器(1)(1/6) ……43
第49図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土木器(2)(1/6) ……44
第50図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土木器(3)(1/6) ……45
第51図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土木器(4)(1/6) ……46
第52図　ＳＲ01(Ⅲ区)出土木器(5)(1/6,1/12) ……47
第53図　ＳＲ01(Ⅶ区)断面図(1/100) ……48
第54図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(1)(1/4) ……50
第55図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(2)(1/4) ……51
第56図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(3)(1/4) ……52
第57図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(4)(1/4) ……53
第58図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(5)(1/4) ……54
第59図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(6)(1/4) ……55

第60図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(7)(1/4) ……56
第61図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(8)(1/4) ……57
第62図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(9)(1/4) ……58
第63図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(10)(1/4) ……59
第64図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(11)(1/4) ……60
第65図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(12)(1/4) ……61
第66図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(13)(1/4) ……62
第67図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(14)(1/4) ……63
第68図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(15)(1/4) ……64
第69図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土土器(16)(1/4) ……65
第70図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土石器(1)(1/2) ……66
第71図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土石器(2)(1/2･1/3)及び木器(1)(1/6) ‥67
第72図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土石器(3)(1/3)及び木器(2)(1/6) ……68
第73図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土木器(3)(1/6) ……69
第74図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土木器(4)(1/6) ……70
第75図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土木器(5)(1/6) ……71
第76図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土木器(6)(1/6) ……72
第77図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土木器(7)(1/6) ……73
第78図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土木器(8)(1/6) ……74
第79図　ＳＲ01(Ⅶ区)出土木器(9)(1/6) ……75
第80図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(1)(1/4) ……77
第81図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(2)(1/4) ……78
第82図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(3)(1/4) ……79
第83図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(4)(1/4) ……80
第84図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(5)(1/4) ……81
第85図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(6)(1/4) ……82
第86図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(7)(1/4) ……83
第87図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(8)(1/4) ……84
第88図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(9)(1/4) ……85
第89図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(10)(1/4) ……86
第90図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(11)(1/4) ……87
第91図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(12)(1/4) ……88
第92図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(13)(1/4) ……89
第93図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(14)(1/4) ……90
第94図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(15)(1/4) ……91
第95図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(16)(1/4) ……92
第96図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(17)(1/4) ……93
第97図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(18)(1/4) ……94
第98図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土土器(19)(1/4) ……95
第99図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土石器(1)(1/2) ……96
第100図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土石器(2)(1/2) ……97
第101図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土石器(3)(1/2)及び木器(1)(1/6) ……98
第102図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土石器(4)(1/3)及び木器(2)(1/6) ……99
第103図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土木器(3)(1/6) ……100
第104図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土木器(4)(1/6) ……101
第105図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土木器(5)(1/6) ……102
第106図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土木器(6)(1/6) ……103
第107図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土木器(7)(1/6) ……104
第108図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土木器(8)(1/6,1/12) ……105
第109図　ＳＲ01(Ⅹ区)出土木器(9)(1/6)及び編物(1/2) ……106
第110図　ＳＲ01(Ⅱ区)断面図(1/100) ……107
第111図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土土器(1)(1/4) ……108
第112図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土土器(2)(1/4) ……109
第113図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土土器(3)(1/4) ……110
第114図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土土器(4)(1/4)及び石器(1)(1/2) ……111
第115図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土石器(2)(1/2,1/3) ……112
第116図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土石器(3)(1/2)及び木器(1)(1/6) ……113
第117図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土木器(2)(1/6) ……114
第118図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土木器(3)(1/6,1/12) ……115
第119図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土木器(4)(1/6) ……116
第120図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土木器(5)(1/6) ……117
第121図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土木器(6)(1/6) ……118
第122図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土木器(7)(1/6) ……119
第123図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土木器(8)(1/6) ……120
第124図　ＳＲ01(Ⅱ区)出土木器(9)(1/6･1/12) ……121
第125図　Ⅰ区ＳＲ02断面図(1/100) ……122
第126図　Ⅰ･Ⅴ区ＳＲ02出土土器(1/4) ……123
第127図　Ⅰ･Ⅴ区ＳＲ02出土石器(1/2) ……124
第128図　Ⅸ区ＳＲ02断面図(1/100) ……125
第129図　Ⅱ･Ⅸ区ＳＲ02出土土器(1)(1/4) ……126
第130図　Ⅱ･Ⅸ区ＳＲ02出土土器(2)(1/4) ……127
第131図　Ⅱ･Ⅸ区ＳＲ02出土土器(3)(1/4) ……128
第132図　Ⅱ･Ⅸ区ＳＲ02出土土器(4)(1/4) ……129
第133図　Ⅱ･Ⅸ区ＳＲ02出土土器(4)(1/4),石器(1)(1/2)及び木器(1/6) ……130
第134図　Ⅱ･Ⅸ区ＳＲ02出土石器(2)(1/2) ……131
第135図　Ⅵ区ＳＲ01･02断面図(1/100) ……132
第136図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土土器(1)(1/4) ……133
第137図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土土器(2)(1/4) ……134
第138図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土土器(3)(1/4) ……135
第139図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土土器(4)(1/4) ……136
第140図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土土器(5)(1/4) ……137
第141図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土土器(6)(1/4)及び石器(1)(1/2) ……138
第142図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土石器(2)(1/2)及び木器(1)(1/6･1/12) ……139
第143図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土木器(2)(1/6) ……140
第144図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土木器(3)(1/6) ……141
第145図　Ⅵ･Ⅻ区ＳＲ01･02出土土器(7)(1/4)及び木器(4)(1/6) ……142

第146図　Ⅵ・Ⅻ区ＳＲ01・02出土木器(5)(1/6) ……143
第147図　Ａ５区ＳＲ01断面図(1/100) ……144
第148図　Ａ５区ＳＲ01出土土器(1/4)及び石器(1/2) ……145
第149図　Ａ４区ＳＲ01断面図(1/100)及び出土土器(1/4) ……145
第150図　西③区ＳＲ01断面図(1/100)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……146
第151図　Ｂ１区ＳＲ断面図(1/100)及び出土土器(1/4)・木器(1/6) ……147
第152図　西③区包含層出土土器(1/4) ……148
第153図　西③区包含層出土石器(1/2) ……149
第154図　Ⅰ区ＳＨ01，Ⅴ区ＳＨ04及びⅦ区ＳＨ01・02平・断面図(1/100) ……150
第155図　Ⅶ区ＳＨ01・02出土石器(1/3) ……151
第156図　Ⅻ区ＳＫ02・ＳＤ14・18・17，Ⅻ区ＳＸ02平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……152
第157図　東②区ＳＨ01平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)‥153
第158図　Ⅴ区ＳＢ01平・断面図(1/100) ……153
第159図　Ⅴ区ＳＢ03・Ａ５区ＳＡ01・Ⅺ区ＳＫ01平・断面図(1/100,1/50)及びⅫ区ＳＸ01出土土器(1/4) ……154
第160図　Ⅰ・Ⅴ区ＳＤ01断面図(1/50)・出土土器(1/4)及びＳＤ07断面図(1/50) ……156
第161図　ＳＤ07出土土器(1)(1/4) ……157
第162図　ＳＤ07出土土器(2)(1/4) ……158
第163図　ＳＤ07出土土器(3)(1/4) ……159
第164図　ＳＤ07出土土器(4)(1/4) ……160
第165図　ＳＤ07出土土器(5)(1/4) ……161
第166図　ＳＤ07出土土器(6)(1/4) ……162
第167図　ＳＤ07出土土器(7)(1/4) ……163
第168図　ＳＤ07出土土器(8)(1/4) ……164
第169図　ＳＤ07出土土器(9)(1/4) ……165
第170図　ＳＤ07出土土器(10)(1/4) ……166
第171図　ＳＤ07出土土器(11)(1/4) ……167
第172図　ＳＤ07出土土器(12)(1/4) ……168
第173図　ＳＤ07出土土器(13)(1/4) ……169
第174図　ＳＤ07出土土器(14)(1/4) ……170
第175図　ＳＤ07出土土器(15)(1/4) ……171
第176図　ＳＤ07出土土器(16)(1/4) ……172
第177図　ＳＤ07出土土器(17)(1/4) ……173
第178図　ＳＤ07出土土器(18)(1/4) ……174
第179図　ＳＤ07出土土器(19)(1/4) ……175
第180図　ＳＤ07出土土器(20)(1/4)及び石器(1/2，1/3) ……176
第181図　ＳＤ07出土木器(1/6) ……177
第182図　西①区ＳＤ01断面図(1/50)・出土土器(1/4)及び西①区ＳＤ02・西④区ＳＤ05断面図(1/50) ……178
第183図　Ⅷ区ＳＤ07・13・Ⅸ区ＳＤ06・Ⅶ区ＳＤ06・Ⅹ区ＳＤ11断面図(1/50)及び出土土器(1/4) ……179
第184図　Ⅸ区ＳＤ02・Ⅻ区ＳＤ11・東②区ＳＤ01・東②区ＳＤ05・Ｂ２区ＳＤ01断面図(1/50)及び出土土器(1/4) ……179
第185図　Ⅺ区ＳＫ06平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4) ……180
第186図　ＳＤ13断面図(1/50)及び出土土器(1/4) ……181
第187図　Ⅺ区ＳＢ01平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4) ……182
第188図　Ⅺ区ＳＢ02・Ａ３区ピット群・Ａ５区ＳＢ01・02平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4) ……183
第189図　Ｂ２区ＳＢ01・02平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……184
第190図　Ⅻ区ＳＫ01平・断面図(1/50)・出土土器(1/4)・石器(1/2)・木器(1/12)及びＡ５区ＳＫ01・西②区ＳＫ01・02平・断面図(1/50) ……185
第191図　Ⅱ区ＳＥ01平・断面図(1/50)・出土土器(1/4)及びⅡ・Ⅲ区ＳＤ03断面図(1/100) ……186
第192図　Ⅱ・Ⅲ区ＳＤ03出土土器(1/4)・石器(1/2)・木器(1)(1/6) ……187
第193図　Ⅱ・Ⅲ区ＳＤ03出土木器(2)(1/6) ……188
第194図　Ⅵ区ＳＤ02・Ⅻ区ＳＤ06・Ⅻ区ＳＤ01～04・Ⅵ区ＳＤ04断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)・木器(1/6) ……189
第195図　西②区ＳＤ04・Ｂ２区ＳＤ02・03・Ａ５区ＳＸ01断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……190
第196図　Ⅷ区ＳＢ01・Ⅸ区ＳＢ02・03平・断面図(1/100)及び出土石器(1/2) ……191
第197図　東①区ＳＡ01・西②区ピット群・Ⅴ区ＳＫ02・Ⅶ区ＳＫ04平・断面図(1/100,1/50)及び出土土器(1/4) ……192
第198図　Ⅴ区ＳＤ04・Ⅴ・Ⅶ区ＳＤ03断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器・金属器(1/2) ……193
第199図　Ⅲ・Ⅶ区ＳＤ01・Ⅵ区ＳＤ01・Ⅶ・Ⅹ・Ⅸ区ＳＤ01・04断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器・鉄器(1/2) ……194
第200図　東①区ＳＤ01・03断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……196
第201図　西①区ＳＤ03・西②区ＳＤ05・西③区ＳＤ04・05・06・07・08断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……197
第202図　畑状遺構出土石器(1/2) ……198
第203図　Ⅴ区ＳＫ01・03・04・Ⅶ区ＳＫ01・Ⅶ区ＳＫ02平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……198
第204図　Ⅸ区ＳＫ01・02・西①区ＳＫ01平・断面図(1/50)及び出土石器(1/2) ……199
第205図　西①区ＳＸ01・02・Ⅰ区ＳＫ03・Ⅲ区ＳＤ02平・断面図(1/50)及び出土木器(1/6) ……200
第206図　東①区ＳＤ08出土土器(1/4)及び西①区ＳＤ04・西③区ＳＤ09・西④区ＳＤ01・02断面図(1/50) ……201
第207図　Ａ３区ＳＤ01・02断面図(1/50) ……202

第208図　Ａ４区ＳＤ01出土木器(1/6) ……202
第209図　Ⅴ・Ⅶ区ＳＤ02・Ａ４区ＳＸ01平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2) ……203
第210図　Ⅷ区ＳＢ02・東①区ＳＢ01・02平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4) ……204
第211図　東②区ＳＢ01・Ⅷ区ＳＡ01・Ⅸ区ＳＫ06・Ⅻ区ＳＫ05平・断面図(1/50,1/100)及び出土石器(1/2) ……205
第212図　Ⅻ区ＳＫ06・東①区ＳＫ01・02・04・西②区ＳＫ03平・断面図(1/50) ……206
第213図　西③区ＳＫ01・02・03・04・05・06・10平・断面図(1/50)及び出土石器(1/2) ……207
第214図　西③区ＳＫ11・13・Ａ２区ＳＫ01平・断面図(1/50,1/100) ……208
第215図　東①区ＳＤ11・西②区ＳＫ09・ＳＤ06・西③区ＳＤ01断面図(1/50) ……209
第216図　西③区ＳＤ02・03・10断面図(1/50) ……210
第217図　包含層等出土土器(1)・瓦(1/4) ……211
第218図　包含層等出土土器(2)(1/4)・石器(1)(1/2) ……212
第219図　包含層等出土石器(2)(1/2) ……213
第220図　包含層等出土石器(3)(1/2) ……214
第221図　包含層等出土石器(4)(1/2) ……215
第222図　包含層等出土石器(5)(1/2) ……216
第223図　包含層等出土石器(6)(1/2) ……217
第224図　土層断面図と分析試料の採取箇所 ……218
第225図　イネのプラント・オパールの検出状況 ……220
第226図　おもな植物の推定生産量と変遷(1) ……221
第227図　おもな植物の推定生産量と変遷(2) ……222
第228図　調査地点の層序および試料採取層準 ……224
第229図　花粉化石群集の層位分布 ……226
第230図　遺構変遷図(1)縄文時代晩期(1/1,250) ……240
第231図　遺構変遷図(2)弥生時代前期(1/1,250) ……241
第232図　遺構変遷図(3)弥生時代中期中葉(1/1,250) ……242
第233図　遺構変遷図(4)弥生時代後期中葉(1/1,250) ……243
第234図　遺構変遷図(5)平安時代後半(1/1,250) ……244
第235図　遺構変遷図(6)中世(1/1,250) ……245

表　目　次

第１表　発掘調査の体制 …… 3
第２表　整理作業の体制 …… 4
第３表　プラント・オパール分析結果 ……219
第４表　花粉分析結果 ……225
第５表　樹種同定結果(1) ……230
第６表　樹種同定結果(2) ……231
第７表　樹種同定結果(3) ……232
第８表　樹種同定結果(4) ……233
第９表　弥生時代の木製品の用途別樹種構成 ……236
第10表　弥生時代以外の木製品の用途別樹種構成 ……237
第11表　木器集計表 ……248
第12表　サヌカイト製石器一覧表 ……250
第13表　磨製石器一覧表 ……250
土器観察表(1)～(87) ……251～337
石器観察表(1)～(8) ……338～345

図版目次

図版１　遺跡南西上空から屋島方向へ
　　Ⅰ区空中写真
図版２　Ⅰ区全景　北から
　　Ⅱ区空中写真
図版３　Ⅱ区全景　南から
　　Ⅱ区西全景　南から
図版４　Ⅲ区空中写真
　　Ⅴ区空中写真
図版５　Ⅴ区全景　南から
　　Ⅵ区空中写真
図版６　Ⅵ区全景　北から
　　Ⅶ区空中写真
図版７　Ⅶ区空中写真
　　Ⅶ区全景　東から
図版８　Ⅷ区空中写真
　　Ⅷ区全景　北から
図版９　Ⅷ区全景　南から
　　Ⅸ区空中写真
図版10　Ｘ区空中写真
　　Ｘ区全景　東から
図版11　Ｘ区全景　南から
　　Ⅺ・Ⅻ区空中写真
図版12　Ⅻ区空中写真
　　Ⅺ区全景　北から

図版13　東①区全景　南から
東②区全景　北から
図版14　東②区全景　南から
西①区全景　北から
図版15　西①区南半全景　北から
西②区全景　北から
図版16　西②区全景　南から
西②区南半第２遺構面全景　北から
図版17　西③区北半全景　南から
西③区南半第１遺構面全景　南から
図版18　西④区全景　北から
Ａ１区全景　西から
図版19　Ａ１区北壁　南から
Ａ２区全景　東から
図版20　Ａ２区北壁　南から
Ａ３区全景　東から
図版21　Ａ４区全景　北から
Ａ５区西半全景　東から
図版22　Ｂ１区全景　南から
Ｂ２区下層全景　西から
図版23　西②区ＳＲ101　北から
ＳＤ01（Ⅺ区）西から
図版24　ＳＤ01（Ⅺ区）断面　南東から
Ⅴ区ＳＨ01　西から
図版25　Ⅴ区ＳＨ02　西から
Ⅴ区ＳＨ03　北から
図版26　Ⅷ区ＳＨ02　北から
Ⅷ区ＳＨ01断面　南から
図版27　Ⅸ区ＳＨ01　北から
Ⅻ区ＳＨ01　南から
図版28　Ⅱ区ＳＢ01･02　北から
Ⅴ区ＳＢ02　西から
図版29　Ⅶ区ＳＢ01　北から
Ⅶ区ＳＢ02　北から
図版30　Ⅸ区ＳＢ01　南から
Ⅸ区ＳＫ03断面　北から
図版31　西④区ＳＫ01土器出土状況
Ⅻ区ＳＤ08　東から
図版32　Ⅻ区ＳＤ08土器出土状況　北東から
ＳＲ01（Ⅲ区）　東から
図版33　ＳＲ01（Ⅲ区）木製品出土状況　南東から
ＳＲ01（Ⅶ区）　南から
図版34　ＳＲ01（Ⅶ区）断面　北から
ＳＲ01（Ⅶ区）遺物出土状況　南西から
図版35　ＳＲ01（Ⅶ区）木製品出土状況　北から
ＳＲ01（Ⅶ区）Ｄ層上面土器出土状況　西から
図版36　ＳＲ01（Ｘ区）編物出土状況　東から
ＳＲ01（Ⅱ区）　南東から
図版37　ＳＲ01（Ⅱ区）木器出土状況
Ⅰ区ＳＲ02断面　北から
図版38　Ⅱ区ＳＲ02土器出土状況　北から
Ⅵ区ＳＲ02　北から
図版39　Ⅵ区中央断面　北西から
Ⅵ区南壁断面　北西から
図版40　Ａ５区ＳＲ01　西から
Ⅴ区ＳＨ04　西から
図版41　Ⅶ区ＳＨ01　北から
Ⅻ区ＳＫ02･ＳＤ17　北西から
図版42　Ⅻ区ＳＫ02　南から
Ⅻ区ＳＸ02　北から
図版43　東②区ＳＨ01　西から
Ⅴ区ＳＢ01　北から
図版44　Ⅴ区ＳＢ03　西から
Ⅰ区ＳＤ01土器出土状況　西から
図版45　ＳＤ07（Ⅵ区ＳＤ03）断面　北から
ＳＤ07（Ⅻ区）断面　北東から
図版46　ＳＤ07（Ⅻ区）土器出土状況　南東から
ＳＤ07（Ⅻ区）全景　南東から
図版47　Ⅸ区ＳＤ02　北東から
Ⅸ区ＳＤ02断面　南西から
図版48　Ⅺ区ＳＫ06　西から
Ⅲ区ＳＤ13断面　南から
図版49　Ａ３区ピット群　東から
Ｂ２区ＳＢ01　北から
図版50　Ⅻ区ＳＫ01　北西から
Ⅱ区ＳＥ01　北から
図版51　Ⅲ区ＳＤ03　北から
Ⅻ区ＳＤ01～06　北から
図版52　Ⅸ区ＳＢ02･03　北から
Ⅴ区ＳＫ02断面　南西から
図版53　Ⅴ区ＳＤ03断面　南から
Ⅶ区ＳＤ01　東から
図版54　Ⅸ区ＳＤ01断面　北から
東①区ＳＤ01　東から
図版55　東①区ＳＤ01断面　西から
Ⅰ区ピット列及び小溝群　南から
図版56　Ｘ区ピット列　南から
Ⅶ区ＳＫ01断面　東から
図版57　Ⅶ区ＳＫ02断面　南から
西④区ＳＤ01･02　南から

図版58　Ａ３区ＳＤ02付近断面　北から
　　Ｖ区ＳＤ02　北から
図版59　Ａ４区ＳＸ01　東から
図版60～104　土器写真
図版104　弥生土器鉢把手
図版105　突帯文土器
図版106　緑釉陶器
図版107･108　中国産白磁
図版109･110　中国産青磁
図版111～114　土製紡錘車
図版115　石鏃
図版116　石槍
図版117　石錐
図版118～122　打製石庖丁(1)～(5)
図版123～125　打製石斧(1)～(3)
図版125～127　スクレイパー(1)～(3)
図版128～130　楔形石器(1)～(3)
図版131　石核
図版132　その他の石器
図版133　磨製石庖丁，太型蛤刃石斧
図版134　扁平片刃石斧
図版135　柱状片刃石斧，扁平片刃石斧
図版136　砥石
図版137～142　磨滅ある石器
図版143　金属器，木器
図版144～167　木器
図版167　編物
図版168　植物珪酸体（プラント･オパール）の顕微鏡写真
図版169･170　花粉化石(1)･(2)
図版171～180　木材(1)～(10)

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経過

高松市内の高校新設（高松桜井高等学校）における埋蔵文化財保護については，平成４年９月香川県教育委員会が建設予定地である高松市多肥上町・多肥下町において試掘調査を実施し，遺構，遺物を確認したため，校舎等の建設に当たっては埋蔵文化財の保護措置が必要となった。

高校建設予定地は約45,000㎡と大面積のため，保護措置を立案するためには全域の埋蔵文化財の包蔵状況を把握する必要が生じ，香川県教育委員会は平成４年12月，建設予定地全域を対象とした予備調査を財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託した。

平成５年２～３月に約2,250㎡の予備調査を実施した結果，予定地中央に弥生時代の土器や木製品を多く包含した自然河川が確認され，さらに河川の両側の微高地には密集度に差はありながらも全域に遺構が存在することが明らかとなった。

この予備調査結果に基づき県教育委員会高校新設準備室と協議を行い，遺構面より下に掘削が及ぶ工事箇所については発掘調査を実施することとなり，発掘調査が必要とみられる箇所の総面積は約18,000㎡と推定された。平成５年度に，この部分の本調査が香川県教育委員会から財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託された。

第２節　調査の経過

１　調査の経過

本調査は平成５年度から着手したが，調査に先立ち調査位置・工程等について校舎等の建設を担当する県土木部建築課及び造成工事を担当する県土木部高松土木事務所と協議を開始したが，年度当初には調査対象となる校舎等の位置や規模が確定していなかったため，ほぼ位置が定まっていた用地西側の水路予定地からとりあえず調査を行うこととし，平成５年４月26日より調査を開始した。

全体の調査位置・工程等についてはさらに協議を繰り返し，管理棟・校舎・体育館や造成工事に伴う水路・暗渠排水路については平成５年度中に調査を終え，工事着工が遅いプール・自転車置場部分については次年度調査ということで協議が整った。その後，数回設計変更等に伴い調査位置や工程を変更しながら調査を進めていった。平成５年度の調査体制は２班を編成したが，前述のように年度当初に調査位置が確定していなかったため，もう一つの班が発掘調査に着手できたのは６月であった。このようなことから，平成５年度の調査面積は14,010㎡となった。また，本体工事の方もこの年度途中から開始となり，排土置き場の確保や，作業ヤードの確保の調整に困難を伴うこととなった。

平成６年度の調査については，平成６年４月４日，関係各課と工程調整を行った。本年度の調査対象地は北校舎の一部とプール予定地及び自転車置場予定地ならびに未退去家屋部分の水路・暗渠排水路予定地で，調査面積は3,590㎡である。工程はプール予定地等が４月初旬から６月中旬まで，自転車置場予定地が６月中旬から８月初旬まで，未退去家屋部分が８月中旬に調査を行うことで協議が整い，４月５日から調査を再開した。調査の体制は１班編成である。

北校舎の一部・プール予定地・自転車置場予定地の調査は予定どおりに進行したが，家屋撤去が予定より遅れ８月中旬となったため，この地区は当初計画の８月に終了できないことになった。このため８月３～12日は９月以降に調査実施予定であった，新設高校用地の南隣の高松土木事務所新設用地の調査の一部を先に行い，８月16日より家屋撤去部分の調査を開始した。この調査が９月６日に終了したことで，３カ年度にわたる本遺跡の調査は完了した。

整理作業は，平成８年10月１日から開始し，２年間の期間をかけて平成10年９月30日に終了した。整理作業の概要は，平成８・９・10年度の当センター年報[*1]で，報告済あるいは報告予定である。当初より整理作業員８名の体制で整理作業を行ったが，遺物が大量であることと実測作業に時間がかかる遺物が多かったことから，進捗は困難な状況が続く結果となった。

2　発掘調査及び整理作業の体制

第１・２表のとおり。

なお，調査に携わった方々は以下のとおりである。

調査補助員	田村久雄
現場整理作業員	野田俊子，小笠原千恵子
現場事務員	大嶋見芳子
普通作業員	大森正智，尾崎信明，乙武孝男，柏原巧，國宗敏一，久保重男，篠原密夫，高木基博，高橋昭二，竹内保男，細谷祐義，本田昌男，丸川正則，三谷守彦，三村旺，宮武吉栄，宮本壽，森井和夫，山下静雄，横井等
軽作業員	石川悦子，大林チエ子，乙武文江，川田サワミ，久保キミ子，鍬島美智子，小林己代子，佐々木恵美子，佐々木絹子，佐藤紀江，十河恵子，高橋豊子，田中キヨ，中村八重子，林栄子，林テル子，樋口ヤス子，平田圭子，藤井サヨ子，村尾文栄，森本シゲ子，山内ウメ子，山下千代子，山下初代，山下ヒロ子，山地フジ子，山田君子，脇千代枝

整理作業に携わった方々は以下のとおりである。

整理員	葛西薫
整理補助員	西山佳代子，三谷和子，小林里美，赤熊久子
整理作業員	多田羅美千子，磯崎泰子，太田潤子，高橋あゆみ，宮本房枝，満岡稔恵，真鍋穂

[*1] 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成８年度』1997
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成９年度』1998
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成10年度』1999

香川県教育委員会文化行政課			
	平成４年度	平成５年度	平成６年度
総括	課長 中村 仁	課長 中村 仁	課長 高木 尚
	主幹 菅原 良弘	主幹 菅原 良弘	主幹 小原 克己
	課長補佐 小原 克己	課長補佐 小原 克己	課長補佐 高木 一義
総務	係長 宮内 憲生 (～5.31)	係長 源田 和幸	係長 源田 和幸
	係長 源田 和幸 (6.1～)	主事 櫻木 新士	主任主事 櫻木 新士 (～5.31)
	主事 櫻木 新士	主事 石川恵三子 (～5.31)	主査 星加 宏明 (6.1～)
	主事 石川恵三子	主事 藤原 和子 (6.1～)	主事 藤原 和子 (～5.31)
			主事 高倉 秀子 (6.1～)
埋蔵文化財	係長 藤好 史郎	係長 藤好 史郎	係長 藤好 史郎
	主任技師 國木 健司	主任技師 國木 健司	主任技師 國木 健司
	主任技師 北山健一郎	主任技師 森下 英治	主任技師 森下 英治
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター			
総括	所長 松本 豊胤	所長 松本 豊胤	所長 松本 豊胤
	次長 市原 敏則	次長 真鍋 隆幸	次長 真鍋 隆幸
総務	係長（事務） 土井 茂樹	係長（事務） 土井 茂樹	参事（土木） 別枝 義昭
	係長（土木） 今田 修	係長（土木） 今田 修 (～5.31)	係長 土井 茂樹 (～5.31)
	主任主事 斎藤 政好	係長（土木） 上林 和明 (6.1～)	係長 前田 和也 (6.1～)
		主任主事 斎藤 政好 (～5.31)	主査 西村 厚二
		主任主事 西村 厚二 (6.1～)	
調査	参事 糸目 末夫	参事 糸目 末夫	参事 糸目 末夫
	係長 大山 真充	係長 大山 真充	係長 大山 真充
	主任技師 真下 拓也	文化財専門員 土佐 修治	文化財専門員 中川 芳和
	主任技師 宮崎 哲治	主任技師 真下 拓也	主任技師 宮崎 哲治
		主任技師 山下 平重	調査技術員 荒川 靖子
		主任技師 宮崎 哲治	
		調査技術員 井原 靖子	
		調査技術員 陶山 仁美	

第１表　発掘調査の体制

香川県教育委員会文化行政課			
	平成８年度	平成９年度	平成10年度
総括	課長 藤原 章夫	課長 菅原 良弘	課長 小原 克己
	課長補佐 高木 一義	課長補佐 北原 和利	課長補佐 北原 和利
	課長補佐 北原 和利	副主幹 渡部 明夫	副主幹 渡部 明夫
	副主幹 渡部 明夫		副主幹兼係長 西村 隆史
総務	係長 山崎 隆	係長 山崎 隆	係長 山崎 隆
	主査 星加 宏明	主査 星加 宏明	（～5.31）
	主事 國方 秀子	（～5.31）	係長 中村 禎伸
	（～5.31）	主査 松村 崇史	（6.1～）
	主事 打越 和美	（6.1～）	主査 三宅 陽子
	（6.1～）	主事 打越 和美	（6.1～）
			主査 松村 崇史
			主事 打越 和美
			（～5.31）
埋蔵文化財	文化財専門員 木下 晴一	文化財専門員 木下 晴一	係長 西村 尋文
	技師 塩崎 誠司	技師 塩崎 誠司	主任技師 塩崎 誠司
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター			
総括	所長 大森 忠彦	所長 大森 忠彦	所長 菅原 良弘
	次長 小野 善範	次長 小野 善範	次長 小野 善範
総務	参事（土木） 別枝 義昭	参事（土木） 別枝 義昭	参事（土木） 別枝 義昭
	係長（事務） 前田 和也	副主幹兼係長 田中 秀文	副主幹兼係長 田中 秀文
	主任主事 西川 大	（6.1～）	主査 長尾寿江子
		係長 前田 和也	（6.1～）
		（～5.31）	主事 佐々木隆司
		主事 佐々木隆司	（～5.31）
調査	主任文化財専門員 廣瀬 常雄	主任文化財専門員 廣瀬 常雄	主任文化財専門員 廣瀬 常雄
	文化財専門員 山下 平重	文化財専門員 山下 平重	文化財専門員 北山健一郎
			文化財専門員 山下 平重

第２表　整理作業の体制

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

多肥松林遺跡は高松平野の南よりの平地に位置し，調査前は水田地帯であった。調査地は概ね平坦であるが，調査地中央は旧河川の低地部分がある。また，調査地内及び調査地すぐ南側には「出水」と呼ばれる湧水池があり，調査区中央の低地に関連するものと言える。

第２節　歴史的環境

近年，当遺跡近辺では，発掘調査が相次いでいる。ここでは，歴史的環境の記述はそれらの調査の報告書に譲りたい。最近刊行された報告書としては，当遺跡の東側隣接で調査が行われた日暮・松林遺跡の報告書，高松市教育委員会『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮松林遺跡』1997や，当センター編集の『空港跡地遺跡整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第１冊　空港跡地遺跡Ⅰ』1996　などがあげられる。ここでは，これらの報告書刊行以後及び報告書作成時期に調査の行われていた当遺跡周囲の調査の概要を紹介するにとどめたい。

多肥松林遺跡では，この報告書で報告する調査区の南側で平成６年度（高松土木事務所関係）*1と平成９年度（県道関係）*2に調査が行われている。平成６年度調査区は当報告調査区の南側隣接地で，連続関係は明らかではないが，川跡から平安時代の墨書土器がまとまって出土している。当調査区で多量に出土した斎串などとの関連が考えられよう。平成９年度調査区は平成６年度調査区の南側隣接地で，弥生時代後期の小規模な堰状遺構及び平安時代後半の建物群を検出している。

また平成９年度調査地から東へ約400m離れたところが，多肥宮尻遺跡である。同じく平成９年度に調査*3を行っている。縄文時代及び弥生時代の川跡が見つかっており，弥生時代の川跡からは，前期の広鍬及びその未製品や後期の曲柄平鍬が出土している。

空港跡地遺跡では，跡地西端部で香川大学工学部の新設に伴い，平成８・９年度に調査が行われている。平成３年度に調査した弥生時代前期後葉の川跡の延長が検出されている。

当調査地西側隣接でも松林遺跡の調査*4が行われている。弥生時代中期の大規模な地震に伴う墳礫が検出されている。

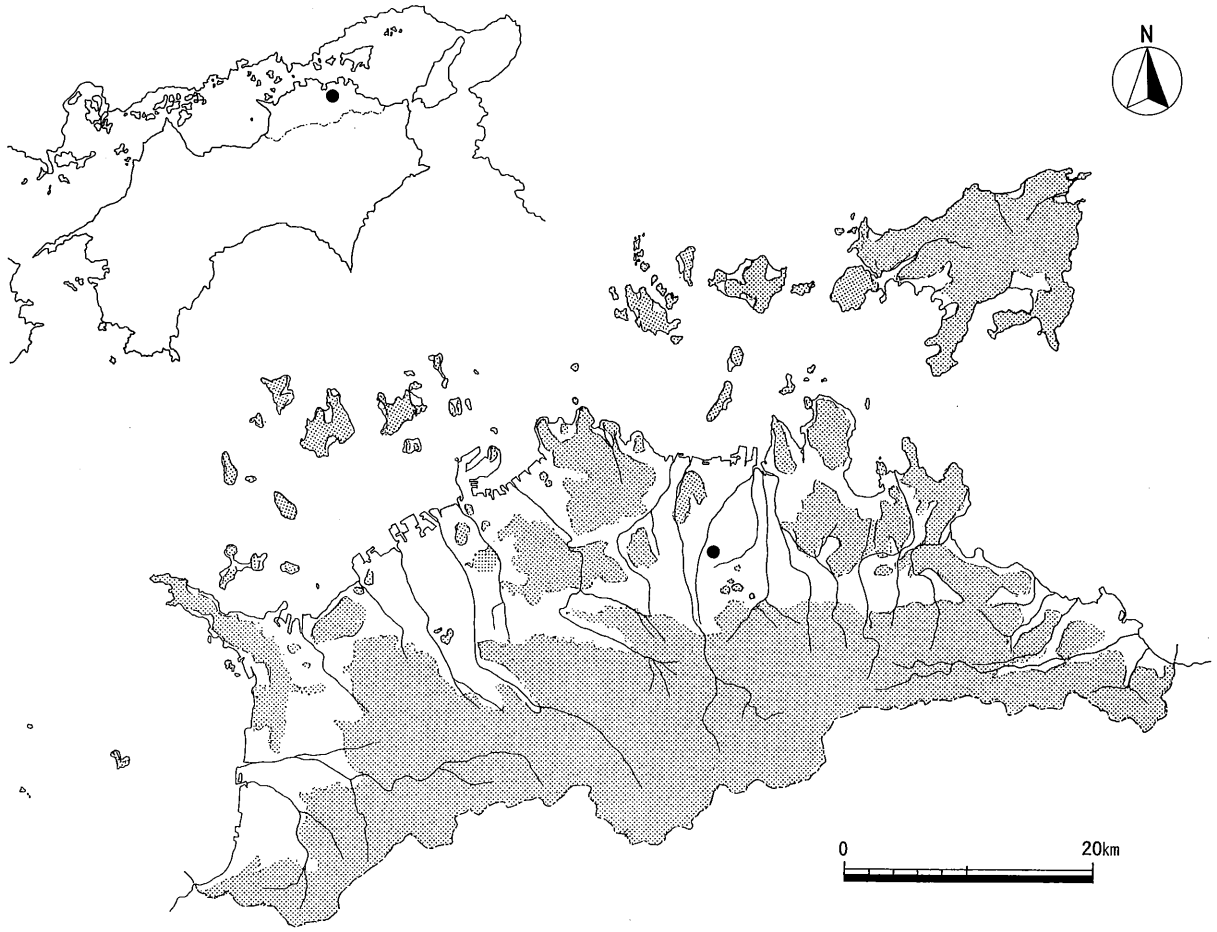
---

*1　香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・香川県土木部『高松土木事務所新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　多肥松林遺跡　平成６年度』1995

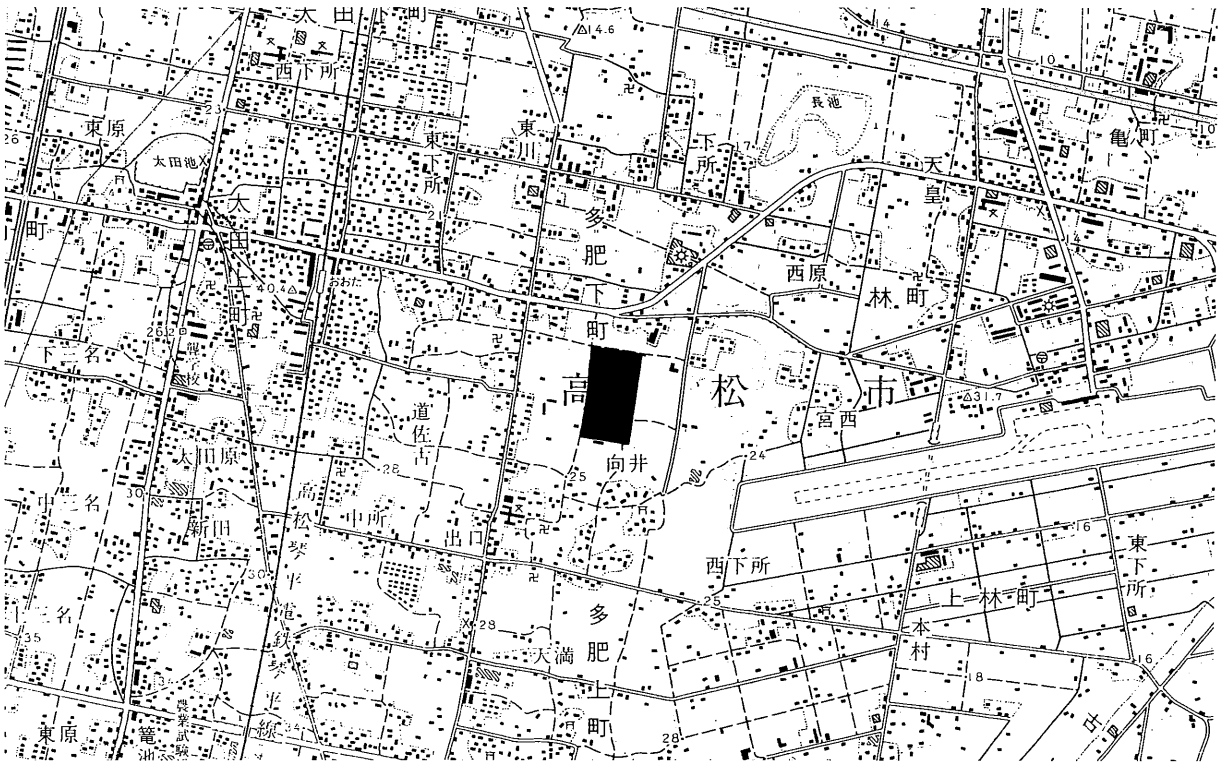
*2　香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター「多肥松林遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成９年度』1998

*3　香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成９年度』1998

*4　高松市教育委員会『高松市埋蔵文化財調査報告第31集　香川県立高松桜井高校周辺通学路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　松林遺跡』1996



第１図　遺跡位置図(1)



第２図　遺跡位置図(2)(1/25,000　高松南部)

第３図　周囲の遺跡（1/5,000）

第３章　調査の成果

第１節　調査の方法

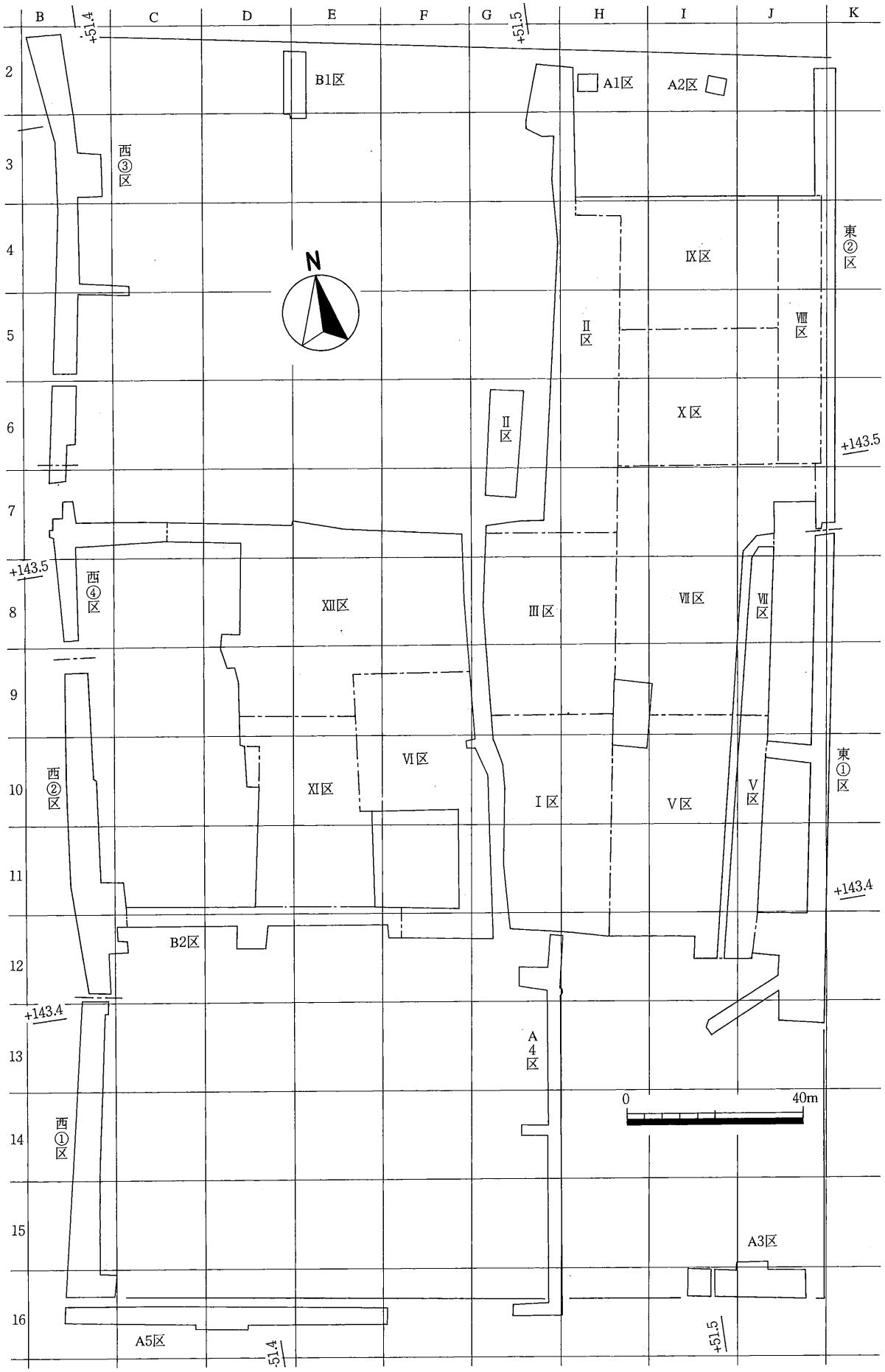
調査工程及び調査対象範囲（構造物により遺構に影響が及ぶ範囲に調査を絞ったため，複雑な平面形の調査区になっている）に従って，第４図のように調査区を設定した。この報告では，調査区は○○区というように表現し，遺構名の一部にも使用している。このうち，XI区，XII区及び西水路④区は平成６年度に調査を行い，他は平成５年度に調査を行った。なおこれ以降は，東水路①区，西水路①区及び暗渠Ａ１区などについては，東①区，西①区，Ａ１区などと簡略して報告することとする。また調査地全体は，高校の建設工事の基準線に沿う20m四方の小区画（第４図参照）を設定して，調査に使用した。小区画名はアルファベットと数字で表し，この報告ではたとえばＨ９区画というように表現する。各遺構の報告では，遺構の位置をこの小区画名で表現している。また遺物の取り上げ等にもこの小区画名を適宜使用した。なお，予備調査トレンチの位置は，第５図のとおりである。予備調査トレンチは，報告中では○○Tr. と表現している。

調査時の測量については，平面図は主にヘリコプターによる航空写真測量で作成し，一部の平面図と断面図のすべては手書きで作成した。

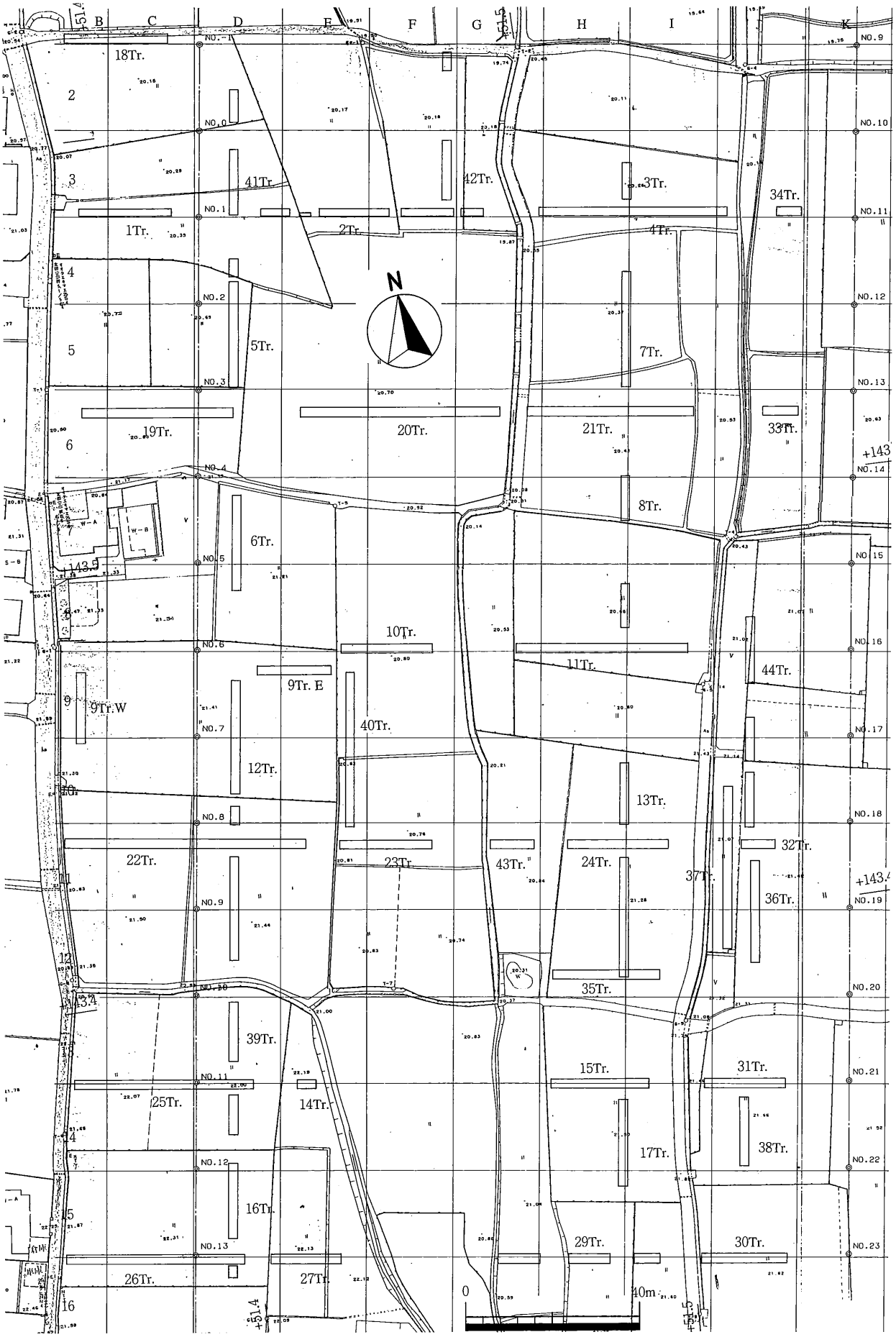
第２節　土層序

調査区中央の川跡から東側では，概ね同じような土層の堆積が見られる。後世の削平をあまり受けていないと考えられる部分では黒褐色系粘質土の基盤層となっており，削平を受けているところではこの下層の黄色系粘質土で遺構が検出される。川跡の西側はやや複雑で，部分的には，特に調査区西南部では川跡東側と同様，基盤層が黄色系粘質土であるが，調査区北東部では洪水堆積層と考えられる厚い砂層が遺物包含層としてみられたり，砂礫層の基盤層となっているところが多い。洪水堆積層と考えられる厚い砂の砂層の堆積が見られる部分では複数の遺構面がみられ，特に西水路調査区で顕著である。なかでも西②区では，第３遺構面まで存在する。

調査区中央の川跡は弥生時代中期に停水してから本格的な埋没が始まるが，この川跡埋土上面に遺構が見られるのは平安時代後半以降である。しかしながら，この川跡は完全には埋没せず，現在でも微凹地として残っている。



第4図　調査区割図(1/1,250)



第5図　予備調査トレンチ位置図(1/1,250)

第３節　遺構・遺物

1　縄文時代晩期

川跡

西②区ＳＲ101（第６，７図）

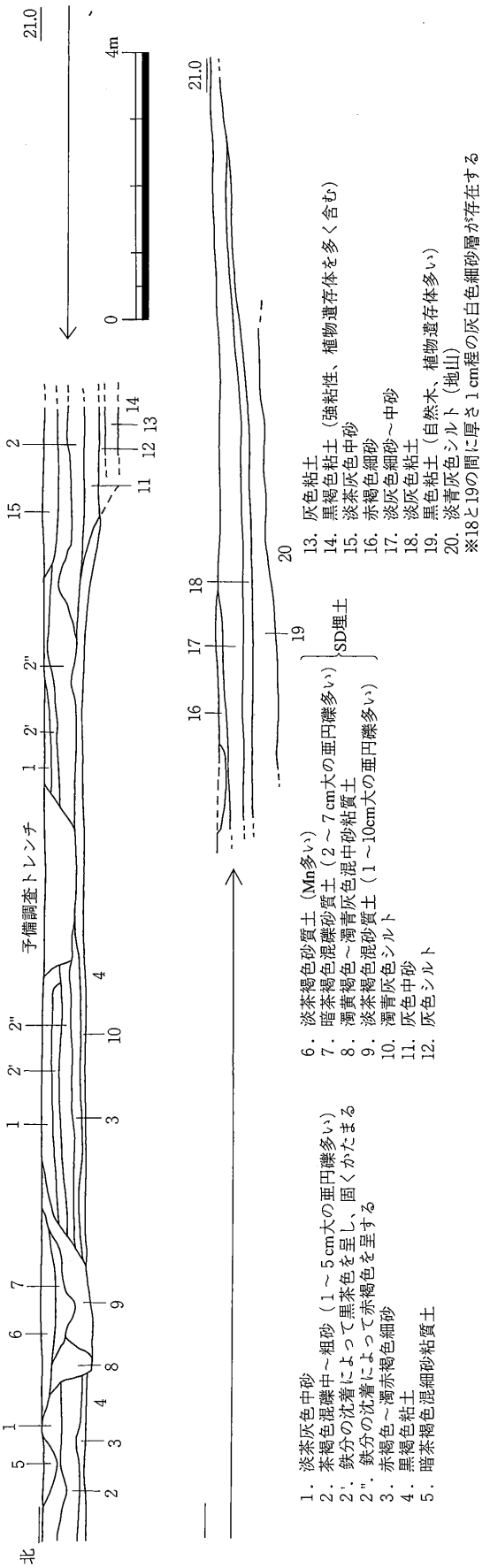
Ｂ10～Ｂ12区画に位置する。第３遺構面で検出した。幅約15ｍで，深さは検出面から0.9ｍである。南西から北東へ流れるものと考えられる。第３遺構面より上層に堆積している土層は，弥生前期中葉頃の土器を出土する溝跡ＳＤ01に壊されていることから，ＳＲ101は確実に弥生前期中葉以前と考えられる。遺物は最下層の黒色粘土から，縄文土器の小片が数点出土した。１は浅鉢底部と思われる。２は砂岩製の磨石である。

この流路の延長は今回の調査では，追求できなかった。Ⅻ区Ｄ８・Ｄ９区画でやはり縄文土器（第８図）が出土していることから，そのまま北東方向へのびている可能性がある。

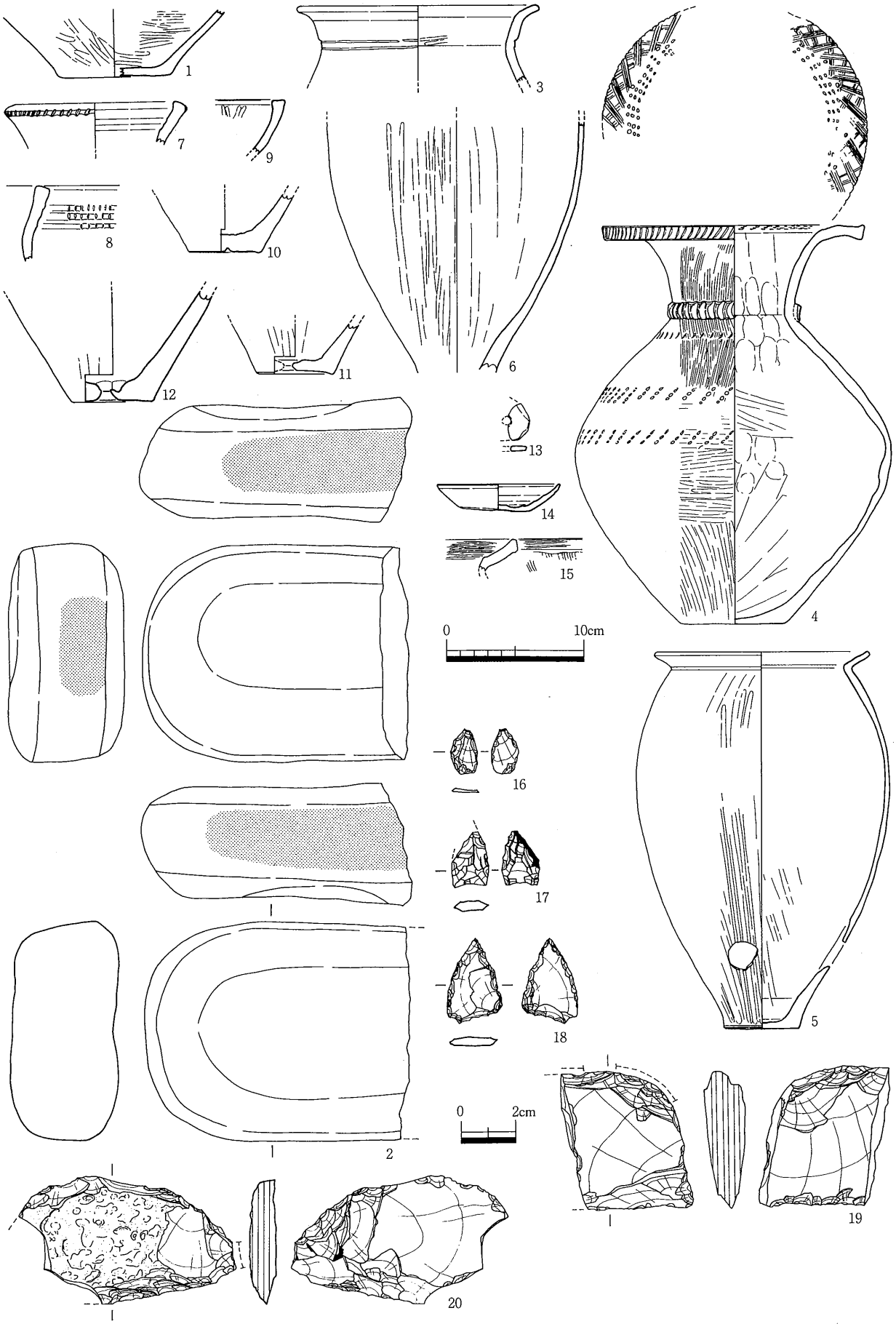
なお，ここでＳＲ101より上層の埋土から出土した土器を一緒に掲載しておく。３は弥生時代前期の壺で，確実ではないが遺物ラベルから判断すると11層あるいは12層付近から出土した可能性があるものである。４～６は弥生時代中期の土器で，１層から出土した。７～15はより上層から出土した土器及び出土層位が不明な土器である。７～12は弥生時代中期の土器である。13は土製紡錘車である。14・15は土師器である。16は１層から出土した石鏃である。17～20はより上層から出土した石鏃及びスクレイパーである。

包含層出土の土器（第８図）

突帯文土器の小片が数点出土している。包含層出土のものをここで掲載する。遺構出土のものについては各遺構のところで掲載する。この中には，弥生時代前期の可能性が高いものもあ

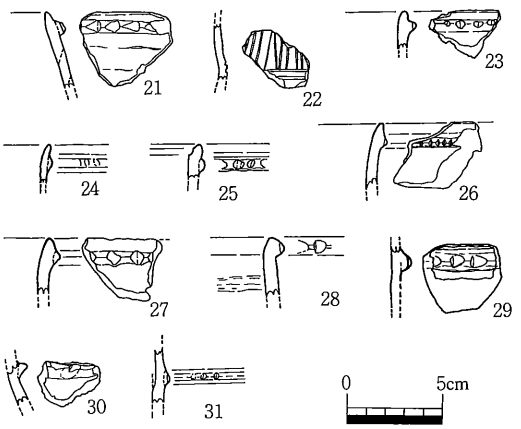


第６図　西②区SR101断面図（1/100）



第７図　西②区SR101出土土器(1/4)及び石器(1/2)

るが，まとめて報告する。21・22は先述したXII区で出土したものである。23・24は西①区で出土したものである。25～28は西②区で出土したものである。29～31は西③区で出土したものである。



第８図　包含層出土の土器(1/4)

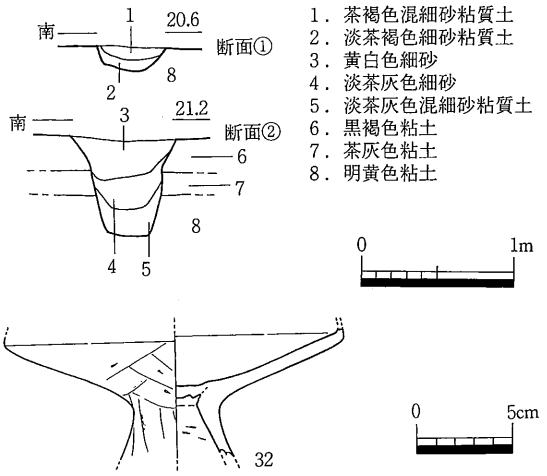
2　弥生時代前期

ここでは，川跡出土の土器を除いて報告する。川跡出土の弥生時代前期の土器については，弥生時代中期の川跡のところで報告する。

溝跡

VI区ＳＤ06・XI区ＳＤ03（第９図）

Ｆ９区画～Ｄ10区画に位置する。VI区部分では後世の削平により残存状況は悪いが，XI区では削平を受けているものの，かなり深い溝となっている。底面の標高は全体にほとんど変わらない。弥生時代中期の土器を出土するXI区・XII区ＳＤ08より古い。また調査時には弥生時代前期中葉頃のＳＤ01よりも古いとしていたが，XI区すぐ西側で調査した予備調査の12Tr.では，その延長が確認できないことから，ＳＤ01に合流する可能性が大きいと考え，ＳＤ01と同じ弥生時代前期中葉とする。遺物はVI区部分から弥生時代後期の高杯32が出土しているが，他の遺構との関係からこの溝が弥生時代前期と考えられることから，これは後世に混入したものと考える。



第９図　VI区SD06･XI区SD03断面図(1/50)及び出土土器(1/4)

ＳＤ01（XI・西②区，第10・11図）

Ｅ10・Ｄ10～Ｂ９区画に位置する。埋土は大きく２層に分かれる。下層はわずかな流水による堆積層や基盤層の崩落による堆積が見られるが，上層はかなり均質な細砂となっている。

33～66は埋土から出土した土器である。時期は概ね弥生時代前期中葉である。上層及び下層に分けて取り上げているが，時期差は考えられないことからまとめて図示する。出土層位については観察表を参照されたい。

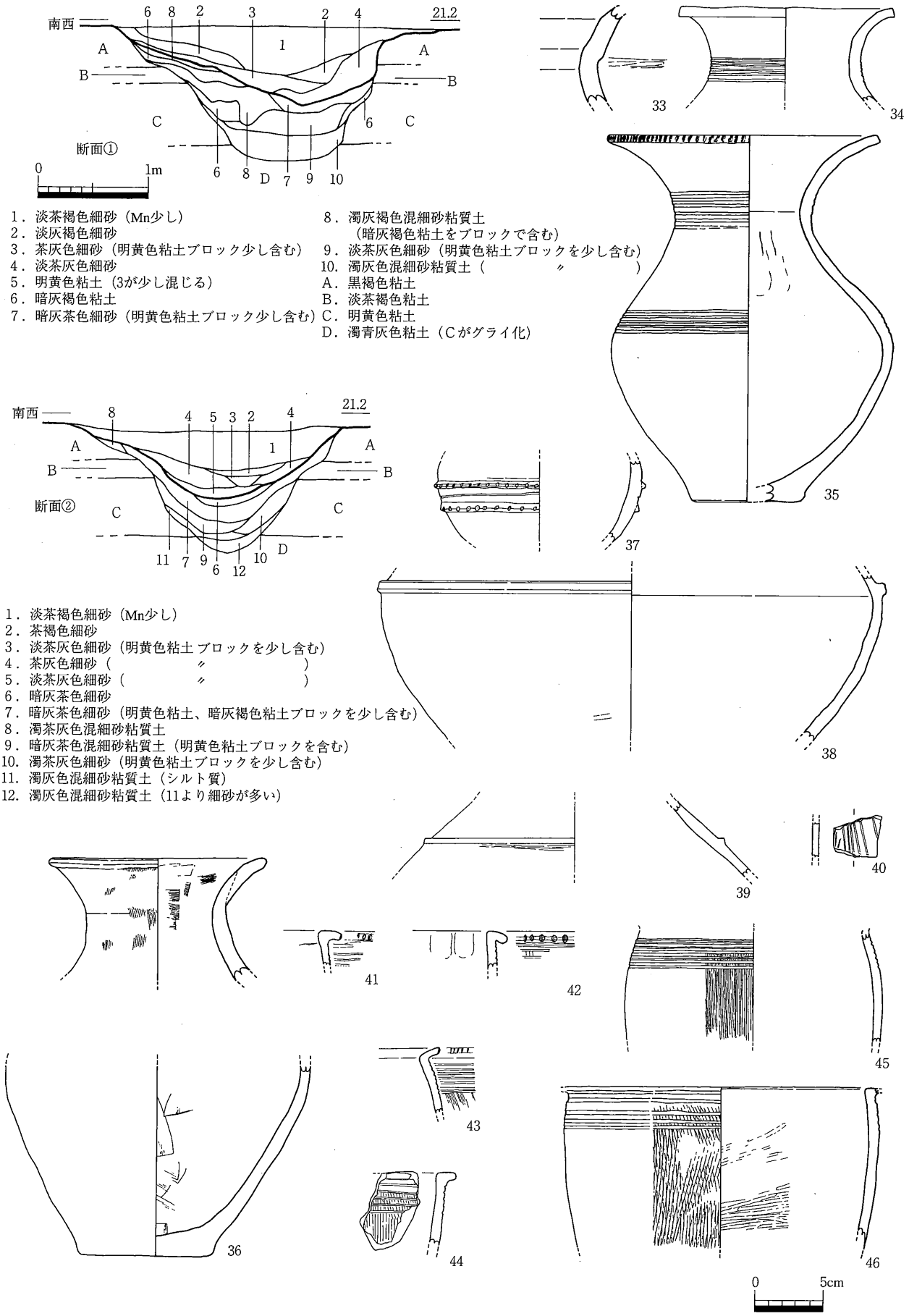
67は石鏃である。68は石錐である。69はスクレイパーである。70・71は楔形石器である。

西③区ＳＤ11（第12図）

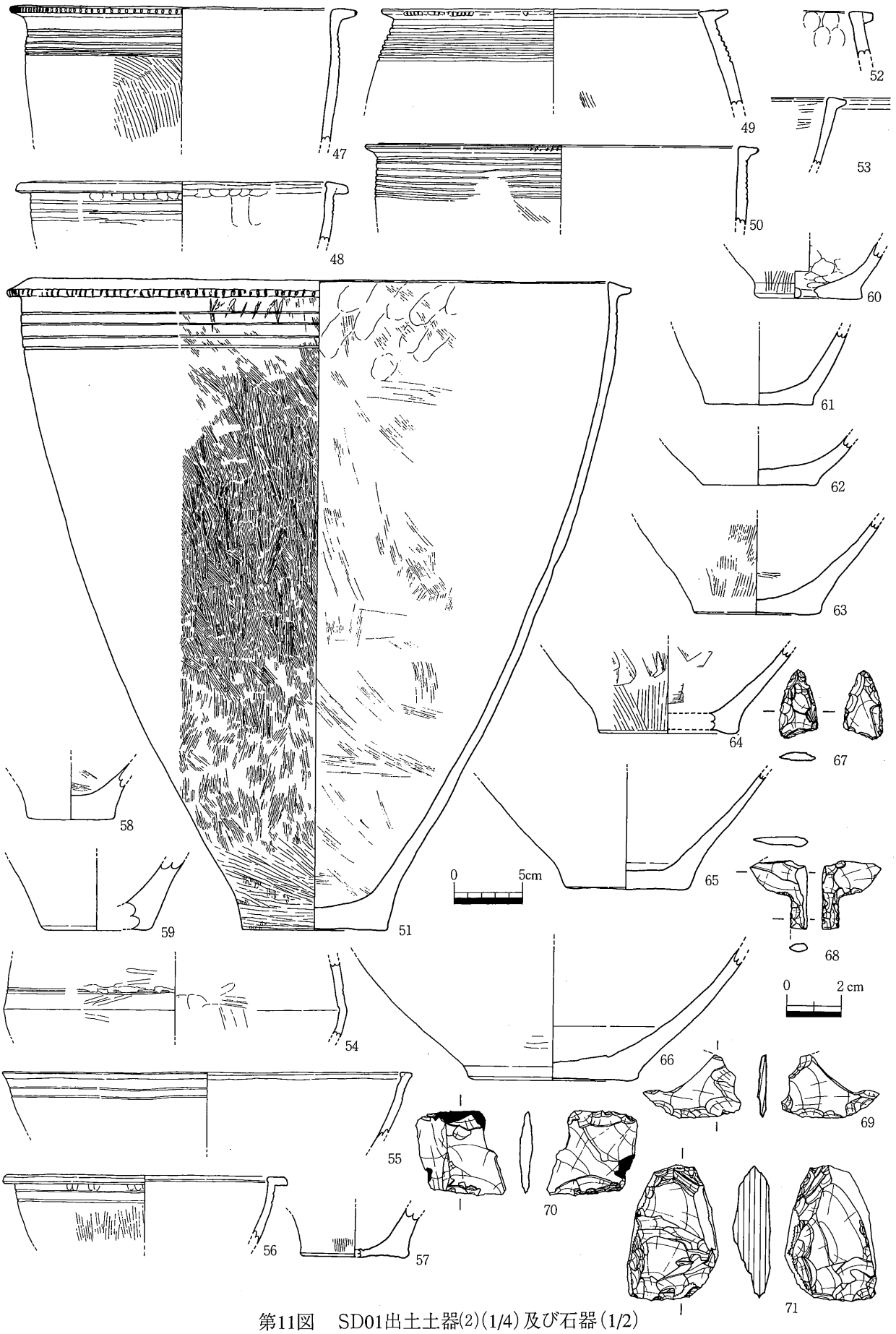
Ｃ４区画に位置する。第２遺構面で検出した。遺物は出土していない。調査区東端で一部検出しただけであり，全体の規模は不明である。弥生時代中期の包含層より下層にあるため，当時期と考える。

1．淡茶褐色細砂（Mn少し）
2．淡灰褐色細砂
3．茶灰色細砂（明黄色粘土ブロック少し含む）
4．淡茶灰色細砂
5．明黄色粘土（3が少し混じる）
6．暗灰褐色粘土
7．暗灰茶色細砂（明黄色粘土ブロック少し含む）
8．濁灰褐色混細砂粘質土
（暗灰褐色粘土をブロックで含む）
9．淡茶灰色細砂（明黄色粘土ブロックを少し含む）
10．濁灰色混細砂粘質土（　　〃　　）
A．黒褐色粘土
B．淡茶褐色粘土
C．明黄色粘土
D．濁青灰色粘土（Cがグライ化）

1．淡茶褐色細砂（Mn少し）
2．茶褐色細砂
3．淡茶灰色細砂（明黄色粘土 ブロックを少し含む）
4．茶灰色細砂（　　〃　　）
5．淡茶灰色細砂（　　〃　　）
6．暗灰茶色細砂
7．暗灰茶色細砂（明黄色粘土、暗灰褐色粘土ブロックを少し含む）
8．濁茶灰色混細砂粘質土
9．暗灰茶色混細砂粘質土（明黄色粘土ブロックを含む）
10．濁茶灰色細砂（明黄色粘土ブロックを少し含む）
11．濁灰色混細砂粘質土（シルト質）
12．濁灰色混細砂粘質土（11より細砂が多い）



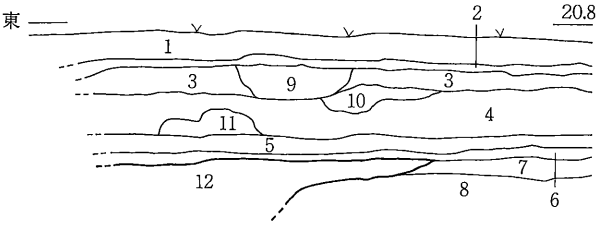
第10図　SD01断面図(1/50)及び出土土器(1)(1/4)



第11図　SD01出土土器(2)(1/4)及び石器(1/2)

西③④区ＳＤ12・08（第13図）

Ｂ６区画に位置する。第２遺構面で検出した。遺物は出土していない。平面実測図が作成できていないため，全体の規模はやや不正確であるが，写真から復元すると幅約２ｍ程度である。Ｂ６区画で屈曲し，Ｂ７区画へ南北方向で伸びるものと考えられる。ただ，Ｂ７区画南半では，その延長と考えられる南北方向の溝跡はないが，埋土等から考えれば，東西方向のＳＤ08が延長と考えられる。ただ，ＳＤ08は，平面実測図が無いため，正確な方向は不明である。弥生時代中期の包含層より下層と考えられるため，当時期と考える。



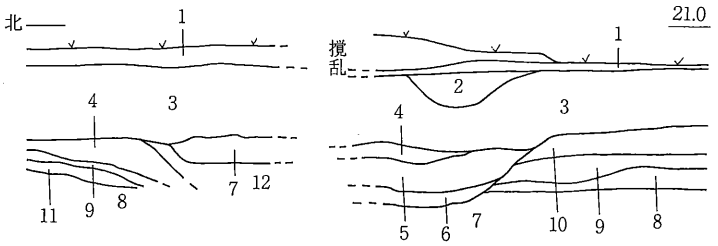
1．暗灰色粘質土（耕作土）
2．黄褐色粘質土（床土、Fe多い）
3．灰褐色混細砂質土
（上面は、Feの沈着で黄褐色を呈する）
4．茶灰色細砂
5．淡茶褐色細砂
6．濁黄茶色混細砂粘土（Fe多い）
7．黒褐色粘土（灰色細砂がスジ状に入る）
8．淡茶褐色粘土（灰色細砂がスジ状に入る、基盤層）
9．灰色混レキ中砂（5～20cm大の亜円礫多い）
10．茶灰色混レキ細砂（5～20cm大の亜円礫多い）
11．茶灰色混レキ細砂（10cm大の亜円礫少し）
12．濁暗灰褐色粘土（Fe少し）ＳＤ11

0　1m

第12図　西③区SD11断面図(1/50)

3　弥生時代中期

弥生時代の建物跡については，時期を決定できる証拠があまり多くないので，柱穴から弥生時代後期の土器が出土するなど弥生時代後期と考えられる建物跡以外は，川跡から大量の弥生時代中期の土器が出土したことを考えて，一応弥生時代中期のものとして報告する。



1．暗灰色粘質土（耕作土）
2．黄褐色粘質土
3．茶灰色細砂（上面はFeの沈着で黄褐色を呈する）
4．淡茶灰色細砂（3よりシルト質）
5．淡茶褐色細砂
6．淡黄白色混細砂粘土（Fe少し含む）
7．淡黒褐色粘土（弥生土器片を少量含む）
8．濁黄色粘土（地山）
9．茶灰色中～粗砂
10．茶黄色細～中砂
11．明黄色粘土
12．淡黄褐色混細砂粘土（Fe,Mn少し）

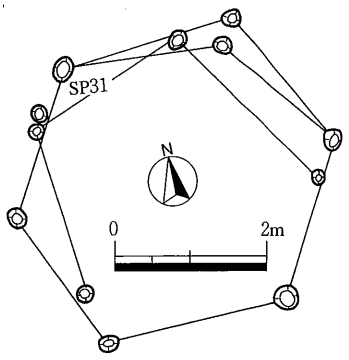
0　1m

第13図　西③④区SD12･08断面図(1/50)

竪穴住居跡

Ⅴ区ＳＨ01（第14図）

Ｉ11・Ｉ12区画に位置する。残存状況の悪い竪穴住居跡である。柱穴列は３通り程度の組み合わせがあるが，新旧関係は不明である。柱穴の深さは，７～26㎝である。柱穴31は根石がある。弥生土器小片が少量出土している。



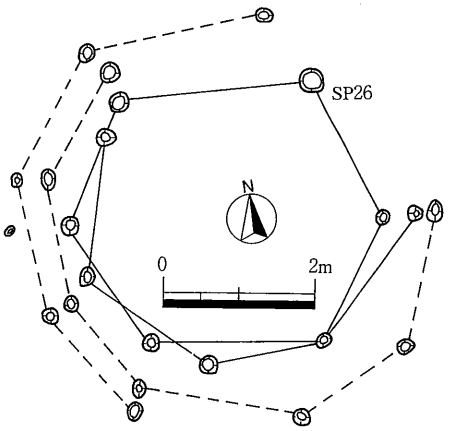
第14図　Ⅴ区SH01平面図(1/100)

Ⅴ区ＳＨ02（第15図）

Ｉ11区画に位置する。残存状況の悪い竪穴住居跡である。柱穴列は，何通りかの組み合わせが考えられるが，新旧関係は不明である。柱穴の深さは７～25㎝である。柱穴26には根石がある。出土遺物は，弥生土器小破片１点である。時期は，不明である。

Ⅴ区ＳＨ03（第16図）

Ｈ11区画に位置する。柱穴はやや少ないが，残存状況の悪い竪穴住居跡と考える。柱穴の深さは，柱穴の深さは４～27cmである。遺物は出土していない。



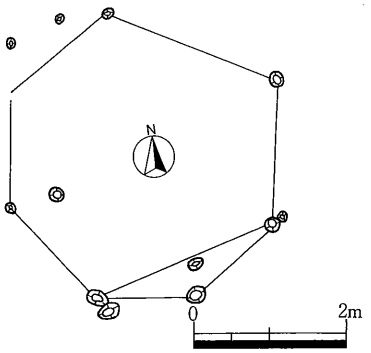
第15図　Ⅴ区SH02平面図(1/100)

Ⅴ区ＳＨ05（第17図）

Ｈ10区画に位置する。柱穴数が少ないので確実ではないが，残存状況の悪い竪穴住居跡であろう。大小２つの柱穴列が考えられる。柱穴の深さは，３～15cmと浅いものであるが，柱痕の確認できるものがある。出土遺物は無い。

Ⅷ区ＳＨ02（第18図）

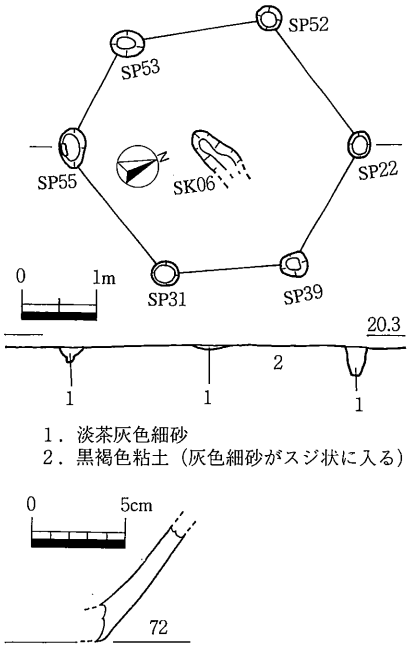
Ｊ４区画に位置する。残存状況の悪い竪穴住居跡と考えられる。柱穴列の中心にあるＳＫ06は，埋土に炭を含むことから，竪穴住居跡の炉跡であろう。柱穴の深さは，13～40cmである。遺物は柱穴22から弥生時代中期の土器の小片（72）が出土しているのみである。



第16図　Ⅴ区SH03平面図(1/100)

Ⅷ区ＳＨ01（第19図）

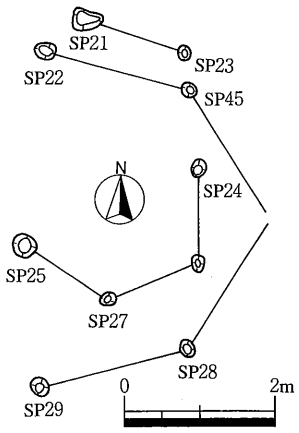
Ｊ３・Ｊ４区画に位置する。残存状況の悪い竪穴住居跡と考えられる。柱穴の深さは，４～20cmである。柱穴103・105・108・109・114・115・96・117・97・101は，柱穴内に石が確認できる。ＳＤ09は，壁溝と考えられる。深さは６cm程度である。ＳＤ08は，この竪穴住居跡に伴うものかどうか明らかではない。深さは４cm程度である。ＳＫ03は埋土に炭を含むことから，炉跡と考えられる。遺物はＳＫ03及び柱穴101・109から弥生時代中期の土器の小片が少量出土している他，ＳＫ03からは，73～75の石鏃及び楔形石器が出土している。また，ＳＤ09からは楔形石器76，柱穴114からはスクレイパー77が出土している。



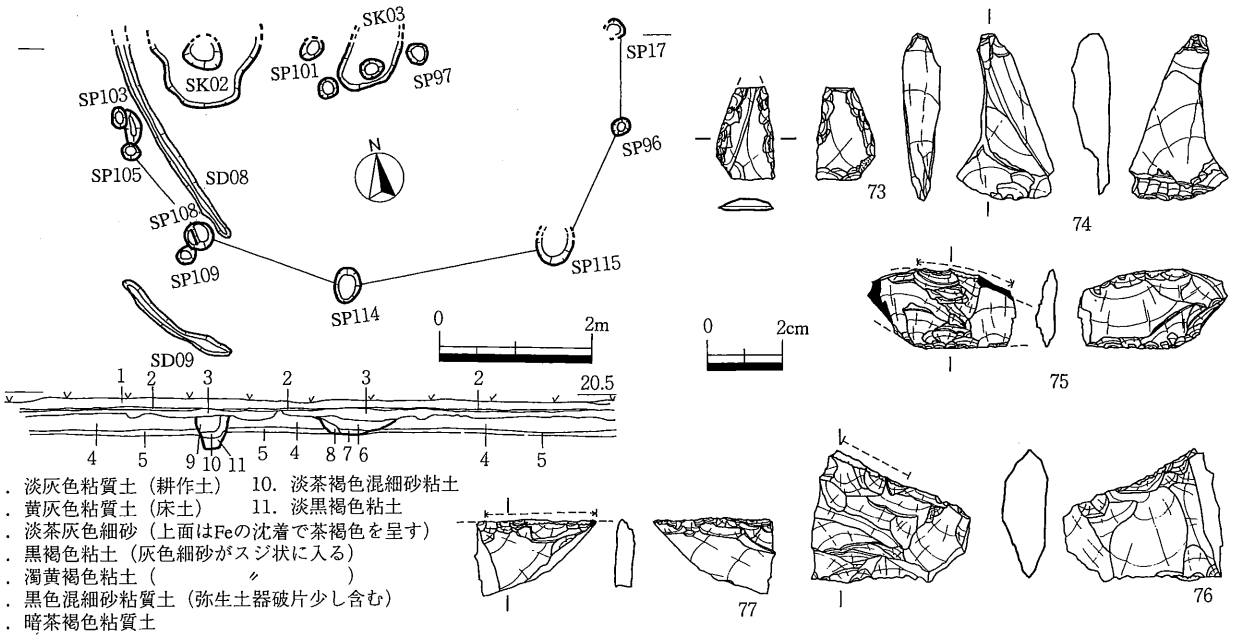
第18図　Ⅷ区SH02平･断面図(1/100)及び出土土器(1/4)

Ⅸ区ＳＨ01（第20～22図）

Ｈ４区画に位置する。いくつかの柱穴列の復元案が想定でき，建て替えが行われたと考えられる。埋土及び床面には焦土や炭化物が見られ，



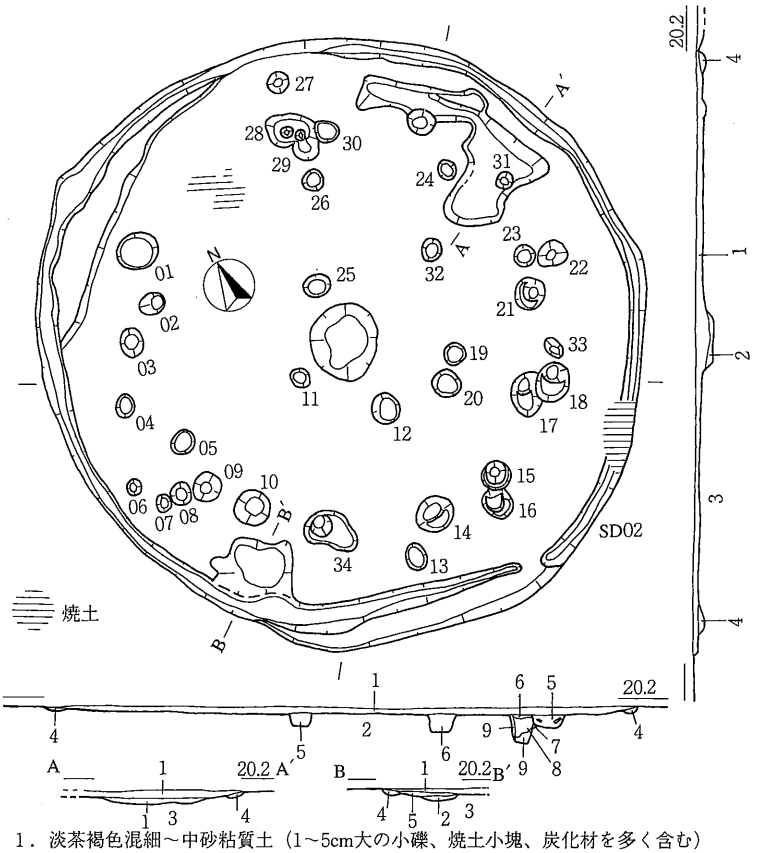
第17図　Ⅴ区SH05平面図(1/100)



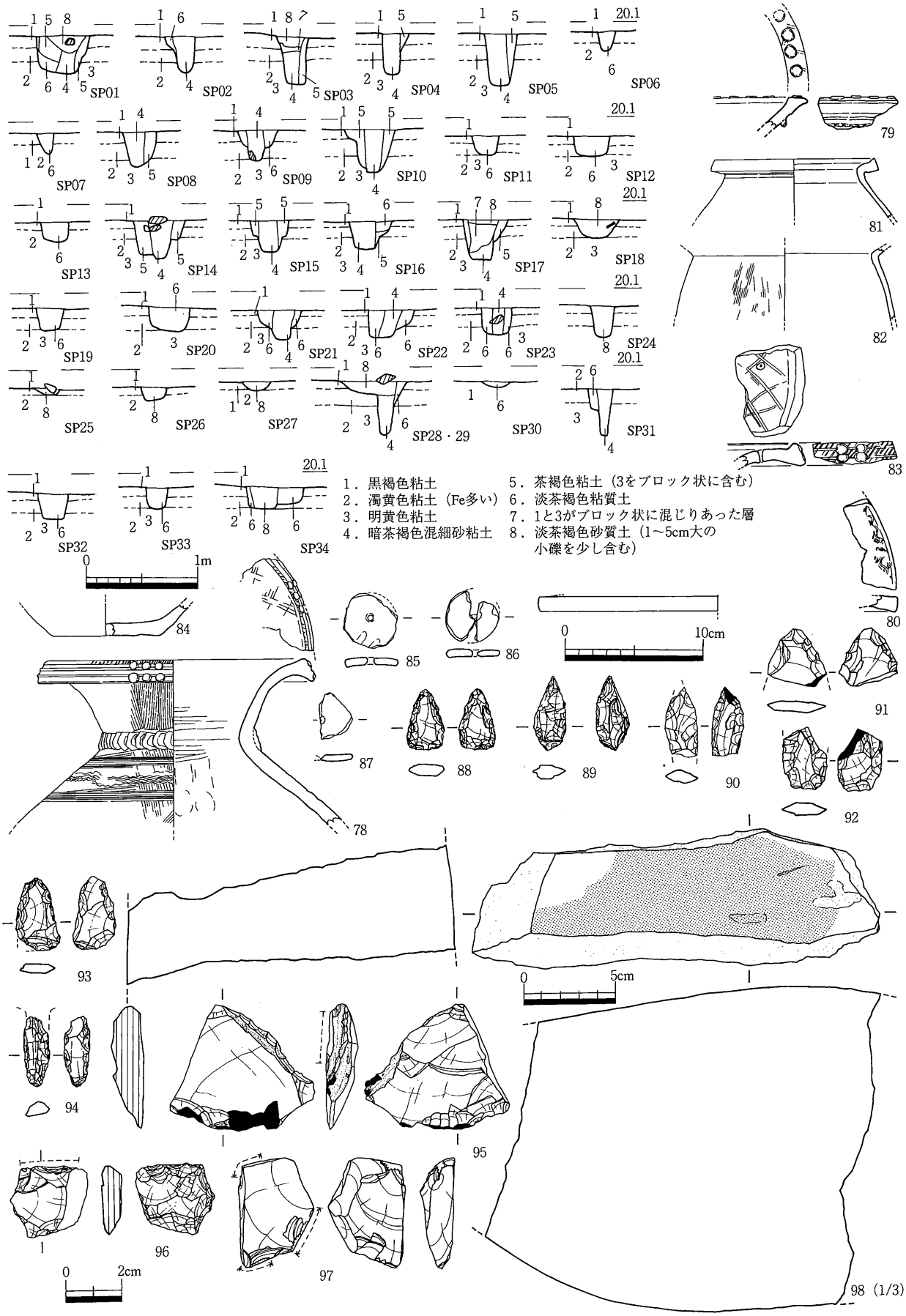
第19図　Ⅷ区SH01平･断面図(1/100)及び出土石器(1/2)

焼失家屋であることが考えられる。出土遺物は弥生時代中期に限られる。北側は浅い溝状の遺構ＳＸ01に壊されている。ＳＸ01からは数点の弥生土器の小破片が出土しているのみであり，遺構の時期は不明である。

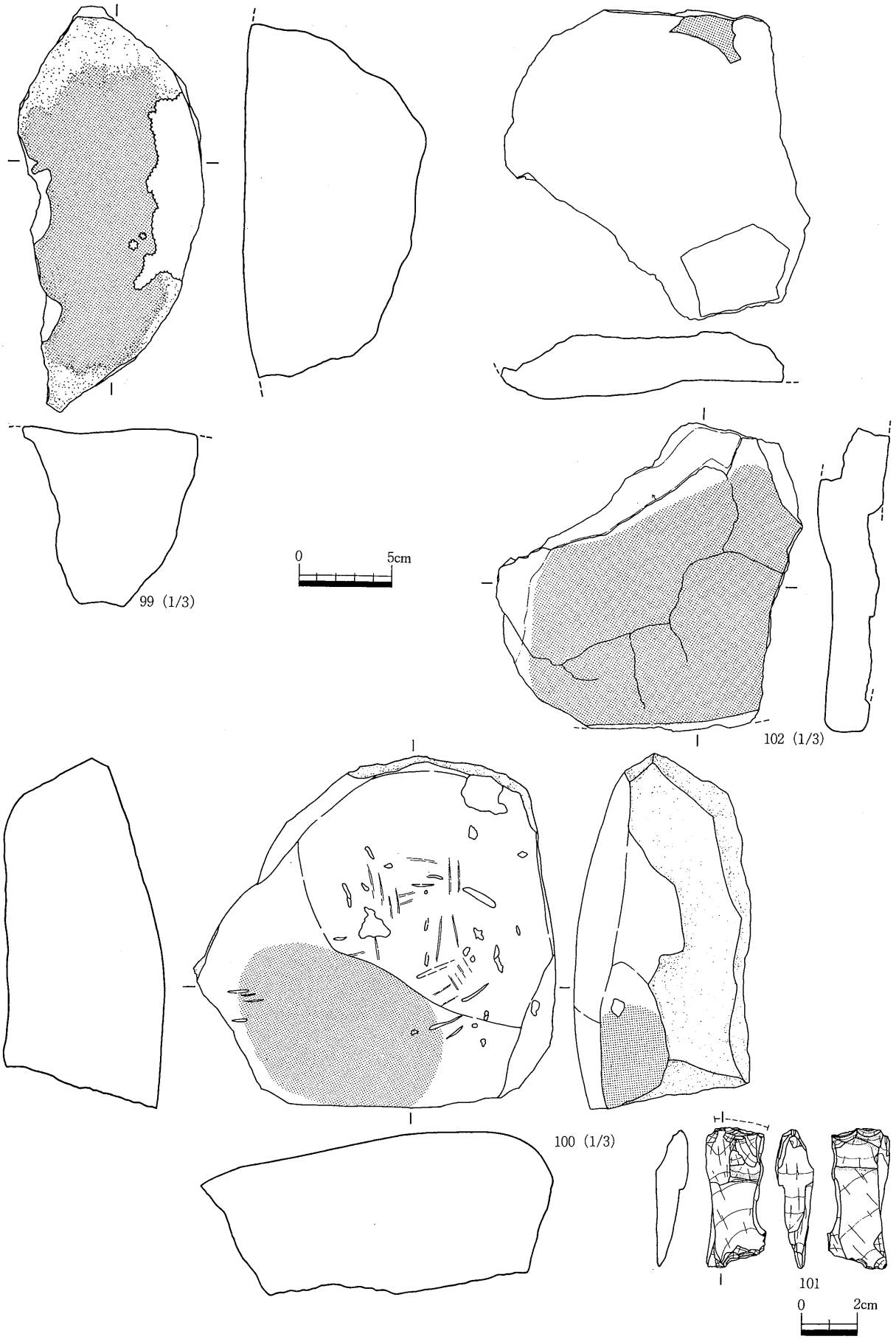
78～81は埋土から出土した土器である。82は中央土坑から出土した土器である。83～85は柱穴から出土したものである。85～87は，土器片利用の土製紡錘車である。86は，中央土坑と壁溝から出土したものが接合するものである。87は穿孔が貫通していない。88～99は埋土から出土した石器である。88～93は石鏃である。94は石錐である。95はスクレイパーである。96・97は楔形石器である。98・99は砂岩製の磨滅ある石器である。100は床面で出土した砂岩製の磨滅ある石器である。101は柱穴10から出土した楔形石器である。102は柱穴14から出土した砂岩製の磨滅ある石器である。



第20図　Ⅸ区SH01平･断面図(1/100)



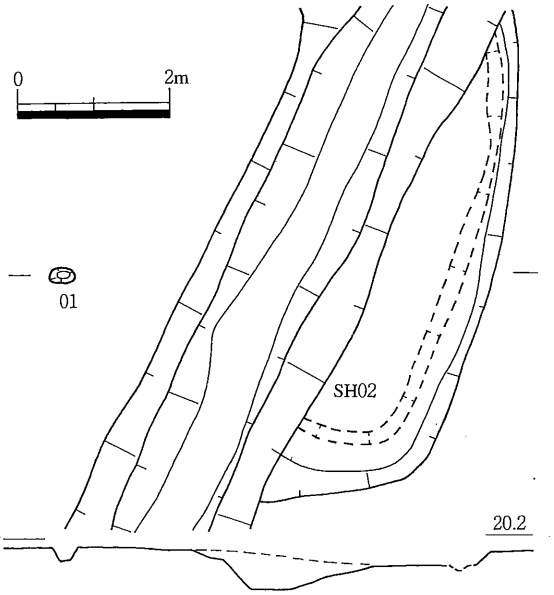
第21図　Ⅸ区SH01柱穴断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1)(1/2・1/3)



第22図　Ⅸ区SH01出土石器(2)(1/2･1/3)

Ⅸ区ＳＨ02（第23図）

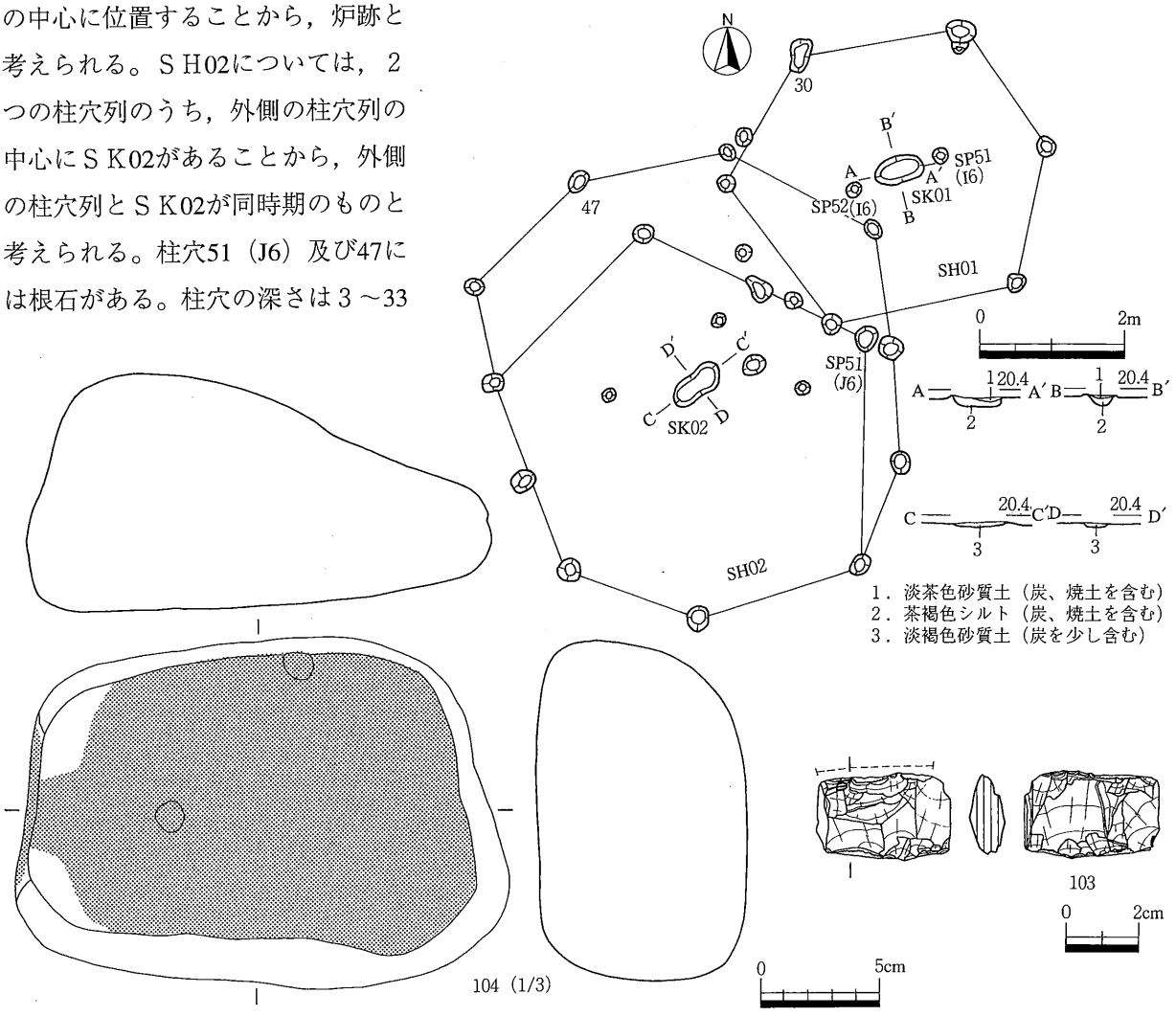
Ｉ３・Ｉ４区画に位置する。調査時に十分な記録を作成できていないので,限定的な報告しかできないが,東辺に壁溝らしきのものが観察される（図は写真から復元）ので，竪穴住居跡と考える。西半分は記録が作成できていないので，不明とせざるを得ないが，根石をもつピット01は，この竪穴住居跡の柱穴と考えておく。出土遺物はない。なお，断面図は航空測量平面図から復元したものである。



第23図　Ⅸ区SH02平･断面図(1/100)

Ⅹ区ＳＨ01・02（第24図）

Ｉ５・Ｉ６・Ｊ５・Ｊ６区画に位置する。最低２棟の残存状況の悪い竪穴住居跡が重なっているものと考えられる。柱穴列は，数通りに復元できるが，確実ではない。ＳＫ01及びＳＫ02は埋土に炭を含み，柱穴列の中心に位置することから，炉跡と考えられる。ＳＨ02については，２つの柱穴列のうち，外側の柱穴列の中心にＳＫ02があることから，外側の柱穴列とＳＫ02が同時期のものと考えられる。柱穴51（J6）及び47には根石がある。柱穴の深さは３～33

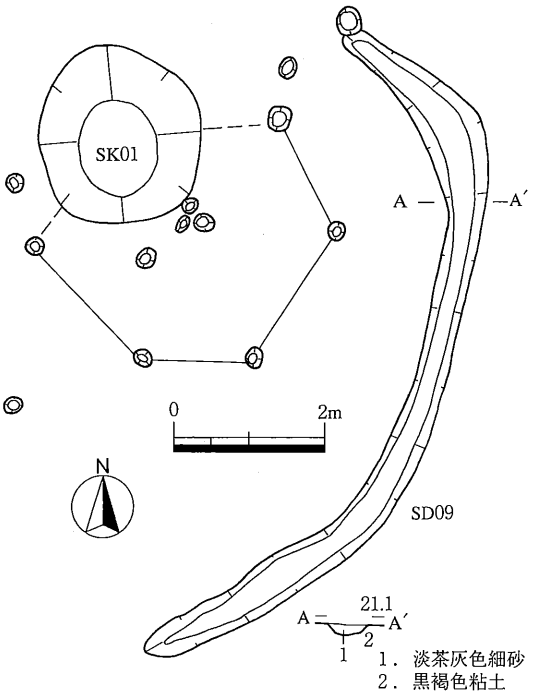


第24図　Ｘ区SH01･02平･断面図(1/100)及び出土石器(1/2･1/3)

cmである。弥生時代中期の土器がわずかに出土しているほか，柱穴30からは楔形石器103が，柱穴47からは砂岩製の磨滅ある石器（根石）104が出土している。

XII区ＳＨ01（第25図）

Ｄ９区画に位置する。周溝ＳＤ09に囲まれる竪穴住居跡と考えられる。竪穴住居部分は柱穴のみ残存したものと考えられる。柱穴の深さは10～18cmである。遺物は柱穴からも周溝からも出土していない。



第25図　XII区SH01平･断面図(1/100)

東①区ＳＨ01（第26図）

Ｊ11区画に位置する。柱穴数が少ないのでやや確実性には欠けるが，これも残存状況の悪い竪穴住居跡と考える。柱穴の深さは15～18cmである。柱穴12には柱痕がある。柱穴の埋土はいずれも暗茶褐色粘土である。遺物は出土していない。

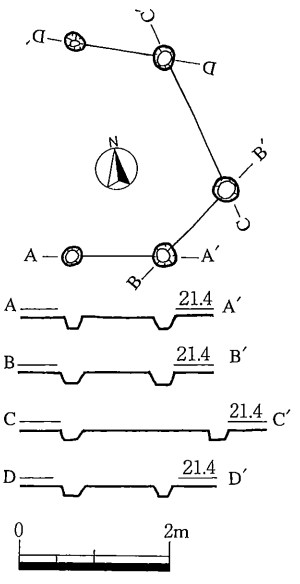
東②区ピット群

Ｊ３区画に位置する。東②区ＳＨ01及びＳＢ01の間にある多数のピットは，その全体の配置から考えて，おそらく２棟以上の残りの悪い竪穴住居跡であると考えられるが，根拠希薄のためここでは復元案は呈示しない。

掘立柱建物跡

Ⅱ区ＳＢ01（第27図）

Ｈ４区画に位置する。柱穴南列の軸線状に，この建物跡の柱穴を構成しそうな柱穴があるが，埋土が若干他の柱穴と異なること及び土師器が出土していることから，この建物の柱穴ではないと考える。主軸方位は，Ｎ90°Ｅである。弥生時代中期の土器が出土している。弥生土器105は，記録のミスのためか出土位置は定かではないが，この建物の柱穴から出土したものであろうと考えている。完形の2/3以上の大きさが残存している。



第26図　東①区SH01平･断面図(1/100)

Ⅱ区ＳＢ02（第28図）

Ｈ４区画に位置する。柱穴は２つしか検出していないが，北側へのびる１間四方の建物跡と考える。柱穴の深さは，当遺跡では大きい。主軸方位は，Ｎ76°Ｅである。弥生時代中期の土器が出土している。

Ⅴ区ＳＢ02（第28図）

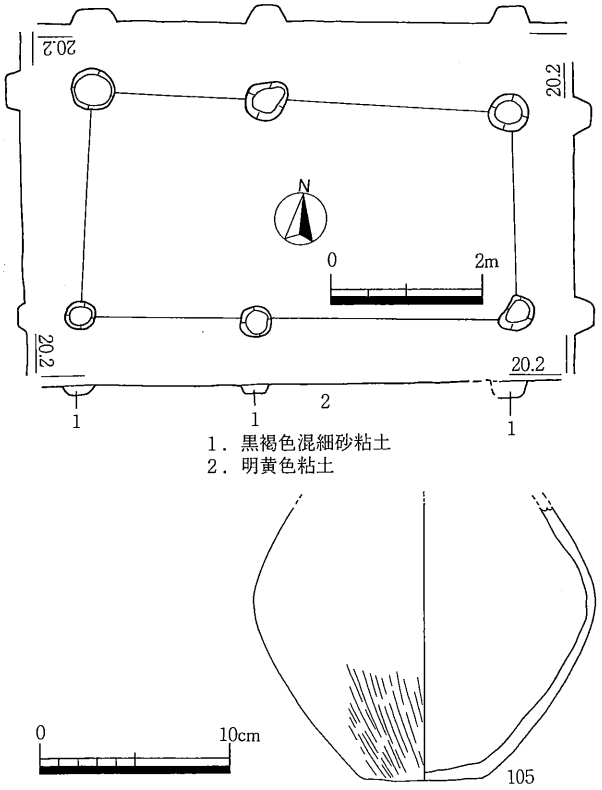
Ｈ10・Ｉ10区画に位置する。Ⅴ区ＳＫ02よりは古い。主軸方位は，Ｎ88°Ｅである。柱穴から弥生時代中期の土器が少量出土していることと，ＳＤ01とは新旧関係が考えられることから，弥生時代中期のものと考える。

Ⅴ区ＳＢ04（第28図）

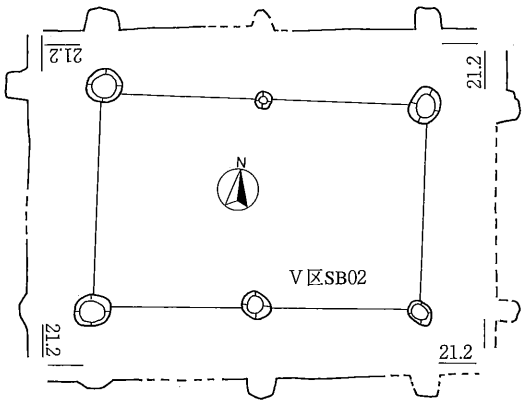
Ｉ10区画に位置する。柱間距離がやや大きいことから掘立柱建物跡とした。主軸方位は，Ｎ10°Ｗである。遺物は出土していない。Ⅴ区ＳＨ04との距離が小さいことから，ＳＨ04とは同時存在ではなく，時期が違うであろう。なお，断面図は航空測量平面図から復元したものである。

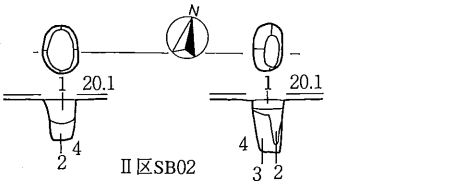
Ⅶ区ＳＢ01（第28図）

Ｊ７区画に位置する。主軸方位は，Ｎ82°Ｗである。弥生時代中期の土器が出土している。

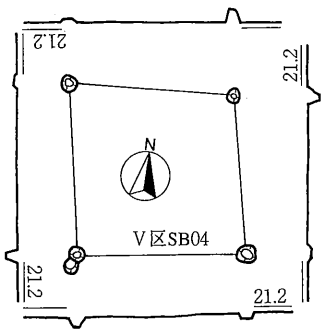


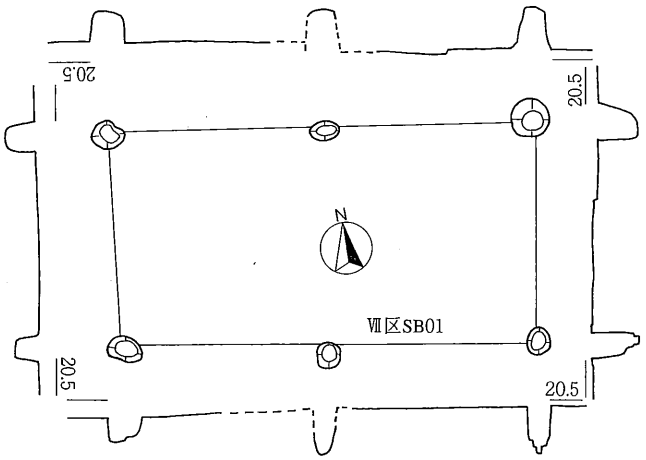
第27図　Ⅱ区SB01平･断面図(1/100)及び出土土器(1/4)





1．淡灰褐色粘土（ベースをブロックで含む）
2．淡灰色混細砂粘土
3．暗茶褐色粘土（ベースをブロックで多く含む）
4．明黄色粘土

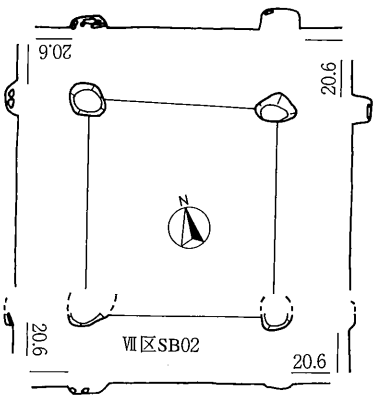




第28図　Ⅱ区SB02･Ⅴ区SB02･Ⅴ区SB04･Ⅶ区SB01平･断面図(1/100)

Ⅶ区ＳＢ02（第29図）

Ｉ８区画に位置する。主軸方位は，Ｎ11°Ｅである。柱穴には根石がある。柱穴04からスクレイパー106が出土している。

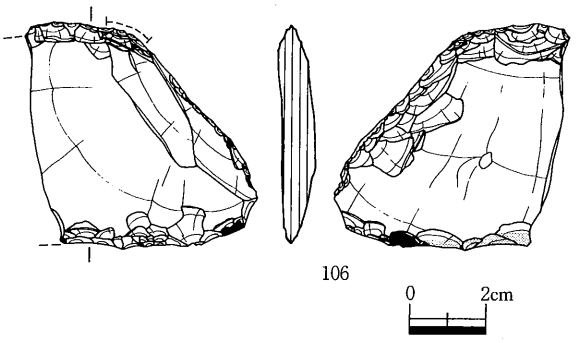


Ⅸ区ＳＢ01（第29図）

Ｉ４・Ｉ５区画に位置する。主軸方位はＮ64°Ｅである。柱穴からは弥生時代中期の土器の小破片が出土している。この建物の南側の柱穴列に沿う形で，Ⅸ区ＳＤ03が位置している。

Ⅹ区ＳＢ01（第29図）

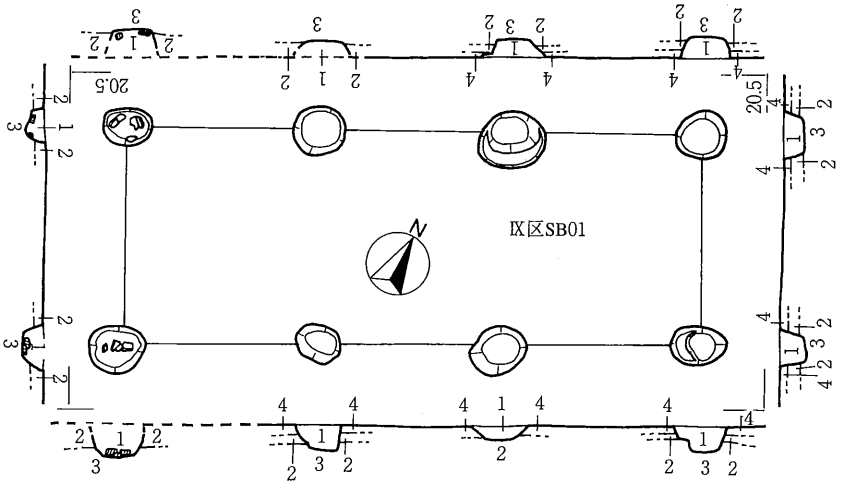
Ｉ５区画に位置する。主軸方位は，Ｎ55°Ｅである。柱穴29には根石がある。柱穴25及び27には，古い掘り込みが存在するが，その性格は不明である。弥生土器が出土している。

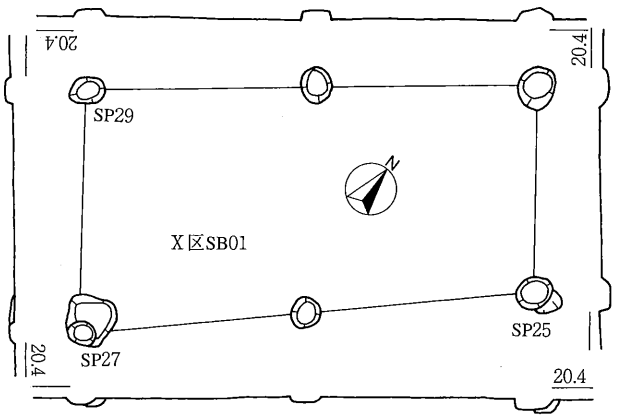


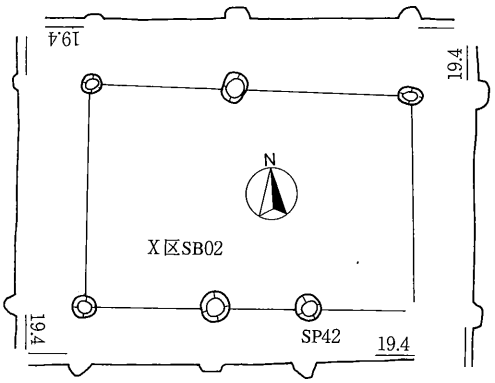
Ⅹ区ＳＢ02（第29図）

Ｉ６・Ｊ６区画に位置する。主軸方位は，Ｎ83°Ｅである。柱穴42から弥生時代中期の土器が出土している。

1．茶灰色細砂
2．濁黄色粘土（Fe,Mn多い）
3．明黄色粘土
4．黒褐色粘土







第29図　Ⅶ区SB02・Ⅸ区SB01・Ⅹ区SB01・Ⅹ区SB02平・断面図（1/100）及び出土石器（1/2）

東①区ＳＢ03（第30図）

Ｊ８・Ｋ８区画に位置する。日暮・松林遺跡のＳＢ16の延長と考えられ，当遺跡では２つの柱穴が存在する。主軸方位は，Ｎ90°Ｗである。埋土は茶褐色粘土で，遺物は出土していない。

土坑

Ⅱ区ＳＫ01（第30図）

Ｈ４区画に位置する。出土遺物は無い。

Ⅸ区ＳＫ03（第30図）

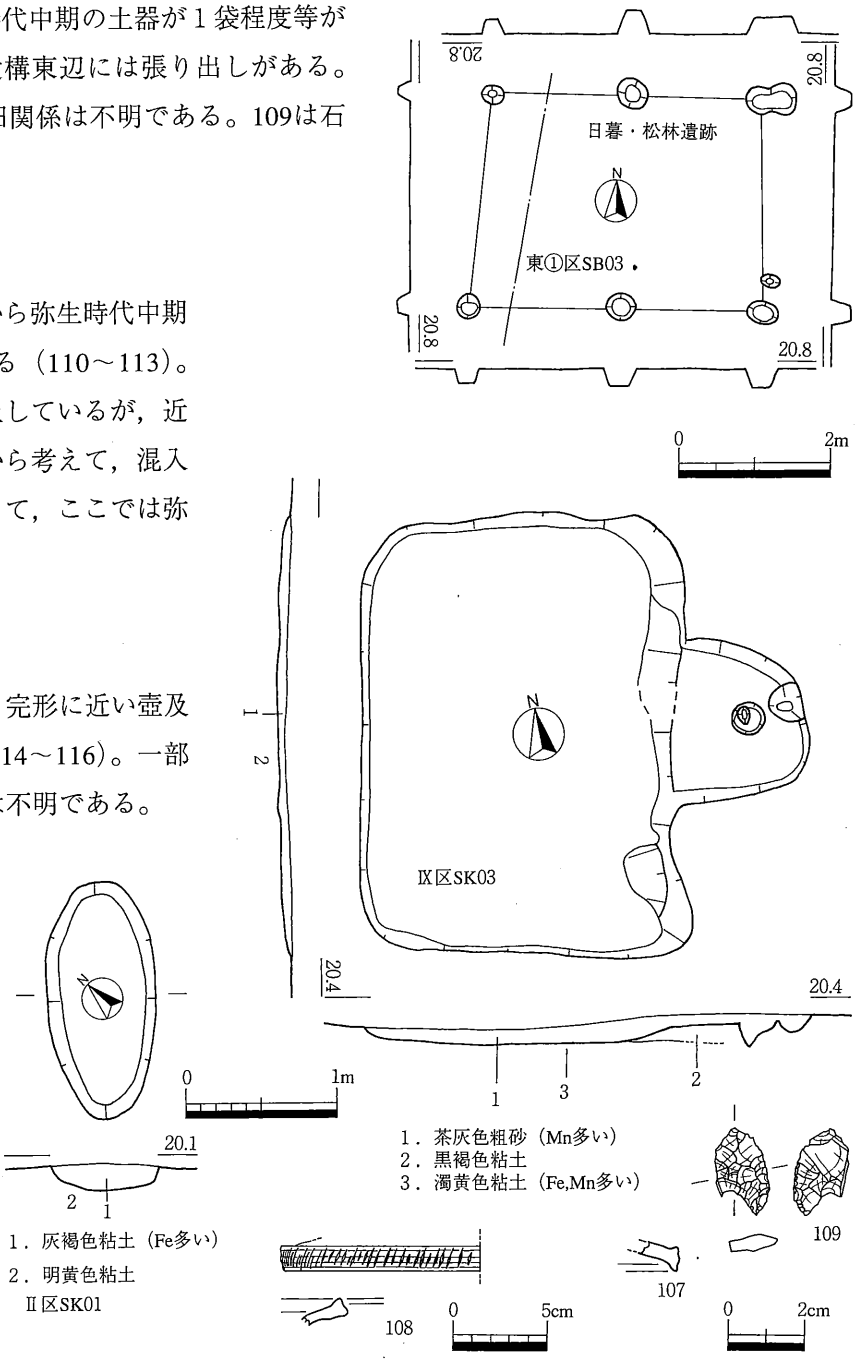
Ｉ４区画に位置する。弥生時代中期の土器が１袋程度等が出土している（107・108）。遺構東辺には張り出しがある。またこの部分のピットとの新旧関係は不明である。109は石鏃である。

Ⅸ区ＳＫ04（第31図）

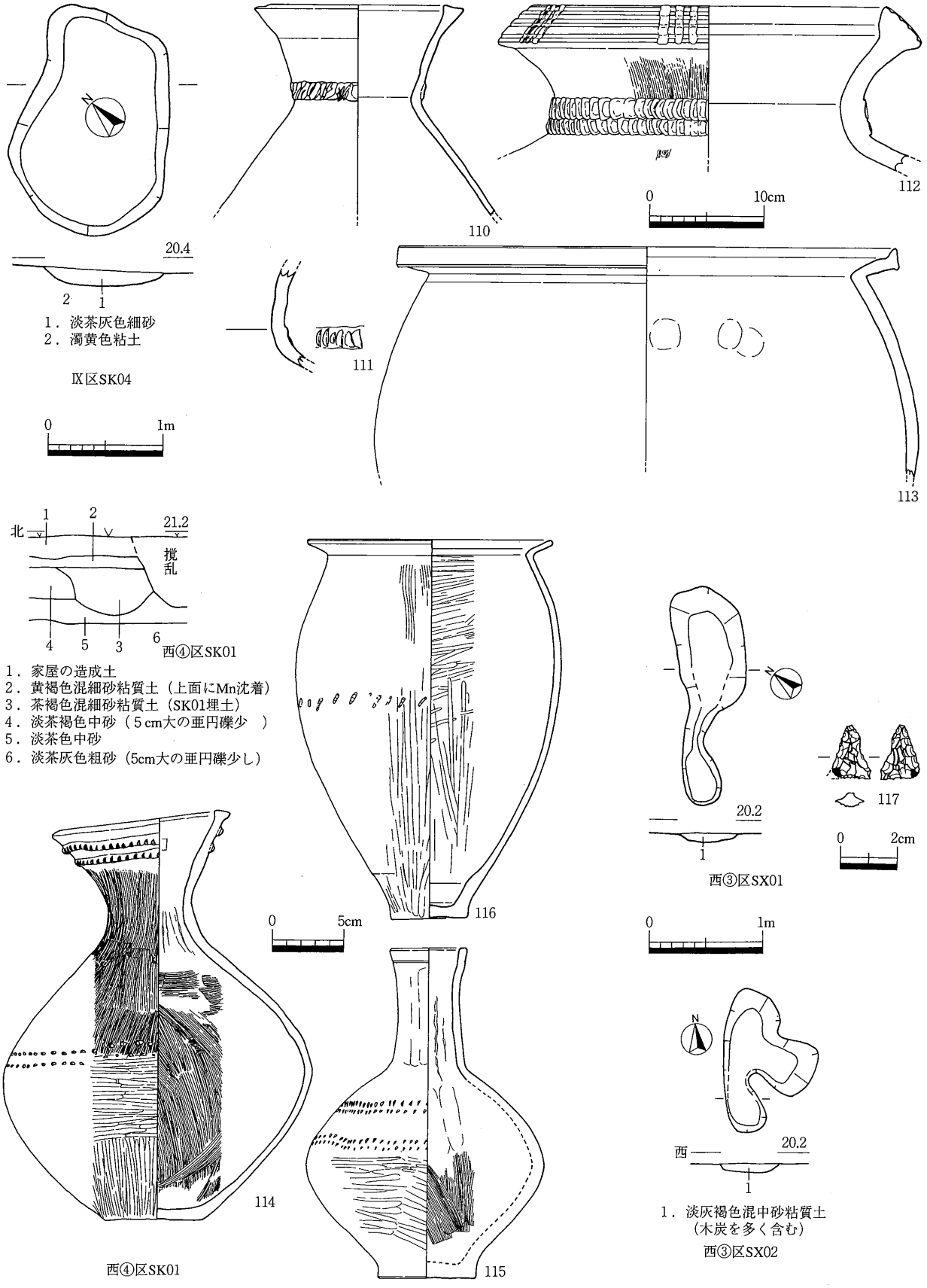
Ｉ５区画に位置する。埋土から弥生時代中期の土器が２袋程度出土している（110～113）。また，土師器杯小片１片が出土しているが，近くに小さいピットがあることから考えて，混入の可能性を否定できない。従って，ここでは弥生時代中期の遺構としておく。

西④区ＳＫ01（第31図）

Ｂ７・Ｂ８区画に位置する。完形に近い壺及び甕が３個体出土している（114～116）。一部分の調査のため，全体の規模は不明である。



第30図　東①区SB03(1/100)・Ⅱ区SK01・Ⅸ区SK03(1/50)平・断面図及び出土土器(1/4)・石器(1/2)



第31図　Ⅸ区SK04・西④区SK01・西③区SX01・西③区SX02平・断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)

不明遺構

西③区ＳＸ01（第31図）

Ｂ３区画に位置する。第１遺構面で検出した。弥生土器小片数片，石鏃１（117），サヌカイトの小剥片数片が出土している。埋土に炭や焼土を多く含む。

西③区ＳＸ02（第31図）

Ｂ４区画に位置する。第１遺構面で検出した。弥生時代中期の土器を少量含み，土器はほとんど磨滅していない。埋土に炭を多く含み，西③区ＳＸ01と同様である。

溝跡

Ⅶ区ＳＤ05・08（第32図）

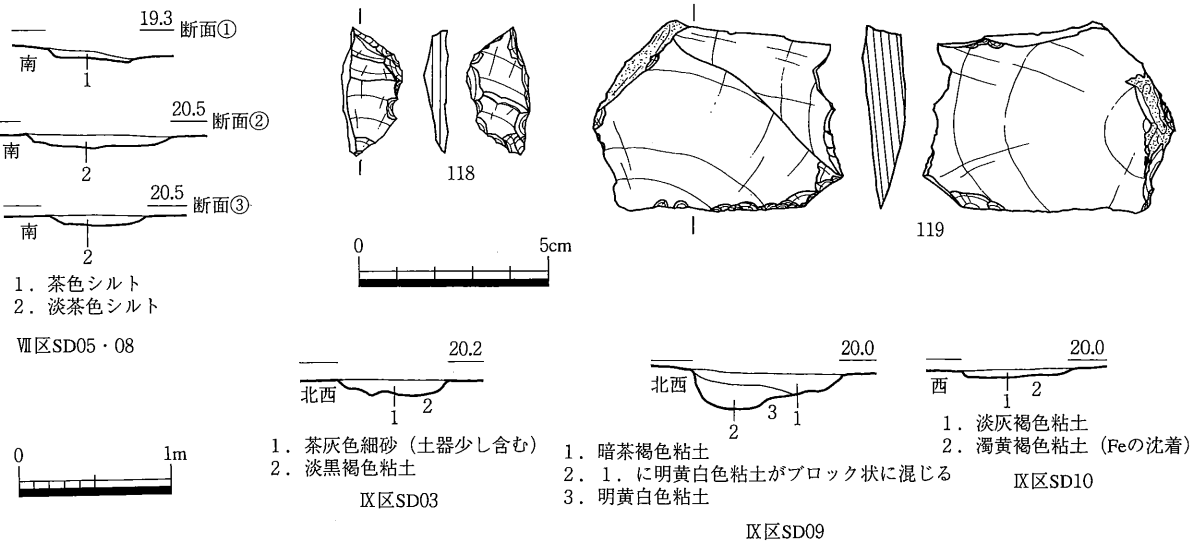
Ｉ６・Ｊ６区画に位置する。Ⅶ区ＳＤ06に壊されている。出土遺物は，弥生時代中期の土器がやや多く出土している。方向は，Ⅶ区ＳＢ01の主軸とほぼ同じ方向である。川跡への自然排水溝と考えられる。118は石庖丁である。119は上部包含層出土で，Ⅶ区ＳＤ06出土の可能性もあるスクレイパーである。

Ⅸ区ＳＤ03（第32図）

Ｉ５区画に位置する。Ⅸ区ＳＢ01の南側柱穴列に沿うような形で，位置している。埋土からは弥生時代中期の土器の小片が１袋程度出土している。

Ⅸ区ＳＤ09・10（第32図）

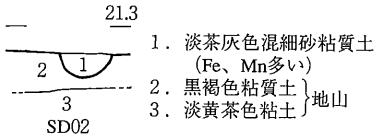
Ｉ４・Ｈ５区画に位置する。遺物は出土していない。Ⅸ区ＳＨ02より古いが，一応ここで報告しておく。



第32図　Ⅶ区SD05･08･Ⅸ区SD03･Ⅸ区SD09･10断面図(1/50)及び出土石器(1/2)

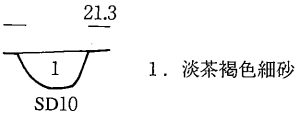
XI区ＳＤ02・10（第33図）

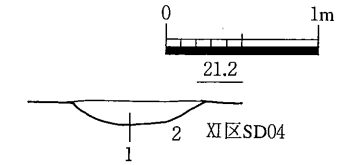
Ｄ10区画に位置する。円形周溝状の溝である。XI区ＳＤ03から分かれるようになっている溝もおそらくはこの溝の続きであろう。周溝で囲まれる部分には関連する遺構は無い。埋土からは，弥生時代中期と考えられる土器が１片出土している。



XI区ＳＤ04・XII区ＳＤ10（第33図）

Ｄ９・Ｄ10区画に位置する。円形周溝状の遺構になるものと考えられる。ＳＤ01よりは新しい。弥生時代中期の土器（120）が出土している。



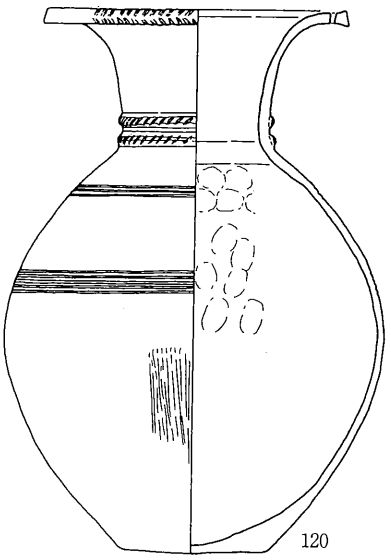


XI区ＳＤ05（第33図）

Ｅ10・Ｅ11区画に位置する。円形周溝状の溝である。周溝で囲まれる部分には関連する遺構は無い。埋土からは弥生時代中期の土器がわずかに出土しているのみである。

XI区ＳＤ06・07（第33図）

Ｄ11・Ｅ11区画に位置する。円形周溝状の溝である。周溝で囲まれる部分には関連する遺構は無い。埋土からは弥生土器の小片が少量出土しているのみである。小破片のなかに角閃石を含む破片がわずかに認められるが，他の同様な遺構の時期を考えて，弥生時代中期としておく。

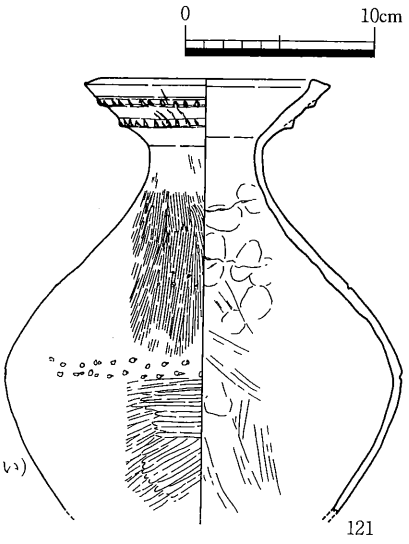


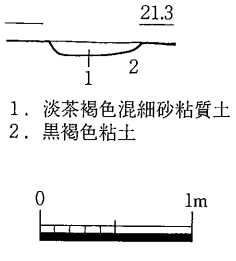
XII区ＳＤ15・16（第33図）

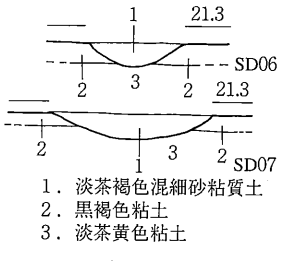
Ｄ８区画南東隅付近に位置する。ＳＤ15から弥生時代中期の土器（121）が出土している。

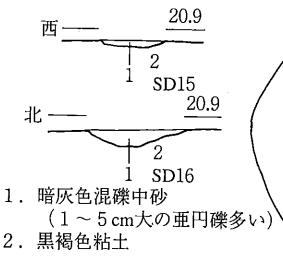
XII区ＳＤ08（第34図）

Ｅ９・Ｅ10区画に位置する。XI区ＳＤ03より新しい。円形周溝である。周溝に囲まれる内部には遺構は無い。東側の調査区端から西へ2.5mのところからは，長さ約２mにわたり，一段溝底が低くなっ









第33図　XI区SD02･10･XI区SD04･XI区SD05･XI区SD06･07･XII区SD15･16断面図(1/50)及び出土土器(1/4)

ている。122・123はⅫ区ＳＫ09との接する位置から南へ約1.5ｍ離れたところでまとまって出土したもので，弥生時代中期のものである。

Ⅻ区ＳＤ13

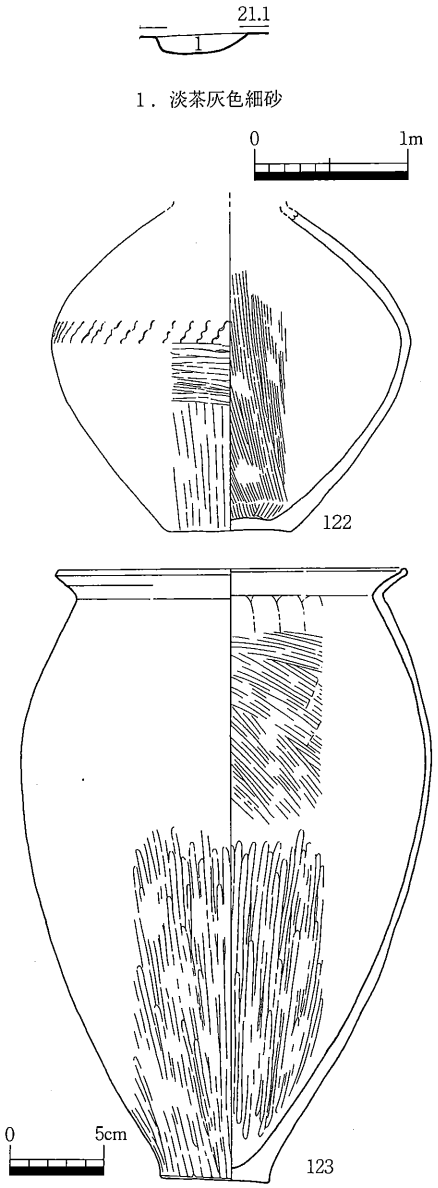
Ｄ８・Ｅ８区画に位置する。深さ５㎝程度の浅いものである。遺物は弥生時代中期と考えられる土器の小片がわずかに出土しているのみである。

川跡

ＳＲ01

調査区中央で確認された弥生時代中期を中心として，弥生時代前期から古墳時代前期までの遺物を含む川跡である。土層は大きく５層に分けて調査を行った。最下層はＤ層である。この層は，木本質の泥炭層で，弥生時代前期～中期の土器とともに，木製品が大量に出土した。土器は，弥生時代前期中葉頃のものから，中期後葉のものまで出土するが，そのほとんどは弥生時代中期中葉（Ⅲ期）のものである。また，Ｄ層上面では，弥生時代後期中葉の土器が出土する。なお若干の古墳時代前期の土器を含む。Ｃ’層は，基盤層に似た土層で，Ⅲ区においては，ＳＤ03の東岸を形成するために盛り土されたと考えられる土層である。Ｃ層はＳＤ03の埋土と考えられる土層で，流水によるシルトと粗砂のラミナ状の堆積である。このため，Ｃ層とＣ’層はⅠ・Ⅲ区においてしか検出できていない。この上層が茶色系シルト層のＢ層である。Ｂ層の上層がＡ層で白茶色シルト層である。なお，川跡がほぼ埋まった後の包含層（Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｃ’層）から出土した土器もここで一緒に掲載する。

ここでは，大量の遺物が出土しているので，調査時の調査区ごとに報告していく。



第34図　Ⅻ区SD08断面図(1/50)
及び出土土器(1/4)

Ⅰ区（第35～39図）

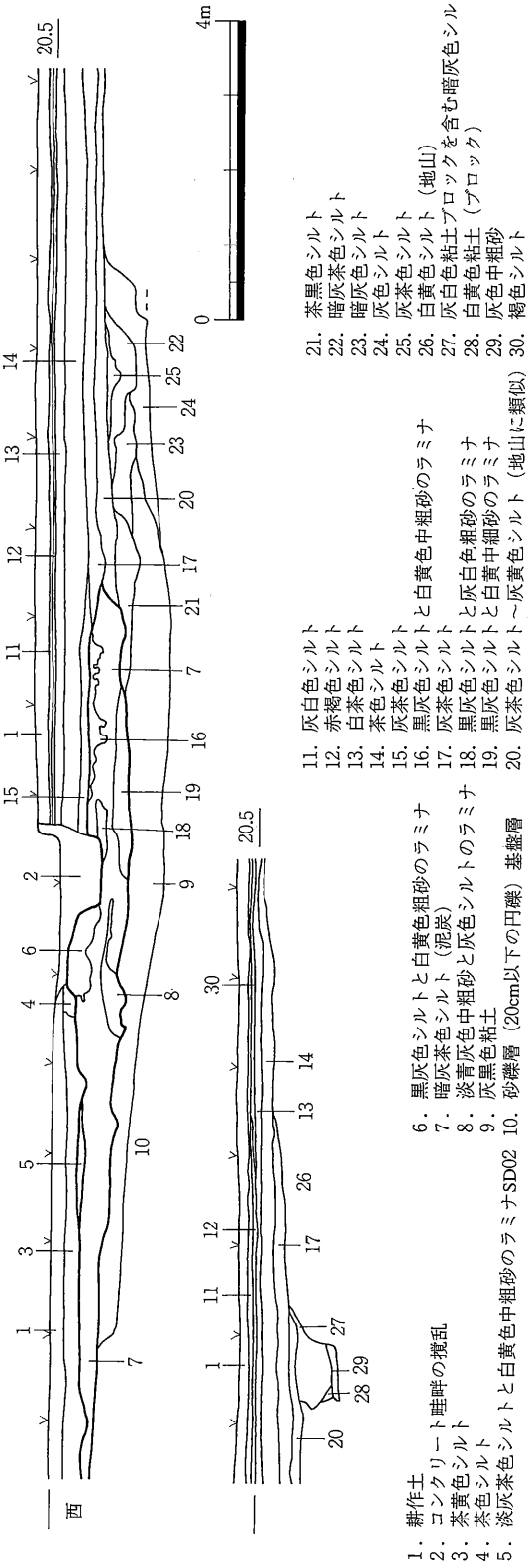
第35図断面図において，Ａ層は13層である。Ｂ層は４・14・15・17層である。Ｃ層は６・８・16・18・19層である。Ｃ’層は20層である。Ｄ層は９・21～25層である。

124～166は，Ｄ層から出土した土器及び出土層位の不明な弥生時代中期の土器である。124～146は壺である。147～153は甕である。154～158は台の付かない鉢である。158は底部に穿孔がある。159～162は台付き鉢である。162は四方透かしの台である。163は高杯である。164は蓋である。165は土器片利用の紡錘車未製品であり，穿孔は両側穿孔であり，穿孔位置は若干ずれている上に，貫通していない。166は椀の高台のようであるが，胎土及び高台形態が土師器とは異なり，器形は不明である。167～172は上層のＣ層から出土したものである。ただしこの調査区ではＣ層とＣ’層の区別ができていないため，本来Ｃ’層出土の遺物も含んでいる可能性がある。167・168は土師器である。169・170は須恵器である。

171は黒色土器A類椀である。172は瓦器椀である。173～175はA層出土である。173は中国産白磁皿である。174は中国産白磁椀である。175は中国産青磁椀である。

176～182はD層から出土した石器である。176・177は打製石庖丁である。178～181はスクレイパーである。182は流紋岩製の磨製石庖丁である。紐穴には紐ずれによるものと考えられる磨滅がある。183～190はC層から出土した石器である。183は石鏃である。184は石錐である。185は打製石庖丁としておく。186はスクレイパーである。187は打製石斧である。188・189は楔形石器である。190は二次加工ある石器で石鏃の未製品の可能性がある。191・192は出土層位不明の石器である。191は石錐である。192は素刃の石器である。

193・194はD層から出土した広葉樹材の加工木である。195～201はC層出土である。195～200はヒノキ材である。195は底板である。196は刀形の可能性がある。197は角棒である。198・199は板材である。200は割材である。201は樹種不明の加工木である。202はB層下面から出土したマツ属複維管束亜属の両端加工木である。203・204は出土層位不明の木器である。203は樹種不明の先端加工材である。204はヒノキ材と考えられる割材である。

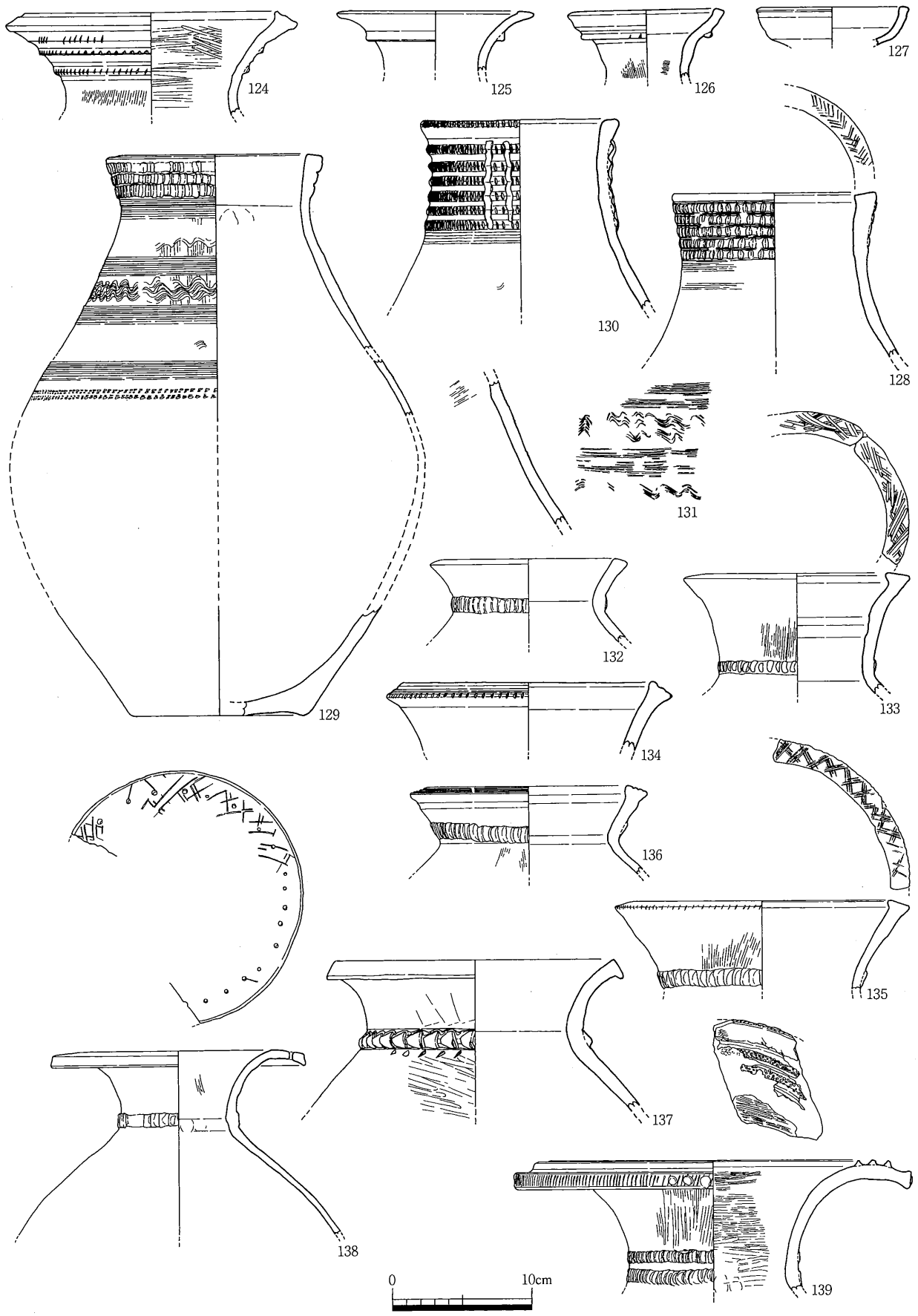


第35図　SR01断面図（Ⅰ区北壁）(1/100)

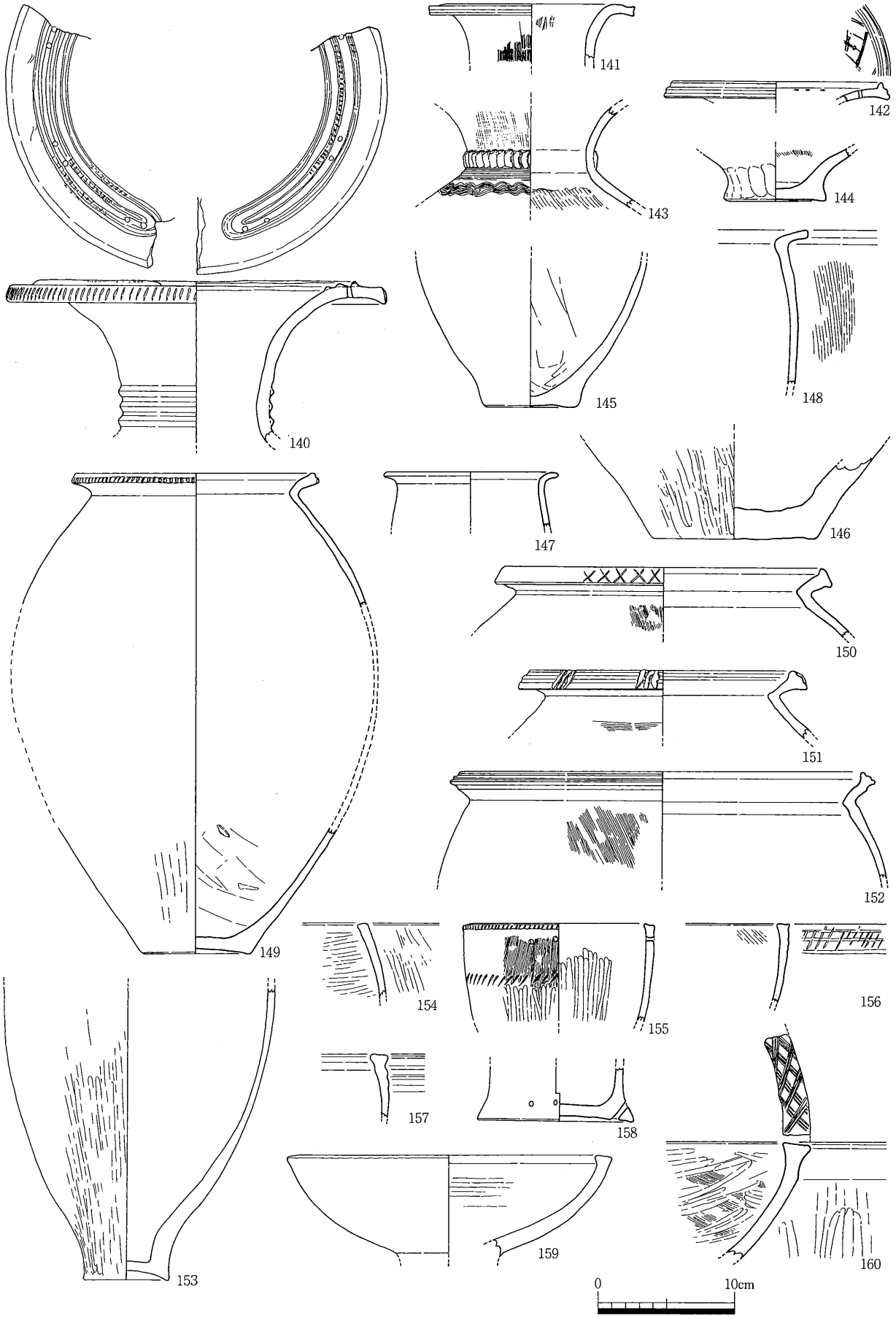
Ⅲ区（第40～52図）

205～311はD層から出土した土器である。205は弥生時代前期の甕である。206も弥生時代前期の可能性がある鉢である。207・208は櫛描文のある甕で弥生時代中期初頭頃のものであろう。209は連続直線文の下に三角形の連続刺突文を施すもので，本鴨遺跡*1にみられるような中期前葉の無頸壺の可能性がある。210～253は壺である。245・246は同一個体の可能性がある。248・249については弥生時代中期のものかどうかはやや疑問がある。254～270は甕である。271～276は鉢である。277～296は台付鉢である。290・291は出土した調査区は違うが（291はⅦ区出土）おそらく同一個体と考えられる。297～300は高杯と考えられる。300は当遺跡で類例の無いもので，弥生時代中期かどうか

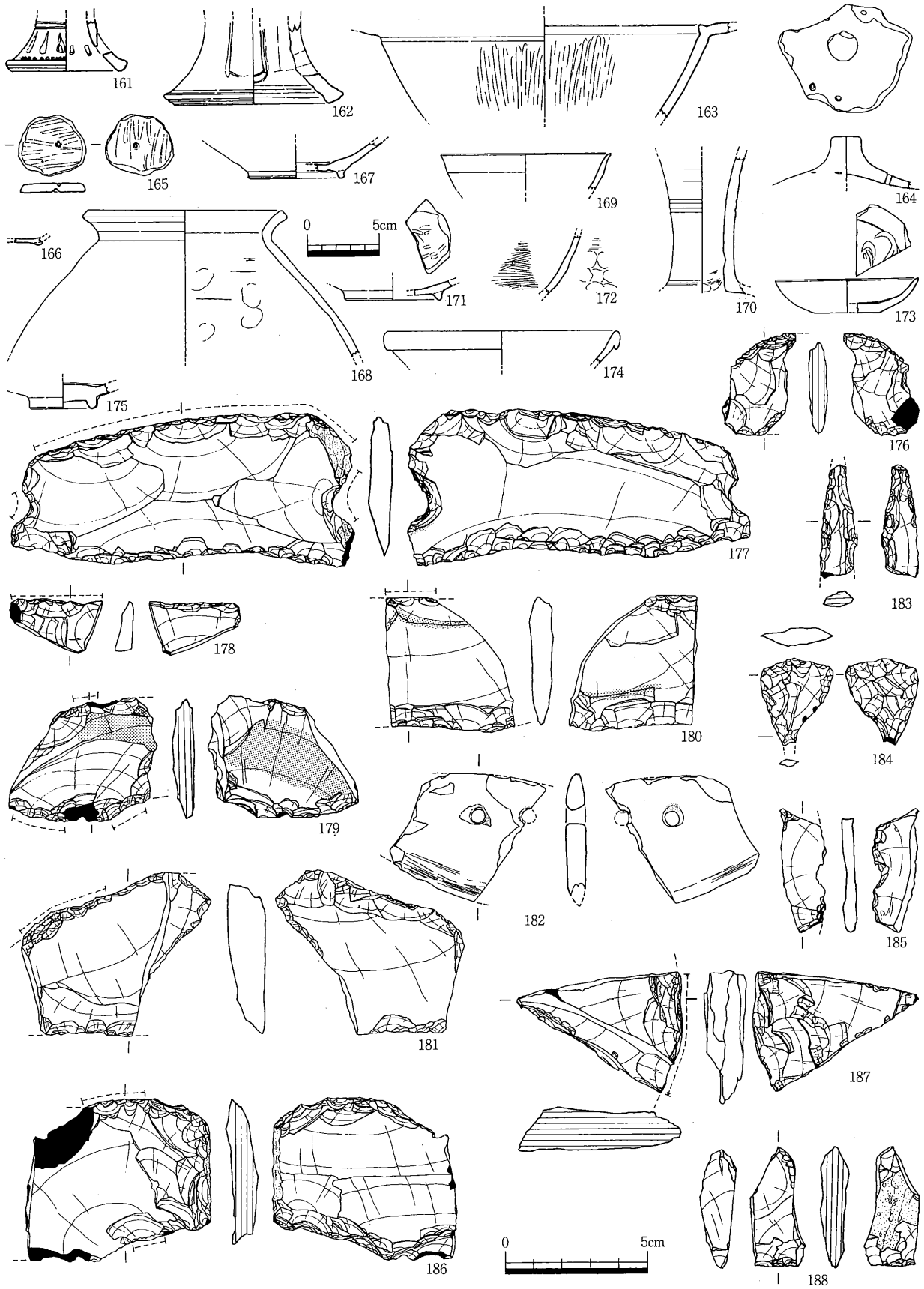
*1　香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和59年度～昭和62年度』1988，P88の第1図9。



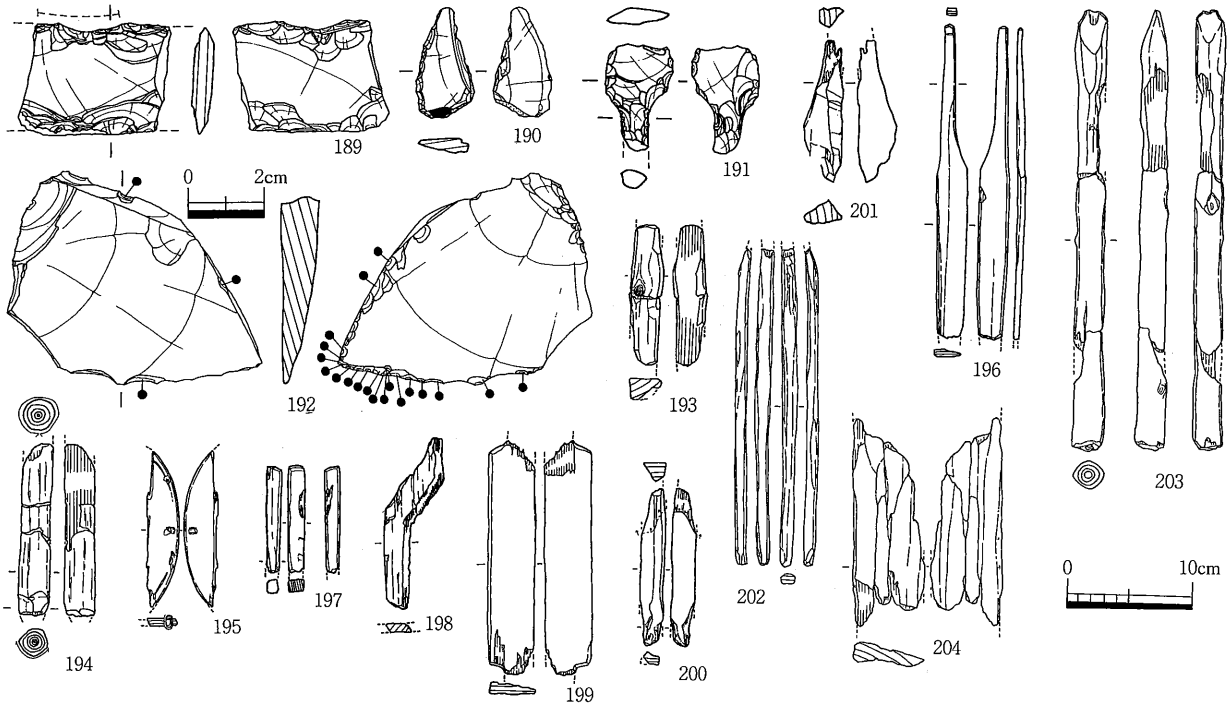
第36図　SR01(Ⅰ区)出土土器(1)(1/4)



第37図　SR01(Ⅰ区)出土土器(2)(1/4)



第38図　SR01(Ⅰ区)出土土器(3)(1/4)及び石器(1)(1/2)

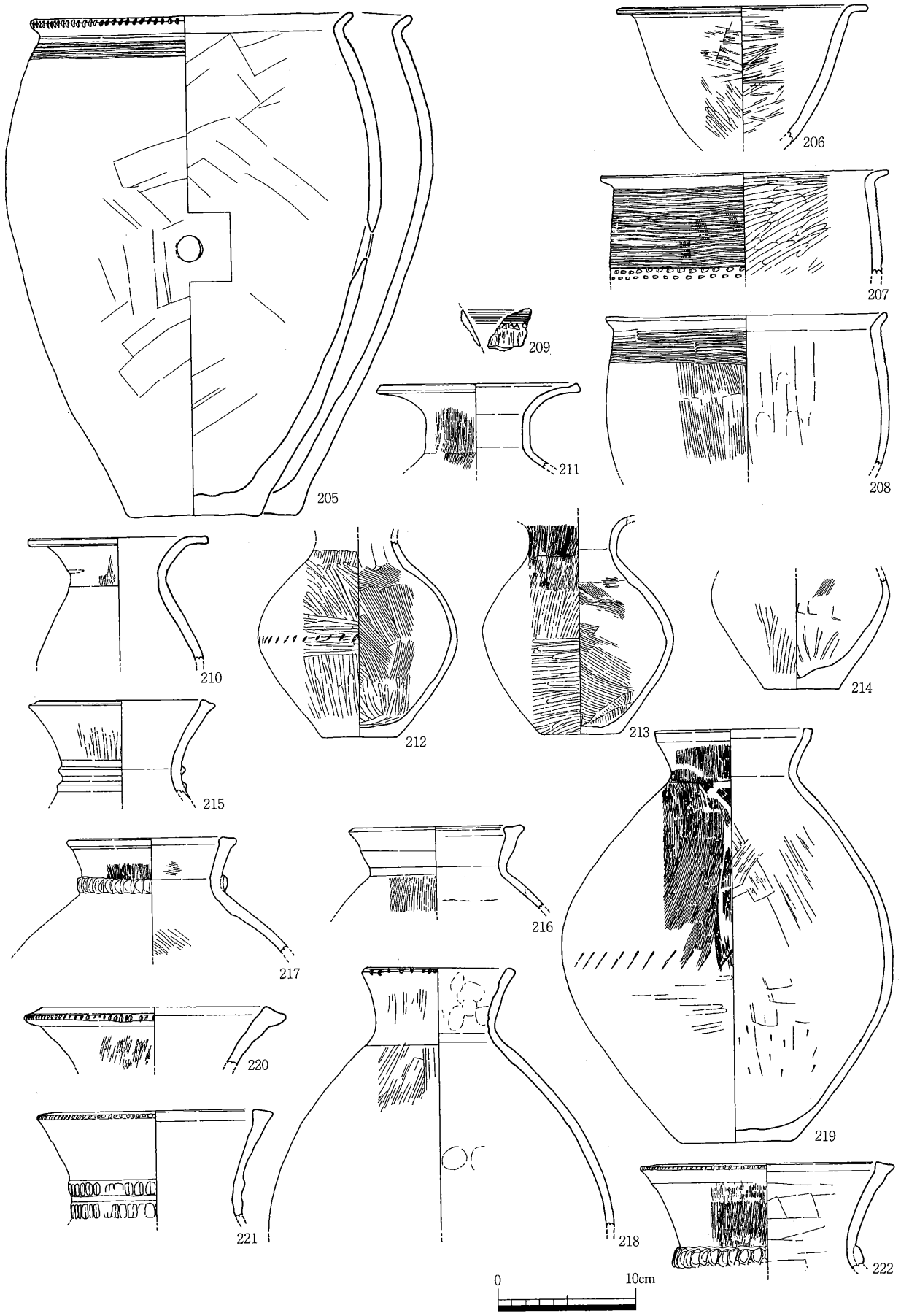


第39図　SR01（Ⅰ区）出土石器(2)(1/2)及び木器(1/6)

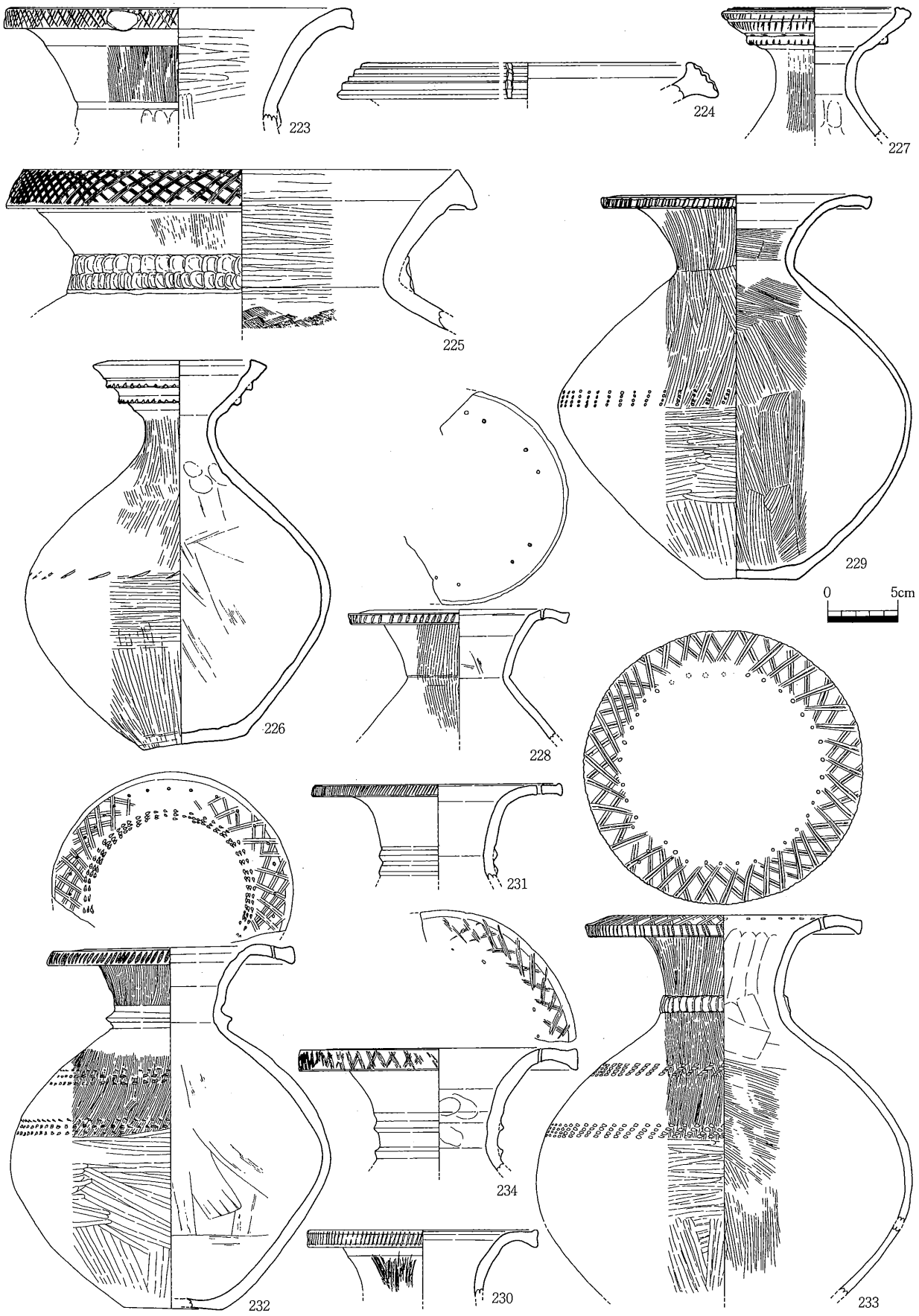
は疑問である。301は小型の壺である。303は器台の脚の可能性があるもので，時期は弥生時代中期かどうかは疑問である。304～306は土器片利用の紡錘車である。306は穿孔が貫通していない。307～311はD層上部から出土したと考えられる弥生時代後期の土器である。312～316はC’層から出土した土器である。312は土師器椀である。313～316は須恵器である。317～319はC層から出土した土器である。317は弥生土器である。318は種類・器形とも不明である。319は須恵器である。320はB・C層から出土した土師器杯である。321はB層直下から出土した須恵器である。322～325はB層出土土器である。322・323は土師器である。324は墨書須恵器である。325は黒色土器A類椀である。326はB層上面から出土した緑釉陶器椀である。

327～343はD層から出土した石器である。327は素刃の石器である。328～333はスクレイパーである。334～338は楔形石器である。339は石核と考えられるが，一部に潰れと磨滅の中間的な痕跡がある。340は結晶片岩製で，やや厚い両刃に近い形の扁平片刃石斧である。341は柱状片刃石斧で，1907と同一個体の可能性がある。342・343は安山岩製と考えられる磨滅ある石器である。344～346はC層及びC’層出土の楔形石器である。

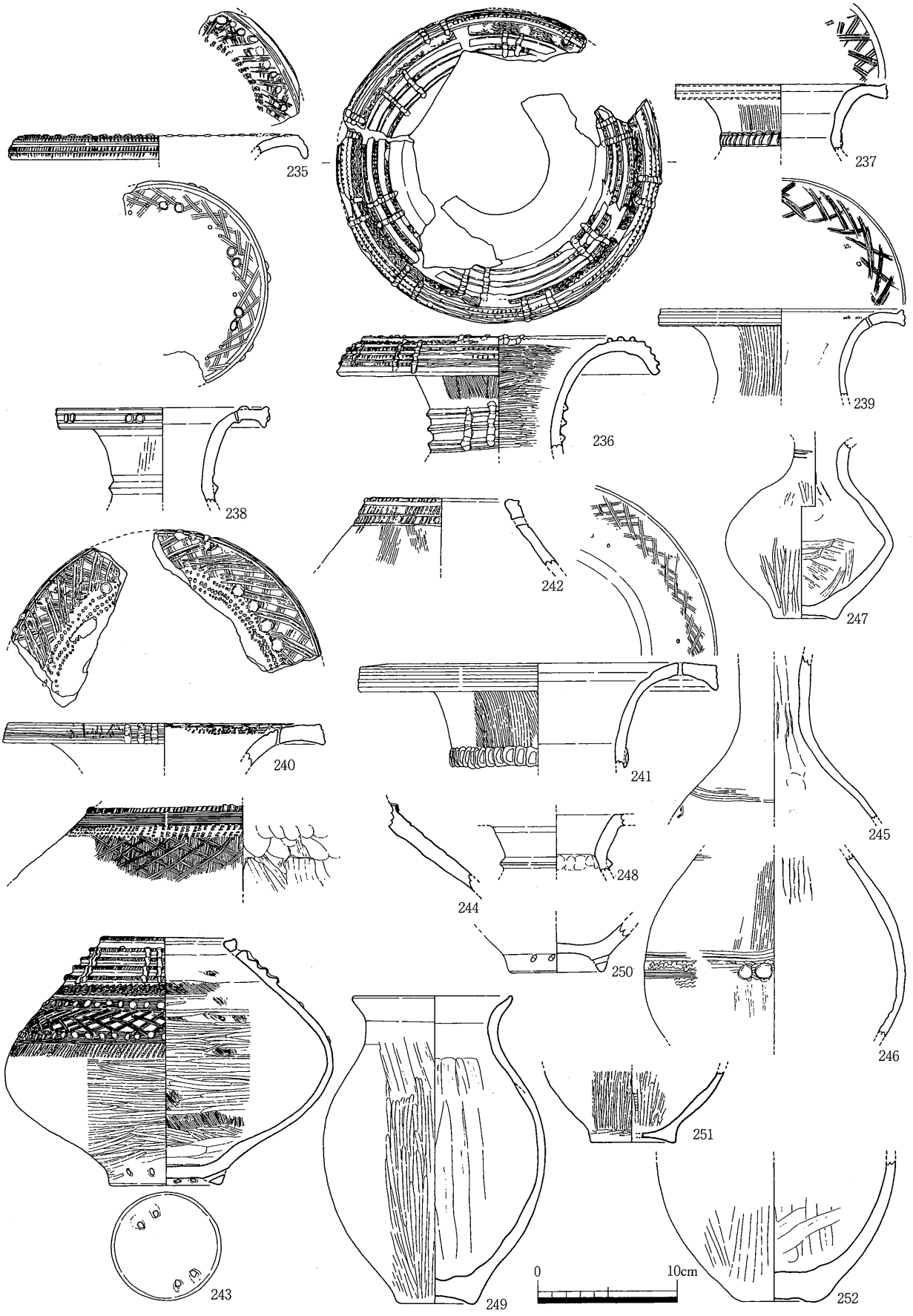
347～412はD層から出土した木器である。347～349は，一見広鍬の形態に似ているものであるが，木の幹の軸方向と刃先の方向が平行，つまり一般の泥除などと同じ方向の木取りである。ここではこの木器を以下で広鍬状木製品として報告していく。いずれもアカガシ材である。349は肩部に泥除を装着するためと考えられる孔がある。350及び351～354（アカガシ材）は，曲柄鍬の破片と考えられる。355は又鍬の刃部と考えられる。356・357は竪杵あるいは横槌と考えられるものである。使用痕がある。357は樹種不明で，先端に磨滅痕がある。358・359は，柄と考えられるものである。358は樹種不明，359はクスノキ材である。360はヒノキ材の箱状木器の破片の可能性がある。361は竪杓子である。柄の付け根部分が一部残存している。362～365は槽である。363はクスノキ材である。364・365は同一個体の可能



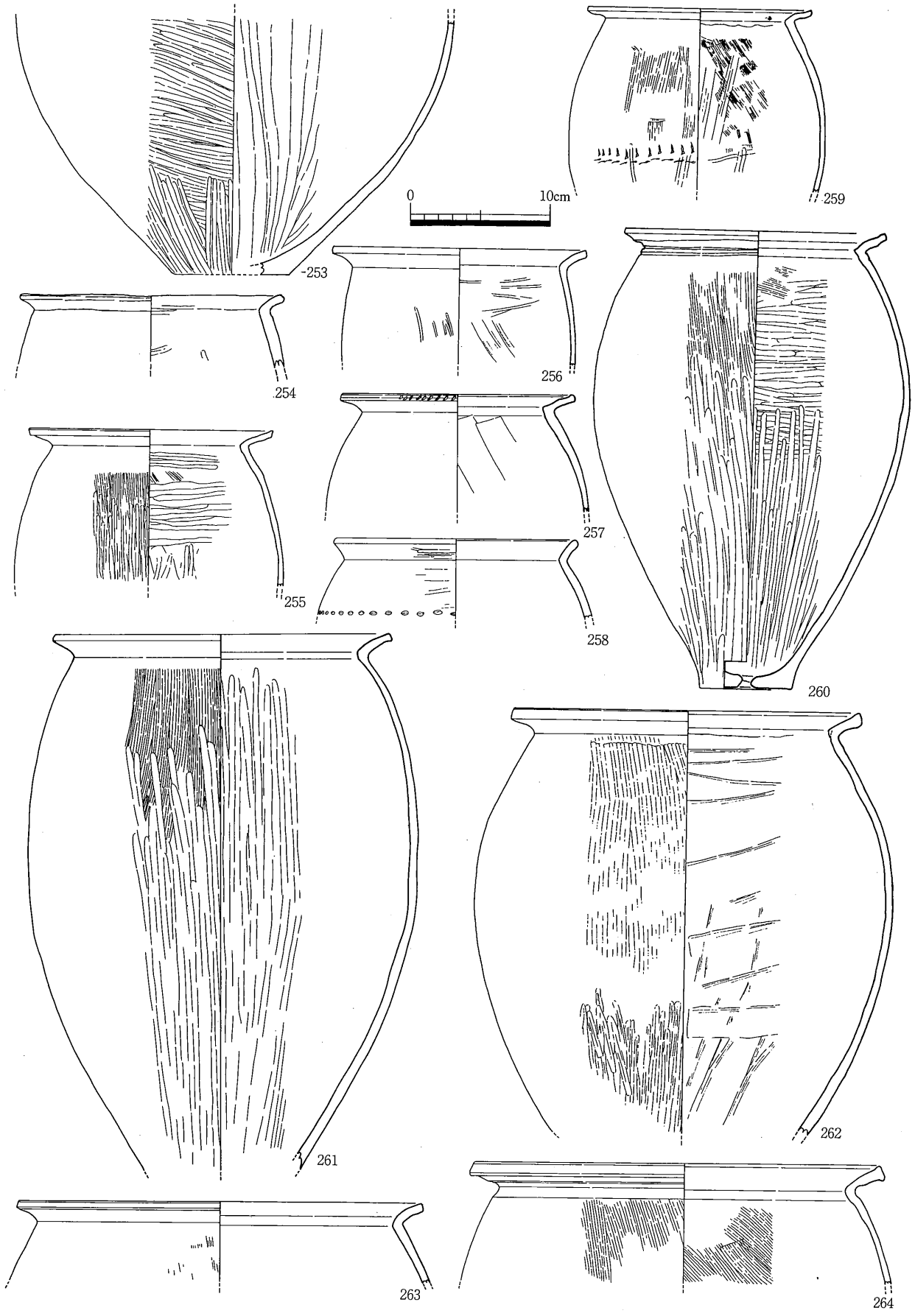
第40図　SR01(Ⅲ区)出土土器(1)(1/4)



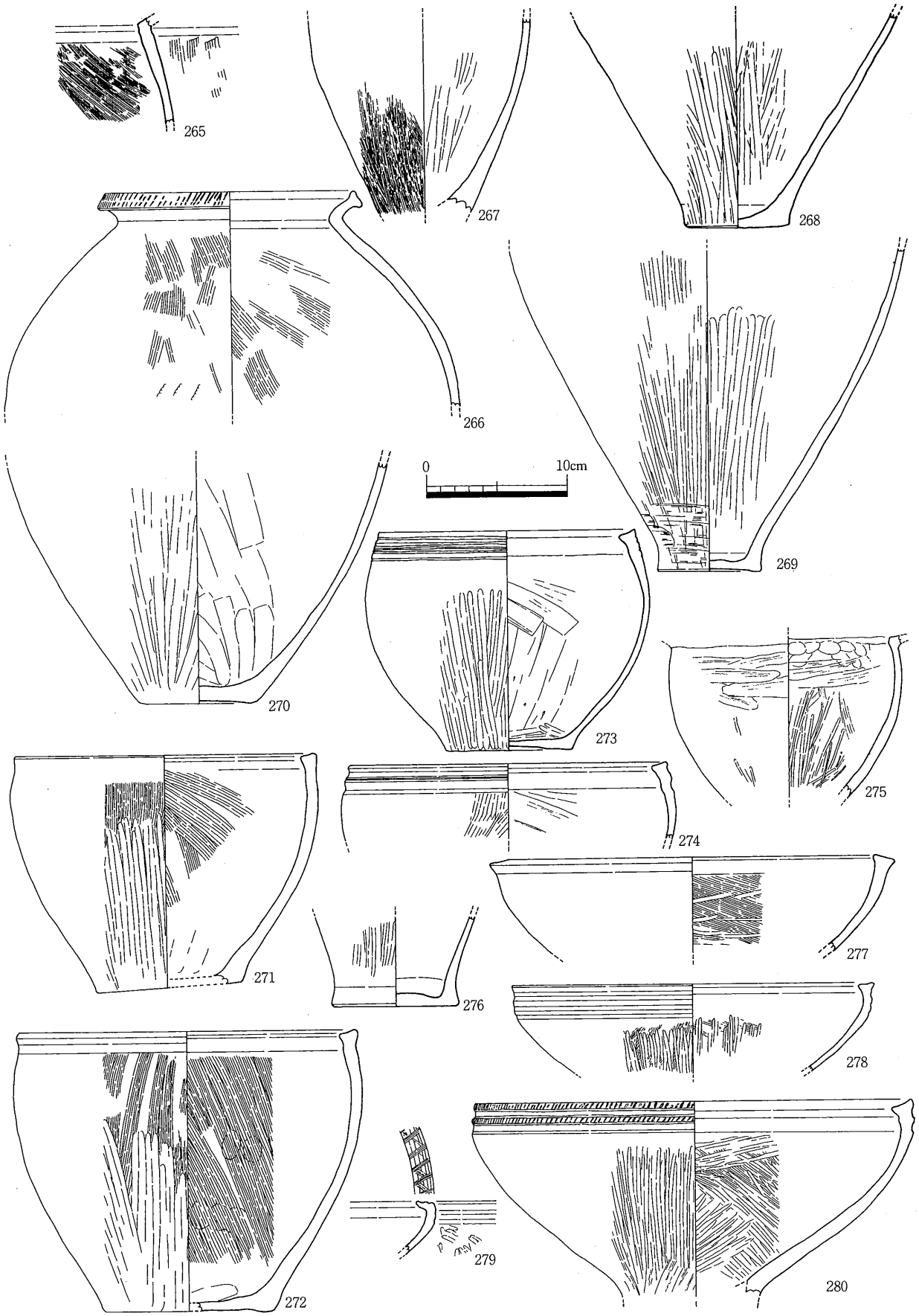
第41図　SR01(Ⅲ区)出土土器(2)(1/4)



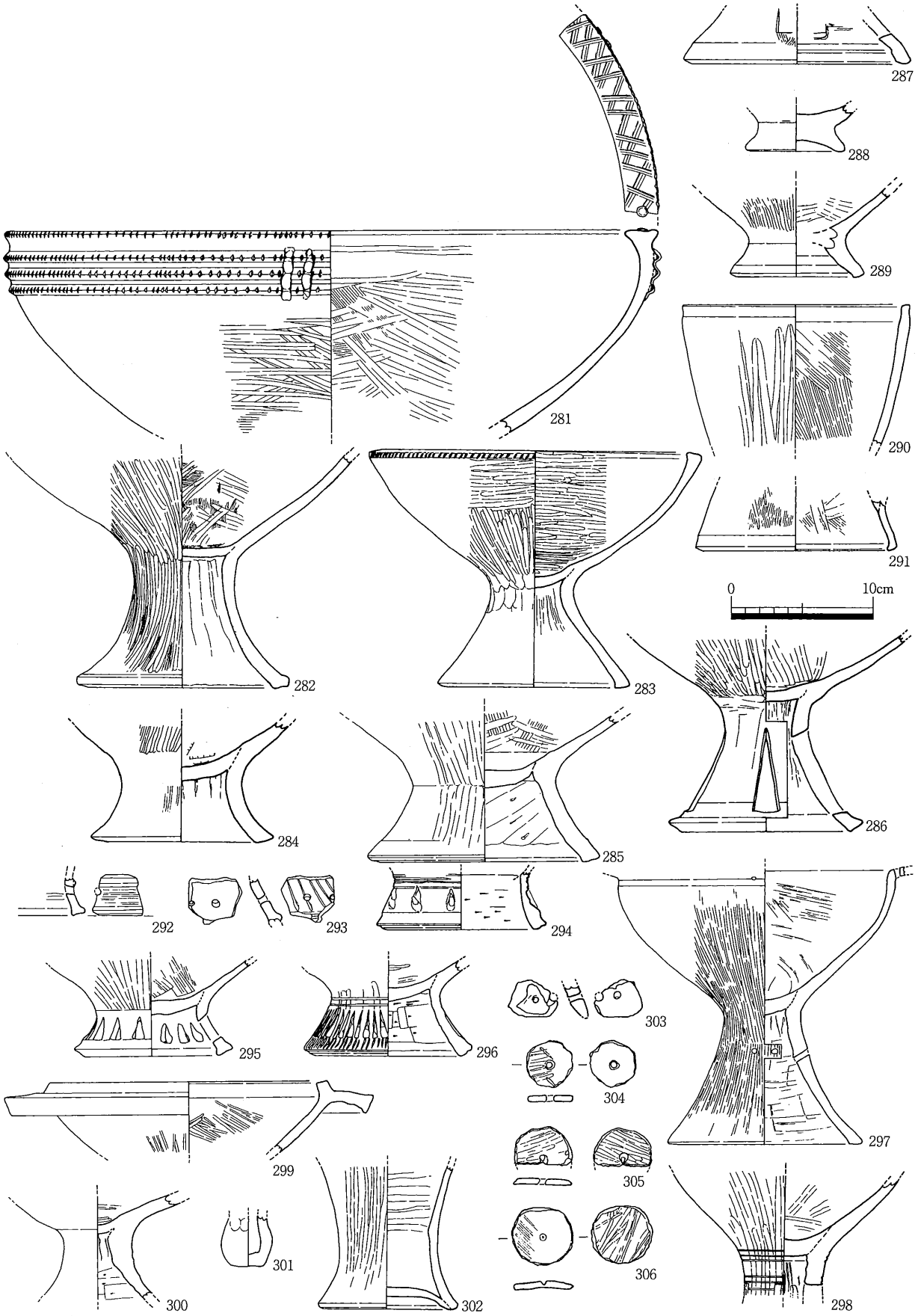
第42図　SR01(Ⅲ区)出土土器(3)(1/4)



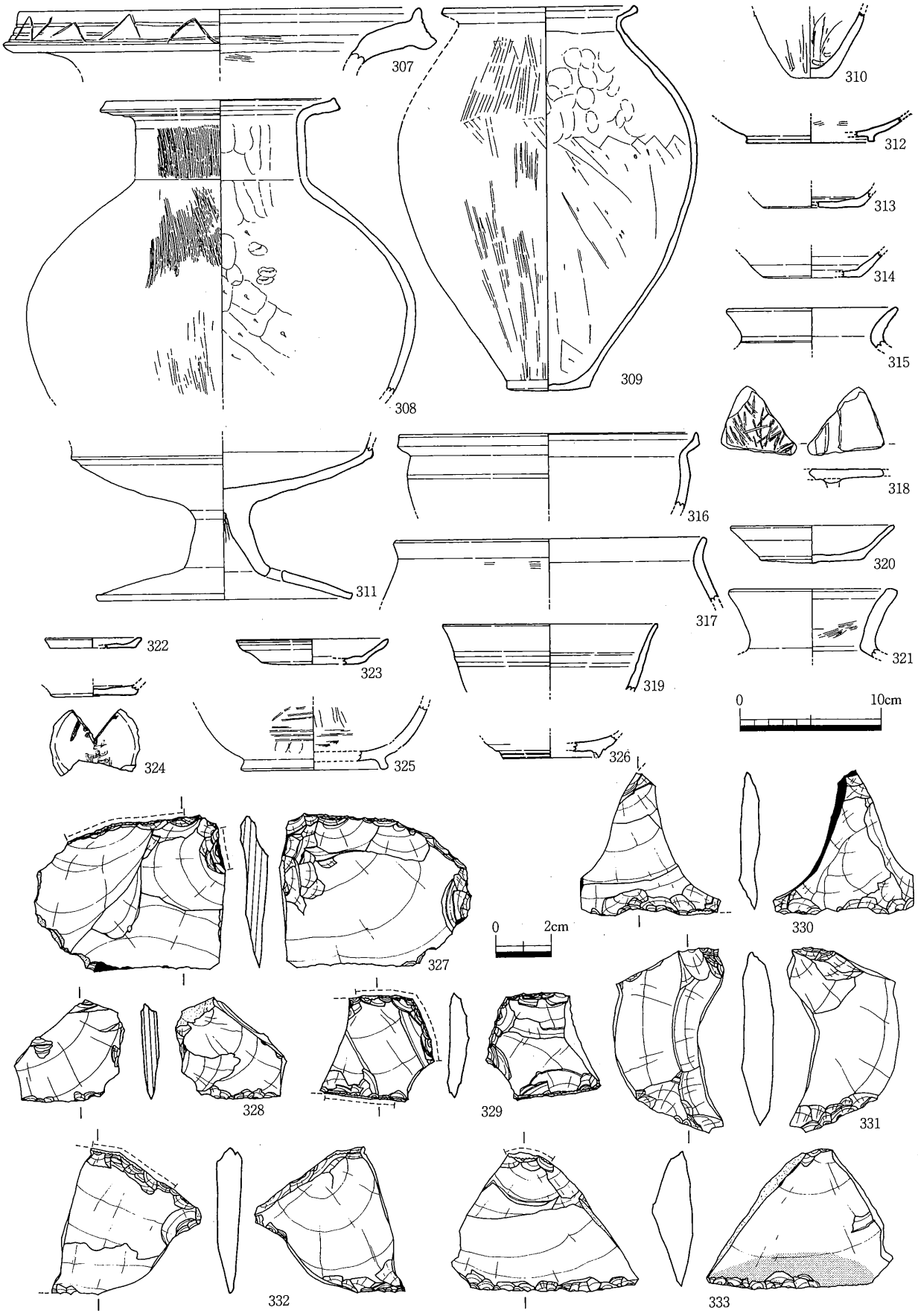
第43図　SR01(Ⅲ区)出土土器(4)(1/4)



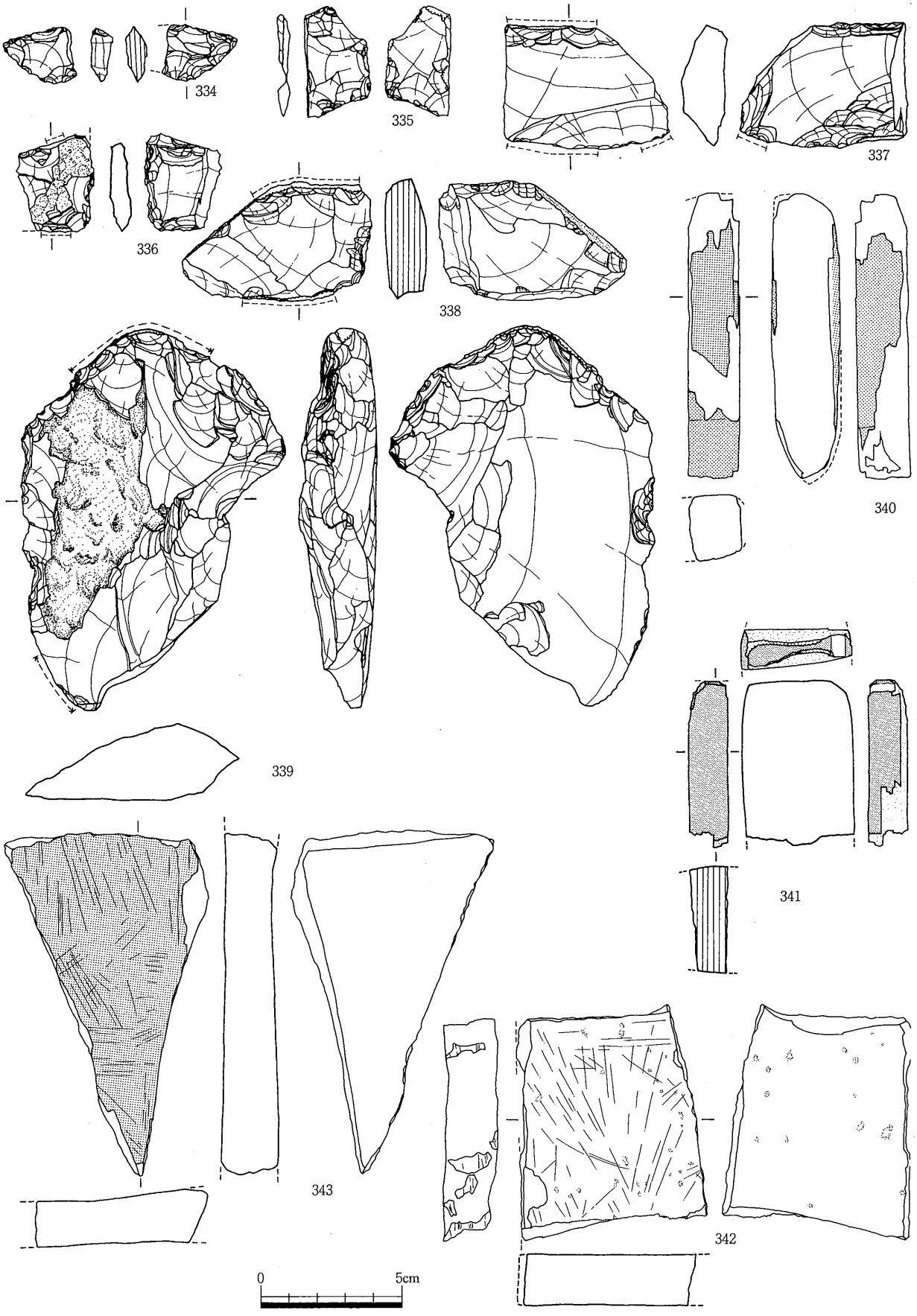
第44図　SR01(Ⅲ区)出土土器(5)(1/4)



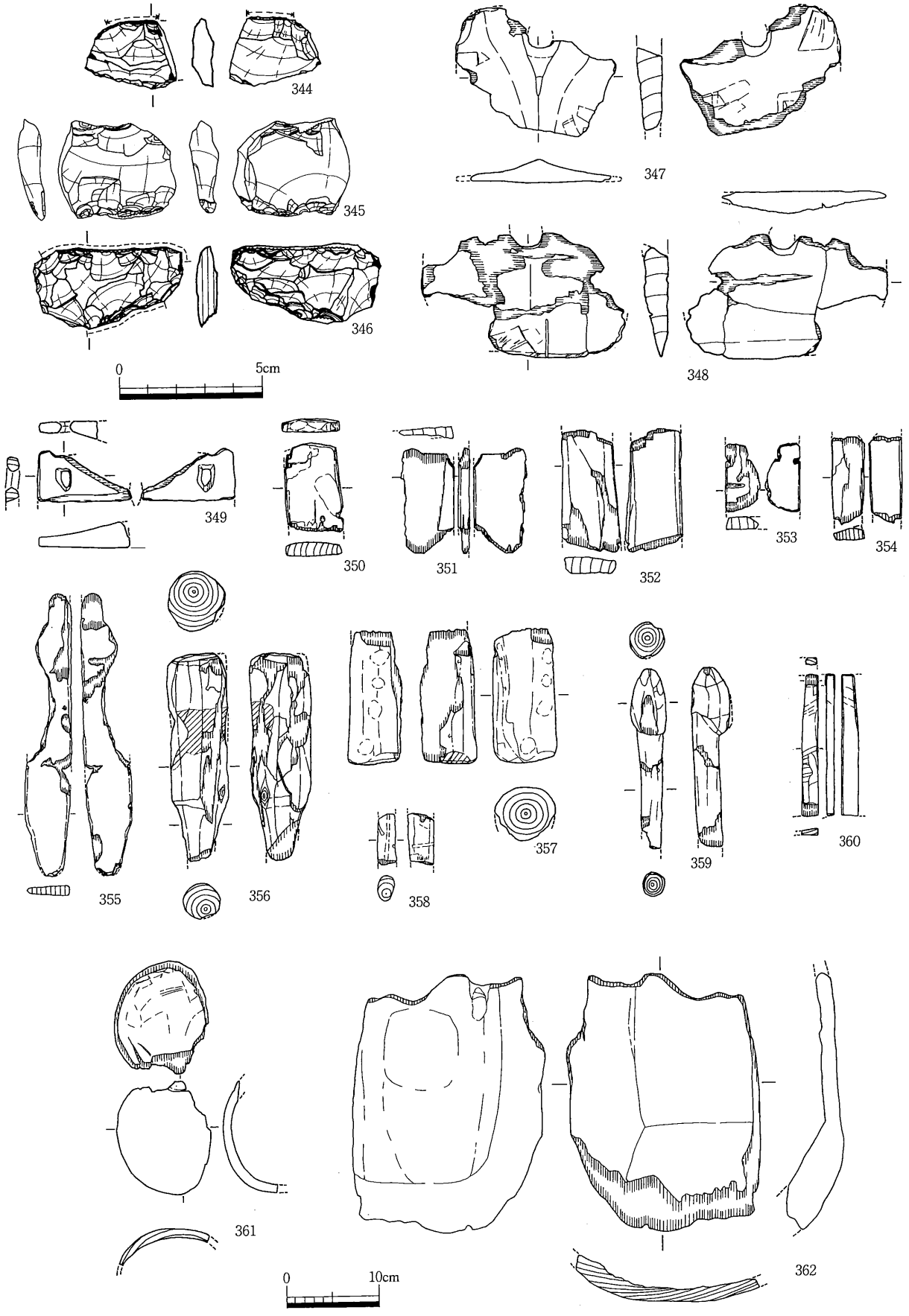
第45図　SR01(Ⅲ区)出土土器(6)(1/4)



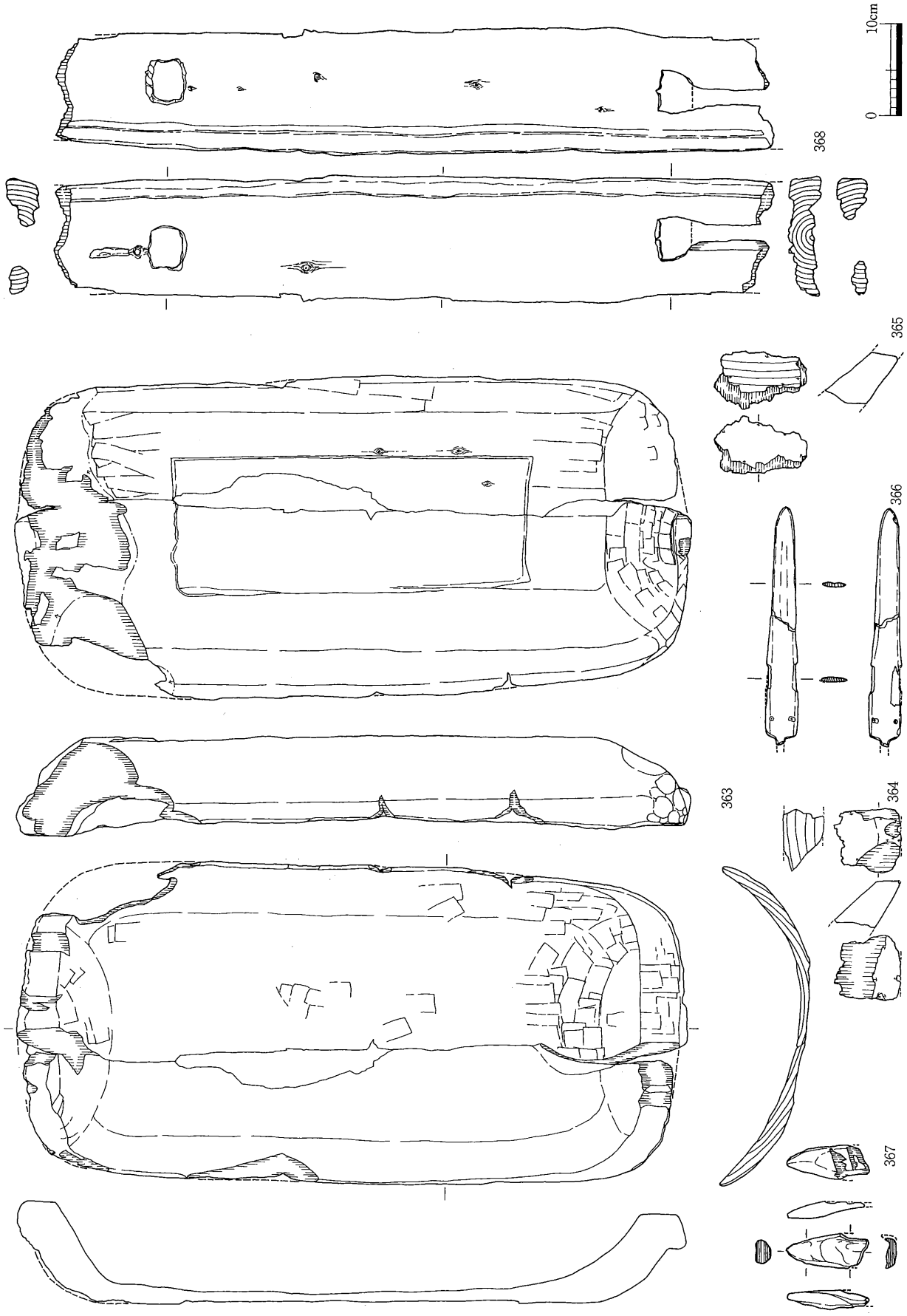
第46図　SR01(Ⅲ区)出土土器(7)(1/4)及び石器(1)(1/2)



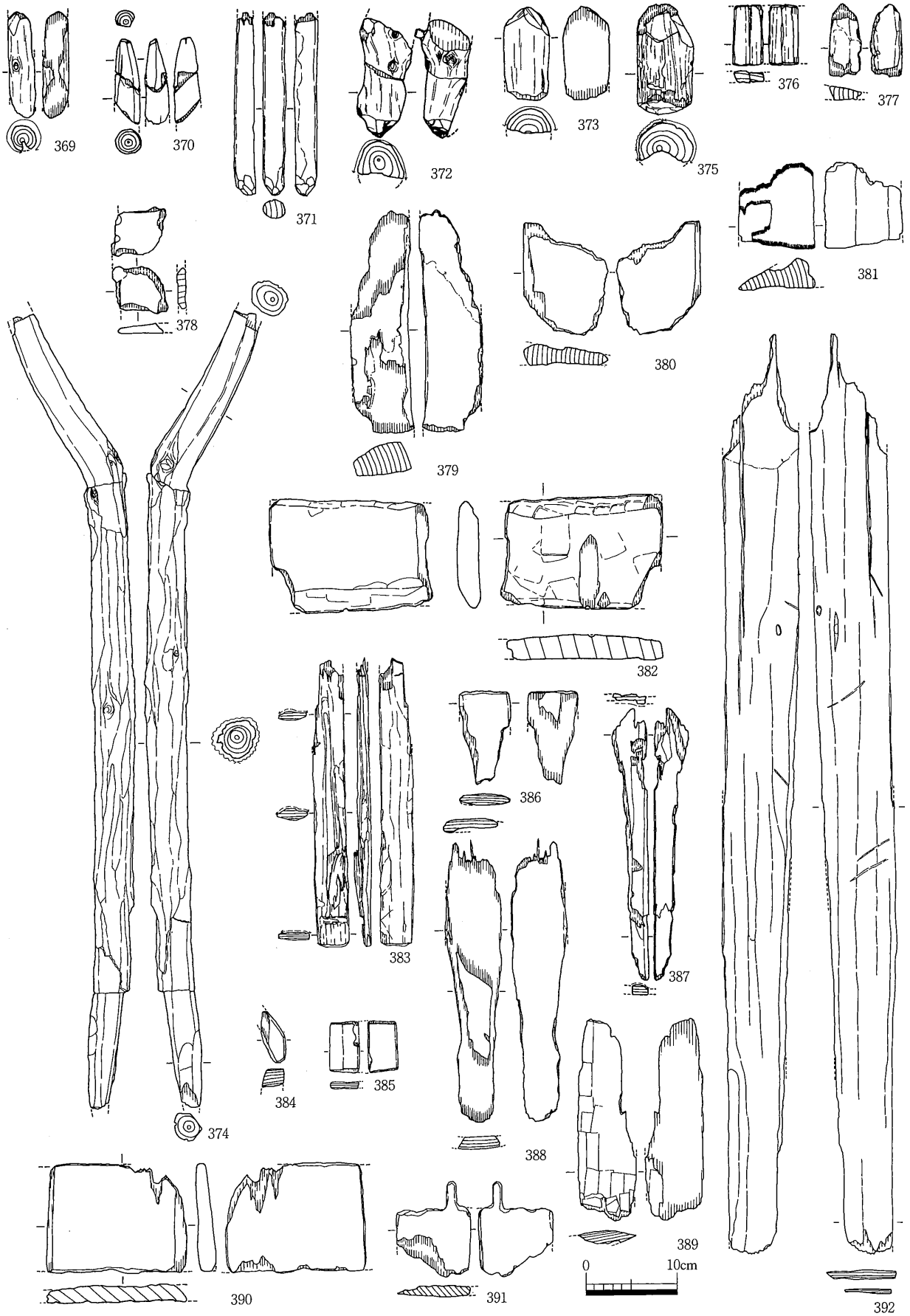
第47図　SR01(Ⅲ区)出土石器(2)(1/2)



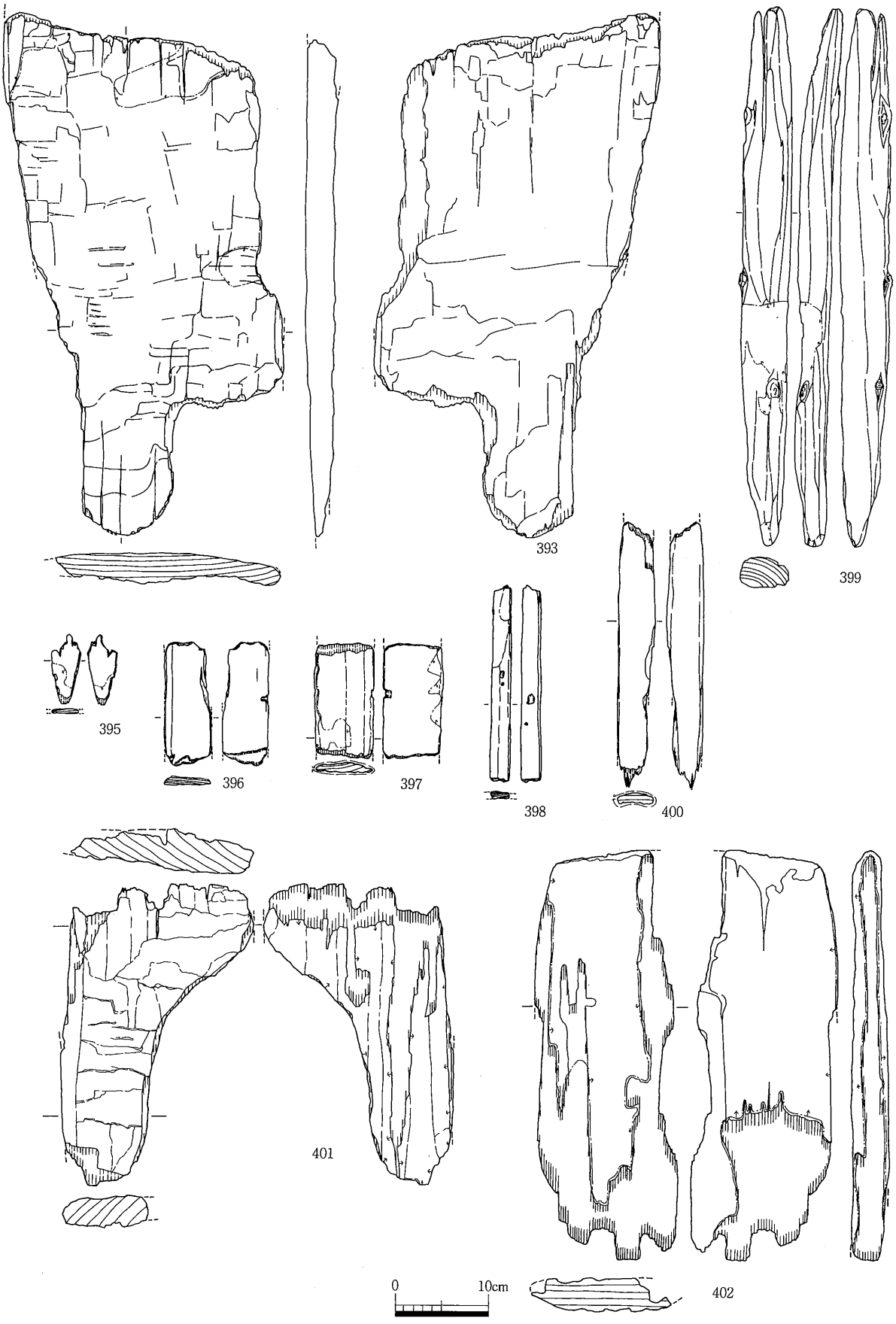
第48図　SR01(Ⅲ区)出土石器(3)(1/2)及び木器(1)(1/6)



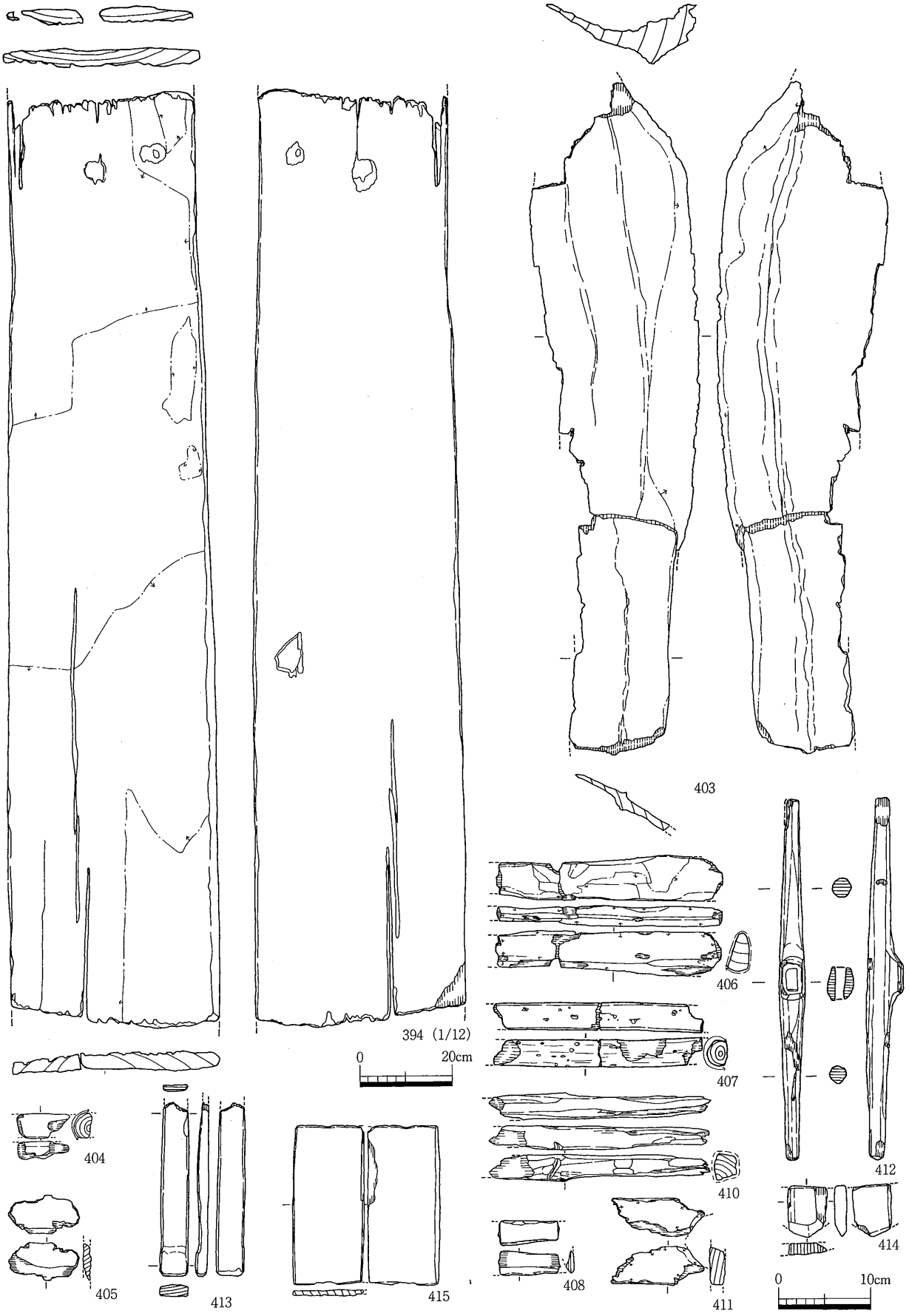
第49図　SR01(Ⅲ区)出土木器(2)(1/6)



第50図　SR01(Ⅲ区)出土木器(3)(1/6)



第51図　SR01（Ⅲ区）出土木器(4)(1/6)



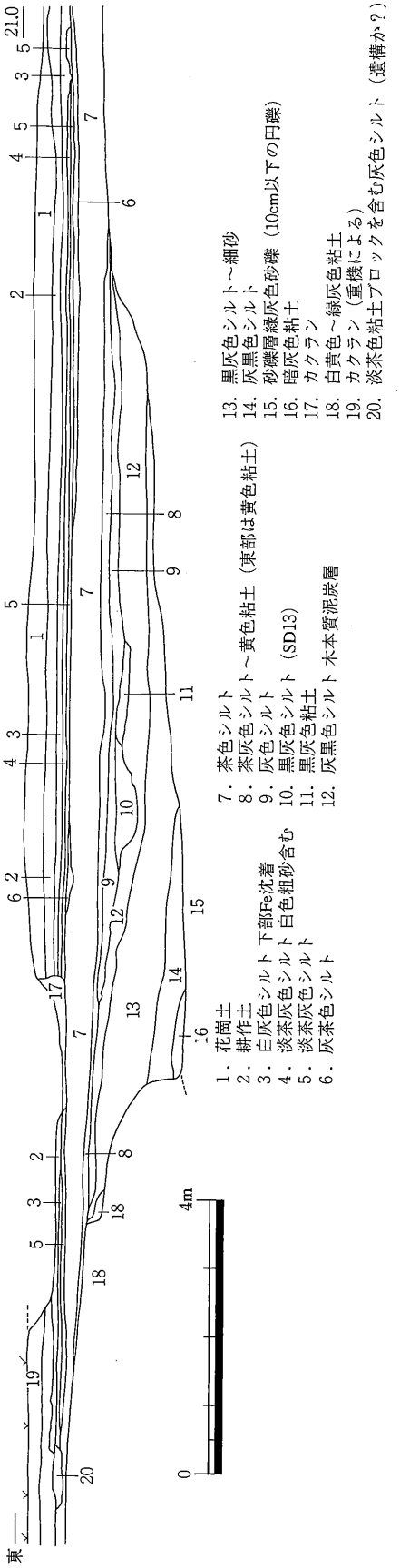
第52図　SR01(Ⅲ区)出土木器(5)(1/6,1/12)

性があり，アオキ材である。366はヒノキ材と考えられる銅剣形木製品である。中央部分に隆起はなく平板なつくりである。367はスギ材と考えられる舟形木製品である。368はヒノキ材の孔のある板材である。369～373は端部に加工のあるもので，いずれも広葉樹材である。374はツブラジイ材の杭である。375はコナラ材の両端加工の木器である。376～382はアカガシ材の加工木である。377・378は広鍬状木製品破片の可能性もある。379～381は割材である。木器の原材とすれば曲柄鍬先の原材である可能性がある。382は幹の軸に直交する方向に分割時の加工痕があり，原材を分割する際にできた残余の板材であろう。383～402はヒノキ材の加工木である。383は端部に溝状の刳り込みがある。391は突起のある板材であるが，この突起が人工的なものかどうかは，全体に磨滅しているので判断できない。394は長さ約２ｍ，幅約44㎝の大きな板材である。395～402はヒノキ材の割材である。403～410は広葉樹材の割材である。411は樹種不明の板材でああある。412はヒノキ材と考えられる柿の腕木であるが，出土位置が川底でなく，川岸の高い部分であることから，弥生時代ではなく後世のものと考えられる。413・414はＣ層あるいはＤ層から出土したヒノキ材と考えられ，部分的に加工が見られる。415はヒノキ材と考えられる板材である。

Ⅶ区（第53～79図）

第53図断面図の12～14・16層がＤ層である。８層がＣ層である。７層がＢ層である。５層がＡ層である。

416～749はＤ層から出土した土器である。416～419は弥生時代前期から中期初頭頃の土器と考えられる。418は６条櫛描文を数段にわたり施したものである。420～738は弥生時代中期中葉頃の土器である。420～584は壺である。ただし底部破片については甕との区別は明確ではない。585～647は甕である。648～659は鉢である。648～651は台の付く可能性も否定できないが，器形から台の無いものと考えられる。658・659については類例が当遺跡ではなく，時期も確実ではない。660～719は台付鉢である。680・681は細長い台であることから高杯の脚部の可能性がある。694は内面にヘラ削り調整がみられる。701・702は透かしのある台である。706・707は低い台の鉢であり，蓋の可能性もあるものある。703は台部内面にヘラ削り調整がある。708・709は穿孔が貫通しない。



第53図　SR01（Ⅶ区）断面図（1/100）

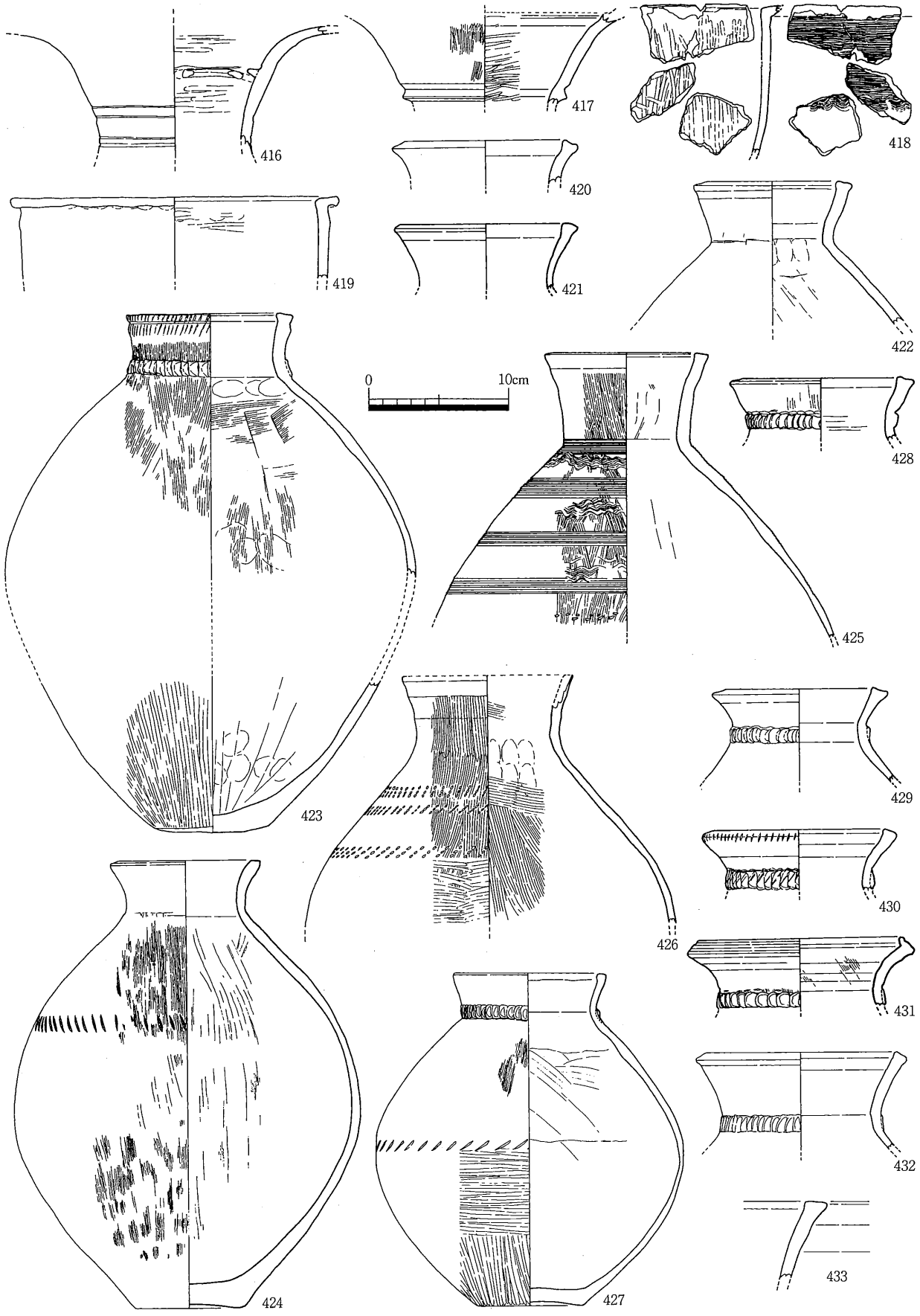
710は，体部と台部が直接は接合しないものの同一個体と考えられる。714～717は把手であるが，713のような器形につくものと考えられる。717は小型の台で，内面にヘラ削り調整がある。720～724は高杯である。723は脚部内面にヘラ削り調整がある。725は全形不明の土器である。726は小型の甕であろう。727～729は製塩土器である。730は土製紡錘車である。731～736は土器片利用の紡錘車である。穿孔の貫通していないものも多い。737は器形不明の棒状の土製品である。738は分銅形土製品である。文様等から同一個体であると考えられる。739～749はＤ層上部から出土した弥生時代後期の土器である。749は凹線の位置から脚部として図化したが，弥生時代中期後葉の高杯の可能性もある。750はＢ層から出土した中国産青磁椀である。751はＢ層上面で検出した東播系須恵器鉢である。752はＡ層から出土した白磁壺である。

753～779はＤ層から出土した石器である。753は石槍である。754～758は打製石庖丁である。759～765はスクレイパーである。766～775は楔形石器である。776は石核と考えられる。777～779は磨滅のある石器で，777は流紋岩製，778・779は砂岩製である。

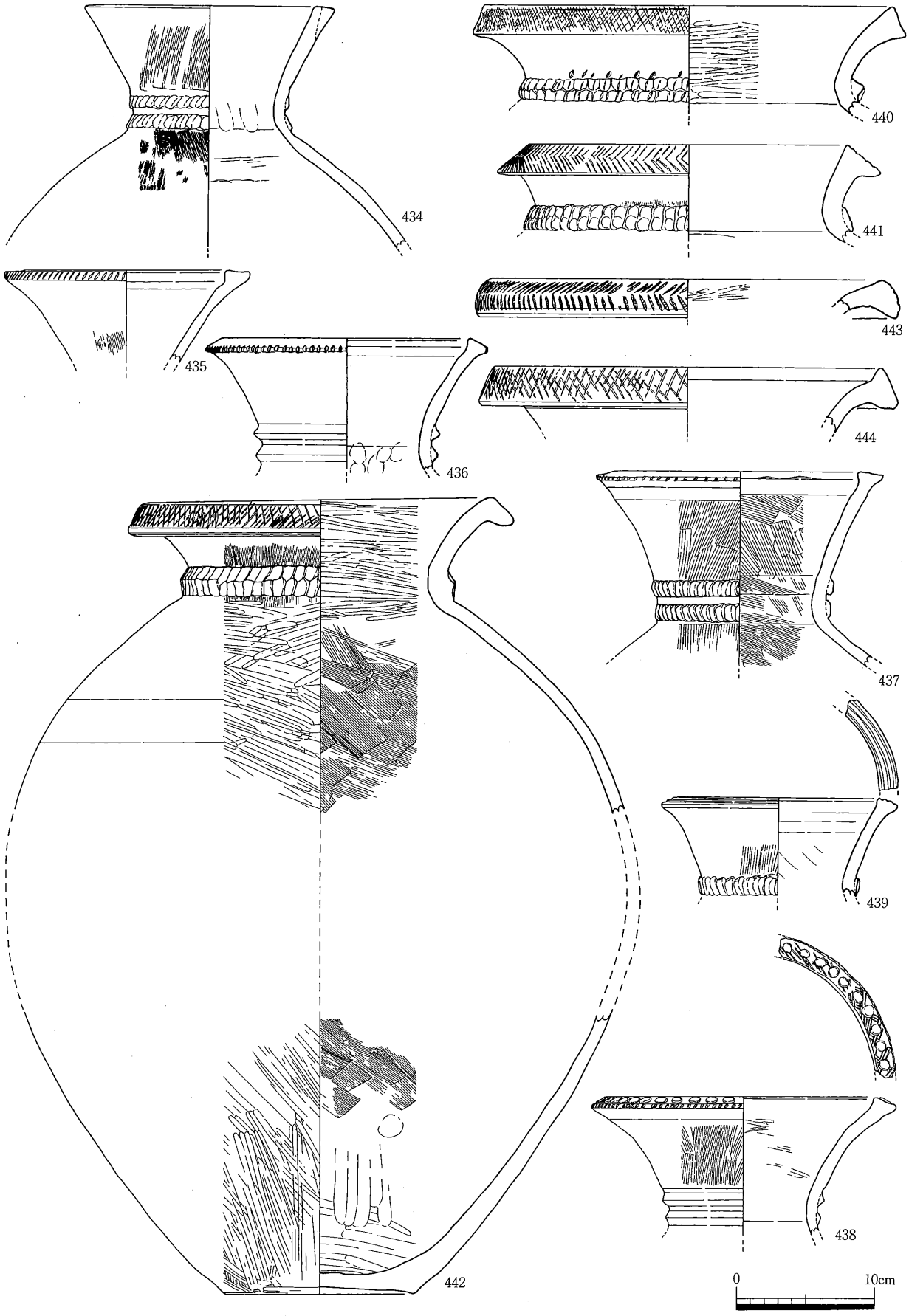
780～903はＤ層から出土した木器である*1。780～783はアカガシ材の広鍬状木製品である。784・785はアカガシ材で，広鍬状木製品の未製品と考えられる。786は広葉樹材の曲柄鍬先である。787はアカガシ材で曲柄又鍬刃部と考えられる。788は広葉樹材の又鍬状の木製品である。789はヤブツバキ材の竪杵である。先端に磨滅が見られる。790はクスノキ材の竪杓子の把手部分と考えられる。791はヤマグワ材の杓子と考えられる。792はヤマグワ材の片口台付皿である。793はクスノキ材で，合子の破片と考えられる。794～798は梯子である。スダジイあるいはツブラジイ材である。799はヒノキ材の剣形木製品である。800はヒノキ材の不明木器である。801～804はクスノキ材と考えられる大型横槌状の木器である。ほぼ同じ場所から出土した。把手部分が角柱になっているので，単純に横槌と考えるのは問題であろう。なお，確実な使用痕は認められない。805はヒサカキ材で，片側は杭状に削りだしており，鍬等の柄を転用したものではないかと考えられる。806・807は広葉樹材の杭である。808は広葉樹材で，先端にやや複雑な加工がある。809はクヌギ材で，有頭の角柱である。鉄器による加工が見られる。810は針葉樹材の有頭棒である。811は樹種不明の円盤状木器である。812はサカキ材の有頭棒である。813はヒノキ材と考えられる加工木で，鉄器により加工が見られる。814はクヌギ材と考えられる杭状の木器である。815～824はアカガシ材である。815～820は鍬等の破片の可能性がある。821・822は両端に分割時の加工面があり，割材の原材を分割した際の残余部分と考えられる。823は先端が尖っているが，これも分割時の加工面と考えることも可能である。824は両端に分割時の加工面がのこる割材と考えられる。825～831は広葉樹環孔材で広放射状組織を持つ材で，825～828は部分的に加工を持つものである。827・828は長い芯持ち材で柱材の可能性が考えられよう。829～831は加工面の無い割材である。832～834は広葉樹材の曲柄鍬の可能性がある。835は広葉樹材の先端加工木である。836は広葉樹材で両端加工のあるものである。837～844は広葉樹材で部分的に加工のあるものである。845は広葉樹材で加工痕の無い割材である。846～900はヒノキ材と考えられる。846～858は孔を持つ板材で長さで分けると３群に分かれる。組み合わせ材と考えられる。859・860は先端を尖らせたものである。861は側面に釘孔がある。862は表面を加工後，軸方向に分割して最後に軸に垂直な分割が行われている。863～884は部分的に加工面のあるものである。875は全面炭化している。885～900は加工面の無い割材である。901はスギ材の割材と考えられる。902・903はヒノキ材の鳥形及び馬形木製品と考えられるが，形態から後世のものの可能性が高い。

---

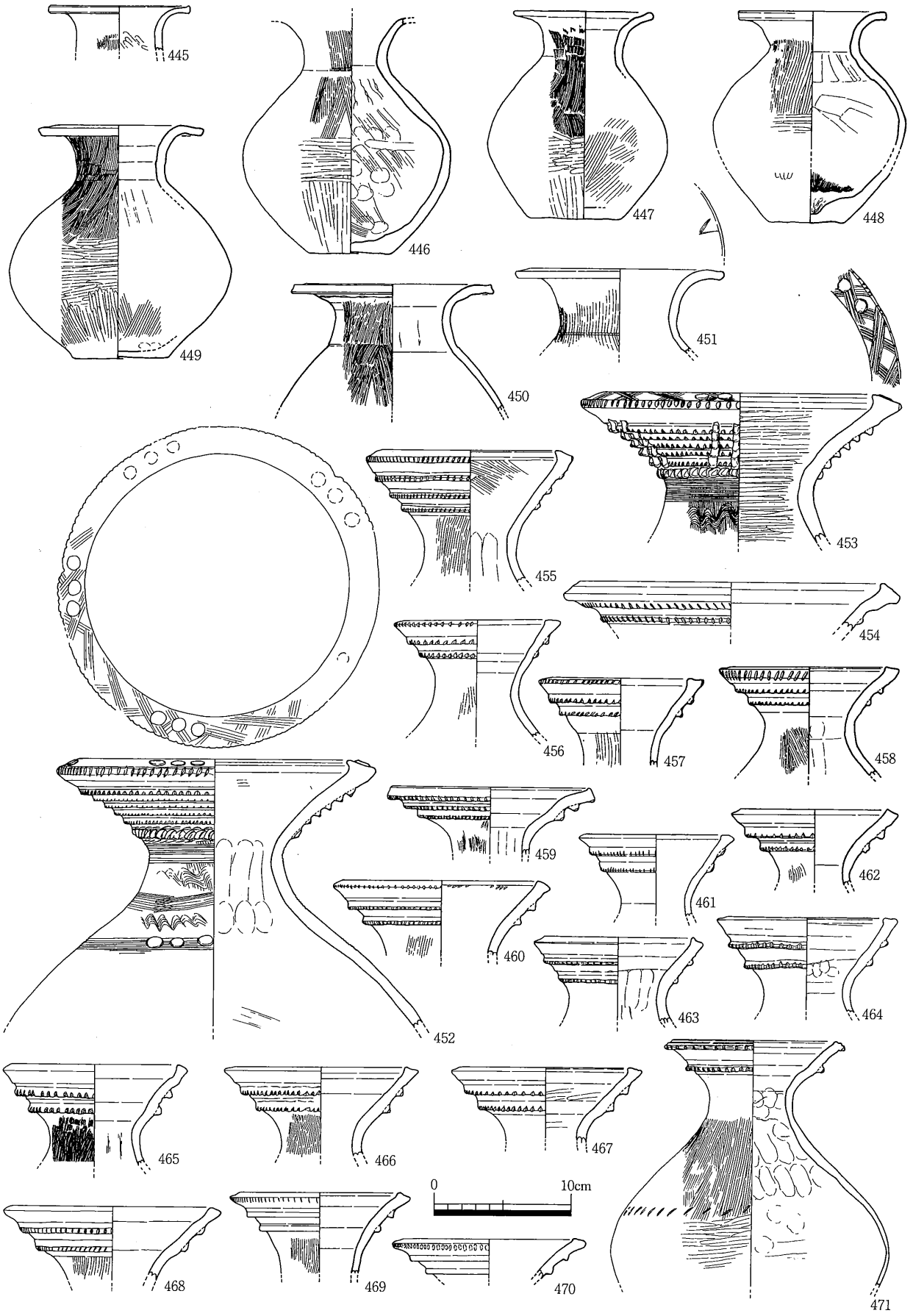
*1　編集時の手違いで，Ｘ区出土の遺物がレイアウトされている。807，831，849，868～871，873，875，887。



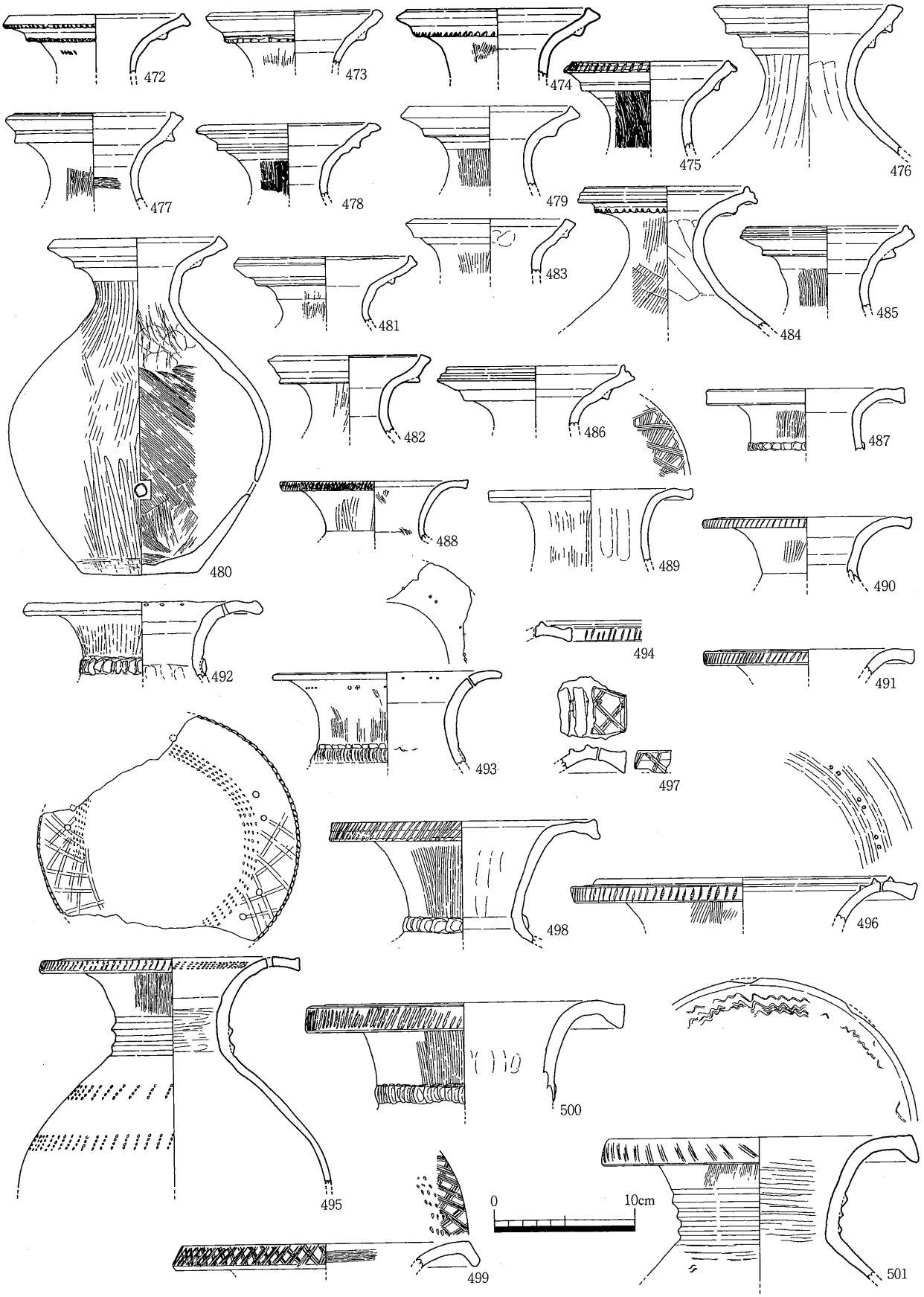
第54図　SR01(Ⅶ区)出土土器(1)(1/4)



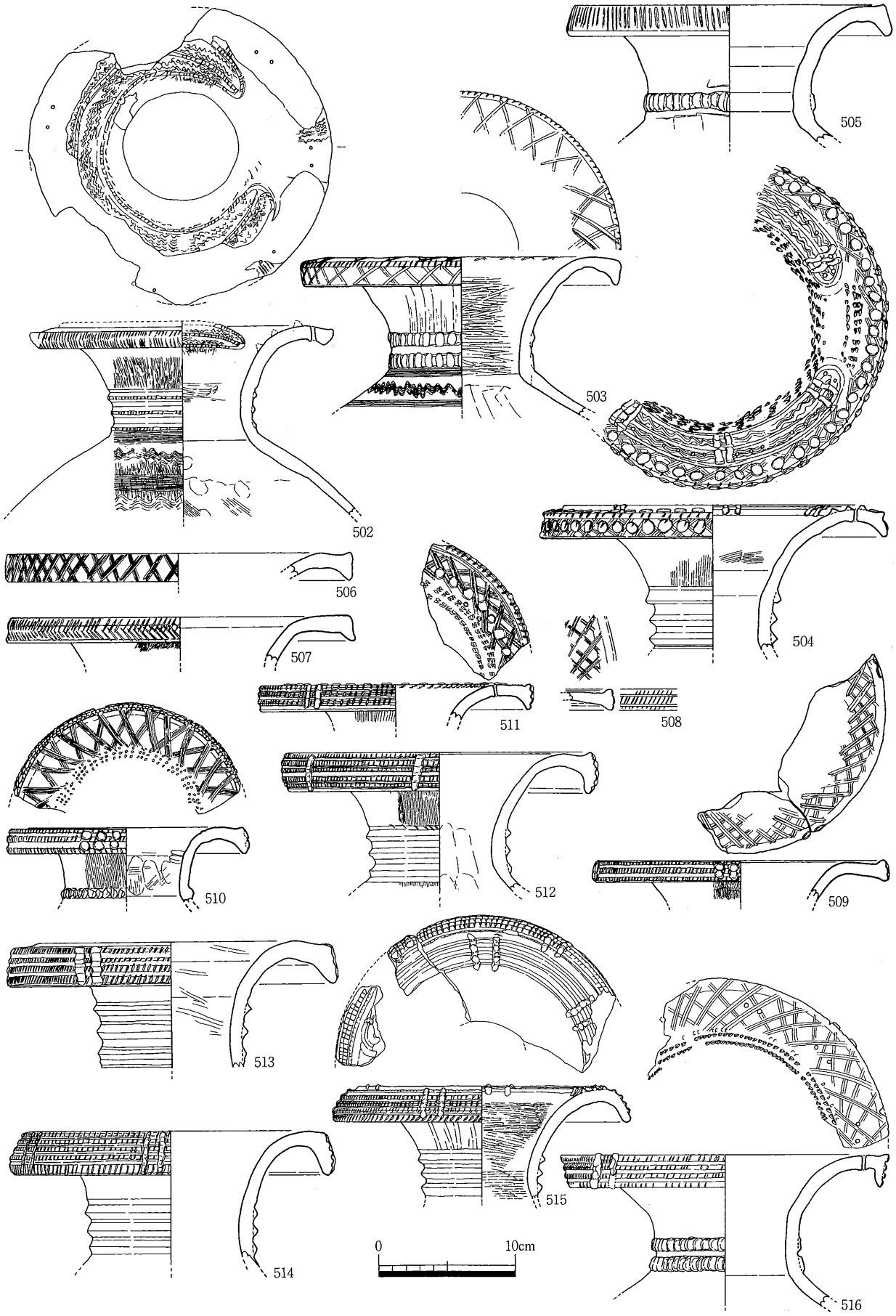
第55図　SR01(Ⅶ区)出土土器(2)(1/4)



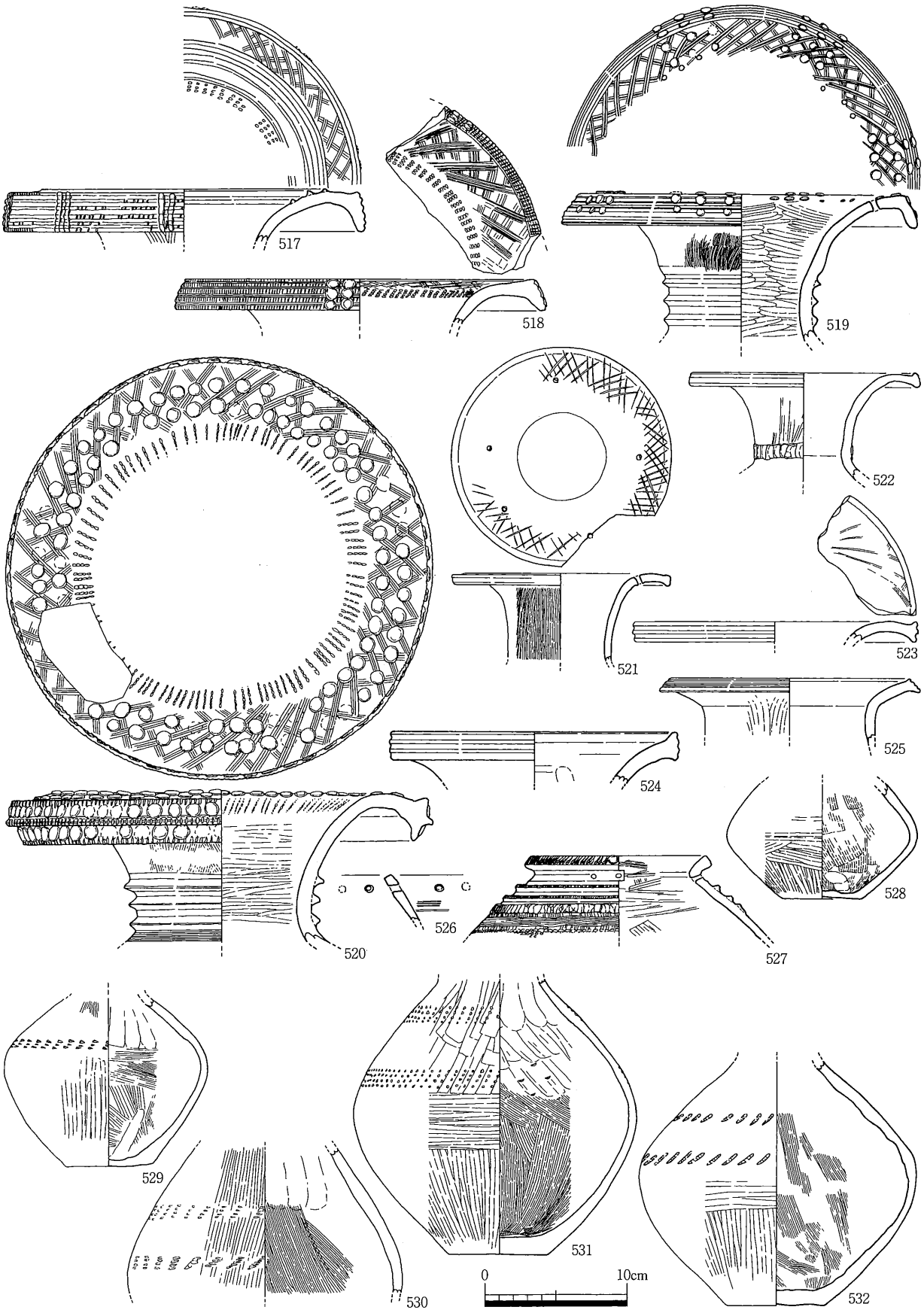
第56図　SR01(Ⅶ区)出土土器(3)(1/4)



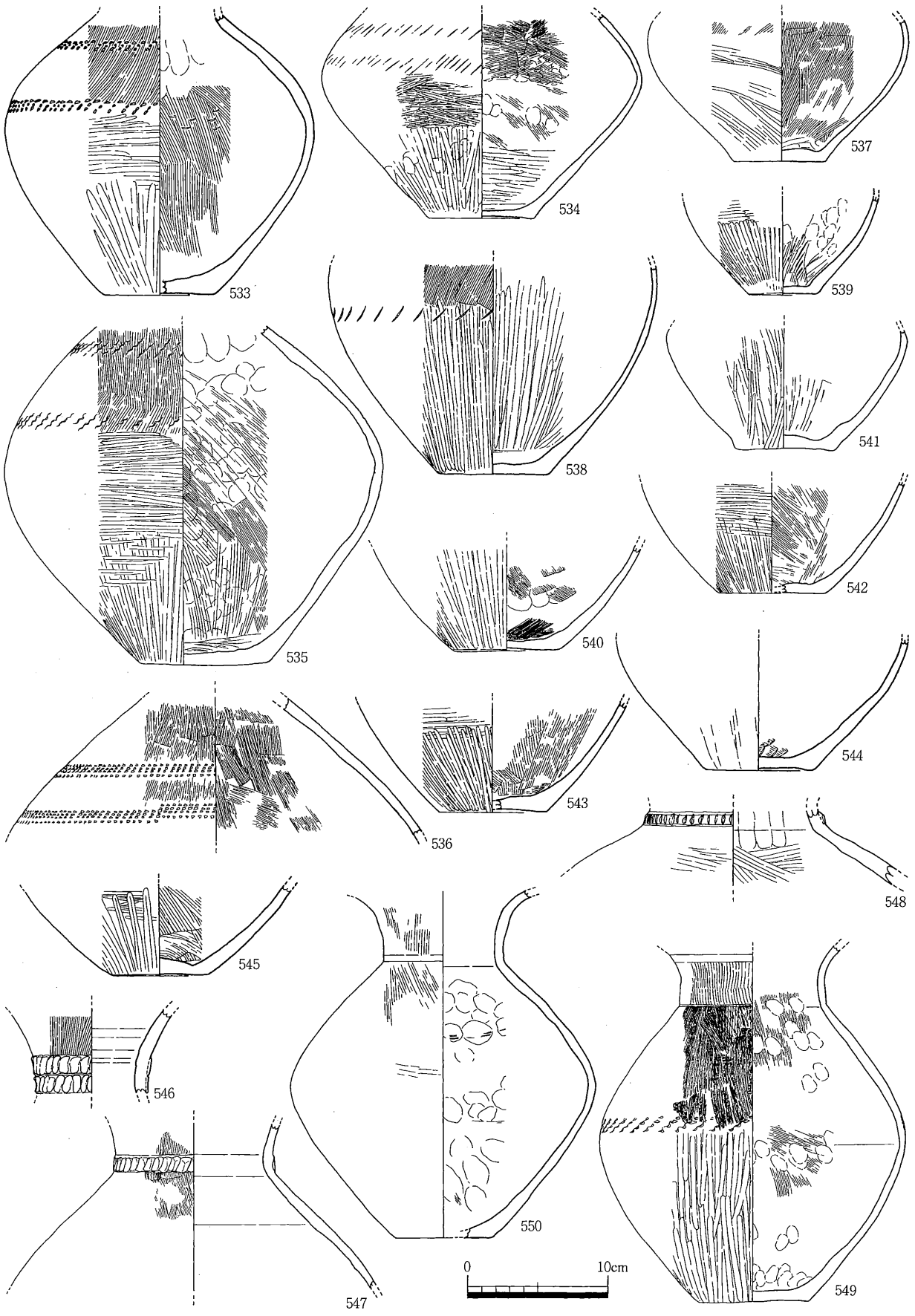
第57図　SR01(Ⅶ区)出土土器(4)(1/4)



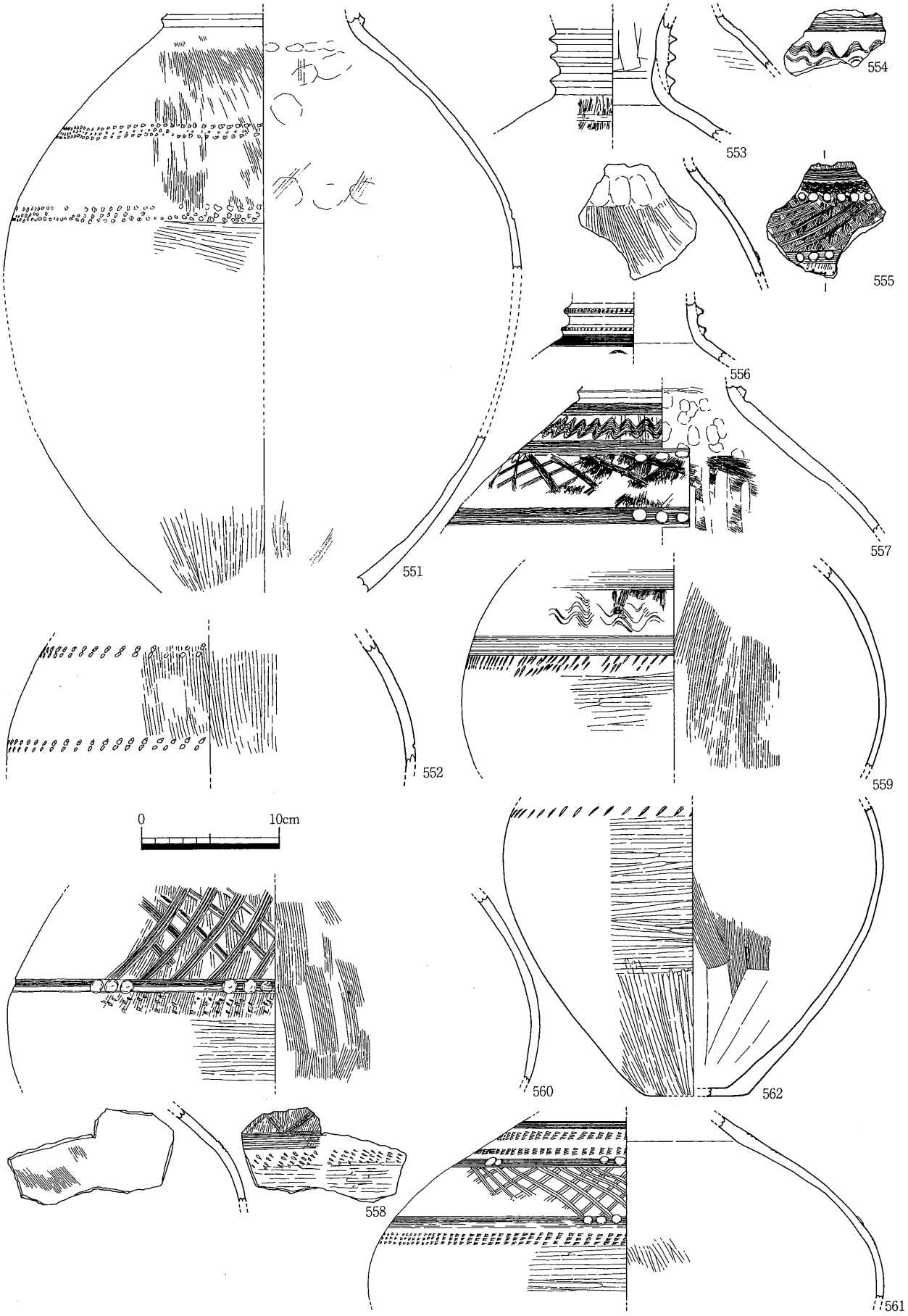
第58図　SR01(Ⅶ区)出土土器(5)(1/4)



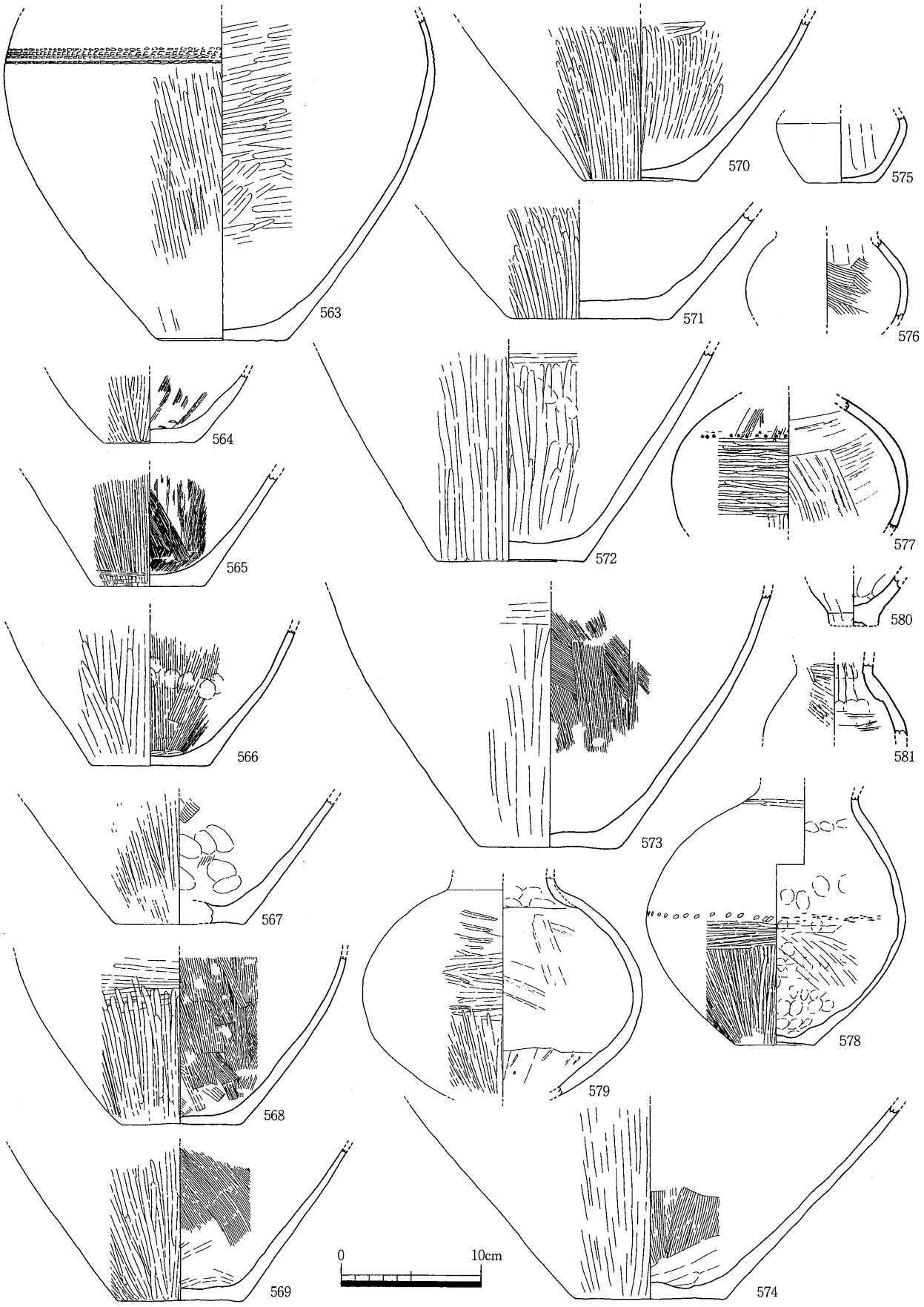
第59図　SR01(Ⅶ区)出土土器(6)(1/4)



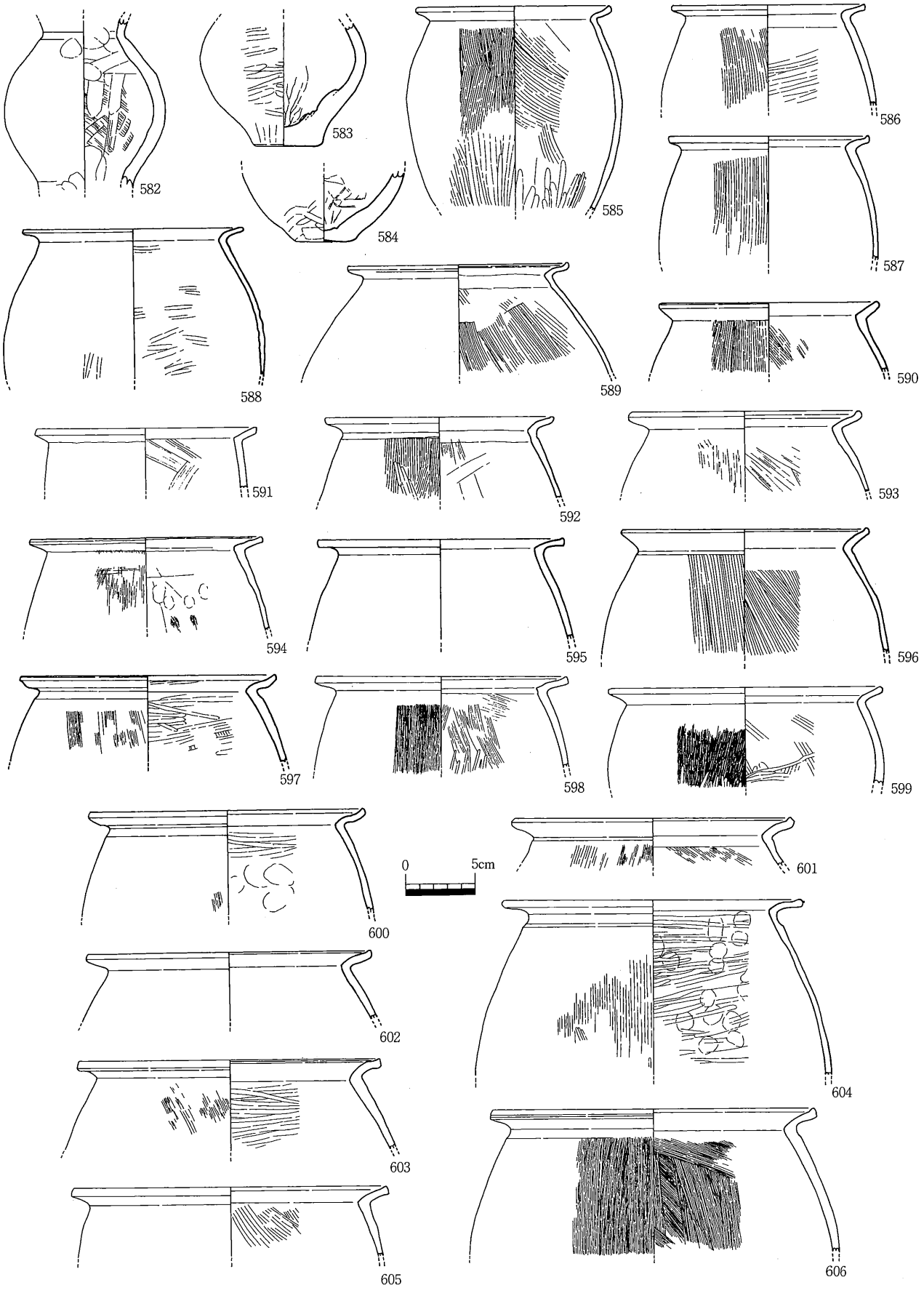
第60図　SR01(Ⅶ区)出土土器(7)(1/4)



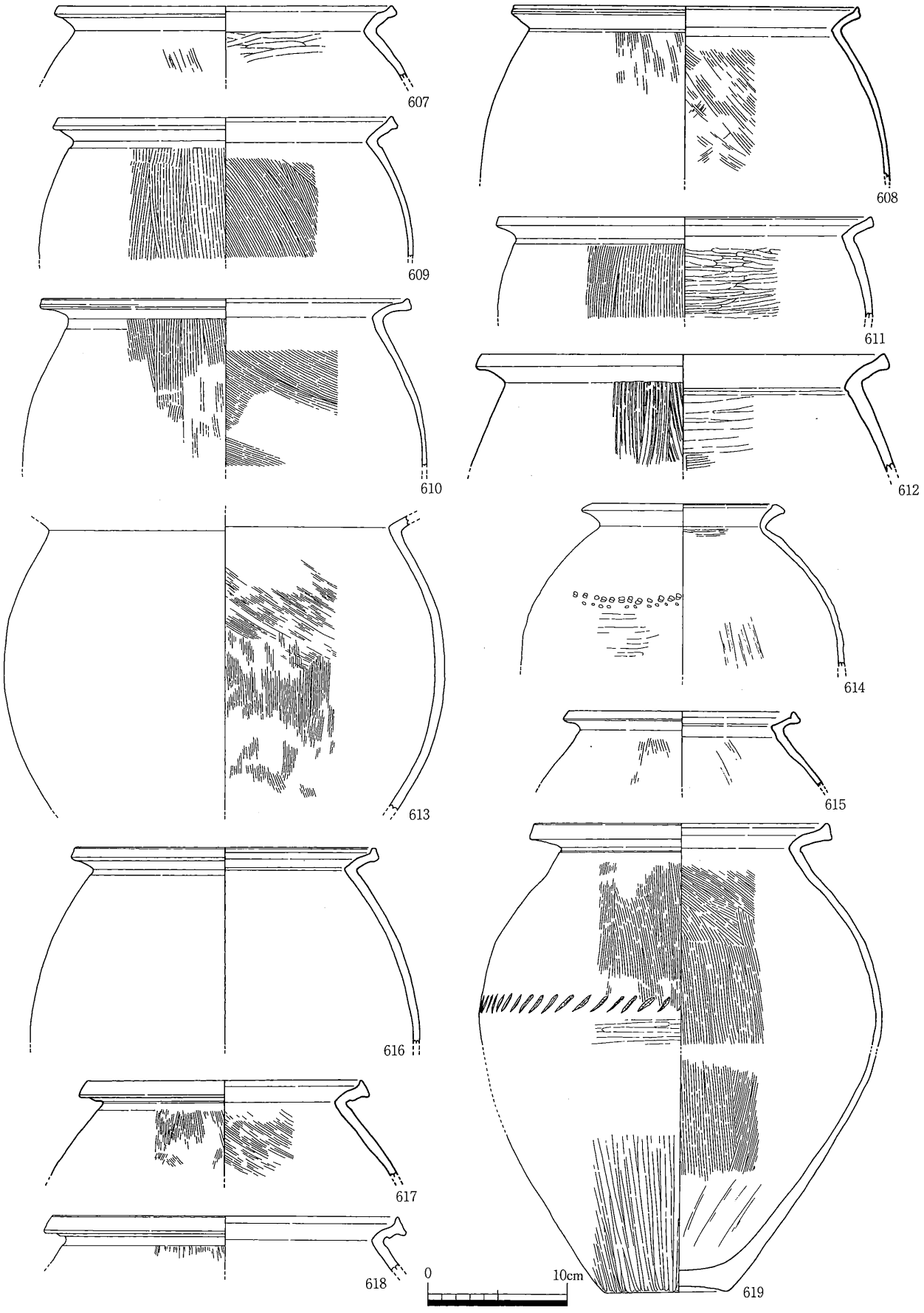
第61図　SR01(Ⅶ区)出土土器(8)(1/4)



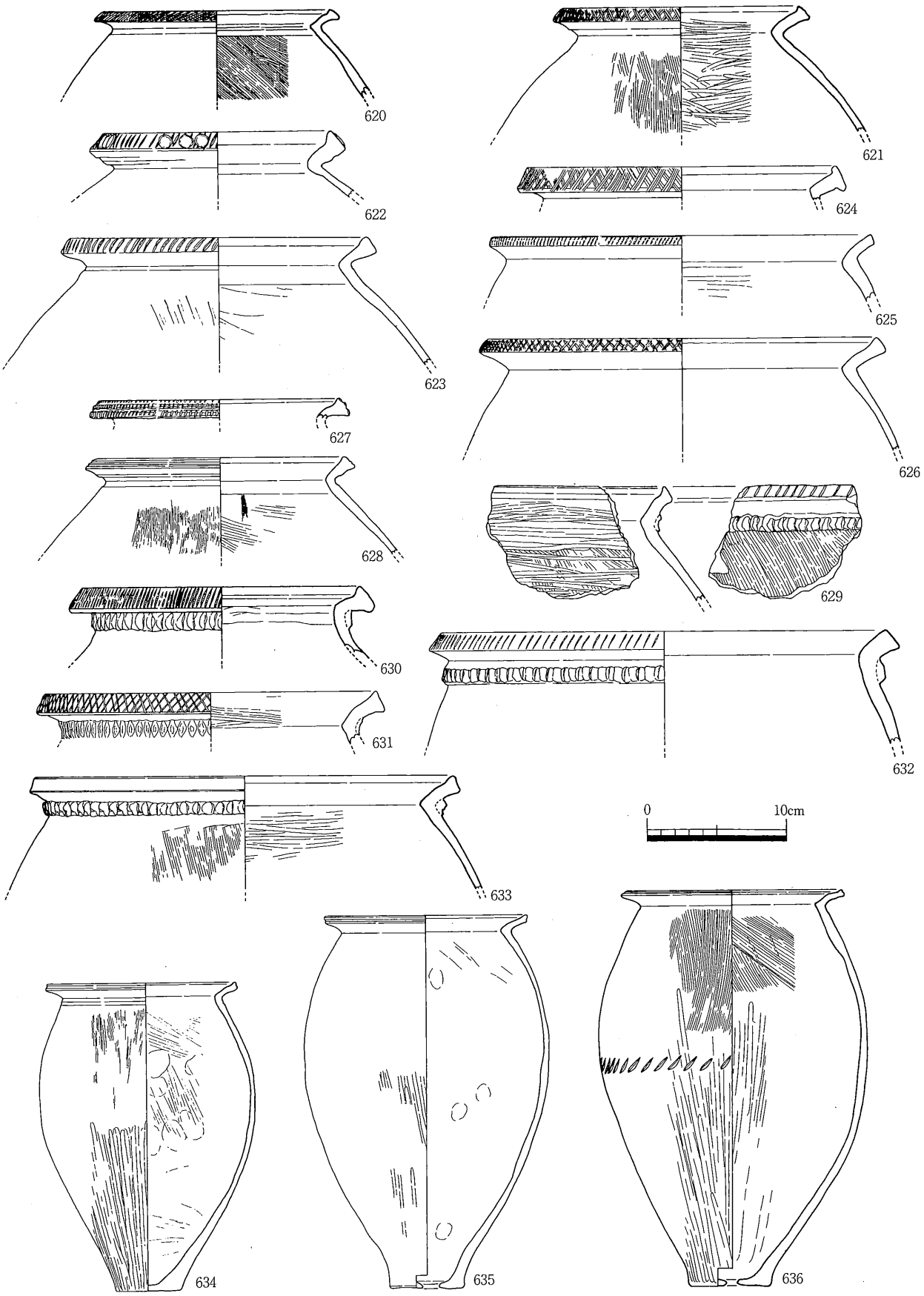
第62図　SR01(Ⅶ区)出土土器(9)(1/4)



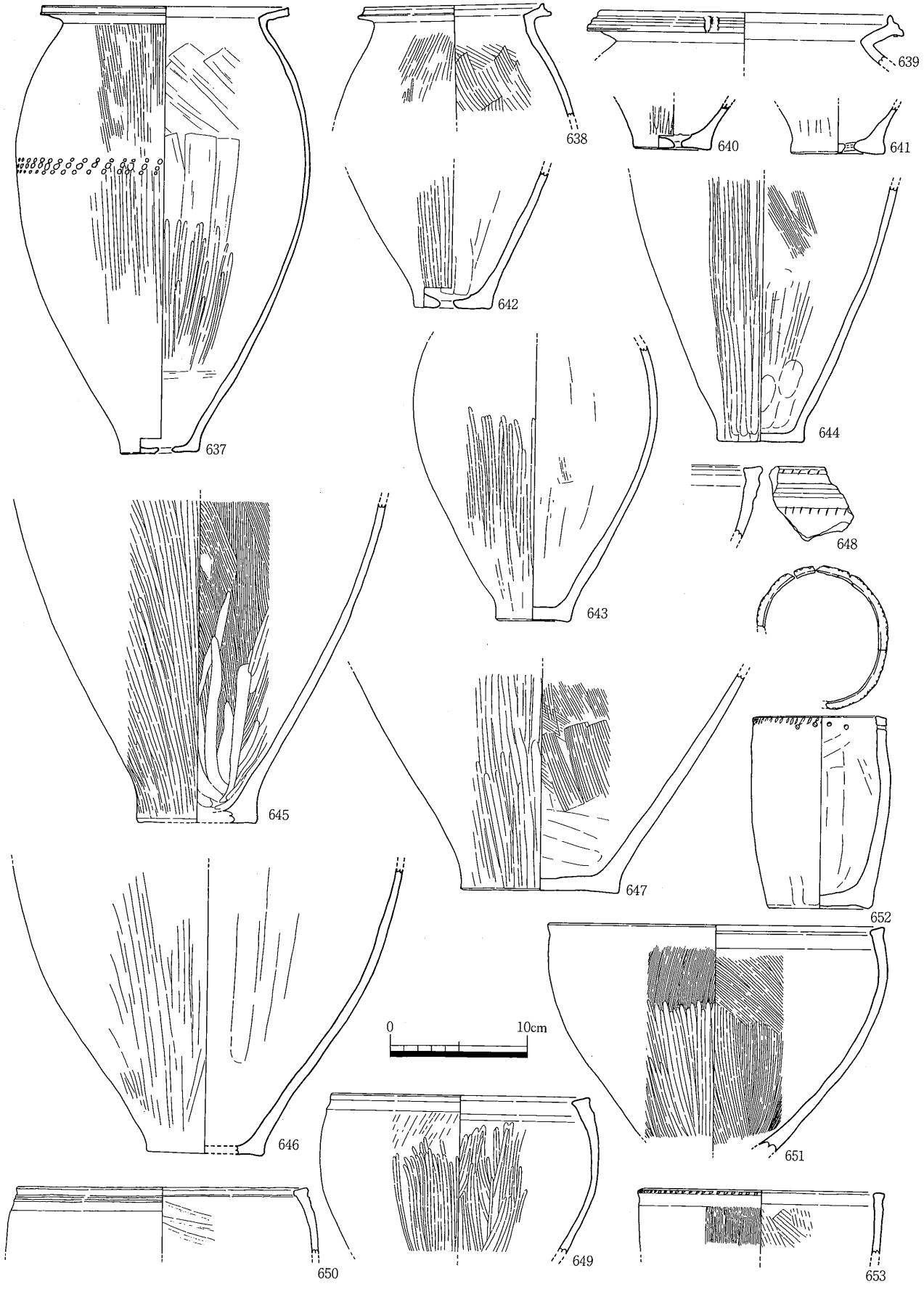
第63図　SR01（Ⅶ区）出土土器(10)（1/4）



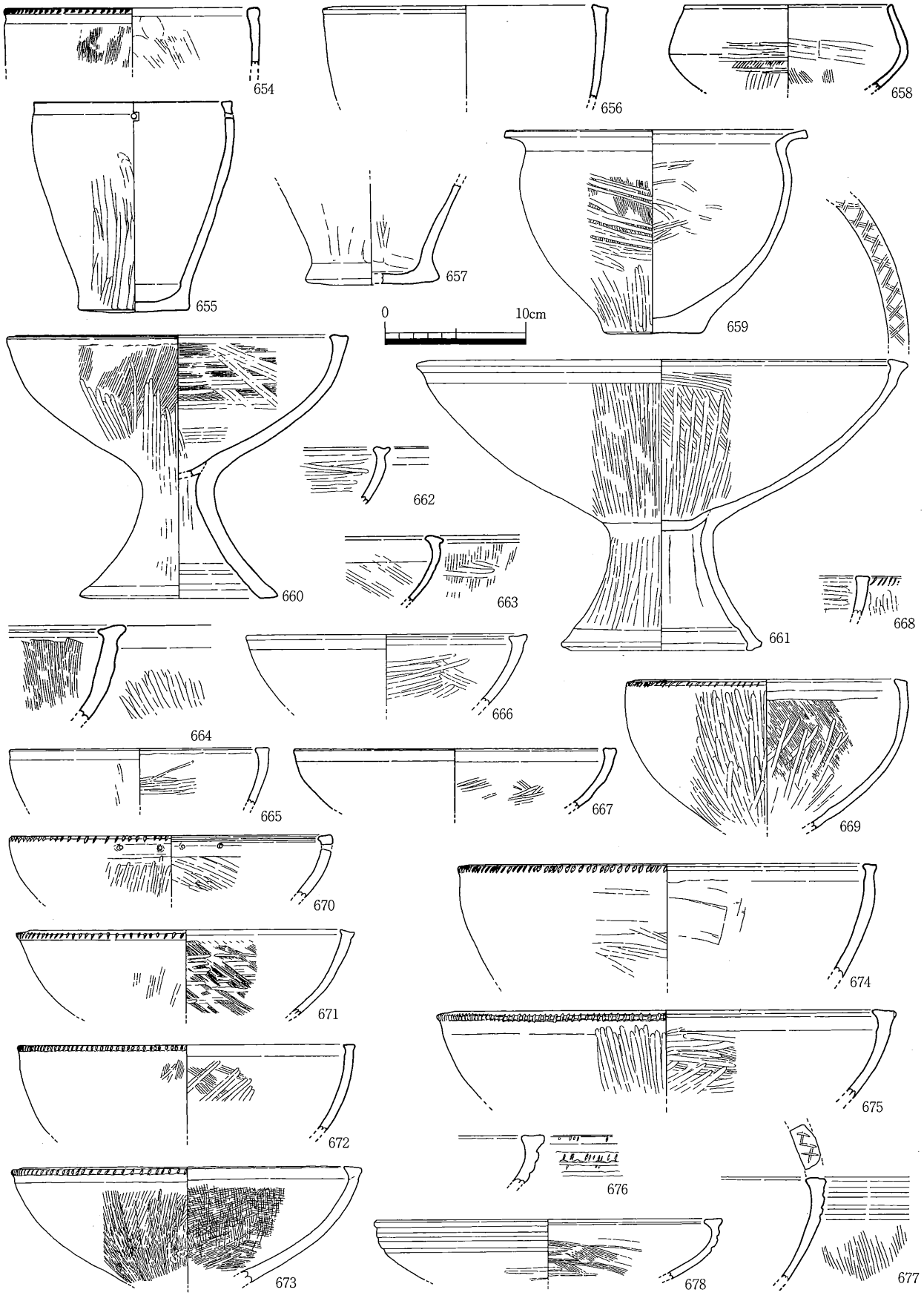
第64図　SR01(Ⅶ区)出土土器(11)(1/4)



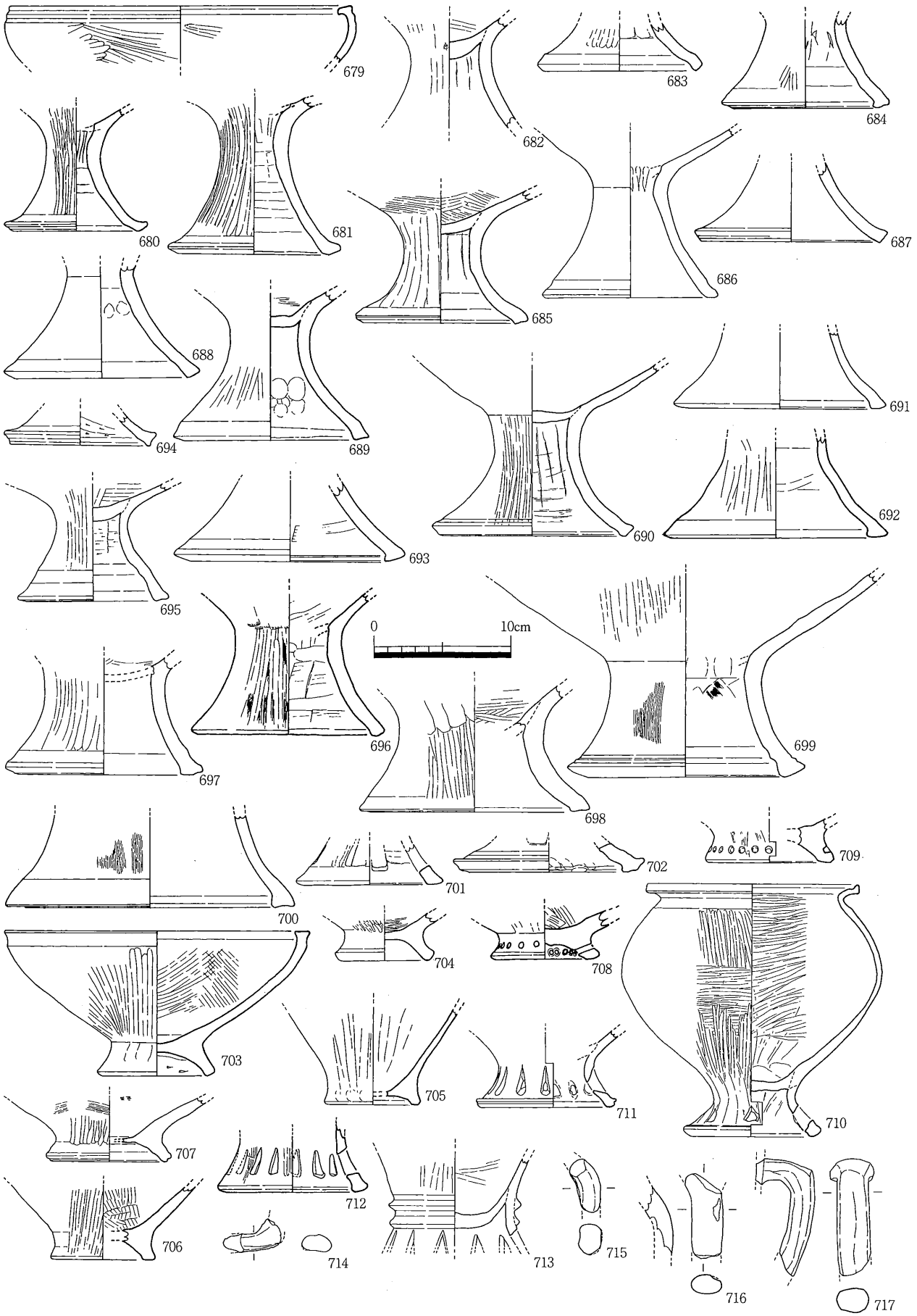
第65図　SR01（Ⅶ区）出土土器(12)（1/4）



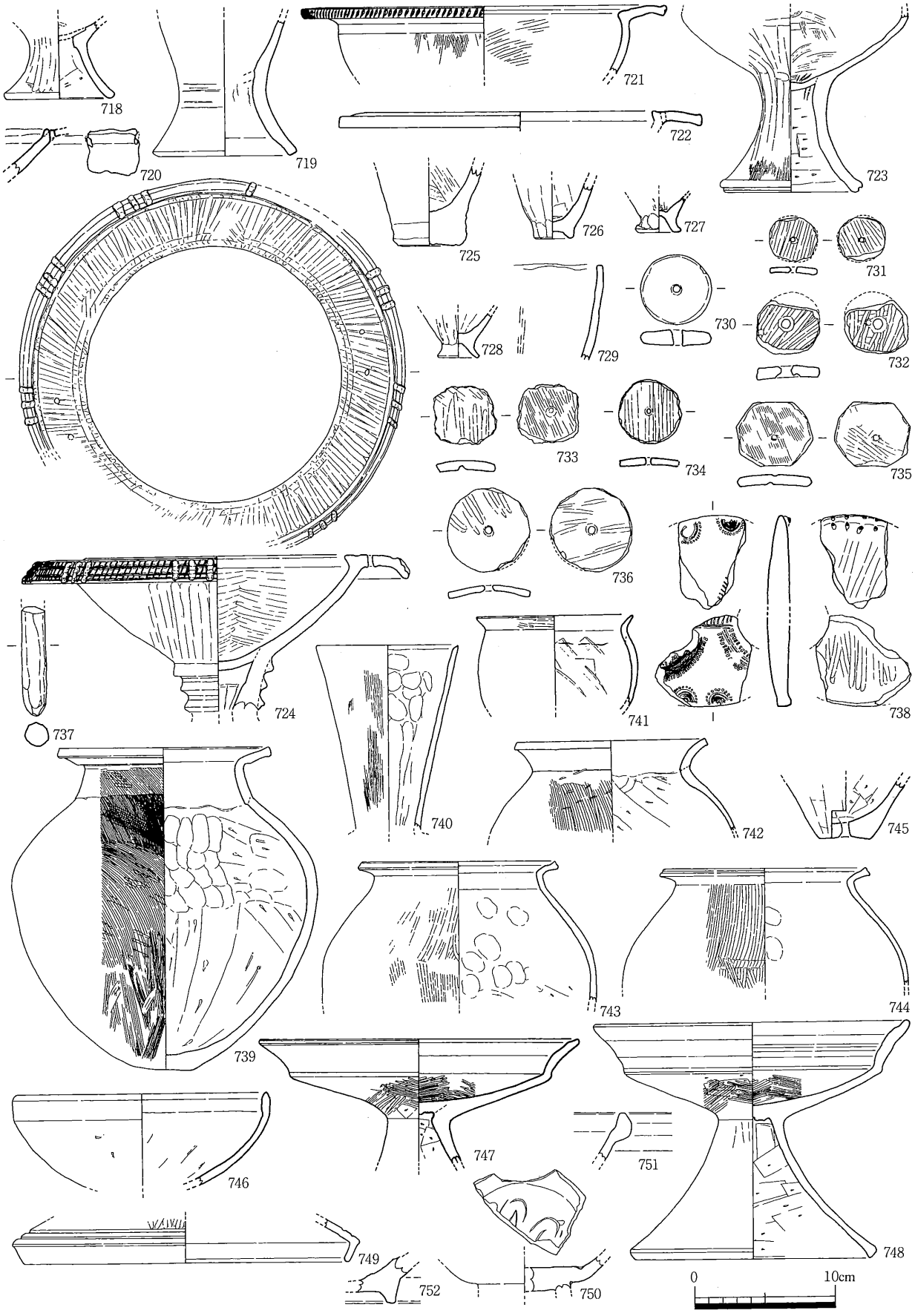
第66図　SR01(Ⅶ区)出土土器(13)(1/4)



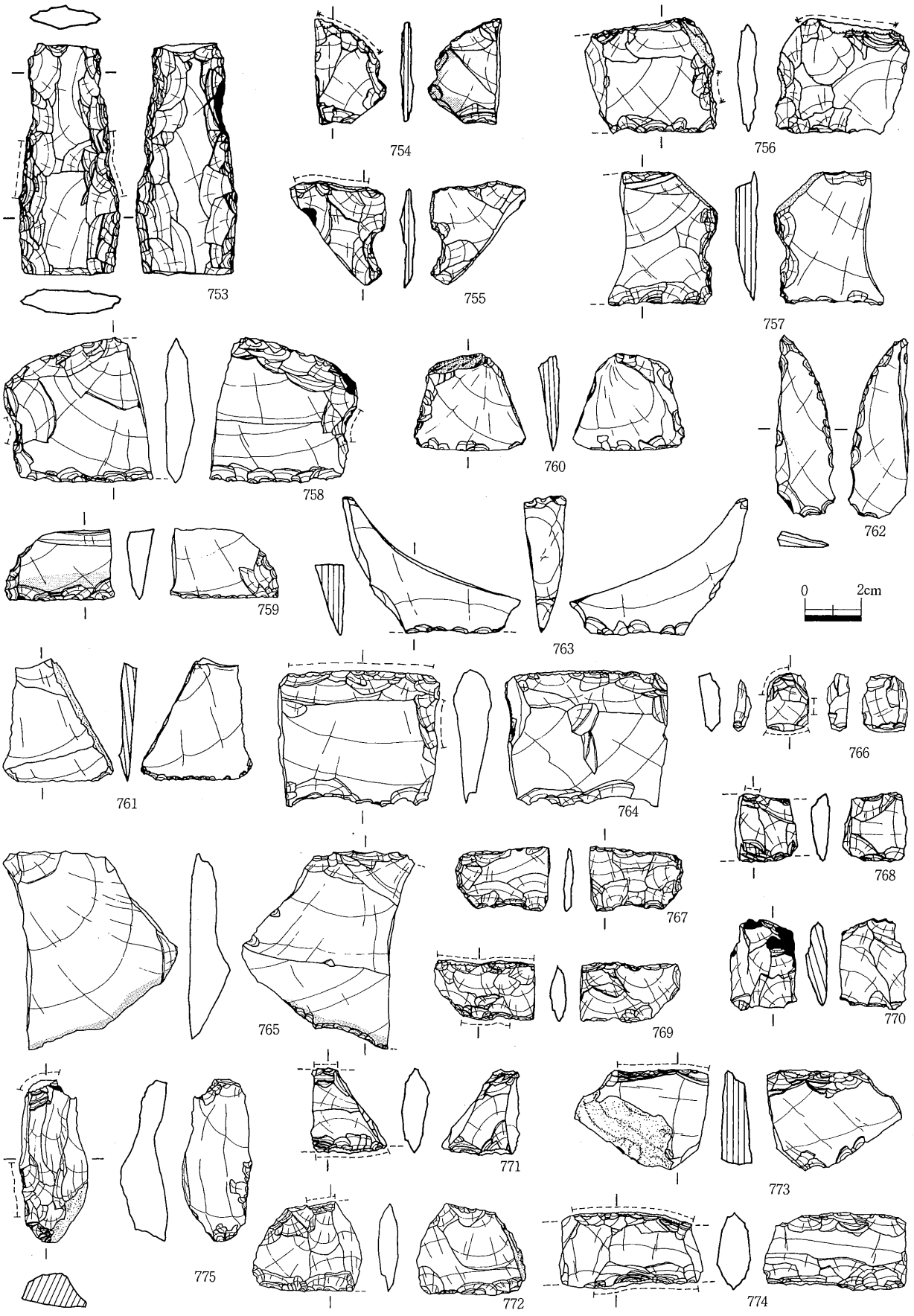
第67図　SR01（Ⅶ区）出土土器(14)（1/4）



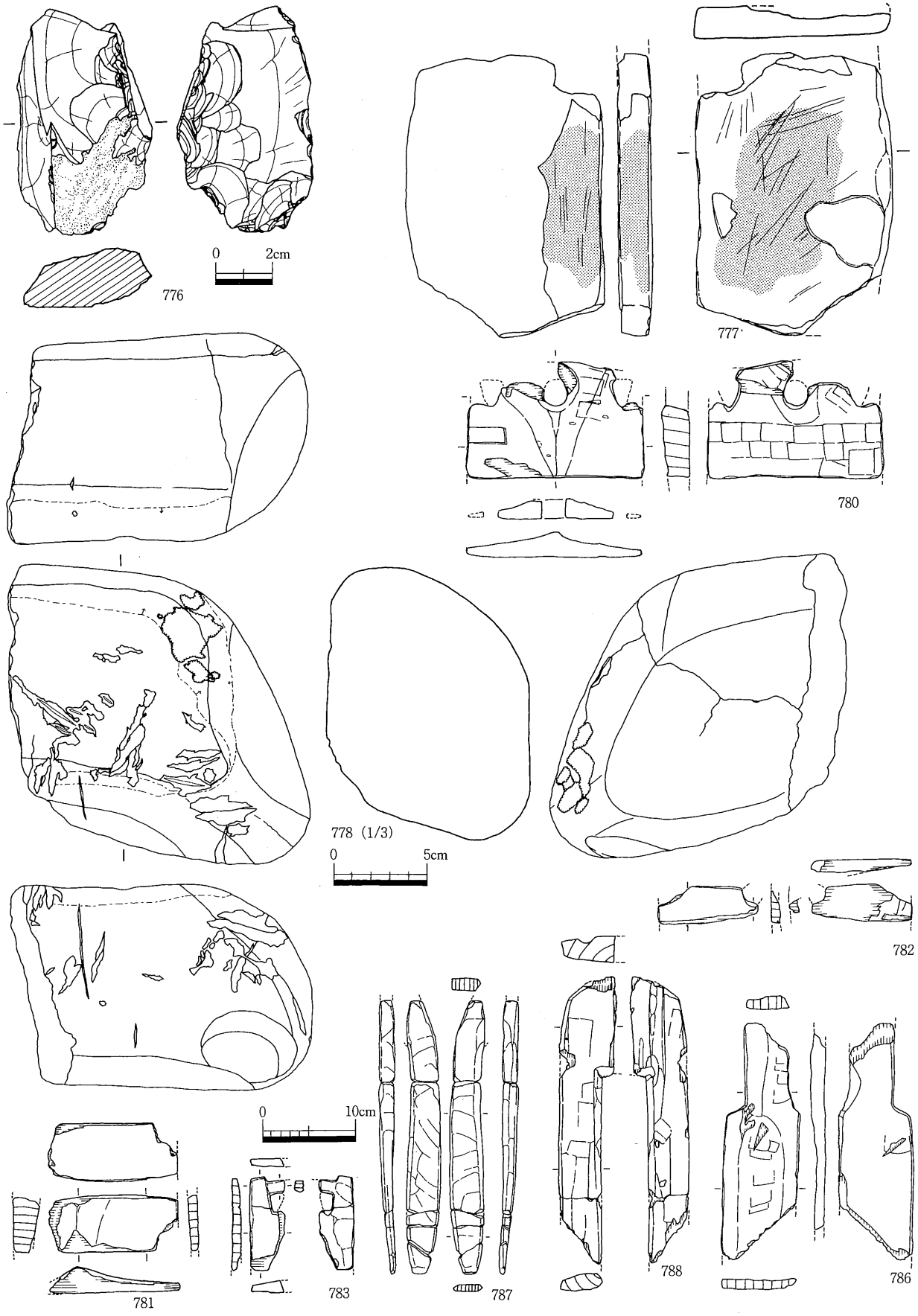
第68図　SR01(Ⅶ区)出土土器(15)(1/4)



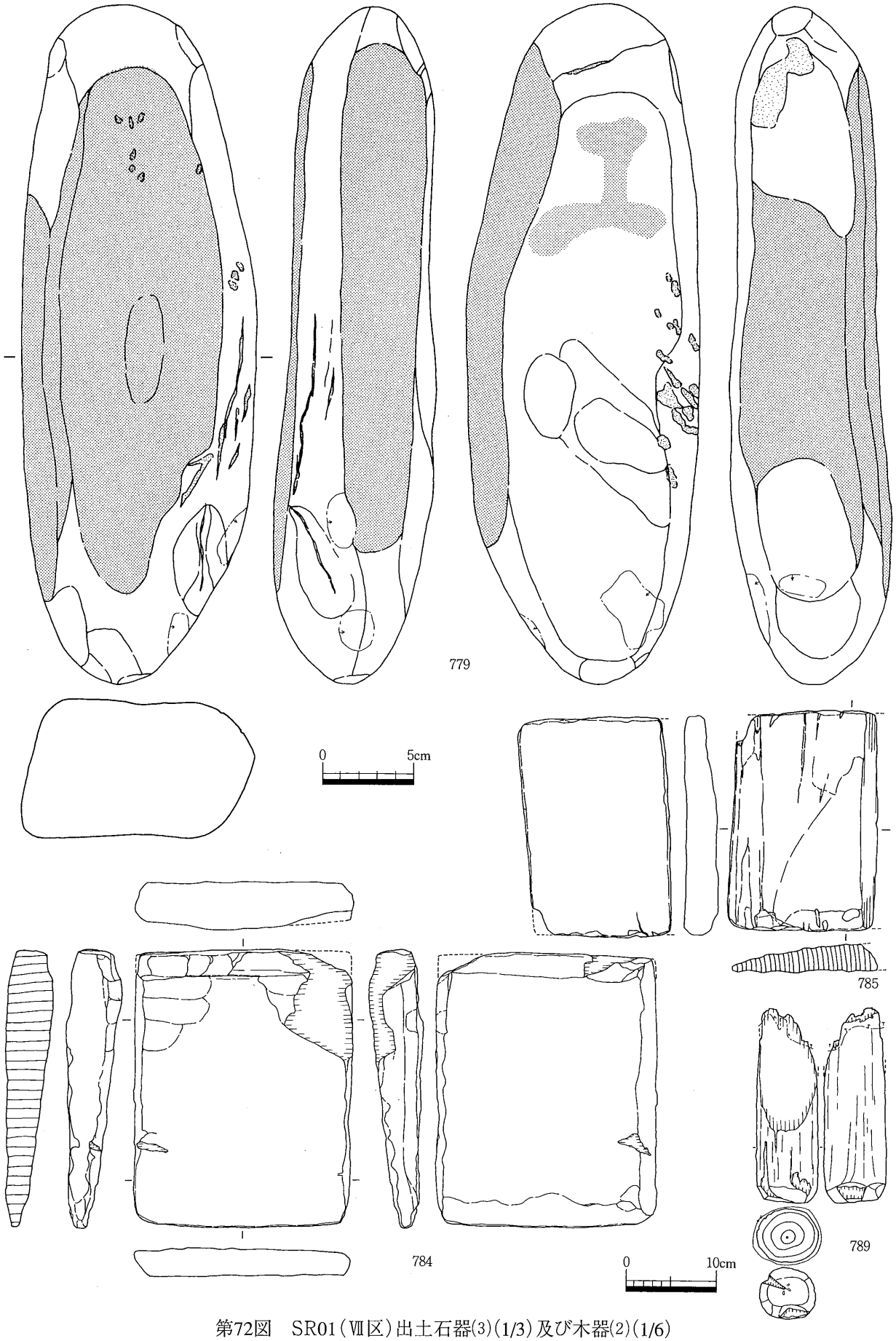
第69図　SR01（Ⅶ区）出土土器(16)（1/4）



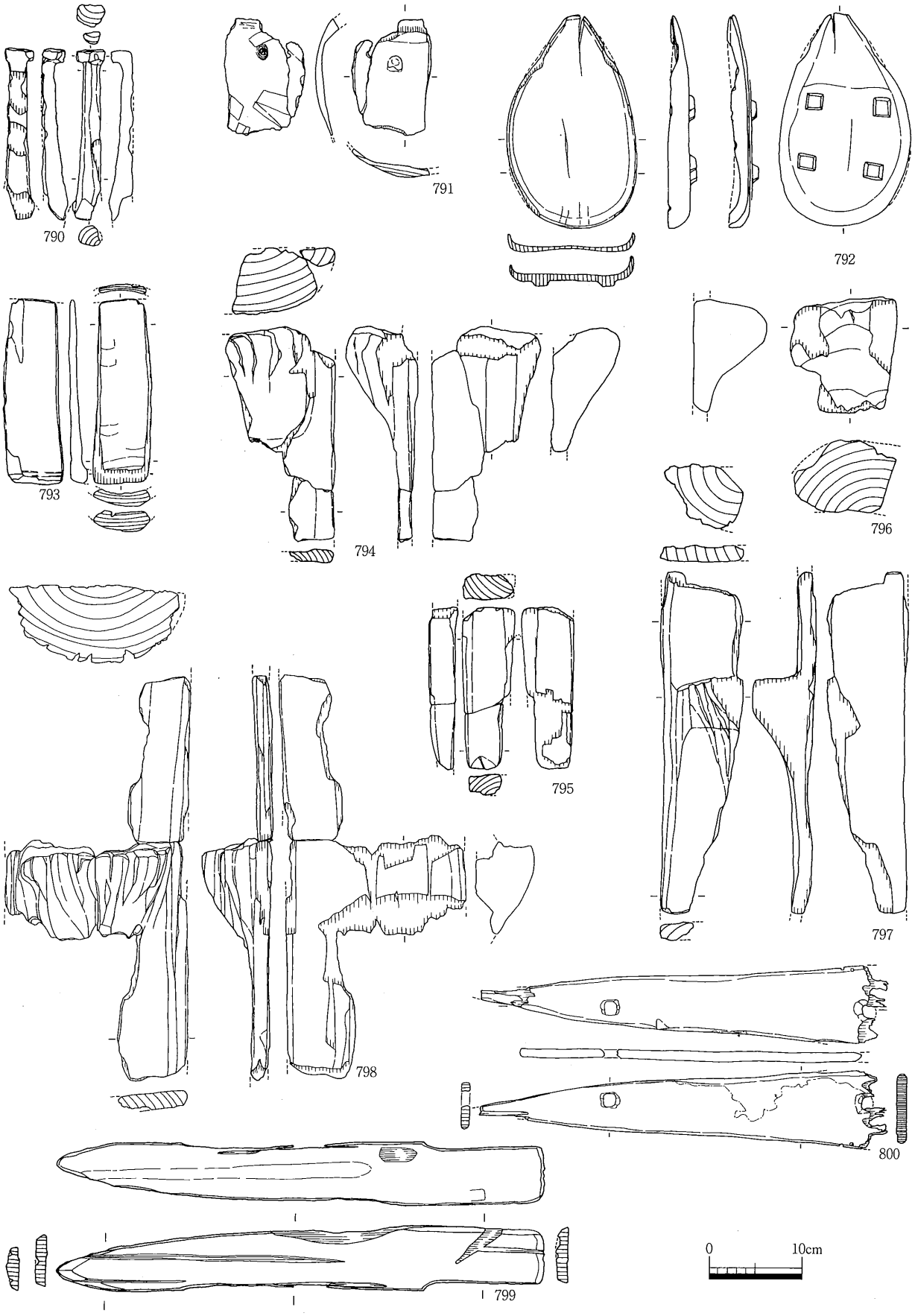
第70図　SR01(Ⅶ区)出土石器(1)(1/2)



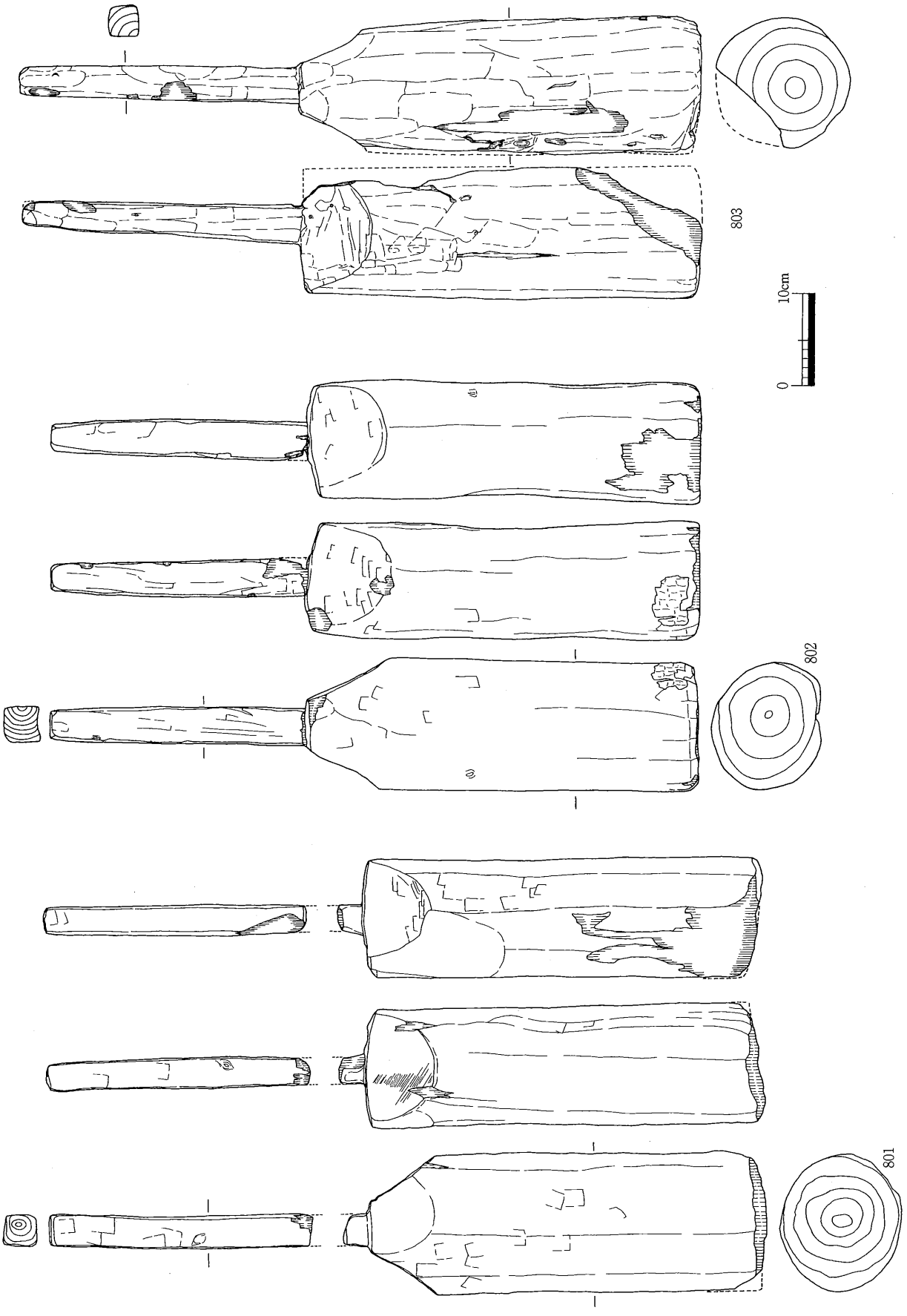
第71図　SR01(Ⅶ区)出土石器(2)(1/2・1/3)及び木器(1)(1/6)



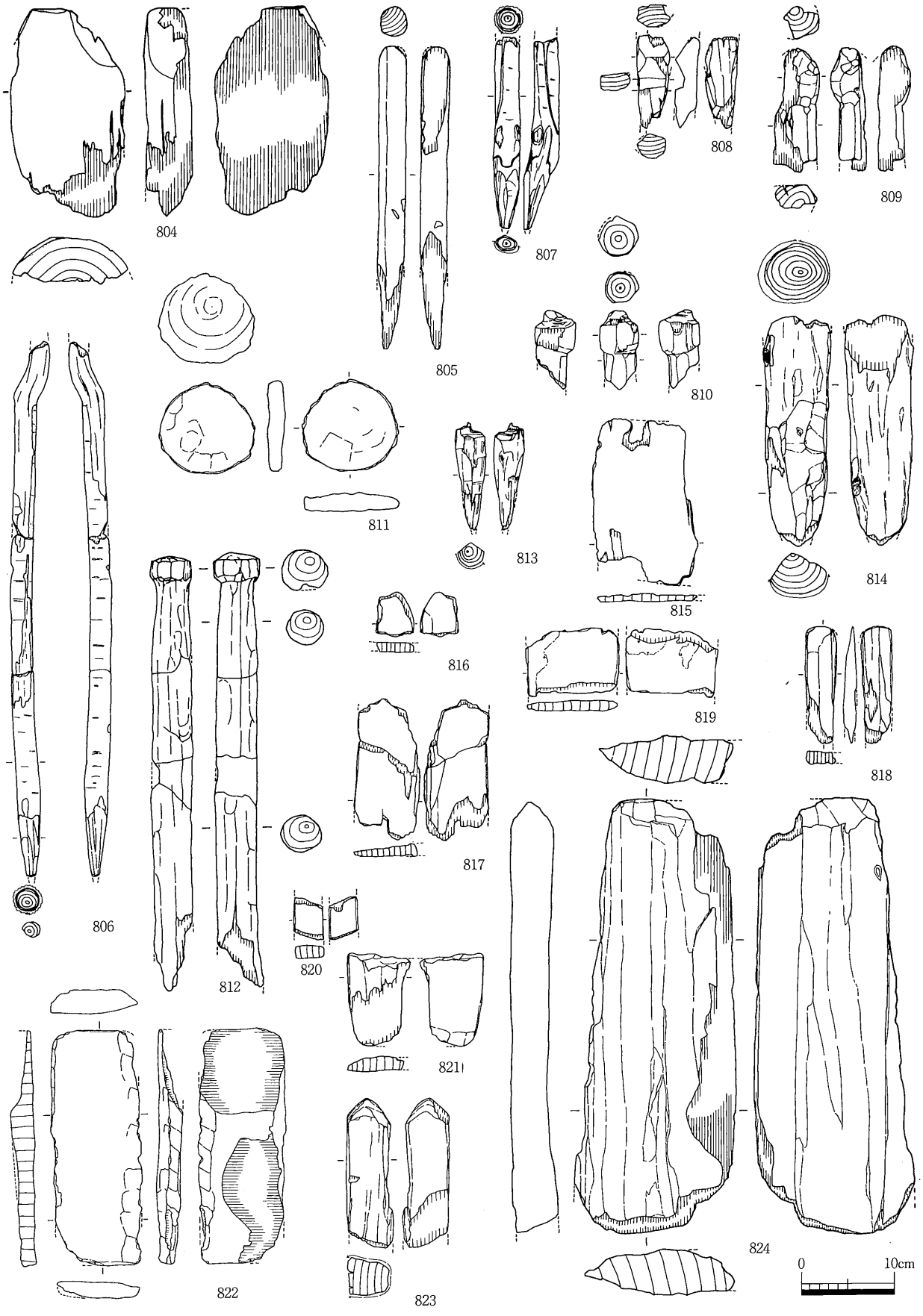
第72図　SR01（Ⅶ区）出土石器(3)(1/3)及び木器(2)(1/6)



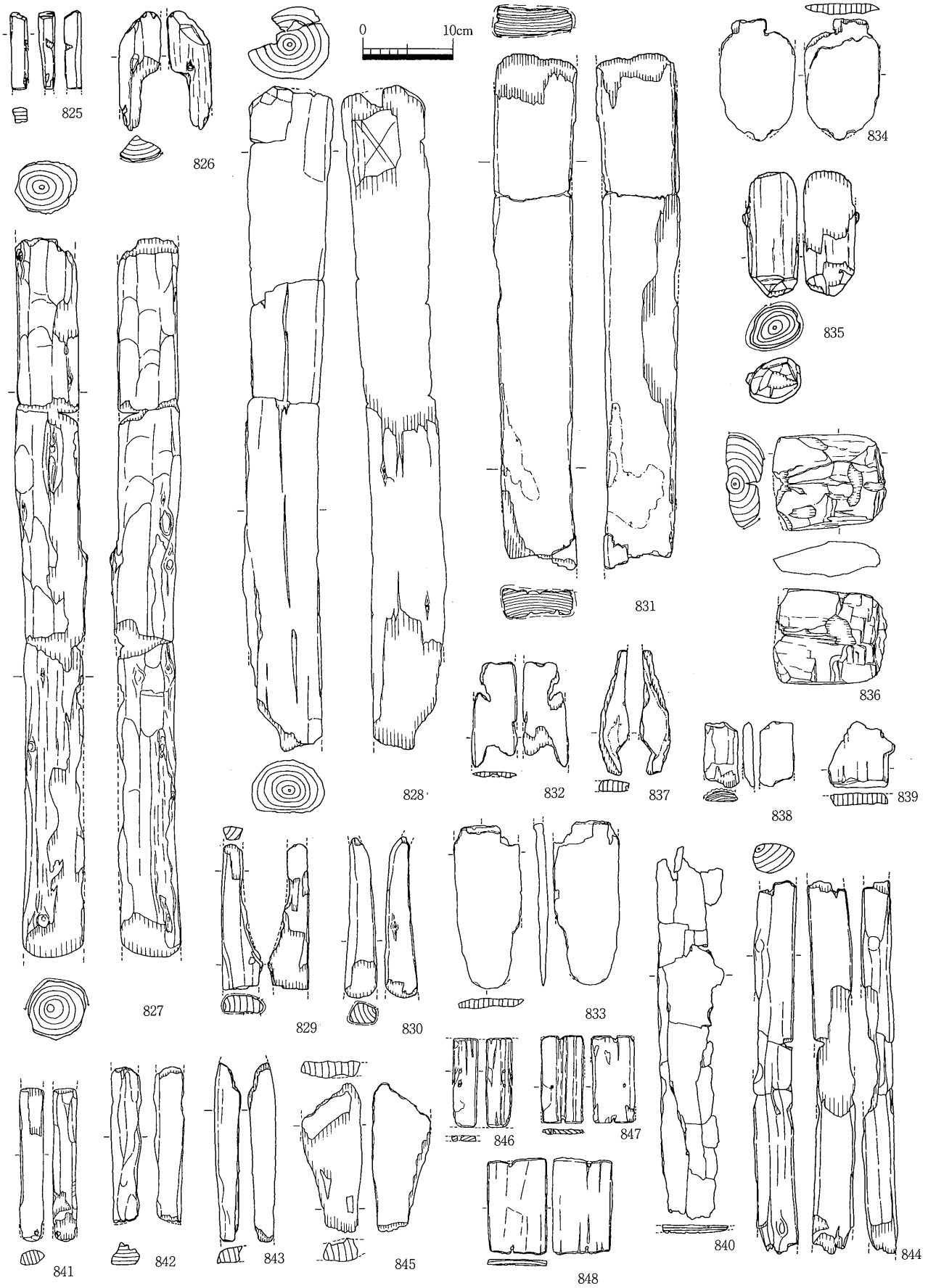
第73図　SR01(Ⅶ区)出土木器(3)(1/6)



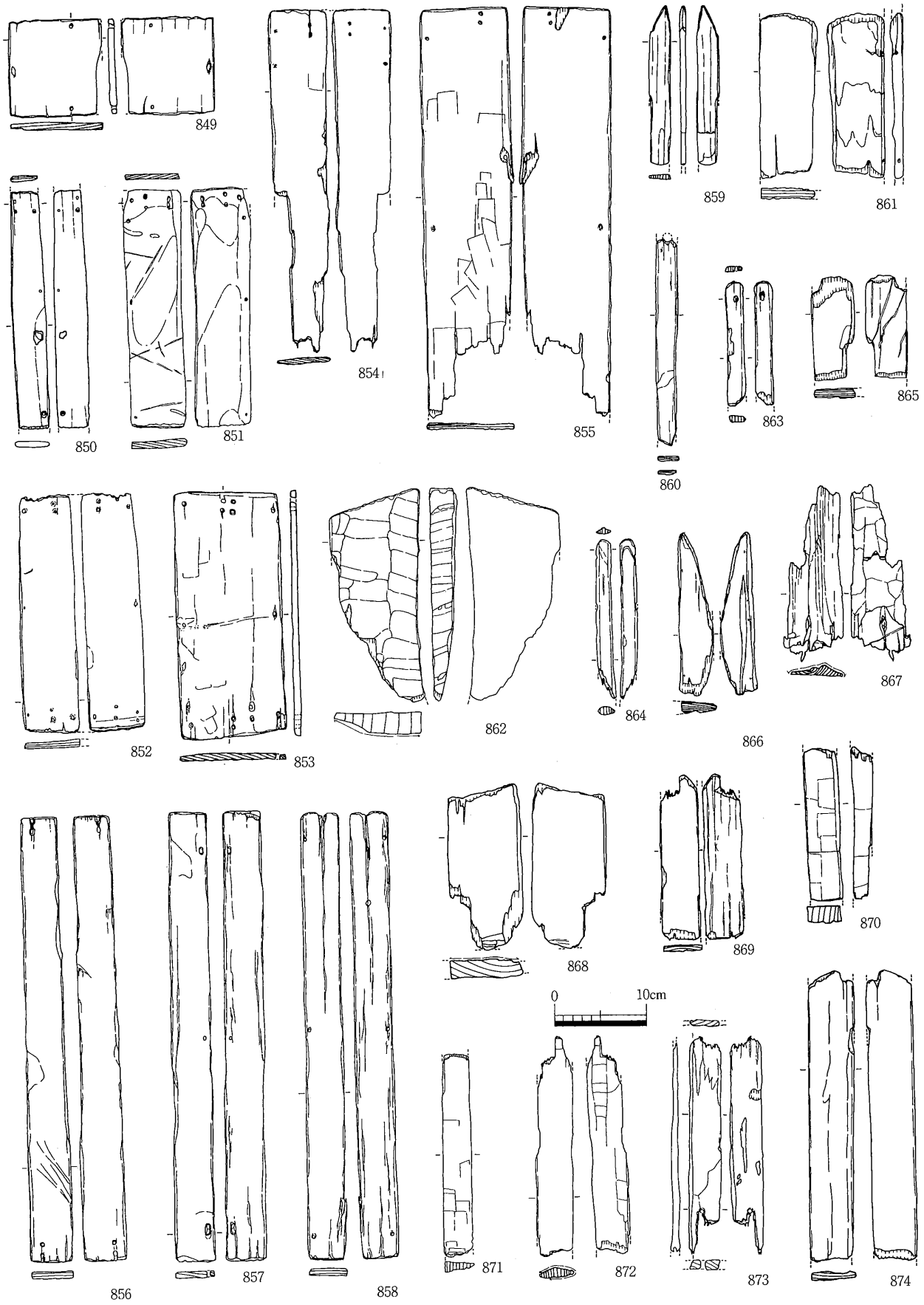
第74図　SR01(Ⅶ区)出土木器(4)(1/6)



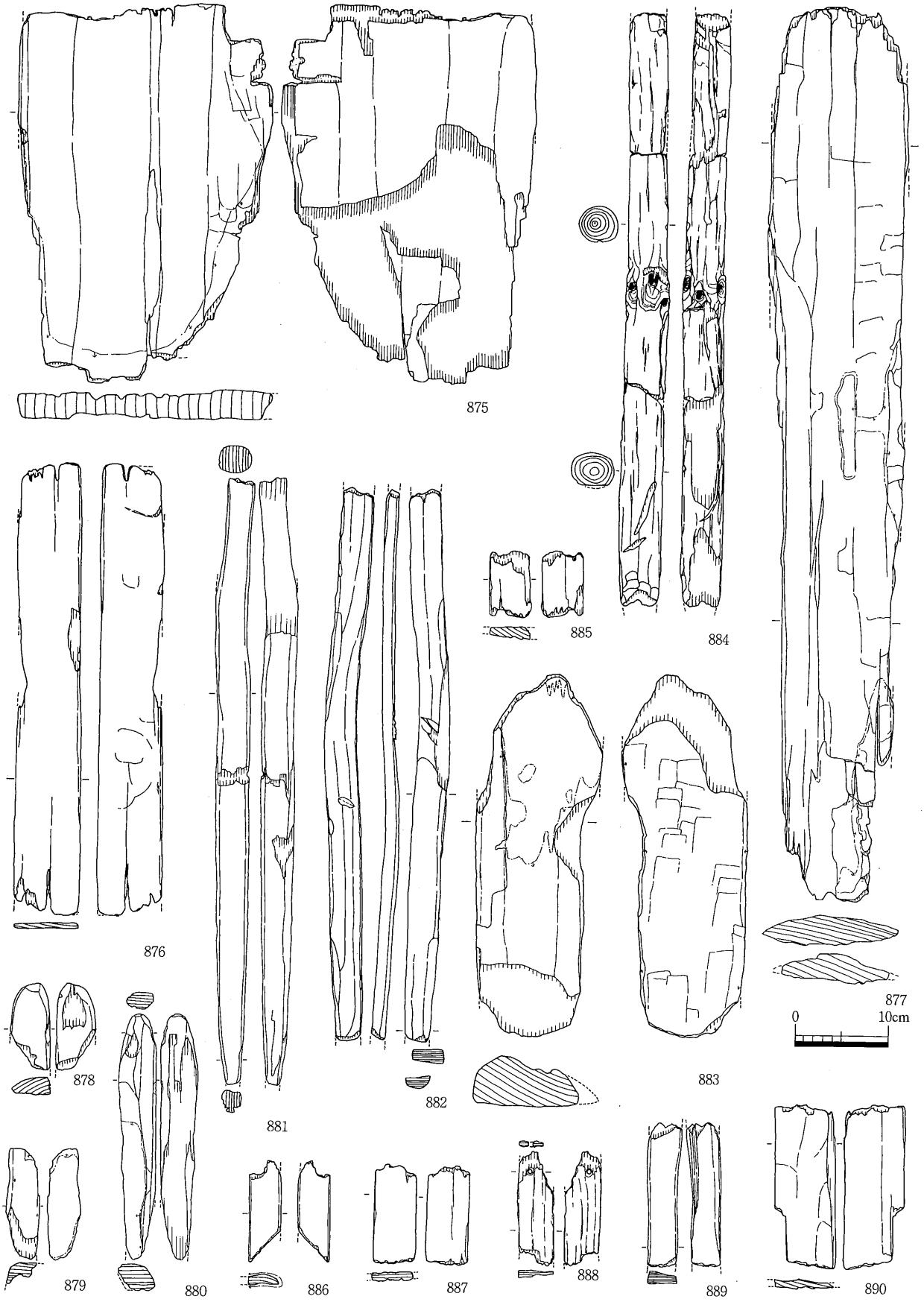
第75図　SR01(Ⅶ区)出土木器(5)(1/6)



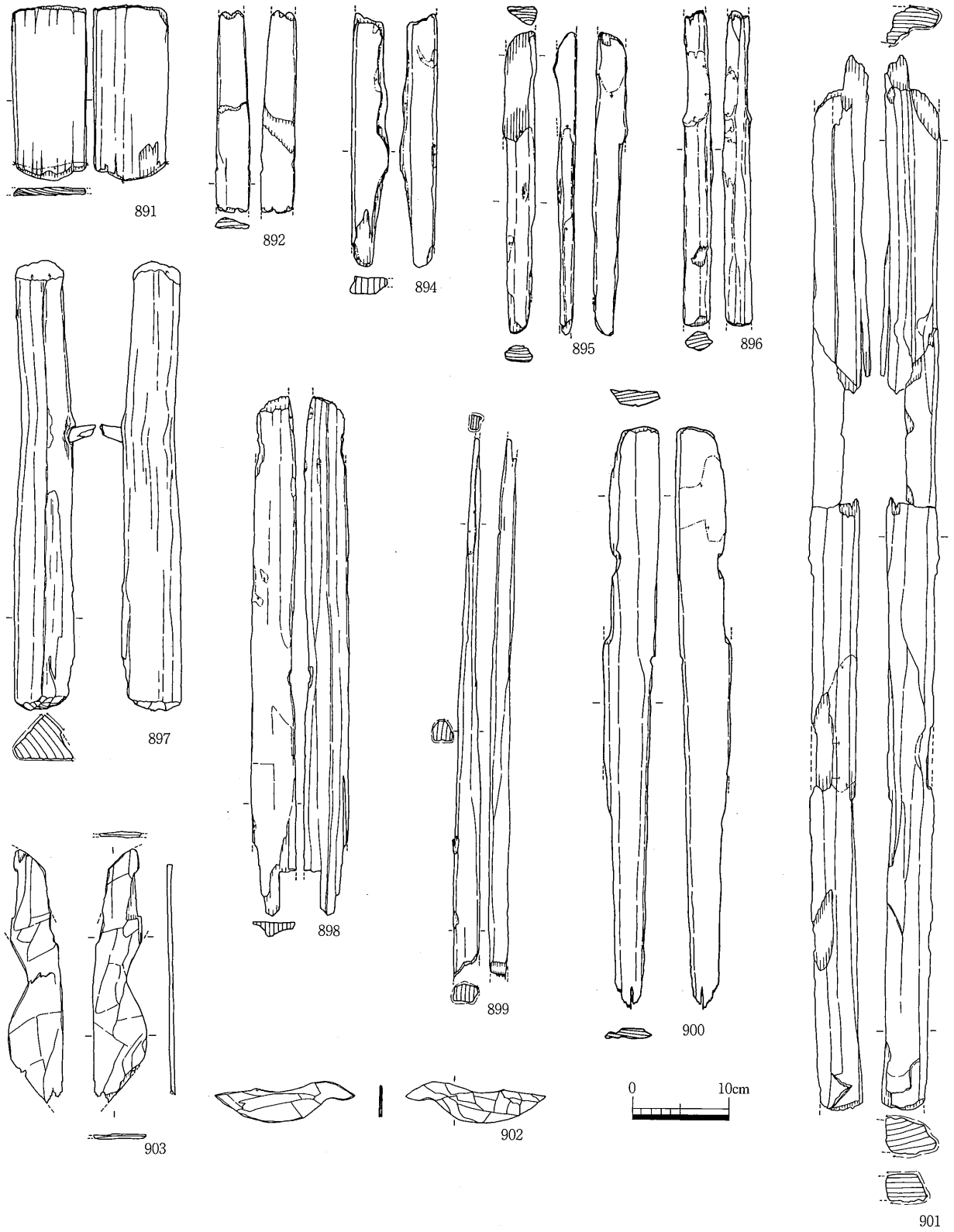
第76図　SR01(Ⅶ区)出土木器(6)(1/6)



第77図　SR01(Ⅶ区)出土木器(7)(1/6)



第78図　SR01(Ⅶ区)出土木器(8)(1/6)



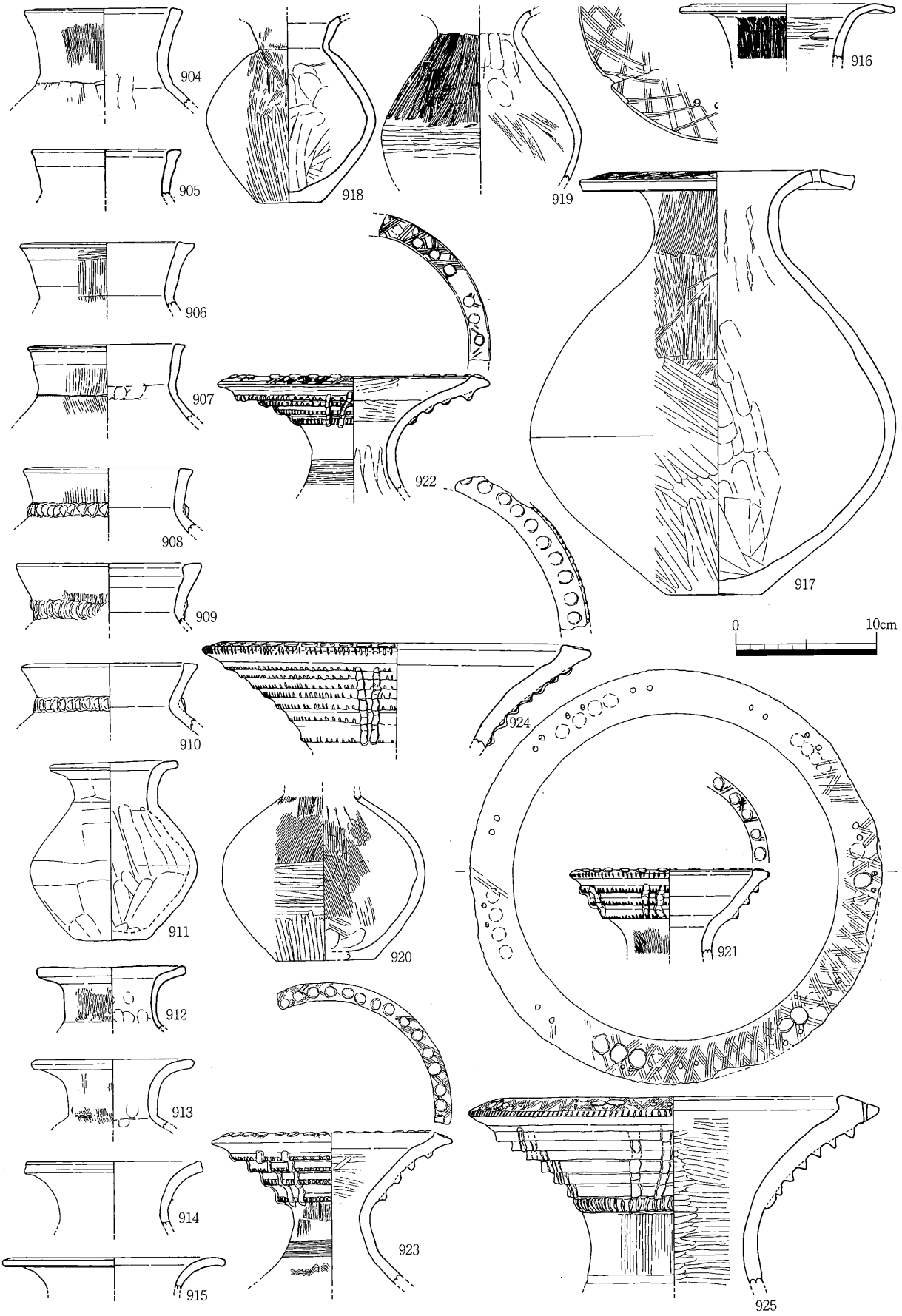
第79図　SR01(Ⅶ区)出土木器(9)(1/6)

X区（第80～109図）

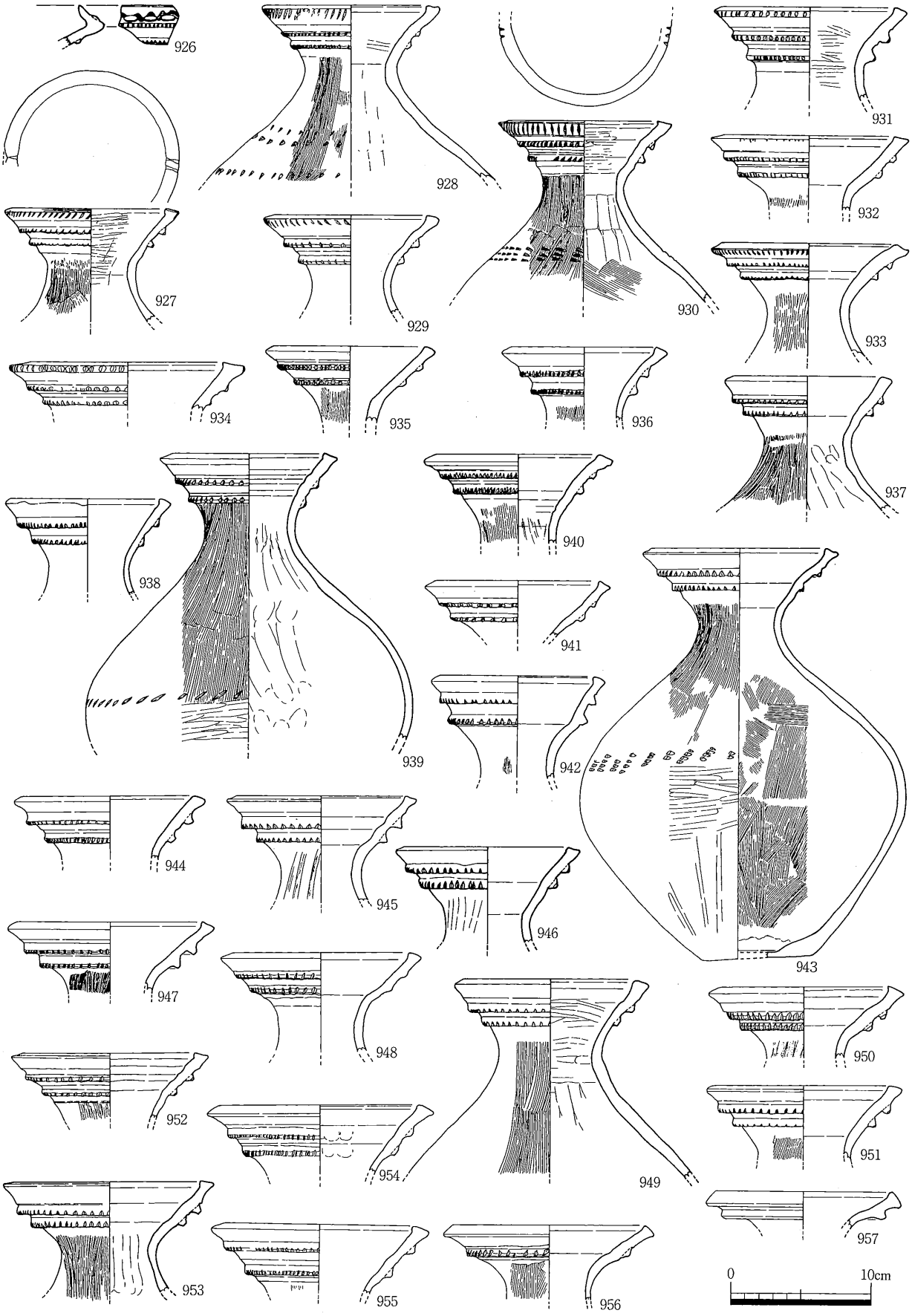
904～1254はD層から出土した土器である。904～1062は壺である。ただし底部破片の一部は甕の底部の可能性がある。917は当遺跡では類例の無いものである。921は922～925のような装飾の著しいものと927～957のような装飾のあまりないものとの中間的な形状である。926は口縁端部を内側へ折り曲げるもので，当遺跡では他に例は無い。958は口縁部及び頸部に刻み目突帯を施すものでこれも類例は無い。1008～1011の壺もあまり類例は無い。胴部に櫛描文のある破片1024～1028には無頸壺の破片もあると考えられる。1059・1060の底部はやや時期が古いものである可能性があろう。1063～1151は甕である。1152～1158は鉢である。1159～1216は台付鉢である。1176・1191には台部に三角形の透孔がある。1196にも透孔がある。1207は台部に指圧痕突帯のあるもので，類例は少ない。1211～1216も類例の少ないもので，中には弥生時代後期のものもある可能性がある。1217～1219は高杯である。1220・1221は蓋である。1222は全体形不明のものである。1223・1224は土器片利用の紡錘車で，1224は穿孔を始めた段階のものである。1225～1250はD層上部出土と考えられる弥生時代後期の土器である。1251・1252は弥生時代終末期以降に下るものである。1253は時期不詳である。1254はD層から出土した須恵器高杯であるが，後世の混入品である。

1255～1285はD層から出土した石器である。1255～1263は石庖丁である。1264～1279はスクレイパーである。1279は大型品であり，別に分類すべきかもしれない。1280は打製石斧であろう。1281・1282は楔形石器である。1283は細かい調整剥離のある石器で，石鏃の可能性もある。1284は流紋岩製の砥石である。1285は磨滅ある石器である。

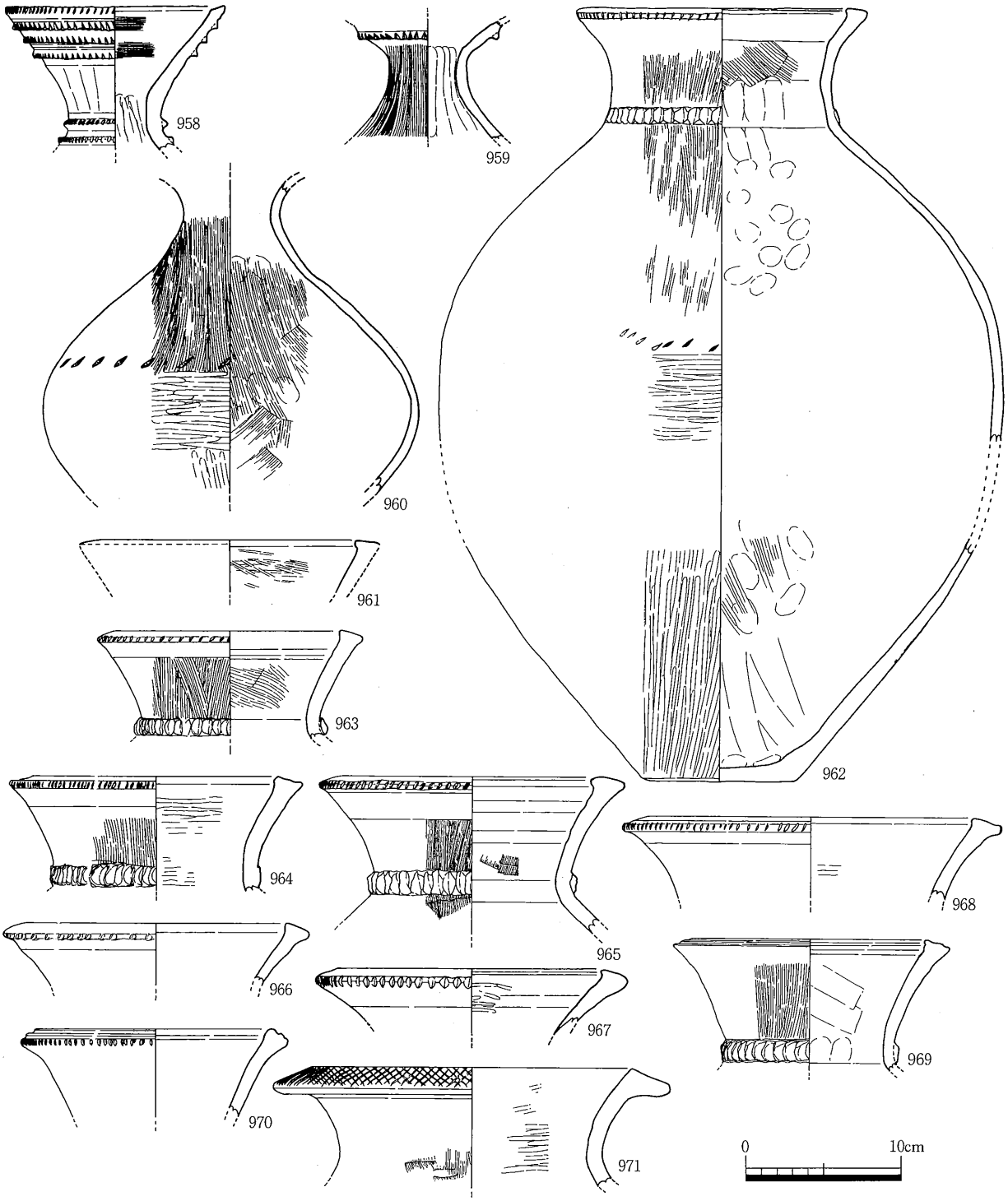
1286～1402.1はD層から出土した木器である。1286は斧台部に幅2㎝，長さ6㎝以上の装着溝が彫られており，柱状片刃石斧の膝柄と考えられる。サカキ材である。1287はアカガシ材で，台部未加工の斧膝柄と考えられる。1288～1296は広鍬状木製品である。樹種は，すべてアカガシである。1297はアカガシ材で，厚さが薄いことから泥除の可能性がある。1298～1304は曲柄鍬先である。樹種はすべてアカガシ材である。1305・1306はアカガシ材であることから又鍬の刃部と考えたが，剣形木製品の可能性も考える必要があるかもしれない。1307はアカガシ材で，組み合わせの鋤である。1308は広葉樹環孔材で広放射状組織のないもので，片側側辺中央に盛り上がりがある。また盛り上がりのある面がくぼんでいることから，この盛り上がりを組み合わせ式の鋤の柄孔部分と考えることもできる。1309は広葉樹材の匙である。1310はアカガシ材の杓子形木器である。1311はケヤキ材で，中央部に盛り上がりのある円盤状の木製品である。図の上側には張り出しの一部が認められることから，円盤に張り出しの付く形状の蓋の可能性がある。1312はヒノキ材で，組み合わせ式の箱の部材と考えられる。1313はクスノキ材で，外底に高台のある槽である。1314はアカガシ材の剣形木製品に類似するものであるが，作りが粗雑で中央の盛り上がりもあまり明確ではない。1315はクヌギ材で，片面に平坦面をもつことから何かに密着させて使用するものと考えることもできる。1316・1317はクヌギ材で同一個体の可能性がある。鉄器による加工痕が見られる。1318は針葉樹材である。1319は広葉樹材で片面が平坦に加工されている。1320は広葉樹環孔材で広放射状組織の無いもので，先端を杭状に加工し，段をもつものである。1321はクヌギ材と考えられるものである。1322はヒノキ材と考えられるもので，鉄器による加工痕がある。1323はマキ属材である。1324はエゴノキ属材である。1325はコナラ材と考えられるもので，鉄器による加工痕がある。1326～1328は広葉樹材である。1329はムクロジ材の両端加工材である。1330・1331はマタタビ属材で同一個体の可能性がある。1332はスダジイ材で全面加工痕がある。1333～1336は広葉樹材の先端加工



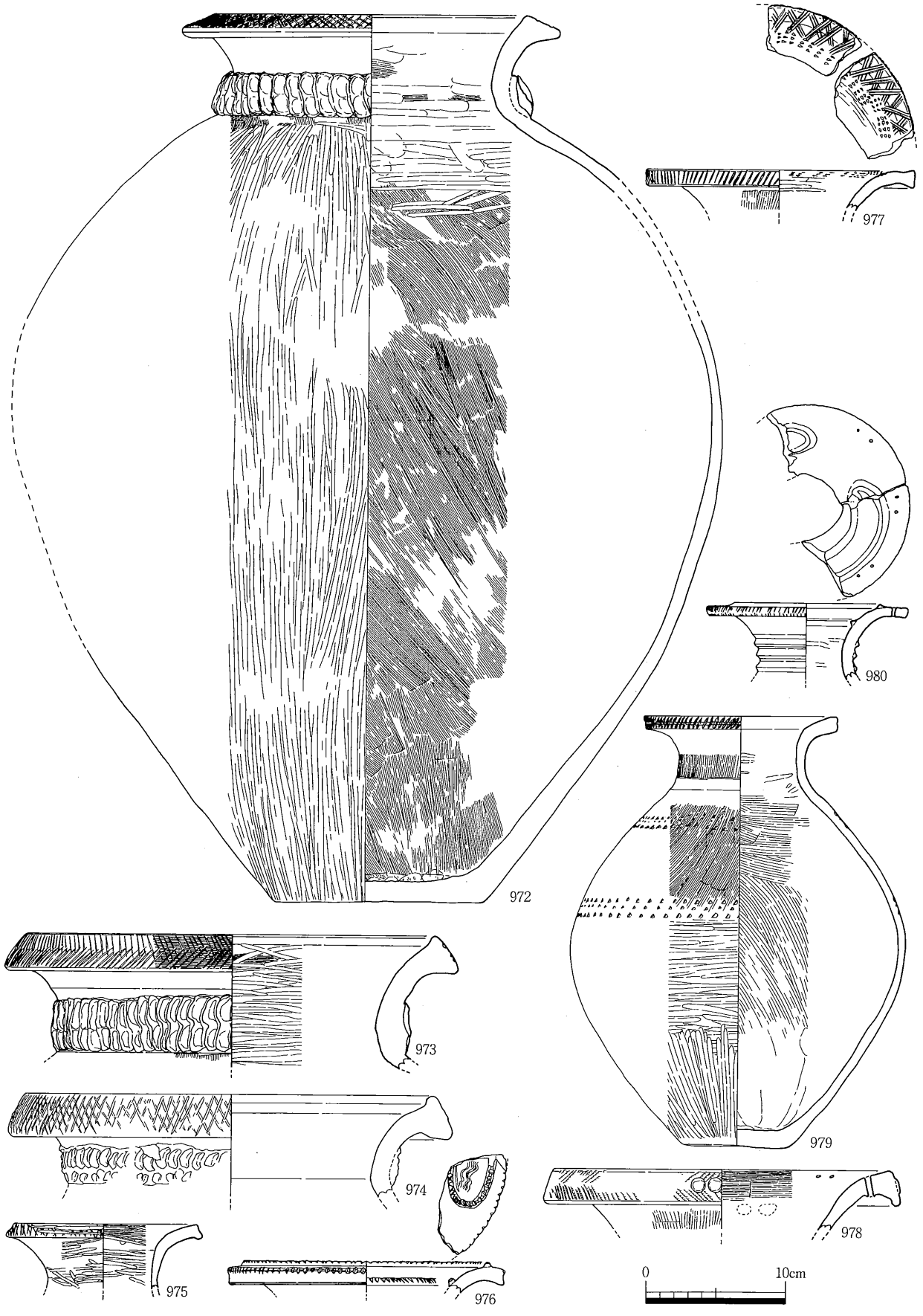
第80図　SR01（X区）出土土器(1)(1/4)



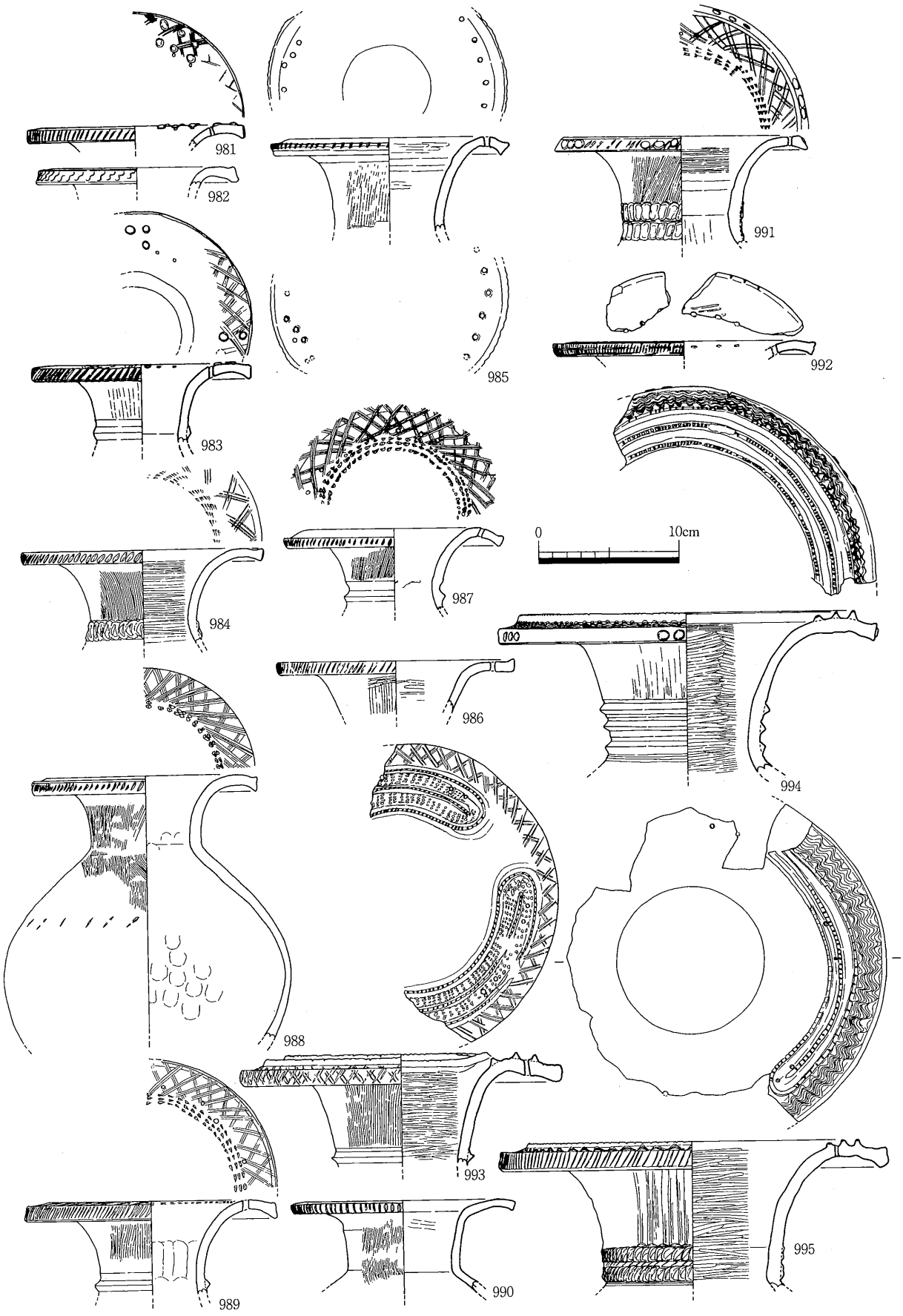
第81図　SR01(X区)出土土器(2)(1/4)



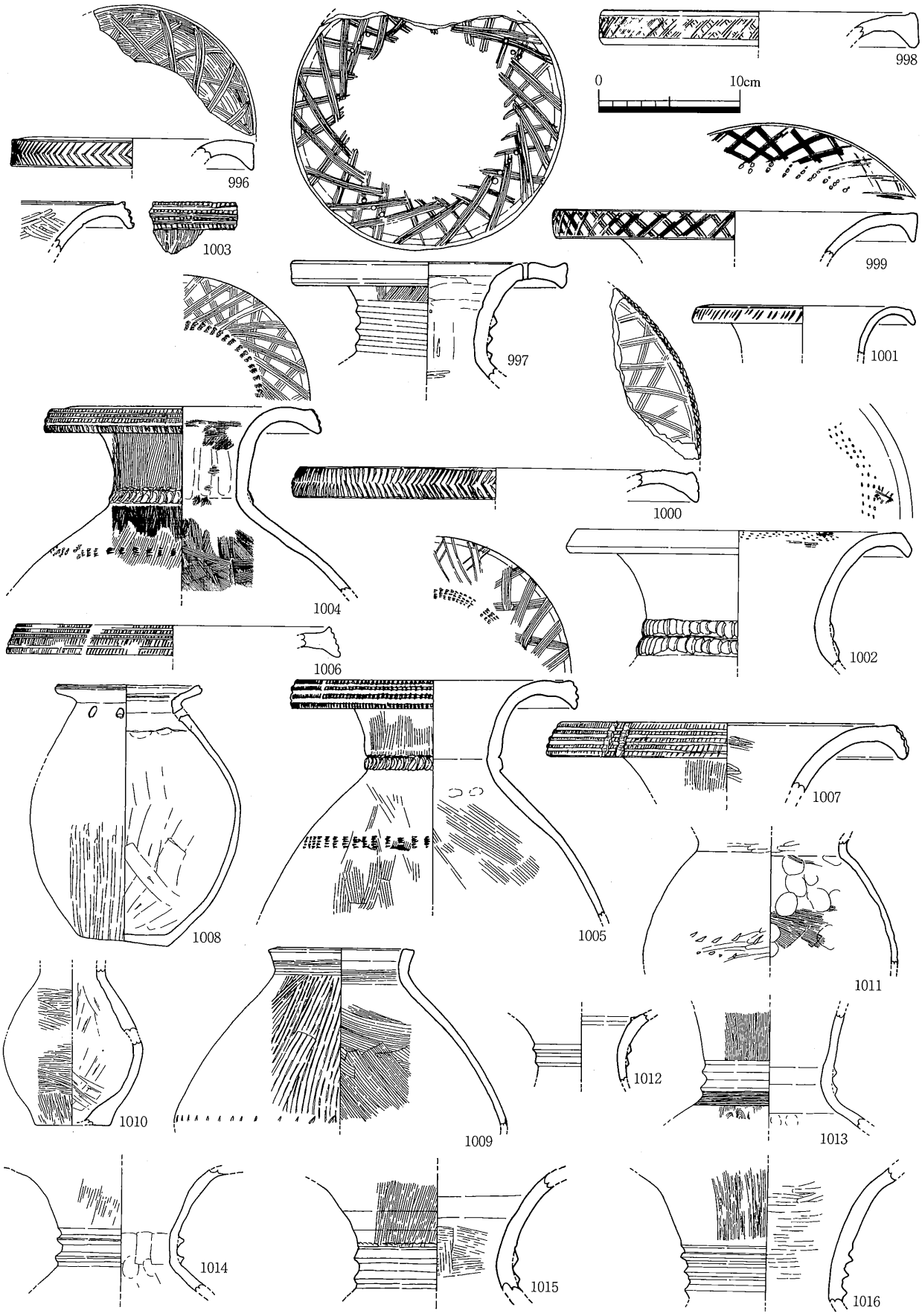
第82図　SR01（X区）出土土器(3)(1/4)



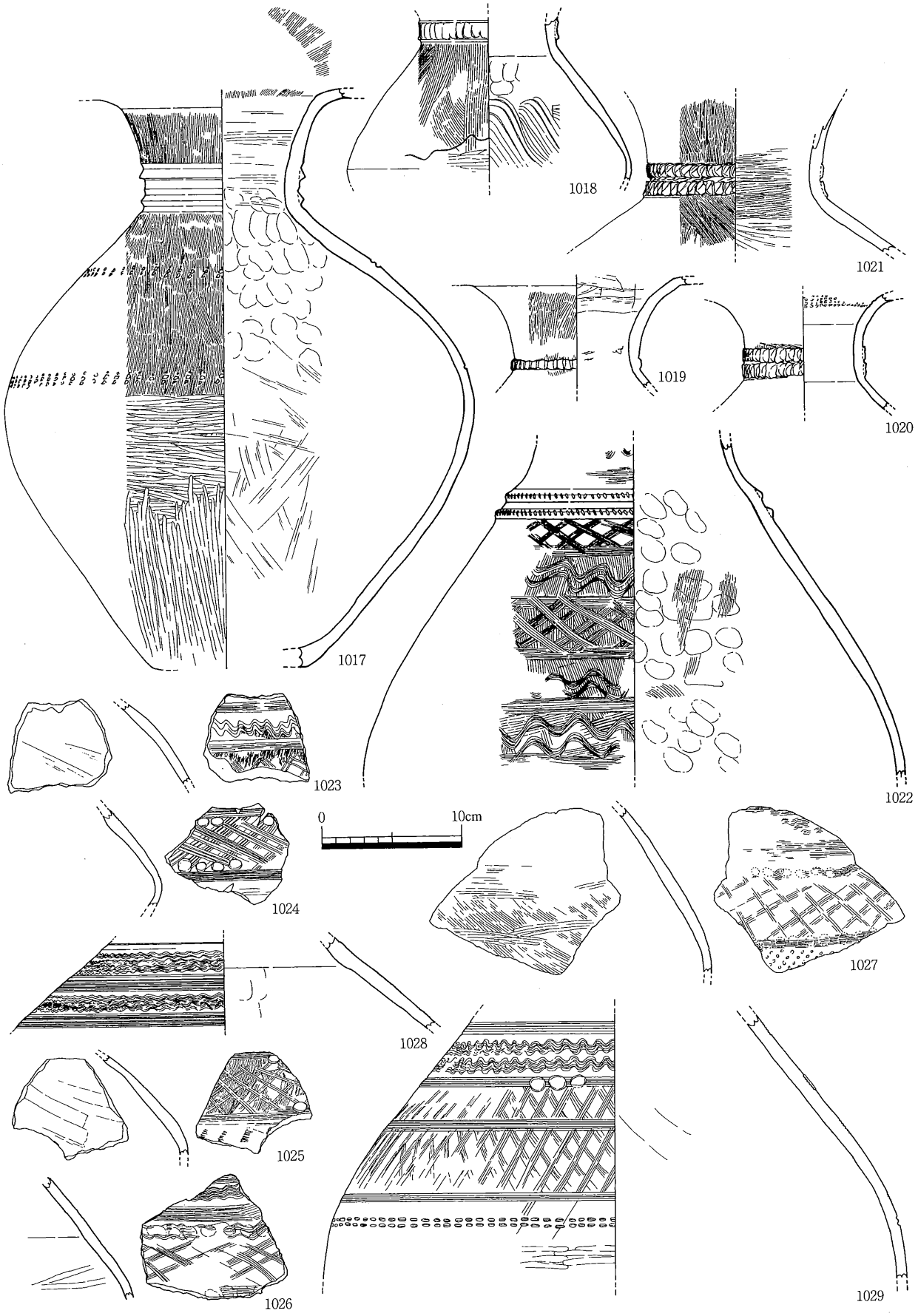
第83図　SR01（X区）出土土器(4)(1/4)



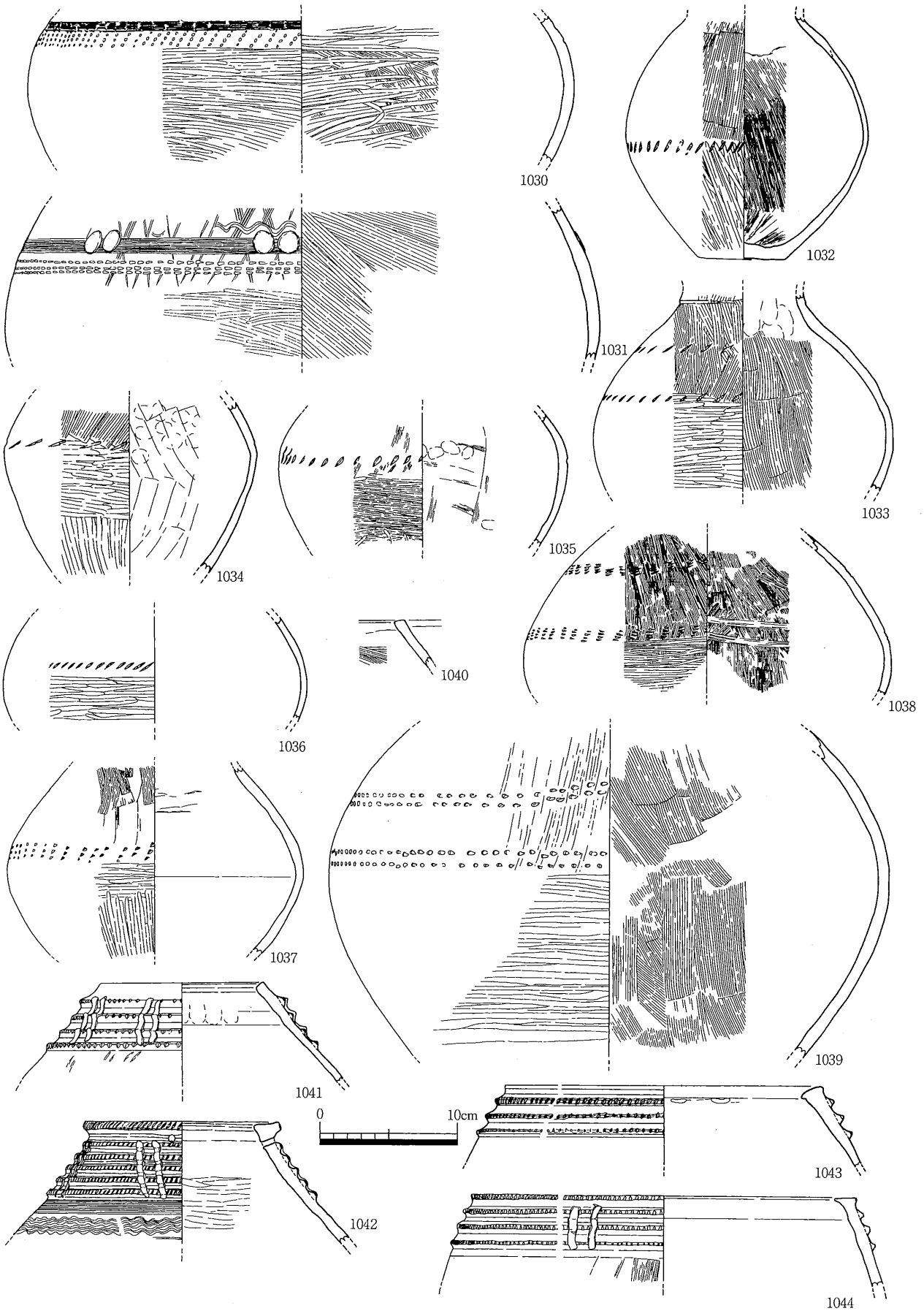
第84図　SR01（X区）出土土器(5)(1/4)



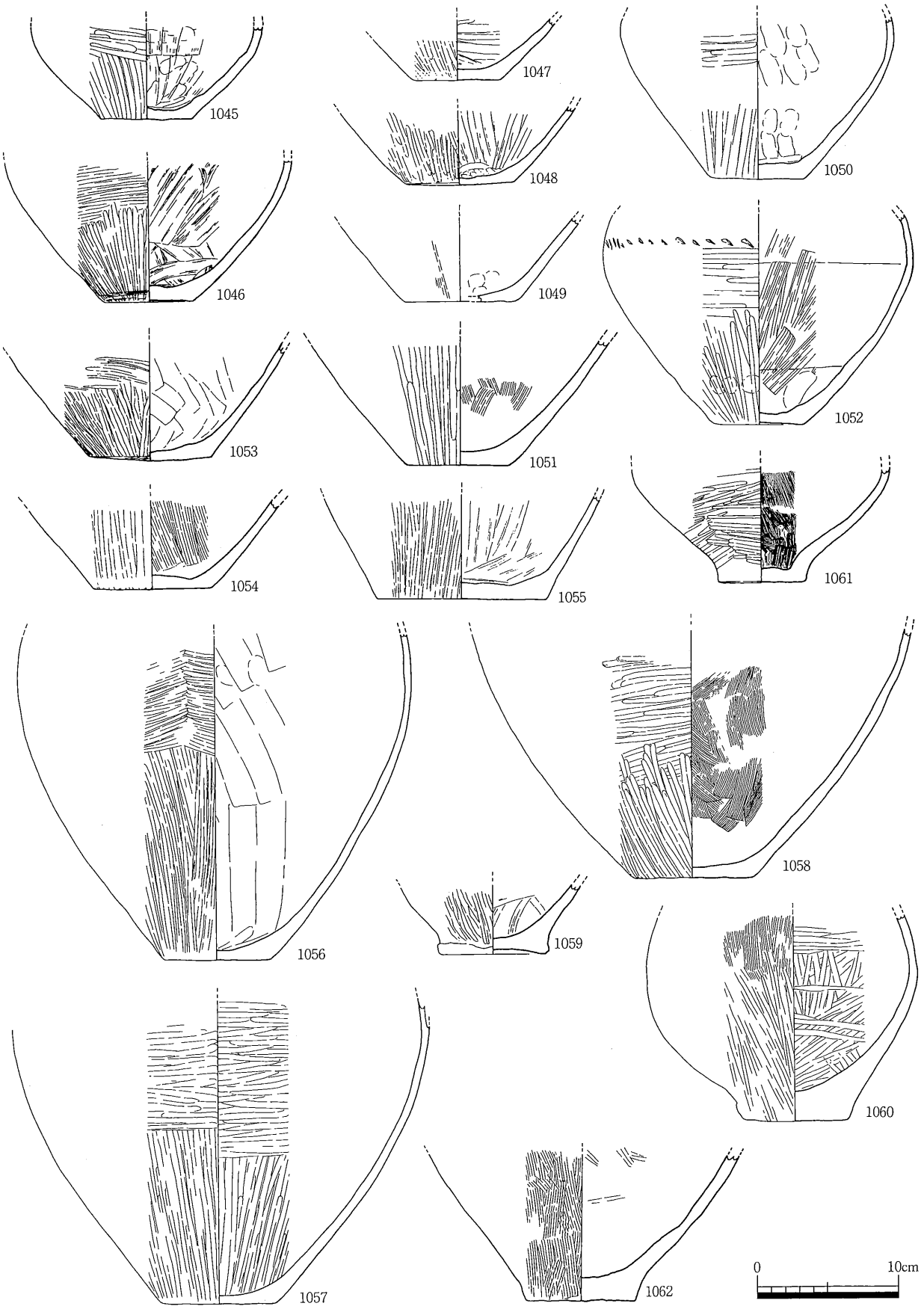
第85図　SR01(X区)出土土器(6)(1/4)



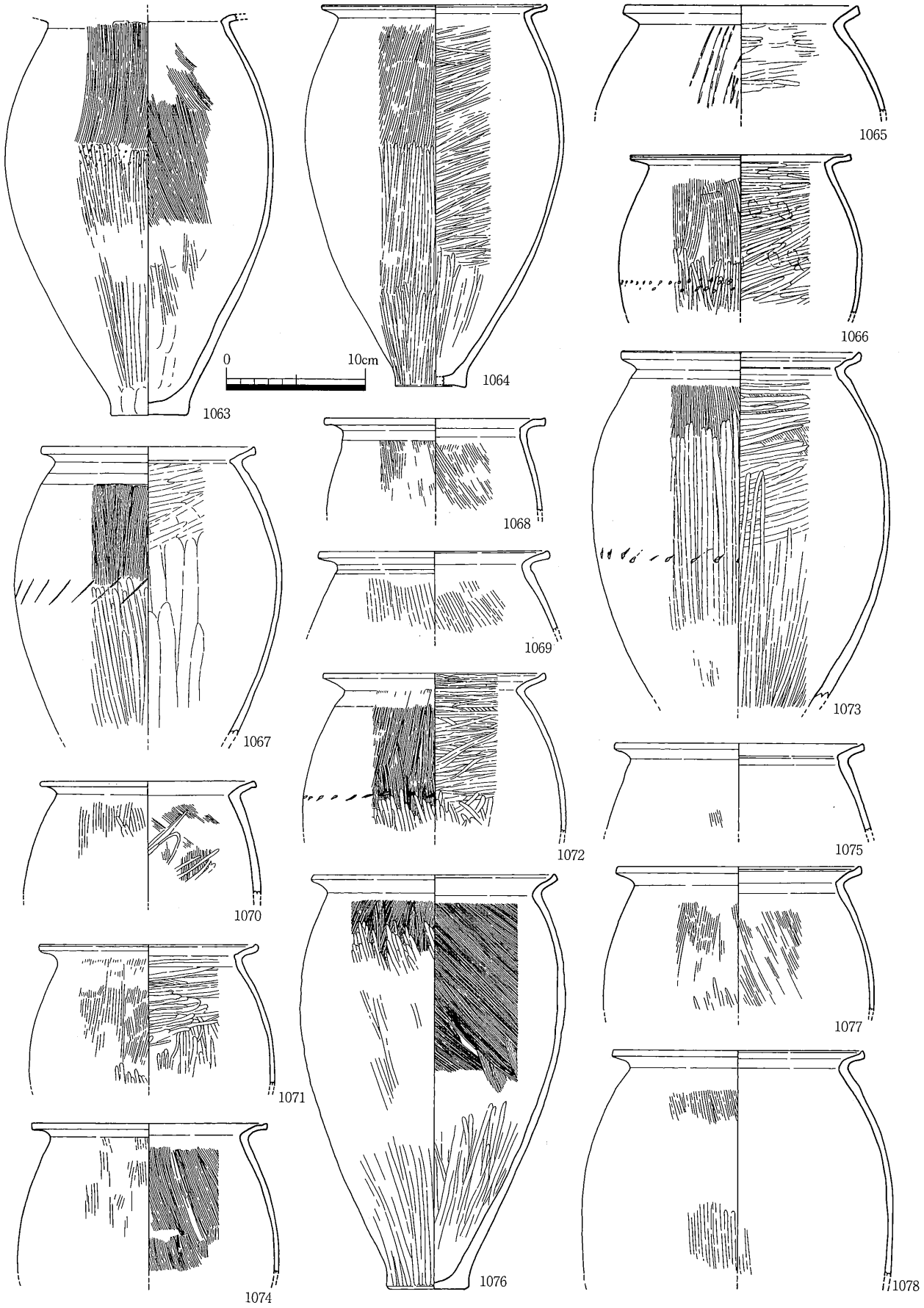
第86図　SR01（X区）出土土器(7)(1/4)



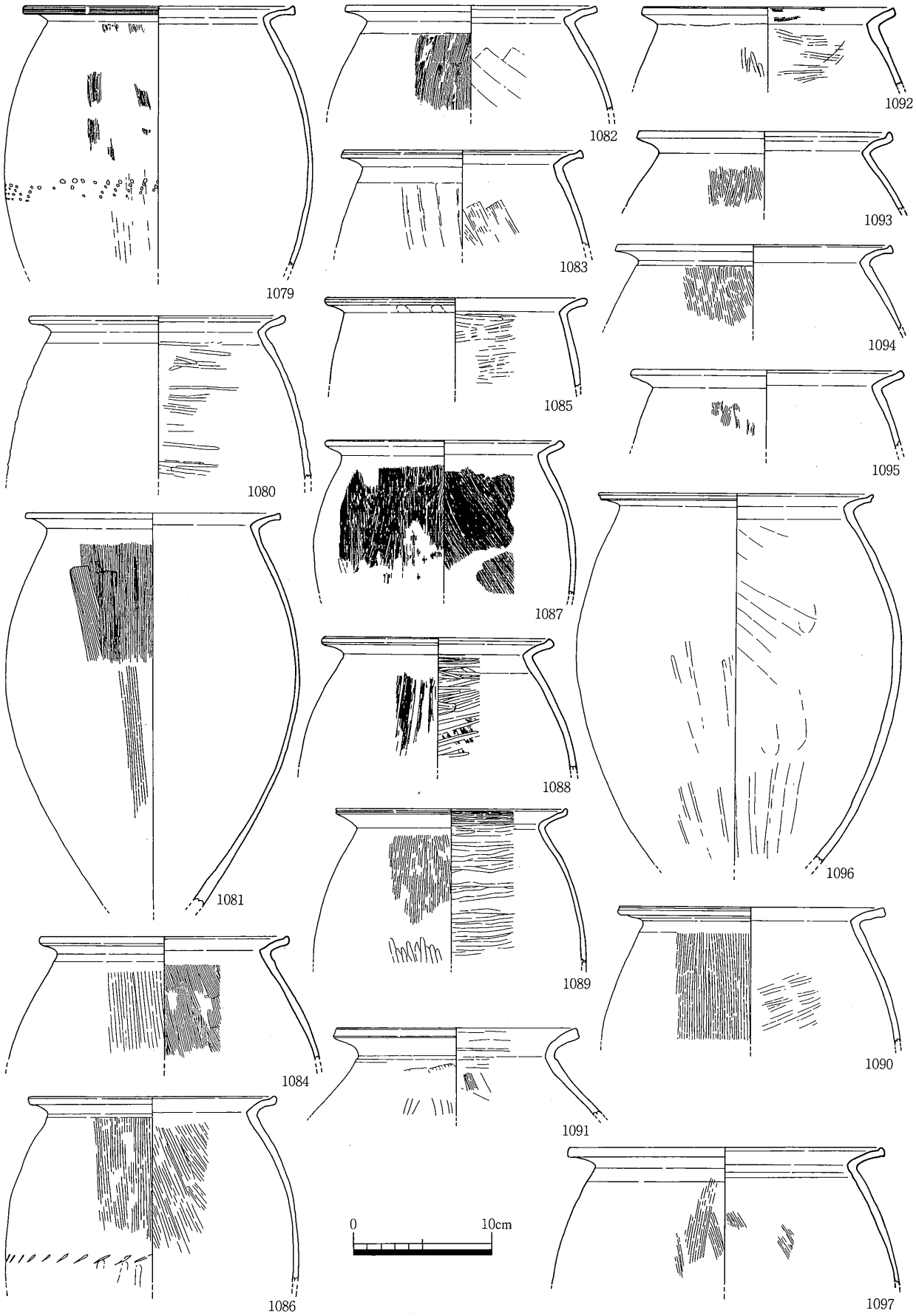
第87図　SR01（X区）出土土器(8)(1/4)



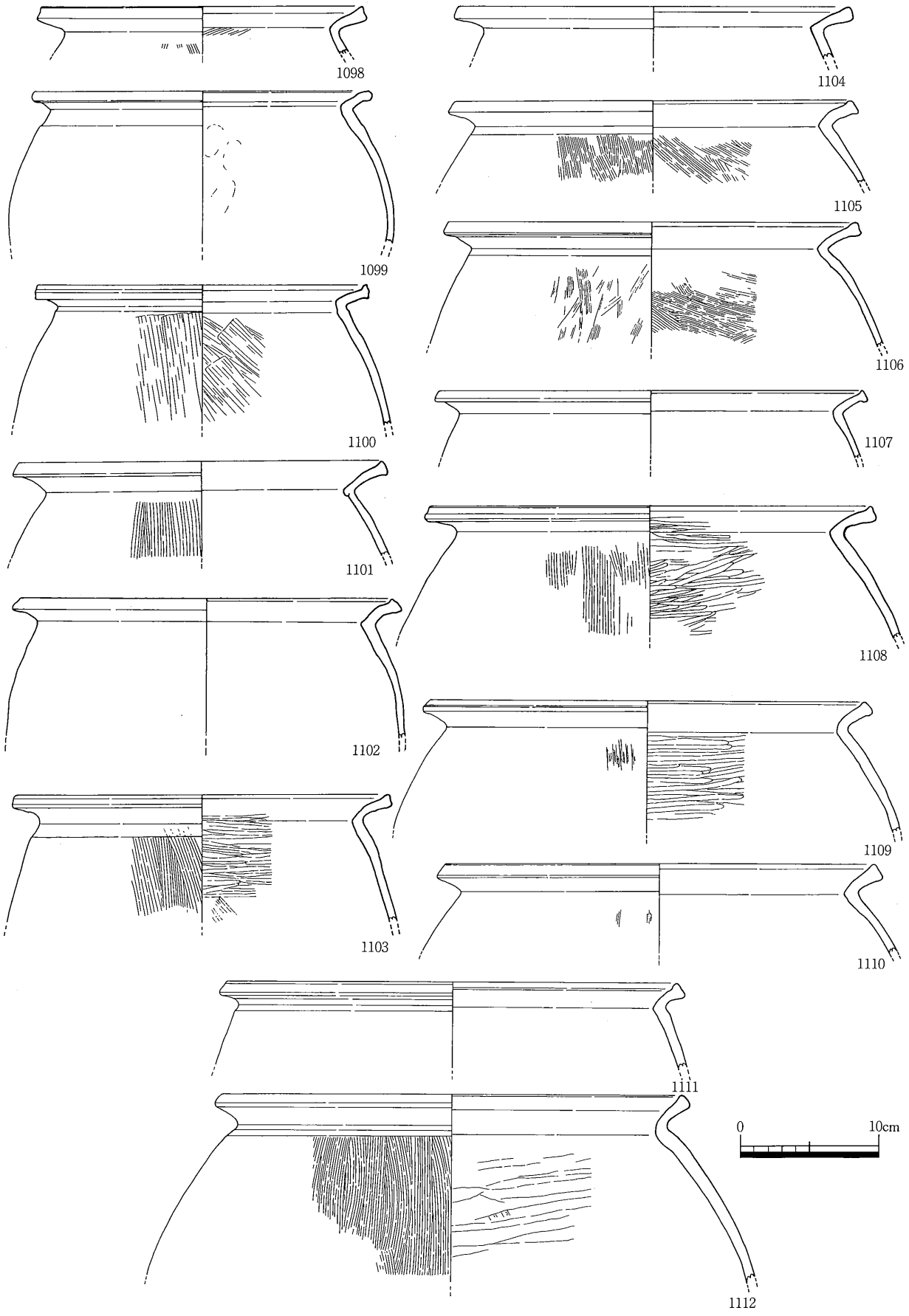
第88図　SR01（X区）出土土器(9)(1/4)



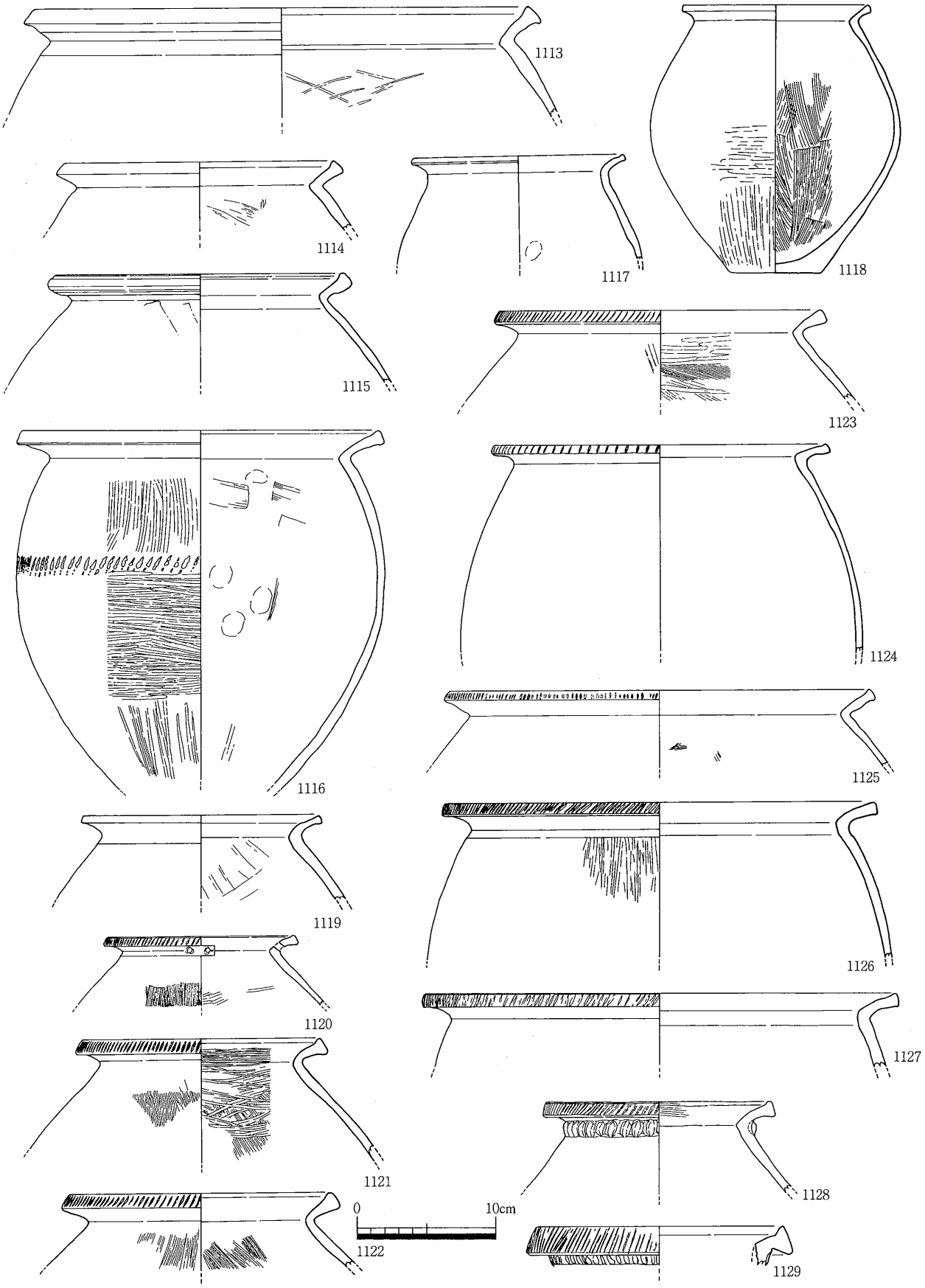
第89図　SR01（X区）出土土器(10)（1/4）



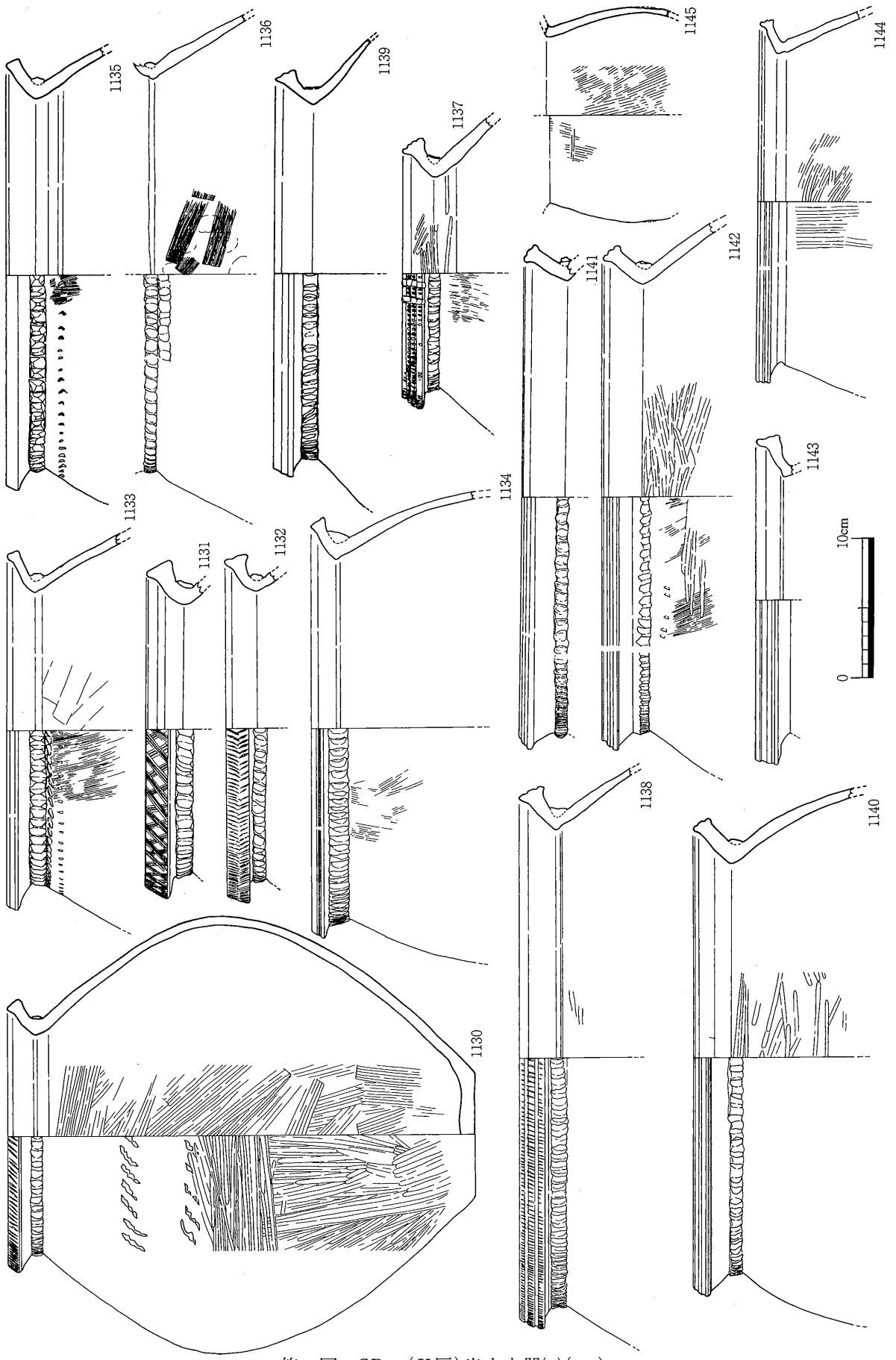
第90図　SR01（X区）出土土器(11)（1/4）



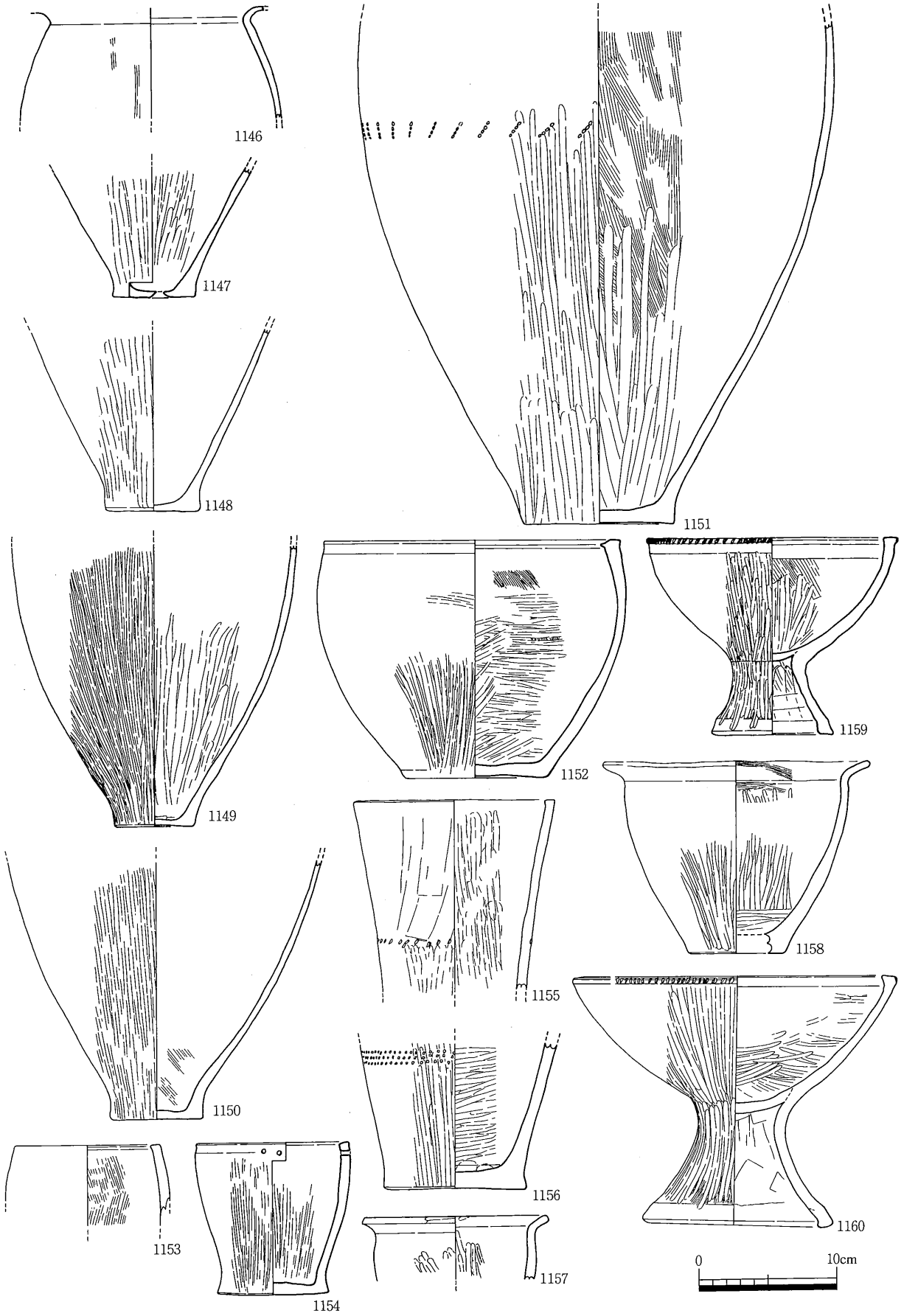
第91図　SR01（X区）出土土器(12)（1/4）



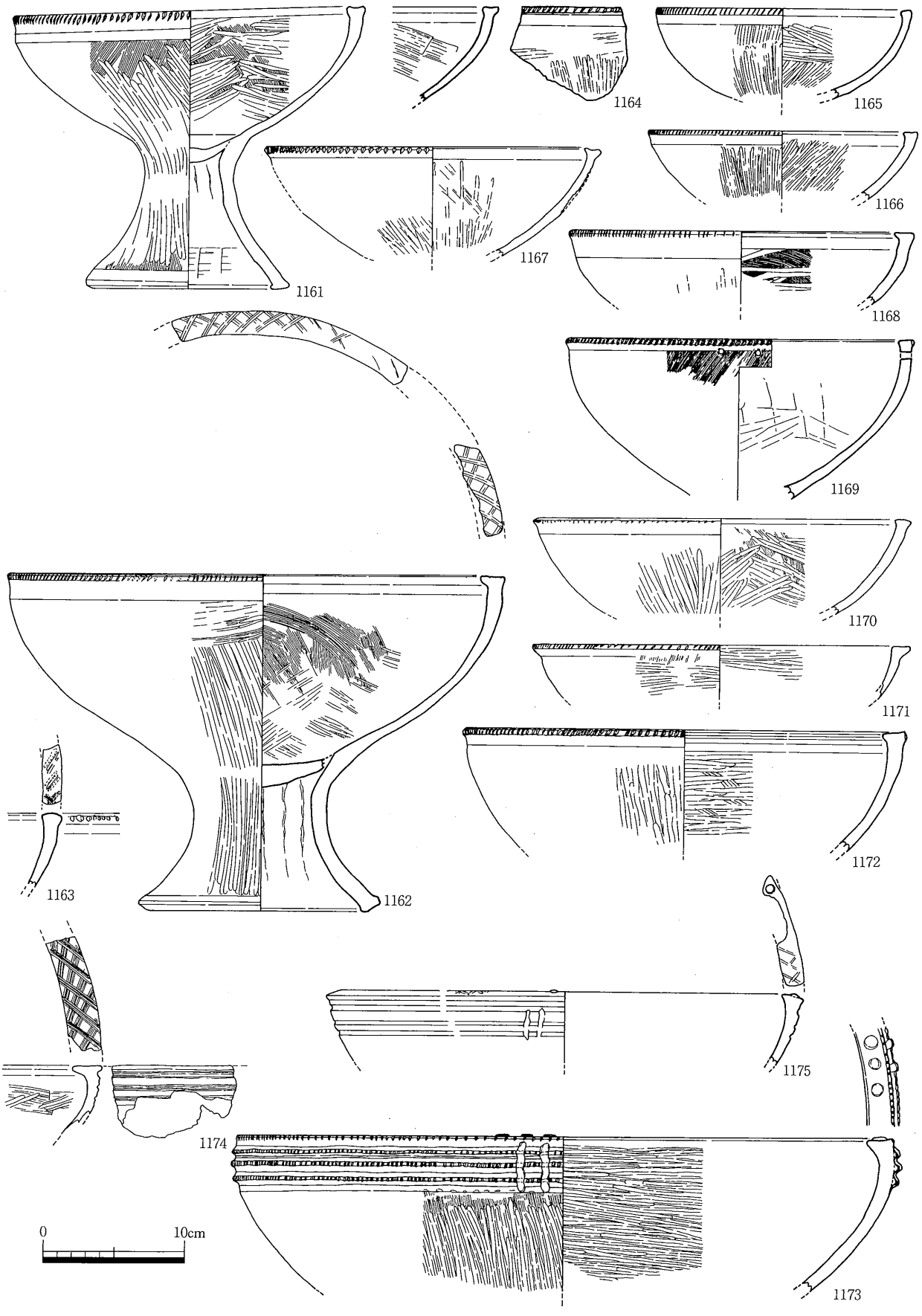
第92図　SR01（X区）出土土器(13)（1/4）



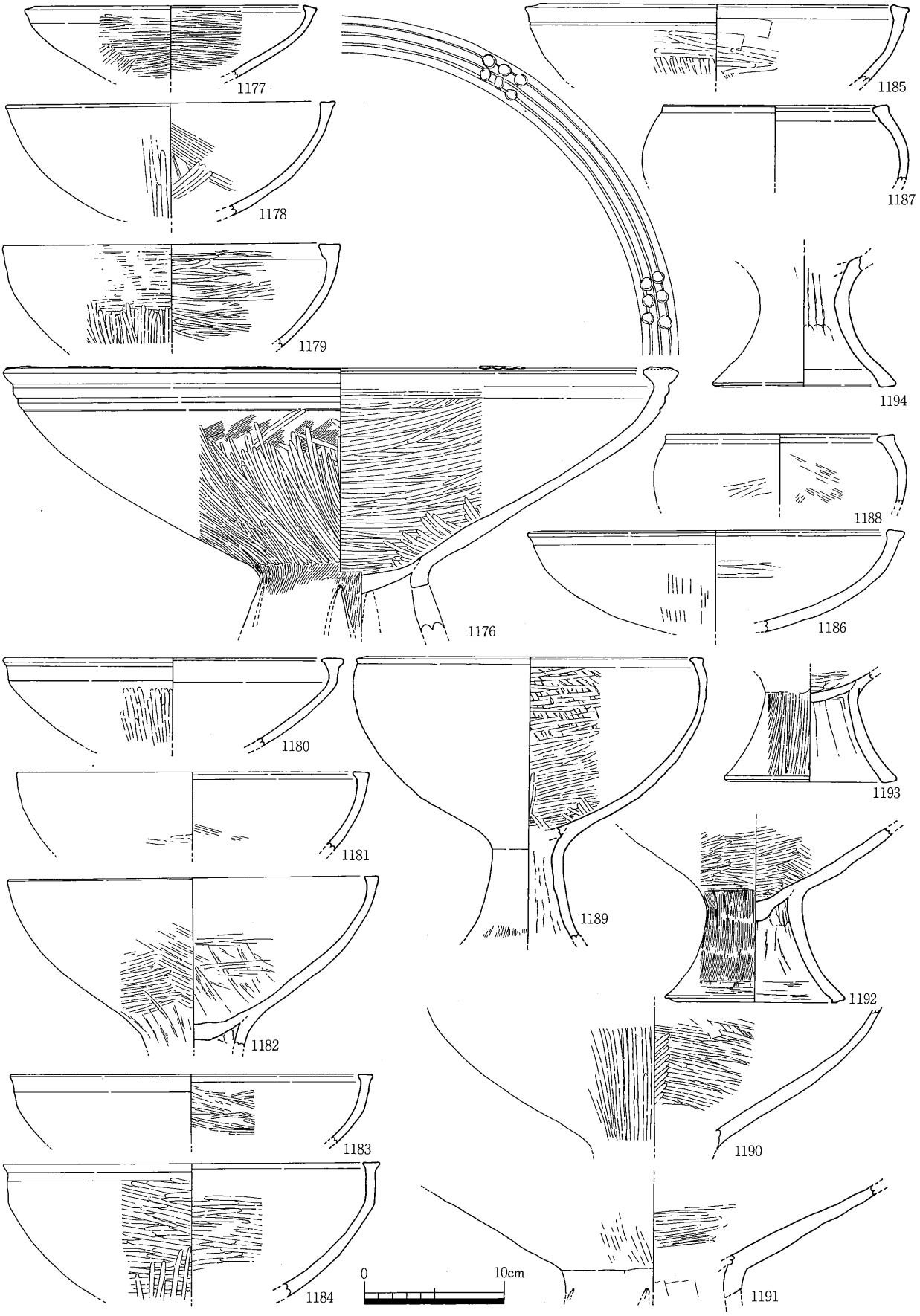
第93図　SR01（X区）出土土器(14)（1/4）



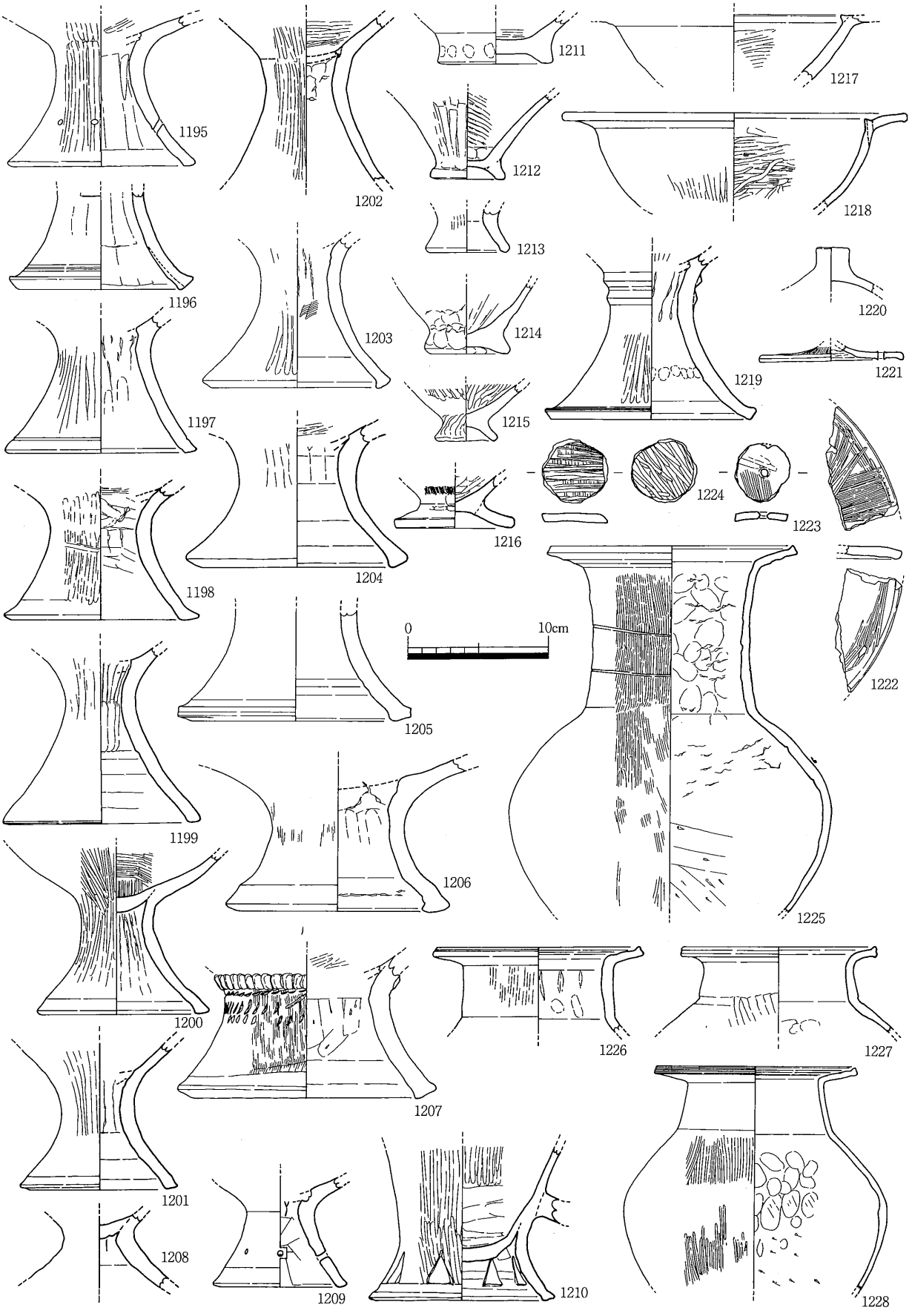
第94図　SR01（X区）出土土器(15)（1/4）



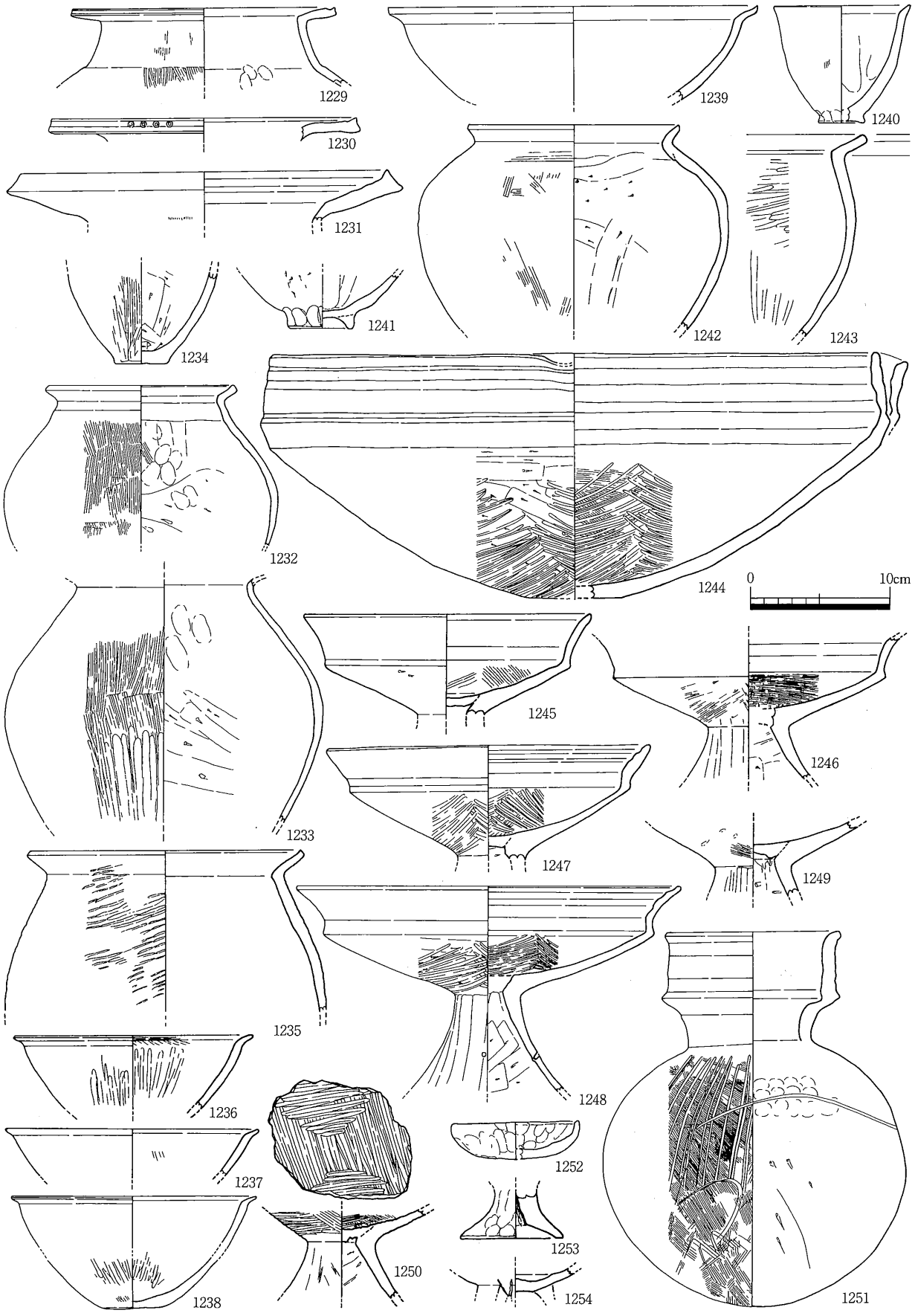
第95図　SR01（X区）出土土器(16)(1/4)



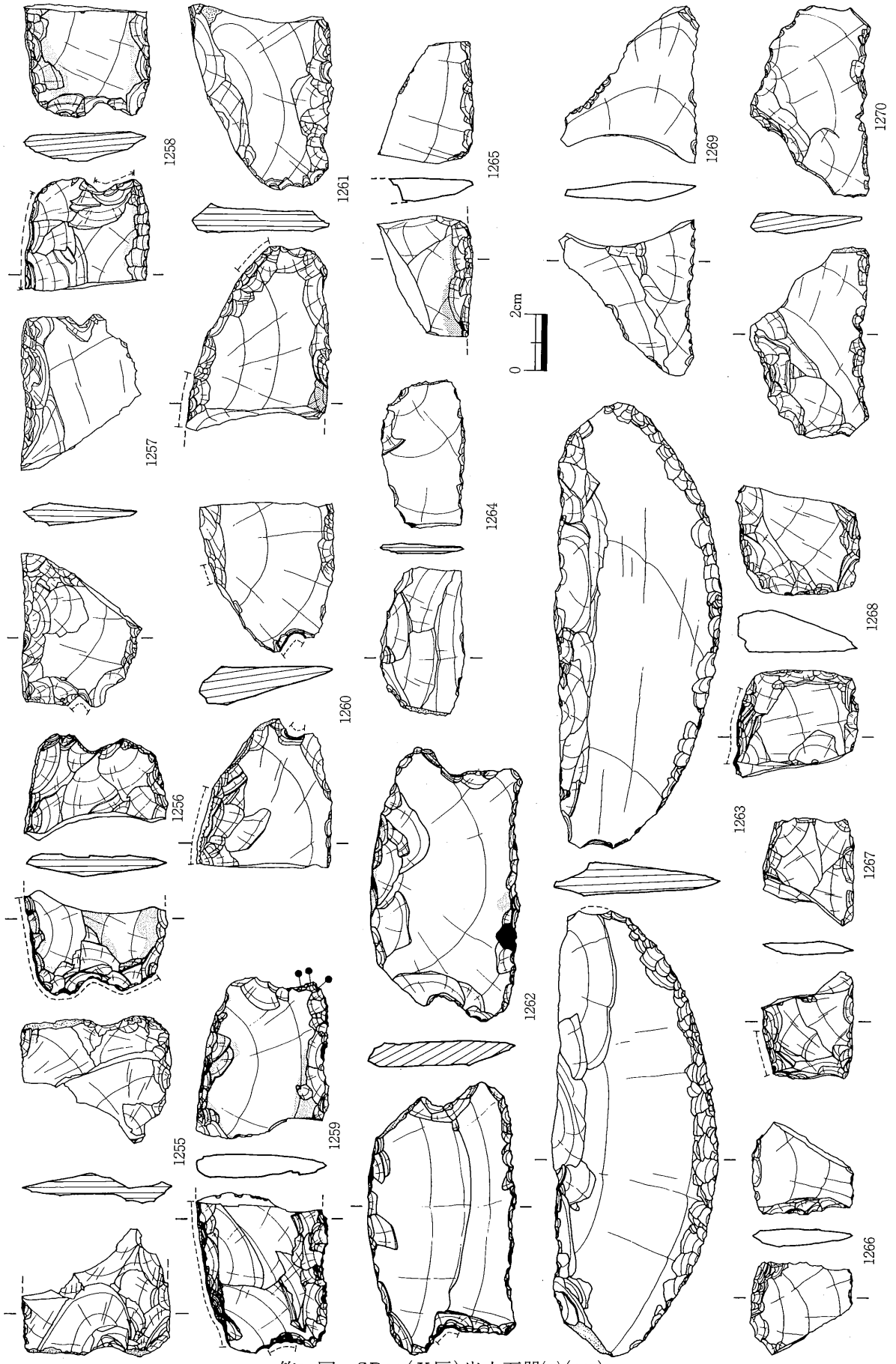
第96図　SR01(X区)出土土器(17)(1/4)



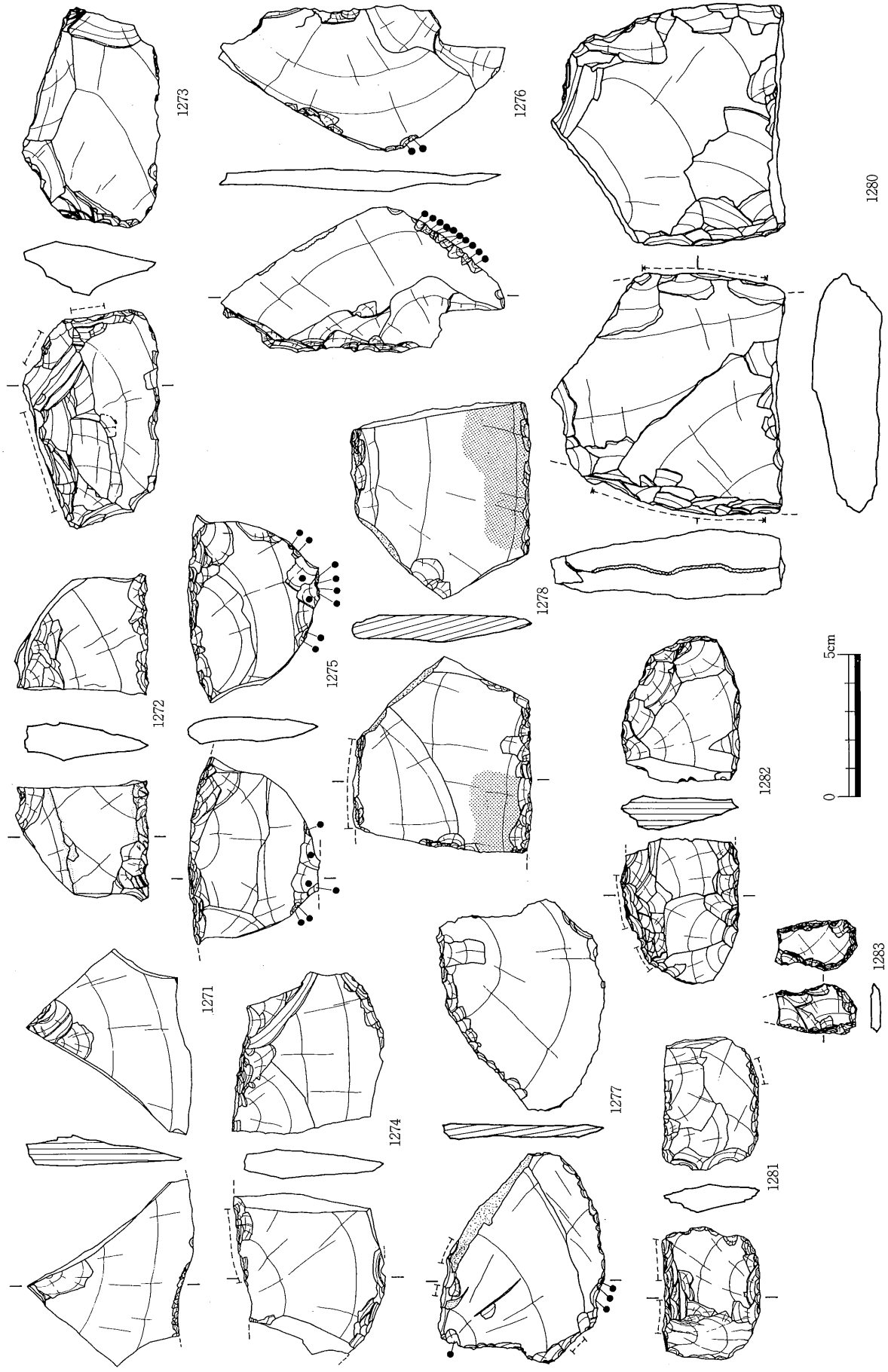
第97図　SR01（X区）出土土器(18)（1/4）



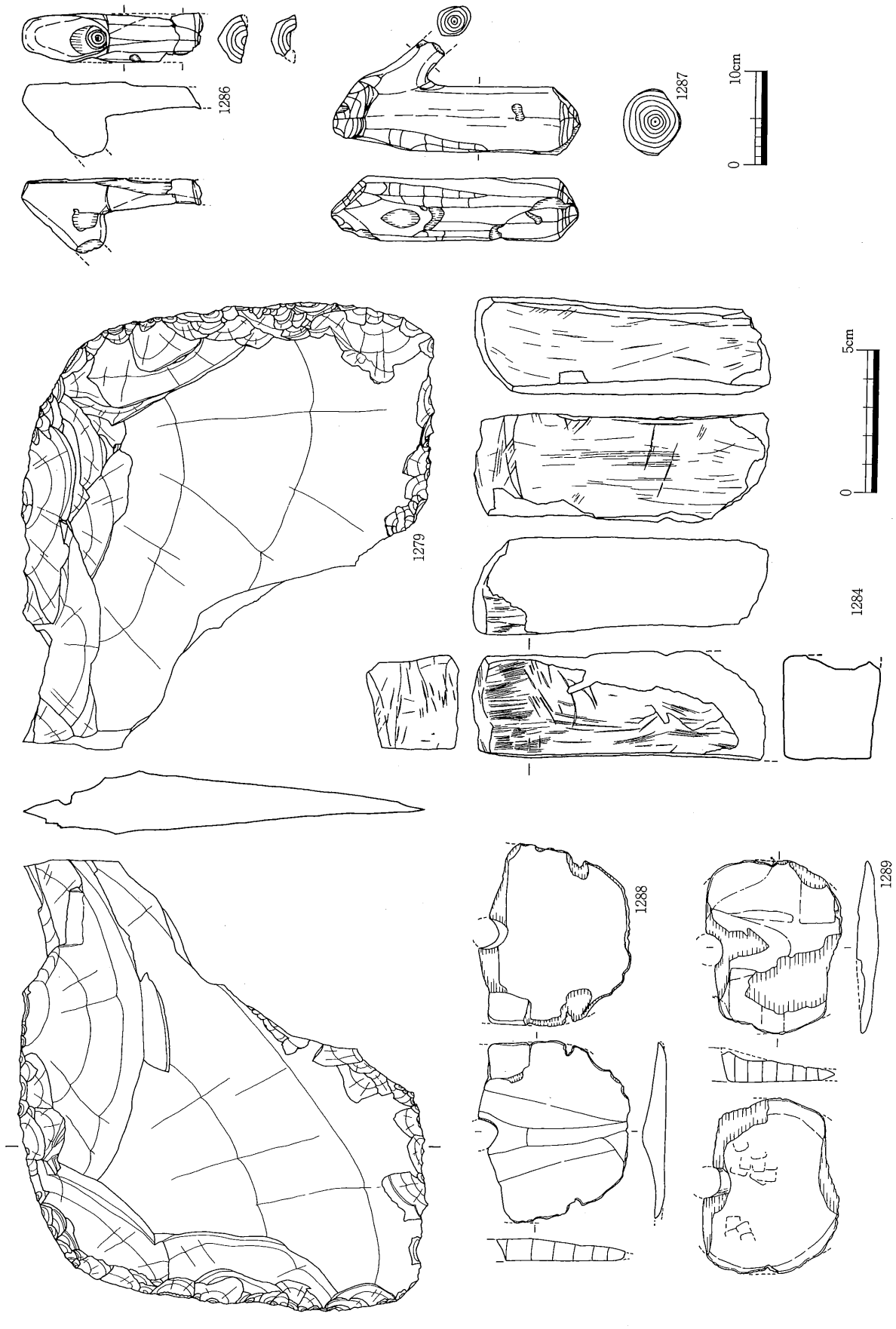
第98図　SR01（X区）出土土器(19)（1/4）



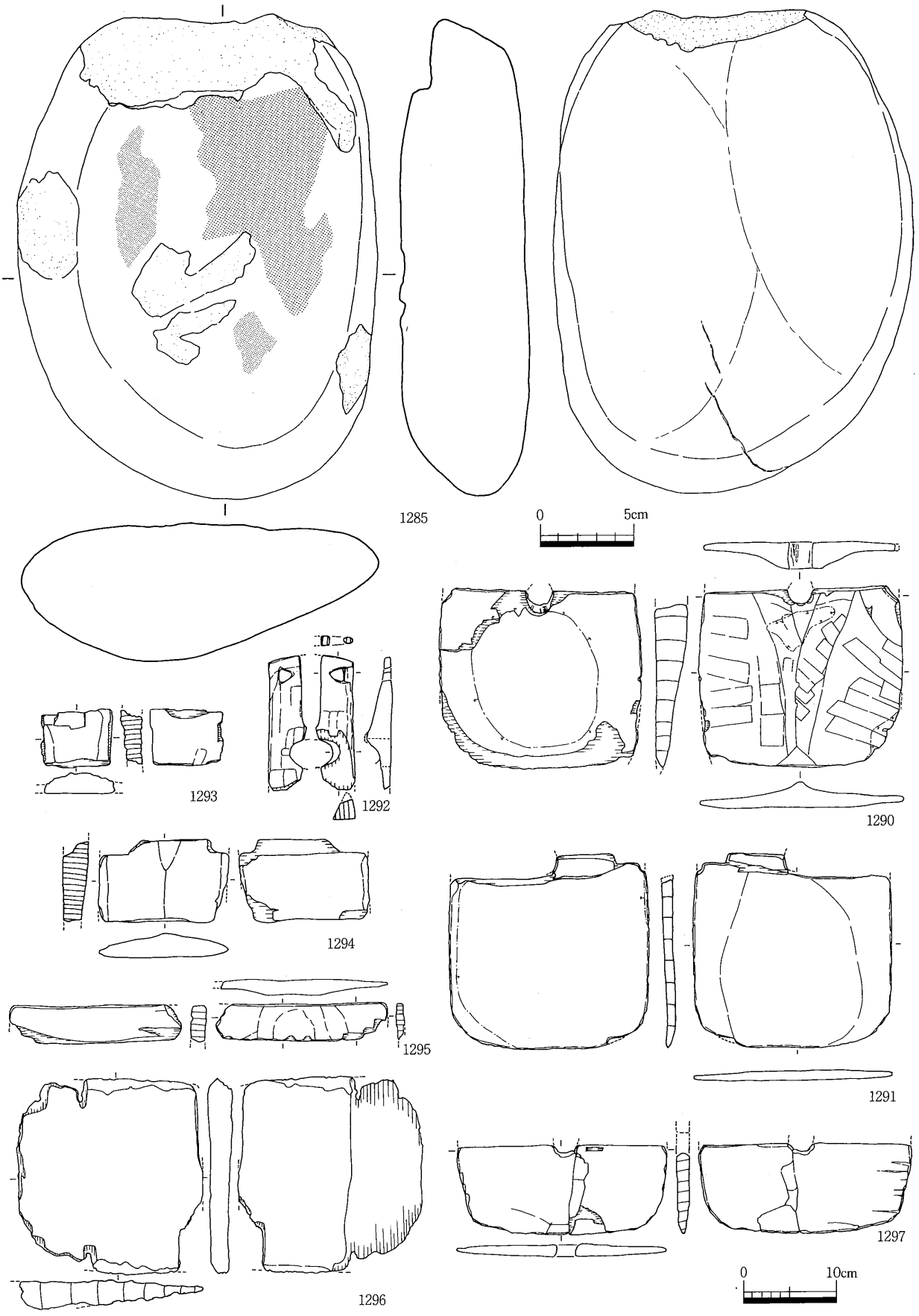
第99図　SR01（X区）出土石器(1)(1/2)



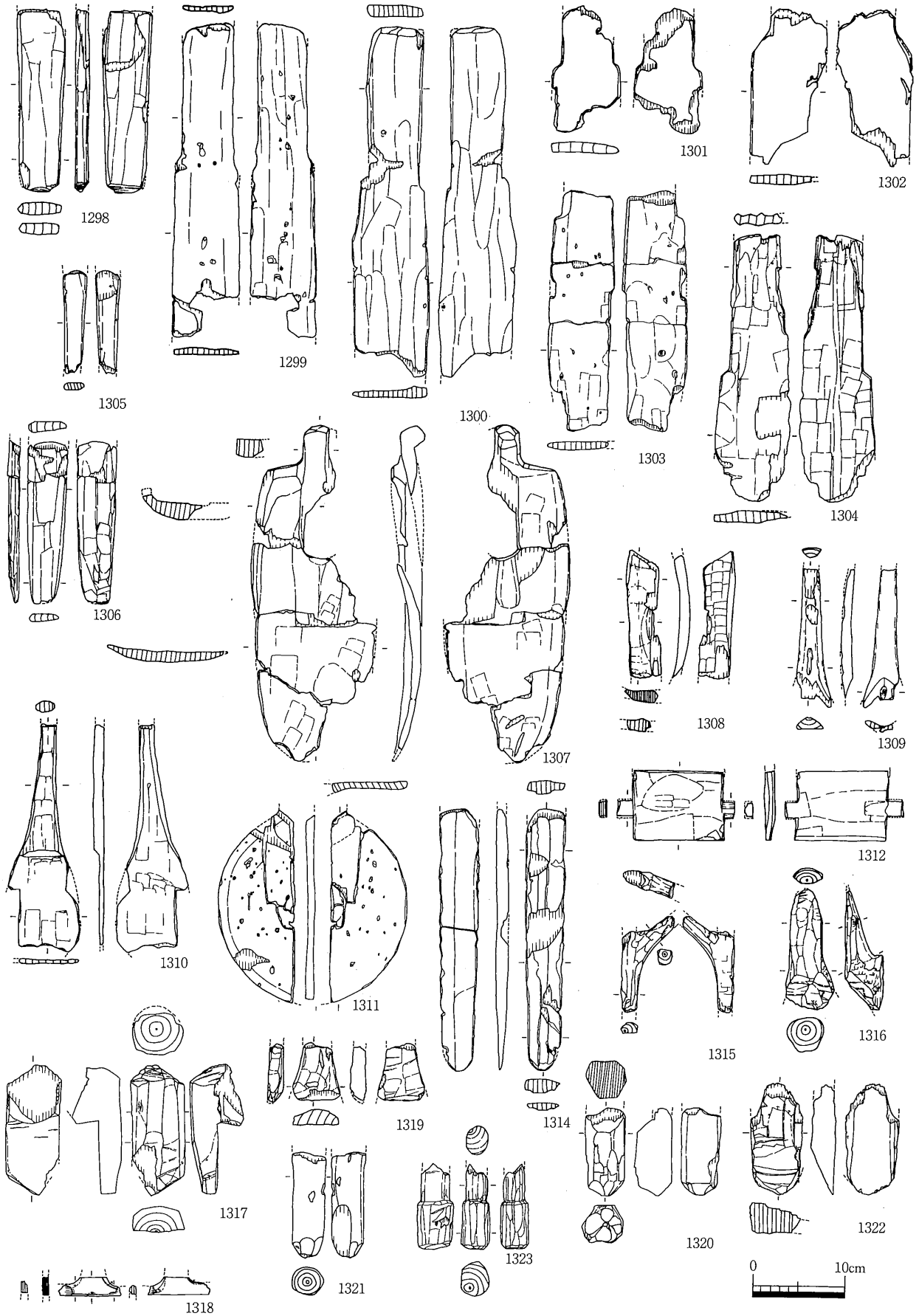
第100図　SR01(X区)出土石器(2)(1/2)



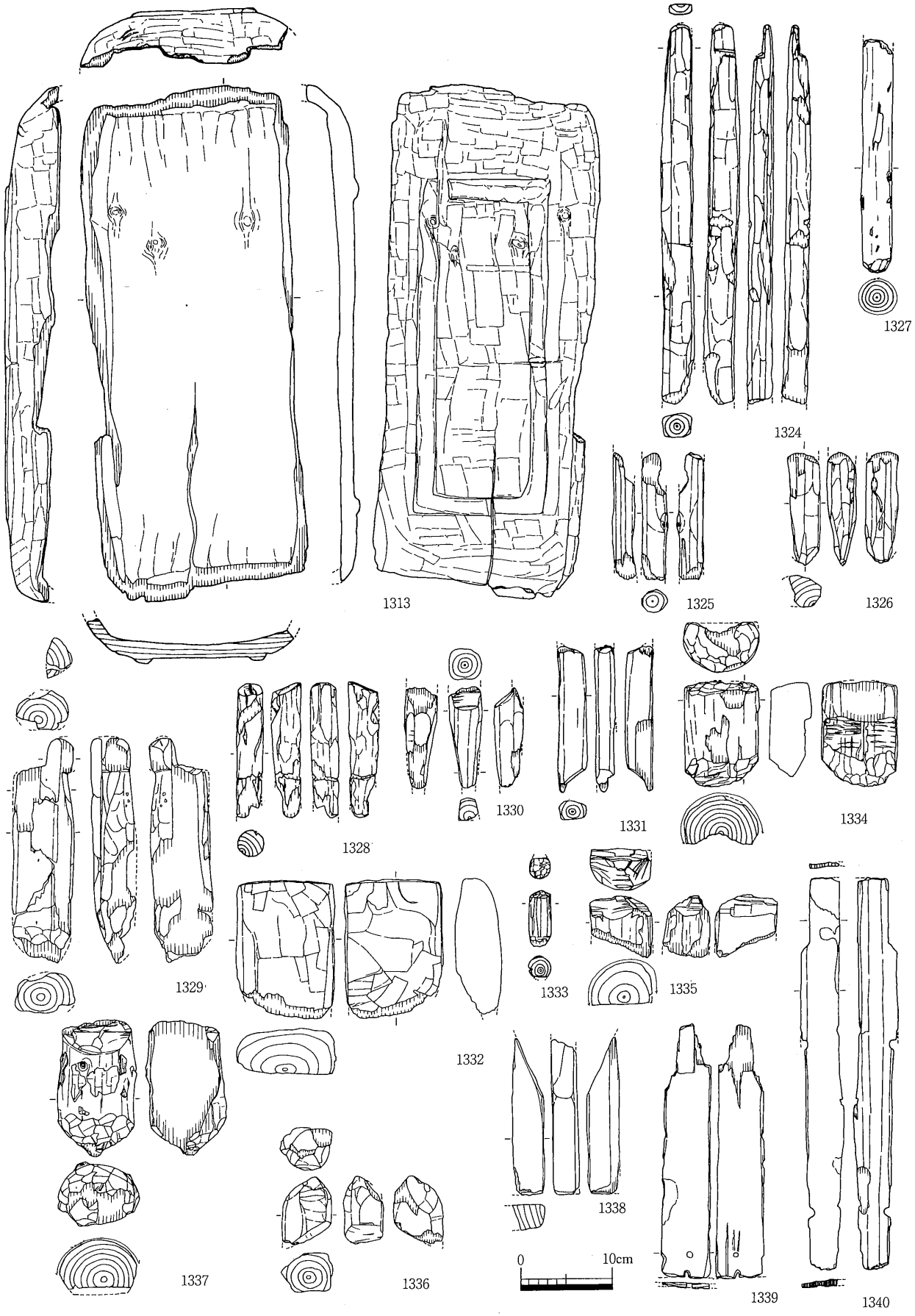
第101図　SR01（X区）出土石器(3)(1/2)及び木器(1)(1/6)



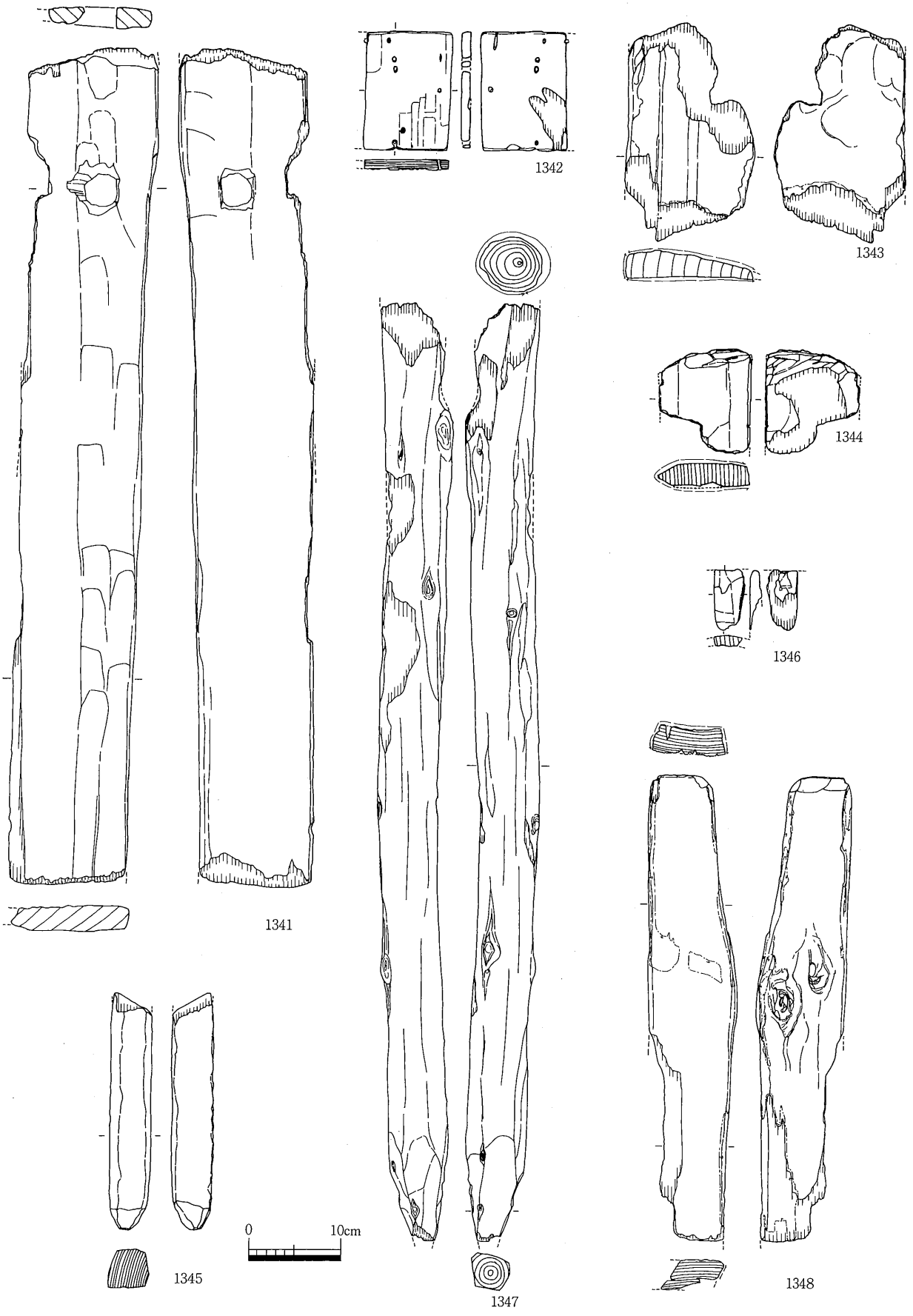
第102図　SR01（X区）出土石器(4)(1/3)及び木器(2)(1/6)



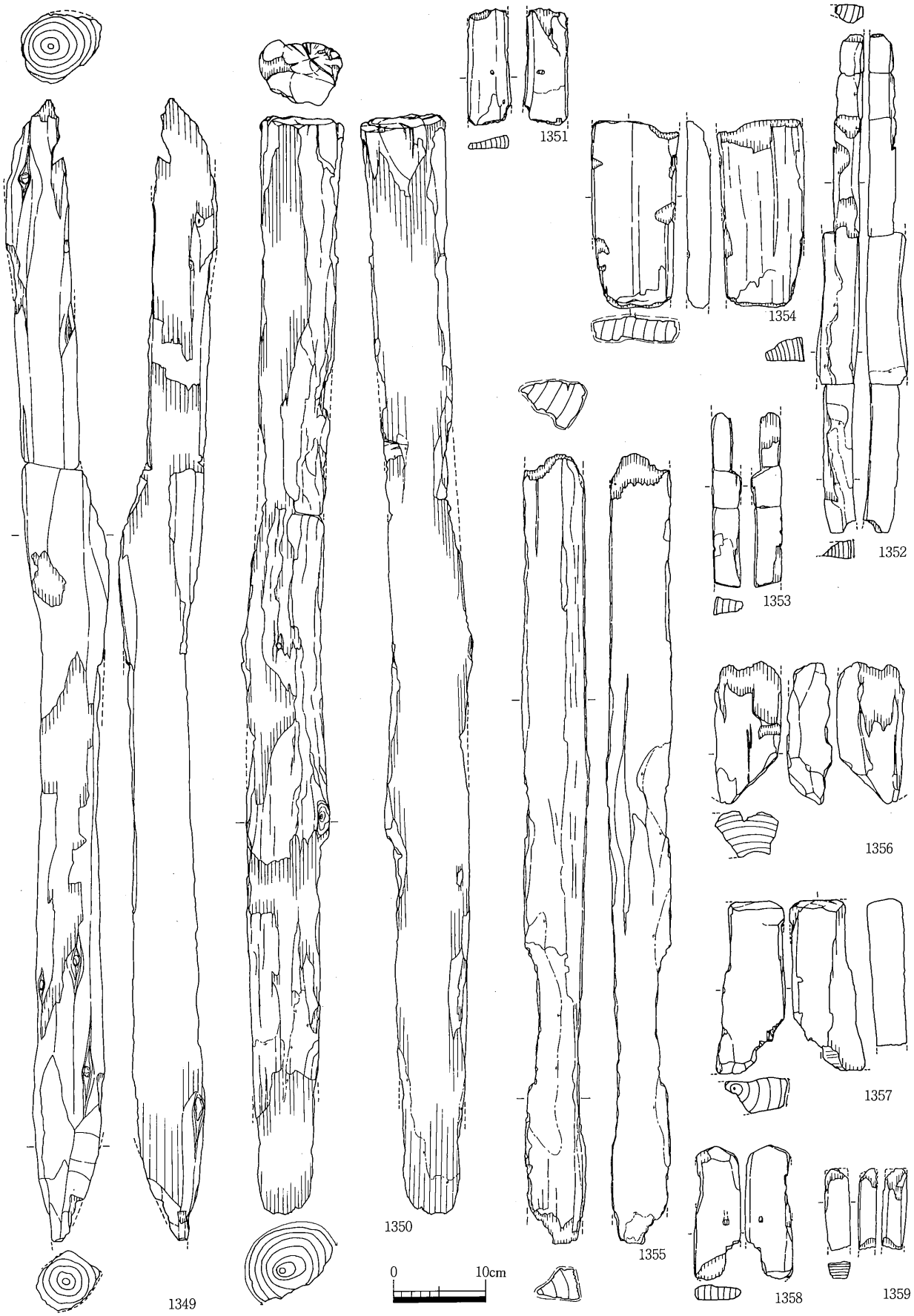
第103図　SR01（X区）出土木器(3)(1/6)



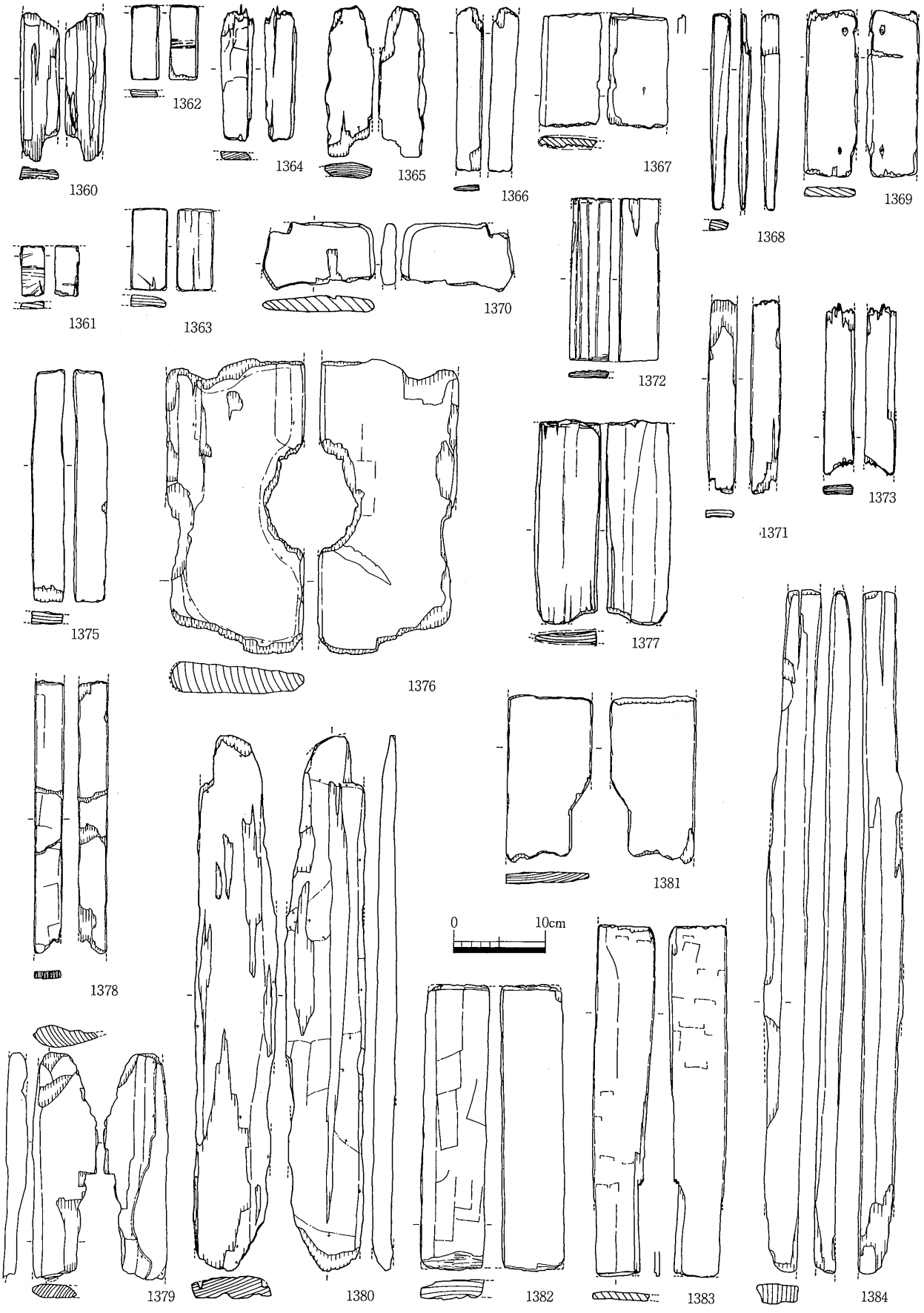
第104図　SR01（X区）出土木器(4)(1/6)



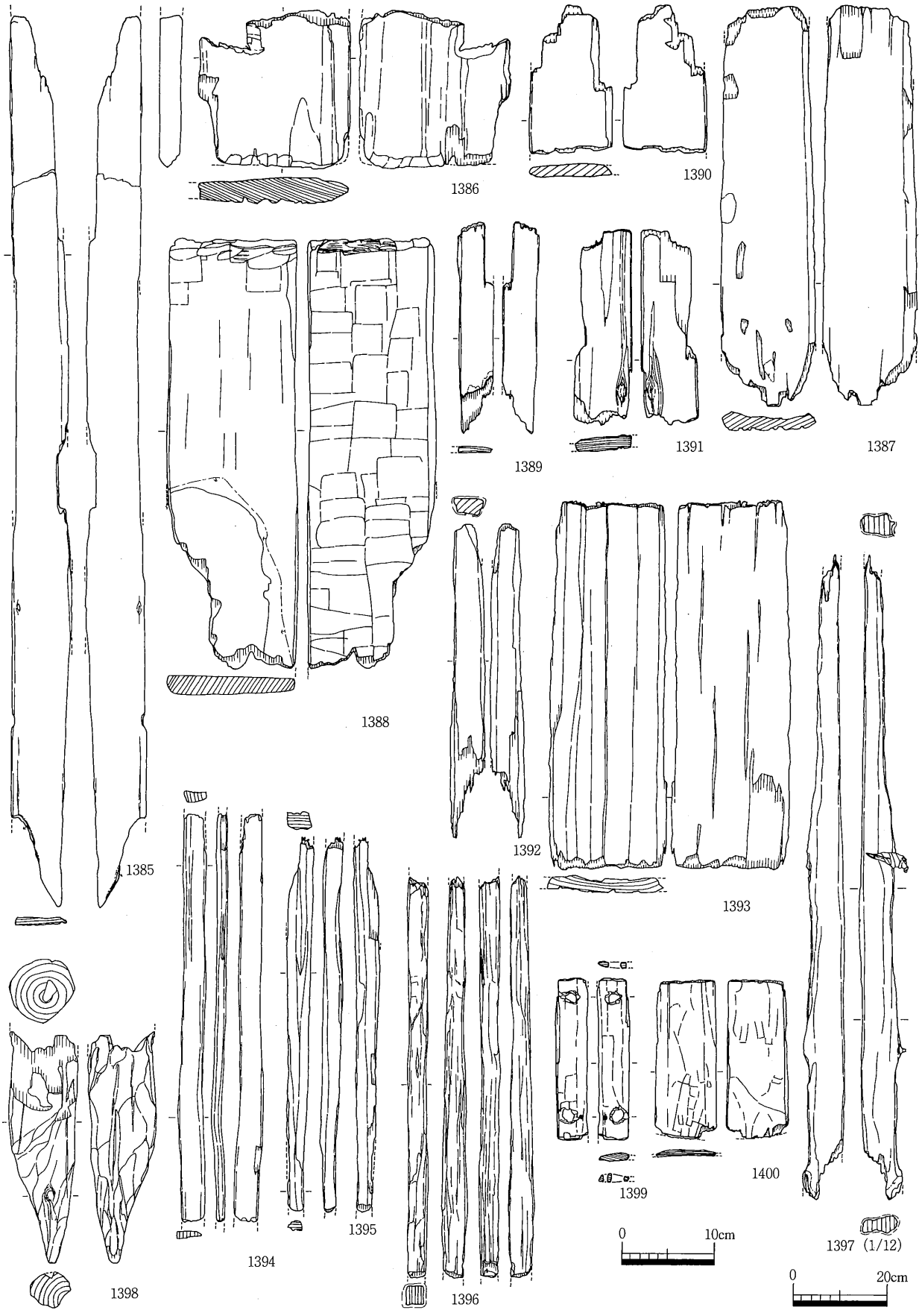
第105図　SR01（X区）出土木器(5)(1/6)



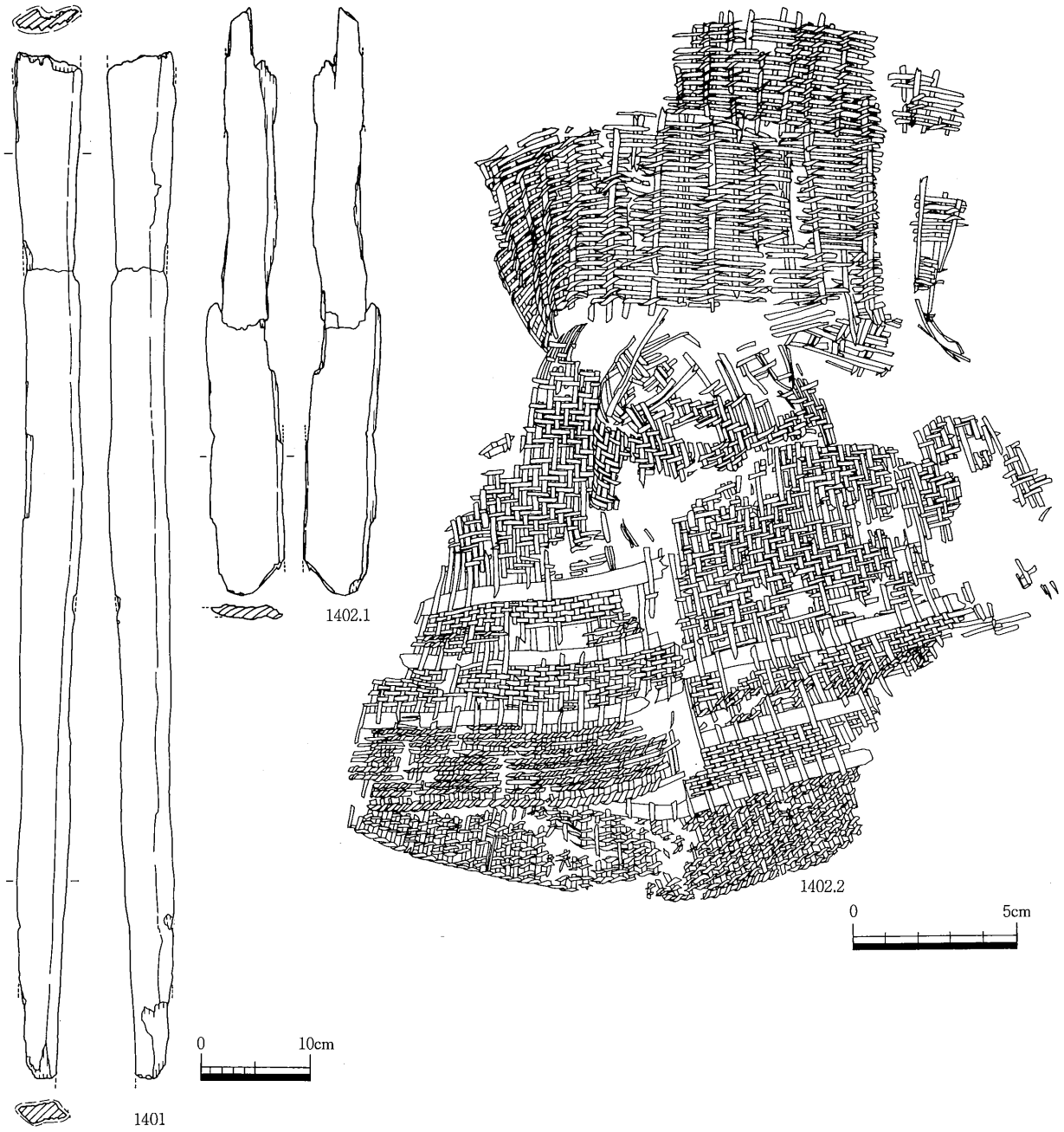
第106図　SR01（X区）出土木器(6)(1/6)



第107図　SR01（X区）出土木器(7)(1/6)



第108図　SR01(X区)出土木器(8)(1/6,1/12)



第109図　SR01（X区）出土木器(9)(1/6)及び編物(1/2)

材である。1337は樹種不明の両端加工材である。1338～1341はヒノキ材と考えられるものである。1342は針葉樹材の孔のある板材である。1343はアカガシ材の割材である。1344～1347は広葉樹環孔材で広放射状組織の無いもので，部分的に加工が認められるものである。1348～1354はクヌギ材と考えられるもので，1348～1350には加工があるが，1351～1354は加工の無い割材である。1355はコナラ材の割材である。1356～1360は広葉樹材で，1356～1358には加工が認められるが，1359・1360は加工の無い割材である。1361～1398はヒノキ材と考えられるものである。1361・1362は使用痕が認められる。1363～1388は加工の認められるものである。1389～1398は加工の無い割材である。1399・1400は針葉樹材の板材である。1401・1402.1は針葉樹材の加工の無い割材である。1402.2は編物である。２個体分あるものと考えられる。一方には明瞭な端部がみられ，袋状の編物の可能性もある。

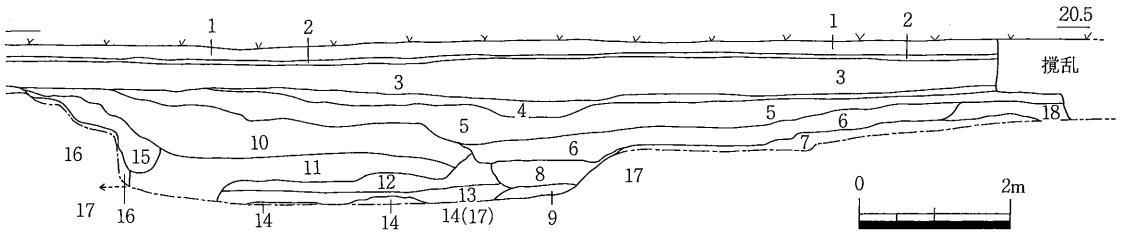
Ⅱ区（第110～124図）

第110図土層断面図のうち，５層以下がＤ層である。３層はＢ層に対応すると考えられる。

1403～1460はＤ層から出土した土器である。1403～1405は弥生時代前期の土器である。1405～1421は壺である。1422～1433は甕である。1434・1435は鉢である。1436～1444は台付鉢である。1438は台部に突帯が付く類例の余りないものである。1441の台部の穿孔は半分が未貫通である。1442の台部の穿孔は１つを除き未貫通である。1444は甕の底部の可能性がある。1445・1446は高杯である。1447は蓋である。1448は特異な形態の鉢である。1449は土器片利用の紡錘車である。1450～1460は弥生時代後期の土器と考えられる。1461はＢ層出土の管状土錘である。1462・1463は出土層位不明の遺物である。

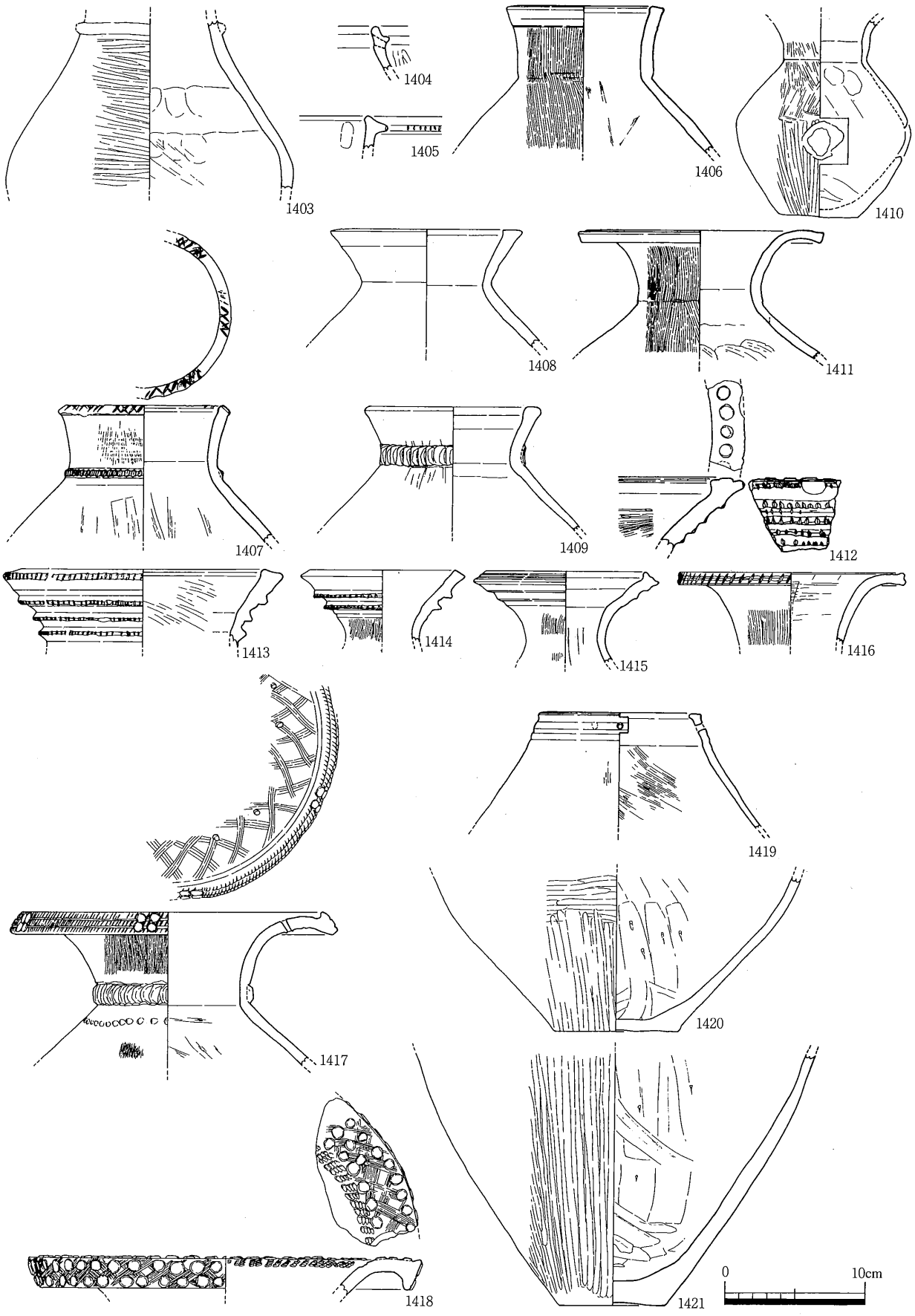
1464～1477はＤ層（黒色粘土）から出土した石器である。1464～1466は打製石庖丁である。1467～1472はスクレイパーである。1473は打製石斧である。1474・1475は楔形石器である。1476は安山岩製の穿孔ある石器である。1477は砂岩製の磨滅ある石器である。1478～1483はＢ層（灰褐色粘土）から出土した石器である。1478は石錐である。1479は打製石庖丁である。1480～1482はスクレイパーである。1483は打製石斧で，表面に鉄分の沈着が著しい。1484は出土層位不明の石槍である。

1485～1655はＤ層から出土した木器である。1485は広葉樹環孔材，1486はアカガシ材の斧膝柄である。1485は台部に平坦面が作り出されているものの面積は小さく，石斧が装着されるかどうかはやや問題である。1486は先すぼまりの台部であり，袋状鉄斧の装着されるものであろう。1487はアカガシ材の広鍬である。刃先はまだ平坦面を持っていることから，未製品と考えられる。1488はアカガシ材の狭鍬である。1489～1496はアカガシ材の広鍬状木製品である。1497はアカガシ材の泥除である。この泥除には柄孔及び両脇の穿孔の他に，ほぼ中心にも孔があり，これに棒が刺さった状態で出土した。おそらくこれは，泥除の厚さが薄いため鍬との装着角度が安定しないので，棒を柄につなぐ方法等によって，装着の安定を図ったものではないかと考えられる。1498はアカガシ材の板材で，鍬等の原材である可能性がある。1499～1506は曲柄鍬である。小破片のものもアカガシ材であることから，曲柄鍬と考えた。1507は広葉樹環孔材の竪臼である。全面炭化しているため，これが完成品かどうかは不明である。また，内面は光沢があり，一見使用痕にも見えるが確実ではない。通常この時期の竪臼は胴がくびれるものであることから，これはやはり未製品として考えておきたい。1508はアカガシ材の横槌と考えられる。1509はアカガシ材の柄である。1510・1511はクスノキ材の小型臼である。1512はサクラ属材の木器で，表面には加工痕あるいは使用痕と考えられる痕跡がある。中央部が厚くなることからこれも1311と同様蓋と考

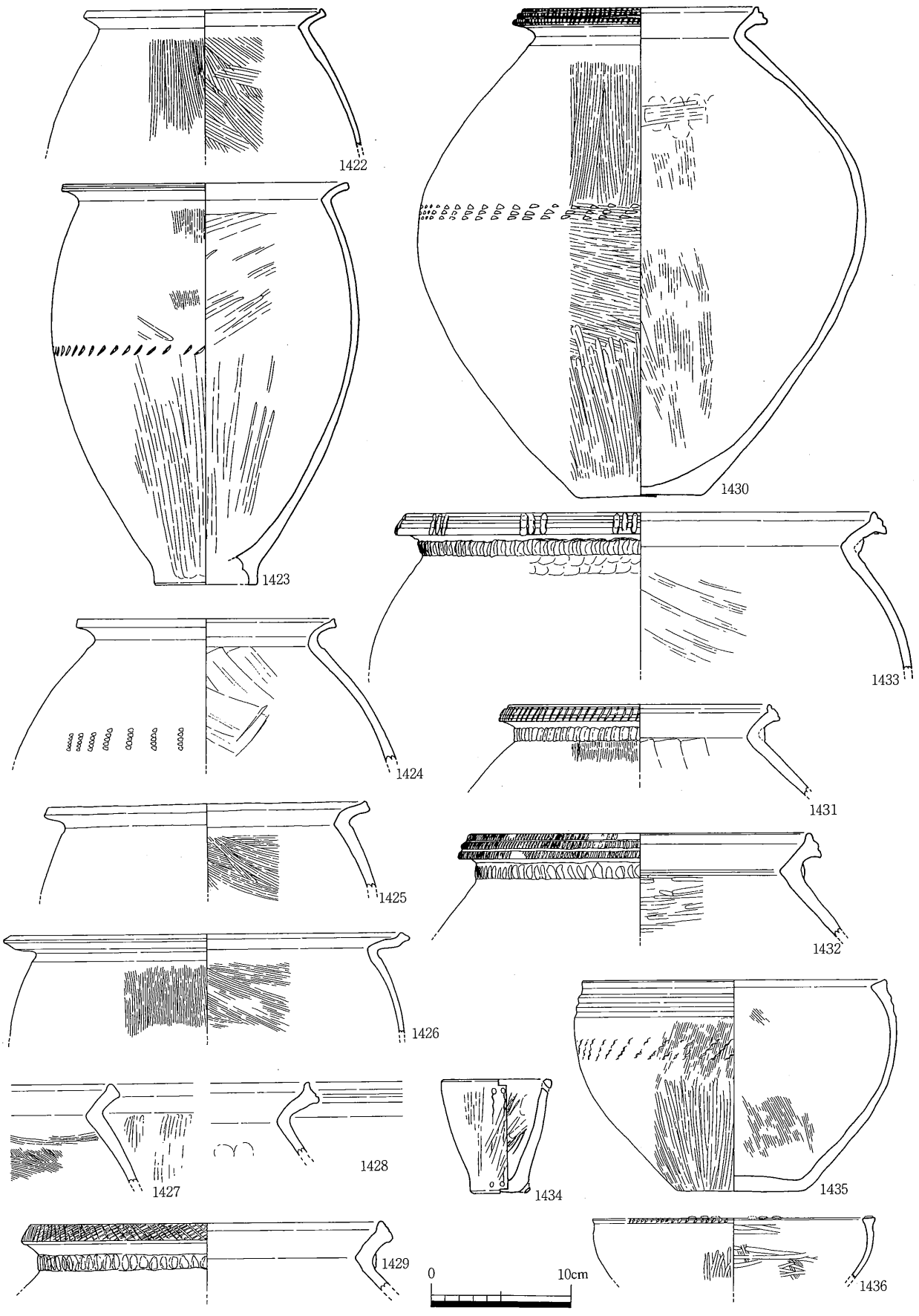


1．暗灰色粘質土（耕作土）
2．黄褐色粘質土（床土）
3．灰褐色粘土
4．暗灰褐色粘土
5．黒褐色粘土 ）植物遺存体多い
6．黒褐色混細砂粘土 ）
7．灰色細砂
8．灰茶色中砂 ）植物遺存体多い
9．灰色粘土 ）
10．黒褐色混細砂粘質土（1～10cm大の小亜円礫多い）
11．淡黒褐色混細砂粘質土（10～20cm大の亜円礫多い）
12．黒褐色混細砂粘質土（20cm大の亜円礫少し）
13．暗灰色粘土
14．灰色砂礫（10～30cm大の亜角・亜円礫多い）
15．暗灰色粘土
16．明黄色粘土
17．灰色砂礫（14と同じ）
18．黒褐色混細砂粘土（3～15cm大の亜角礫少し）

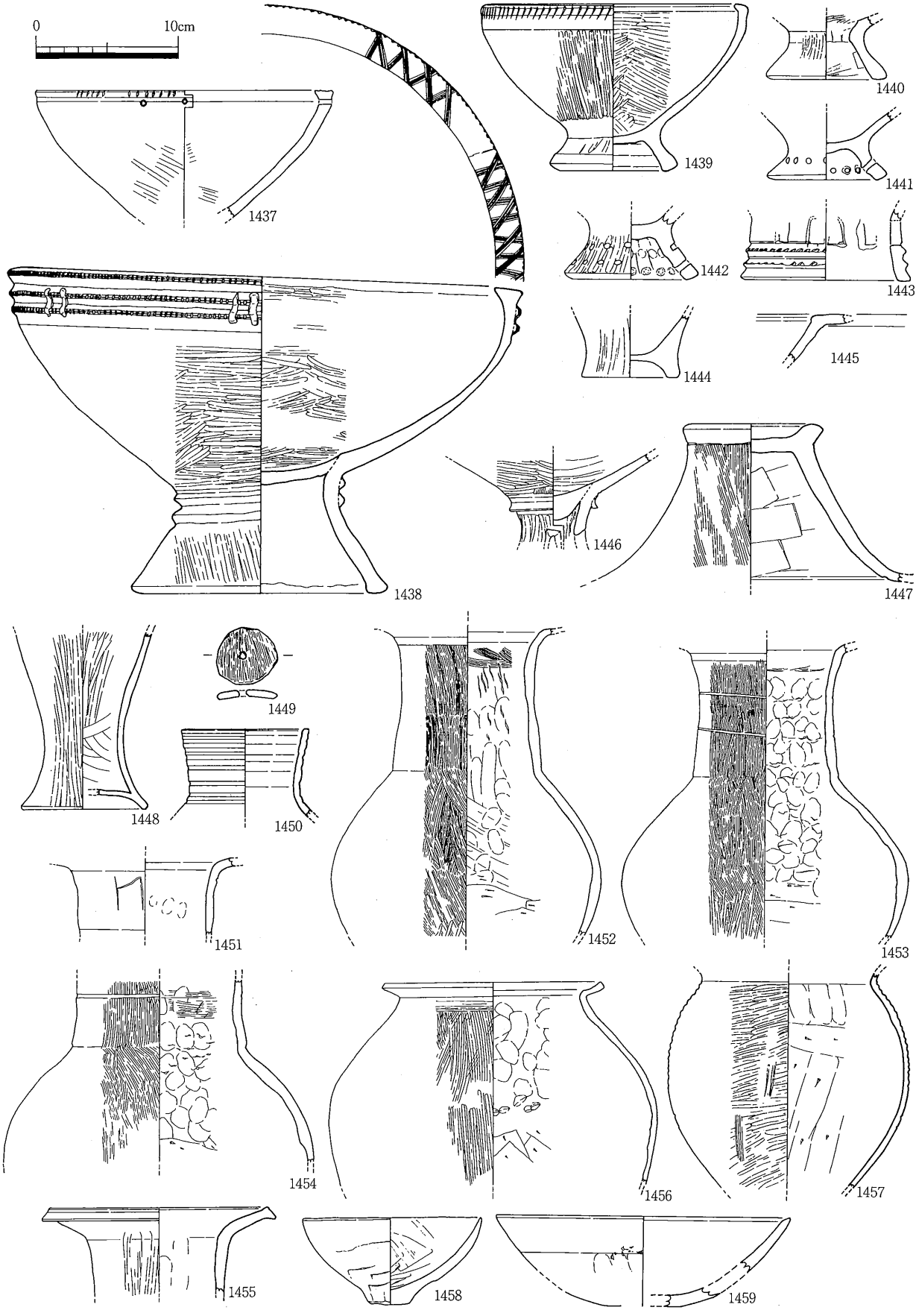
第110図　SR01（Ⅱ区）断面図（1/100）



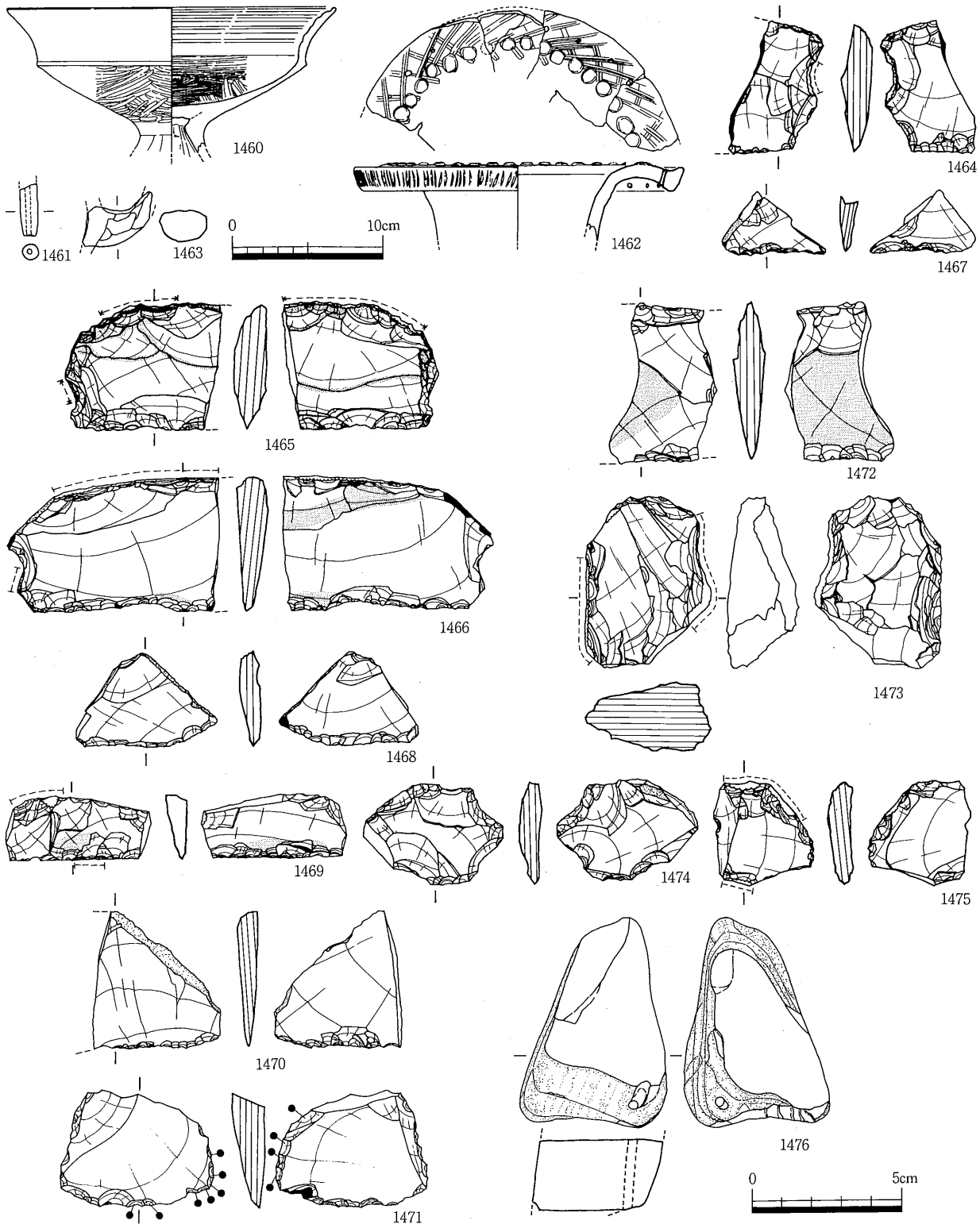
第111図　SR01(Ⅱ区)出土土器(1)(1/4)



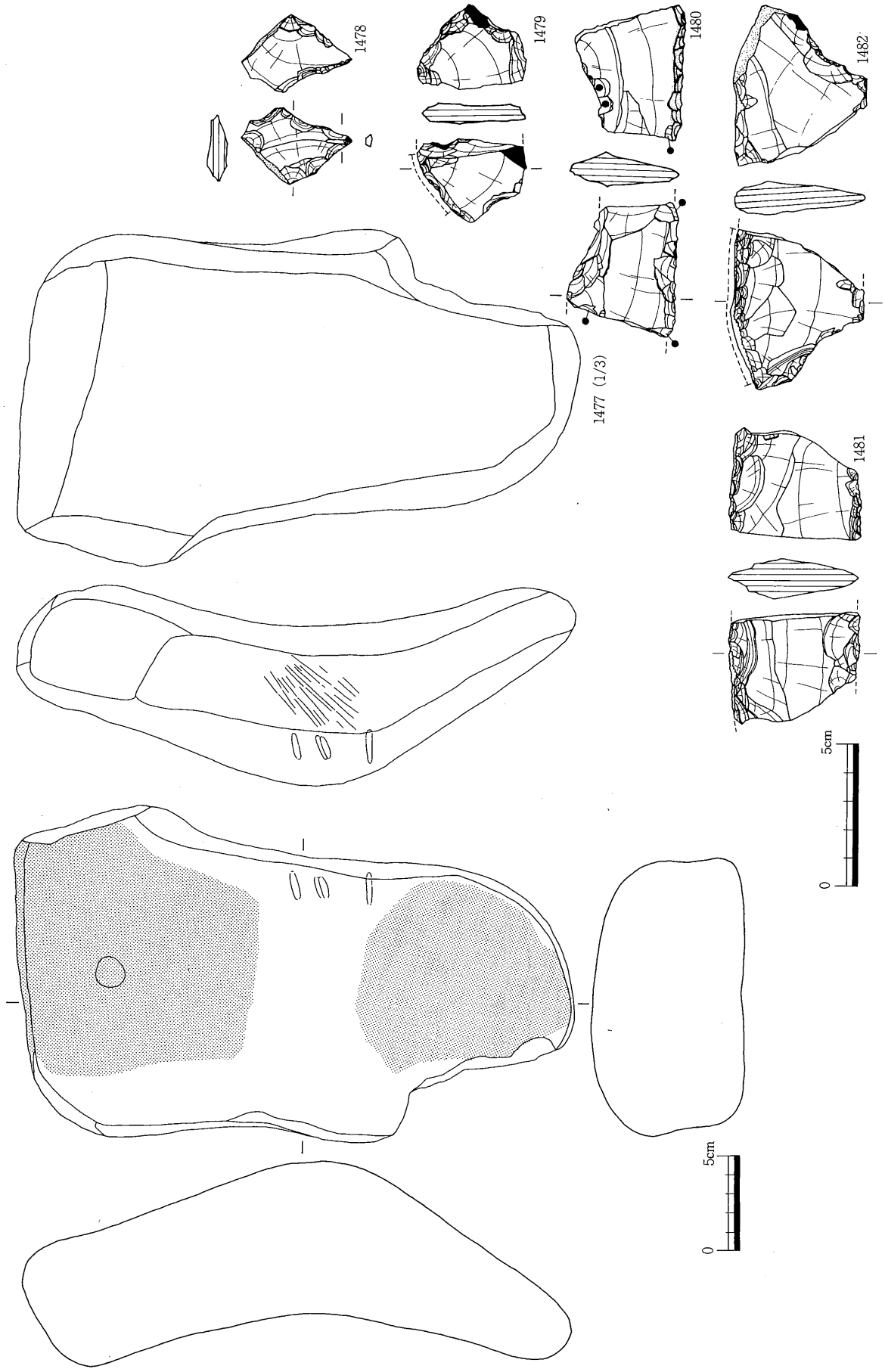
第112図　SR01(Ⅱ区)出土土器(2)(1/4)



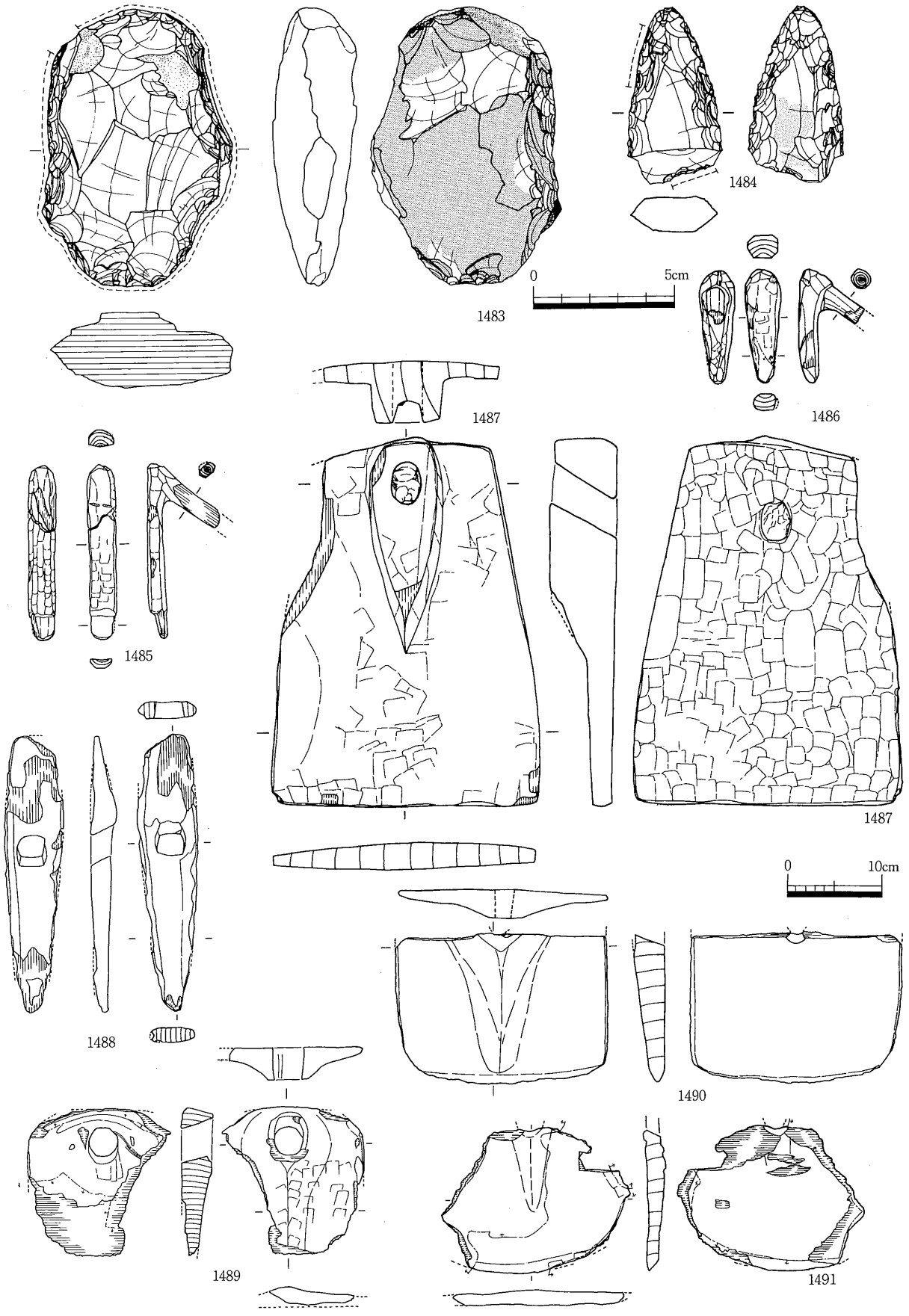
第113図　SR01(Ⅱ区)出土土器(3)(1/4)



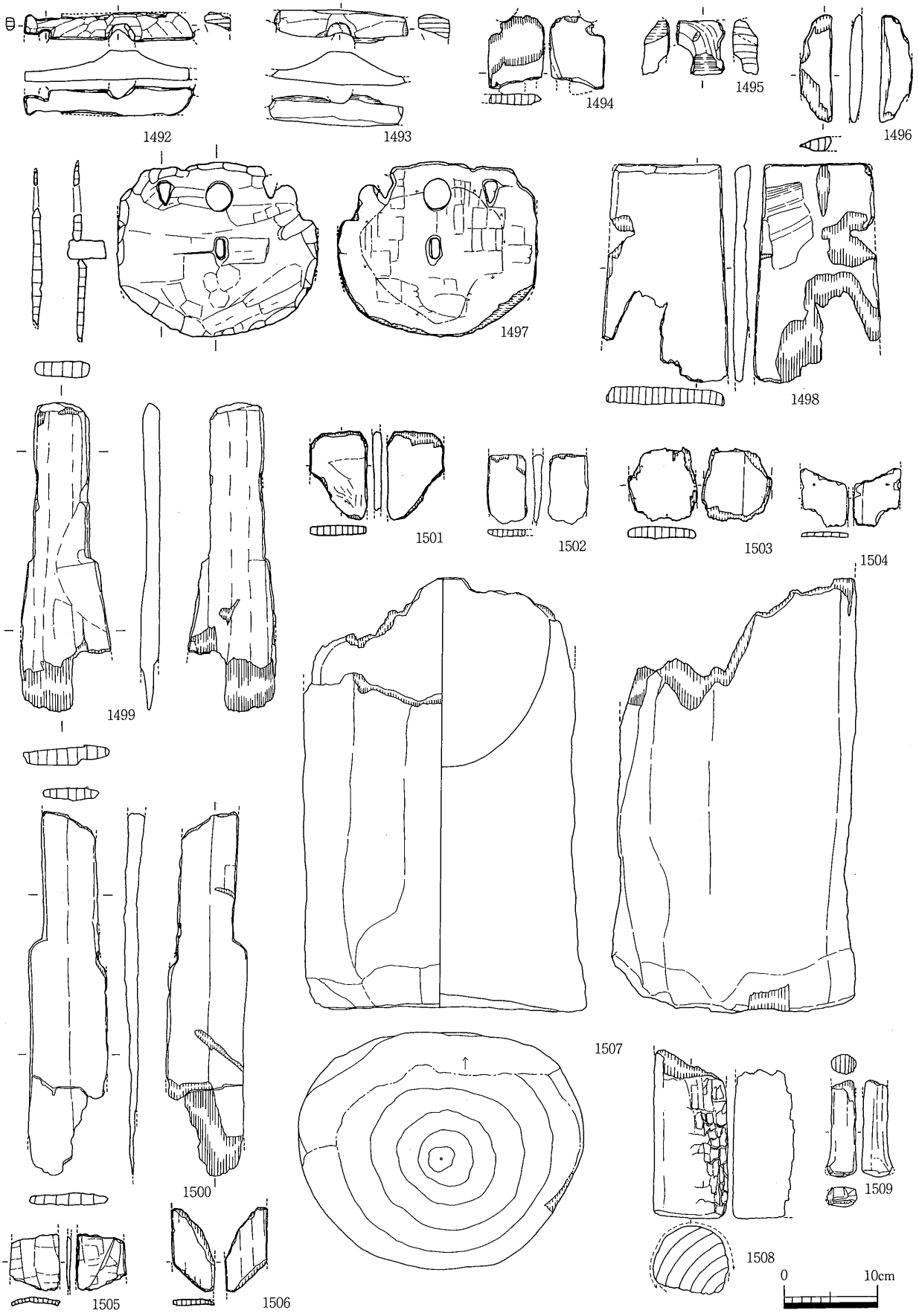
第114図　SR01(Ⅱ区)出土土器(4)(1/4)及び石器(1)(1/2)



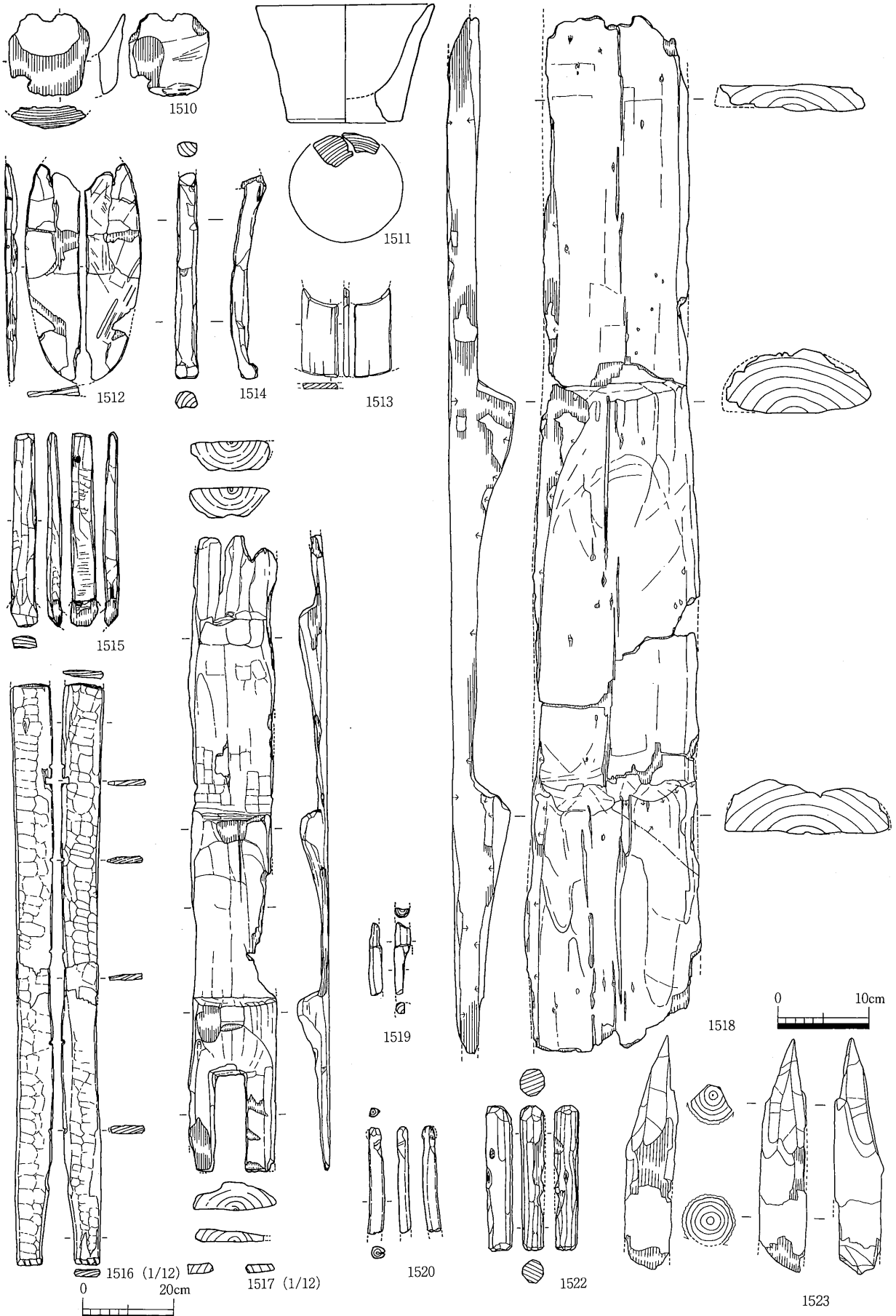
第115図　SR01(Ⅱ区)出土石器(2)(1/2,1/3)



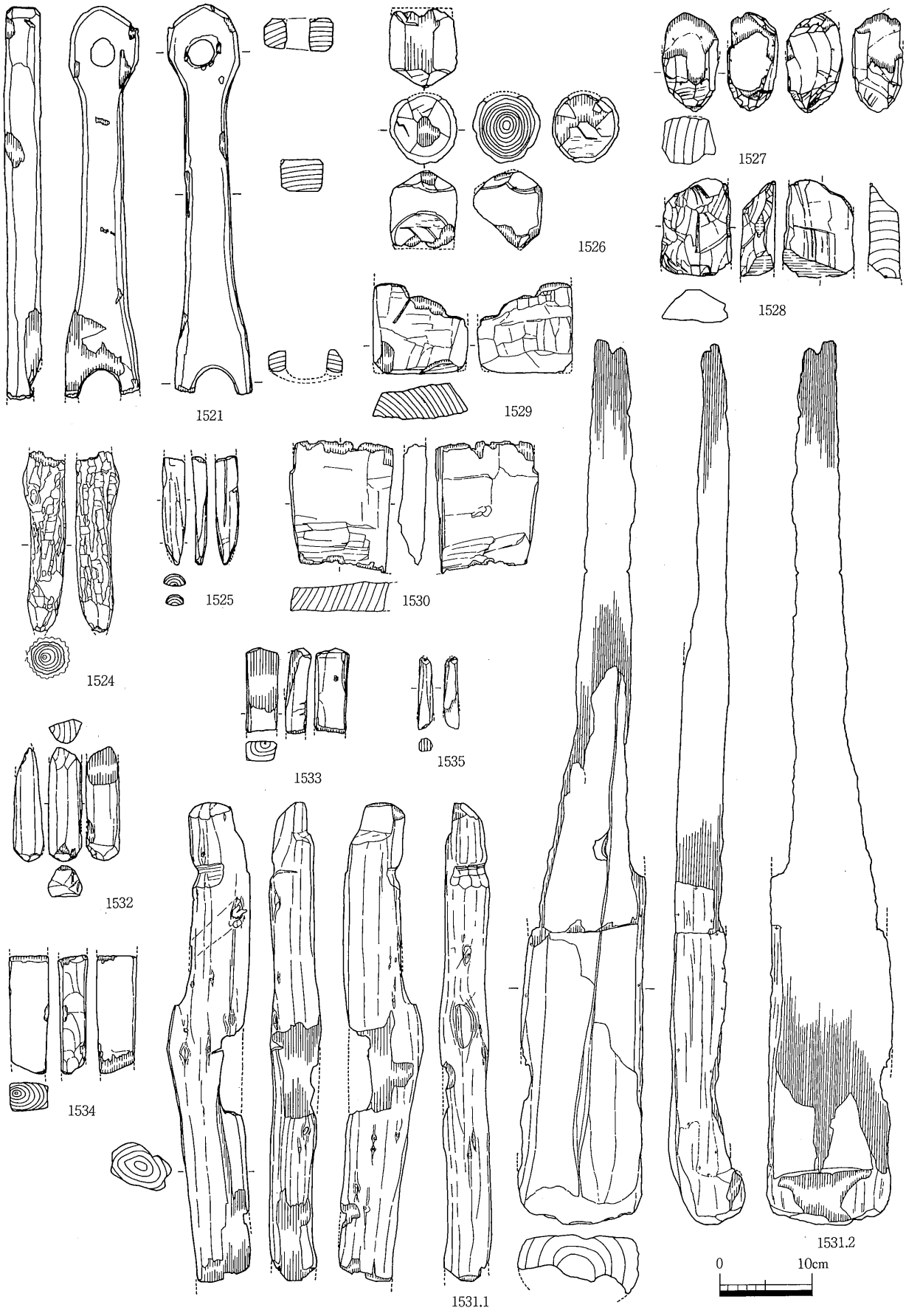
第116図　SR01(Ⅱ区)出土石器(3)(1/2)及び木器(1)(1/6)



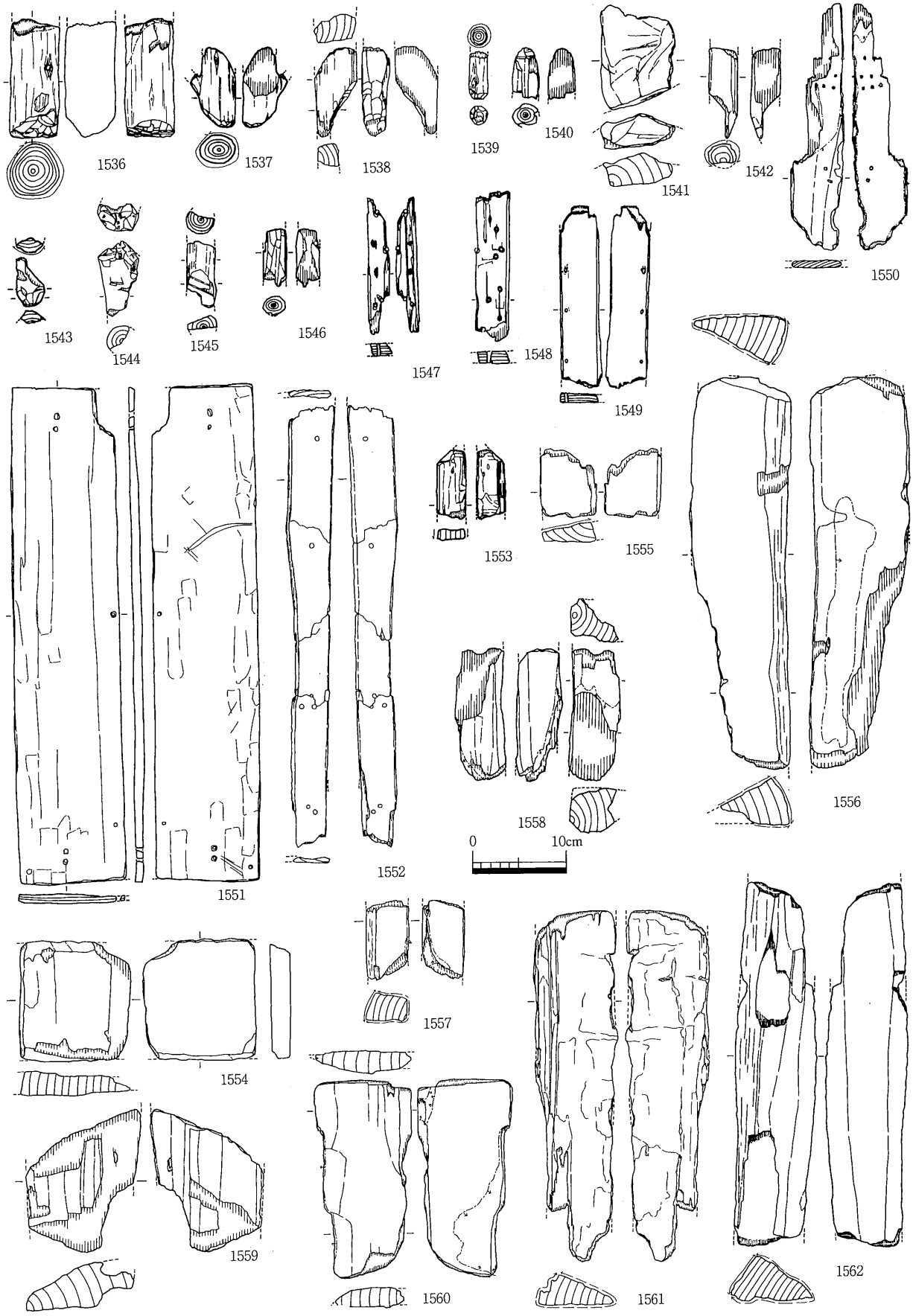
第117図　SR01(Ⅱ区)出土木器(2)(1/6)



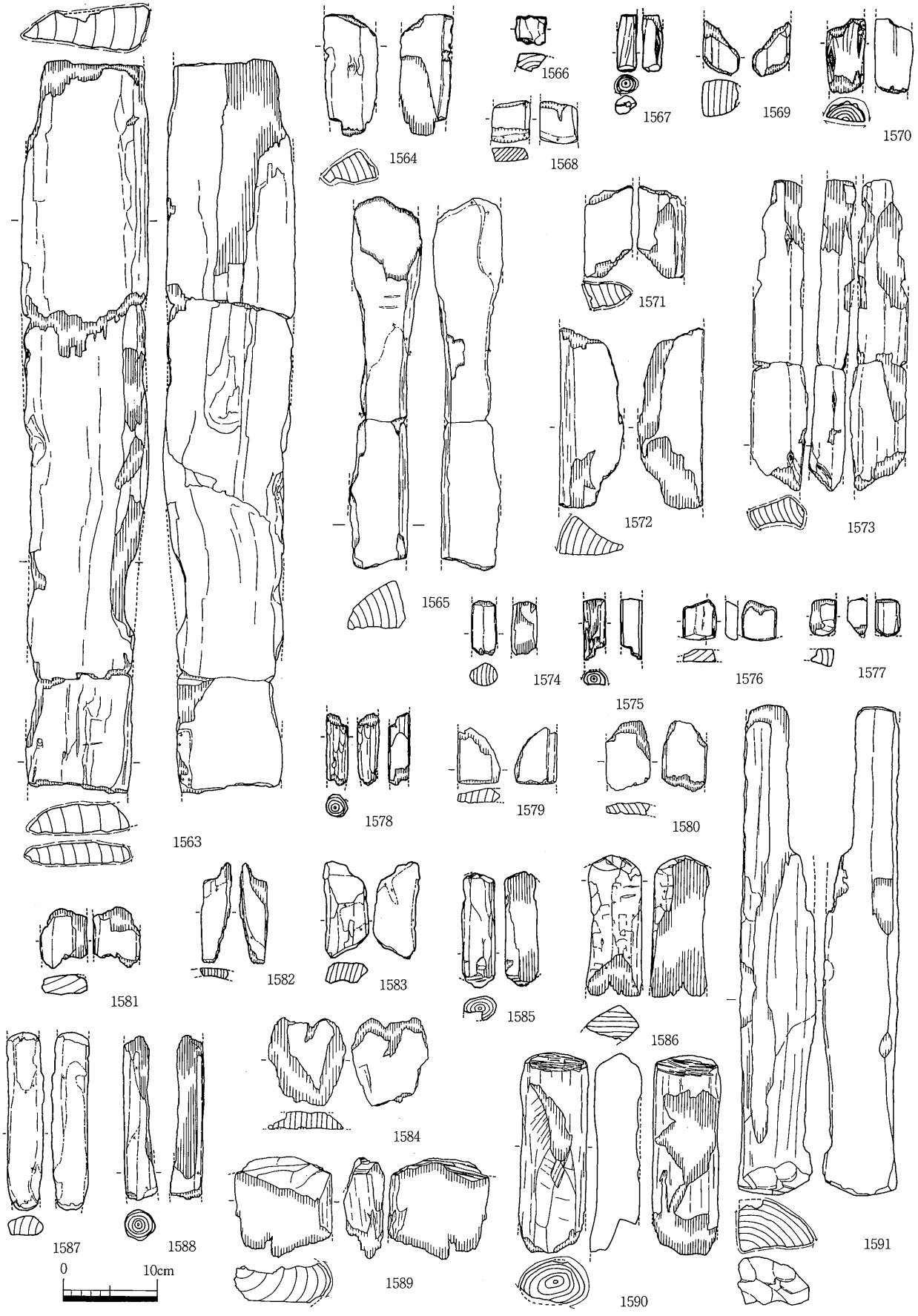
第118図　SR01(Ⅱ区)出土木器(3)(1/6,1/12)



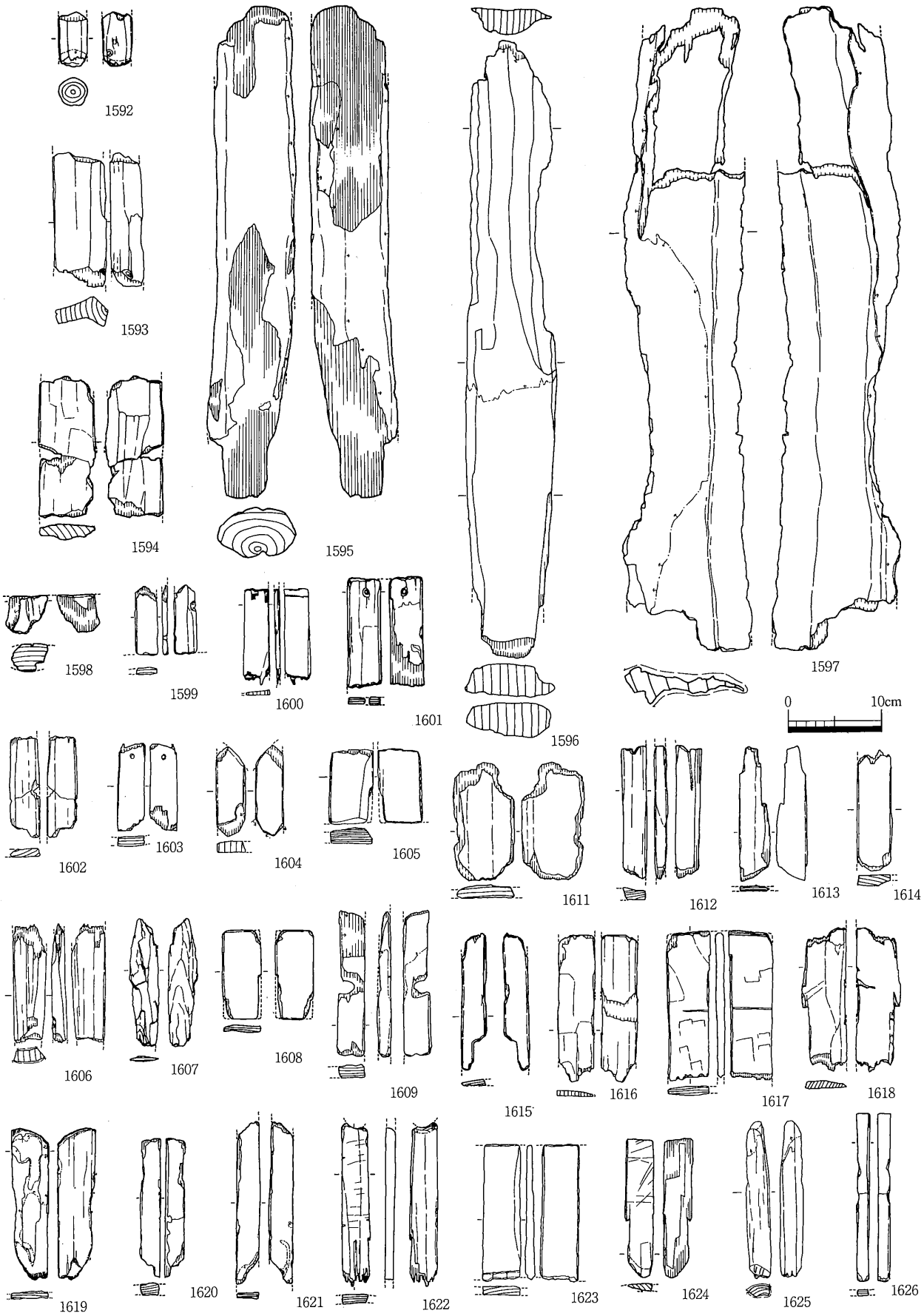
第119図　SR01(Ⅱ区)出土木器(4)(1/6)



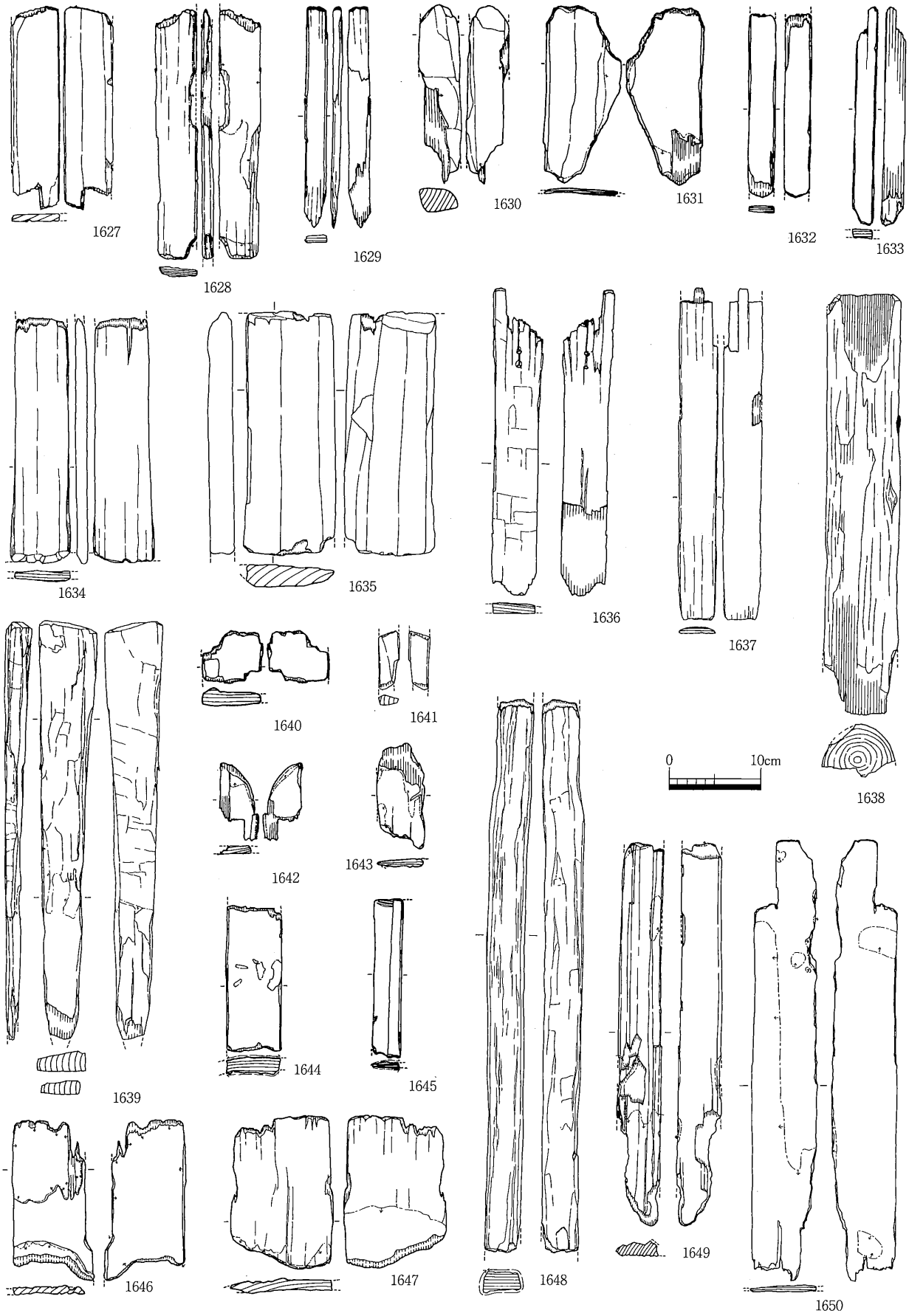
第120図　SR01(Ⅱ区)出土木器(5)(1/6)



第121図　SR01(Ⅱ区)出土木器(6)(1/6)

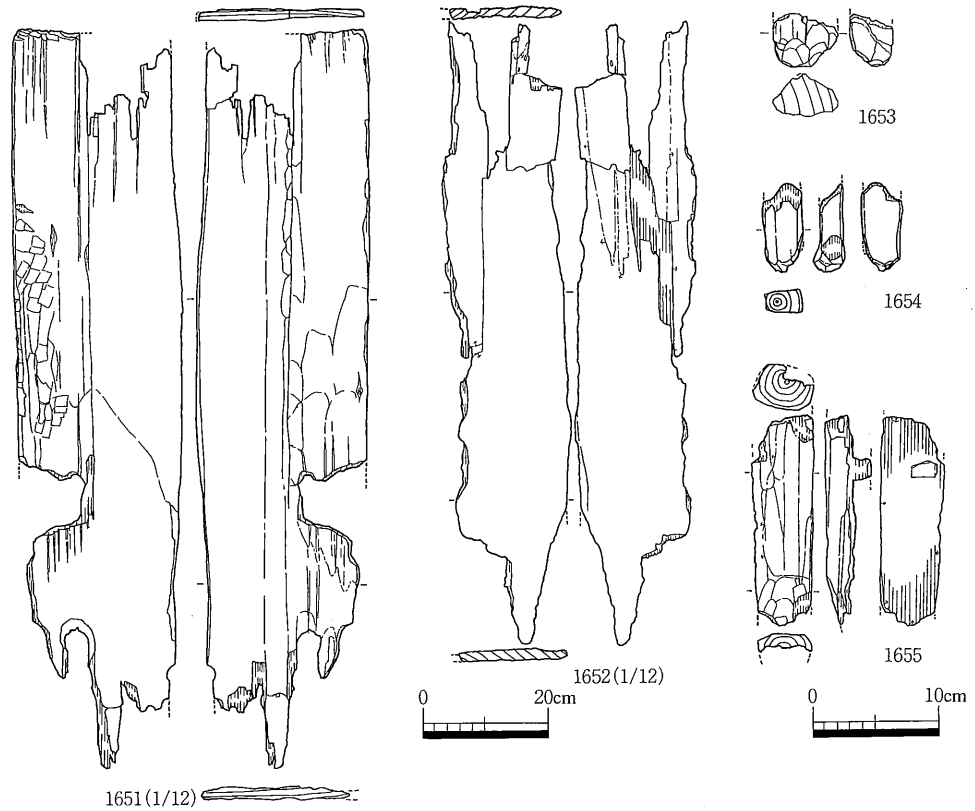


第122図　SR01(Ⅱ区)出土木器(7)(1/6)



第123図　SR01(Ⅱ区)出土木器(8)(1/6)

えられる。1513はヒノキ材で曲物底板状のものの中央に大きな孔があいていることから，これも1993と同様蓋かあるいは蒸器のサナと考えられる。1514・1515は竪杓子の柄と考えられ，1514はクスノキ材，1515はイヌガヤ材である。1516は予備調査時に出土したものであるが，このときの所見では弥生時代後期の土器と一緒に出土したとされている。ヒノキ材の



第124図　SR01(Ⅱ区)出土木器(9)(1/6·1/12)

編み台目盛り板である。ほぼ19cm間隔でくぼみがある。一端は折れている。1517・1518は梯子である。1517はサカキ材で，1518はスダジイ材である。1519・1520は弓状に端部を作り出しもので，1519はサカキ材，1520はアカガシ材である。1521はアカガシ材で用途不明木器である。1522はヤマグワ材で両端加工している。1523・1524はクヌギ材と考えられる杭である。1525は広葉樹材で，先端が加工している。1526はクヌギ材で両端を鉄器で加工している。全体的に炭化している。1527はヤマグワ材で鉄器により両端加工している。1528・1529は広葉樹材で鉄器による加工が認められる。1530はヒノキ材で，鉄器による加工が認められる。大きな板材の端部と考えられる。1531.1はスダジイ材で，端部に紐掛け用とも考えられるくぼみがある。1531.1はタブノキ属材で，破損が著しく一端に加工による段が認められる。1532はツブラジイ材の角材である。1533・1534はタブノキ属材の角材である。1535はアカガシ材の加工木である。1536は広葉樹環孔材で広放射状組織のない材で，鉄器による加工が明瞭に残る。1537～1539はクヌギ材と考えられるものである。1540～1546は広葉樹材の加工木である。1544・1545は鉄器による加工が明瞭に残る。1547～1551はヒノキ材と考えられる板材で孔のあいているものである。1552はスギ材の板材と考えられる。1553・1554はアカガシ材で，1553は又鍬の刃先の可能性がある。1554は広鍬状木製品の可能性もあるが，幅がやや狭いのでみかん割りした原材を分割した際の残余かもしれない。1555～1565はクヌギ材あるいはコナラ材である。1555は板材である。1556～1565は割材であるが，1556は端部に原木切断痕，つまり丸太に分割する際の痕跡が認められる。1566～1573は広葉樹環孔材で広放射状組織の無い材で，1566～1569は加工面があるが，1570～1573は加工面の無い割材である。1574～1597は広葉樹材で，1574～1591は加工面のあるものである。1579・1580は梯子の破片のような材である。1592～1597は加工面の無い材である。1597*1は広放射状組織が確認できるが，一度乾燥したため収縮し

*1　1597はⅢ区出土のまちがいである。

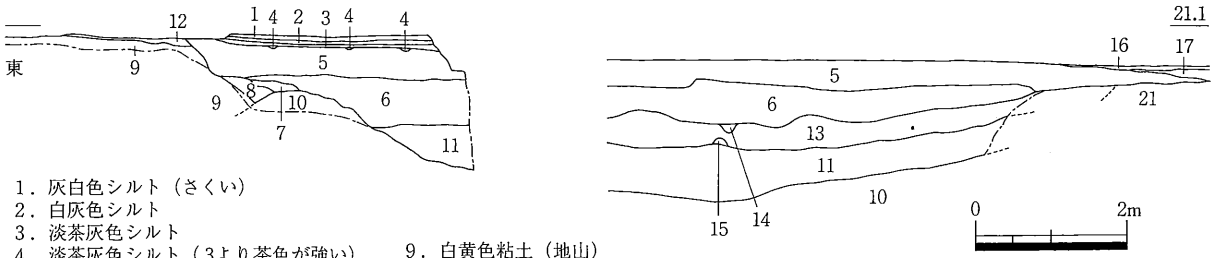
ており，肉眼では環孔は確認できない割材である。1598～1650はヒノキ材と考えられる。1598～1639は加工面があるが，1641～1650は加工面が無い。1600には使用痕がある。1601には穿孔がある。1640は全面炭化している。1651はモミ属材の板材である。1652は針葉樹材である。1653～1655は樹種不明の加工木である。

Ⅰ・Ⅴ区ＳＲ02（第125～127図）

Ｇ10～Ｈ12区画に位置する。最上層に土器を多く包含する茶色系シルト層（５層）があるが，下の層は砂層あるいは砂礫層となっている。下層についてはＳＲ01の埋土よりは古い。

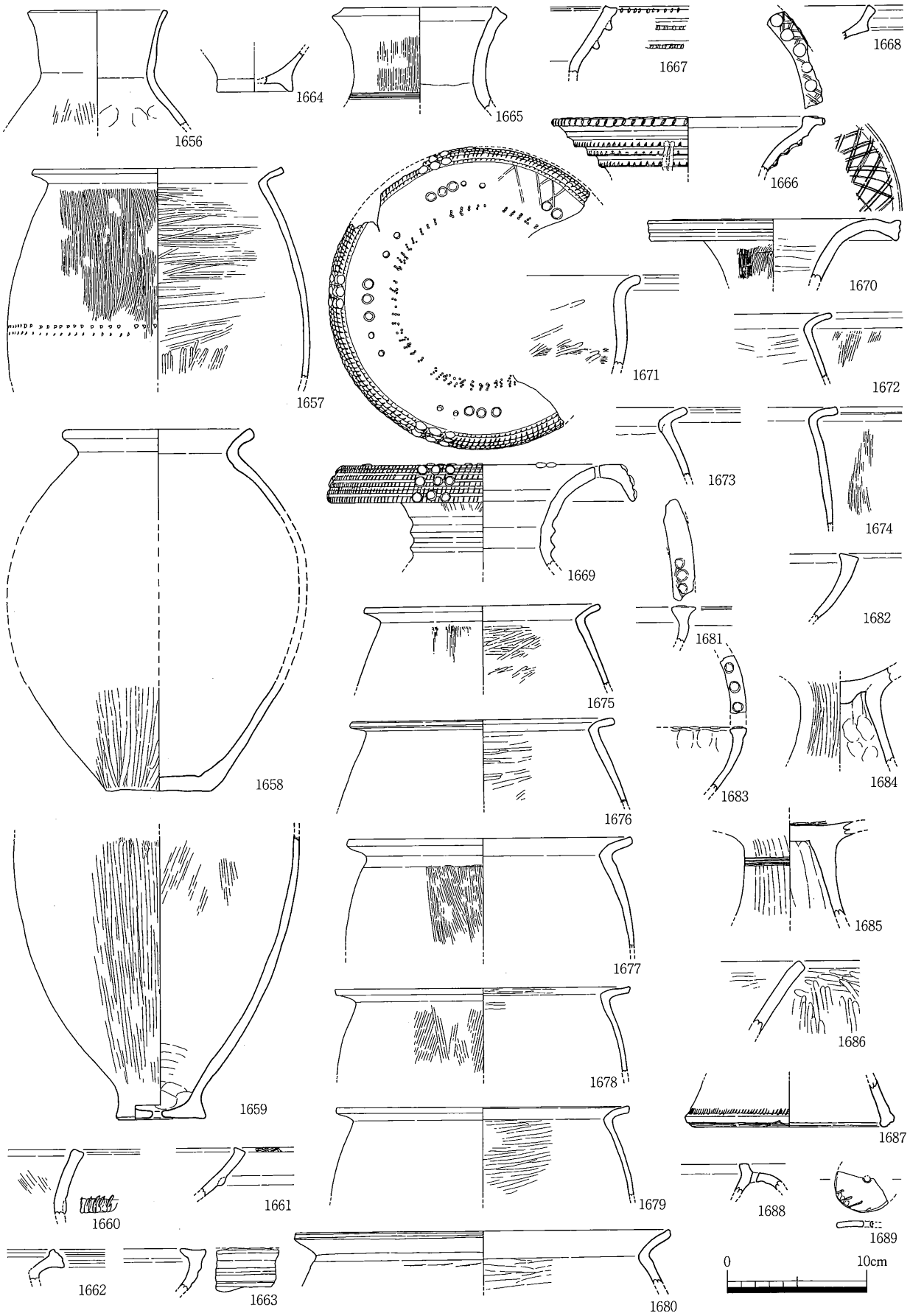
1656～1689は埋土から出土した土器である。1656～1664は最上層の５層から出土した土器で，そのうち1656～1659はまとまって出土した。1664は底部として図化したが蓋の可能性もある。1671は古い時期の甕であろう。1686は鉢としたが，類例は当遺跡では無い。1687は連続刺突文の位置および端部調整の粗雑さから脚台部としたが，これも当遺跡では類例は無い。1688は高杯である。1689は土器片利用の紡錘車である。

1690～1694は石鏃である。1693は片側面にほとんど二次加工が無いが，石鏃としておく。1694はやや大型である。1695・1696は石槍である。1697は石錐である。1698～1702はスクレイパーである。1702はやや風化がすすみ，刃部は整った調整剥離を施しており，より古い時期のものの可能性がある。1703は素刃の石器である。1704～1713は楔形石器である。1714は二次加工ある石器である。1715はＶ区ＳＲ02の南側約10ｍの位置にある予備調査35Tr.で検出されたＳＲ02の延長部分から出土した打製石庖丁である。

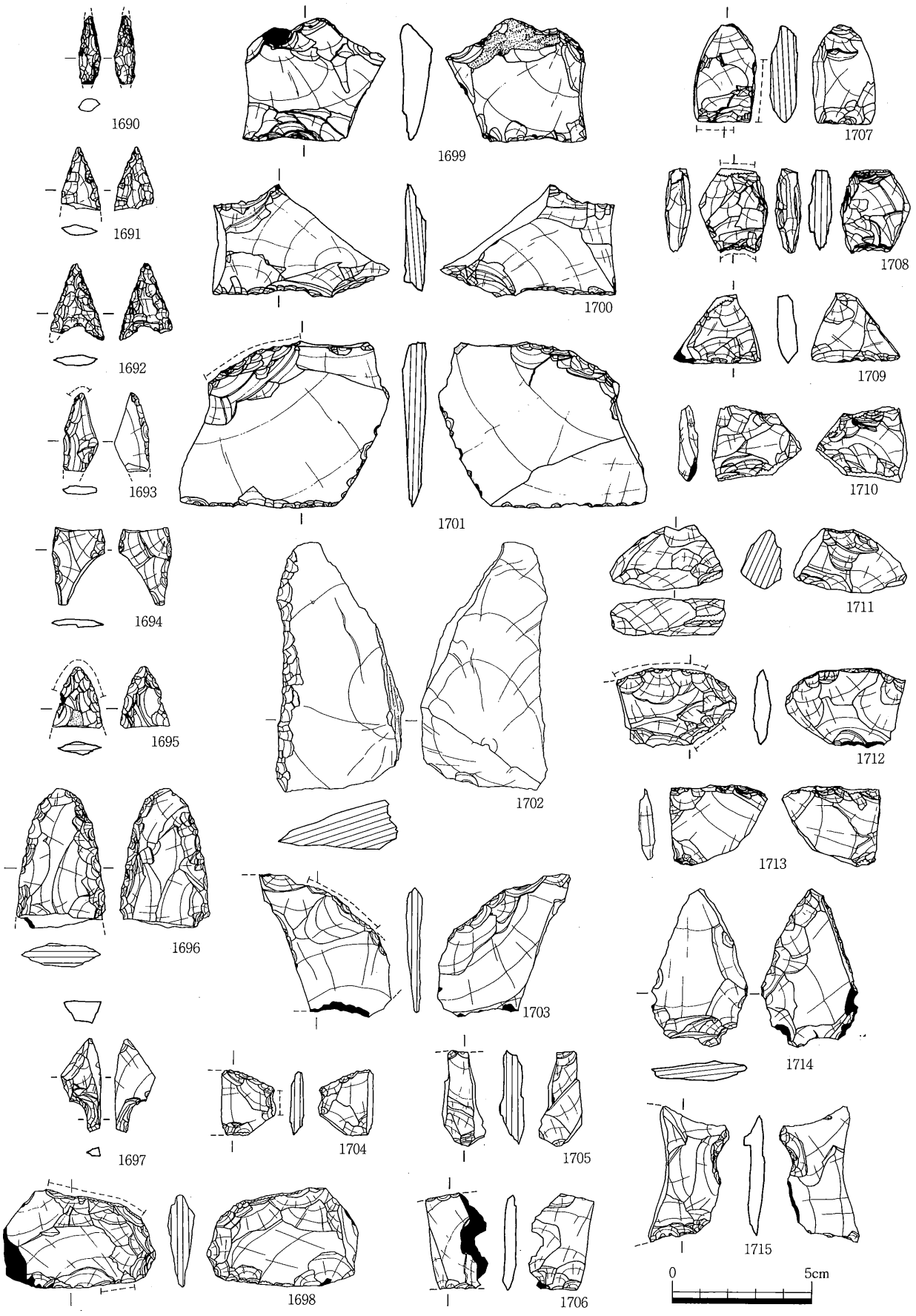


1．灰白色シルト（さくい）
2．白灰色シルト
3．淡茶灰色シルト
4．淡茶灰色シルト（3より茶色が強い）
5．灰茶色細砂～シルト
6．灰色細砂
7．灰黒色シルト
8．黄灰茶色シルト
9．白黄色粘土（地山）
10．黒灰色砂礫層（２cm以下の円礫）地山
11．白灰色シルト～中砂のラミナ
12．黄茶色シルト（９層にMnが沈着したもの）
13．暗灰色砂礫層（２cm以下の円礫）
14．黒灰色粘土
15．黒灰色粘土
16．淡灰茶色シルト
17．茶色シルト
21．砂礫層（20cm以下の円礫）

第125図　Ⅰ区SR02断面図(1/100)



第126図　Ⅰ・Ⅴ区SR02出土土器(1/4)



第127図　Ⅰ・Ⅴ区SR02出土石器(1/2)

Ⅱ・Ⅸ区ＳＲ02（第128～134図）

Ｈ３・Ｈ４区画を中心に位置する。砂を主体とする埋土である。部分的に土器が集中して出土した。いずれも第128図断面図の５層と考えられる。なお，第128図は調査区北壁部分で作成している。

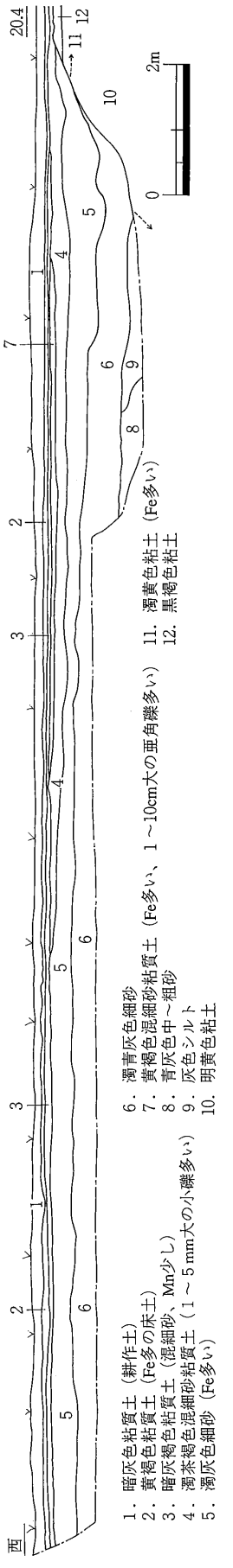
1716～1773は弥生時代中期の土器である。1716～1740はⅡ区ＳＲ02からＡ群としてまとまって出土した土器である。1741・1742はＤ群としてまとまって出土した土器である。1743～1753はⅡ区ＳＲ02から出土したその他の土器である。1744は胴部に貝殻による連続刺突文が見られる。1750は台付きの鉢として図化したが，蓋の可能性もある。1754～1773はⅨ区ＳＲ02から出土した土器である。1767は中期初頭の甕である。

1774～1777は石庖丁である。1778～1781はスクレイパーである。1782は素刃の石器である。1783は安山岩の脈岩製と考えられる太型蛤刃石斧である。刃部の折損面にも磨滅が見られる。1784は調整のある流紋岩製の石器である。1785はⅨ区ＳＲ02のすぐ北側に位置する予備調査３Tr.のＳＲ02延長部分から出土した打製石庖丁である。1786・1787は木製品である。出土層位ははっきりしない。1786は樹種がヒノキの斎串である。1787は樹種がヒノキと考えられる板材である。

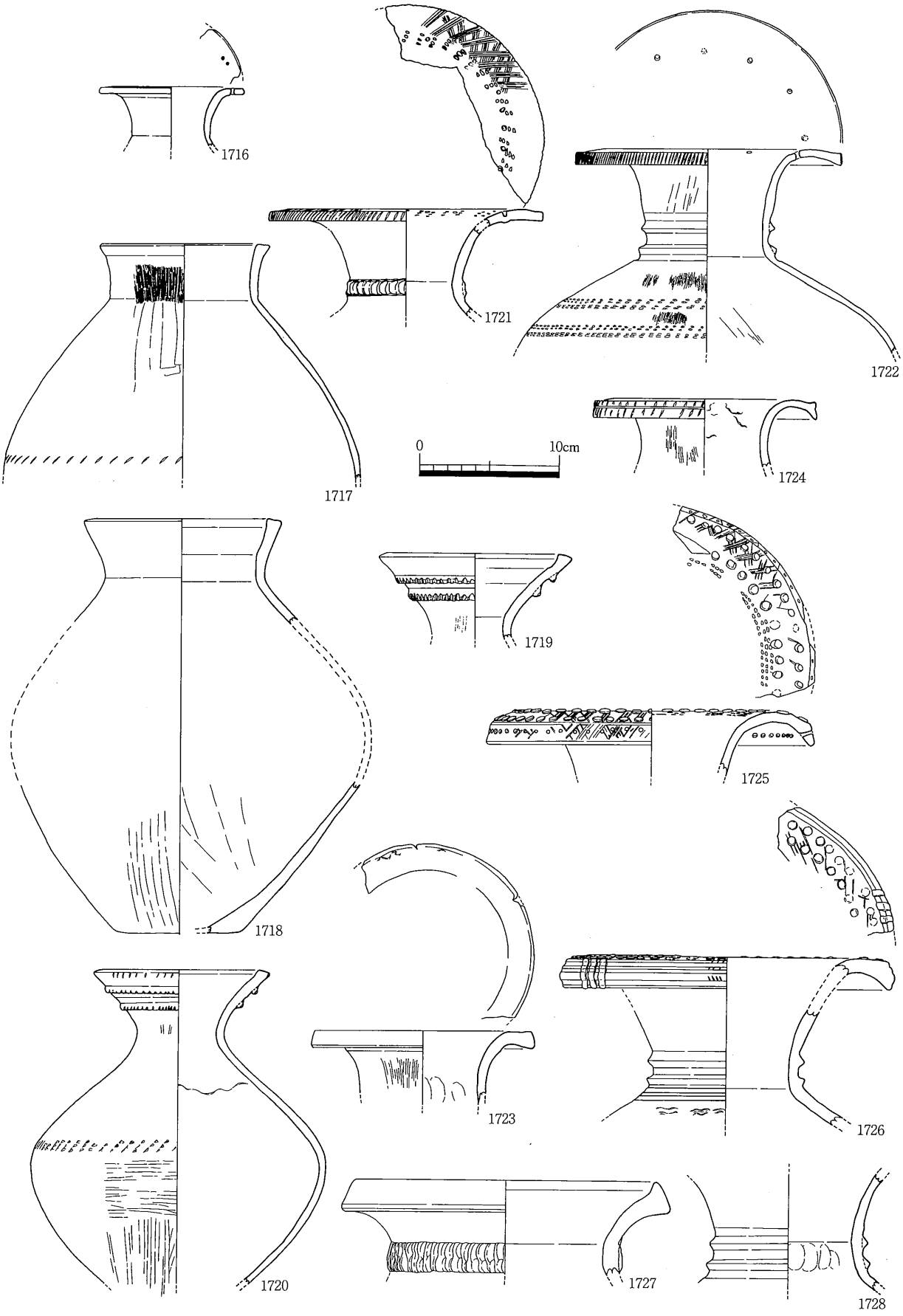
Ⅵ・Ⅻ区ＳＲ01・02（第135～146図）

Ｆ７～Ｆ12区画を中心に位置する。これらの調査区では流路が２条ある。１条（ＳＲ01）は調査区東側のＳＲ01の続きで，この調査区では浅くなっている。もう一つ（ＳＲ02）は深いものであるが，調査区の北端では浅くなっている。北側の延長はⅡ区西側調査区でその東岸部分が検出されている。南側では再びＳＲ01と合流して区別ができないようになる。この南側の延長は，Ａ５区ＳＲ01と考えられる。ＳＲ02のⅡ層（第135図）より下層からは，弥生時代前期～古墳時代前期の遺物が出土する（1788～1897）。ただし，弥生時代後期の土器は，ＳＤ07埋土から大量に出土していることから，おそらく弥生時代中期の土器よりは上位のＳＤ07掘削面の標高に近い部分から出土したものではないかと考えられるが，出土位置は厳密には把握していないので詳細は不明である。この調査区東側のＳＲ01では，明らかに標高差をもって弥生時代中期の土器と後期の土器が出土している。古墳時代前期の土器がわずかではあるが出土しているのもおそらく川跡埋土の上層部からと考えられる。

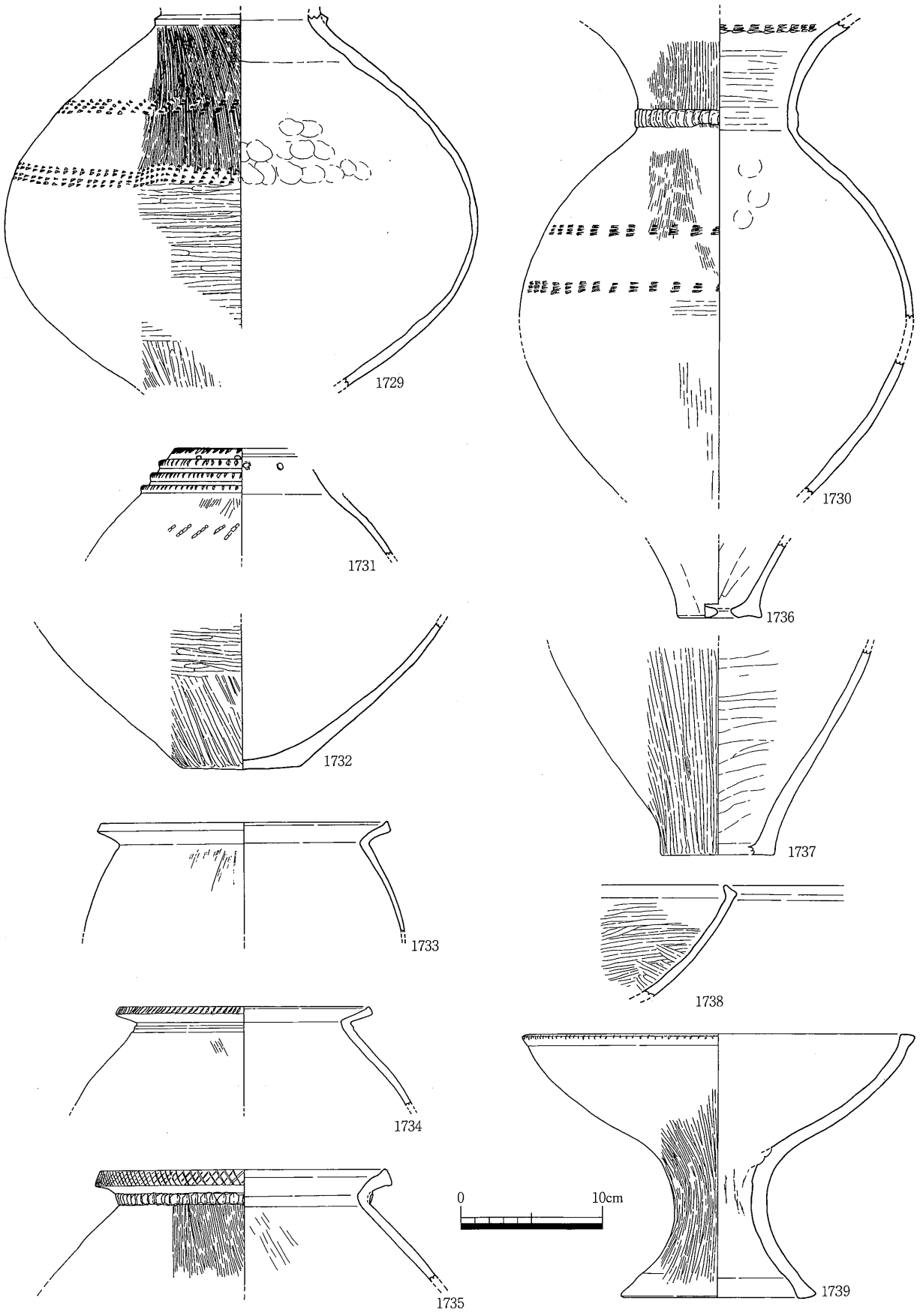
1788～1959はＳＲ02のⅡ層より下の層から出土した遺物である。1788・1789は弥生時代前期の土器である。1790・1791は櫛描直線文があることから弥生時代中期初頭の資料である。1792～1826は，弥生時代中期の土器と考えられる。ただし，1813・1814については不明である。1821は内面に厚く炭化物が付着している。1824は台付鉢として図化したが，蓋の可能性が



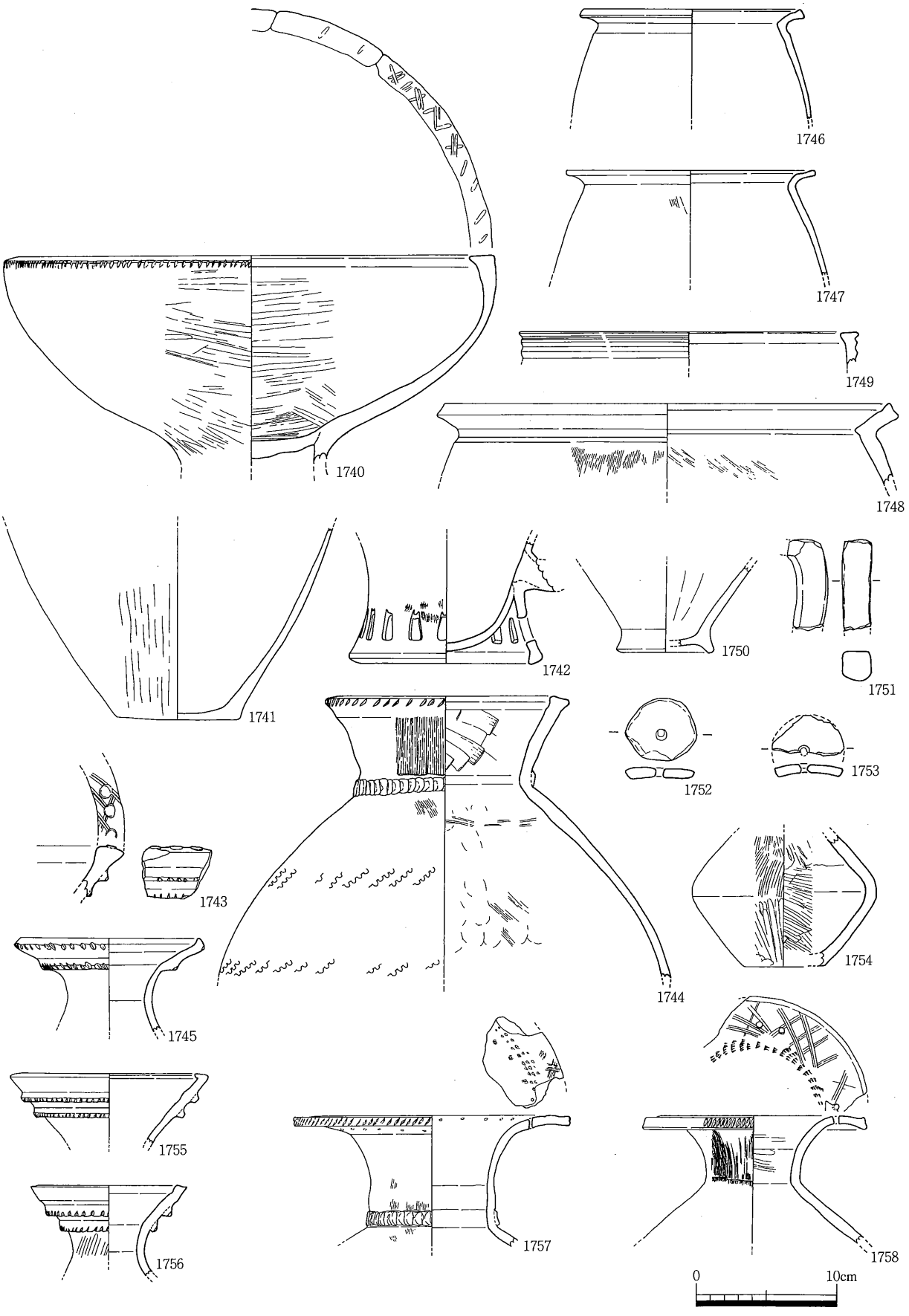
第128図　Ⅸ区SR02断面図(1/100)



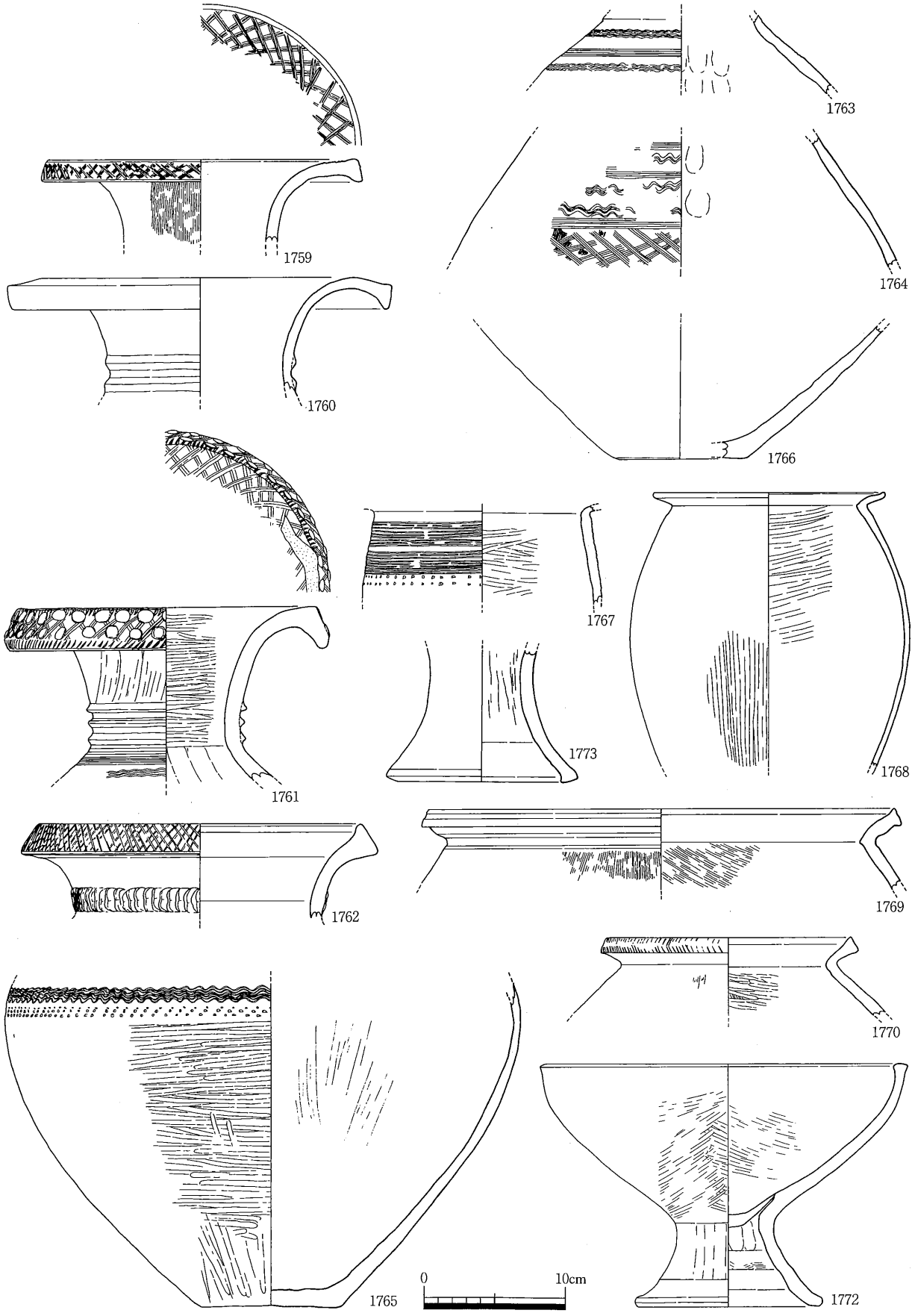
第129図　Ⅱ・Ⅸ区SR02出土土器(1)(1/4)



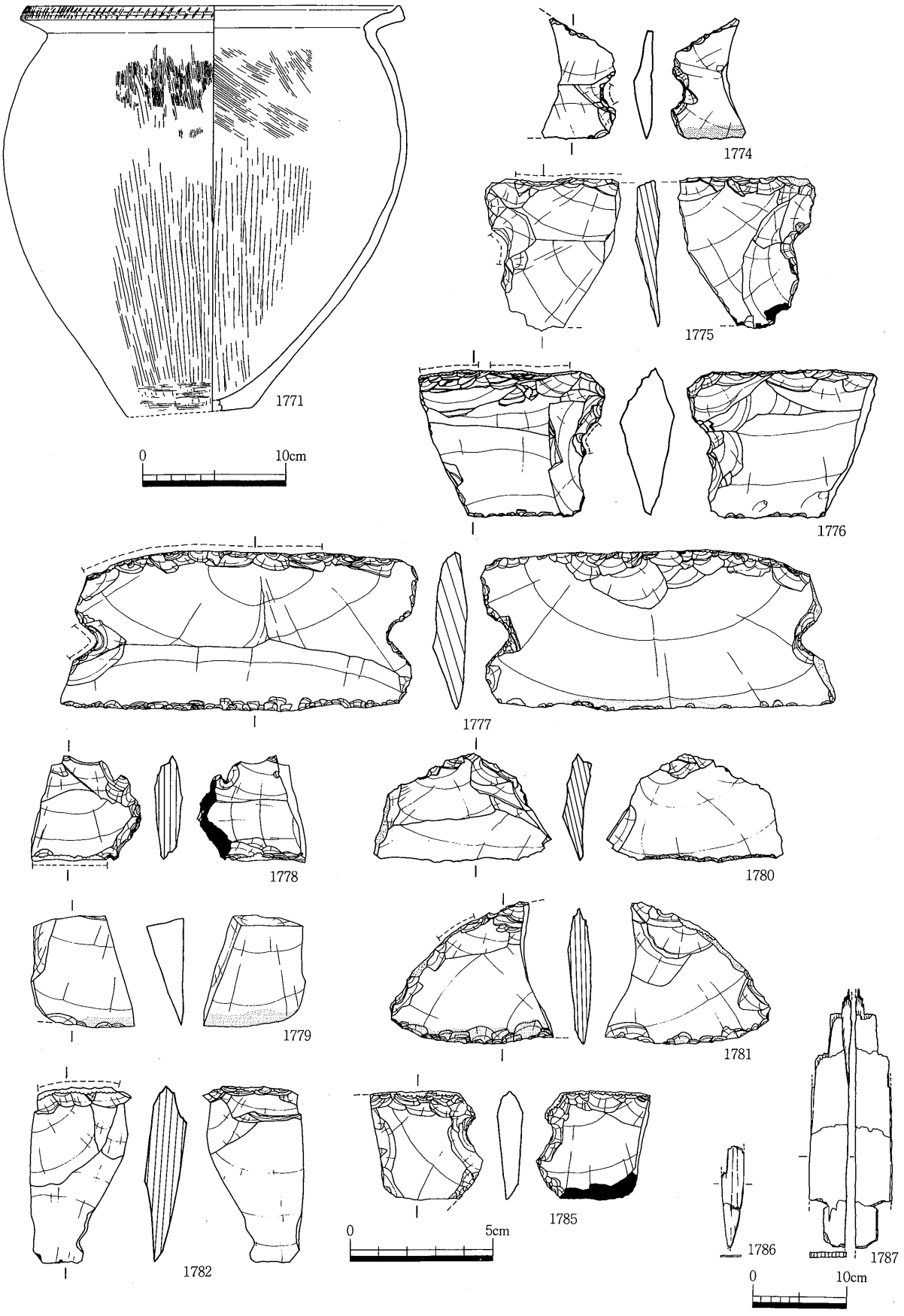
第130図　Ⅱ・Ⅸ区SR02出土土器(2)(1/4)



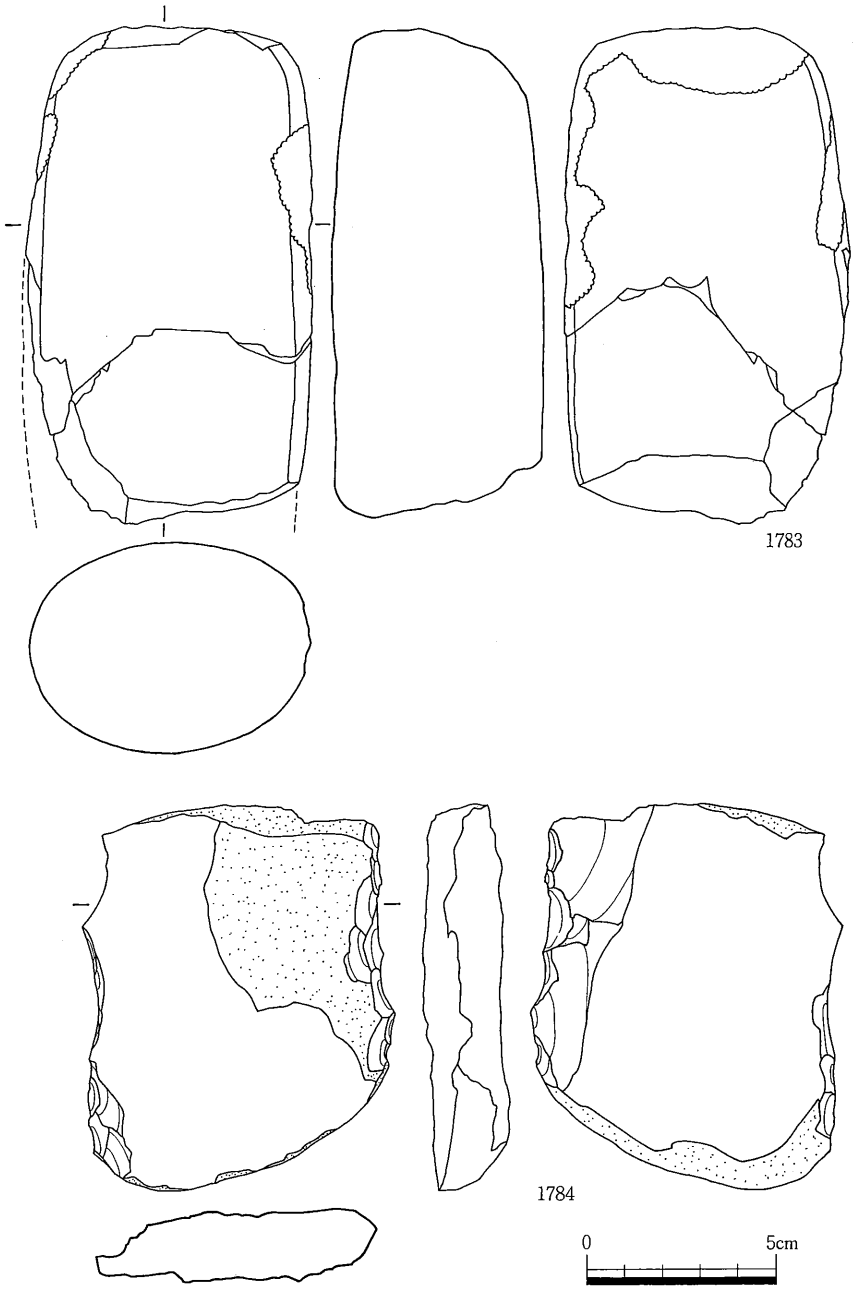
第131図　Ⅱ・Ⅸ区SR02出土土器(3)(1/4)



第132図　Ⅱ・Ⅸ区SR02出土土器(4)(1/4)



第133図　Ⅱ・Ⅸ区SR02出土土器(5)(1/4),石器(1)(1/2)及び木器(1/6)

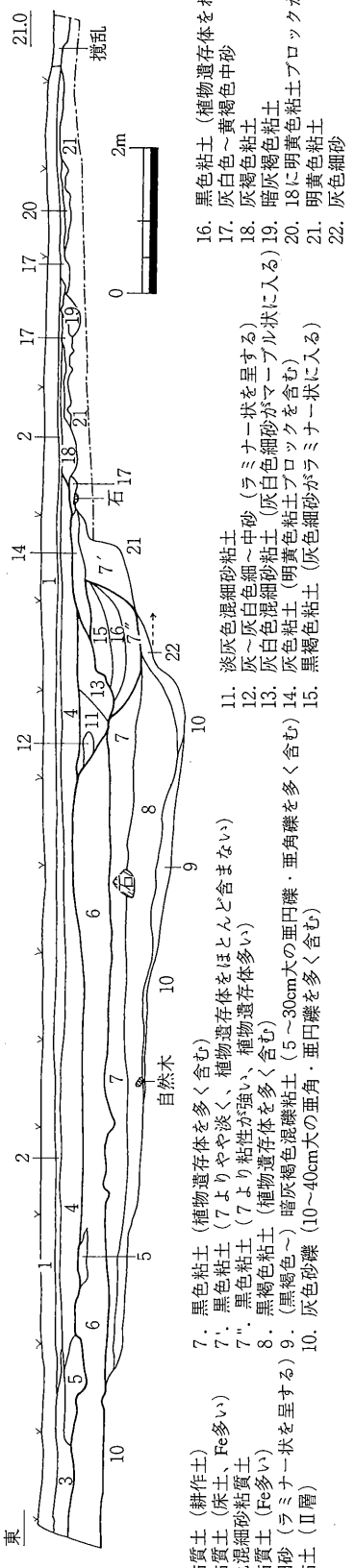


第134図　Ⅱ・Ⅸ区SR02出土石器(2)(1/2)

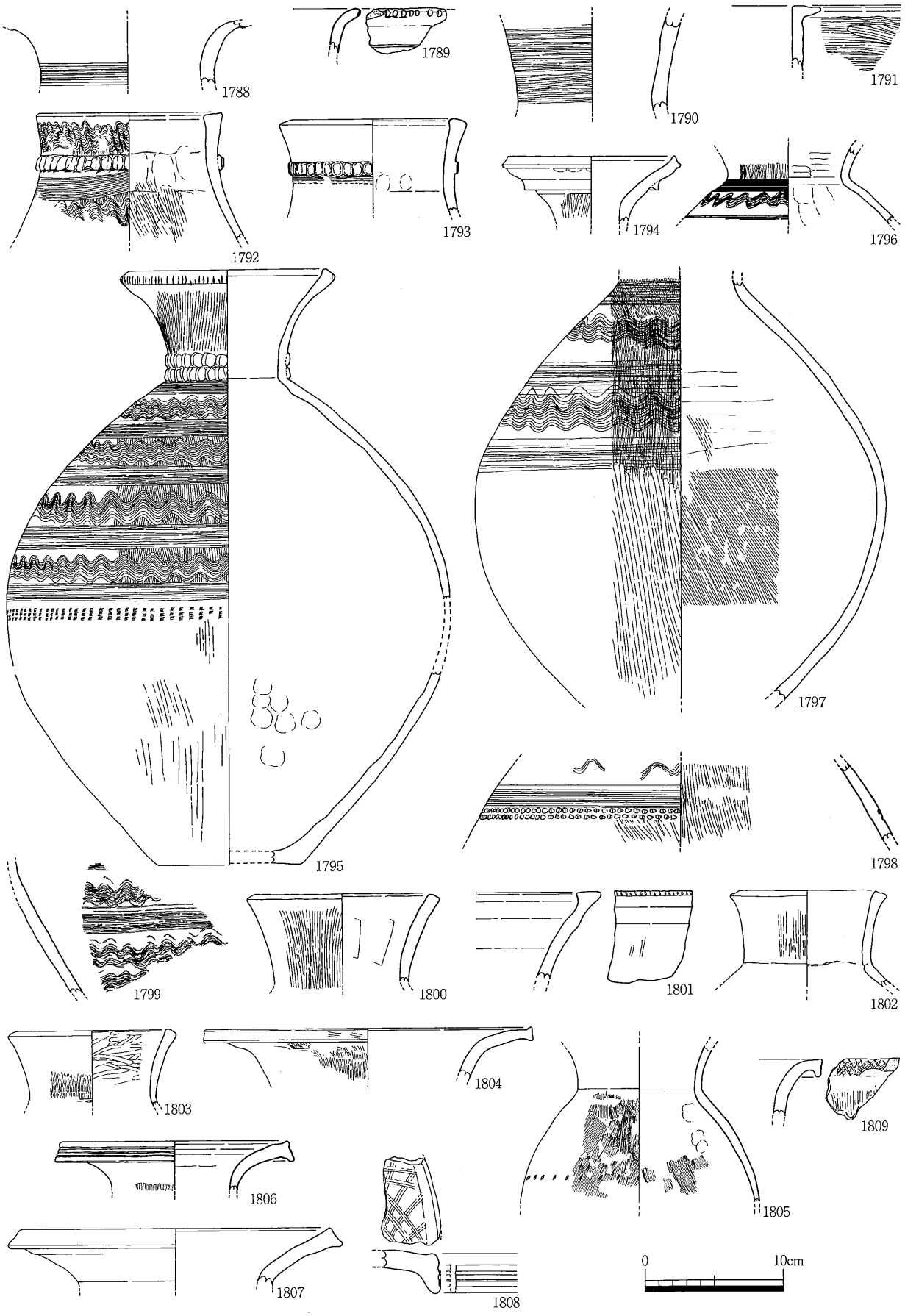
ある。1825は，類例を知らない器形の土器である。底部は塞がるものと思われ，胴部に大きな穿孔がある。1827～1887は，一部を除き弥生時代後期の土器である。1827～1867は，いわゆる角閃石を含む土器である。一部肉眼では角閃石が観察されないものがあるが，器形が同じことから一緒にレイアウトした。1827は後期初頭の時期であろう。1861は口縁部が拡張することから，中期に遡るものと思われるが，これも胎土に角閃石を含む。1868～1887は，角閃石を含まない弥生時代後期と考えられる土器である。1888～1890は，胴部及び底部の球形化が進んでいることから，古墳時代前期と考えられる。1891は口縁部が肥厚しており，布留式並行の時期と考えられる。1892～1897は，Ｆ10区画のトレンチ掘削時に出土したもので，弥生時代後期の1894～1897は，ＳＤ07出土の可能性がある。ＳＤ07は，この川がある程度埋没したのちに掘削されたものである。

1898～1908は石器である。1898は石槍である。1899～1901は打製石庖丁である。1901は結晶片岩製である。1902は楔形石器である。1903は磨滅のある石器である。1904は結晶片岩製の小型鑿状の片刃石斧である。1905は石材不明の扁平片刃石斧である。1906は蛇紋岩製と考えられる扁平片刃石斧である。使用痕がみられる。また，破損面はすべて破損後に研磨を受けている。1907は結晶片岩製の柱状片刃石斧である。341と同一個体の可能性がある。1908は流紋岩製の石錘か。片面に溝状のくぼみがある。

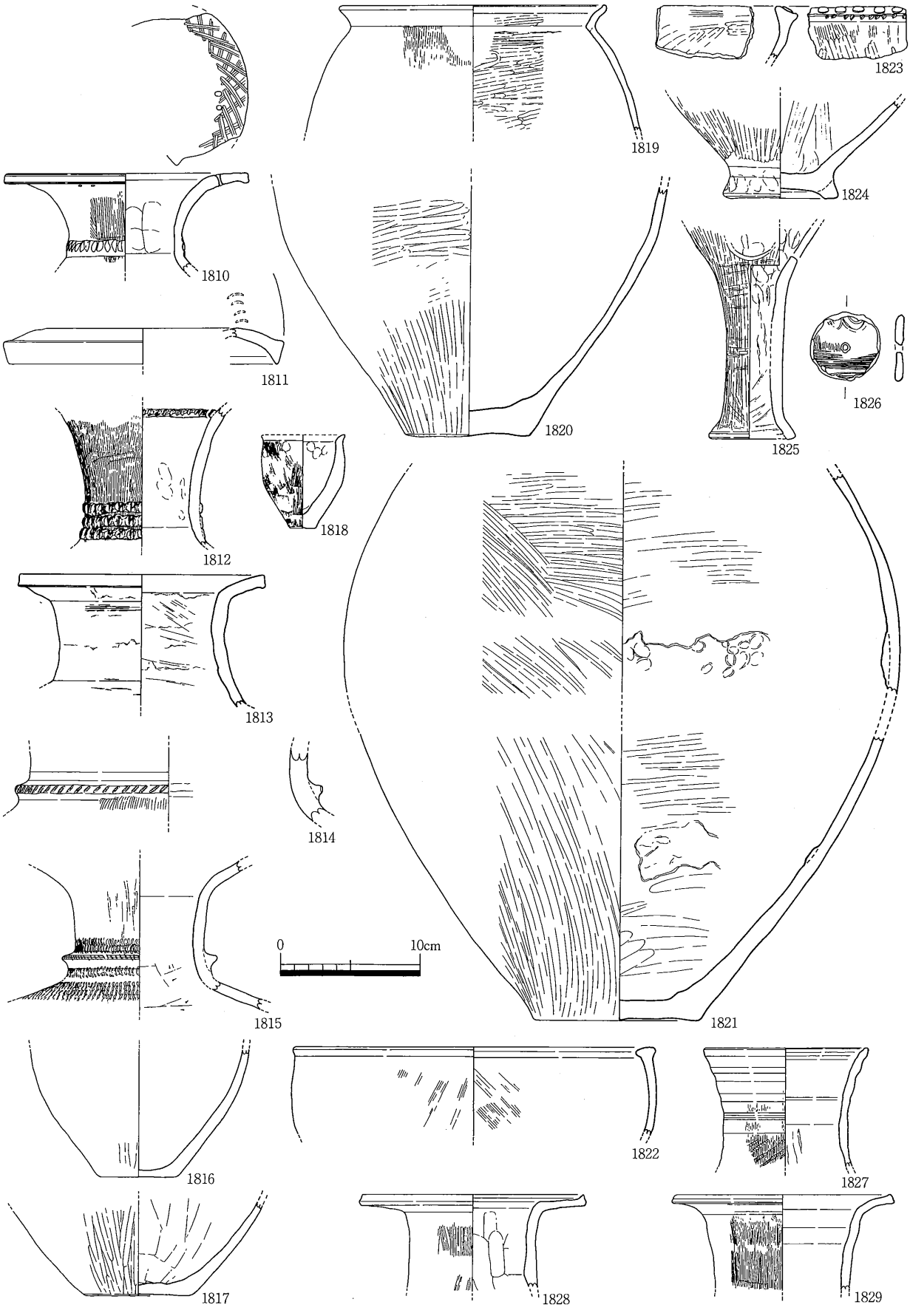
1909～1959は木器である。1909はアカガシ製の斧直柄である。石斧装着部分の先端側1/4が残存したものと考えられる。1910は広葉樹製の斧膝柄である。台部は欠損しているため，未製品かどうか，あるいは装着対象物は何かは明らかではない。1911はアカガシ製の狭鍬である。隅丸方形の柄穴である。1912・1913はやや磨滅しているので確実ではないが，アカガシ製であることから曲柄又鍬の刃部であると考えられ，同一個体の可能性もある。1914はアカガシ製の一木鋤未製品である。1915・1916はアカガシ製であることと木取りの方向から考えて，環状の一木鋤把手の破片であろう。また同一個体の可能性がある。1917はアカガシ製の竪杵である。先端は丸く磨滅している。1918はクリ製の小型臼である。1919はアカガシ製の銅剣形木製品である。背の部分の盛り上がり等銅剣をかなり忠実に模倣している。1920はアカガシ製の剣形木製品と考えられる。1921・1922は広葉樹製の杭である。1922は肉眼では環孔及び広放射状組織は観察されない。1923・1924は，広葉樹材の先端加工のある木器である。1924は鉄器による加工痕がある。1925は肉眼で環孔は観察されないが広放射状組織のある広葉樹の両端加工の木製品である。加工痕は鉄器によるものと考えられる。1926・1927はヒノキ製と考えられるもので，加工痕は鉄器によるものと考えられる。同一個体の可能性がある。1928・1929はクスノキ製の木器で同一個体と考えられる。年輪に沿って円筒形に刳り抜いたような形が推定できる。1930は，針葉樹の板材で，斎串かもしれない。1931～1932はアカガシ製の木器である。1931は一木鋤の柄の可能性もある。1932は大きさから考えて曲柄鍬先の可能性がある。1933・1934は曲柄鍬先の未製品及び原材の割材である可能性がある。1935～1943は広葉樹環孔材で広放射状組織のあるクヌギあるいはコナラと考えられる樹種である。1935～1940は加工面があるものである。1941～1943は加工面が無い割材である。1944～1948は広放射状組織のない環孔材（たとえばクリなど）の広葉樹で，いずれも加工痕の無い割材である。1948は当遺跡で出土した梯子と同じ様な樹種（スダジイ）と考えら



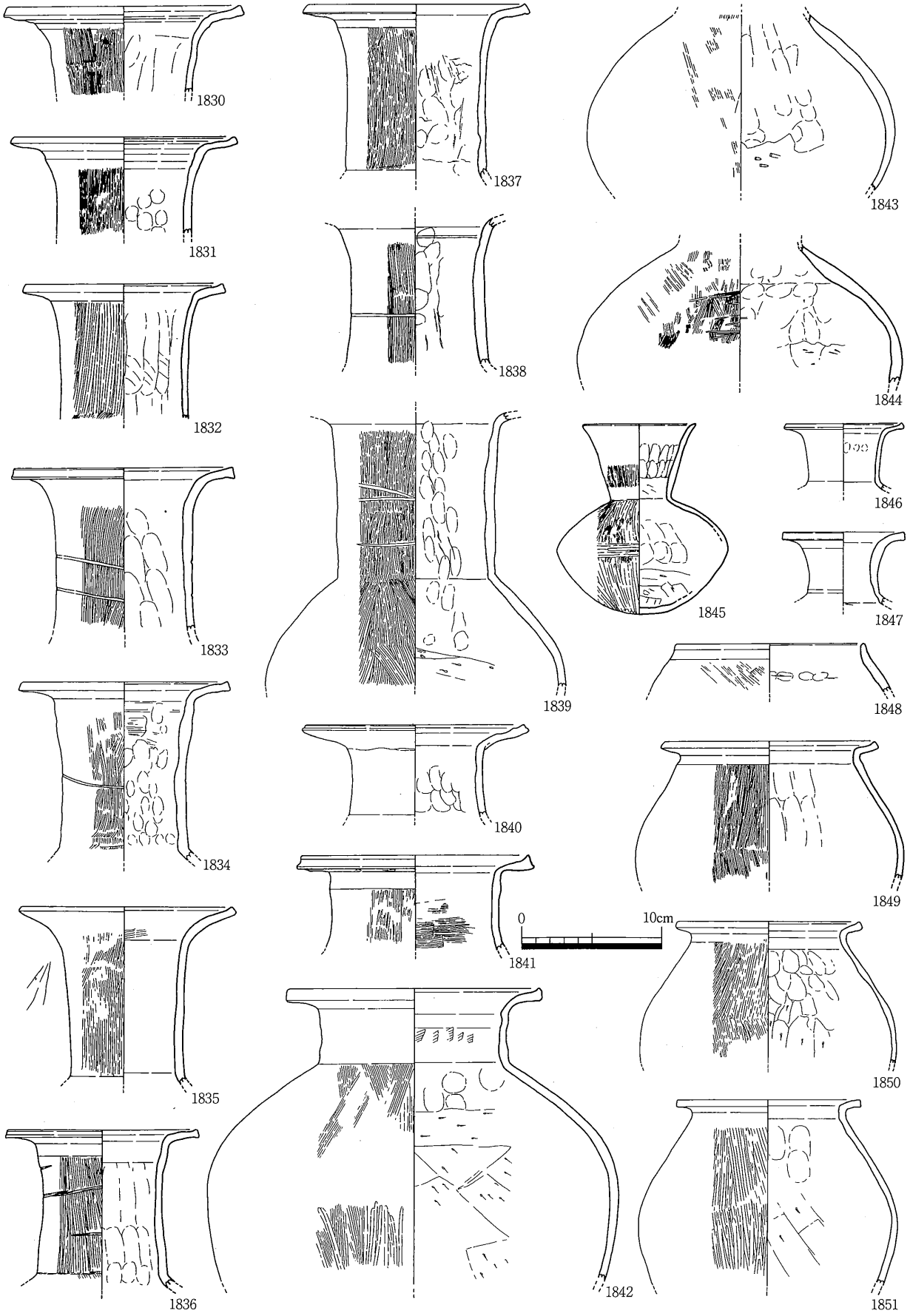
第135図　Ⅵ区SR01･02断面図（1/100）



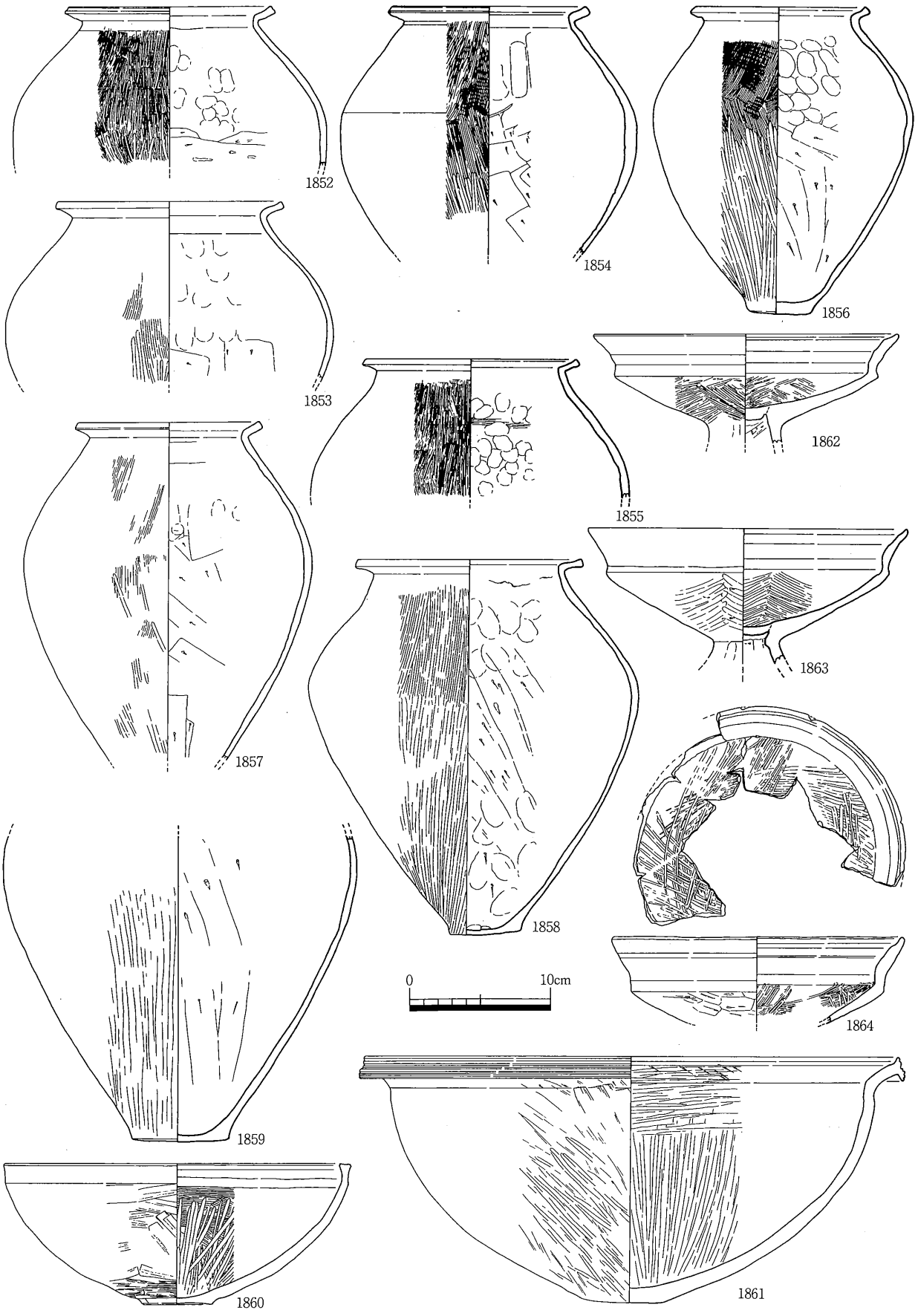
第136図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土土器(1)(1/4)



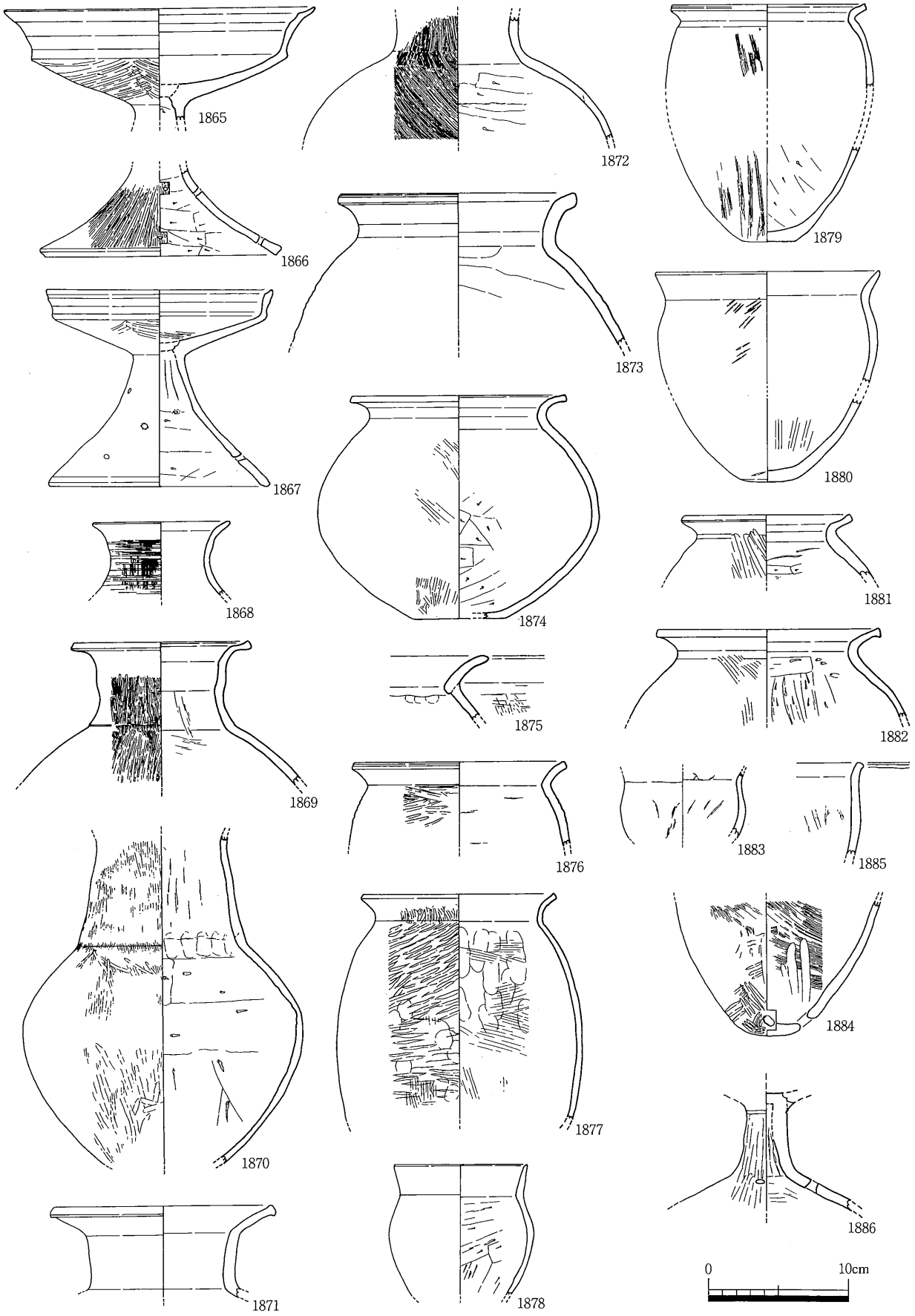
第137図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土土器(2)(1/4)



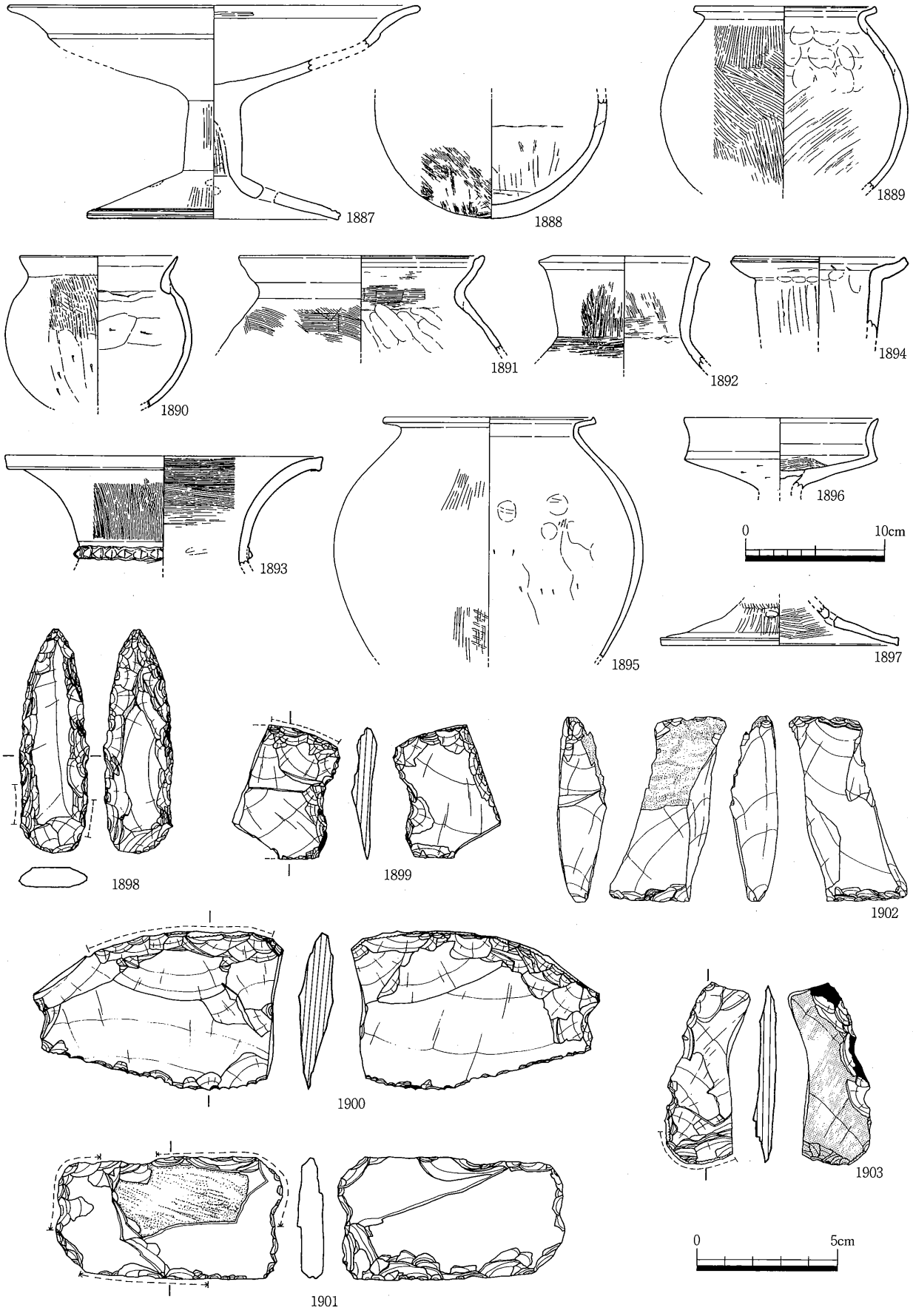
第138図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土土器(3)(1/4)



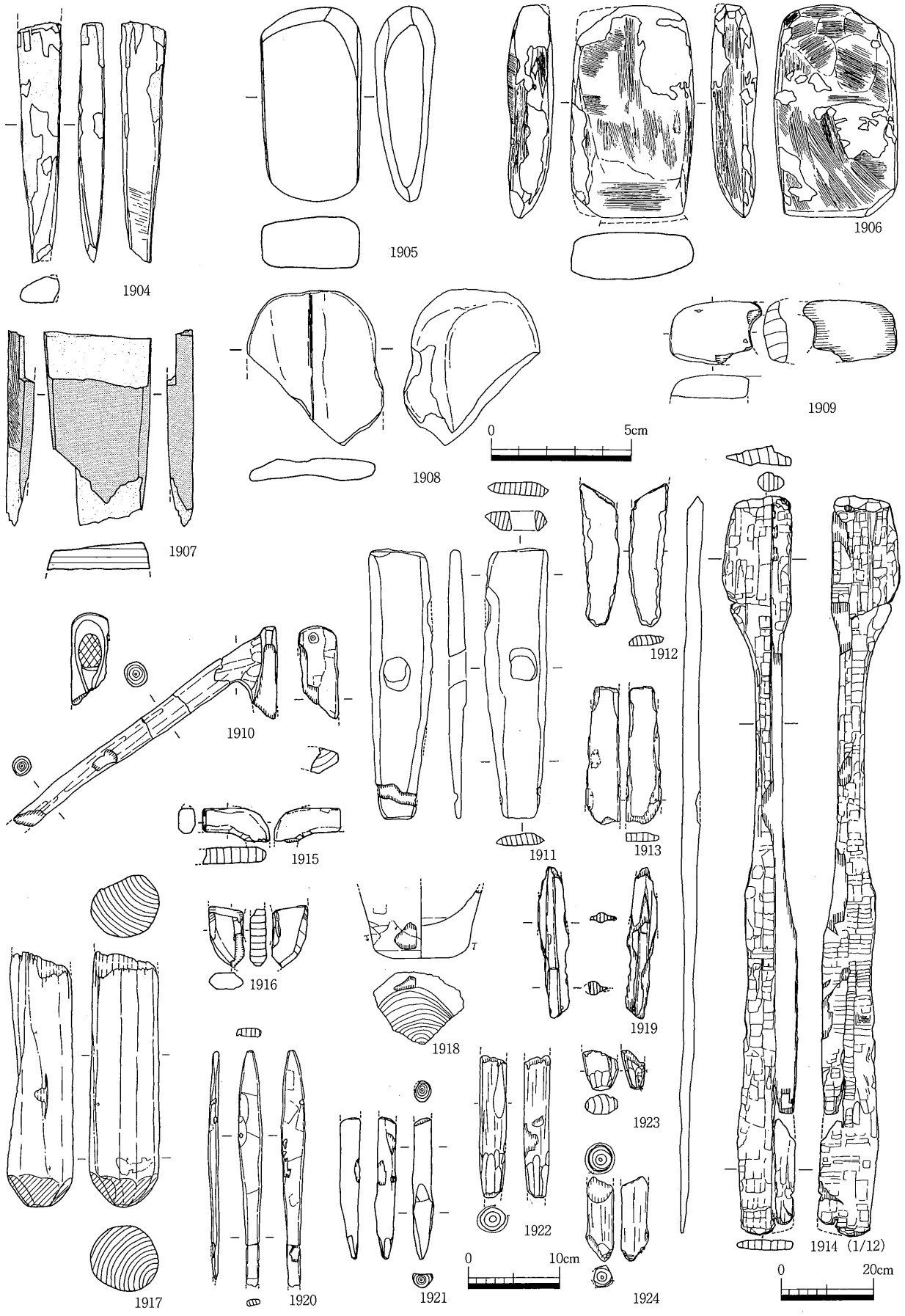
第139図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土土器(4)(1/4)



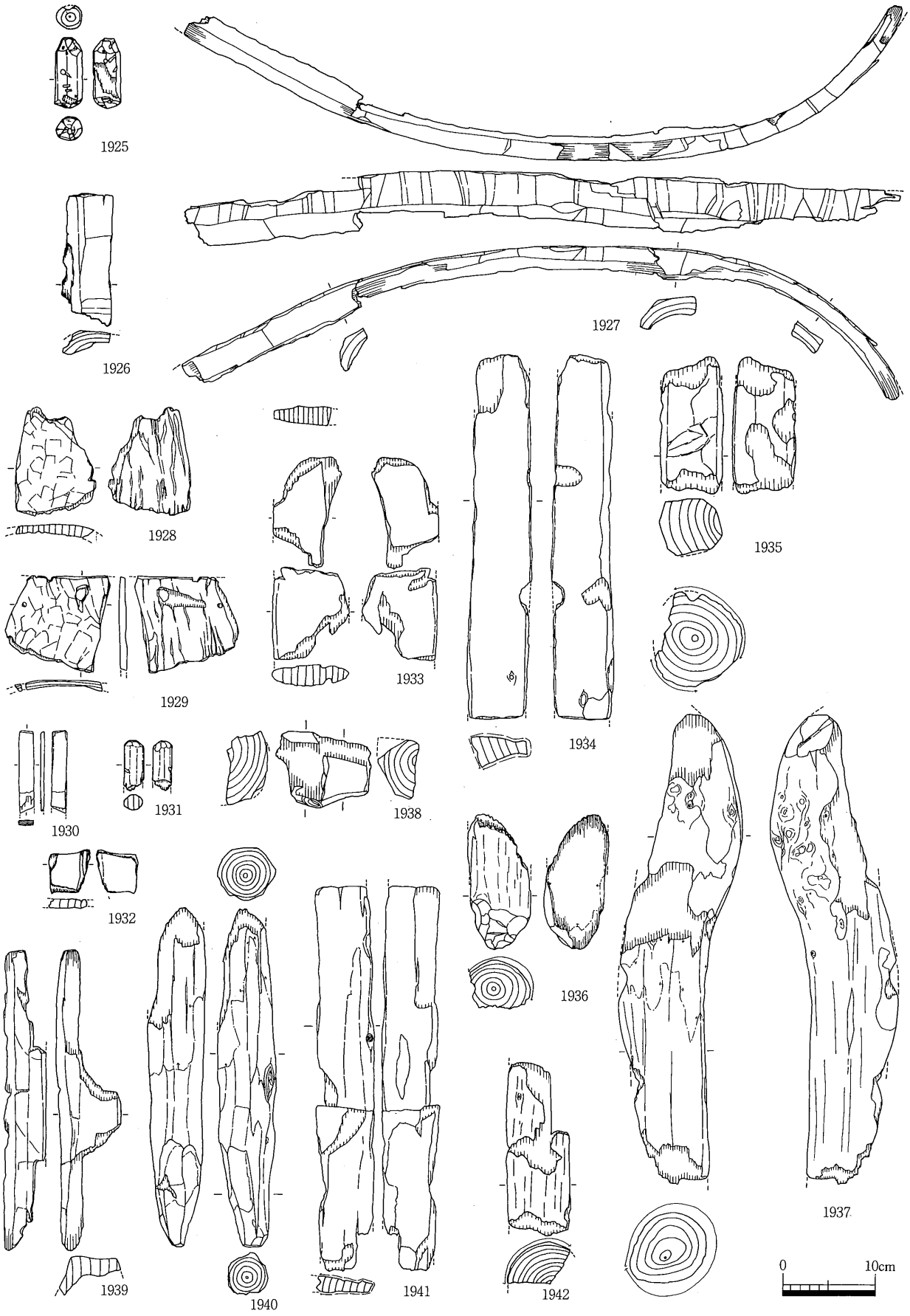
第140図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土土器(5)(1/4)



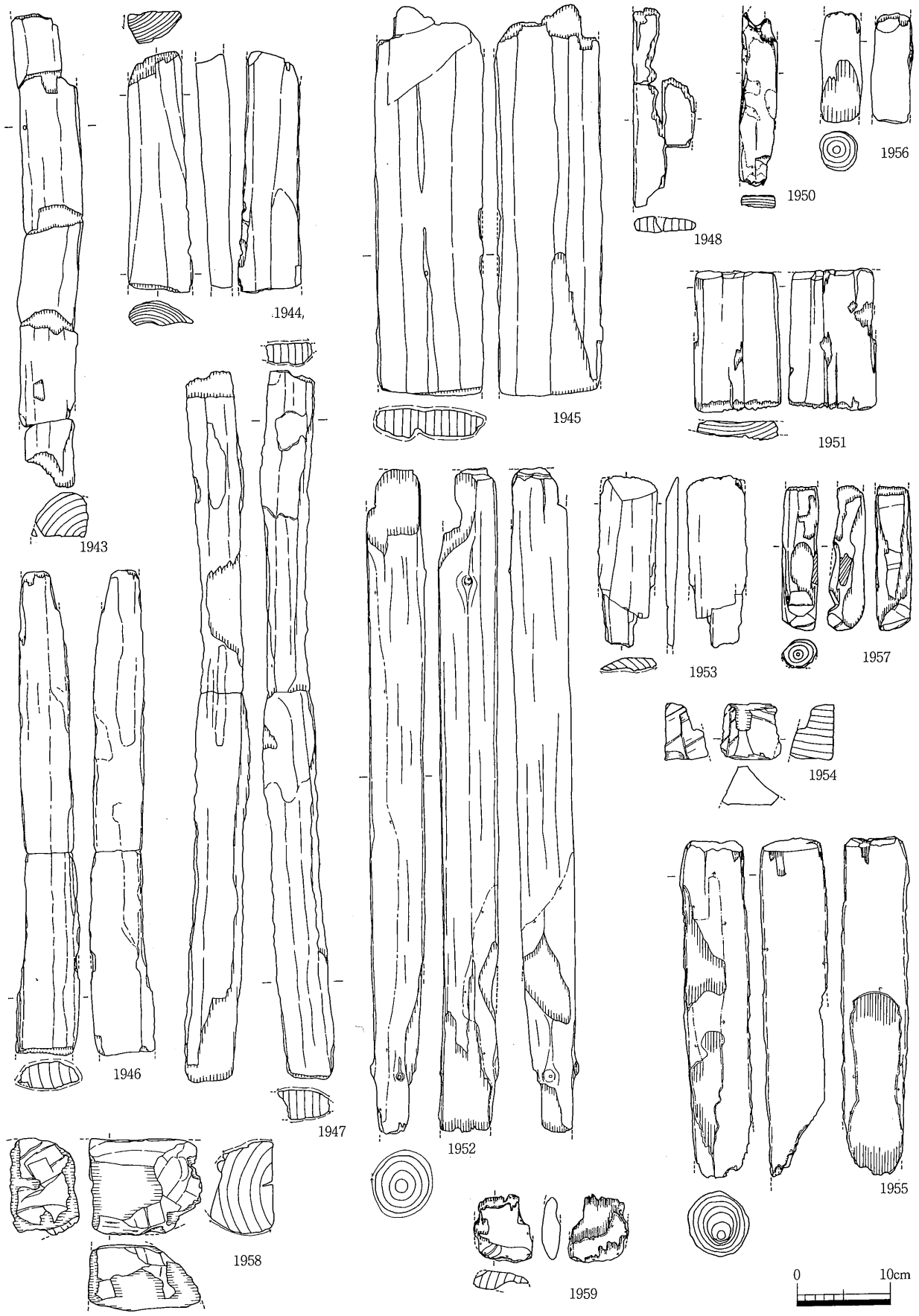
第141図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土土器(6)(1/4)及び石器(1)(1/2)



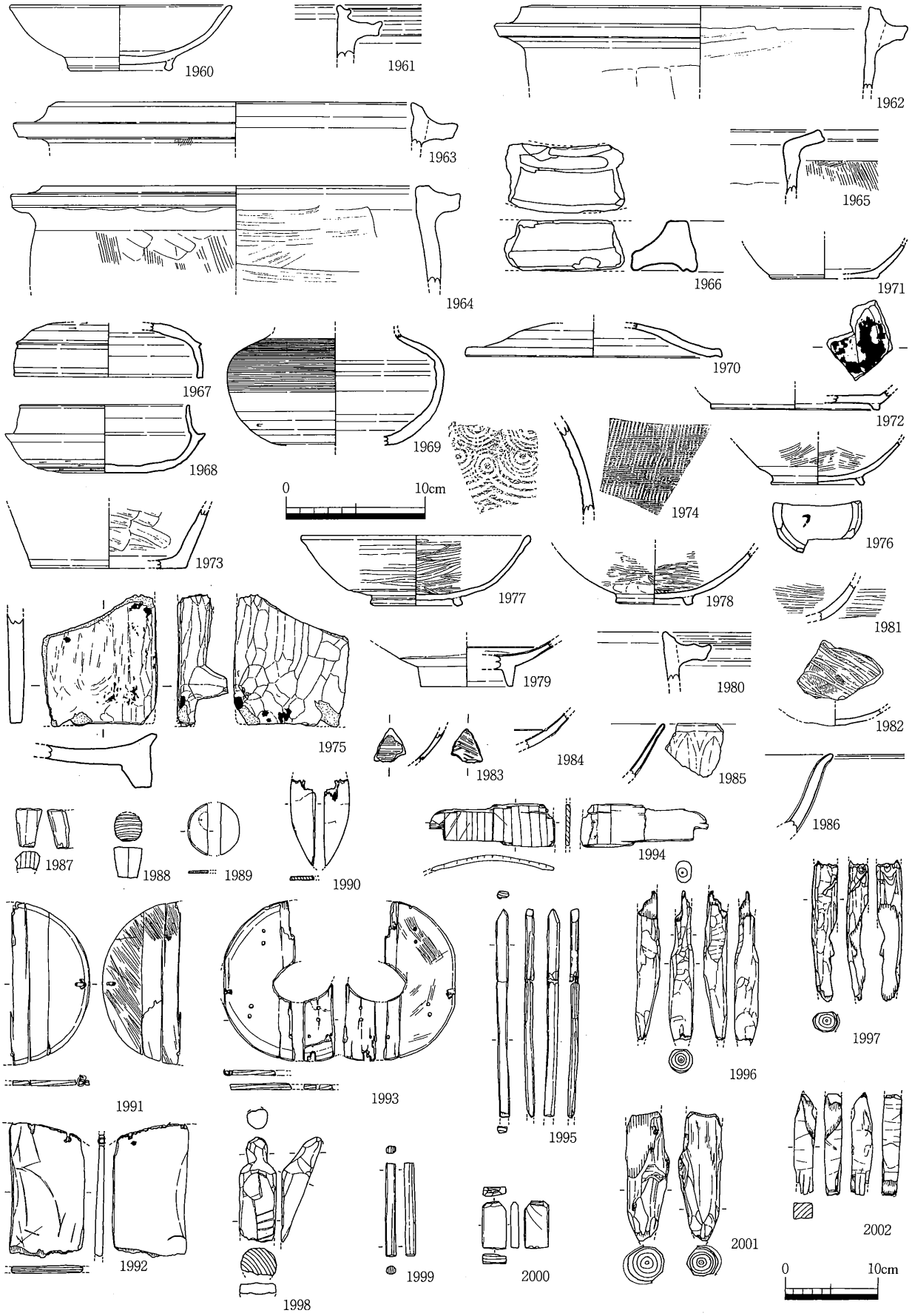
第142図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土石器(2)(1/2)及び木器(1)(1/6・1/12)



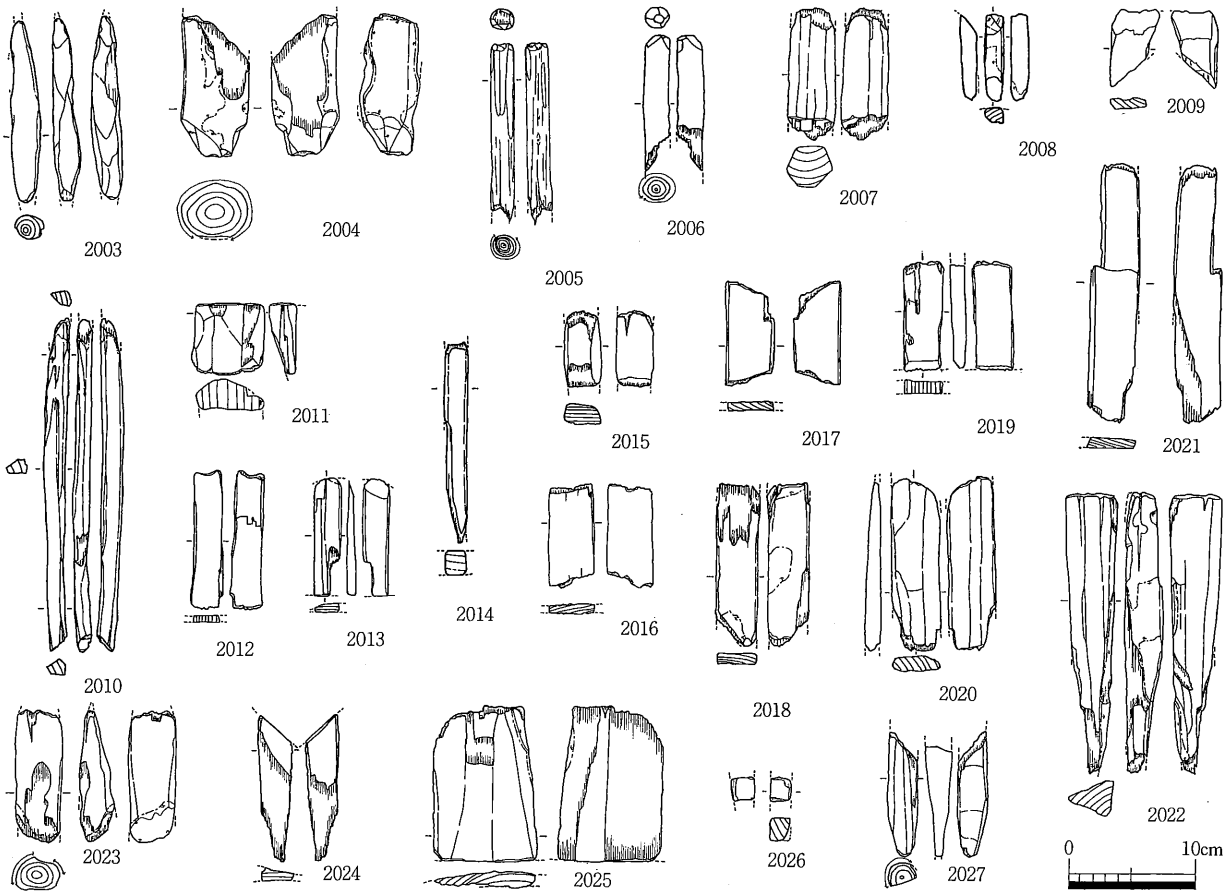
第143図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土木器(2)(1/6)



第144図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土木器(3)(1/6)



第145図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土土器(7)(1/4)及び木器(4)(1/6)



第146図　Ⅵ・Ⅻ区SR01・02出土木器(5)(1/6)

れ，これも形態から考えて梯子の可能性がある。1949～1952は加工面のあるヒノキ材と考えられる。1953・1954はスギ材に似た加工面をもつ木器で，1954は鉄器による加工痕がある。1955は杵とも考えられる針葉樹の加工材である。1956～1958は広葉樹の加工材である。1957・1958は鉄器による加工痕がある。1959は樹種不明の加工材で，鉄器による加工痕がある。

1960～2027は，ＳＤ07の上に堆積する土層（Ⅱ層）から出土したものである。古墳時代後期～平安時代後半までの遺物が出土している。また，Ⅱ層を掘り込んでⅥ区・Ⅻ区ＳＤ02・06が作られている。1960～1966は土師器である。1966は竈である。1967～1975は須恵器である。1972は内面に漆と思われるものが付着している。1975は風字硯で，墨が付着している。全面をきれいにケズリ状の面取り整形を行っている。1976・1977は黒色土器Ａ類椀で，1976には外底に墨書が見られる。1978は瓦器椀である。1979は中国産白磁椀である。1980～1986は，この調査区の包含層から出土した遺物及び詳細な出土位置不明の遺物である。1980は土師器である。1981・1982は黒色土器Ａ類椀である。1983は黒色土器Ｂ類椀である。1984は中国産白磁椀である。1985・1986は中国産青磁椀である。

1987～2027は木器である。1987・1988はスギ製の栓である。1989～1992は底板である。樹種はいずれもヒノキと考えられる。1993は底板を転用した木器である。中央に大きな穴あり，蓋あるいは蒸器のサナと考えられる。1994は曲物側板である。1995はヒノキ製の棒状斎串と考えられる。1996・1997はマツ材で同一個体と考えられる。何かの柄の可能性が考えられよう。1998～2000はヒノキ製の不明木器である。2001は広葉樹の杭である。2002～2004は広葉樹の加工材である。2005・2006は樹種不明の先端加工

材である。2007～2023はヒノキ材と考えられる加工材である。2007は角柱状で段状の加工がある。2007～2010は鉄器による加工痕が見られる。2024・2025はスギ材と考えられる加工材である。2026は広放射状組織のない環孔材の広葉樹である。2027はクヌギと考えられる環孔材で広放射状組織を持つ広葉樹材で，鉄器による加工痕がある。

Ａ５区ＳＲ01（第147・148図）

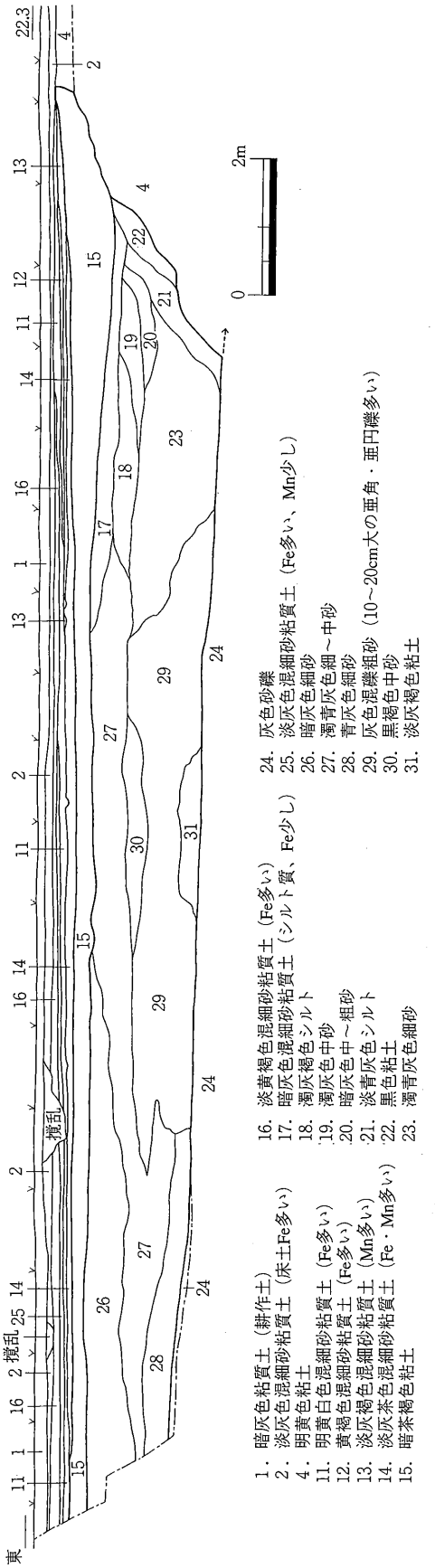
Ｅ16・Ｆ16区画に位置する。ＳＲ01及びⅥ区ＳＲ02の延長と考えられる。調査時には大きく埋土を４層にわけて掘削している。第147図断面図の11・12層がＡ層である。13・14層がＢ層である。15層がＣ層である。17～23層及び26～31層がＤ層である。Ａ層及びＢ層からは平安時代頃の遺物，Ｃ層からは弥生時代後期の遺物，Ｄ層からは弥生時代前期～中期の遺物が出土している。

2028～2033は，Ａ層出土の遺物である。2028～2032は須恵器である。2032は類例を知らないが蓋としておく。2033は黒色土器Ａ類椀である。2034～2055はＢ層出土の遺物である。2034～2038は土師器である。2039～2049は須恵器である。2050は緑釉陶器椀である。2051は石鏃である。2052・2053は石錐である。2054・2055は楔形石器である。2056～2059はＣ層出土の遺物である。2057は類例を知らないが，朝鮮系無文土器のように口縁部が丸くなっている。2058は表面が磨滅しているため確実ではないが，分銅形土製品であろうか。2059は石鏃である。2060は，Ｄ層出土の遺物である。櫛描直線文が施されている。2061・2062はＡ５区包含層から出土した須恵器である。

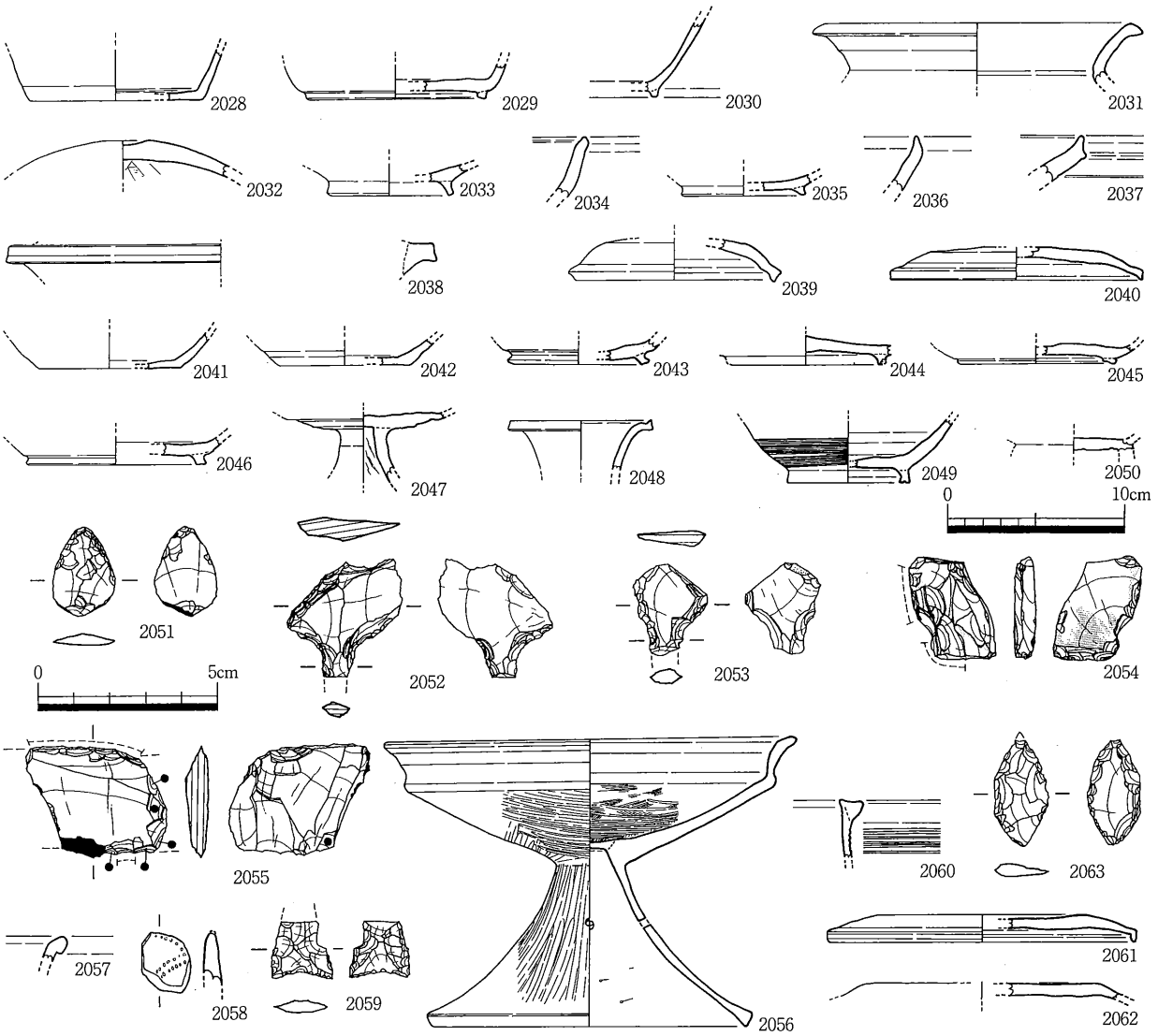
2063は，Ａ５区北側の予備調査27Tr.から出土した石鏃である。出土層位はＡ層あるいはＢ層に対応すると考えられる。

Ａ４区ＳＲ01（第149図）

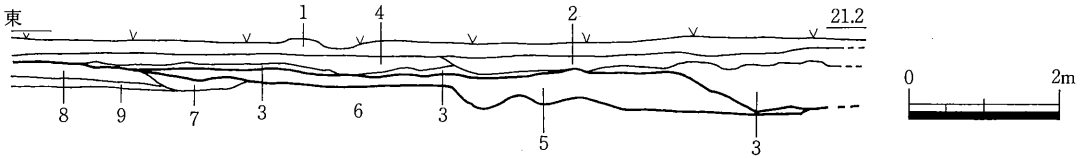
Ｇ14～Ｇ16区画で検出した。おそらくＡ５区ＳＲ01の東肩部分であろう。埋土からは土師器2064が出土した。



第147図　A5区SR01断面図(1/100)

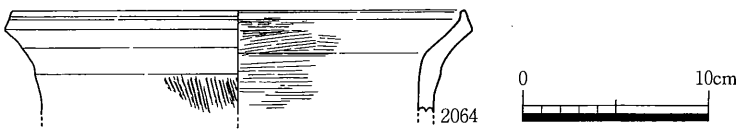


第148図　A5区SR01出土土器(1/4)及び石器(1/2)



1．暗灰色粘質土（耕作土）
2．淡灰褐色混細砂粘土（黄褐色細砂をラミナー状に含む）
3．暗灰色混細砂粘土（10～30cm大の亜円礫を少し含む）
4．淡灰色粘質土
5．黒褐色粘土（10～20cm大の亜円礫を少し含む）SR02
6．灰色砂礫（10～30cm大の亜円・円礫多い）
7．灰色混細砂粘土
8．淡灰色混礫細砂（5～10cm大のクサレ小礫多い）
9．淡青灰色細砂

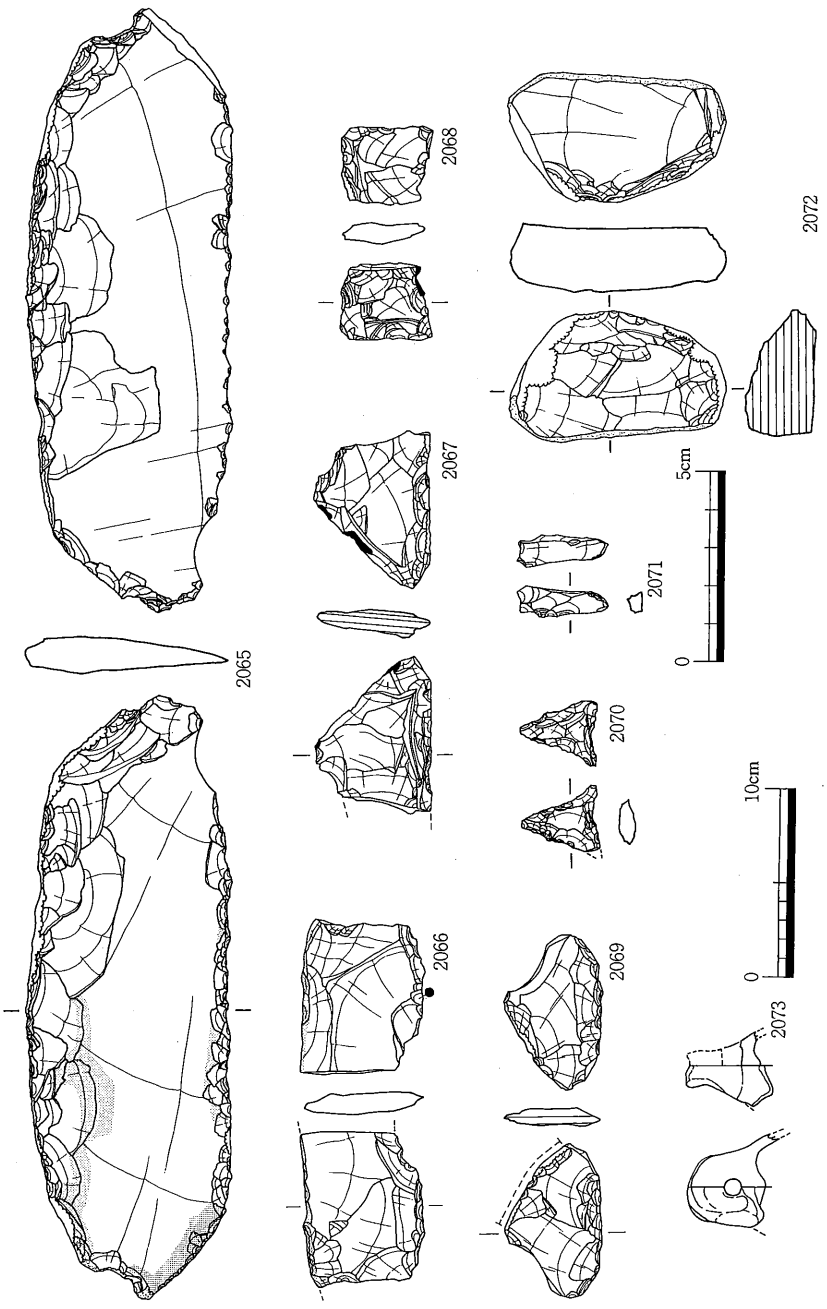
SR01

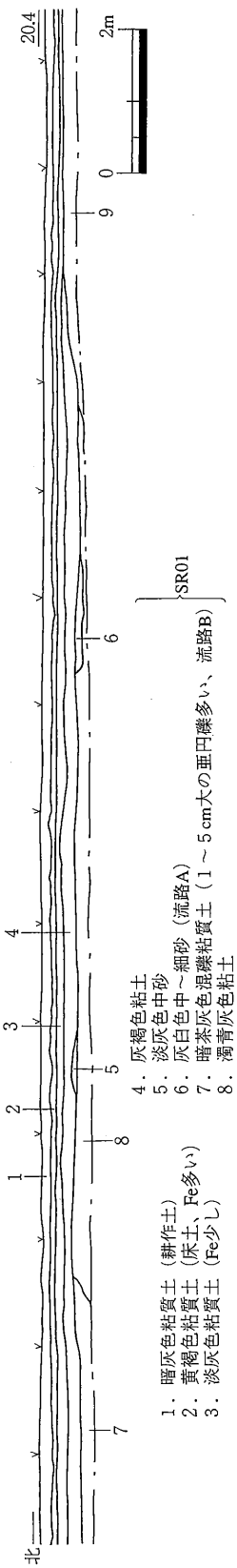


第149図　A4区SR01断面図(1/100)及び出土土器(1/4)

西③区ＳＲ01（第150図）

Ｂ２区画に位置する。２つの流路がある。どちらからも弥生時代中期の土器が少量出土している。北側の流路Ｂは底面が検出できていない。2065～2069は流路Ａから出土した石器である。2065は打製石庖丁である。2066・2067はスクレイパーである。2068・2069は楔形石器である。2070～2072はＳＲ01の上位の埋土から出土した石器である。2070は石鏃である。2071は石錐である。2072は周囲に敲打痕が見られ，叩き石である。2073は土師器の飯蛸壺である。出土層位はやや不確実であるが，上層の包含層からの出土であろう。

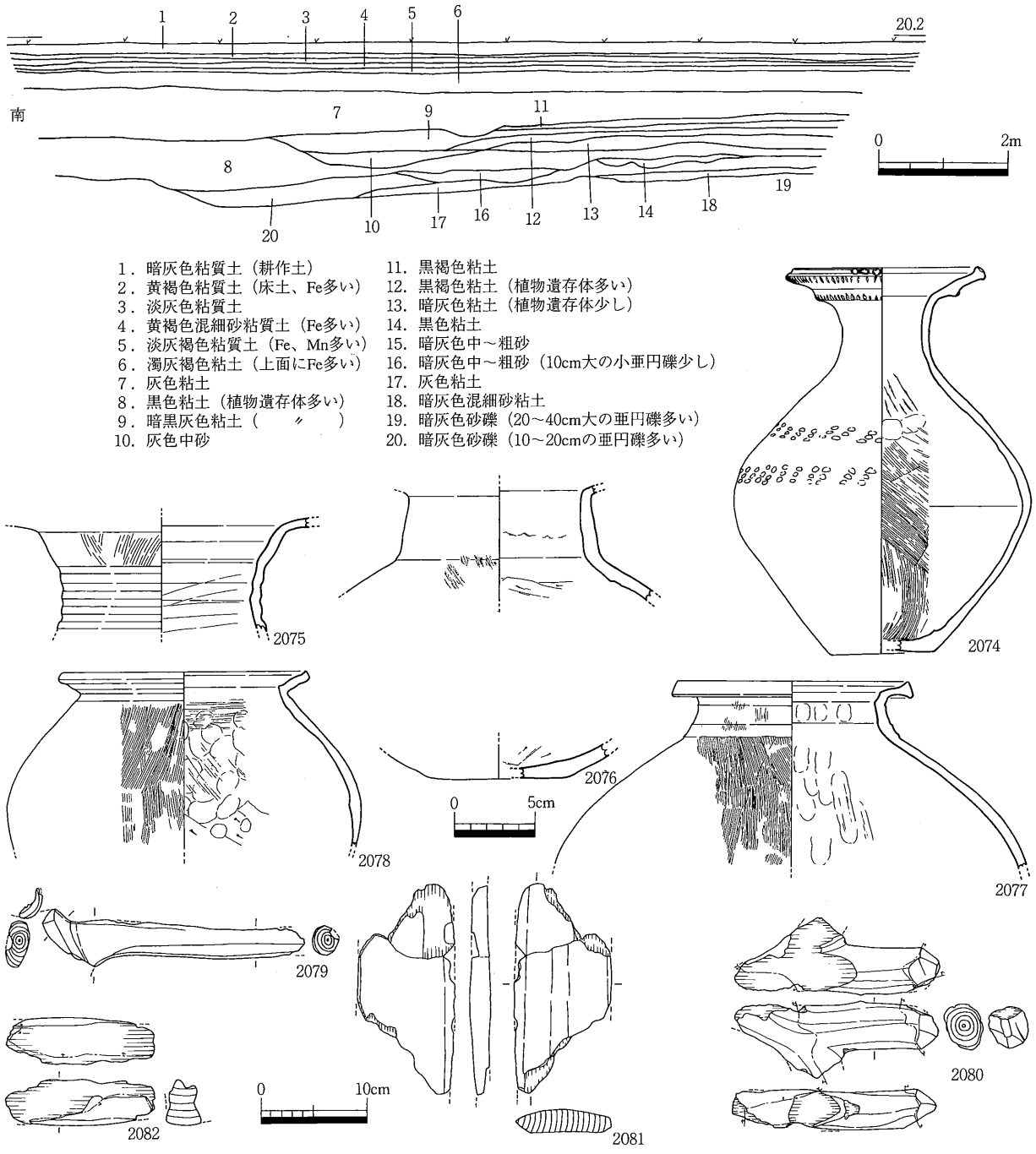




第150図　西③区SR01断面図（1/100）及び出土土器（1/4）・石器（1/2）

Ｂ１区ＳＲ（第151図）

Ｄ２・Ｅ２区画に位置する。断面図の７層を中心にして，６～17層から弥生時代中期～後期の土器が出土している。ＳＲ01の続きとも考えられるが，Ｂ１区のまわりには未調査区が広がっているため，明らかではない。2076は，同一個体と考えられる頸部と底部である。高さは正確にはわからないため，縮めてレイアウトしている。また2079～2082は６～13層から出土した木器である。2079はイヌガヤ材の斧膝柄である。2080はクヌギ製と考えられる木器である。台部未加工の斧膝柄の可能性もある。2081は広葉樹製の板材である。2082はアカガシと考えられる一面のみ加工面をもつものである。

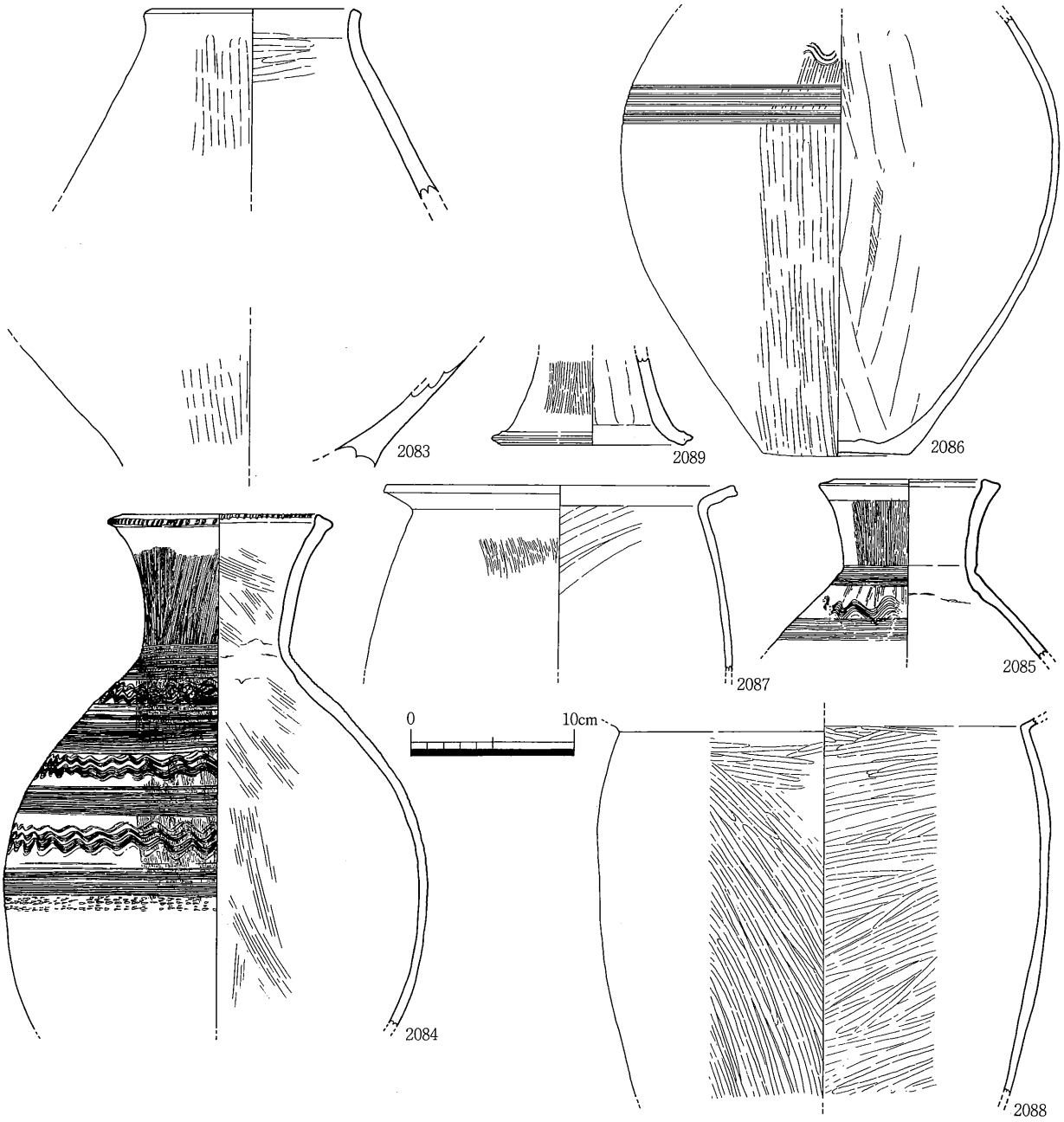


第151図　B1区SR断面図(1/100)及び出土土器(1/4)・木器(1/6)

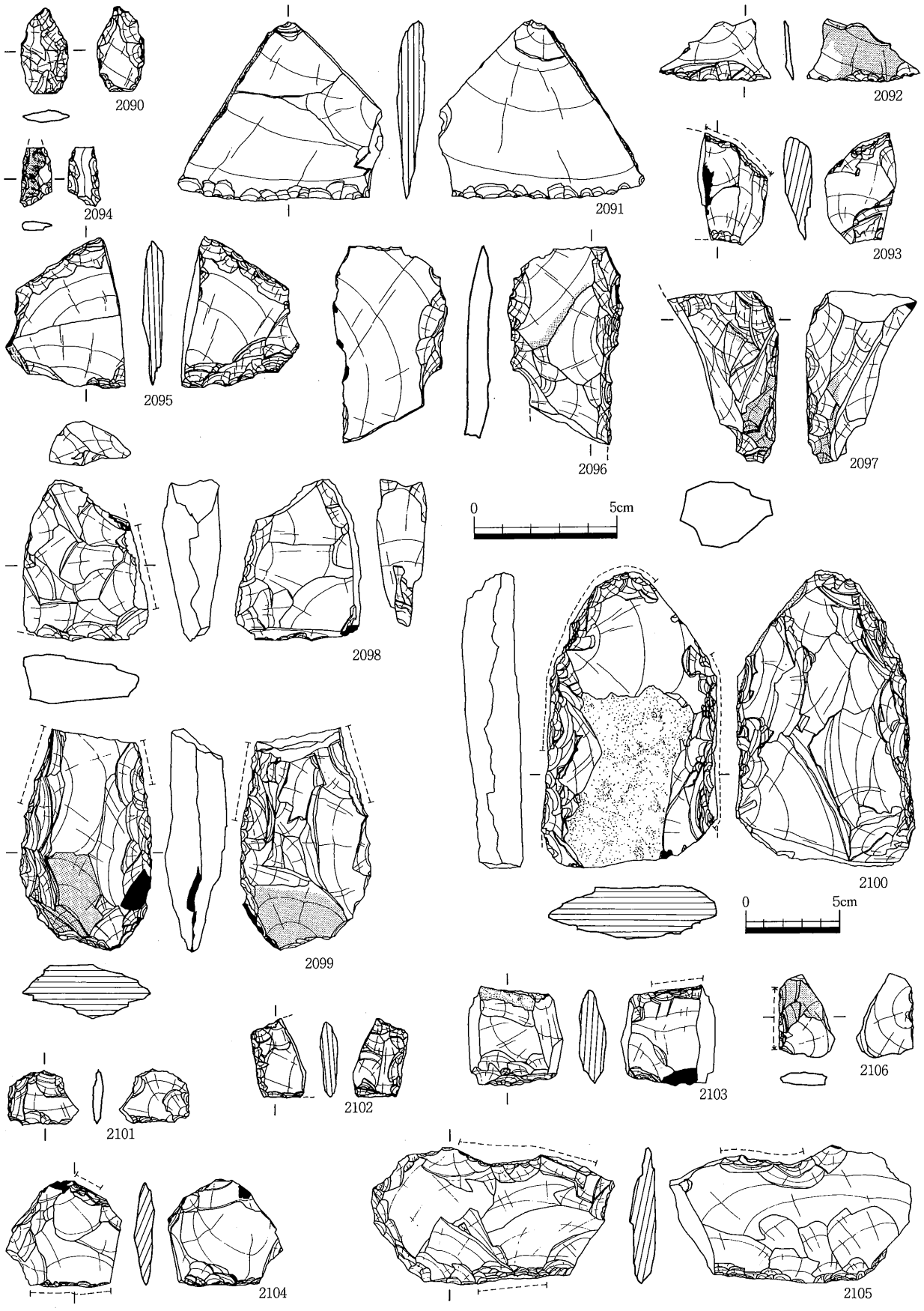
包含層出土の遺物

西③区包含層（第152・153図）

Ｂ４・Ｂ５区画では，遺構検出面が弥生時代中期の包含層の上面になっている部分がある。先述した西③④区ＳＤ12・08の断面図（第13図）の３層の上面に相当すると考えられる。この包含層から出土した土器が2083～2089である。2083はおそらく同一個体と考えられるもので，ここでは器高を考慮せずにレイアウトしている。弥生時代前期のものと考えられる。他は，弥生時代中期の土器である。2090～2093はこの層から出土した石器である。2090は石鏃である。2091・2092はスクレイパーである。2093は楔形石器である。2094～2106は上記の層より下の弥生時代前期の包含層と考えられる層から出土した石器である。2094は石鏃である。2095・2096はスクレイパーである。2097～2100は打製石斧である。2101～2105は楔形石器である。2106は磨滅ある石器である。おそらく打製石庖丁の破片であろう。



第152図　西③区包含層出土土器(1/4)



第153図　西③区包含層出土石器(1/2)

4　弥生時代後期～終末期

竪穴住居跡

Ⅰ区ＳＨ01（第154図）

Ｈ10区画に位置する。中央部ピットに炭が見られることから，これを炉跡と考え，この建物を４本柱の竪穴住居跡の削平されたものと考えた。遺物は出土していない。時期については，柱の並び方と近くに弥生時代後期中葉頃の溝跡があることから，弥生時代後期中葉頃とした。なお，断面図は航空測量の平面図から復元したものである。

Ⅴ区ＳＨ04（第154図）

Ｉ10区画に位置する。Ⅰ区ＳＨ01とほぼ同じ規模であることから，残存状況が悪い竪穴住居跡と考える。遺物は出土していない。

Ⅶ区ＳＨ01・02（第154・155図）

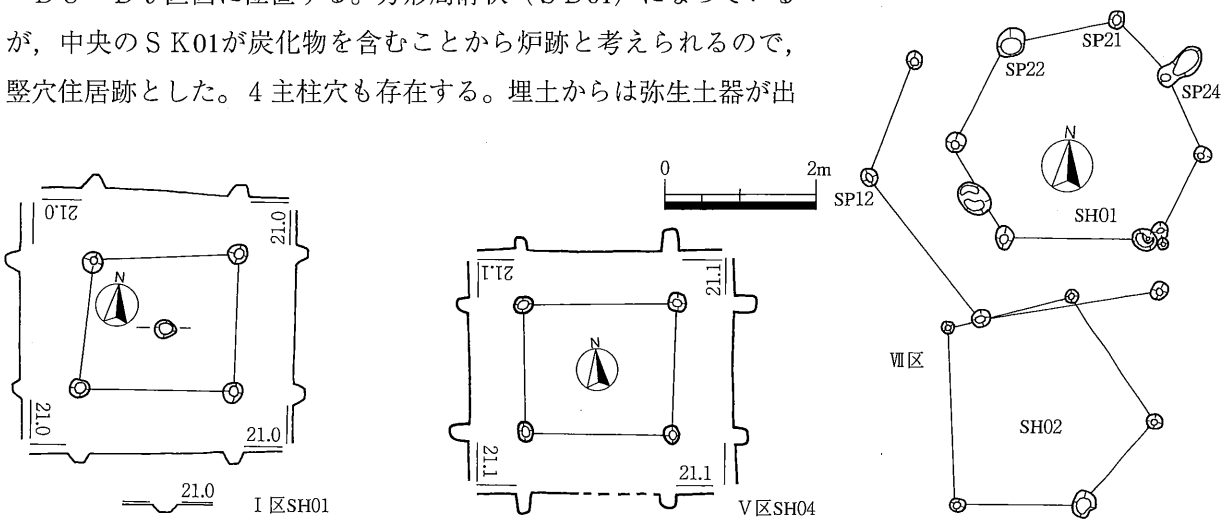
Ｉ８区画に位置する。残存状況の悪い二つの竪穴住居跡が重なっているものと考えられる。柱穴列は何通りか考えられる。柱穴の深さは，６～29㎝である。柱穴12・21・22・24には根石がある。また，柱穴14及び22からは弥生時代後期の土器が出土している。2107は柱穴22の根石で，砂岩製で磨滅のあるものである。2108は柱穴24の根石で，砂岩製の磨滅のあるものであり，火を受けた跡がある。

Ⅻ区ＳＫ02・ＳＤ14・18・17（第156図）

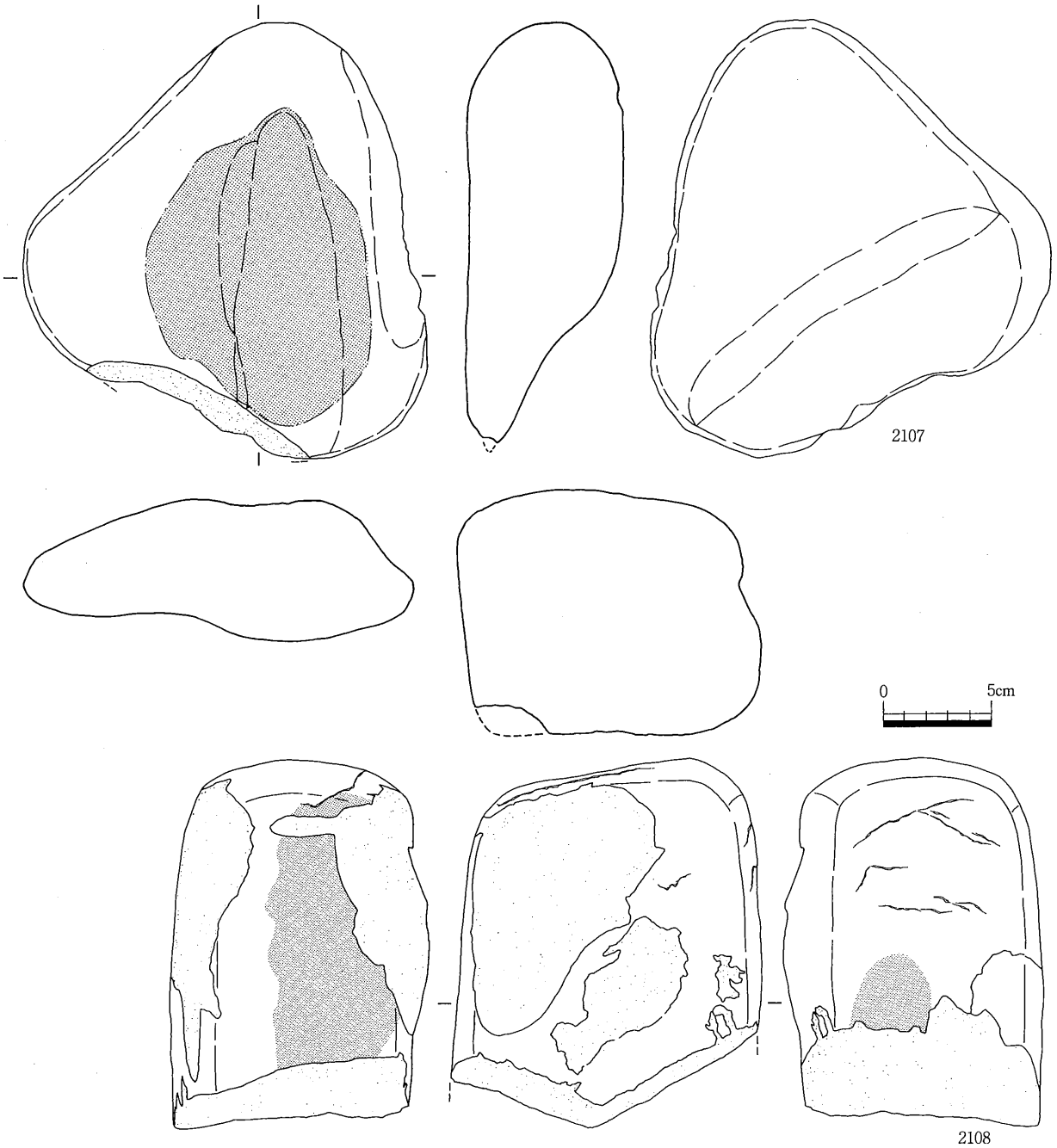
Ｄ９・Ｄ８・Ｅ８区画を中心に位置する。竪穴住居跡である。K01には炭が認められるので，炉跡と考えられる。ＳＫ02埋土からは弥生時代後期中葉頃の土器が出土している。溝はＳＫ02からの排水溝のような性格の溝である。ＳＤ14は他の竪穴住居跡からの排水溝の可能性がある。ＳＤ18から弥生時代後期中葉頃の甕（2109）が出土している。

Ⅻ区ＳＸ02（第156図）

Ｄ８・Ｄ９区画に位置する。方形周溝状（ＳＤ01）になっているが，中央のＳＫ01が炭化物を含むことから炉跡と考えられるので，竪穴住居跡とした。４主柱穴も存在する。埋土からは弥生土器が出



第154図　Ⅰ区SH01,Ⅴ区SH04及びⅦ区SH01･02平･断面図(1/100)

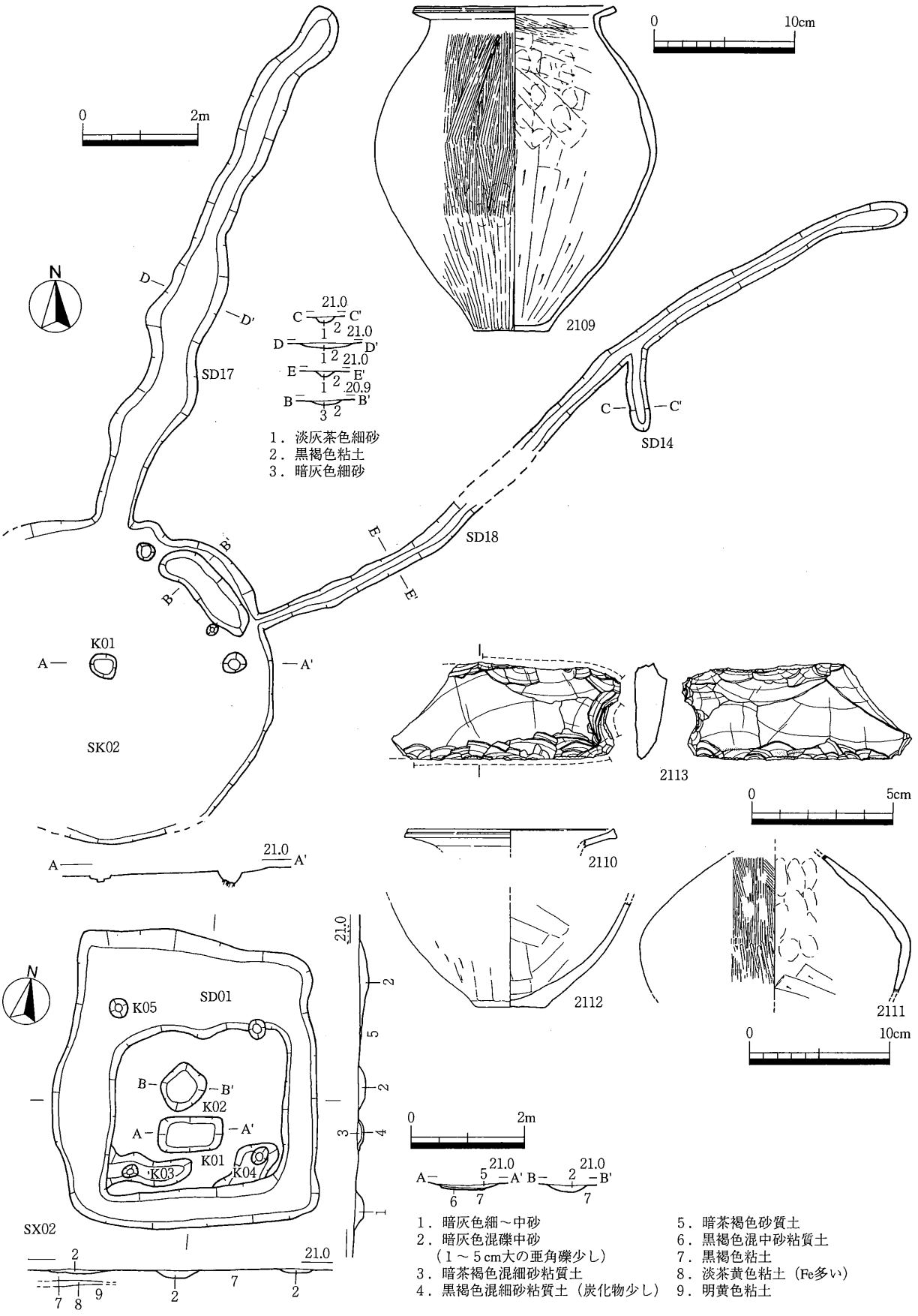


第155図　Ⅶ区SH01·02出土石器(1/3)

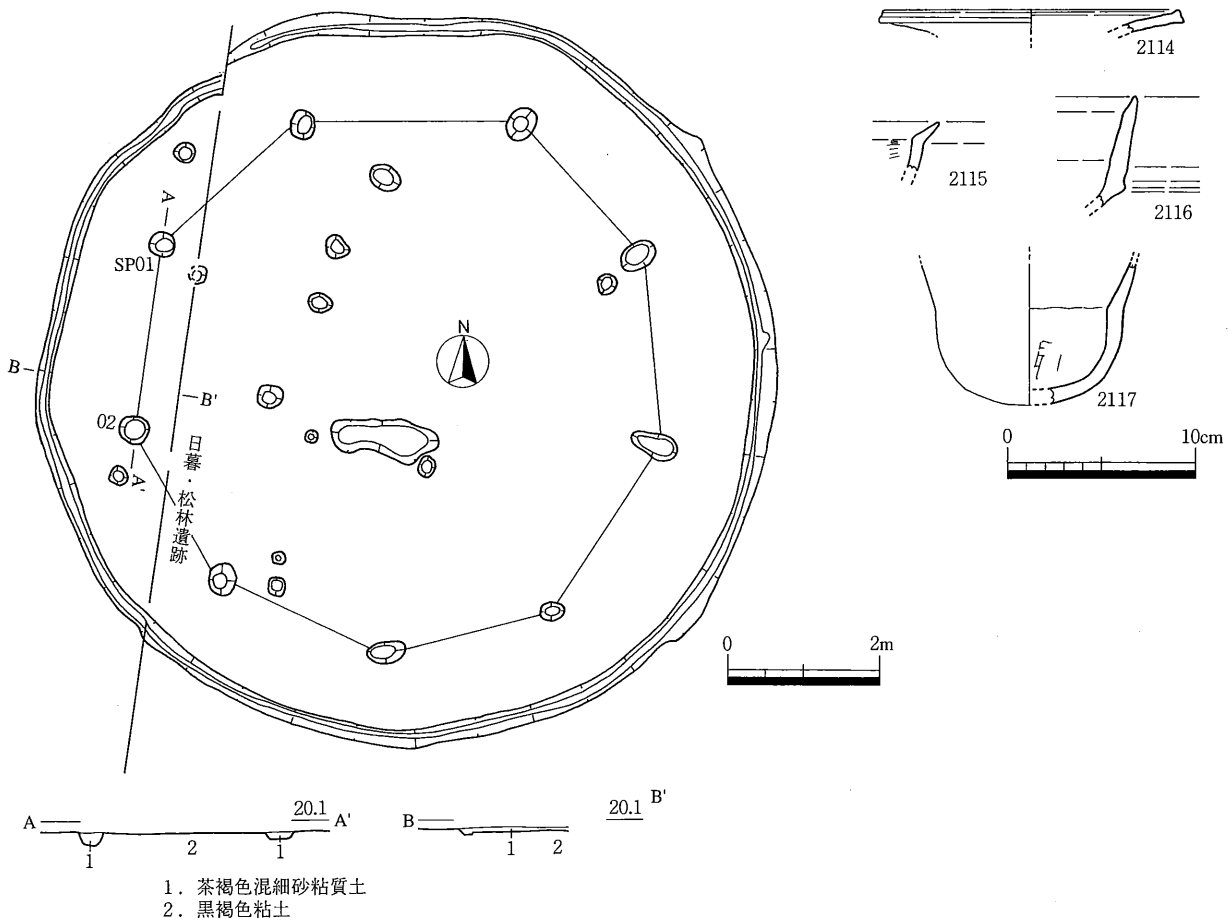
土している。2110はＳＤ01から出土した壺である。2111は埋土から出土した壺である。2112は，ＳＤ07から出土した破片とＳＫ01から出土した破片が接合した鉢である。2113はＳＫ03から出土した打製石庖丁である。

東②区ＳＨ01（第157図）

Ｊ２・Ｊ３・Ｋ２・Ｋ３区画に位置する。ほとんどの部分は，日暮・松林遺跡の調査区に位置している。平面図は測量の誤差のため，調査区境界で食い違いが生じている。日暮・松林遺跡では，ＳＨ02として報告されている。主柱穴は当調査区では柱穴01及び02であり，全体の数は９である。出土遺物は，



第156図　XII区SK02·SD14·18·17,XII区SX02平·断面図(1/100)及び出土土器(1/4)·石器(1/2)



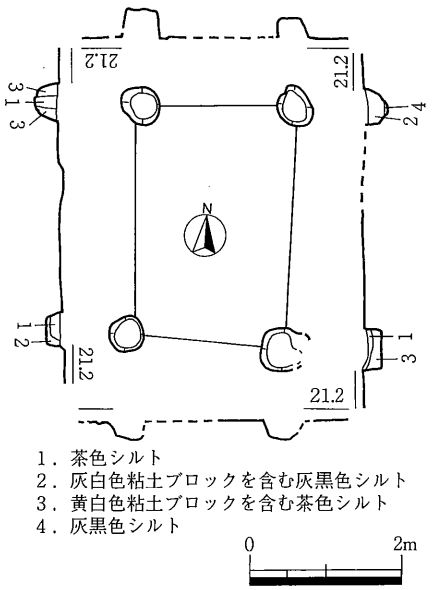
第157図　東②区SH01平･断面図(1/100)及び出土土器(1/4)

弥生時代終末期のものである。当遺跡では，柱穴01から弥生土器2117が出土している。2114～2116は埋土から出土した土器である。

掘立柱建物跡

Ⅴ区ＳＢ01（第158図）

Ｉ10区画に位置する。現在の水路下は未調査であるため，確実ではないが，１間×１間の建物である。また，Ⅴ・Ⅶ区ＳＤ03の西岸面に柱穴の痕跡らしきものがあり，ＳＢ01の柱穴列の延長とも考えられるが，確実に柱穴とは認識できないので，ここではＳＢ01の柱穴列の延長とは考えない。主軸方位は，Ｎ２°Ｅである。Ⅴ区ＳＤ03及びＳＤ04より古い。柱穴からは，胎土に角閃石を含む弥生土器が出土している。



第158図　Ⅴ区SB01平･断面図(1/100)

Ⅴ区ＳＢ03（第159図）

Ｈ10・Ｉ10区画に位置する。この建物より北側は，後世の削平により40cm程度地下げ行われている。この建物の柱穴の深さ

は30㎝前後であることから，柱穴列が北へのびる可能性は否定できない。主軸方位は，N8°Eである。弥生土器がわずかに出土している。胎土に角閃石を含む甕の小破片があること，周囲の弥生土器の出土状況及びSD01との位置関係から考えて，弥生時代後期中葉頃と考える。

柵列

A5区SA01（第159図）

E16区画に位置する。Ⅵ区SR01の西岸に沿う。方位は，N33°Eである。柱穴の深さは，SR01の15層（第147図断面図参照）上面から90㎝程度あることから，SR01の15層上面から掘り込まれていると考えることは困難であるので，15層下面に掘り込み面を求めることが妥当である。15層は弥生時代後期の包含層，15層以下は弥生時代前期から中期の包含層であるので，この柵列の時期は弥生時代後期以前の時期とできよう。

土坑

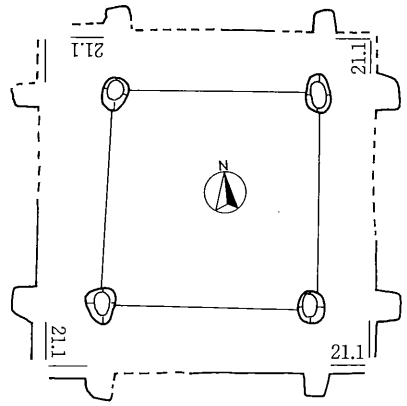
XI区SK01（第159図）

D10区画に位置する。隅丸長方形の土坑である。弥生時代後期の土器の小破片が出土している。

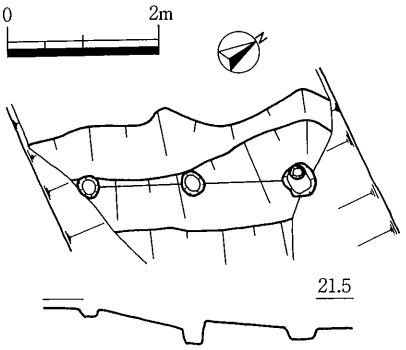
不明遺構

XII区SX01（第159図）

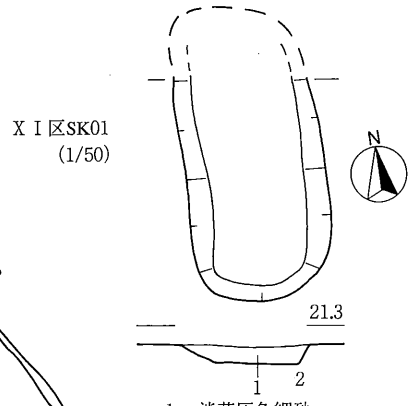
D7区画付近に位置する。調査時には不明遺構としているが，北東方向にある川跡への傾斜地に堆積した包含層と考えられる。



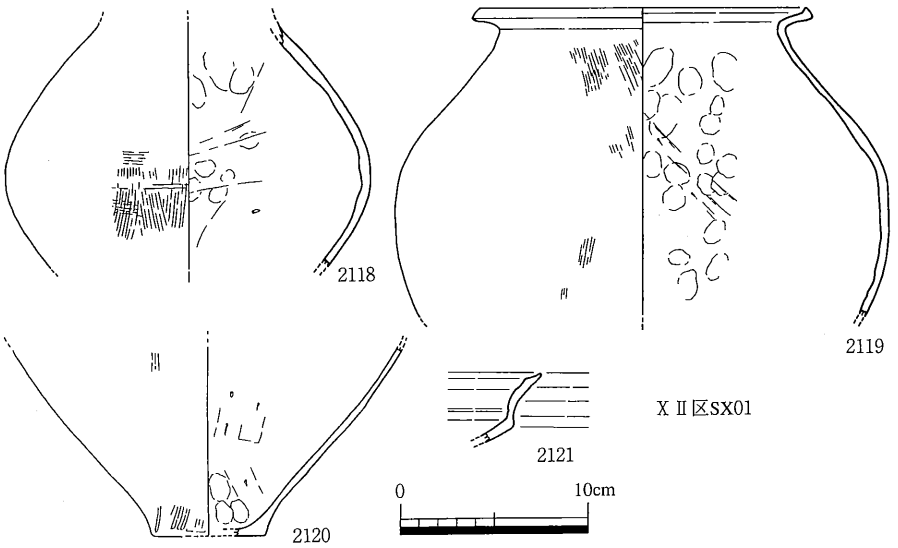
V区SB03



A5区SA01



XI区SK01
(1/50)



XII区SX01

第159図　V区SB03・A5区SA01・XI区SK01平・断面図(1/100,1/50)及びXII区SX01出土土器(1/4)

出土遺物は弥生時代後期中葉のものである（2118～2121）。

溝跡

Ⅰ・Ⅴ区ＳＤ01（第160図）

Ｈ10・Ｉ10区画に位置する。微高地の建物群の間から西の川跡へ流れ込む溝跡と考えられる。埋土から弥生時代後期中葉頃のほぼ完形の長頸壺2123等が出土した。Ｉ区ＳＨ01のほぼ南あたりの位置である。2122は弥生時代中期の土器である。2124は器形・口径とも不確実な土器であるが，ここでは鉢として報告する。

ＳＤ07（Ⅵ・Ⅻ・西③・西④区，第160～181図）

Ｆ12～Ｆ10～Ｂ６区画に位置する。規模の大きな溝である。埋土からは弥生時代後期中葉頃の土器が大量に出土している。2125～2530は出土土器である。調査時には上層・下層に分けて取り上げているが，大きな差異は無いので，ここでは一括して報告する。2125・2126は弥生時代前期の土器と考えられる。2127～2132は弥生時代中期の土器と考えられる。2133～2158は弥生時代後期中葉頃と考えられる土器である。ここでは，各器種ごとにレイアウトしているが，各器種においては，胎土に角閃石を含むものとそうでないものとにわけてレイアウトしている。ただし，胎土の観察は大まかな肉眼観察によるものであることを断っておく。2123～2172は角閃石を含む壺である。2171はあまり類例が無い。2172はあまり類例のないもので，時期についても確実ではない。2173～2219は角閃石を含まない壺である*1。2219は胎土に結晶片岩の細礫を含むものである。2220～2346は甕である。2220～2314は胎土に角閃石を含むものである。2287は焼成前に口縁部が割れたためか，割れ目に粘土を貼り付けており，口縁部はゆがんだ形になっている。2315～2346は角閃石を含まない甕である*1。2324は全形不明であるがここでは甕としておく。2347～2395は角閃石を含む高杯である。ただし，口縁部破片の中には鉢と区別が付きにくいものもある。脚端部はハケ目原体によりヨコナデを行うものが多い。2393～2395は特異な器形である。2396～2420は角閃石を含まない高杯である。2421～2448は角閃石を含む鉢である。2449～2504は角閃石を含まないものである。底部の破片は，ここでは鉢としておくが，他の器形になる可能性もある。2505～2508は角閃石を含まない甑である。2509～2511は蓋であり，角閃石は含まない。2512は支脚で角閃石を含まない。2513・2514は器台の脚端部と考えられるもので，角閃石は含まない。2515は，器形不明で，角閃石は含まない。2516～2518は小型の土器で角閃石は含まない。2519～2523は製塩土器で，2519～2521は角閃石を含む。2524～2526は土製紡錘車で，いずれも角閃石は含まない。2526以外は土器片を利用したものである。2527～2530は古墳時代前期のものと考えられる土器である。2530は高杯としておく。

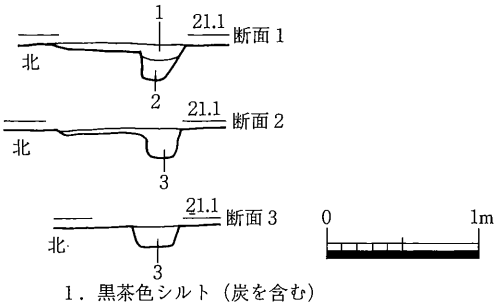
2531～2542は石器である*2。2531・2532は石鏃である。2533は石槍である。2534は石錐である。2535は石匙である。2536～2538はスクレイパーである。2539・2540は楔形石器である。2541は砂岩製の砥石である。2542は結晶片岩製の磨滅ある石器である。

2543～2548は木器である。2543はヒノキ製の用途不明の木製品である。周囲は刃部状に作りだされている。2544はヒノキ製と考えられる板材である。小口部分にのみ加工痕が認められる。2545～2548はヒノキ製と考えられる板材である。2547・2548はほぼ全面炭化しており加工痕は観察できない。

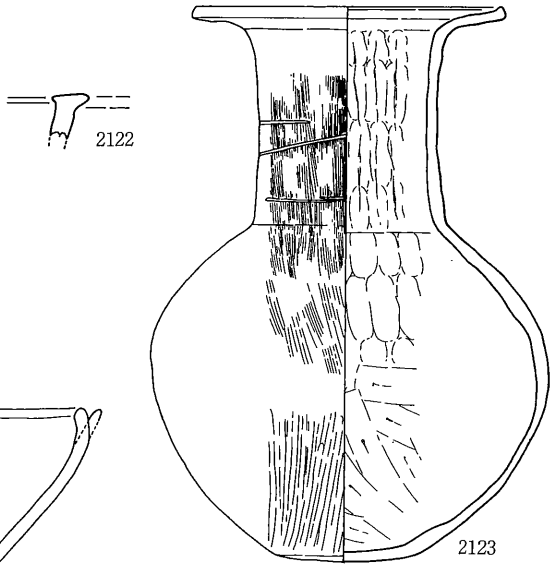
---

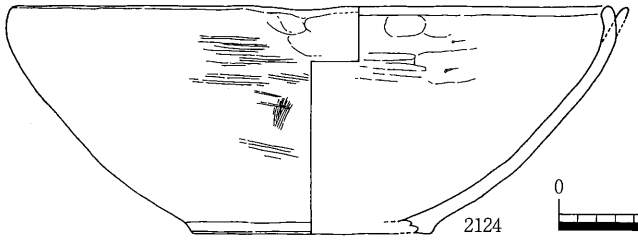
*1　編集時の手違いで，角閃石を含む土器がレイアウトされている。2200，2329。

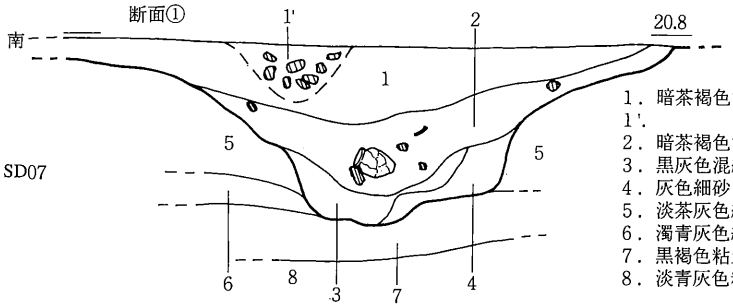
*2　編集時の手違いで，ＳＤ07出土の石器が193頁にレイアウトされている。2722。



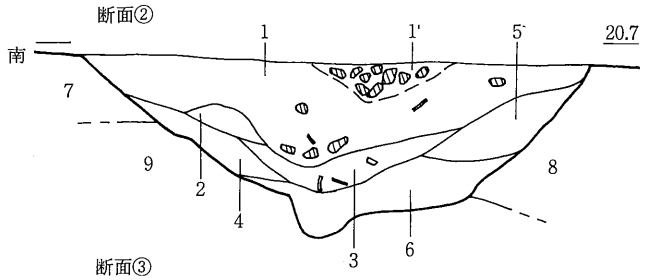
1．黒茶色シルト（炭を含む）
2．黒茶色シルト（黄色シルトブロックを含む）
3．暗茶色シルト　　Ⅰ・Ⅴ区SD01



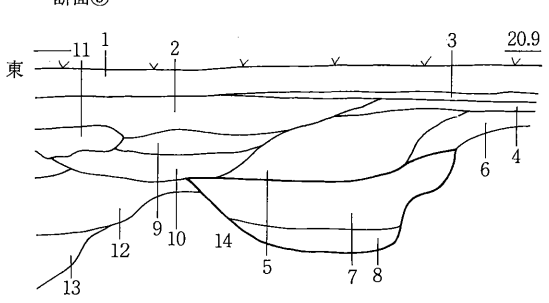




1．暗茶褐色混細砂粘土（5～10cm大の亜角礫少し）
1'．〃　（5～30cm大の亜角・亜円礫多い）
2．暗茶褐色混細砂粘土（弥生土器多い）
3．黒灰色混細砂粘土
4．灰色細砂（シルト質）
5．淡茶灰色細砂
6．濁青灰色細砂
7．黒褐色粘土
8．淡青灰色粘土

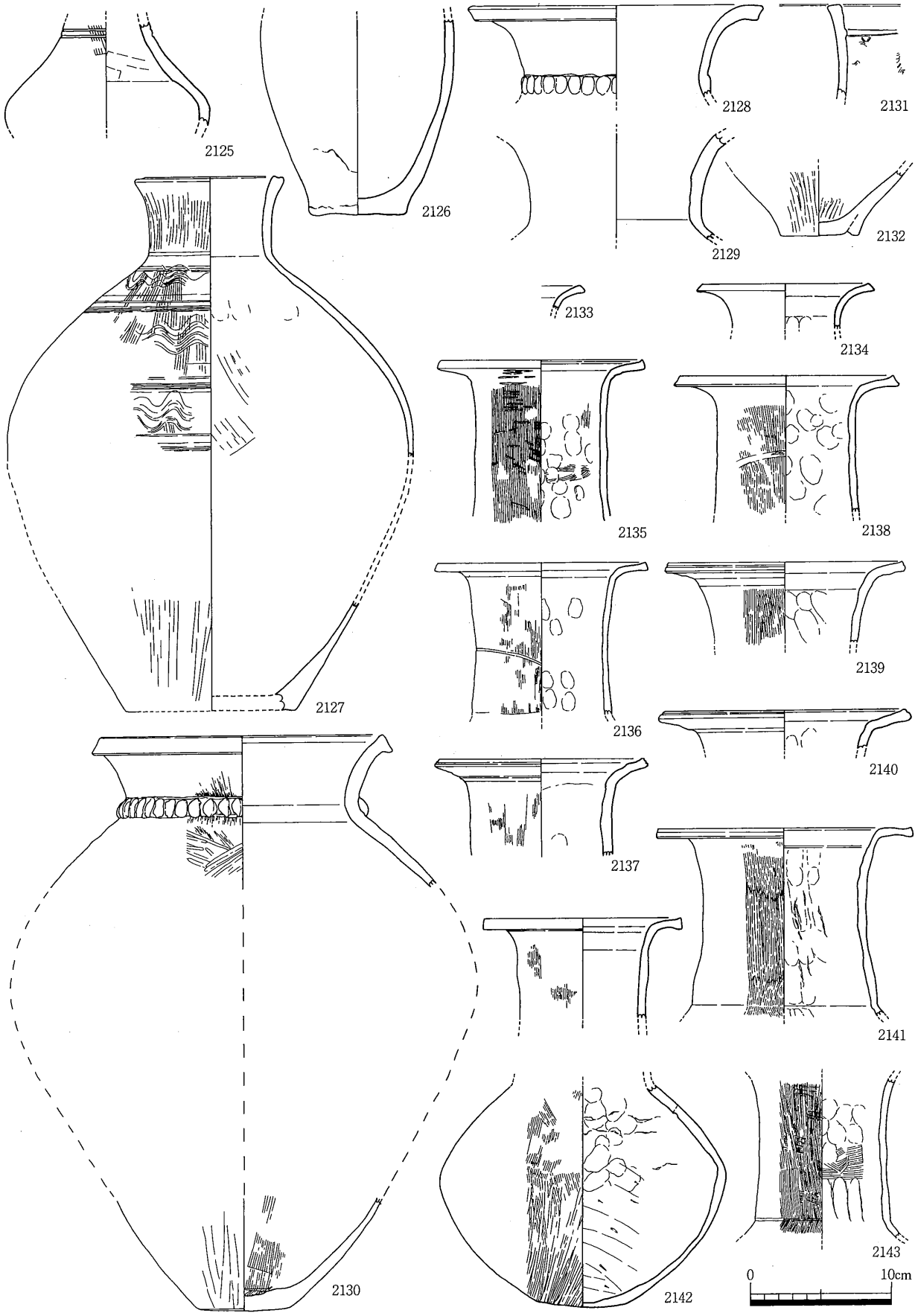


1．暗茶褐色混細砂粘土（5～10cm大の亜角・亜円礫少し）
1'．〃　（5～30cm大の亜角・亜円礫多い）
2．茶褐色混細砂粘質土
3．黒褐色粘土（弥生土器多い）
4．淡茶褐色混細～中砂粘質土
5．黄褐色細砂（シルト質）
6．濁灰色混礫シルト（5cm大の亜角礫少し）
7．黒褐色粘土
8．淡茶灰色細砂
9．明黄色粘土

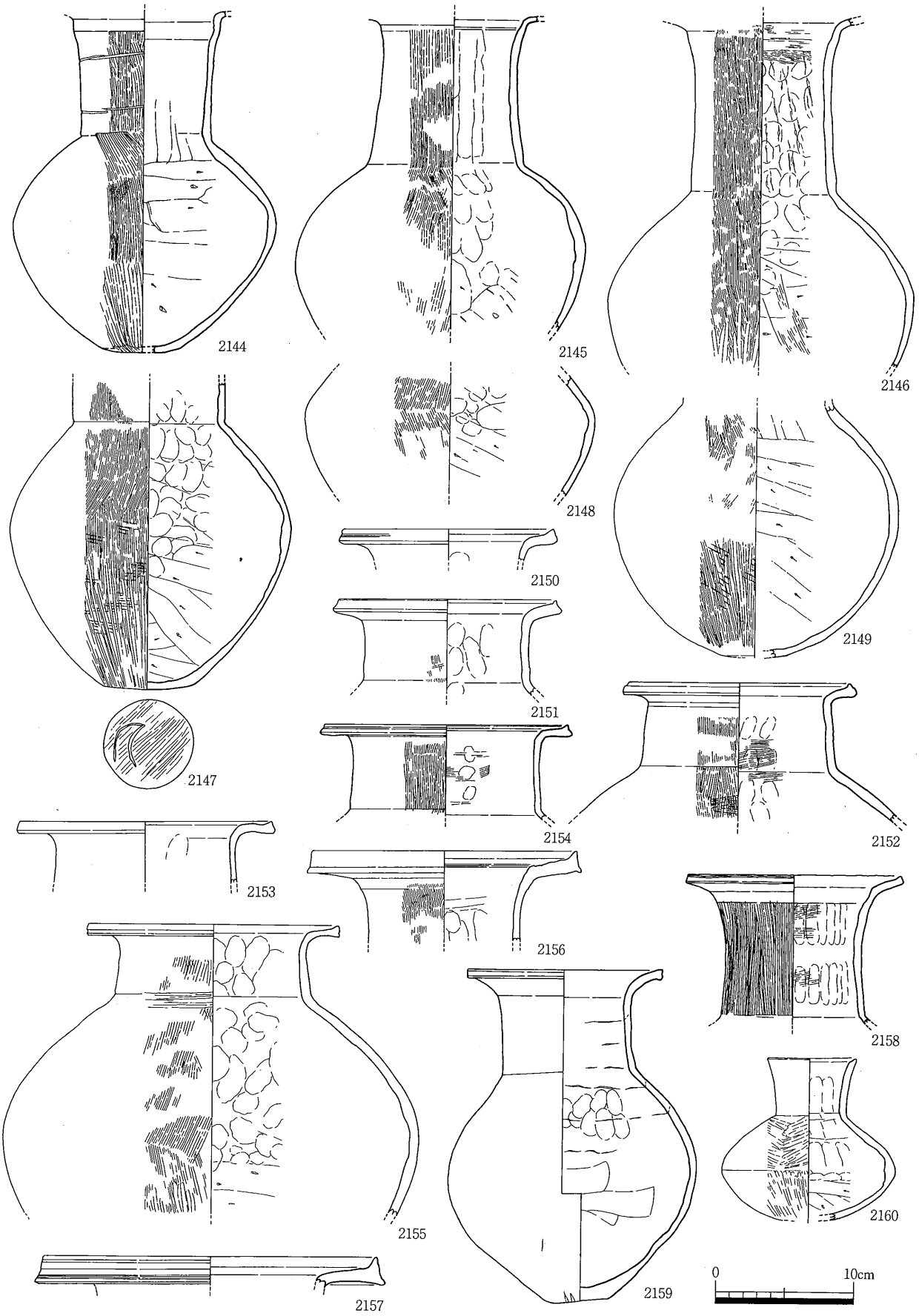


1．暗灰色粘質土（耕作土）
2．淡灰色粘質土
3．淡灰褐色粘質土（Fe多い）
4．黄褐色細砂
5．暗灰褐色粘土
6．5に地山ブロックが混じる
7．黒色粘土　}SD03
8．黒褐色混細砂粘土　}SD03
9．灰褐色粘土（Fe少し）　}SD02
10．灰褐色混細砂粘土（Fe多い）　}SD02
11．黄褐色細砂
12．黒褐色粘土（植物遺存体多い）
13．黒色粘土（植物遺存体多く含む）
14．淡青灰色粘土（地山・明黄色粘土がグライ化）

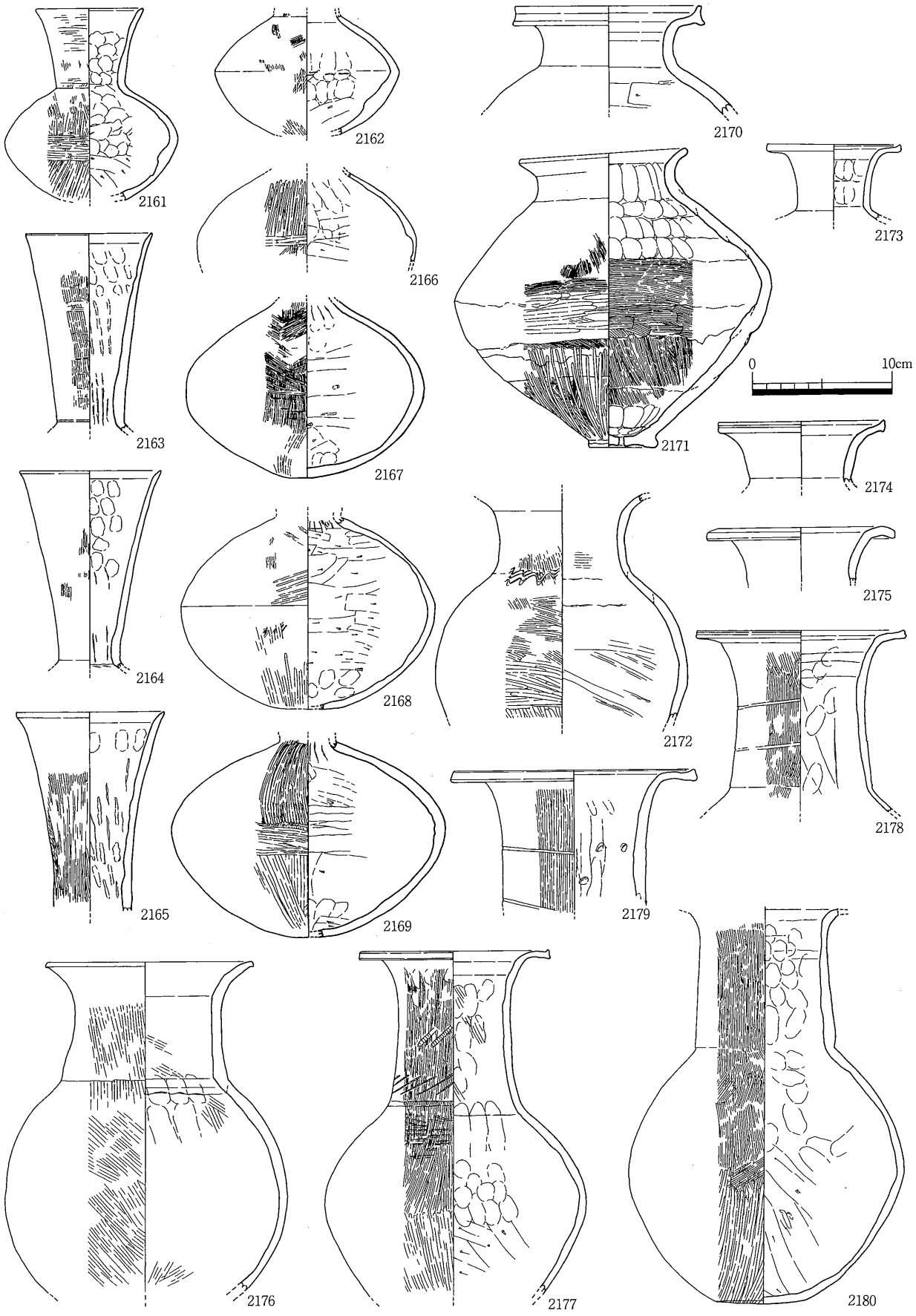
第160図　Ⅰ・Ⅴ区SD01断面図(1/50)・出土土器(1/4)及びSD07断面図(1/50)



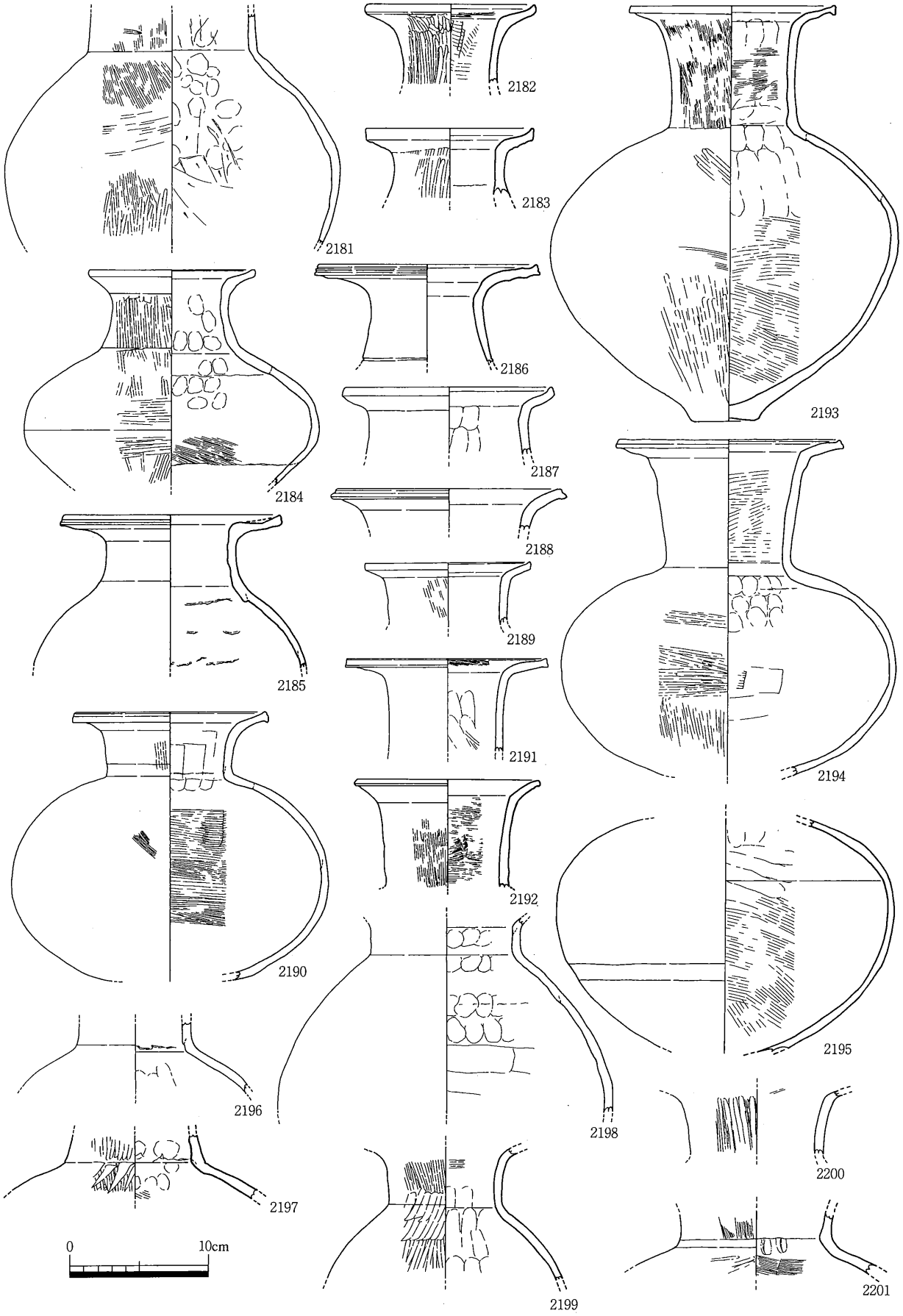
第161図　SD07出土土器(1)(1/4)



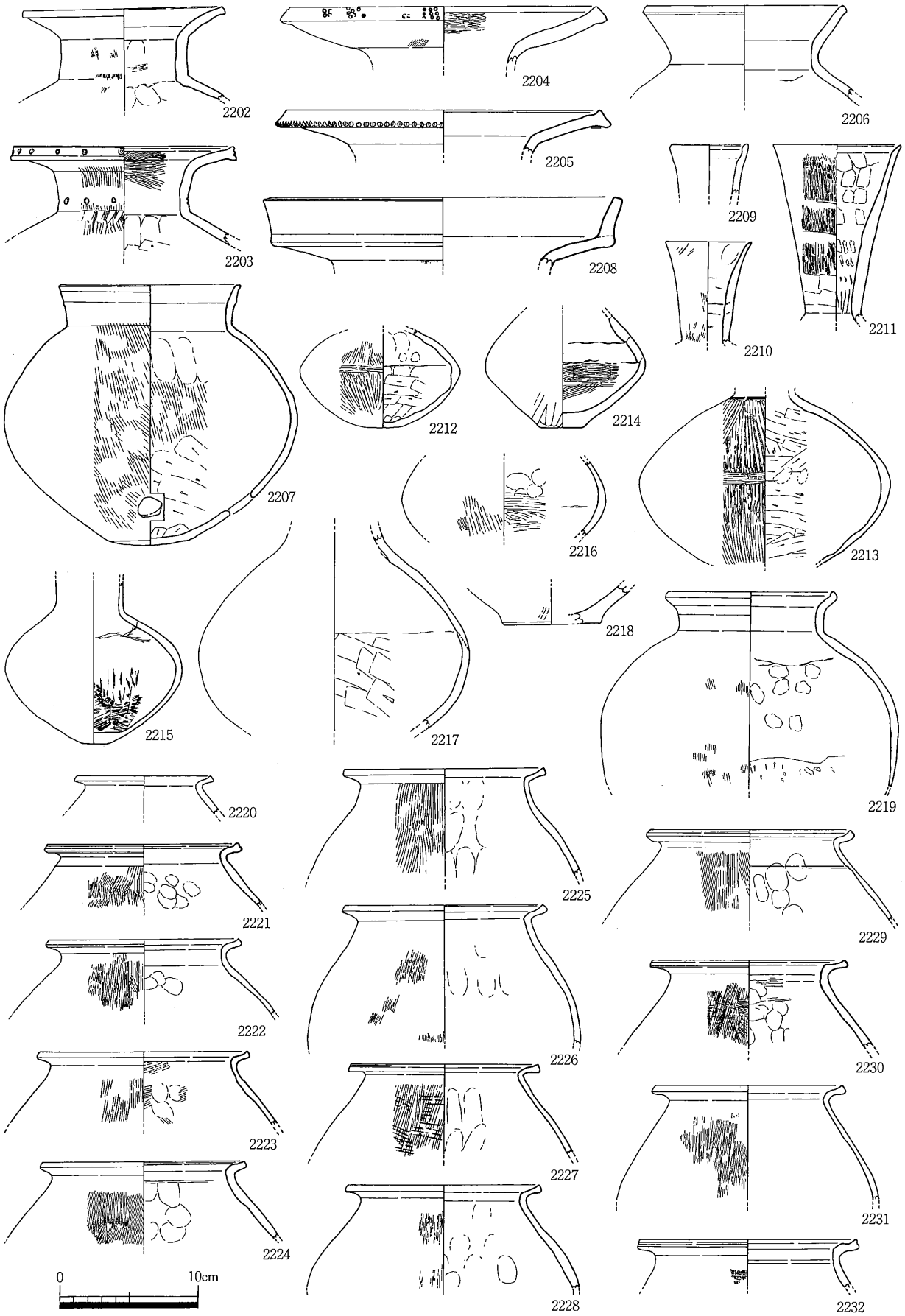
第162図　SD07出土土器(2)(1/4)



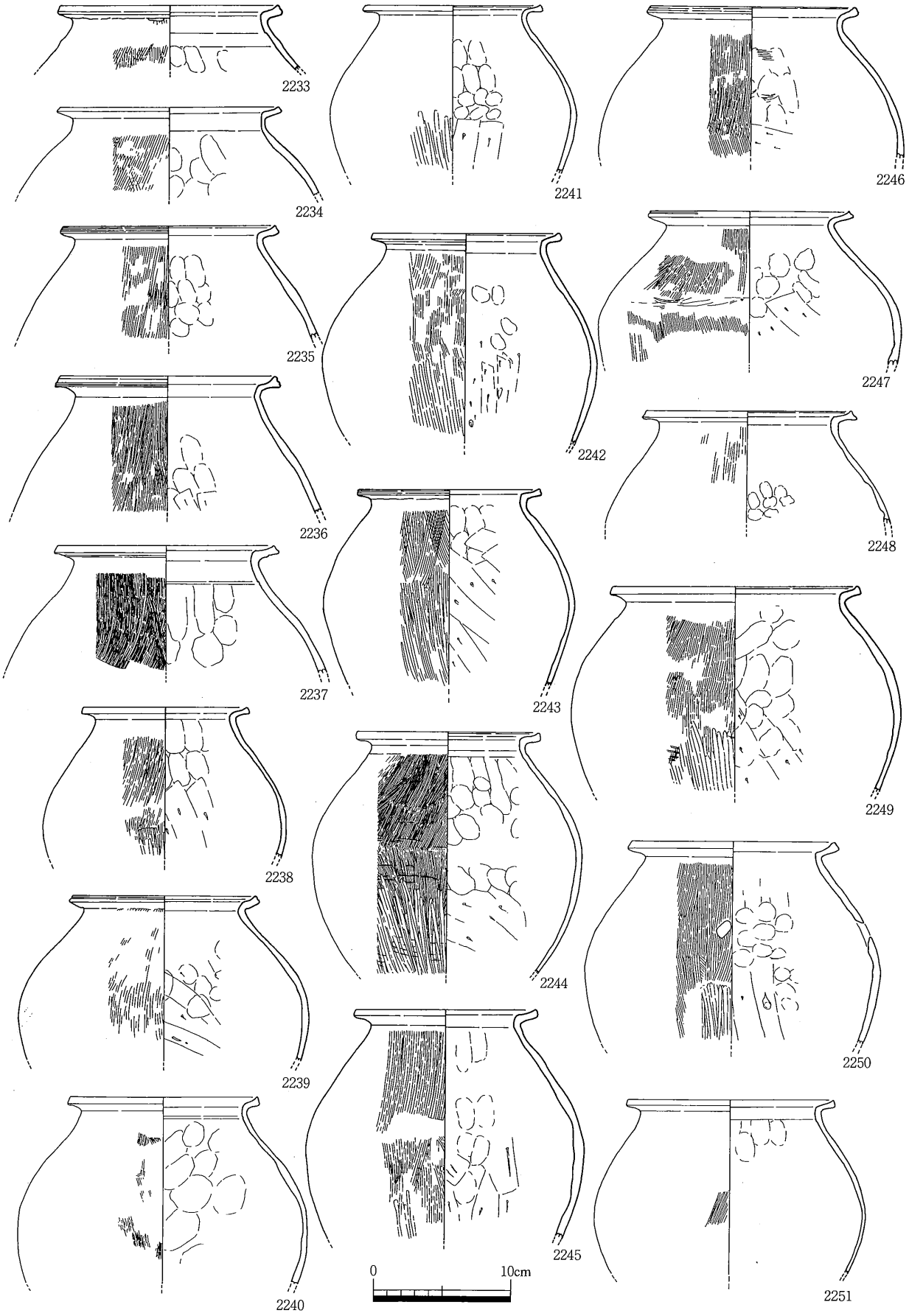
第163図　SD07出土土器(3)(1/4)



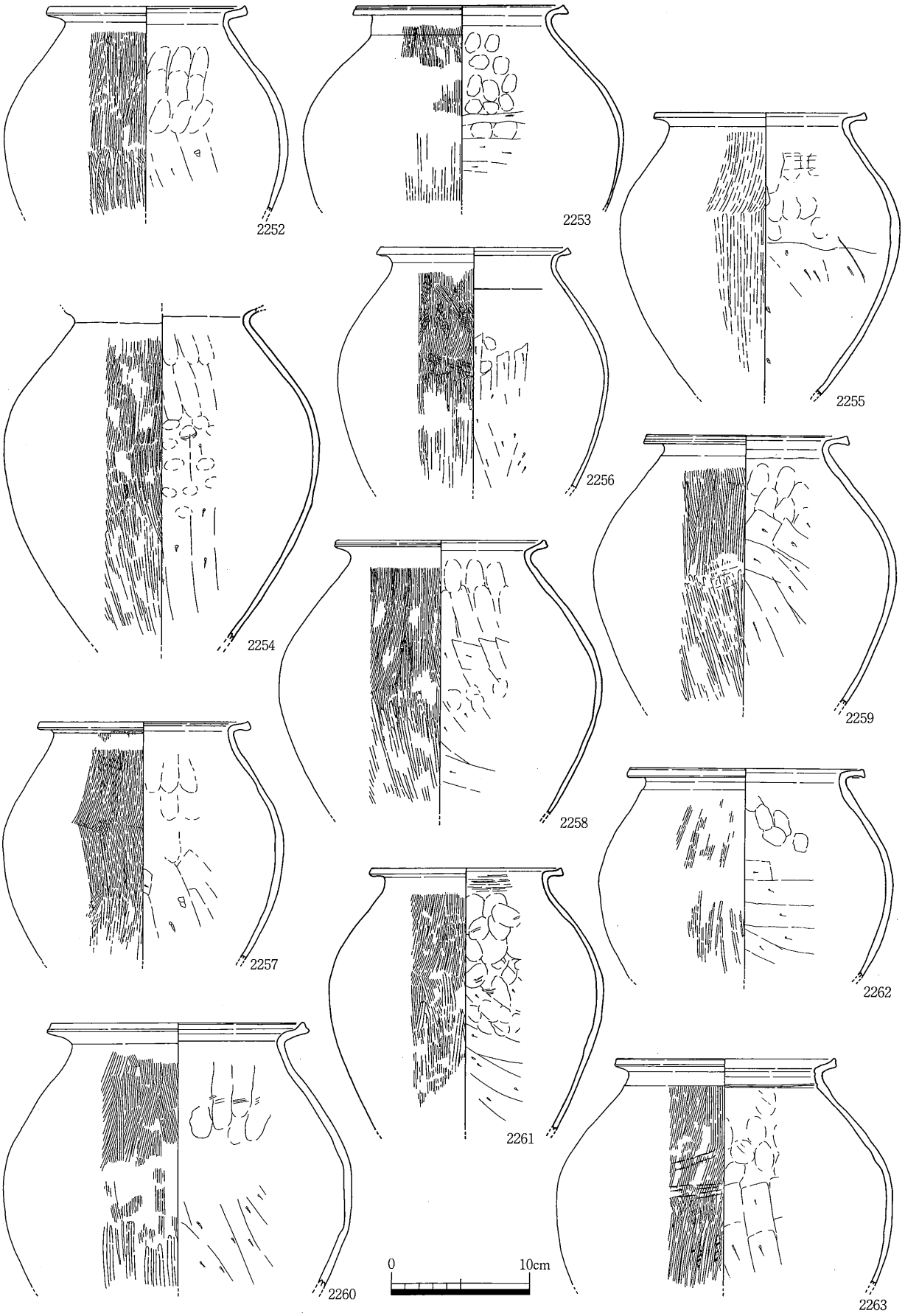
第164図　SD07出土土器(4)(1/4)



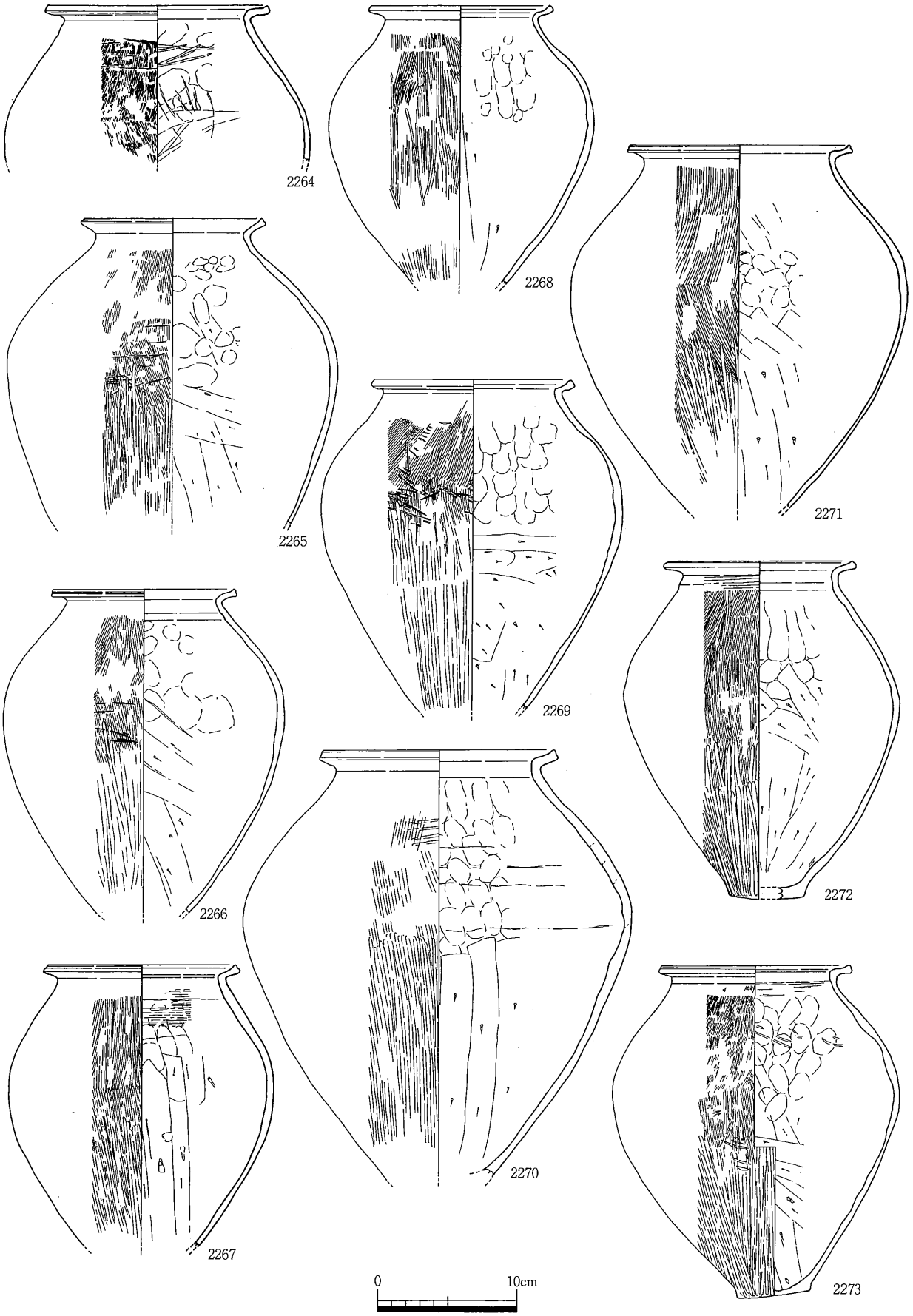
第165図　SD07出土土器(5)(1/4)



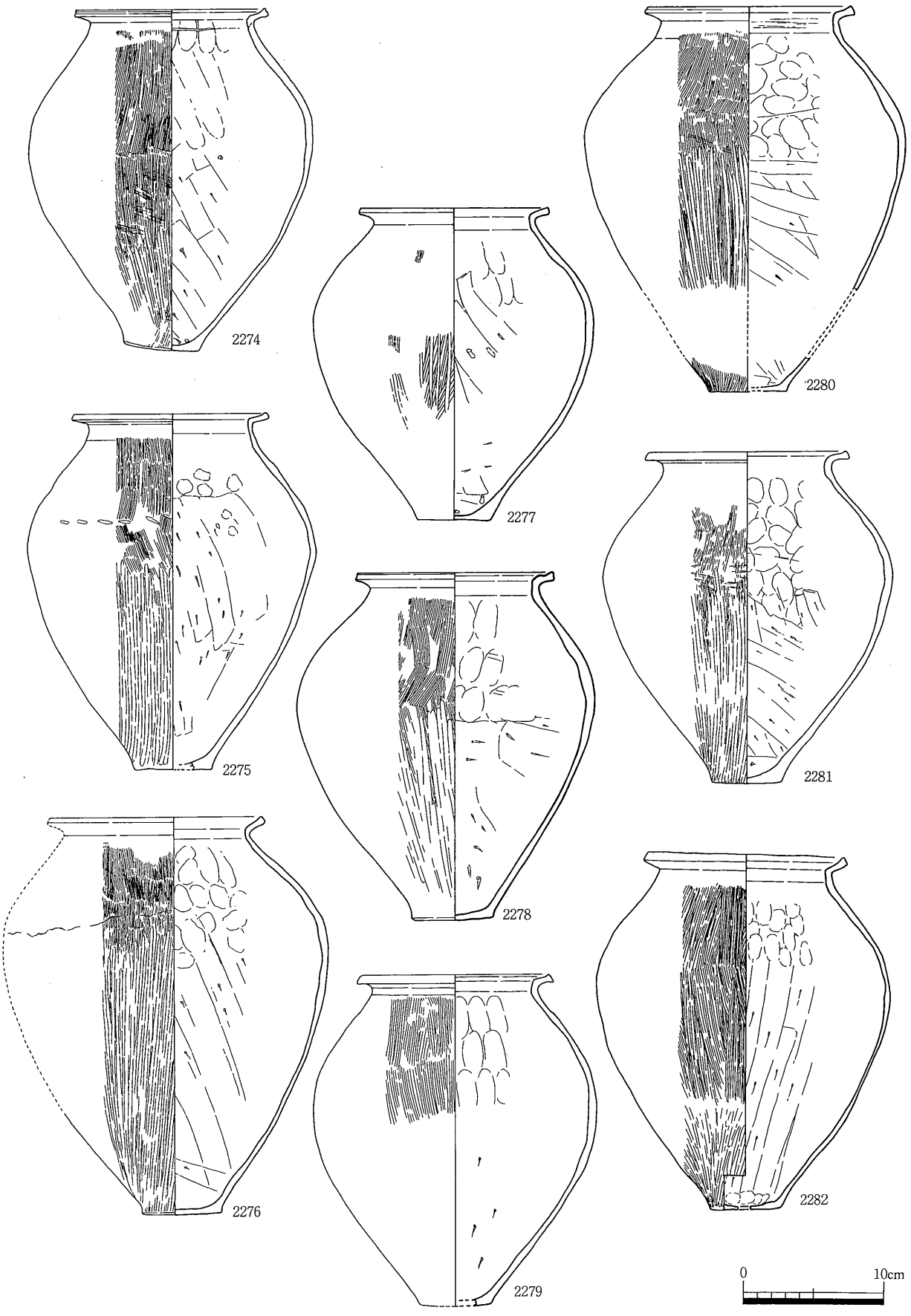
第166図　SD07出土土器(6)(1/4)



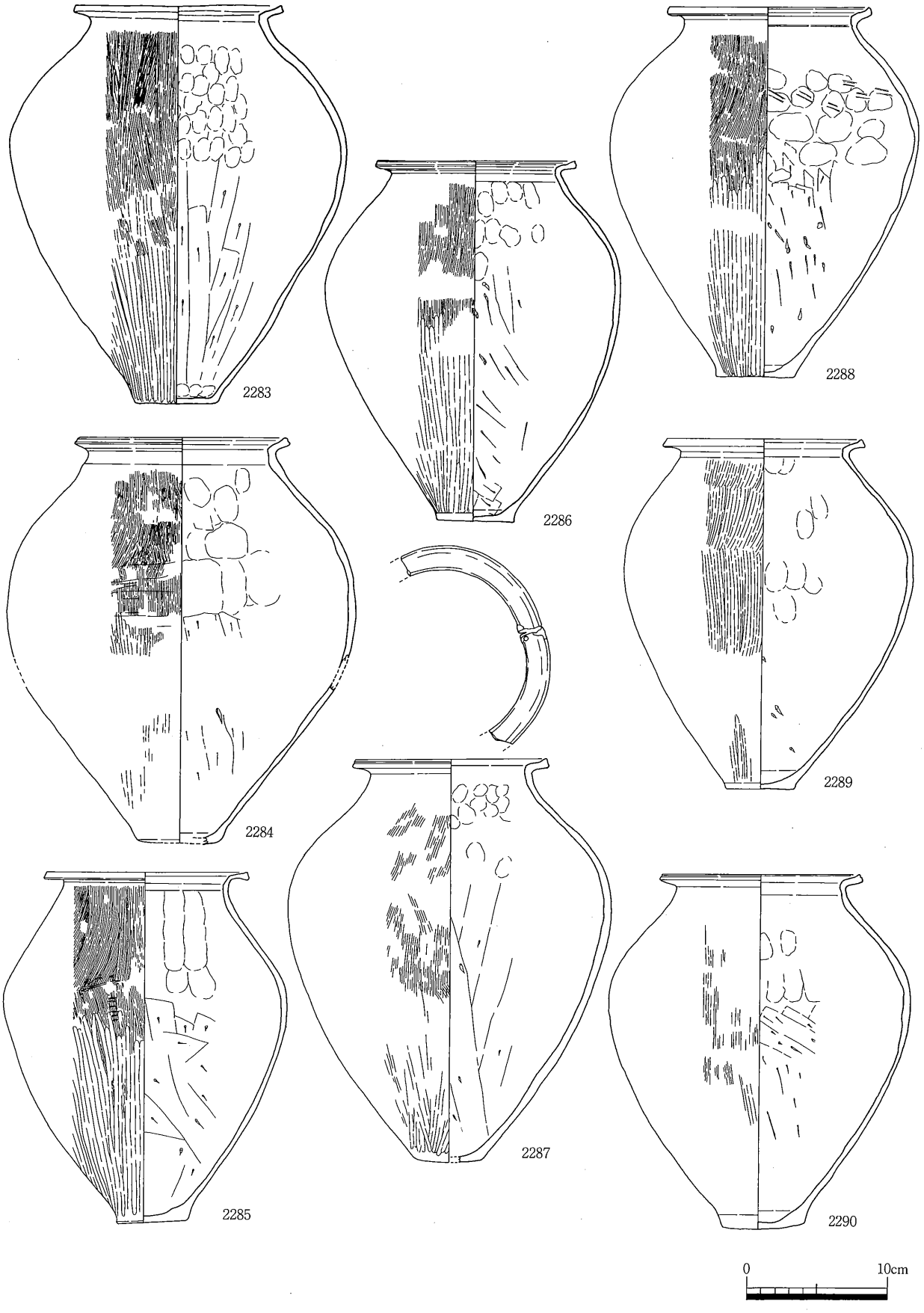
第167図　SD07出土土器(7)(1/4)



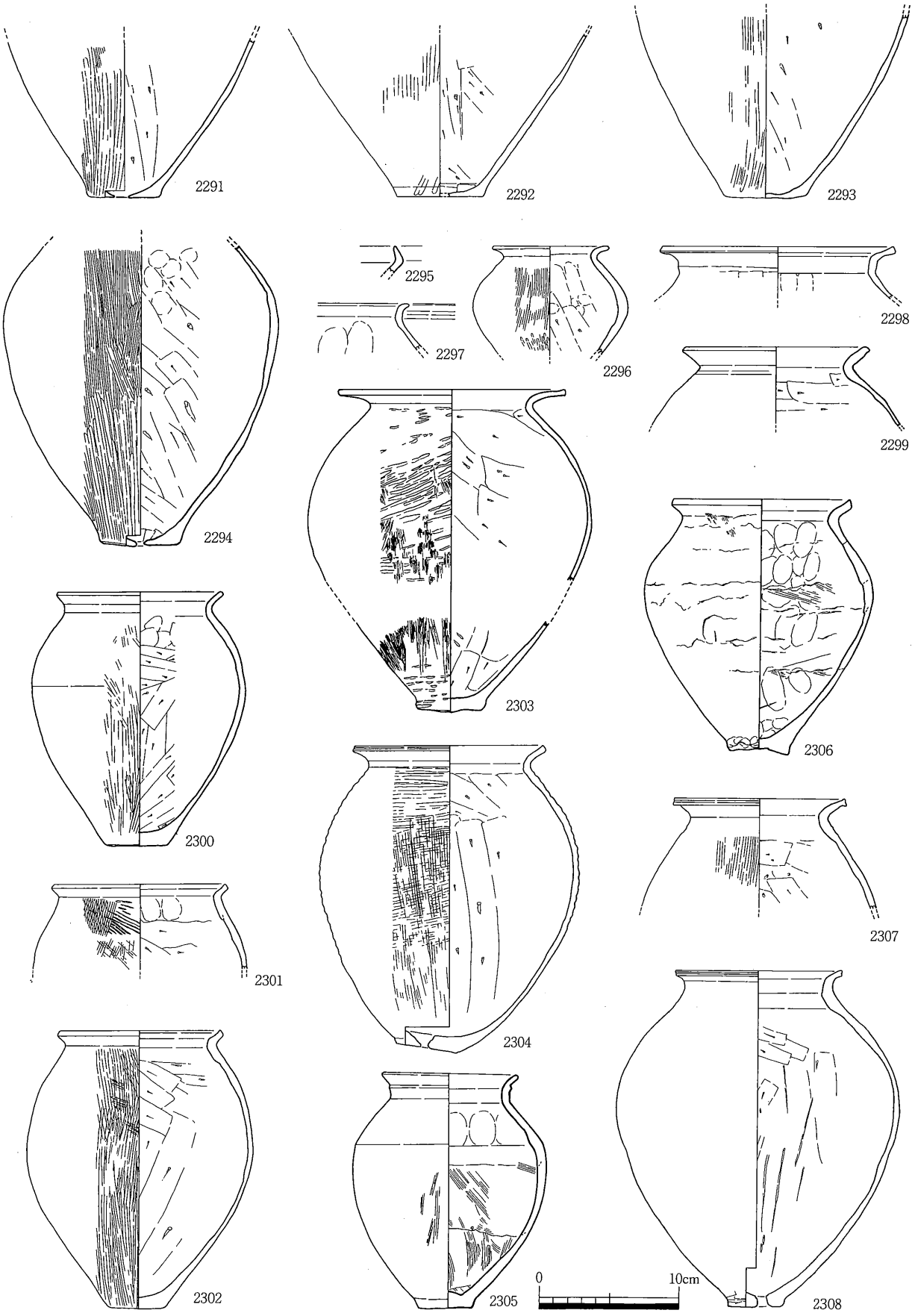
第168図　SD07出土土器(8)(1/4)



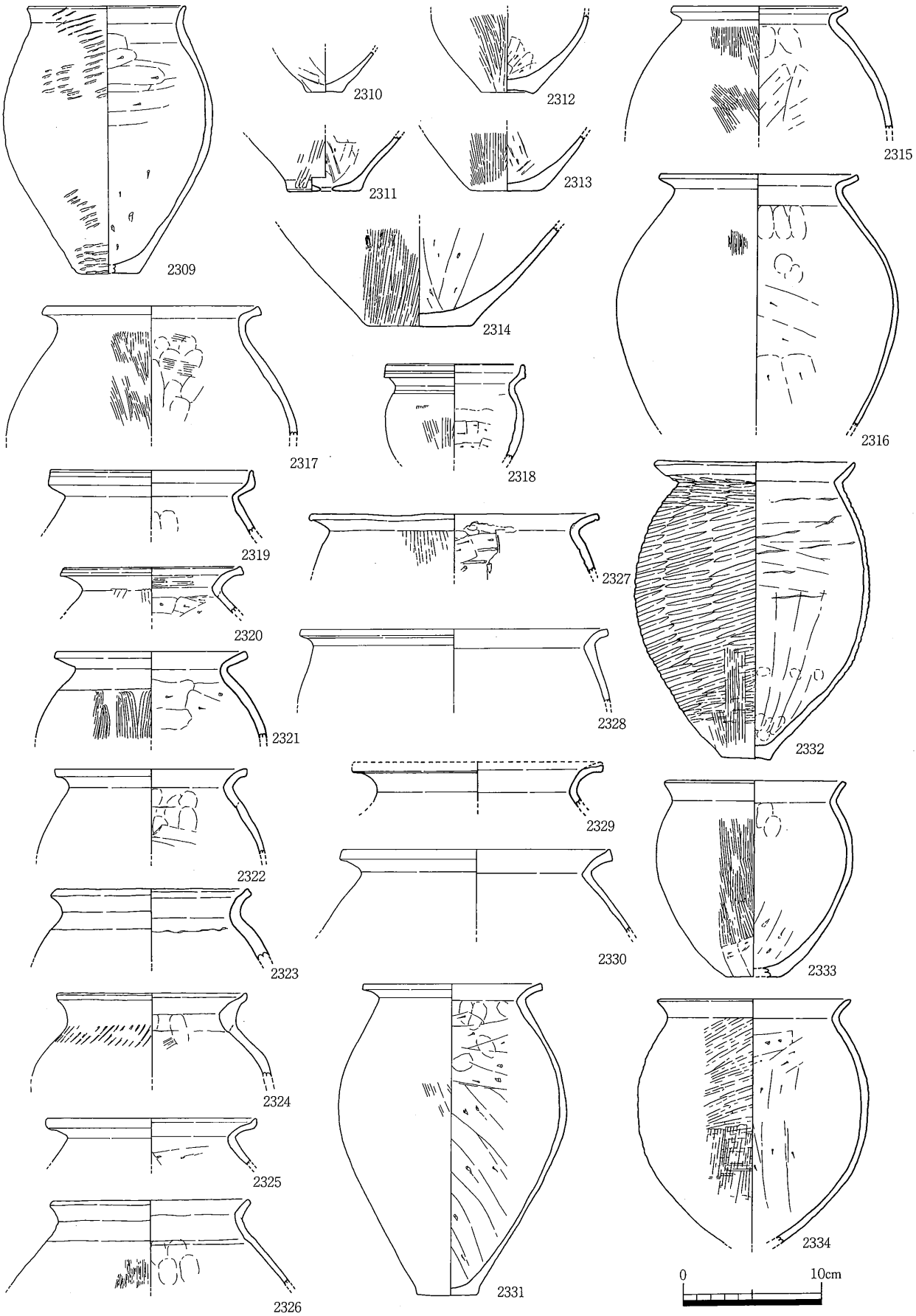
第169図　SD07出土土器(9)(1/4)



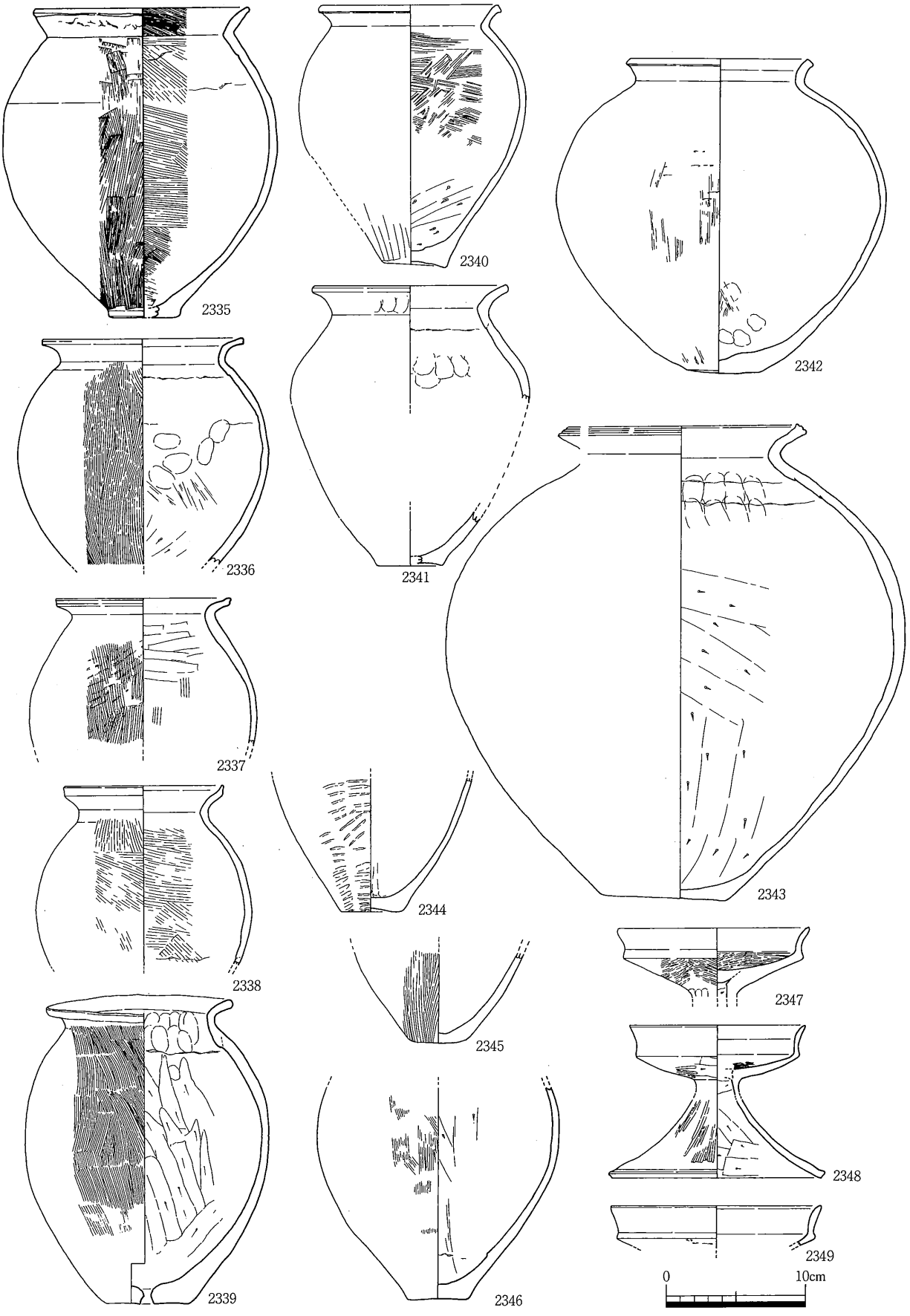
第170図　SD07出土土器(10)(1/4)



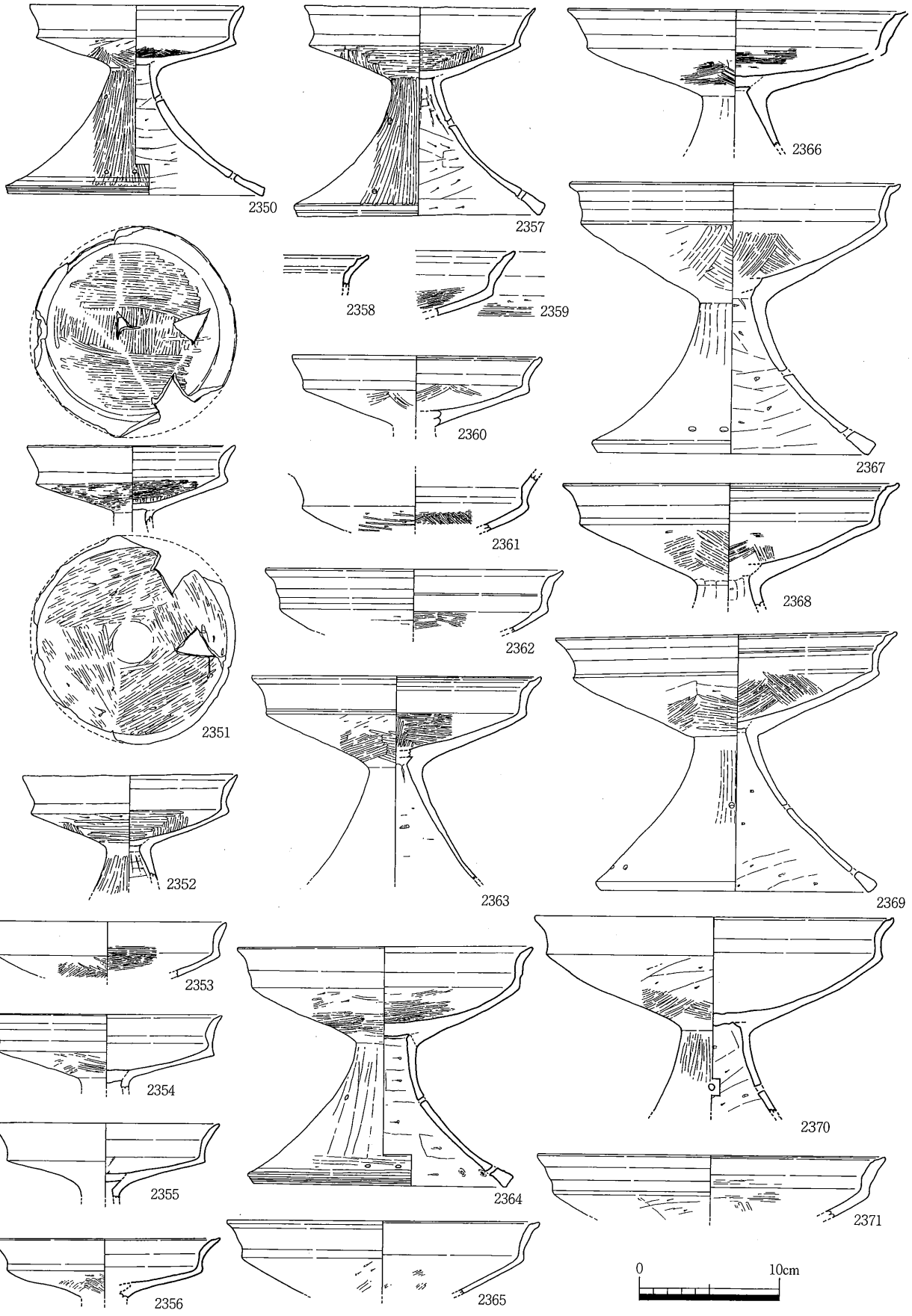
第171図　SD07出土土器(11)(1/4)



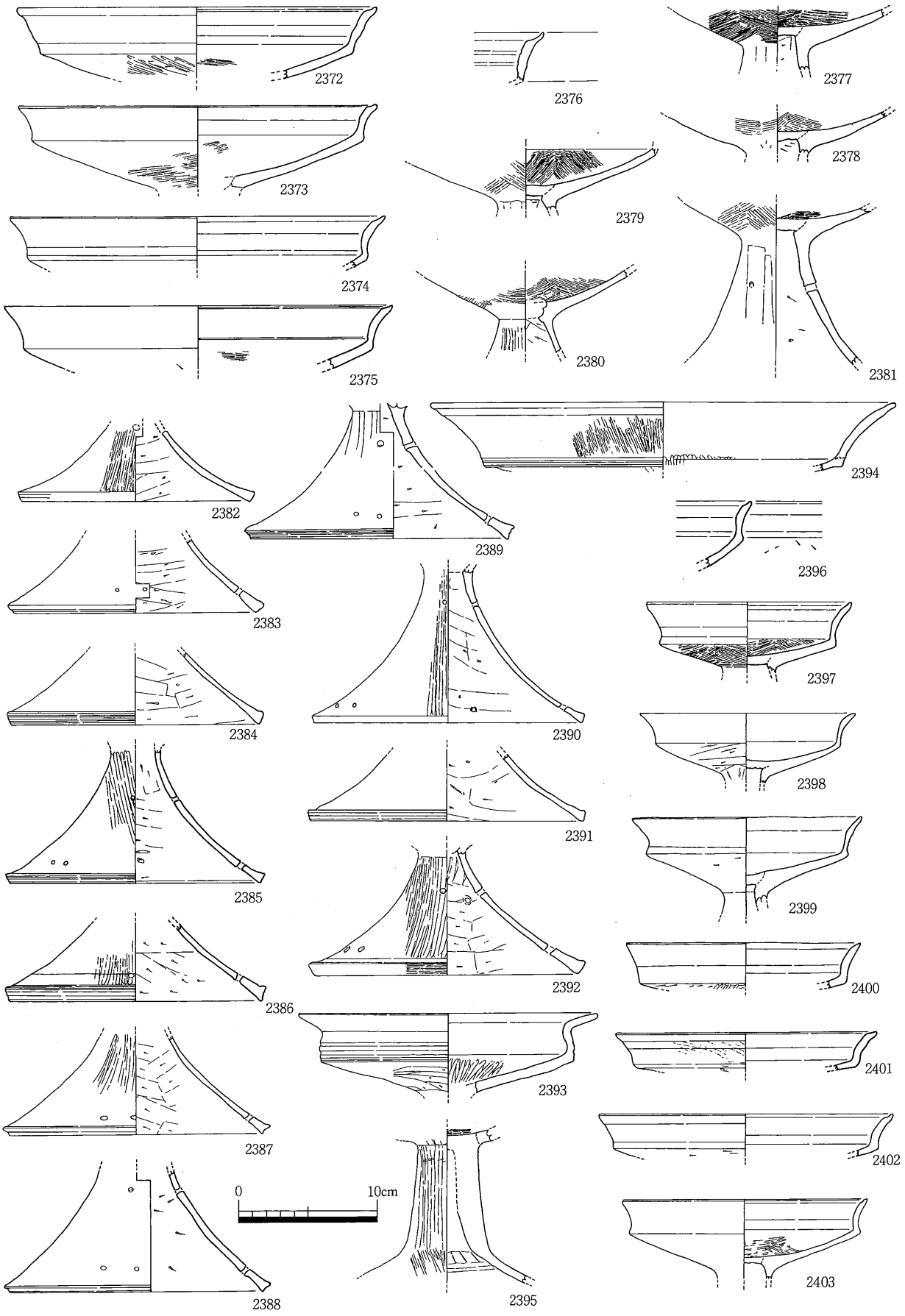
第172図　SD07出土土器(12)(1/4)



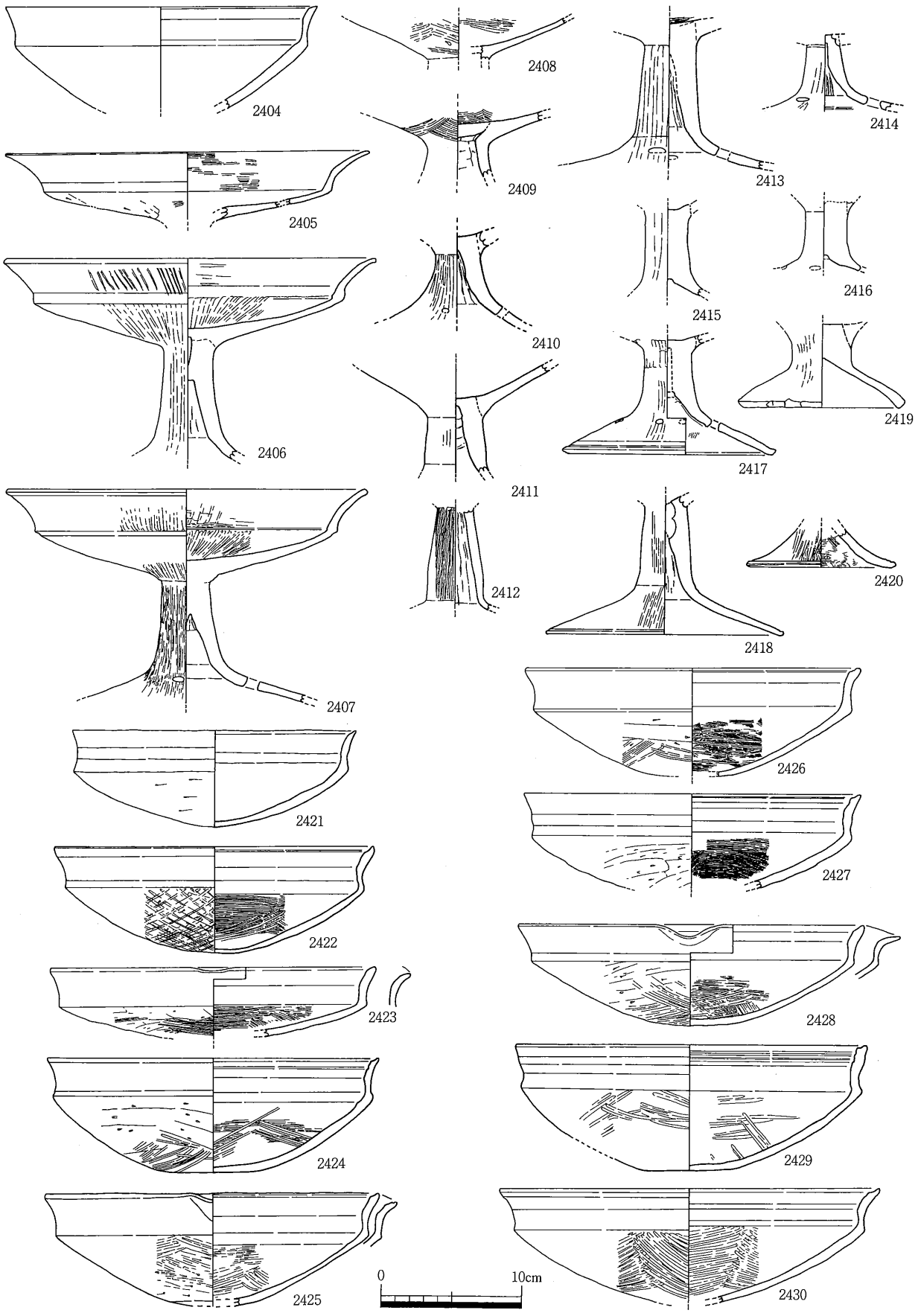
第173図　SD07出土土器(13)(1/4)



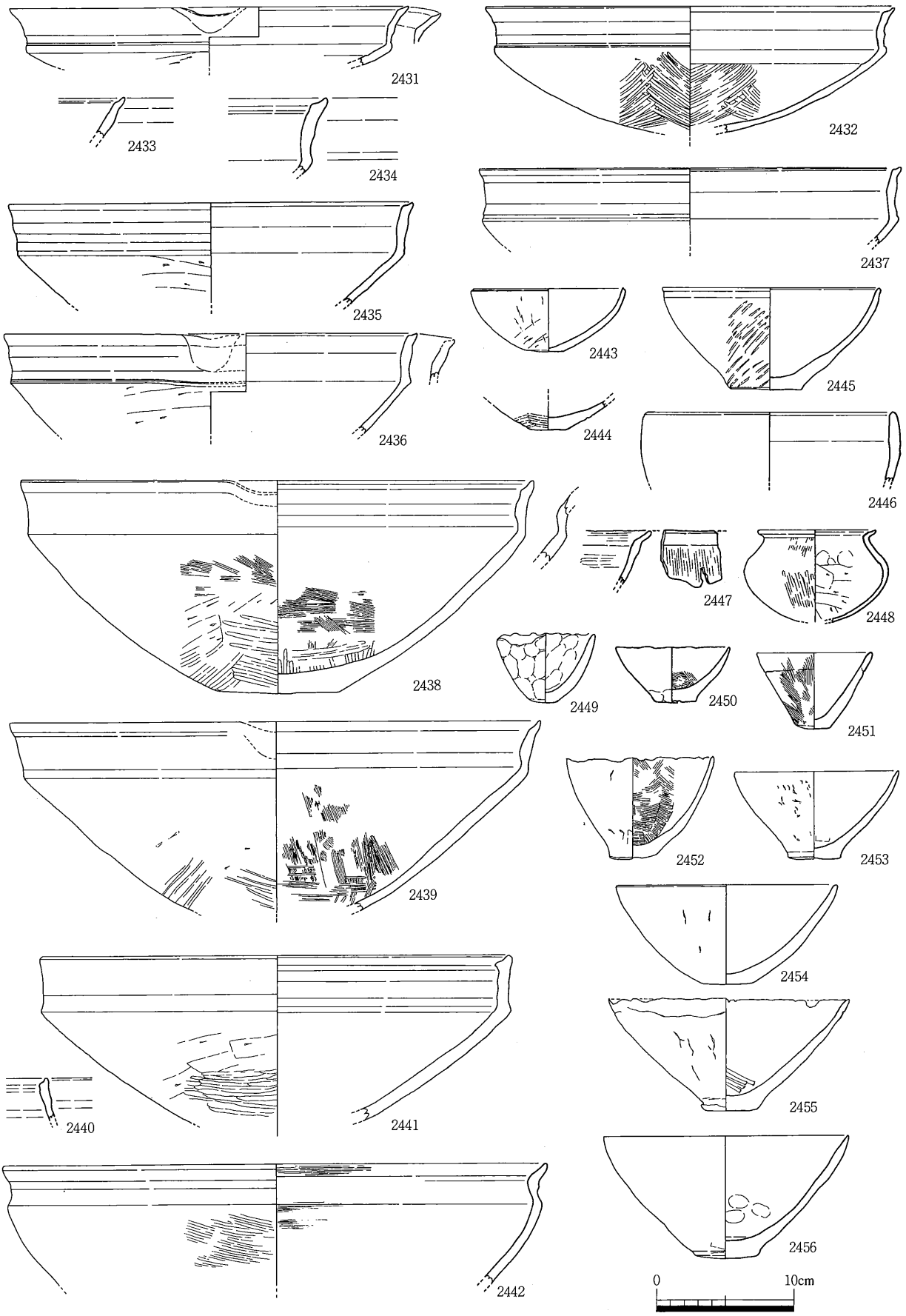
第174図　SD07出土土器(14)(1/4)



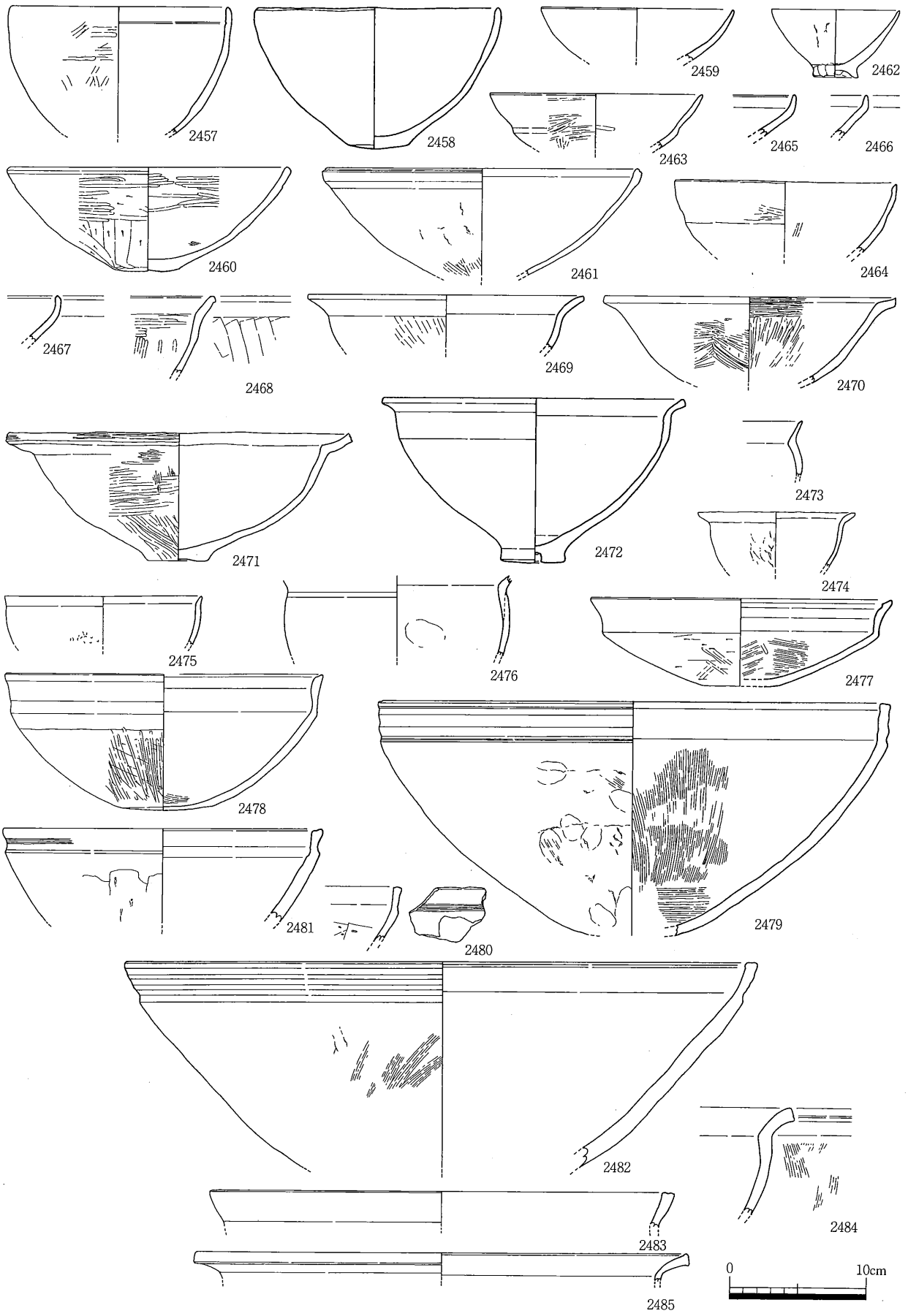
第175図　SD07出土土器(15)(1/4)



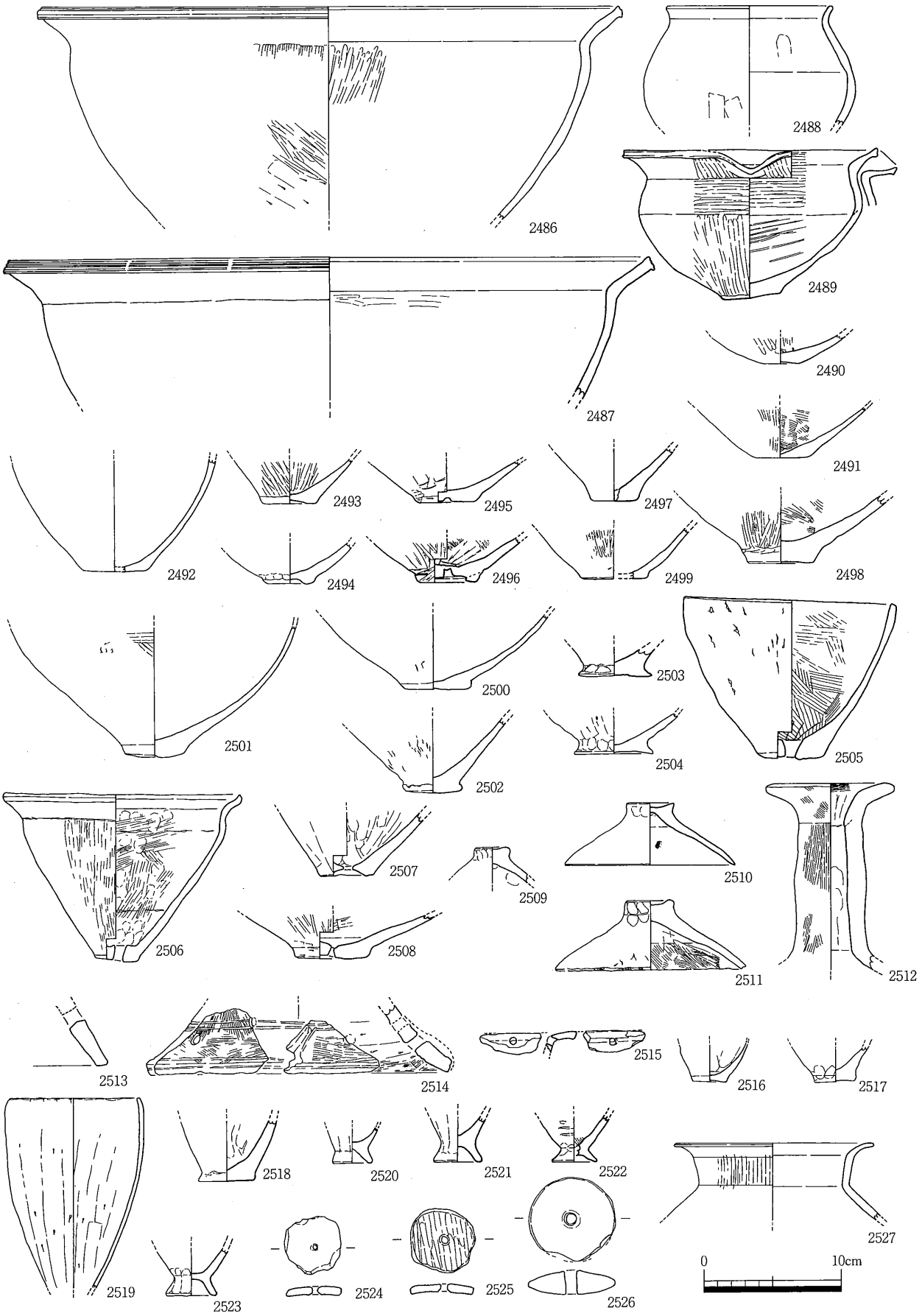
第176図　SD07出土土器(16)(1/4)



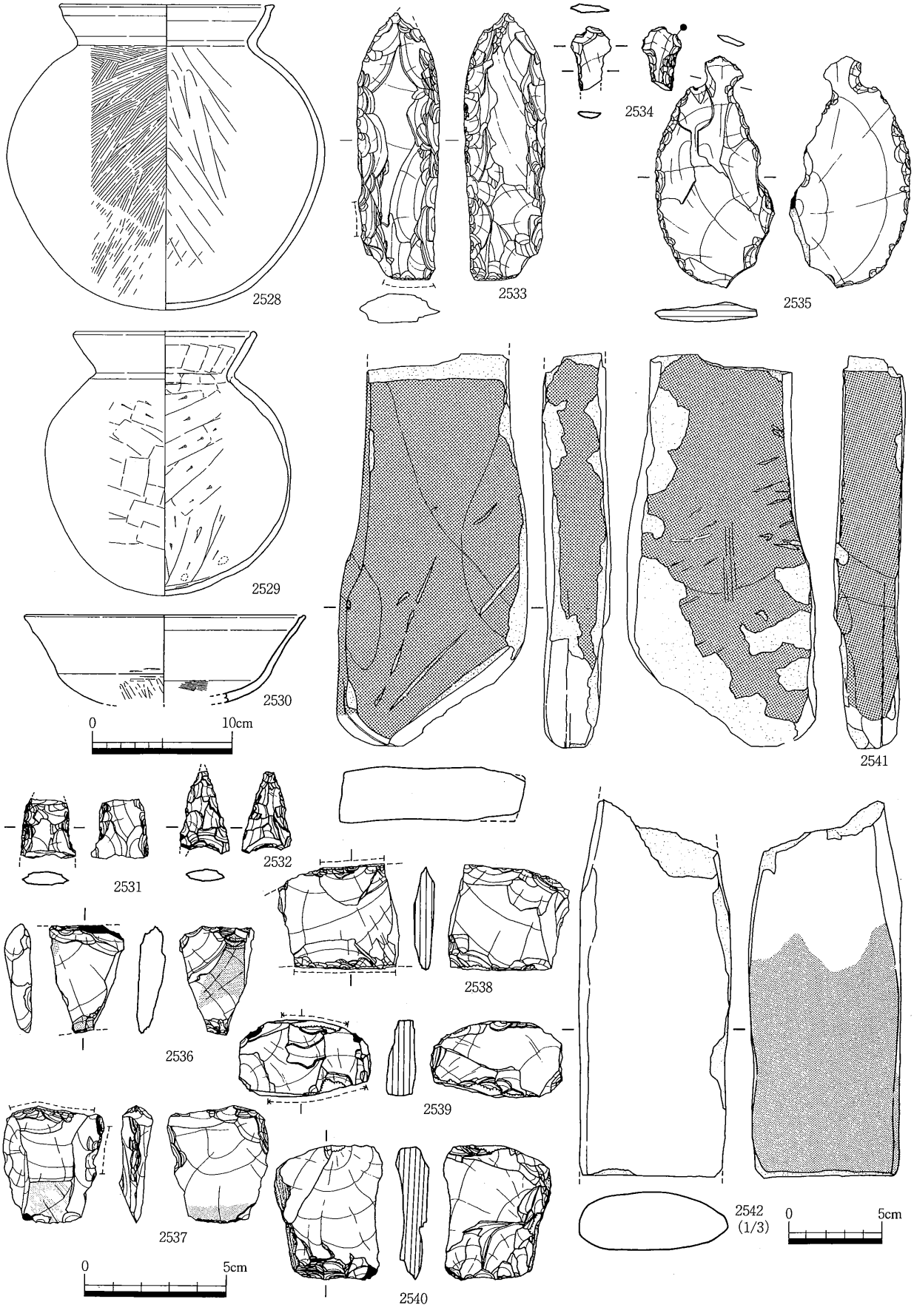
第177図　SD07出土土器(17)(1/4)



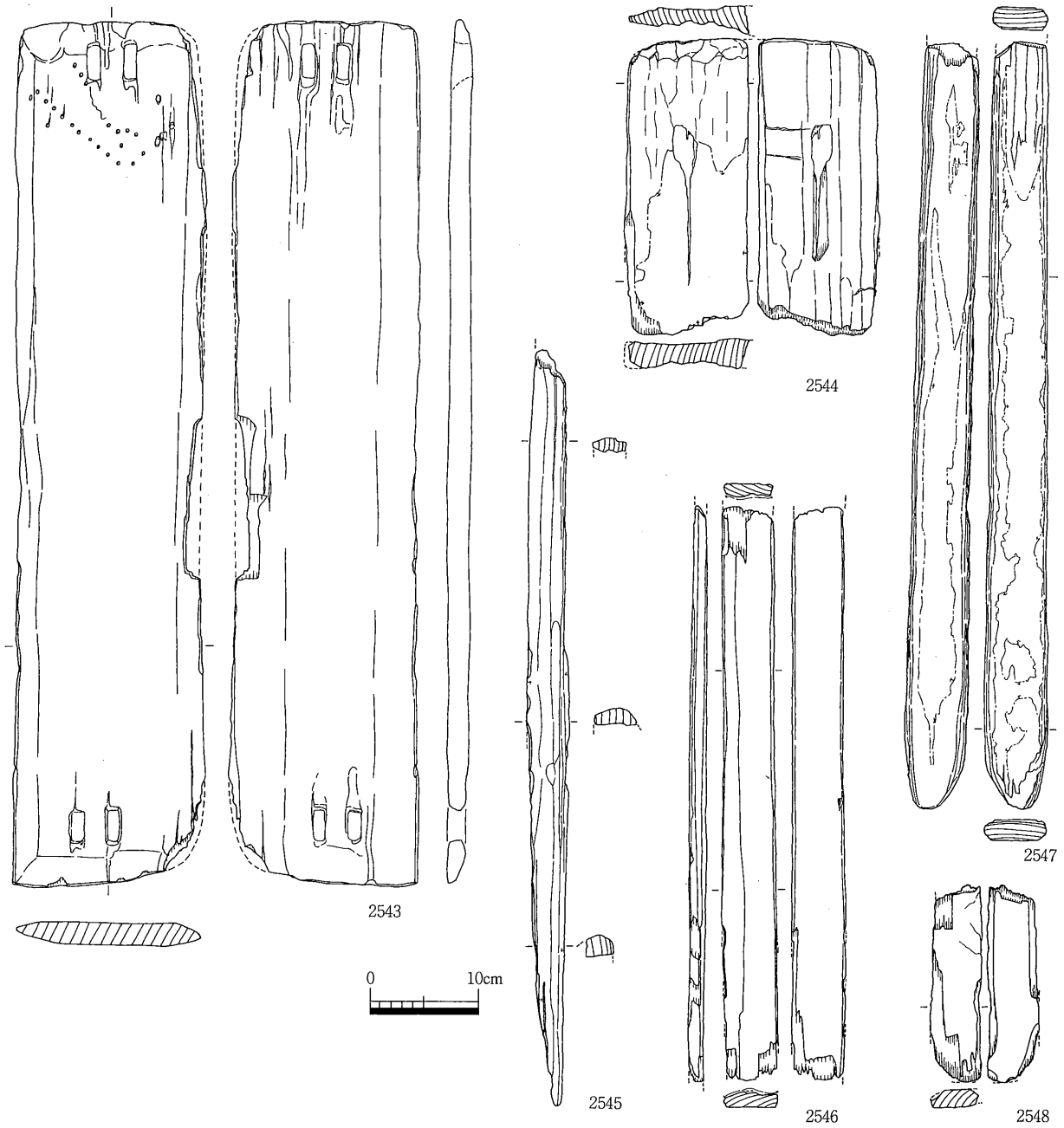
第178図　SD07出土土器(18)(1/4)



第179図　SD07出土土器(19)(1/4)



第180図　SD07出土土器⑳(1/4)及び石器(1/2,1/3)



第181図　SD07出土木器(1/6)

西①区ＳＤ01（第182図）

Ｂ13区画に位置する。調査区東壁近くの部分に出土遺物が集中している。コンテナ1/2程度の遺物が出土した。ほとんどは弥生時代後期中葉の土器（2550～2554）である。なお，１点の縄文土器の突帯文土器2549を含む。

西①区ＳＤ02（第182図）

Ｂ14区画に位置する。遺物は弥生土器小片１片のみである。埋土が西①区ＳＤ01と同じことから，当時期と考える。

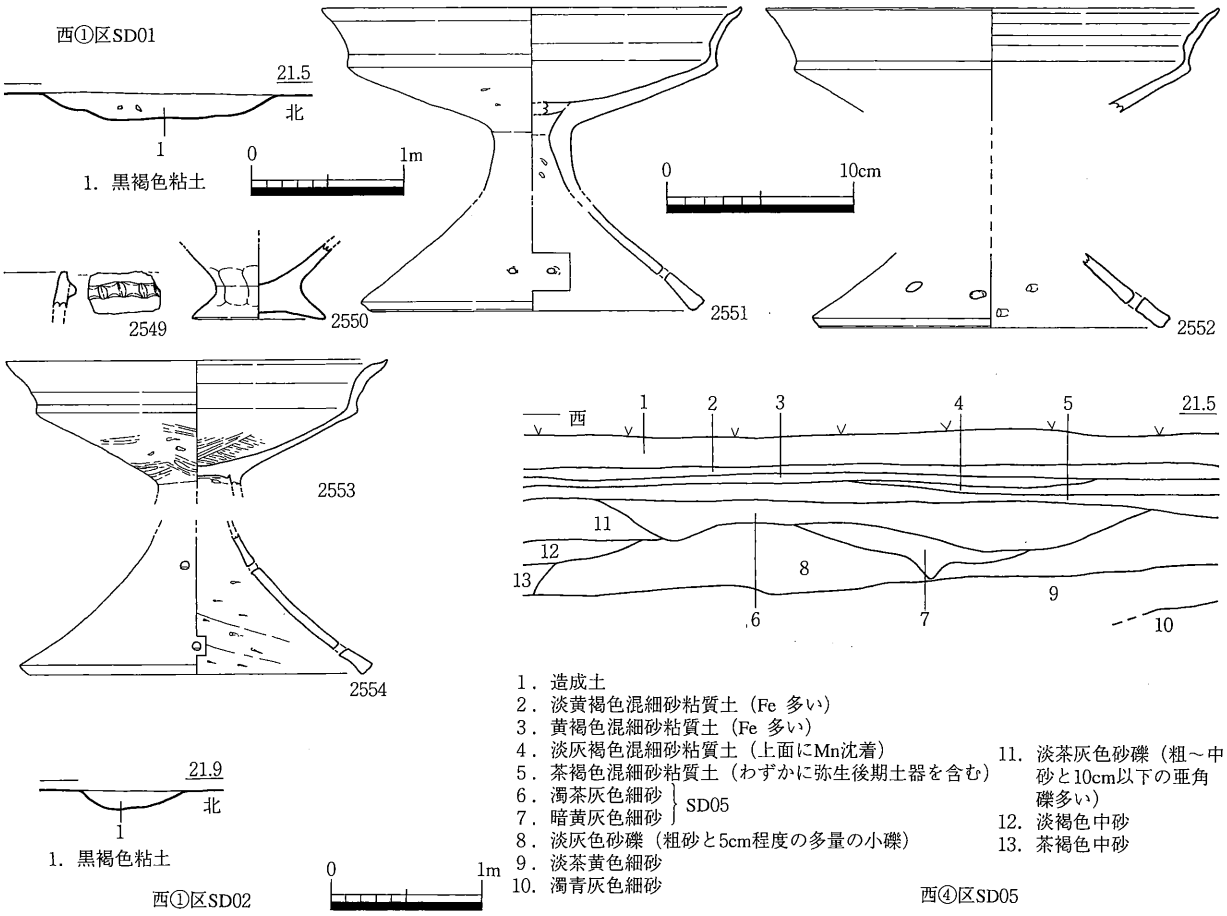
西④区ＳＤ05（第182図）

Ｂ７・Ｃ７区画に位置する。断面図からは弥生時代後期中葉の溝ＳＤ07が検出される土層より下層が検出面と考えられるが，出土遺物は弥生時代後期中葉頃のものであることから，この溝は弥生時代後期中葉の時期と考えられる。この溝の北側の延長は西水路調査区では検出されていないことから，ＳＤ07に合流する可能性がある。

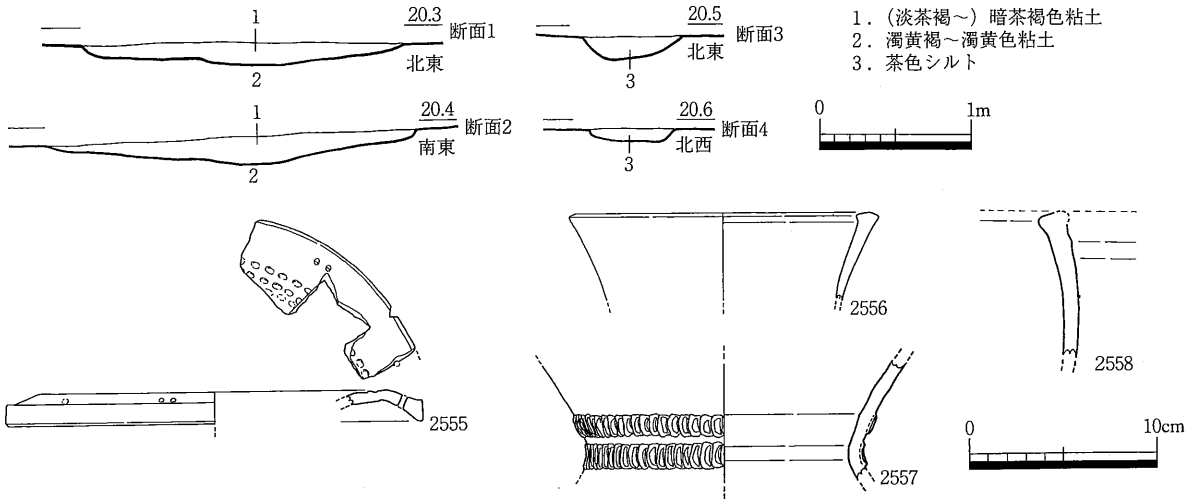
Ⅷ区ＳＤ07・13・Ⅸ区ＳＤ06・Ⅶ区ＳＤ06・Ⅹ区ＳＤ11（第183図）

Ｊ６区画からＩ４区画に位置する不定形な溝である。遺物はⅦ区ＳＤ06・Ⅹ区ＳＤ11を除いて出土していない。この溝の東側の延長は，高松市教育委員会の日暮・松林遺跡の報告書で，ＳＤ09としている。このＳＤ09からは，Ｋ６区画（当センター調査区画名を採用した場合）から多量の弥生時代後期後半頃の遺物が出土している。しかしながら当センター調査区のＪ６区画にはいると弥生時代後期の土器はほとんど見られない。また，溝跡の埋土は黒褐色土で，流水の痕跡をあまり示すようなものではない。溝の底面の標高は，Ｊ９区画を最高として，北へ西へと低くなっている。おそらく人為的な溝というよりは，微高地上における自然排水により形成されたものと考えた方がよいだろう。ただ，川跡の東岸にある竪穴住居跡や掘立柱建物跡を囲むように見えるのは何らかの関連性を考える必要があろう。

2555～2558は，弥生時代中期の土器である。2558はⅦ区ＳＤ05あるいは06の上層から出土したものである。



第182図　西①区SD01断面図(1/50)・出土土器(1/4)及び西①区SD02・西④区SD05断面図(1/50)



第183図　Ⅷ区SD07·13·Ⅸ区SD06·Ⅶ区SD06·Ⅹ区SD11断面図(1/50)及び出土土器(1/4)

Ⅸ区ＳＤ02（第184図）

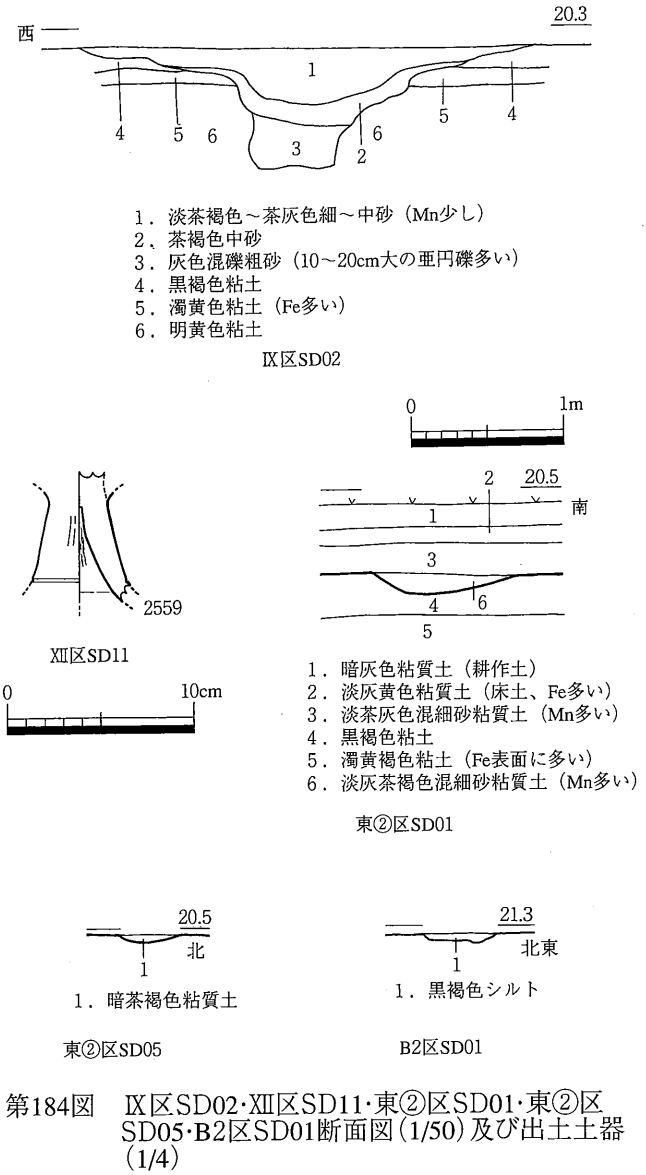
Ｉ３～Ｈ５区画に位置する。遺物は出土していない。埋土は，下層が砂礫層で，上層が粘質土層となっており，当遺跡では特異なものである。Ⅸ区ＳＨ02を壊していることと平安時代後半までの遺物を含むＳＲ01の堆積土C'層より下層である（この事実は，本調査時には十分確認できず，予備調査の７Tr.の記録から明らかとなった）ことから，概ね弥生時代後期から平安時代後半までの時期が考えられる。

Ⅻ区ＳＤ11（第184図）

Ｅ９区画に位置する。深さ数cmで，幅20cm程度の小溝である。2559は予備調査時に出土した弥生土器高杯である。

東②区ＳＤ01（第184図）

Ｊ３区画に位置する。高松市教育委員会調査の日暮・松林遺跡では，これにすぐ続く溝跡は検出されていないが，遺構配置図を検討すると，弥生時代後期のＳＤ19をその延長と考えることが可能である。ここでは，ＳＤ19の時期に従い，ＳＤ01も弥生時代後期と考える。また，香川県教育委員会文化行政課が行った東水路②区のすぐ北側で細い溝が検出されているが，ＳＤ01は



第184図　Ⅸ区SD02·Ⅻ区SD11·東②区SD01·東②区SD05·B2区SD01断面図(1/50)及び出土土器(1/4)

調査区外西ですぐに北に折れ，この溝に続くものと考えられる。

東②区ＳＤ05（第184図）

Ｊ６区画に位置する。埋土は周囲のＳＤ06及びＳＤ07とほぼ同じであることから，これらの溝に関連するものと考えられる。遺物は出土していない。

Ｂ２区ＳＤ01（第184図）

Ｃ11・Ｃ12区画に位置する。浅い溝である。出土遺物は弥生時代後期の土器の小片がごくわずかに出土しているに過ぎない。

5　古墳時代後期～平安時代前半

土坑

Ⅺ区ＳＫ06（第185図）

Ｄ10区画に位置する。平面形が長方形を呈する土坑である。須恵器杯（2560）が出土している。

溝跡

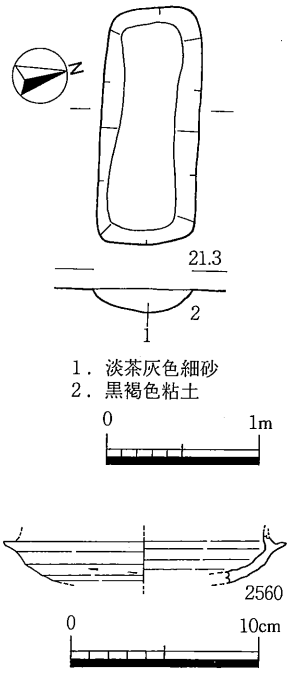
ＳＤ13（第186図）

Ｈ３区画からＧ12区画まで弥生時代の川跡から若干ずれる位置にある。Ｈ４区画ではⅡ区ＳＤ02の分岐が見られる。埋土は基盤層の黄白色系粘質土ブロックを大量に含む。遺物の出土は少なく，時期の決定は難しい。また，川跡と重なる部分も多く，検出できない部分もあった。古墳時代終末ころの須恵器が出土していること，平安時代後半までの包含層よりは，古いことから当時期とした。またＡ１区（Ｈ２区画）で，検出した溝も，方向から考えてＳＤ13の延長であると考えられる。

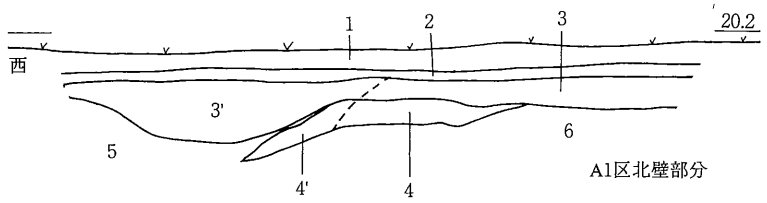
実測図を掲載した遺物は，弥生時代中期～後期の土器（2561～2572）及び平安時代頃の土師器（2573）・須恵器（2574）である。平安時代の遺物については，調査時にこの溝の埋土と川跡埋土の区別が十分には確認できなかった部分もあったことから，遺構外出土のものである可能性は否定できない。

Ⅹ区ＳＤ14

Ｈ５・Ｈ６区画のみで検出できた。ＳＤ13に並行することから，本来はＳＤ13と同じ様な長さであった可能性はある。幅50～80cm，深さは10cm程度である。埋土はＳＤ13断面２と同じである。

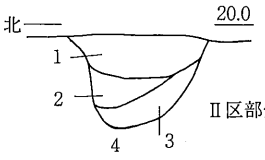


第185図　Ⅺ区SK06平･断面図(1/50)及び出土土器(1/4)



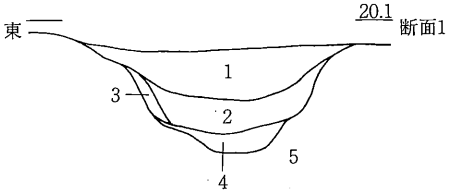
A1区北壁部分

1．暗灰色粘質土（耕作土）
2．黄褐色粘質土（床土、Fe多い）
3．濁茶褐色混細砂粘質土（Fe多い）
3'．3＋礫
4．濁黄灰色細砂
4'．4＋礫
5．濁青灰色混礫シルト（5～20cmの大の亜円礫、円礫多い）
6．灰色砂礫（中砂10～20cm大の亜円礫、円礫多い）

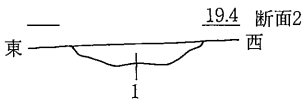


Ⅱ区部分

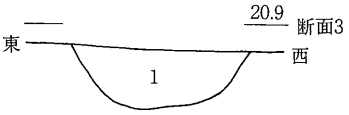
1．黒褐色粘土（地山をブロック状に含む）
2．黒褐色粘土
3．黒色混細砂粘土
4．明黄色粘土



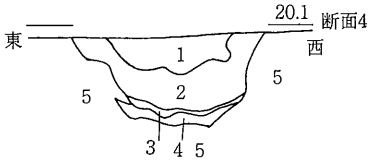
1．黒褐色粘土（地山を粘土ブロックで含む）
2．黒褐色粘土
3．濁黄色粘土
4．黒色混細砂粘土
5．明黄色粘土



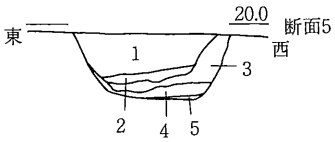
1．暗灰色粘質土（細砂を含む）



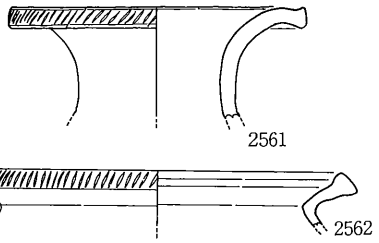
1．黒灰色シルト（緑灰色粘土ブロックを含む）

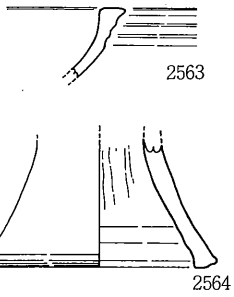


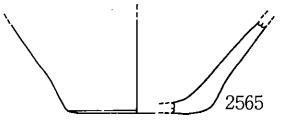
1．黄白色粘土
2．黄白色混じり黒灰色シルト
3．黒灰色シルト
4．灰色粗砂（灰白色粘土ブロックを含む）
5．黄白色～灰白色粘土（地山）

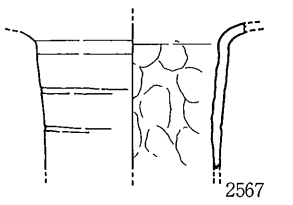


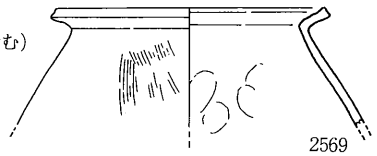
1．灰色シルト（灰白色粘土を含む）
2．灰色粗砂（下部に黒色シルトの薄層）
3．灰色シルト（灰白色粘土ブロックを多く含む）
4．灰色粗砂と黒色シルトのラミナ
5．灰白色粘土～シルト（基盤層）

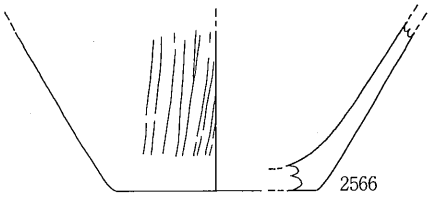


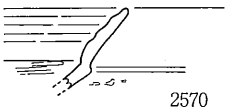


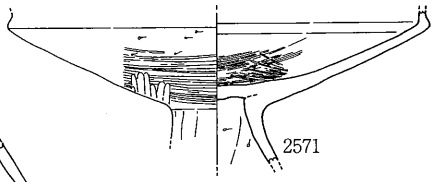


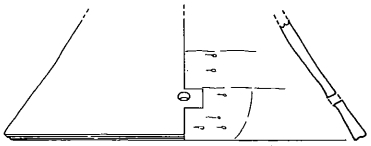


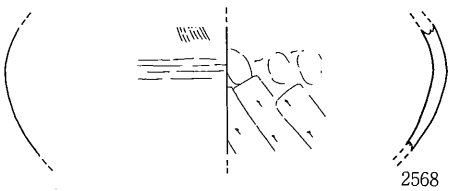


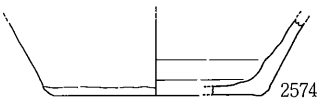


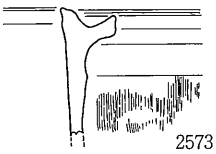


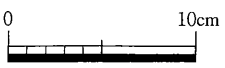












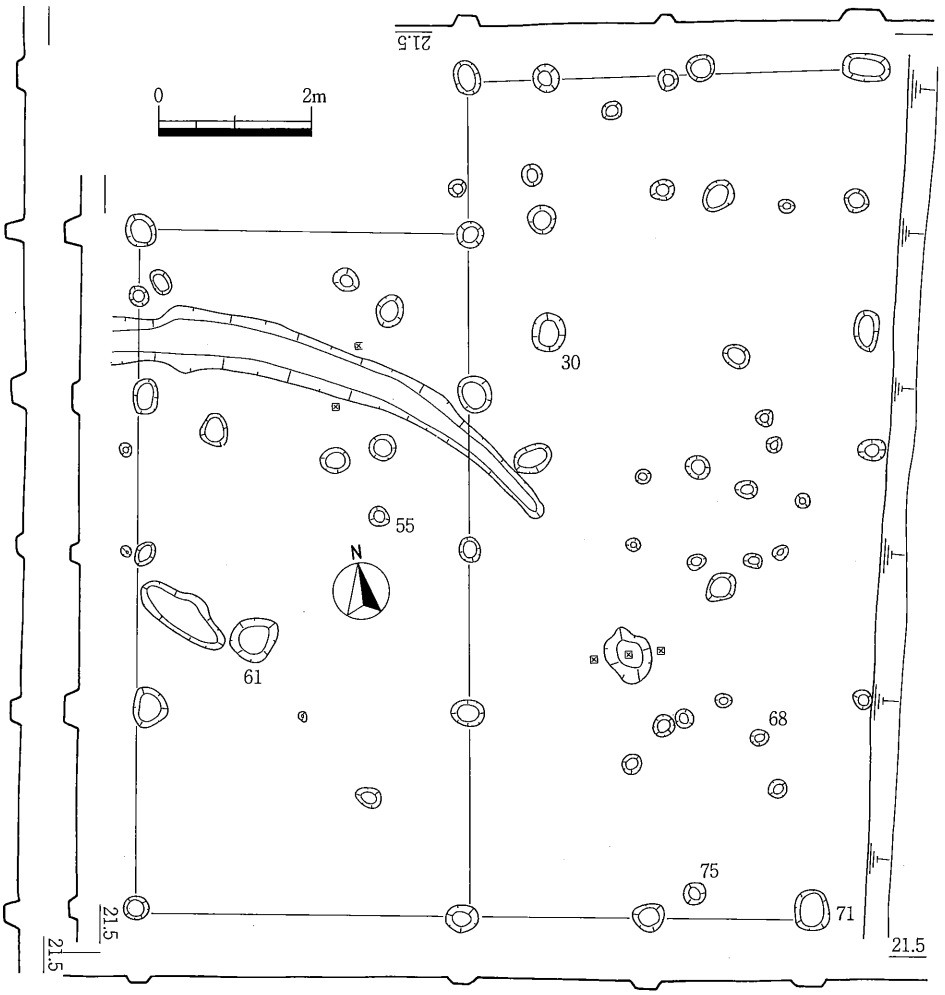
第186図　SD13断面図(1/50)及び出土土器(1/4)

6　平安時代後半

掘立柱建物跡

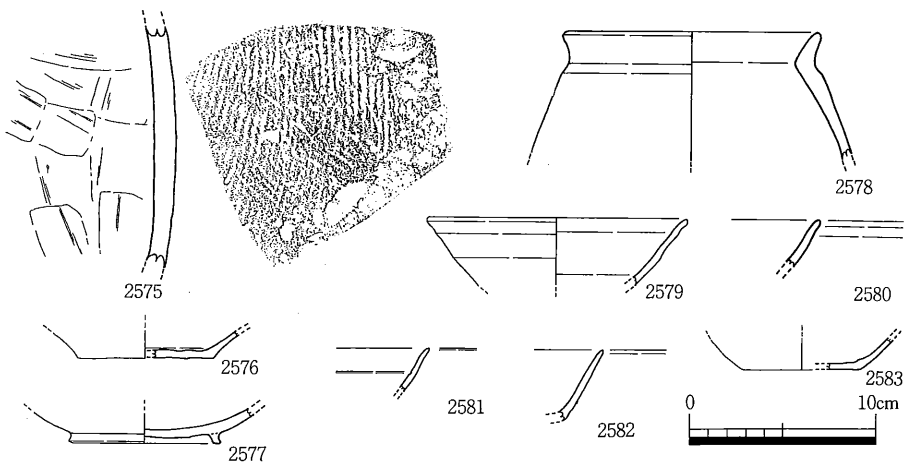
XI区ＳＢ01（第187図）

Ｅ11区画に位置する。規模の大きな建物である。主軸方位は，Ｎ９°Ｅである。確実な柱穴列のみ線を記入した。柱穴からは土師器及び須恵器が少量出土している。2575～2583は柱穴出土土器であるが，2575のみが直線で復元した柱穴列から出土したものである。確実ではないが，他の柱穴から出土したものもこの建物に関係があると考える。2575は柱穴71から出土した須恵器甕である。2576～2578は柱穴61から出土した土師器である。2579は須恵器である。2580は柱穴55から出土した土師器である。2581は柱穴75から出土した土師器である。2582は柱穴68から出土した土師器である。2583は柱穴30から出土した土師器である。



XI区ＳＢ02（第188図）

Ｄ11・Ｅ11区画に位置する。主軸方位は，Ｎ84°Ｗである。XI区ＳＢ01とほぼ同じ方向である。これについても，確実な柱穴列のみ線を記入した。柱穴からは土師器の杯や皿が少量出土している。



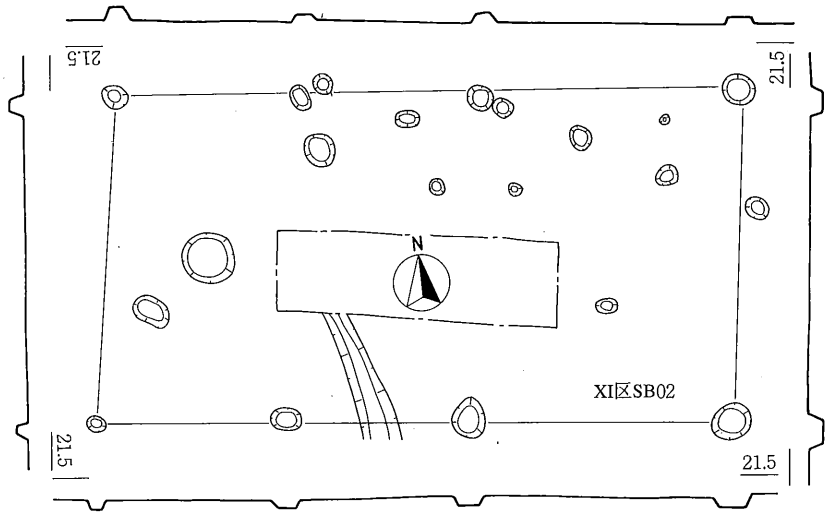
第187図　XI区SB01平･断面図(1/100)及び出土土器(1/4)

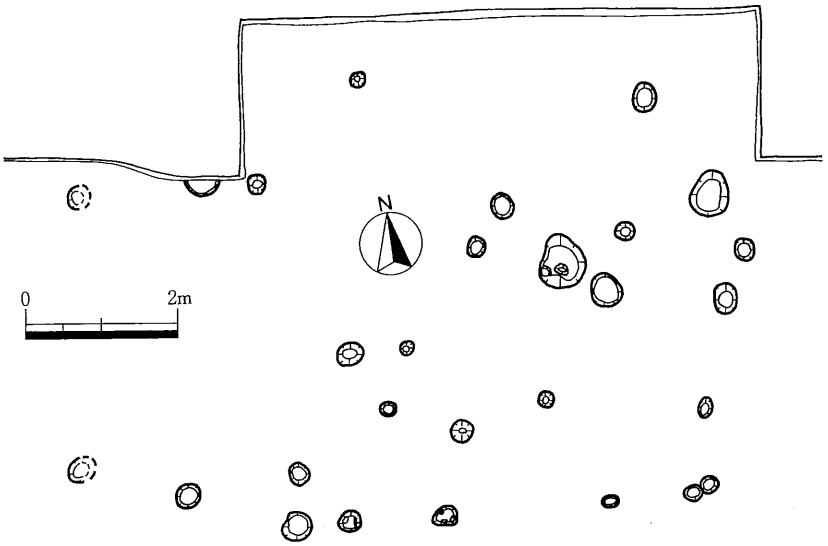
A３区ピット群（第188図）

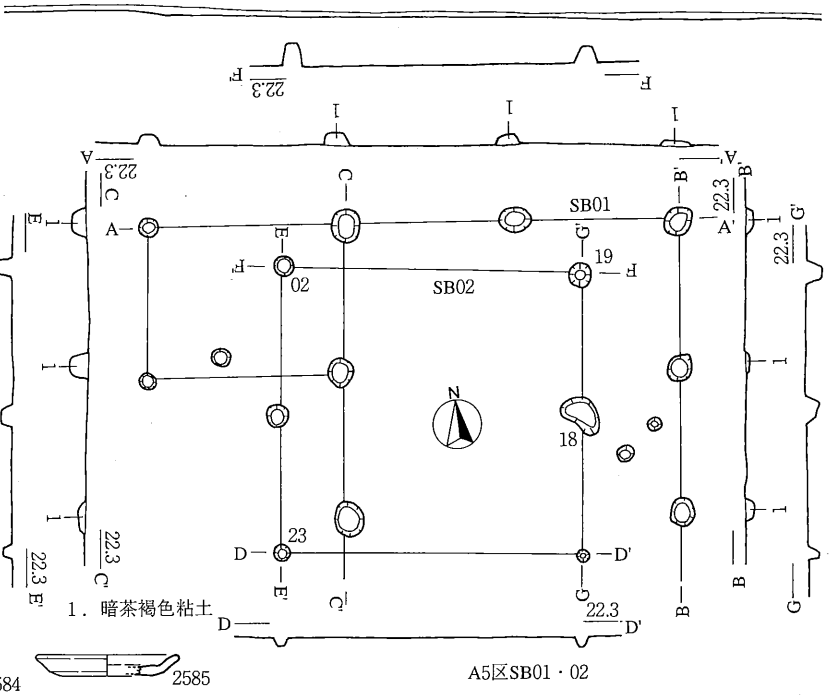
Ｉ15・Ｊ15・Ｊ16区画に位置する。柱痕をもつピットがあることから，掘立柱建物跡が存在していた可能性は高いが，確実な柱穴列は認めがたい。柱穴の深さは５～25cmである。柱穴の埋土は，暗茶褐色粘土である。遺物は土師器の杯等の小片が少量出土しているのみで，確実ではないが，平安時代後期の時期と考える。

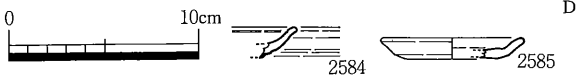
A５区ＳＢ01・02（第188図）

Ｄ16区画に位置する。調査区が狭いため，いずれの建物も南北側の調査区外に延長の柱穴列が見つかる可能性がある。柱穴埋土は暗茶褐色粘土あるいは濁灰褐色粘土である。ＳＢ01は主軸方位は，Ｎ84°Ｗである。遺物は出土していない。ＳＢ02の主軸方位は，Ｎ７°Ｅである。柱穴19からは土師器の鉢，柱穴18からは土師器の杯が出土している。また，柱穴02及び23からは土師器の皿2584・2585がそれぞれ出土している。このことと周囲の柱穴及びこの建物群の東にある溝跡・川跡出土の遺物等がほぼ同様な時期であることから，平安時代後期あるいはそれ以降と考える。









第188図　XI区SB02・A3区ピット群・A5区SB01・02平・断面図（1/100）及び出土土器（1/4）

Ｂ２区ＳＢ01（第189図）

Ｄ11・Ｄ12区画に位置する。調査区外で延長が確認される可能性はある。柱穴19は下位の遺構面検出時に検出したものであるが，その位置からＳＢ01を構成する柱穴と考えられる。主軸方位はＮ79°Ｗである。出土遺物は，柱穴03から土師器杯2586が出土しているほか，柱穴04及び19から土師器の杯の小片がそれぞれ１片出土している。

Ｂ２区ＳＢ02（第189図）

Ｃ11・Ｃ12・Ｄ11・Ｄ12区画に位置する。主軸方位はＢ２区ＳＢ01とほぼ同じである。構成する柱穴の数が少なくやや確実ではない。また，柱穴06と02は上位の遺構面で検出したもので，他は下位の遺構面検出時に検出したものである。柱穴06からは土師器及び瓦小片がそれぞれ１片，柱穴10からは弥生土器小片が少量出土している。また，柱穴09からは，石鏃2587が出土している。

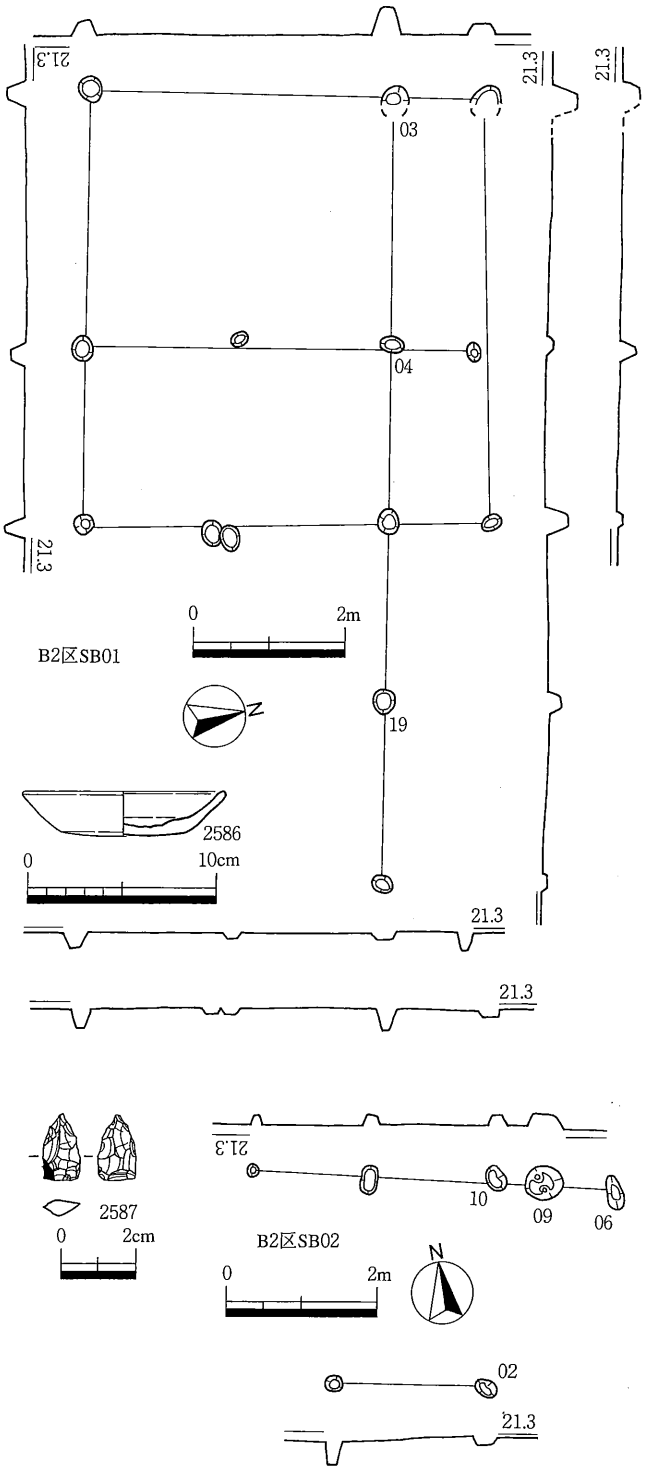
土坑

Ⅻ区ＳＫ01（第190図）

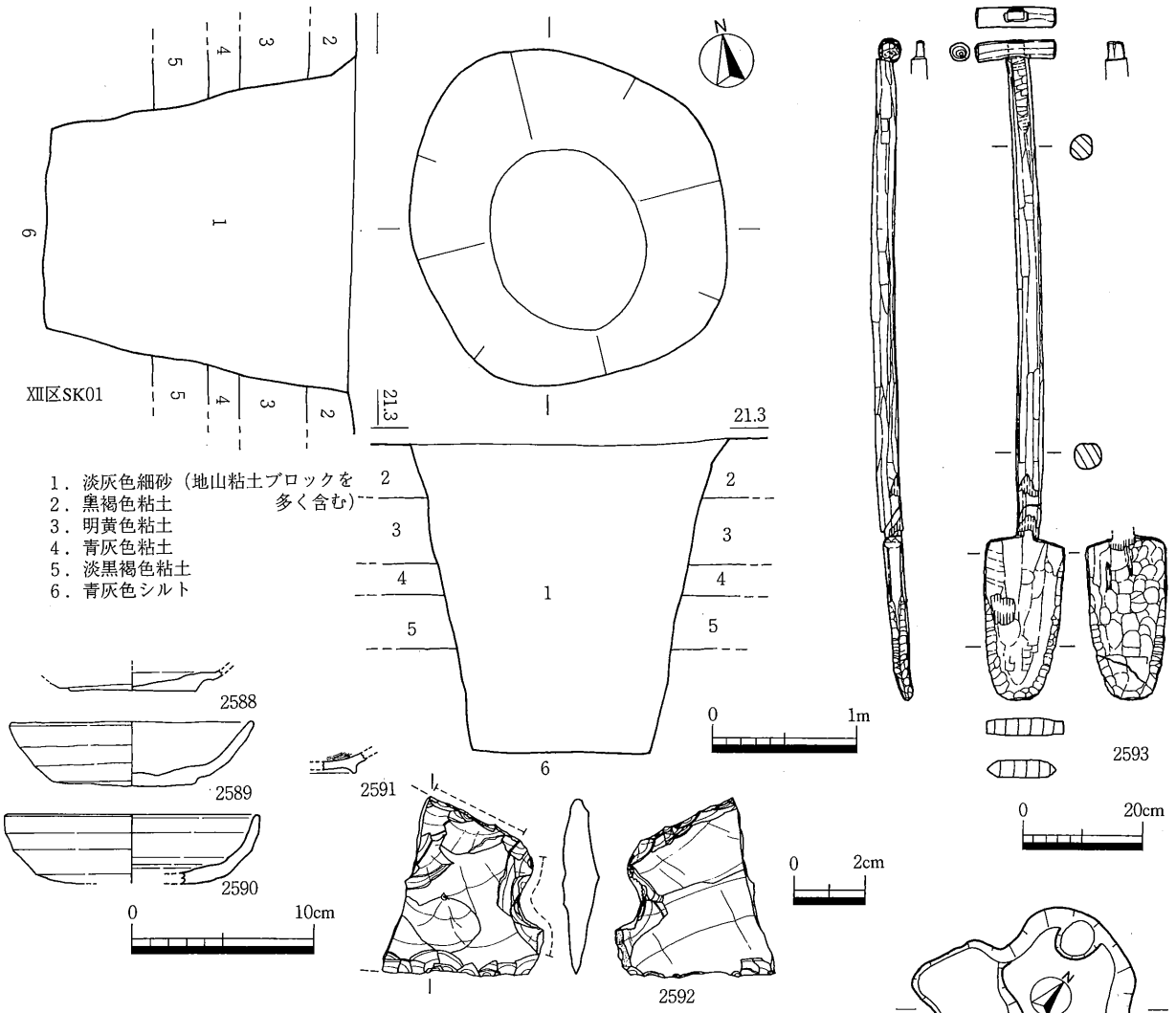
Ｄ９区画に位置する。埋土はブロック状の粘土の堆積であることから，一気に埋め戻されたものと考えられる。調査時には湧水はほとんどなかった。2588～2590は土師器の杯である。2591は瓦器椀である。2592は石庖丁である。2593は樹種がアカガシ材の一木鋤である。把手の部分はほぞ結合の組み合わせとなっている。刃部はおそらくＵ字型の鉄製鋤先が装着されるものと考えられる。

Ａ５区ＳＫ01（第190図）

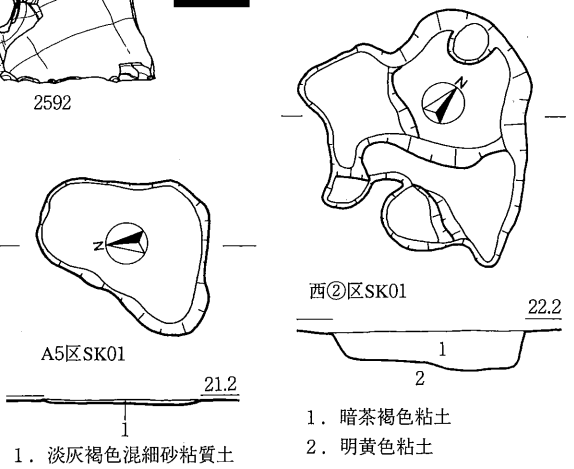
Ｄ16区画に位置する。遺物は出土していないが，埋土が周りの柱穴群と同じことから，同時期と考えた。平面形は非常に不定形である。粘土採掘土坑などの性格も考えられよう。



第189図　B2区SB01･02平･断面図(1/100)及び出土土器(1/4)･石器(1/2)



第190図　XII区SK01平・断面図(1/50)・出土土器(1/4)・石器(1/2)・木器(1/12)及びA5区SK01・西②区SK01・02平・断面図(1/50)

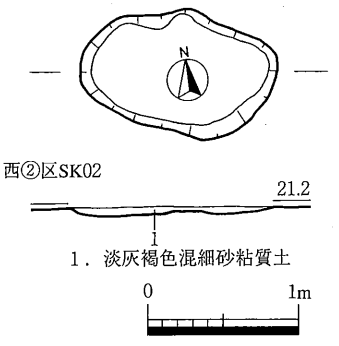


A5区SK02

C16区画に位置する。埋土は周辺の柱穴と同様暗茶褐色粘土である。平面形はやや不整形で，深さは2㎝程度である。

西②区SK01（第190図）

B12区画に位置する。第1遺構面で検出した。弥生土器小片が1片出土している。埋土が西②区SD04と同じであることから当時期と考える。



西②区SK02（第190図）

B12区画に位置する。第1遺構面で検出した。出土遺物は無い。埋土が西②区SD04と同じであることから当時期と考える。

井戸

Ⅱ区ＳＥ01（第191図）

Ｇ７・Ｈ７区画に位置する。底面が砂礫層に達していることから井戸と考える。埋土からは，土師器の杯2594及び椀2595が出土している。

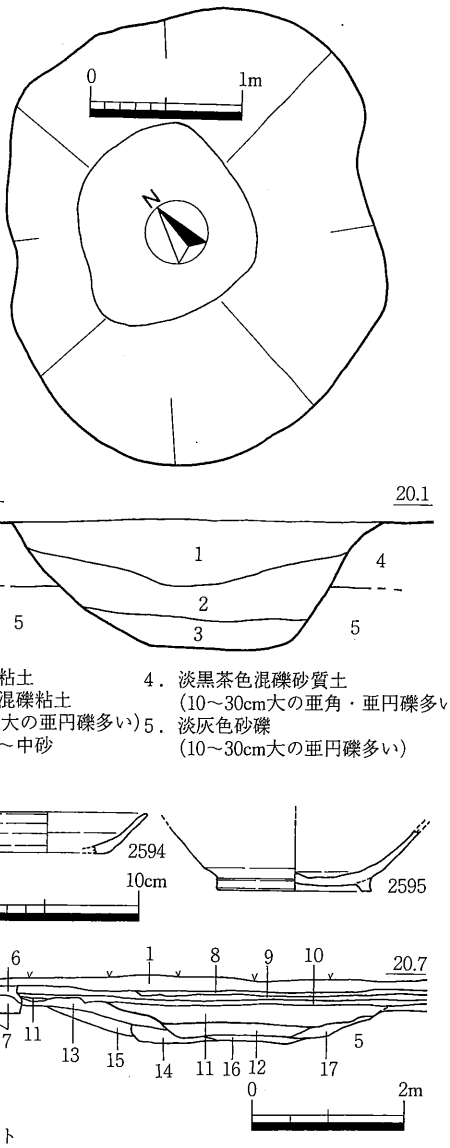
溝跡

Ⅱ・Ⅲ区ＳＤ03（第191～193図）

平面で検出できたのは，Ｇ７・Ｇ８・Ｇ９区画においてである。各調査区の壁面の断面から考えると，Ⅱ区の西調査区，Ⅰ区及びⅥ区にも延長している。溝幅は，弥生時代川跡と重なる部分は大きく10m以上に広がっているが，他の部分では６ｍ前後である。また，弥生時代の川跡と重なる部分の東岸では，杭列が見られた。軟弱地盤における護岸的な施設であろう。この溝を弥生時代の川跡と重なる部分の断面図（第35図）で検討すると，川跡が弥生時代以降にある程度埋没してきた段階で，基盤層の粘質土（第20層）の堆積が見られる。これは人工的な盛土と考えられ，溝はこの盛土を切り込む，あるいは盛土で，溝の東岸を形成するようにみえる。盛土からは平安時代後半までの遺物が出土している。溝の埋土から平安時代末ころまでの遺物が出土しているが，特にＧ７区画の中央付近においては斎串が大量に集中して出土した。祭祀遺物の出土及び盛土による岸の形成など，この溝は特別な性格を持つものであったと考えられる。

2596・2597は土師器である。2598～2601は須恵器である。2602は黒色土器Ａ類椀である。2603は中国産白磁椀である。2604は石鏃未製品か。2605は打製石庖丁である。2606はスクレイパーである。

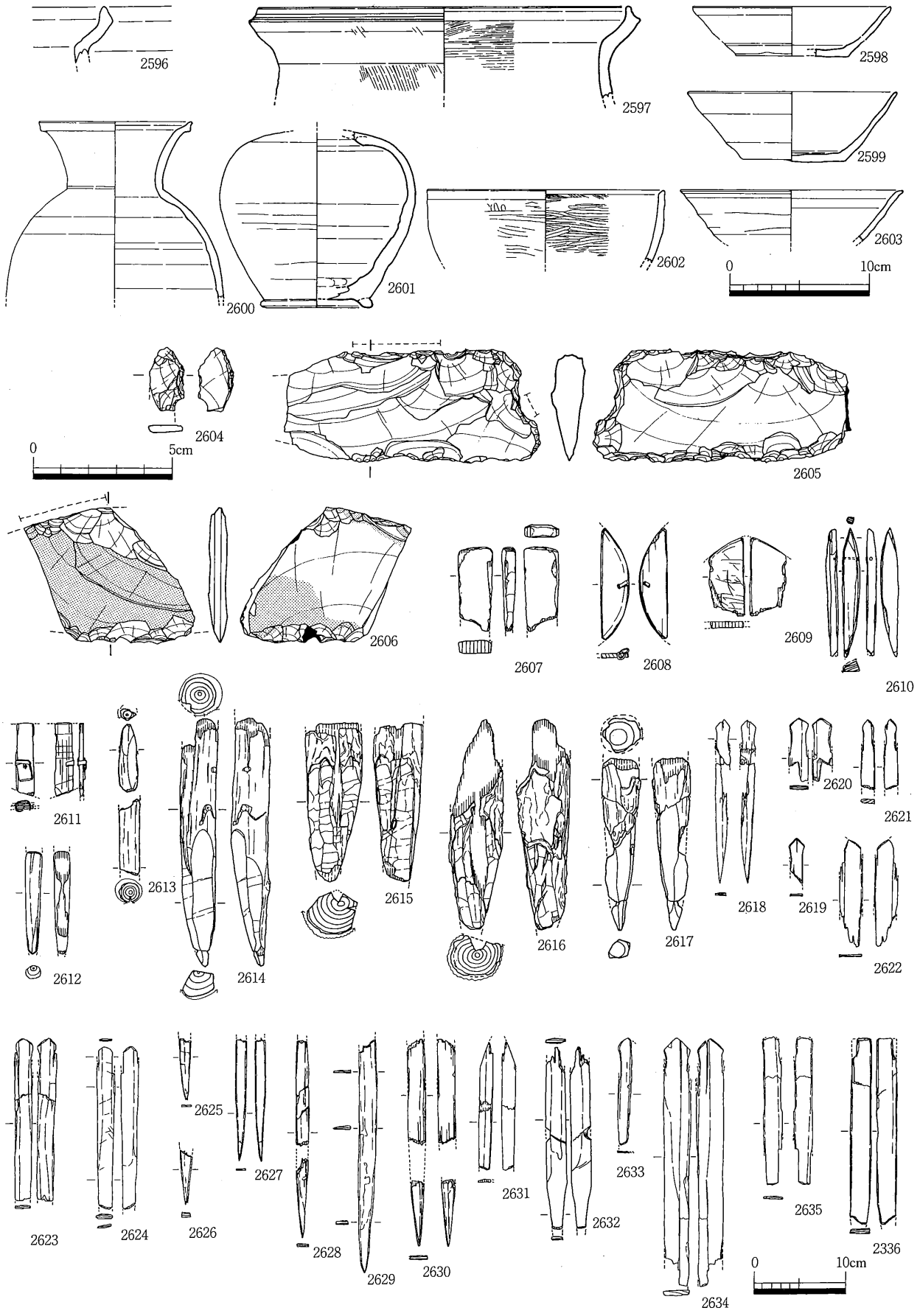
2607～2663は木器である。2607はアカガシで，曲柄鍬先の頭部の可能性がある。2608・2609はヒノキ材の底板である。2610は底板を転用している。頭部を削りだしていることから斎串への転用も考慮する必要があろう。2611はヒノキ材の曲物側板である。2612～2617は広葉樹材の杭で，2615はヤナギ属である。2618～2652は斎串と考えられる。2618～2630はコウヤマキ材の斎串である。2631・2632はヒノキ材の斎串である。2633～2652はコウヤマキかヒノキ材の斎串と考えられる。2653・2654はヒノキ材の棒状木器で，2654は先端をほぞ状に削りだしている。2655はコウヤマキ材で先端にほぞを作り出している。1656は広放射状組織のない環孔材の広葉樹である。2657～2661はヒノキ材と考えられる。2662はスギ材と考えられる。



1．暗灰褐色粘土
2．暗灰褐色混礫粘土（5～20cm大の亜円礫多い）
3．青灰色細～中砂
4．淡黒茶色混礫砂質土（10～30cm大の亜角・亜円礫多い）
5．淡灰色砂礫（10～30cm大の亜円礫多い）

1．耕作土
2．花崗土
3．暗灰色シルト
4．灰黒色シルト（5cm以下の灰緑色砂礫を含む）
5．黄色～灰緑色砂礫層（基盤層）
6．灰茶色シルト（褐色シルトブロックを含む）
7．黄色礫（5cm以下及び黒色シルト層）
} コンクリート畦畔裏込め
8．灰白色シルト
9．褐色シルト
10．灰茶色シルト
11．暗灰茶色シルト
12．暗茶灰色シルト
13．淡灰黄色中砂層（5cm大の円礫を含む）
14．灰黒色シルト（斎串等出土）
15．黒色シルト混じり砂礫層（5cm大の円礫及び粗砂）
16．淡緑灰色中粗砂と黒灰色シルトのラミナ
17．灰黒色シルト（5cm大の円礫多量）
} SD03

第191図　Ⅱ区SE01平・断面図(1/50)・出土土器(1/4)及びⅡ・Ⅲ区SD03断面図(1/100)



第192図　Ⅱ・Ⅲ区SD03出土土器(1/4)・石器(1/2)・木器(1)(1/6)

2663は広放射状組織のある環孔材の広葉樹材である。

Ⅵ区ＳＤ02・Ⅻ区ＳＤ06（第194図）

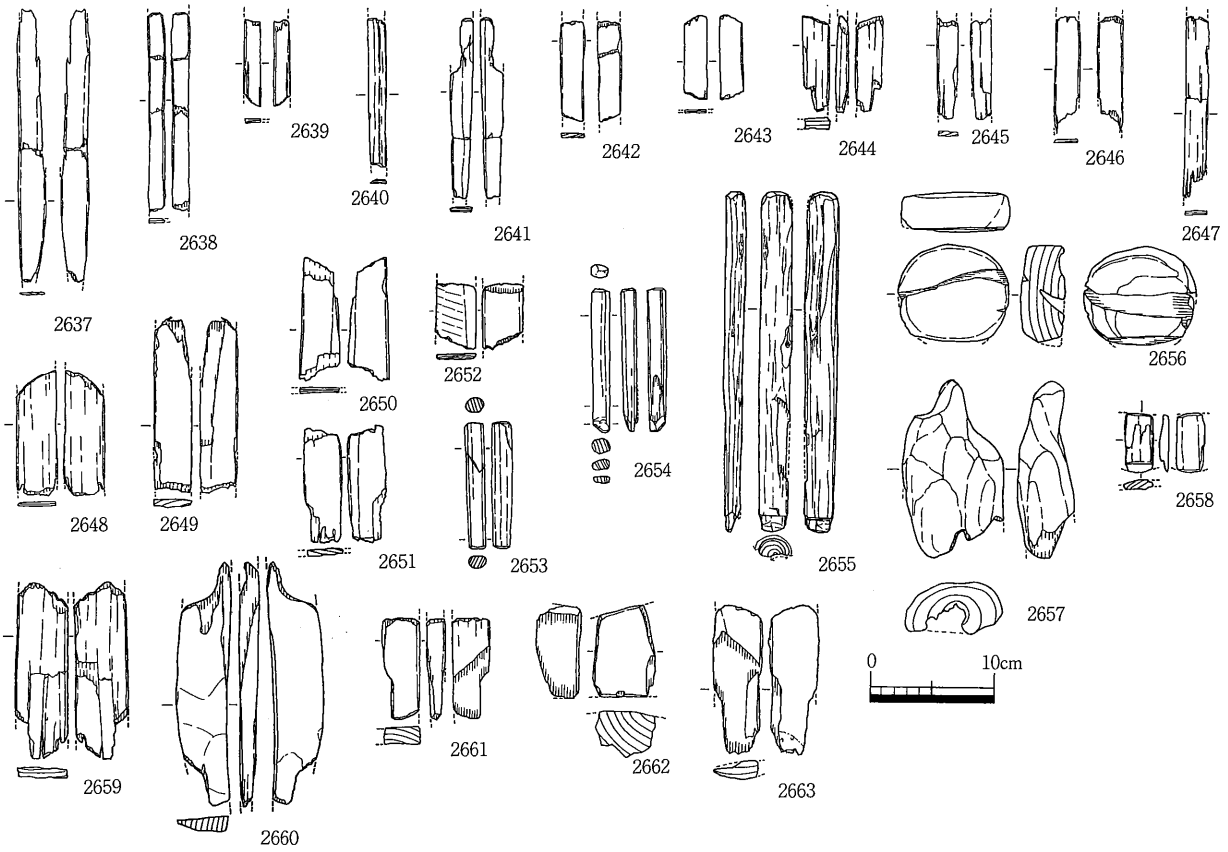
Ｆ７～Ｆ12区画に位置する。平安時代後半までの遺物が３袋程度出土している。Ｆ10区画では，ＳＤ07より新しいことが観察できる。2664・2665は土師器である。2666～2673は須恵器である。2670は外底にヘラによる線刻が見られる。2674は，ツガ属材の剣形木製品である。2675はヒノキ製の斎串である。2676～2678は針葉樹製の斎串と考えられる。2679はモミ属材と考えられるもので，中央部に摩擦で潰れたような痕跡がある。何かにはめ込んでいたものと考えられる。2680～2683はヒノキ製と考えられる板材及び角材である。2684はスギ製と考えられる角材で，両端に鉄器による加工面がある。2685は広葉樹製の先端加工材である。2686は樹種不明の先端加工材である。

Ⅻ区ＳＤ01～05（第194図）

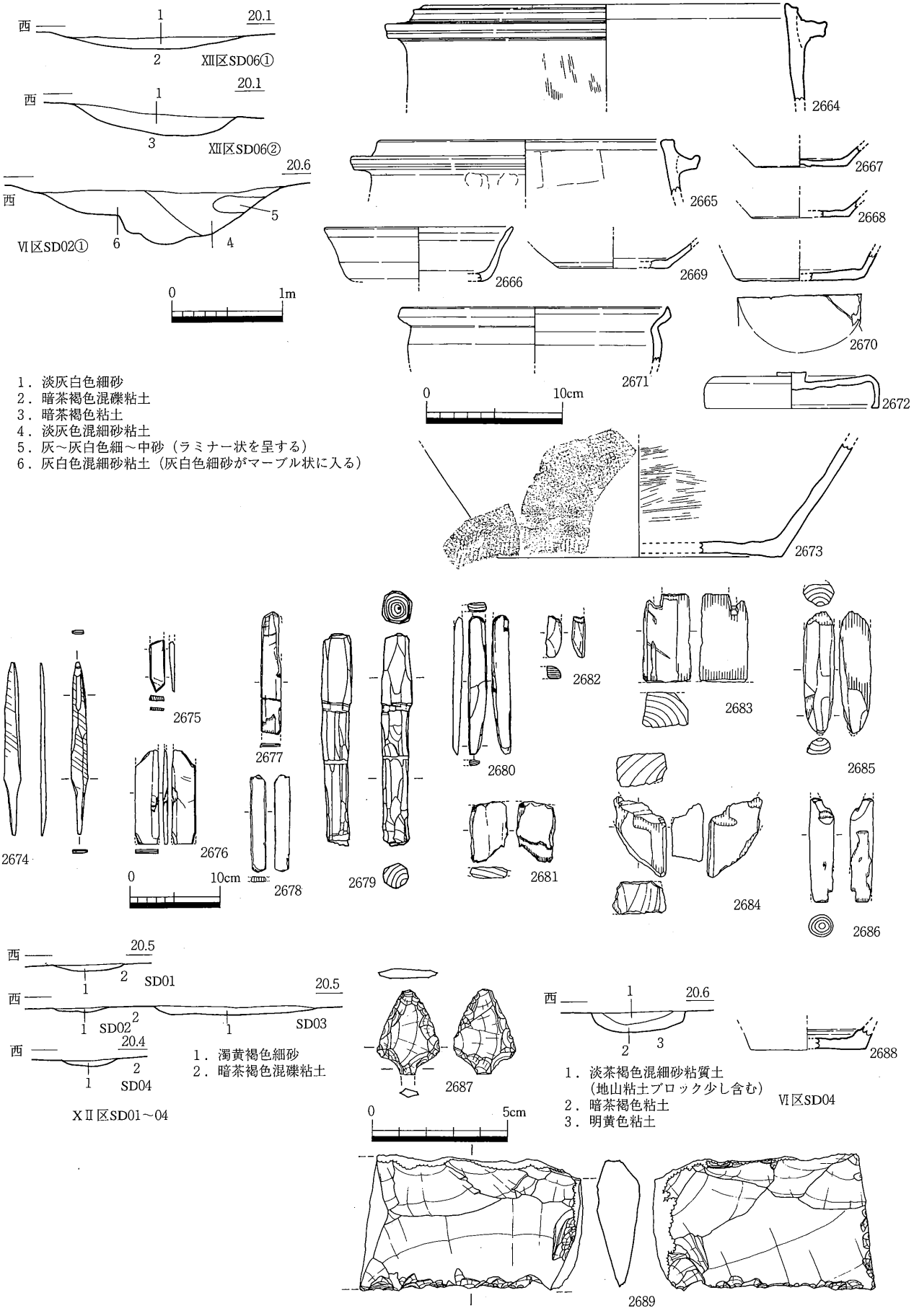
Ｆ７～Ｆ９区画付近に位置する。いずれも浅い溝である。上記のⅥ区ＳＤ02・Ⅻ区ＳＤ06とほぼ平行することから同じ時期と考える。出土遺物は磨滅した土師器・須恵器・瓦器等が少量出土している。2687はＳＤ03から出土した石鏃である。

Ⅵ区ＳＤ04（第194図）

Ｆ８・Ｆ９・Ｆ10区画に位置する。遺物は，弥生土器，須恵器，土師器のほか，瓦器が出土していることから，平安時代終末頃と考える。2688は須恵器壺である。2689はスクレイパーである。



第193図　Ⅱ・Ⅲ区SD03出土木器(2)(1/6)



第194図　VI区SD02・XII区SD06・XII区SD01～04・VI区SD04断面図(1/50)及び出土土器(1/4)・石器(1/2)・木器(1/6)

西②区ＳＤ04・ＳＸ74（第195図）

Ｂ10～Ｂ12区画に位置する。第１遺構面で検出した。現在の水路の下にある溝跡の埋土の一部を検出したものと考えられる。ＳＤ04とＳＸ74は一連の溝と考えられる。ＳＤ04からは少量の弥生土器，土師器及び須恵器等が出土している。ＳＤ04は，西②区ＳＤ02より古い。2690はＳＤ04から出土した石鏃である。

Ｂ２区ＳＤ02・03（第195図）

Ｅ11・Ｅ12・Ｆ11・Ｆ12区画に位置する。黒色系の埋土のＳＤ02はⅥ区ＳＤ04の続きの可能性がある。ＳＤ03は，ＳＤ02より新しいが，非常に浅いもので，底面も凹凸が多い。ＳＤ03からは，土師器椀2691，須恵器杯2692及び石鏃2693が出土している。

不明遺構

Ａ５区ＳＸ01（第195図）

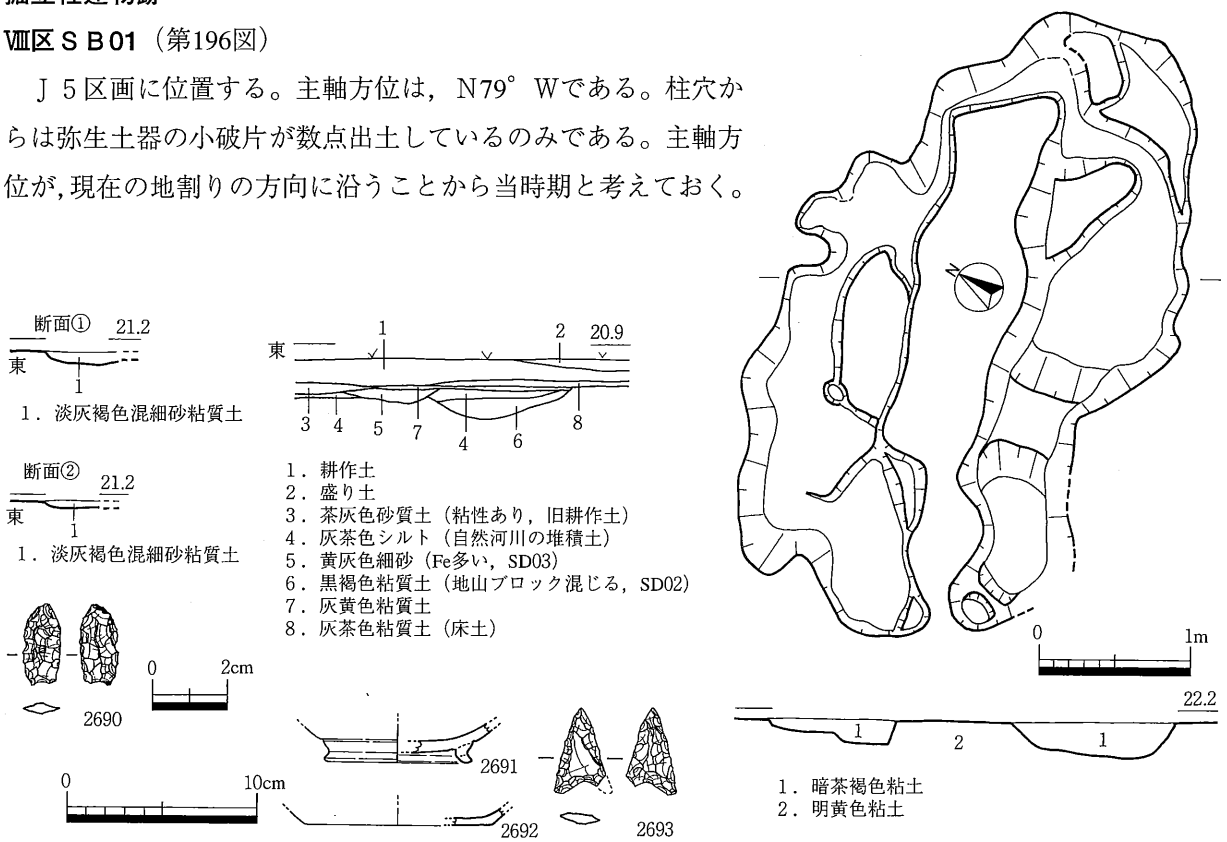
Ｃ16・Ｄ16区画に位置する。遺物は出土していない。平面形は不整形で，底面も凹凸が著しい。これも，Ａ５区ＳＫ01と同様，粘土採掘坑的な性格も考慮する必要があろう。

7　中世

掘立柱建物跡

Ⅷ区ＳＢ01（第196図）

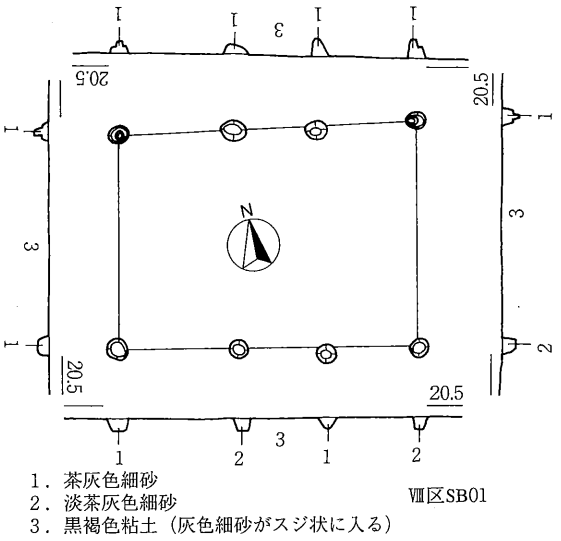
Ｊ５区画に位置する。主軸方位は，Ｎ79°Ｗである。柱穴からは弥生土器の小破片が数点出土しているのみである。主軸方位が，現在の地割りの方向に沿うことから当時期と考えておく。



第195図　西②区SD04･B2区SD02･03･A5区SX01断面図(1/50)及び出土土器(1/4)･石器(1/2)

Ⅸ区ＳＢ02・ＳＢ03（第196図）

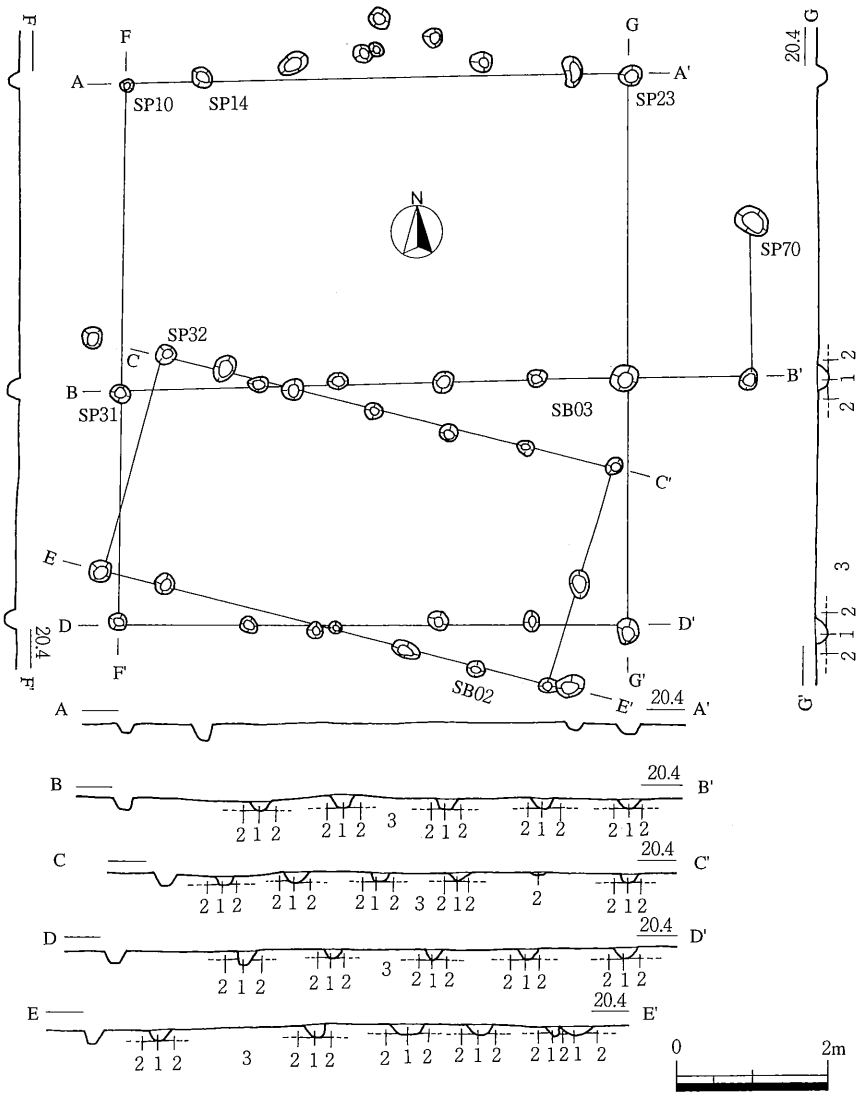
Ｉ４・Ｊ４区画に位置する。２棟の掘立柱建物跡が重なっているものである。ＳＢ03は柱穴の配置のみを根拠に大きく復元した。ＳＢ02は，主軸方位Ｎ74°Ｗである。遺物は出土していない。ＳＢ03は，主軸方位Ｎ89°Ｅである。遺物は，柱穴10・14・23・31から出土しているが，柱穴23から土師器の杯あるいは皿の小破片１片が出土しているのみで，他の柱穴は弥生時代中期の土器の小破片がごく少量出土しているに過ぎない。ＳＢ03については，土師器の出土及び主軸方位が現在の地割りに沿うような方向であることから，当時期頃と考えたが，ＳＢ02については，時期は不明とせざるを得ない。2694は柱穴32から出土した楔形石器である。2695は柱穴70から出土した石鏃である。

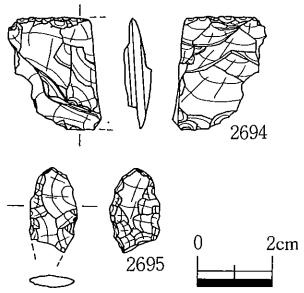


柵列

東①区ＳＡ01（第197図）

Ｊ12区画に位置する。柱穴７から弥生土器小片が３点出土している。東①区ＳＤ01と同じ方向であるので，関連があろう。2696は，柱穴７から出土した弥生土器である。

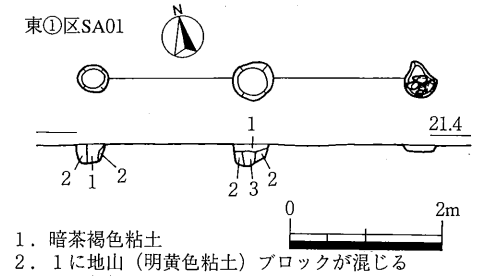




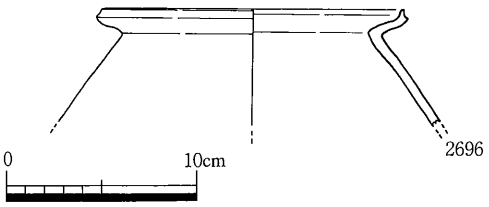
第196図　Ⅷ区SB01・Ⅸ区SB02・03平・断面図（1/100）及び出土石器（1/2）

西②区ピット群（第197図）

Ｂ９区画に位置する。第１遺構面で検出した。柵列状に並ぶ３列のピット群とこれに関連すると考えられる小溝である。調査区が狭いため，柱穴が柵列を形成するのか，掘立柱建物跡を形成するのかは判断できない。出土遺物はＳＤ01から少量の弥生土器，土師器及び須恵器等，柱穴11から土師器杯あるいは皿の小片１片が出土している。2697は，ＳＤ01から出土した土師器の皿である。



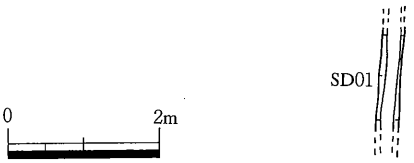
1．暗茶褐色粘土
2．１に地山（明黄色粘土）ブロックが混じる
3．黒褐色粘土



土坑

Ⅴ区ＳＫ02（第197図）

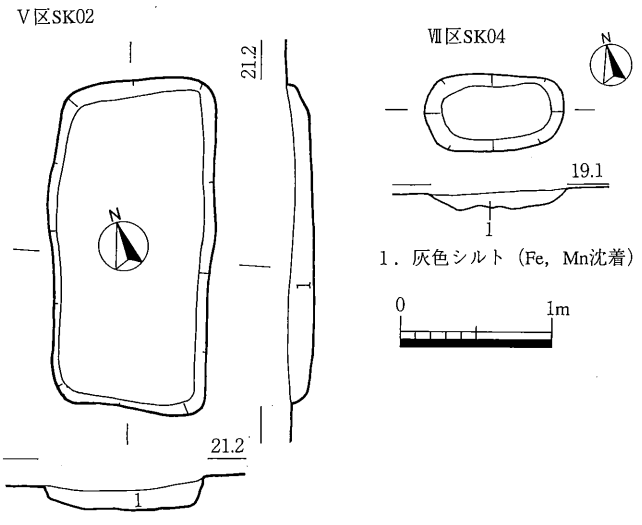
Ｉ10区画に位置する。Ⅴ区ＳＤ04と直交する位置にあり，ＳＤ04と関係を持つものと考えられるが，埋土はＳＤ04とは異なり，粘質土のブロック状の堆積であり，埋め戻されたものと考えられる。また，遺構の底面が明確であることから，溝の一部が残存したものではなく，土坑であると考えられる。



西②区ピット群

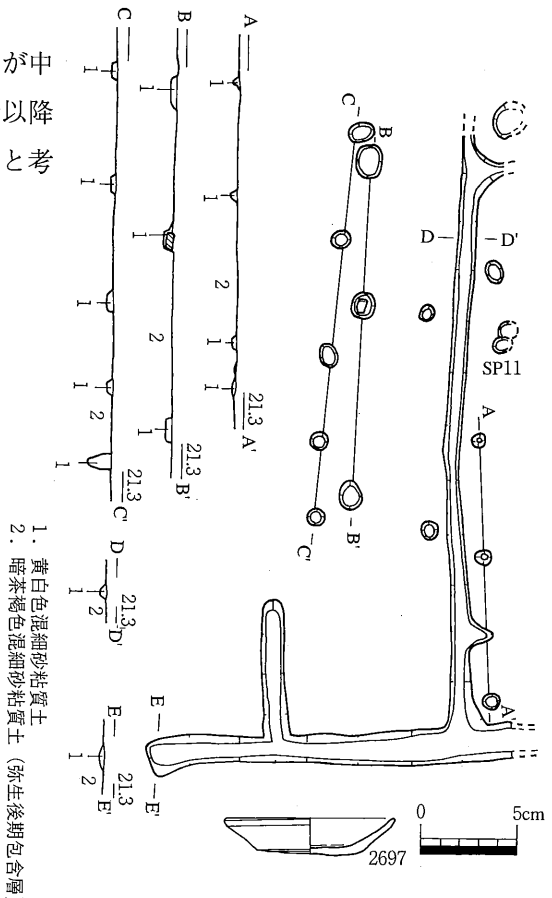
Ⅶ区ＳＫ04（第197図）

Ｉ７区画に位置する。遺物は出土していないが，埋土が中世後半までの遺物を包含する川跡の埋土に類似し，近世以降の土坑の埋土とは異なることから，中世後半以降のものと考える。



1．灰白色黒色茶灰色シルトブロック混合層

1．灰色シルト（Fe，Mn沈着）



1．黄白色混細砂粘質土
2．暗茶褐色混細砂粘質土（弥生後期包含層）

第197図　東①区SA01・西②区ピット群・Ⅴ区SK02・Ⅶ区SK04平・断面図（1/100,1/50）及び出土土器（1/4）

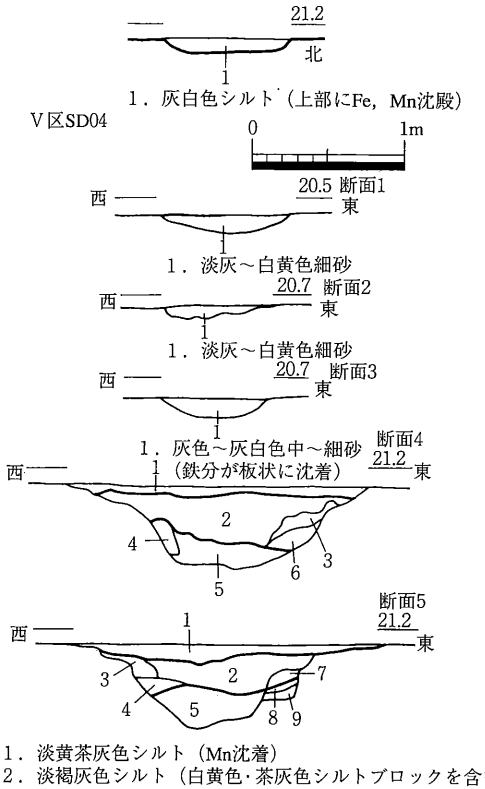
溝跡

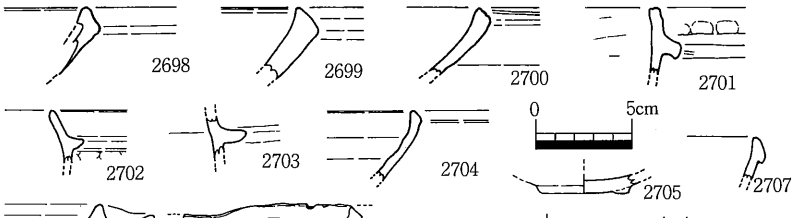
Ⅴ区ＳＤ04（第198図）

Ｉ10区画に位置する。浅い溝である。Ⅴ区ＳＫ02に直交する位置にあり，また条里の東西方向に平行するものである。Ⅴ区ＳＤ03より新しいことから，中世以降の年代が考えられる。

Ⅴ・Ⅶ区ＳＤ03（第198図）

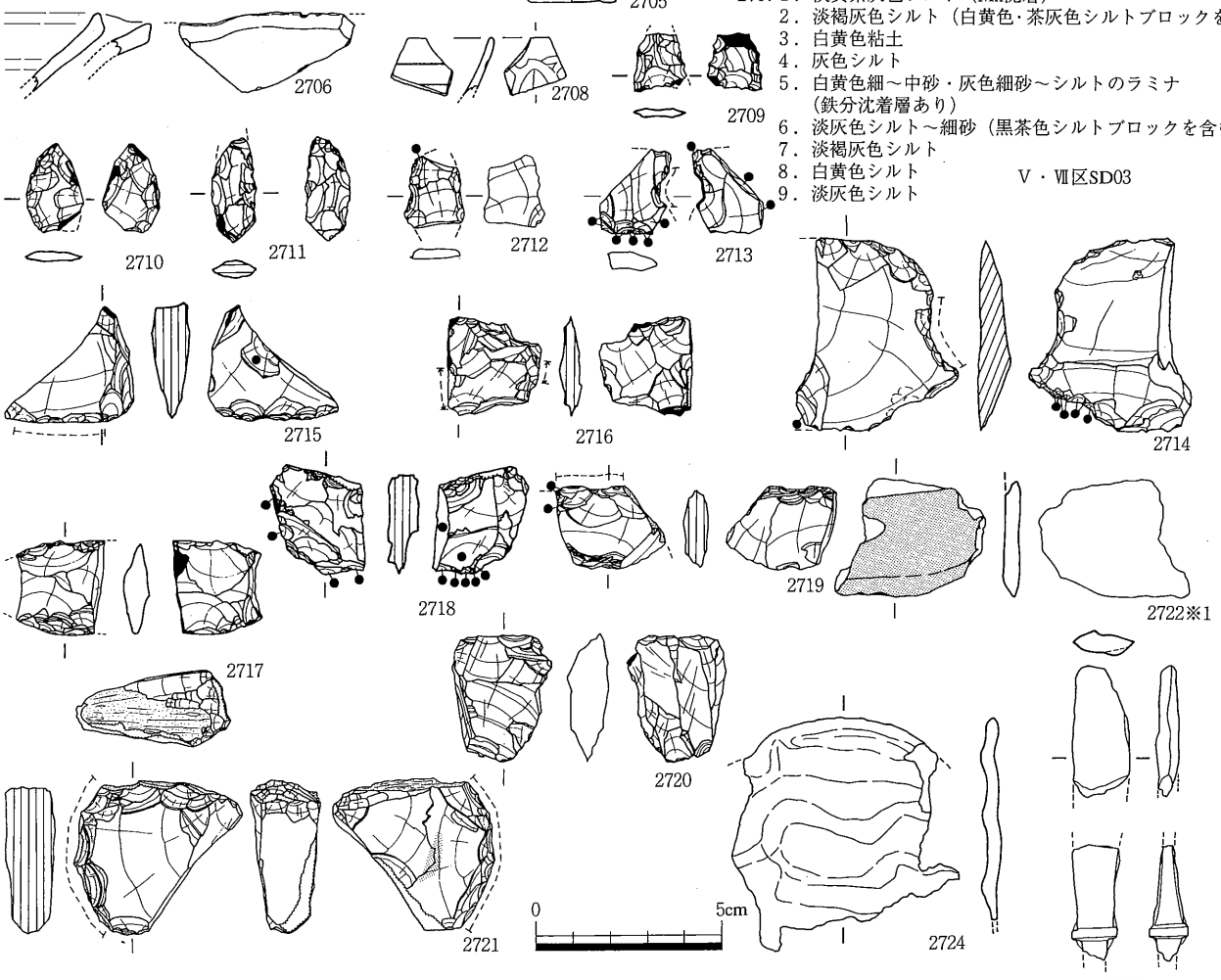
Ｉ12・Ｉ10・Ｉ９・Ｉ８・Ｉ７区画に位置する。現在の水路とほぼ平行しており，Ｉ７区画で東へ曲がり，現在の水路で破壊されている。Ⅶ・Ⅹ・Ⅸ区ＳＤ01・04へ続くものと考えられるが明らかではない。埋土は大きく３層に分かれ，上層はきめの細かいシルト層の堆積，中





1．淡黄茶灰色シルト（Mn沈着）
2．淡褐灰色シルト（白黄色・茶灰色シルトブロックを含む）
3．白黄色粘土
4．灰色シルト
5．白黄色細～中砂・灰色細砂～シルトのラミナ（鉄分沈着層あり）
6．淡灰色シルト～細砂（黒茶色シルトブロックを含む）
7．淡褐灰色シルト
8．白黄色シルト
9．淡灰色シルト

Ⅴ・Ⅶ区SD03



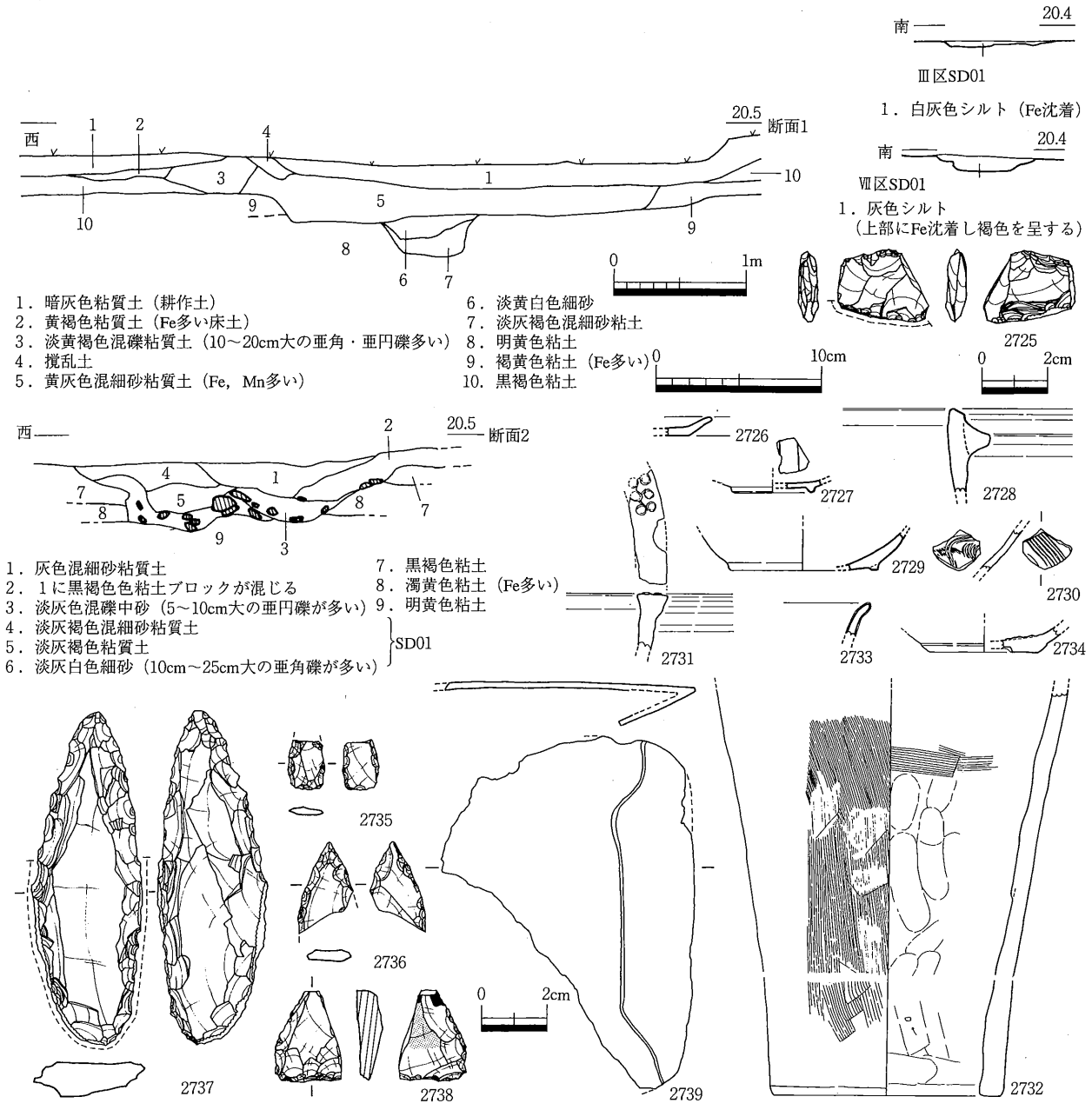
第198図　Ⅴ区SD04・Ⅴ・Ⅶ区SD03断面図（1/50）及び出土土器（1/4）・石器・金属器（1/2）

層は埋め戻しされたと考えられるシルトブロックの堆積，下層は流水を伴う堆積と考えられる砂層の堆積である。ただし，Ⅰ10区画の北部より北側は，後世の削平により，上層及び中層の堆積部分は消滅しており，下層の堆積部分だけが残る浅い溝となっている。

2698～2703は土師器である。2704は瓦質焼成の鉢である。2705は西村産瓦質土器椀である。2706は東播系須恵器鉢である。2707は中国産白磁椀である。2708は外面に鎬連弁文のある中国産青磁椀である。2709～2712は石鏃である。2712は石鏃未製品と考えられる。2713・2714は打製石庖丁である。2715はスクレイパーである。2716～2721は楔形石器である。2722*1は緑泥片岩製と考えられる磨製石庖丁である。2723は鉄鏃である。重量は11.5gである。2724は，不明青銅器である。表面に模様とも考えられる凹凸があるが，磨滅が著しく詳細は不明である。重量は40.5gである。

---

*1　2722はＳＤ07（P155）出土の石器である。レイアウトの手違い。



第199図　Ⅲ・Ⅶ区SD01・Ⅵ区SD01・Ⅶ・Ⅹ・Ⅸ区SD01・04断面図（1/50）及び出土土器（1/4）・石器・鉄器（1/2）

Ⅲ・Ⅶ区ＳＤ01（第199図）

Ｇ８・Ｈ８・Ｉ８区画に位置する。埋土から，土師器の擂鉢が出土していること及び中世後半までの遺物を包含する層を掘り込んでいることから，中世後半以降の時期が考えられる。底面の標高は全体的にほとんど変わらない。2725は楔形石器である。

Ⅵ区ＳＤ01（第199図）

Ｆ10区画に位置する小溝である。幅50cm，深さ10cm程度である。中世前半までの遺物が出土している。2726～2728は土師器である。2729は黒色土器Ａ類椀である。

Ⅶ・Ⅹ・Ⅸ区ＳＤ01・04（第199図）

Ｊ３～Ｊ７区画に位置する。現代の水路と中世の溝跡が重なったもので，中世の溝跡は南半では断面で一部その埋土が確認できるに過ぎないが，北半では現在の水路がＪ５区画中央あたりで浅くなり以北では認められないため，ほぼ全幅を確認できる。埋土からは足釜や，中国産青磁の椀が出土していることから，中世以降の埋没と考えられる。

2730は中世の埋土から出土した中国産青磁椀である。2731～2739は，現代の溝の埋土から出土したものである。2731は弥生時代中期の土器，2732は土師質の土管状の器形，2733は中国産青磁椀，2734は近世の白磁椀である。2735・2736は石鏃である。2737は石槍である。2738は楔形石器である。2739は鋤先と考えられる鉄器である。重量は53.9gである。

Ⅹ区ＳＤ02・10

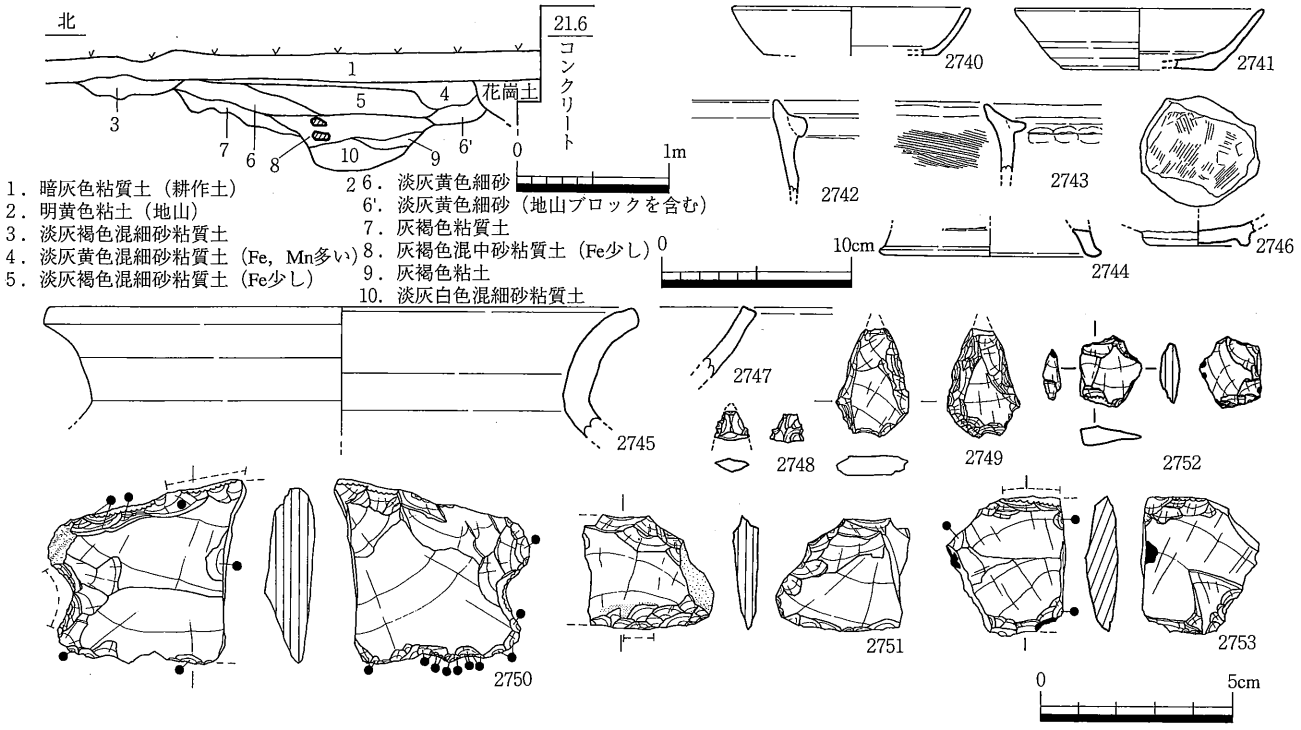
Ｉ５・Ｉ６区画に位置する。深さ２～３cmで，幅20～30cmである。埋土は，淡黄灰色砂質土である。遺物は出土していない。いわゆる鋤溝に類似したものと考えられる。

Ⅹ区ＳＤ03・05・06・07・08

Ｊ５・Ｊ６区画に位置する。幅20～30cm，深さ数cm程度の浅いものである。いずれもほぼ同じ方向でⅩ区ＳＤ01に直交している。埋土は，淡黄灰色砂質土である。遺物はＳＤ08から，磨滅した弥生土器，須恵器及び土師器の小片が出土しているのみである。

東①区ＳＤ01・03（第200図）

Ｊ12・Ｊ13・Ｉ12・Ｉ13区画に位置する。現在の水路にほぼ沿う東西方向の溝である。ＳＤ03はＳＤ01から分岐する小溝と考えられる。埋土からは，弥生土器，土師器，須恵器，西村産瓦質土器及び石器が出土している。この溝の東側の延長は，日暮・松林遺跡のＳＤ37である。ＳＤ37からは中世前半～後半にかけての遺物が出土しているので，当遺跡のＳＤ01も中世後半の埋没と考えられる。Ⅴ・Ⅶ区ＳＤ03とほぼ直交し，同時存在の可能性が高い。2740～2743は，土師器である。2744・2745は須恵器であるが，2744は脚の透かしが面取り整形されている高杯である。2746は，黒色土器Ａ類椀である。2747は，瓦質焼成の鉢である。2748・2749は石鏃である。2750は打製石庖丁である。2751はスクレイパーである。2752・2753は楔形石器である。



第200図　東①区SD01·03断面図（1/50）及び出土土器（1/4）·石器（1/2）

西①区ＳＤ03（第201図）

Ｂ16区画に位置する。弥生土器及び土師器等が数片出土している。いずれも磨滅している。西①区ＳＸ02より古いことから，当時期と考える。

西②区ＳＤ05（第201図）

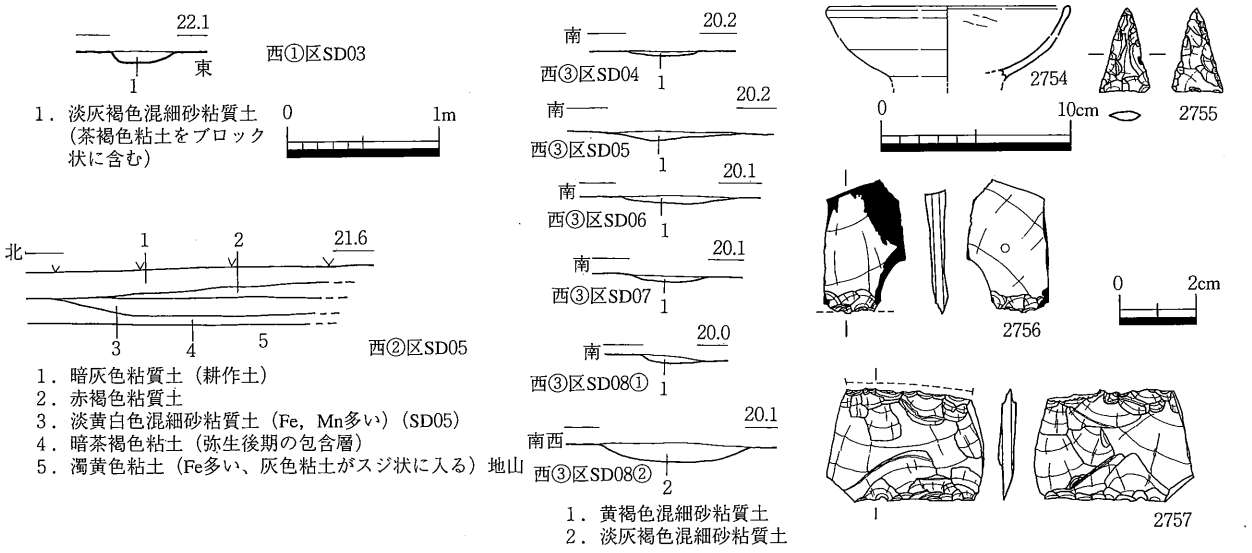
Ｂ12区画に位置する。第１遺構面で検出した。現在の水路とほぼ一致する位置で検出した。遺物は弥生土器及び土師器の小片が数片出土している。周りの不定形なピット状あるいは溝状遺構と同じ埋土である。

西③区ＳＤ04・05・06・07・08（第201図）

Ｂ３区画に位置する。埋土及び方向が類似することから，まとめて報告する。遺物は各溝とも少量の弥生土器，須恵器等の小片が出土しているが，ＳＤ06から平安時代末頃の和泉産瓦器椀が出土していることから，当時期とした。ＳＤ06・07・08の方向は現在の地割方向とは若干異なるが，これは北側の川跡の埋没状況に影響を受けたためであろう。なお，この方向は現在の水田の境の方向の一部にも見られる。2754は，ＳＤ06から出土した土師器椀である。2755はＳＤ05から出土した石鏃である。2756・2757はＳＤ08から出土したスクレイパーである。

西④区ＳＤ03

Ｂ７区画に位置する。現在の水路の下層の溝の東肩が一部分検出されているものと考えられる。埋土からは磨滅した弥生土器，土師器及び須恵器が出土している。埋土及び陶磁器が出土していないことから，当時期と考える。



第201図　西①区SD03・西②区SD05・西③区SD04・05・06・07・08断面図（1/50）及び出土土器（1/4）・石器（1/2）

その他

Ⅶ区畦道状遺構

Ｈ７・Ｉ７区画で検出した。10cm大の礫を含む灰褐色粘質土を10cm程度盛土したものである。中世後半までの遺物を含む包含層の上面に盛土されていることから，中世後半以降の時期と考えれる。Ⅱ区西調査区（Ｇ６・Ｇ７区画）の東壁断面にも同様な土層が観察されるが，この周辺での広がりは把握できていない。

畑状遺構

Ｉ区ピット列及び小溝群（第202図）

Ｈ10～Ｈ12区画に広がる。川跡ＳＲ01及びＩ区ＳＲ02埋没後に作られたものである。ピット列は２列程度認められる。それぞれのピットは幅20～30cm，深さ数cmで浅く，平面形は不整形である。ほぼ南北方向に並んでいるが，北部は若干東へずれるような傾向がある。これは，川跡ＳＲ01の埋没に伴う若干の傾斜地に等高線に沿って作られたためであろう。埋土から磨滅した弥生土器，土師器及び瓦器の小片が少量出土している。2758はＨ11ＳＰ21から出土したスクレイパーである。

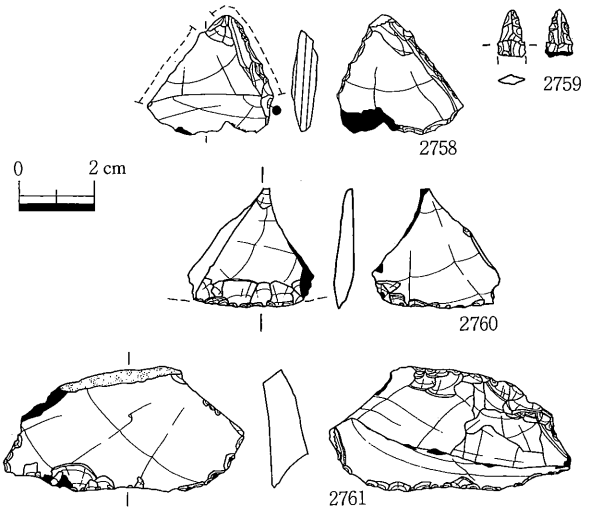
ピット列のすぐ近くにみられる小溝群は，いずれも幅10～30cm程度で，深さは数cmである。いわゆる鋤溝と考えられるものであろう。出土遺物は，少量の磨滅した弥生土器の小片である。2759はＳＤ07から出土した石鏃である。2760はＳＤ02から出土したスクレイパーである。

Ｘ区ピット列（第202図）

Ｉ６・Ｊ６区画に位置する。不定形で浅いピット列である。最低３列は認めることができる。川跡ＳＲ01の東岸に沿ったように並んでいるので，川跡埋没に伴う傾斜地に等高線に沿って作られたものであろう。深さはいずれも５cm程度である。埋土は，淡黄灰色砂質土である。遺物は，弥生土器，土師器，須恵器及び和泉産瓦器の小片が出土しているが，いずれも磨滅している。また2761はＩ６区ＳＰ30から出土したスクレイパーである。

西②区ピット群及び溝群

Ｂ10区画からＢ12区画に位置する。第１遺構面で検出した。不定形で浅い溝群及びピット群である。深さはいずれも数cm程度である。出土遺物は，弥生土器・土師器・須恵器が少量出土している。



第202図　畑状遺構出土石器(1/2)

8　近世以降

土坑

Ｖ区ＳＫ01（第203図）

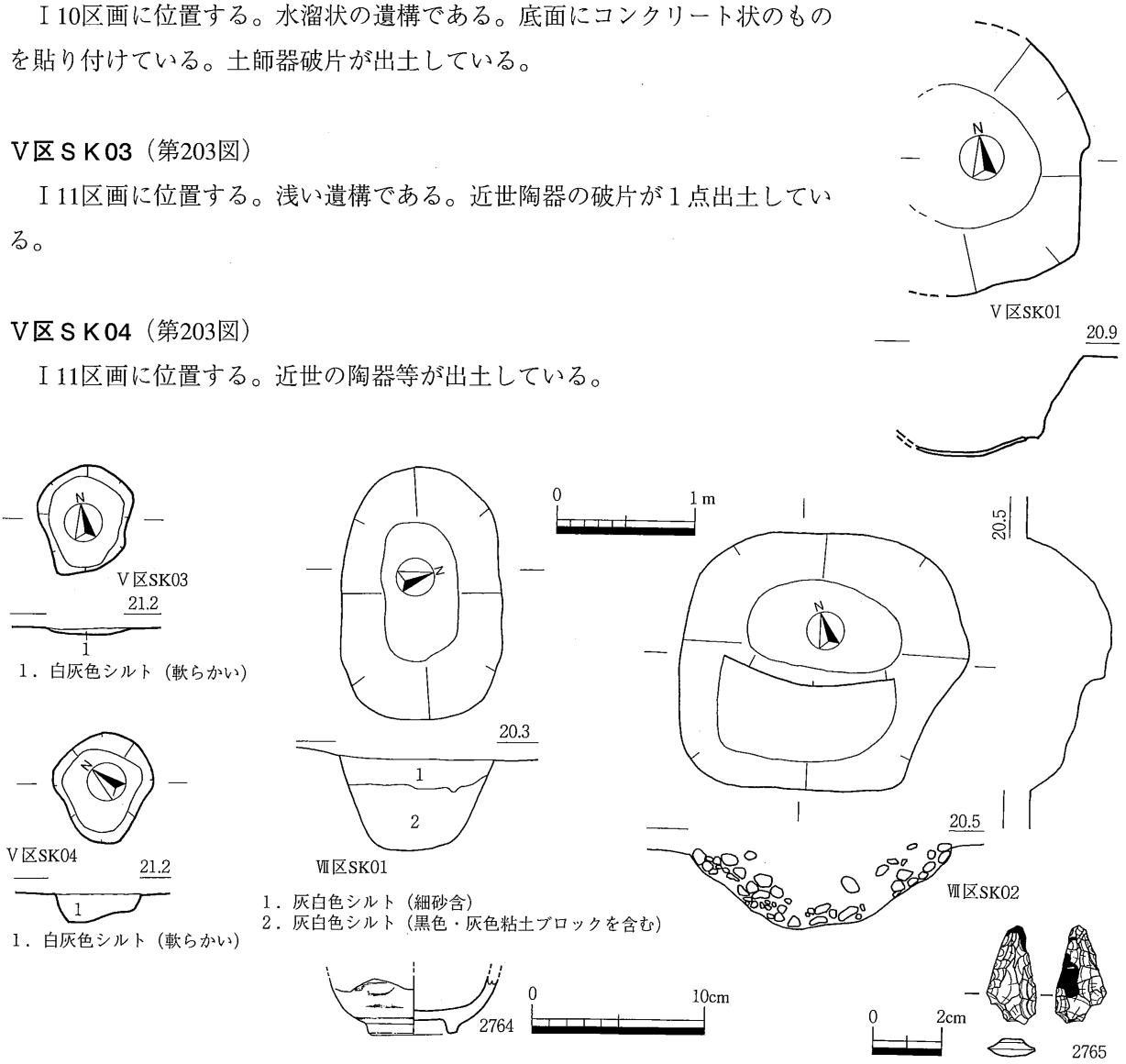
Ｉ10区画に位置する。水溜状の遺構である。底面にコンクリート状のものを貼り付けている。土師器破片が出土している。

Ｖ区ＳＫ03（第203図）

Ｉ11区画に位置する。浅い遺構である。近世陶器の破片が１点出土している。

Ｖ区ＳＫ04（第203図）

Ｉ11区画に位置する。近世の陶器等が出土している。



第203図　Ｖ区SK01･03･04･Ⅶ区SK01･Ⅶ区SK02平･断面図(1/50)及び出土土器(1/4)･石器(1/2)

Ⅶ区ＳＫ01（第203図）

Ｉ７区画に位置する。近世以降の遺物が出土している。2764は陶胎染付椀である。

Ⅶ区ＳＫ02（第203図）

Ｉ７区画に位置する。埋土には礫を多く含む。近世以降の陶磁器が出土している。2765は石鏃である。

Ⅸ区ＳＫ01（第204図）

Ｊ４区画に位置する。埋土から近世の陶磁器の小破片及び石器が出土している。断面図は，航空測量の平面図から復元したものである。2762は石錐である。2763は楔形石器である。

Ⅸ区ＳＫ02（第204図）

Ｊ４区画に位置する。埋土から焙烙が出土していることから近世以降の時期である。

東①区ＳＫ03

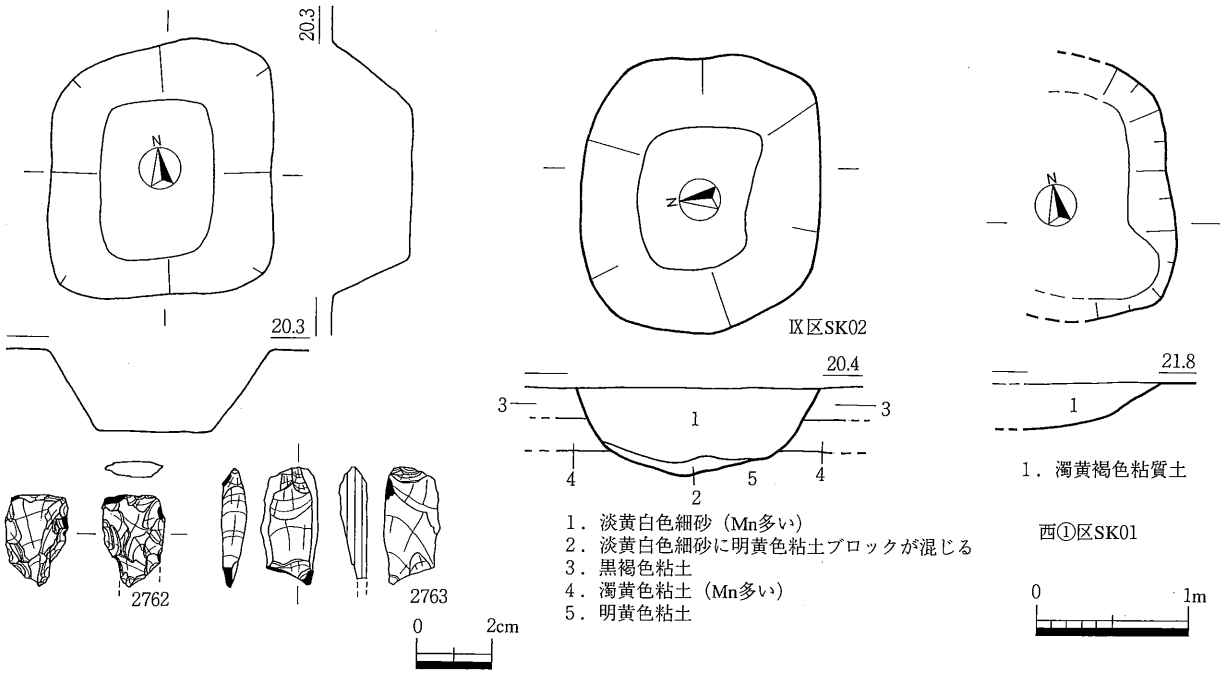
Ｊ11区画に位置する。長軸1.7ｍ，深さ18㎝である。埋土は暗茶褐色粘土である。出土遺物は，少量の弥生土器及び近世陶器の小破片である。

西①区ＳＫ01（第204図）

Ｂ14区画に位置する。弥生土器及び須恵器等が数片出土しているが，埋土から近世以降と考える。

西①区ＳＫ02

Ｂ14区画に位置する。遺物は出土していない。深さは20㎝以上である。埋土は，西①区ＳＫ01と同じ濁黄褐色粘質土である。



第204図　Ⅸ区SK01･02･西①区SK01平･断面図（1/50）及び出土石器（1/2）

西④区ＳＫ02

Ｂ８区画に位置する。いわゆる野壺と呼ばれる遺構と考える。遺構全体の約半分しか調査していないが，直径約２ｍ，深さ50cmである。遺物は出土していない。

不明遺構

西①区ＳＸ01（第205図）

Ｂ15区画に位置する。弥生土器，土師器及び須恵器が出土しているが，埋土が西①区ＳＸ02と同じことから近世以降の時期と考える。

西①区ＳＸ02（第205図）

Ｂ15・Ｂ16区画に位置する。浅い遺構である。埋土から近世の陶器１片を含む少量の遺物が出土している。

溝跡

Ⅰ区ＳＫ03（第205図）

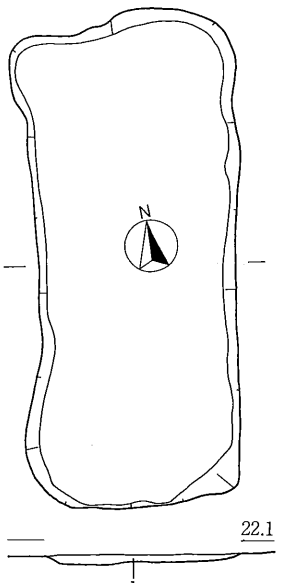
Ｈ10区画に位置する。調査時には，土坑として遺構名をつけたが，浅い溝跡として報告する。近世の陶器が出土している。底面はあまり凹凸は無い。

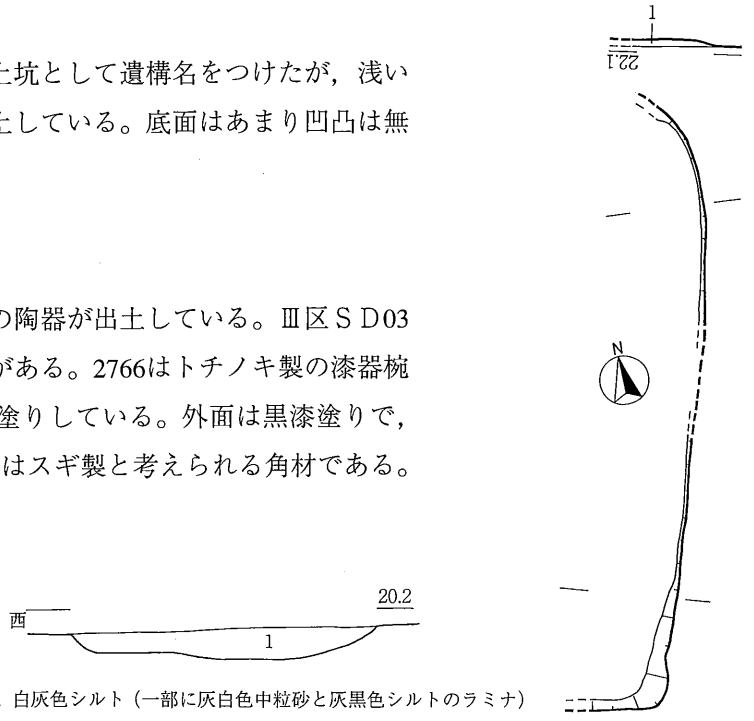
Ⅲ区ＳＤ02（第205図）

Ｇ９区画で部分的に検出した。近世の陶器が出土している。Ⅲ区ＳＤ03より新しい。底面は流水の影響で凸凹がある。2766はトチノキ製の漆器椀である。内面は黒漆の上に赤漆を重ね塗りしている。外面は黒漆塗りで，外底には赤漆で字が書かれている。2767はスギ製と考えられる角材である。

Ⅷ・東②区ＳＤ04・11，Ⅹ区ＳＤ09

Ｊ５区画に位置する。幅20～30cm，深さ５cm程度の溝である。埋土は淡灰白色細砂である。出土遺物は無い。この延長は，日暮・松林遺跡ではＳＤ13である。日暮・松林遺跡では近世に時期比定されていること及び現代の水田畦畔に関連があると考えられるⅧ・東②区ＳＸ01より新しいことから，ここでは近世以降の時期としておく。





第205図　西①区SX01･02･Ⅰ区SK03･Ⅲ区SD02平･断面図(1/50)及び出土木器(1/6)

東②区ＳＤ03

Ｊ４区画に位置する。調査区東壁断面から測ると，幅は40cm，深さ10cm程度である。耕作土直下で検出した。埋土は淡黄褐色細中砂で，遺物は出土していない。埋土は上記のⅧ・東②区ＳＤ04と同じであることから，近世以降の溝跡と考える。

東①区ＳＤ08（第206図）

Ｊ７区画に位置する。現在の水路とほぼ同じ位置にある。埋土は周囲の粘土層のブロック状の堆積である。磨滅した弥生土器の小片・須恵器及び土師器がわずかに出土している。2768は土師器の鉢と考えられる。

西①区ＳＤ04（第206図）

Ｂ16区画に位置する。須恵器１片が出土しているが，埋土から近世以降の時期と考える。

西③区ＳＤ09（第206図）

Ｂ３区画に位置する。磨滅した弥生土器，須恵器及び唐津灰釉溝縁皿が出土している。

西④区ＳＤ01・02（第206図）

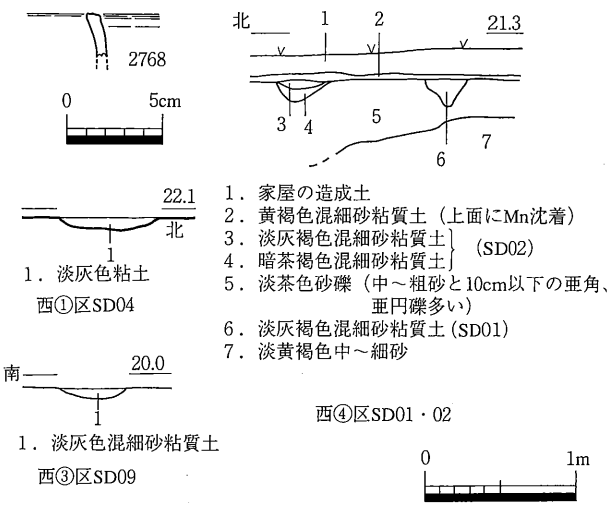
Ｂ８区画に位置する。ＳＤ01からは焙烙の小片が１片出土している。ＳＤ02は弥生時代後期の土器が２片出土しているが，ＳＤ01と並行することから同時期と考える。

Ａ３区ＳＤ01・02（第207図）

Ｉ16・Ｊ16区画に位置する。ＳＤ02は現在の水路にほぼ真下に位置する。埋土からは，陶器や焙烙等の近世以降の遺物が出土している。ＳＤ01は遺物が出土していないが，埋土がＳＤ02と同じであることから，同じ時期と考える。また，ＳＤ02と重なる現在の水路及び道路下の断面を観察すると，１はコンクリートの路肩建設前の水田耕作土である。道路建設前には畦道が存在していたことが昭和37年撮影の空中写真からわかるので，Ａ及び２は，畦道下の盛土の可能性がある。６は，ＳＤ02と同じ埋土であるが，ＳＤ02より若干標高が低いので，溝跡埋土ではなく，旧水田耕作土の可能性が考えられる。10及び11は，ここより西にある川跡の埋土である。

Ａ４区ＳＤ01（第208図）

Ｇ12・Ｇ13区画に位置する。幅約４ｍ，深さ70cmである。埋土からはスレートなどが出土しており，現代の埋没と考えられる。また，埋土には多量の木屑が含まれており，木器が出土している。木器は中世頃のものと考えられる。2769はスギ材の容器の底板であろう。2770はトチノキ材の漆器



第206図　東①区SD08出土土器(1/4)及び西①区SD04・西③区SD09・西④区SD01・02断面図(1/50)

椀で，黒漆塗りである。外底には赤漆で文字が書かれているが，文字の判読はできない。

その他

Ⅴ・Ⅶ・東①区ＳＤ02（第209図）

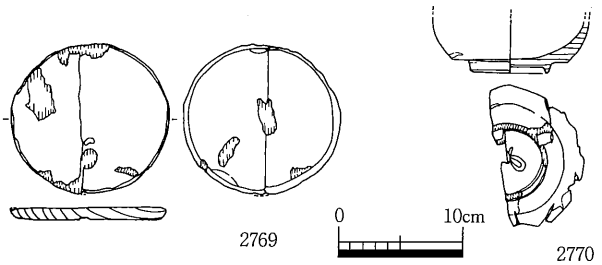
Ｊ７～Ｉ13区画に位置する。現在の水路のほぼ東に沿う方向である。Ⅴ区及びⅦ区では，現在の水路と調査区西端の間のわずかな区画の調査のため，遺構の完全な幅がわかる部分は無い。東①区部分では，東①区ＳＤ01より新しいＳＤ02が浅い遺構であることから，Ⅴ区ＳＤ02の延長と考えられる。昭和時代に土取りが行われたとされており，近世以降の遺物が出土する。2771～2773は中国産白磁椀である。2774は中国産青磁皿，2775・2776は中国産青磁椀である。2777は青磁香炉である。2778・2779は近世の染付椀である。2780～2783は染付皿である。2784は赤絵蓋である。2785は陶器灰釉鉢である。2786は陶胎染付椀である。2787は土師質焼成の大型甕である。2788～2792は石鏃である。2793はスクレイパーである。2794は楔形石器である。

Ⅷ・東②区ＳＸ01

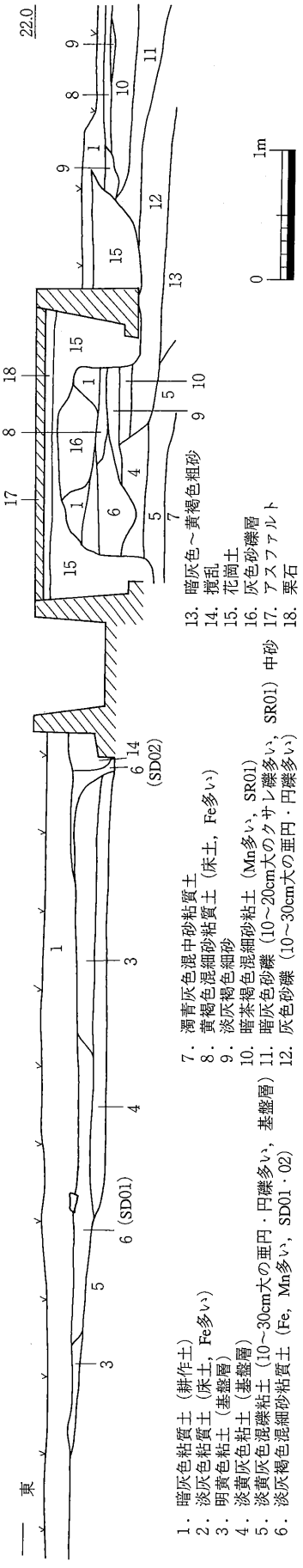
Ｊ５区画に位置する。現在の東西畦畔のほぼ沿うようになっていることから，現在の畦畔に関連したものと考えられる。埋土は，水田床土に基盤層の粘土ブロックが混じったものである。遺物は出土していない。

Ａ４区ＳＸ01（第209図）

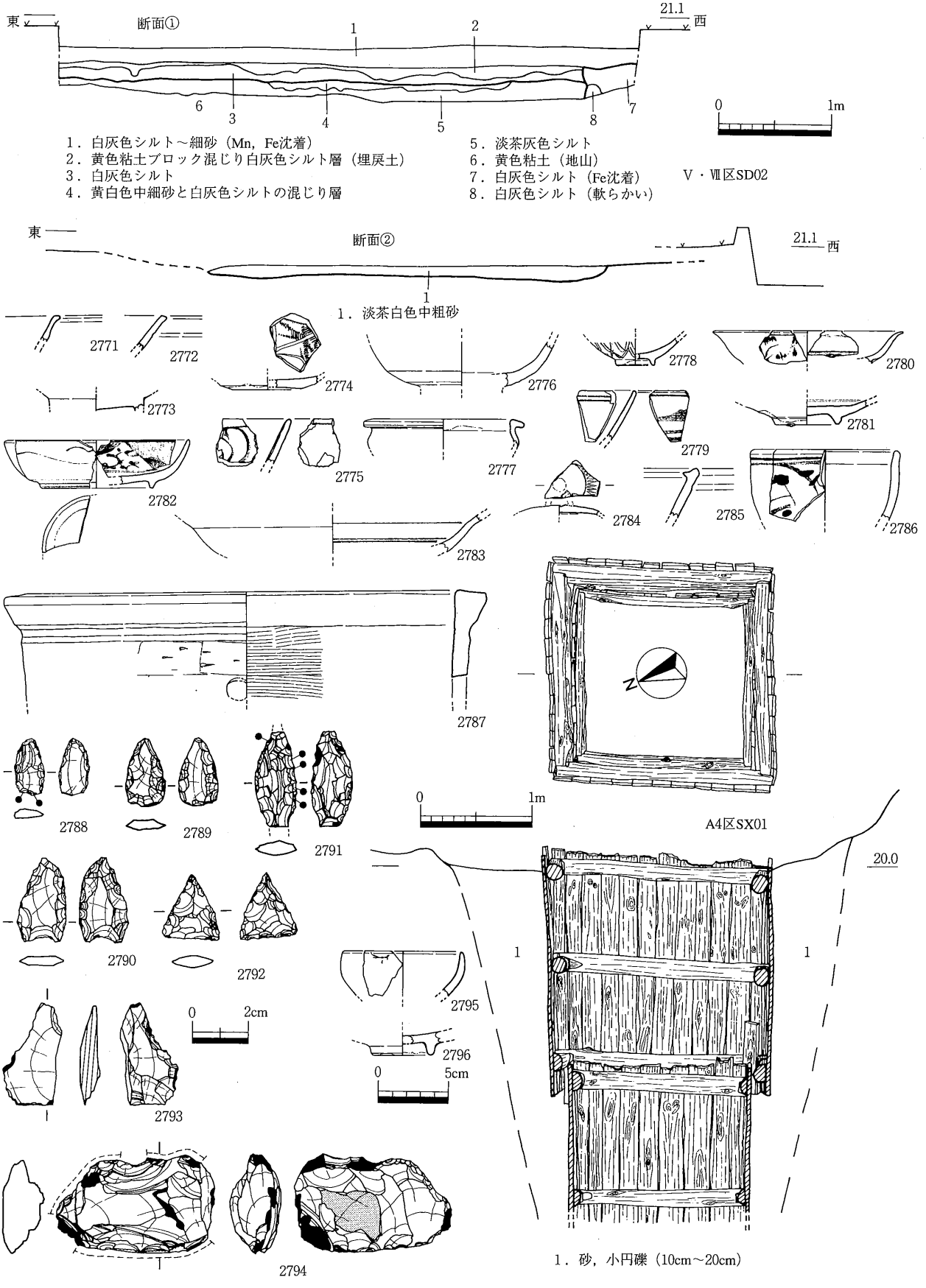
Ｇ12区画に位置する。現在の出水である。井戸枠は木組みで作られている。釘は使用せず，すべてほぞ結合である。下部確認のための掘削中，崩壊したため，下部構造及び深さは調査できなかった。聞き取り調査によると，昭和14年の大干魃で，出水の水が枯れたため，再掘削したとのことである。現在の木組みの構造はこの再掘削



第208図　A4区SD01出土木器(1/6)



第207図　A3区SD01・02断面図(1/50)



第209図　V・Ⅶ区SD02・A4区SX01平・断面図（1/50）及び出土土器（1/4）・石器（1/2）

時に作られたものである可能性が高い。2795・2796は，井戸枠内の埋土から出土した陶器椀である。

9　時期不明の遺構

掘立柱建物跡

Ⅷ区ＳＢ02（第210図）

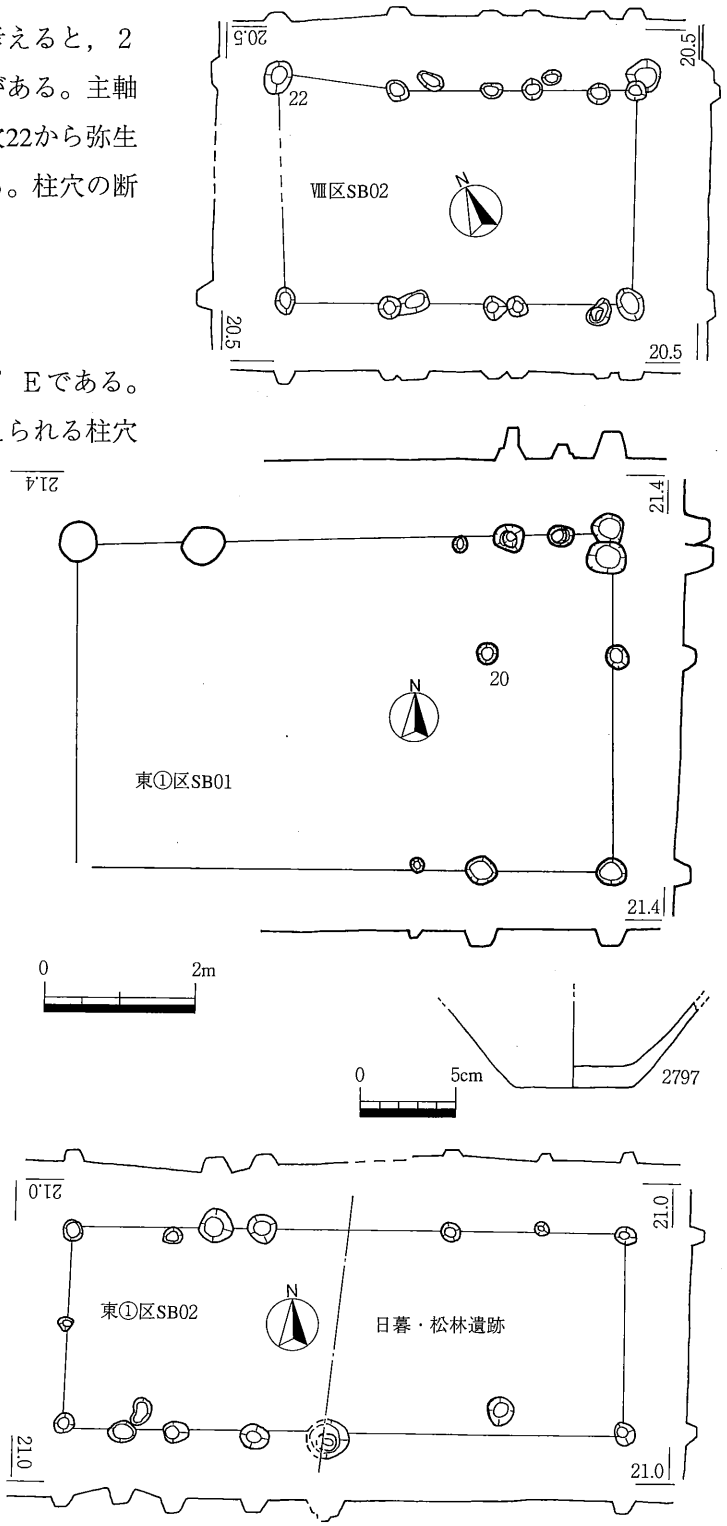
Ｊ６区画に位置する。柱穴の配置から考えると，２棟の掘立柱建物跡が重なっている可能性がある。主軸方位は，Ｎ24°Ｗである。出土遺物は柱穴22から弥生土器の小片が少量出土しているのみである。柱穴の断面図は，航空測量平面図から作成した。

東①区ＳＢ01（第210図）

Ｊ11区画に位置する。主軸方位は，Ｎ89°Ｅである。日暮・松林遺跡ではこの建物の延長と考えられる柱穴は無いことから，東端は確定であるが，西端については平成４年度に行った予備調査のトレンチ内にみられる柱穴がこの建物の延長と考えられることから，未調査地域内にあるものと考えられる。ただし，予備調査時のトレンチの位置はやや正確さに欠けるという限界があるため，柱穴の正確な配置は報告できない。またこの建物の柱穴ではない可能性もある。柱穴からは弥生時代中期の土器が１袋弱出土している。柱穴埋土はいずれも暗茶褐色粘土である。2797は柱穴20から出土した弥生土器で，磨滅している。

東①区ＳＢ02（第210図）

Ｊ８・Ｋ８区画に位置する。主軸方位はＮ88°Ｗである。建物跡の大半は，日暮・松林遺跡で検出されているが，柱穴数が少ないので，建物を構成する柱穴かどうかは確実ではない。また，日暮・松林遺跡の報告でも建物跡としては報告されていない。柱穴の埋土は

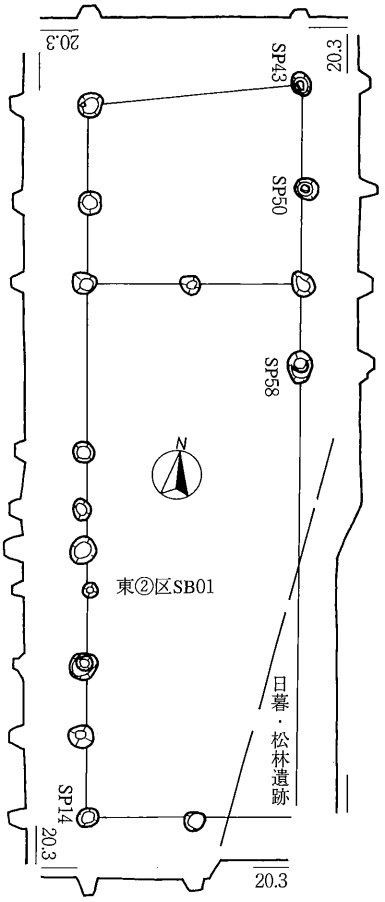


第210図　Ⅷ区SB02・東①区SB01・02平・断面図(1/100)及び出土土器(1/4)

茶褐色粘土で，出土遺物は無い。

東②区ＳＢ01（第211図）

Ｊ３・Ｊ４・Ｋ４区画に位置する。主軸方位は，Ｎ14°Ｗである。南北にやや長いことから，２棟の掘立柱建物跡が並んでいる可能性もある。南東隅の柱穴の有無については，日暮・松林遺跡との間の若干の未調査部分にあたり，不明である。柱穴43及び50には根石が見られる。柱穴58には柱痕が見られる。遺物は，柱穴43から弥生時代中期の土器２片及びスクレイパー2798，柱穴14から弥生時代後期の土器を含む弥生土器が２片が出土した。



柵列

Ⅷ区ＳＡ01（第211図）

Ｊ４区画に位置する。柱穴61からほぼ90°北へ折れたところにも柱穴があり，関連する可能性もある。主軸方位は，Ｎ56°Ｅである。出土遺物は無い。

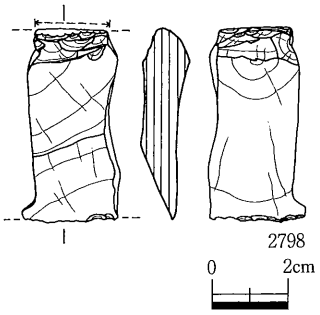
土坑

Ⅸ区ＳＫ06（第211図）

Ｈ４区画に位置する。浅い土坑である。出土遺物はない。

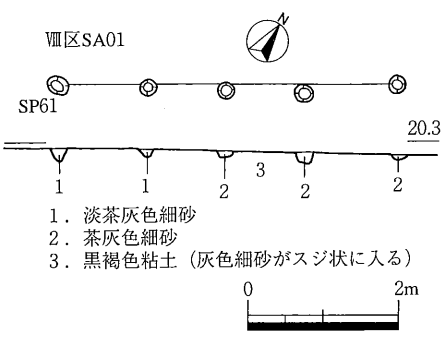
Ⅻ区ＳＫ05（第211図）

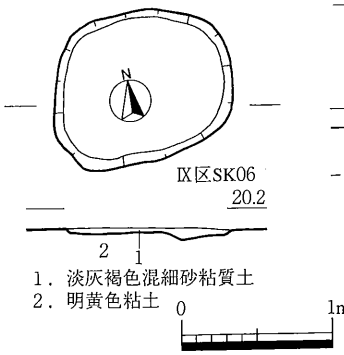
Ｅ９区画に位置する。やや不定形で深い土坑である。遺物は出土していない。

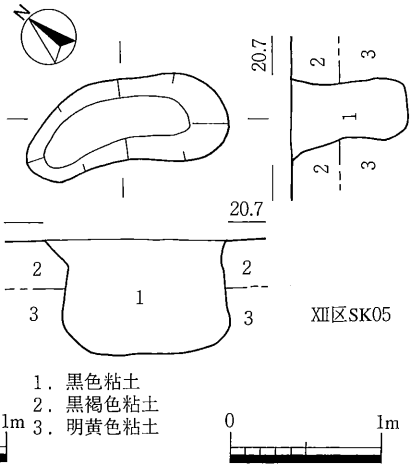


Ⅻ区ＳＫ06（第212図）

Ｅ８区画に位置する。上記のＳＫ05同様やや不定形で深い土坑である。遺物は出土していない。







第211図　東②区SB01・Ⅷ区SA01・Ⅸ区SK06・Ⅻ区SK05平・断面図(1/50,1/100)及び出土石器(1/2)

東①区ＳＫ01（第212図）

Ｊ８区画に位置する。埋土はブロック状の堆積で，遺物は磨滅した弥生土器小片が１片出土している。弥生時代の包含層を掘り込んで作られている。

東①区ＳＫ02（第212図）

Ｊ９区画に位置する。出土遺物は無い。弥生時代の包含層を掘り込んで作られている。

東①区ＳＫ04（第212図）

Ｊ11区画に位置する。出土遺物は無い。弥生時代の包含層を掘り込んで作られている。

西②区ＳＫ03（第212図）

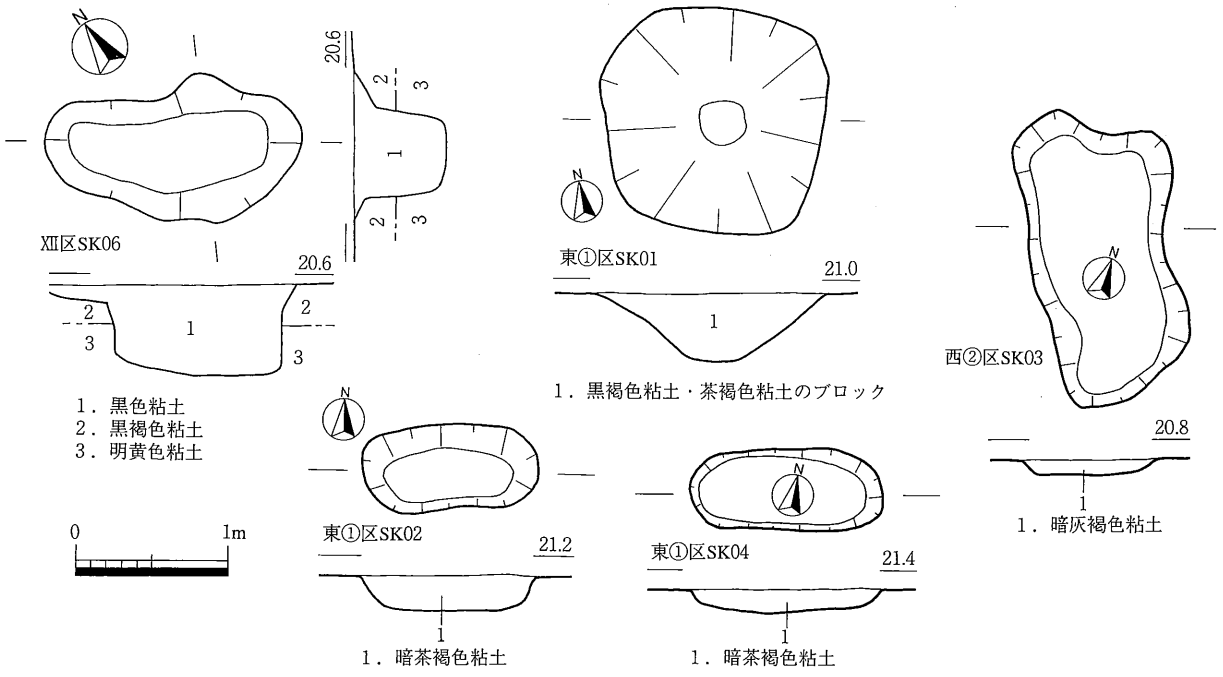
Ｂ11区画に位置する。第２遺構面で検出した。西②区ＳＤ06と同じ埋土である。遺物は出土していない。

西②区ＳＫ07

Ｂ12区画に位置する。第２遺構面で検出した。長さ1.75ｍ，幅0.65ｍ，深さ15㎝程度である。遺物は出土していない。埋土は，暗茶褐色粘土である。

西②区ＳＫ08

Ｂ12区画に位置する。第２遺構面で検出した。長さ2.75ｍ，幅1.25ｍ，深さ10㎝程度である。遺物は出土していない。埋土は暗茶褐色粘土で，西②区ＳＫ07と同じ埋土である。



第212図　XII区SK06･東①区SK01･02･04･西②区SK03平･断面図(1/50)

西③区ＳＫ01（第213図）

Ｂ２区画に位置する。第１遺構面で検出した。遺物は，磨滅した弥生土器及び須恵器の杯が少量出土している。2799は磨滅ある石器である。

西③区ＳＫ02（第213図）

Ｂ２区画に位置する。第１遺構面で検出した。遺物は，磨滅した弥生土器及び土師器が少量出土している。

西③区ＳＫ03・04（第213図）

Ｂ２区画に位置する。第１遺構面で検出した。遺物は，磨滅した弥生土器小片が数片出土している。ＳＫ04は，深さ10cm程度である。

西③区ＳＫ05（第213図）

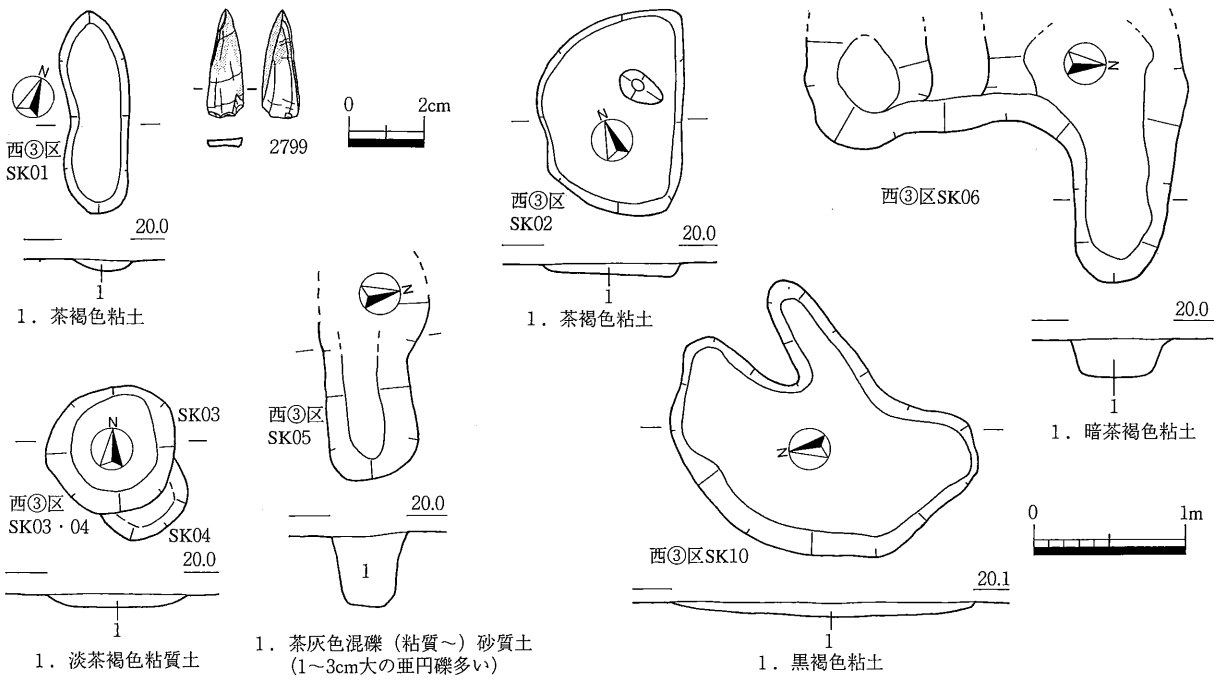
Ｂ３区画に位置する。第１遺構面で検出した。遺物は出土していない。

西③区ＳＫ06（第213図）

Ｂ３区画に位置する。第１遺構面で検出した。不定形な平面形である。遺物は出土していない。

西③区ＳＫ10（第213図）

Ｂ４区画に位置する。第１遺構面で検出した。不定形な平面形である。弥生土器の小片数点出土している。



第213図　西③区SK01・02・03・04・05・06・10平・断面図(1/50)及び出土石器(1/2)

西③区ＳＫ11（第214図）

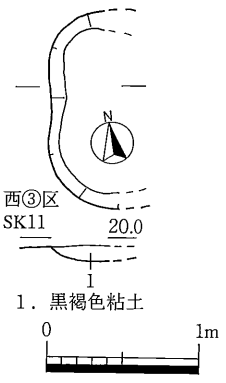
Ｂ４区画に位置する。第１遺構面で検出した。弥生土器の小片が数点出土している。

西③区ＳＫ13（第214図）

Ｂ３区画に位置する。第１遺構面で検出した。遺物は出土していない。

Ａ２区ＳＫ01（第214図）

Ｉ２区画に位置する。調査区北壁及び東壁に遺構の断面が確認できるが，調査区西壁面の断面の記録が不十分なため，溝か土坑かは確定はできない。ただ，埋土がブロック状になっており，底面に流水痕跡が無いこと，溝とすれば方向が南西から北東方向となるが，この延長で調査した文化行政課のトレンチでは溝の延長が観察されていないことなどから，土坑と判断した。



不明遺構

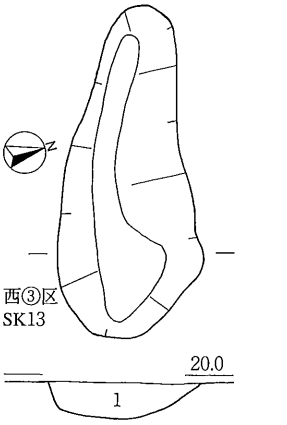
東①区ＳＸ01

Ｊ10区画に位置する。深さ20cm程度である。埋土は茶褐色粘土で，弥生土器２片が出土している。当調査区外ではその延長を確認していない。

溝跡

Ⅻ区ＳＤ19

Ｅ７・Ｅ８区画に位置する。深さ10cm程度の浅い溝である。埋土は黒褐色粘土である。遺物は出土してない。

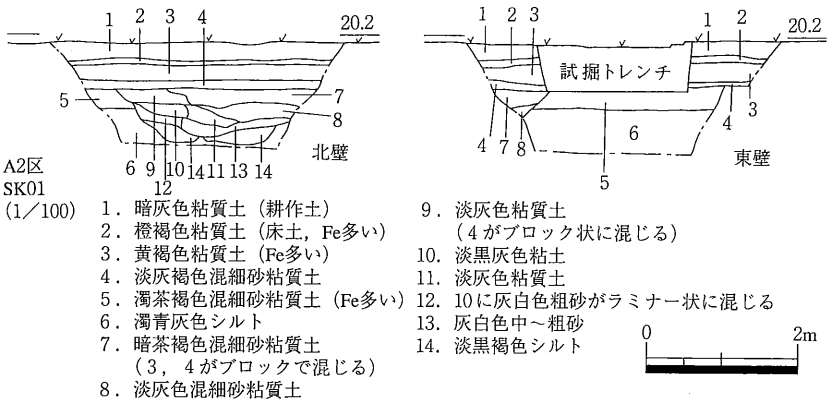


東①区ＳＤ04

Ｊ11区画に位置する。幅20cm，深さ２cm程度の小溝である。当調査区外ではその延長が確認されていない。出土遺物は無い。埋土は黄灰色混細砂粘質土である。

東①区ＳＤ05

Ｊ10区画に位置する。深さ５cm程度である。埋土は暗茶褐色粘土で，出土遺物は無い。当調査区外ではその延長が確認されていない。



1．暗灰色粘質土（耕作土）
2．橙褐色粘質土（床土，Fe多い）
3．黄褐色粘質土（Fe多い）
4．淡灰褐色混細砂粘質土
5．濁茶褐色混細砂粘質土（Fe多い）
6．濁青灰色シルト
7．暗茶褐色混細砂粘質土
（3，4がブロックで混じる）
8．淡灰色混細砂粘質土
9．淡灰色粘質土
（4がブロック状に混じる）
10．淡黒灰色粘土
11．淡灰色粘質土
12．10に灰白色粗砂がラミナー状に混じる
13．灰白色中～粗砂
14．淡黒褐色シルト

第214図　西③区SK11･13･A2区SK01平･断面図(1/50,1/100)

東①区ＳＤ06

Ｊ９区画に位置する。深さ５cm程度である。埋土は暗茶褐色粘土である。弥生土器破片少量が出土している。当調査区外ではその延長は確認されていない。

東①区ＳＤ07・09

Ｊ９区画に位置する。ＳＤ07は，深さ10cm程度である。埋土は暗茶褐色粘土で，弥生土器が1/2袋程度出土している。ＳＤ09はＳＤ10より古い。深さ８cm程度である。埋土は茶褐色粘土で，遺物は出土してない。当調査区外への延長については，ＳＤ09は確認されていないが，ＳＤ07については，当遺跡の東側に位置する日暮・松林遺跡のＳＤ41がほぼその延長上に位置するが，埋土が大きく異なるため，同じ溝とは判断しがたい。なお，ＳＤ41は中世から近世の時期とされている。

東①区ＳＤ10・11（第215図）

Ｊ10区画に位置する。ＳＤ10はＳＤ11より古く，幅30cm，深さ７cm程度である。埋土は暗茶褐色粘土である。ＳＤ11は，幅20cm，深さ11cm程度である。埋土は茶褐色粘土である。いずれも，遺物は出土していない上，当調査区外ではその延長は確認されていない。

西②区ＳＫ09（第215図）

Ｂ９区画に位置する。第２遺構面で検出した。出土遺物は無い。調査区東壁断面図から判断すると土坑とするよりは溝跡とした方がよいと考える。

西②区ＳＤ06（第215図）

Ｂ11区画に位置する。第２遺構面で検出した。弥生土器の小片が数片出土している。Ｂ２区ＳＤ01につながる可能性もある。

西②区ＳＤ08

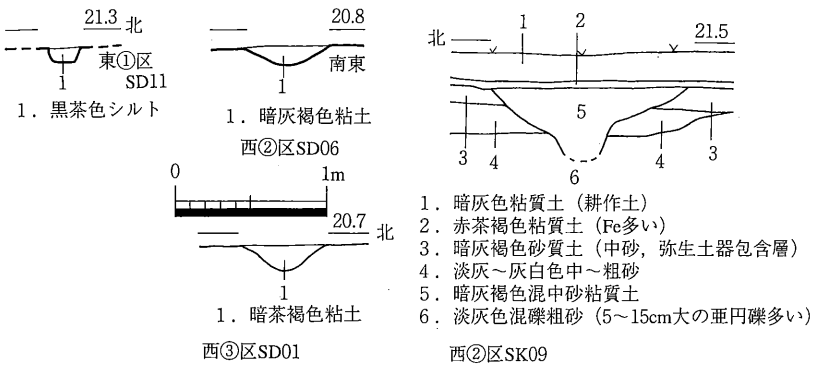
Ｂ11区画に位置する。第２遺構面で検出した。深さ10cm程度である。遺物は出土していない。埋土は暗茶褐色粘土で，西②区ＳＫ07・08と同じ埋土である。

西③区ＳＤ01（第215図）

Ｂ６区画に位置する。第１遺構面で検出した。遺物は，弥生土器の小片が２片出土している。

西③区ＳＤ02（第216図）

Ｂ５区画に位置する。第１遺構面で検出した。遺物は磨滅した弥生土器，土師器及び須恵器の小片が少量出土している。



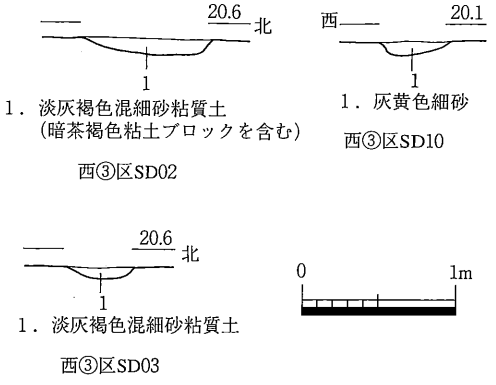
第215図　東①区SD11・西②区SK09・SD06・西③区SD01断面図(1/50)

西③区ＳＤ03（第216図）

Ｂ５区画に位置する。第１遺構面で検出した。遺物は弥生土器，土師器及び須恵器の小片が数片出土している。

西③区ＳＤ10（第216図）

Ｂ３区画に位置する。第１遺構面で検出した。西③区ＳＤ08より古いことから，中世以前と考えられるが，遺物が出土していないので詳細な時期は不明である。



第216図　西③区SD02･03･10断面図（1/50）

10　包含層等出土の遺物（第217～223図）

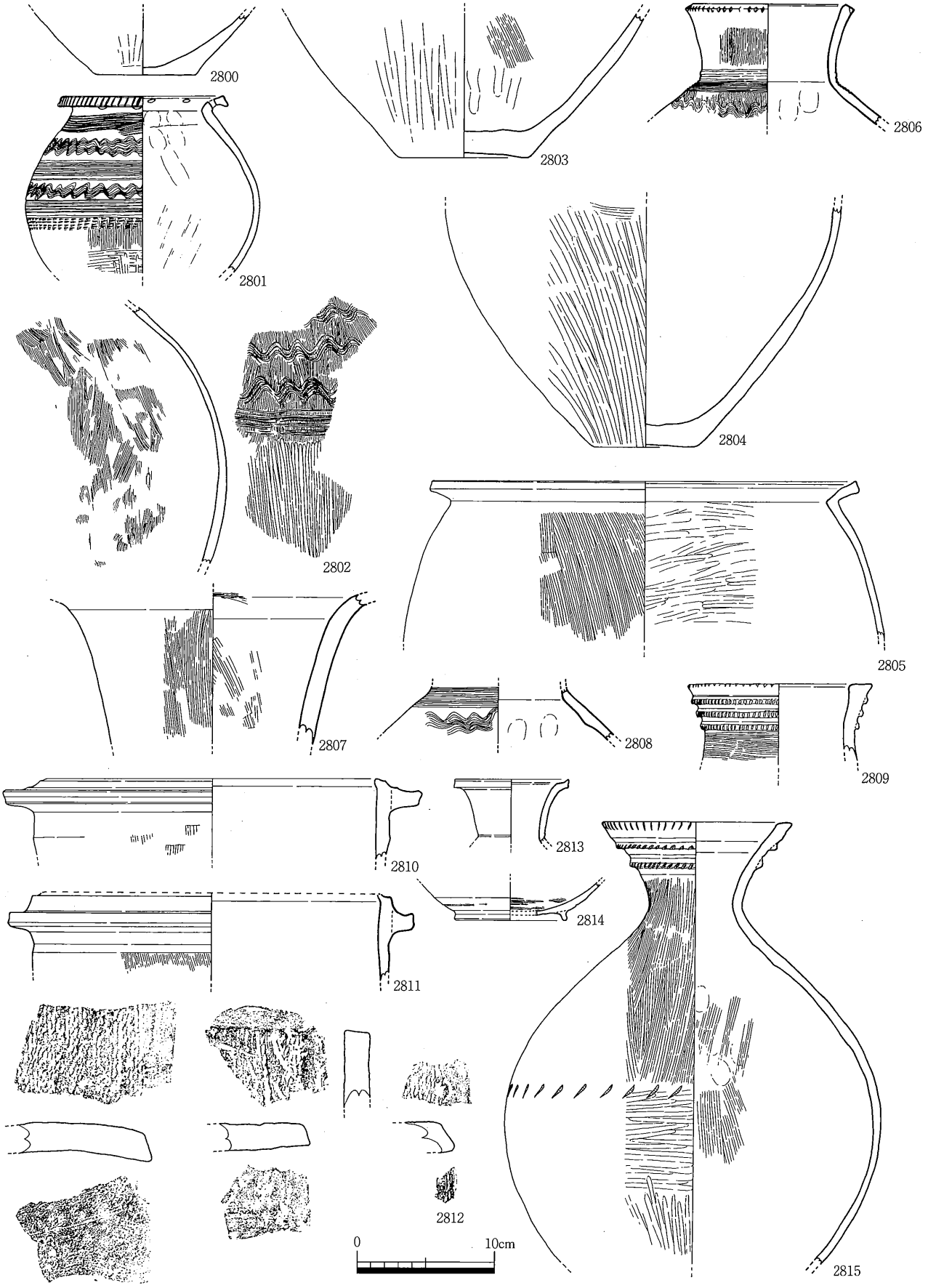
ここでは，建物を構成しないピットから出土した遺物，包含層から出土した遺物及び出土位置不明の遺物を掲載する。出土位置についての詳細は後の観察表を参照されたい。

2800はピットから出土した土器である。

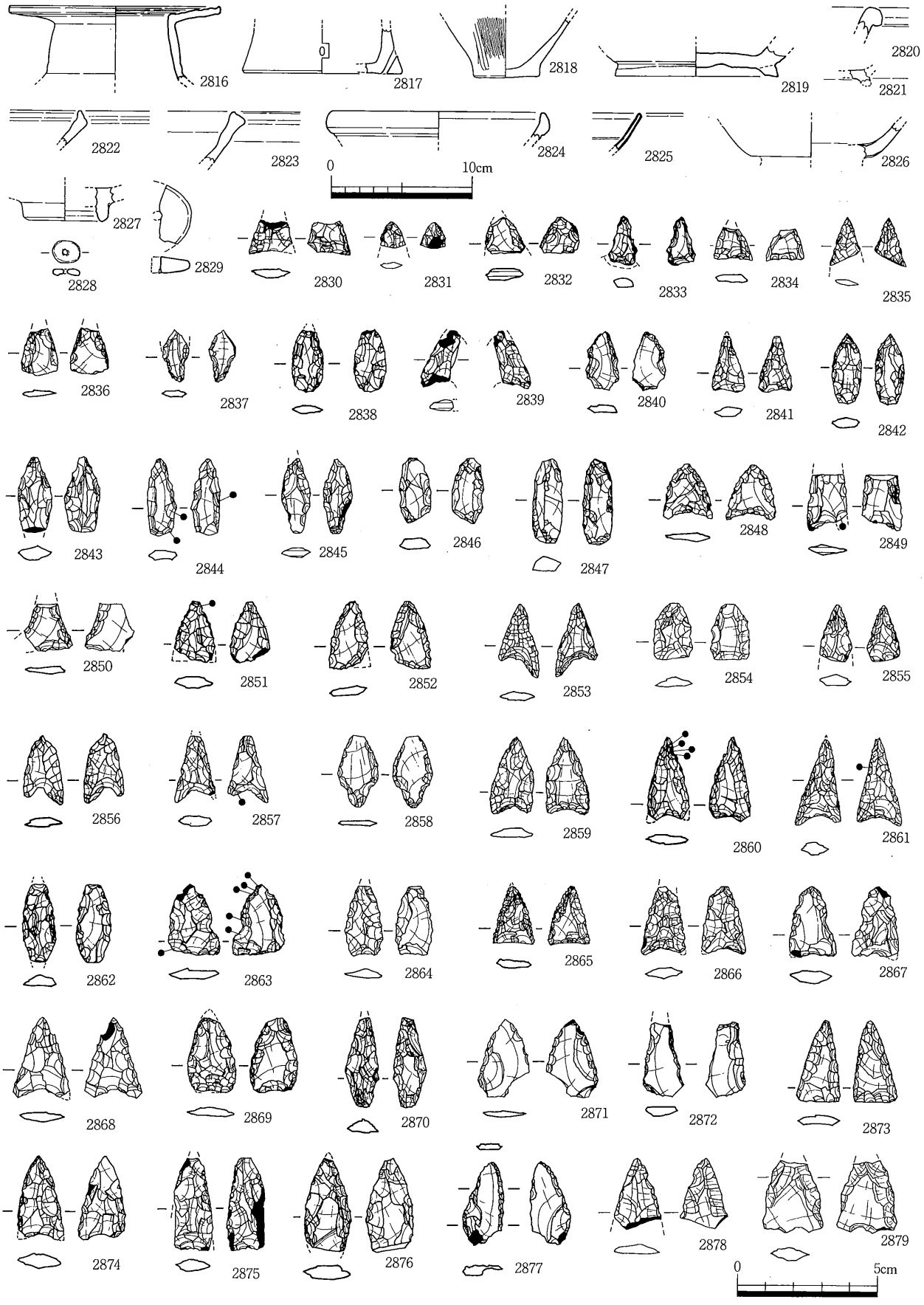
2801～2819は予備調査のトレンチから出土した土器である。2801～2807は西③区ＳＲ01に続くと考えれる予備調査１Tr.の川跡埋土から出土した土器である。2801は５Tr.出土のものと接合した。2808は予備調査17Tr.の川跡から出土したもので，Ⅰ・Ⅴ区ＳＲ02の延長と考えられる。2809は予備調査19Tr.の包含層から出土した土器である。2810～2812は予備調査23Tr.から出土したもので，2810・2811はⅥ区ＳＲ01に対応する層から出土した土師器の羽釜である。2812は溝跡出土の瓦であるが，Ⅵ区の溝跡のどれに対応するものかは不明である。凸面には縄目のタタキが見られ，凹面及び側面はヘラケズリ調整である。胎土には粗砂を多く含む。にぶい黄褐色を呈する。2813・2814は予備調査27Tr.から出土したもので，Ａ５区ＳＲ01のＡあるいはＢ層に対応する層からの出土と考えられる。2813は須恵器で，2814は黒色土器Ａ類椀である。

2815～2829は包含層出土の土器である。2815～2818は弥生土器である。2819・2820は須恵器である。2821は緑釉陶器である。2822・2823は東播系須恵器鉢である。2824は中国産白磁椀である。2825～2827は中国産青磁椀である。2828・2829は土製紡錘車で，2828は土器片利用である。

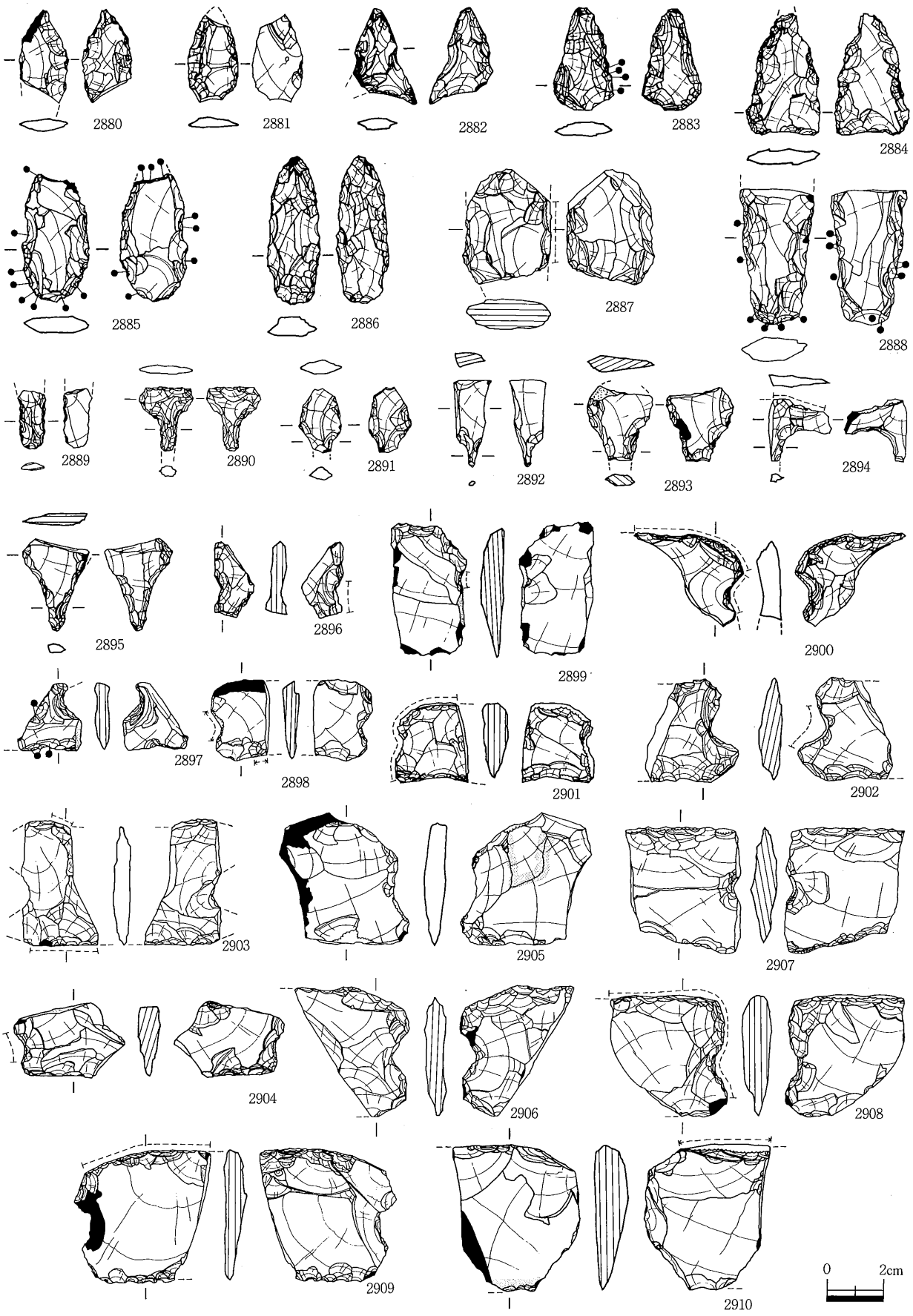
2830～2976は石器である。2830～2886は石鏃である。2840は未製品と考えられる。2887・2888は石槍である。2889～2895は石錐である。2896～2912は打製石庖丁である。2913～2940はスクレイパーとした。2939は縦長の剥片を利用している。2940は斜方輝石安山岩を利用している。2941は打製石斧とした。2942～2970は楔形石器である。2942は小型であり，石鏃の可能性もある。2968は全体的に風化が進んでいる。2971は縦長の剥片であるが，楔形石器の削片かもしれない。2972は二次加工ある石器である。2973は石核と考えられる。2974は粘板岩製の磨製石庖丁である。2975は結晶片岩製の柱状片刃石斧あるいは扁平片刃石斧である。2976は結晶片岩製の柱状片刃石斧である。



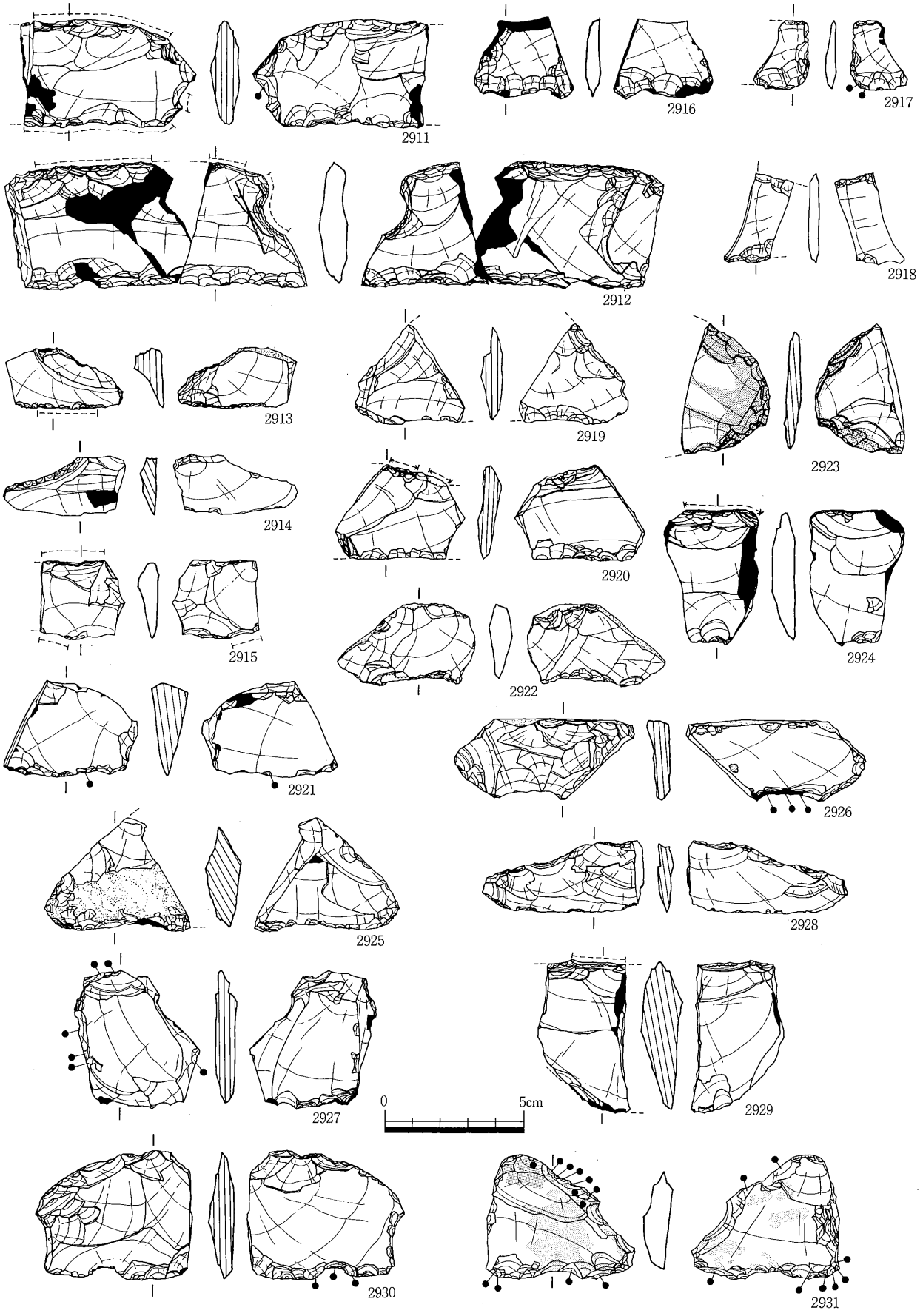
第217図　包含層等出土土器(1)·瓦(1/4)



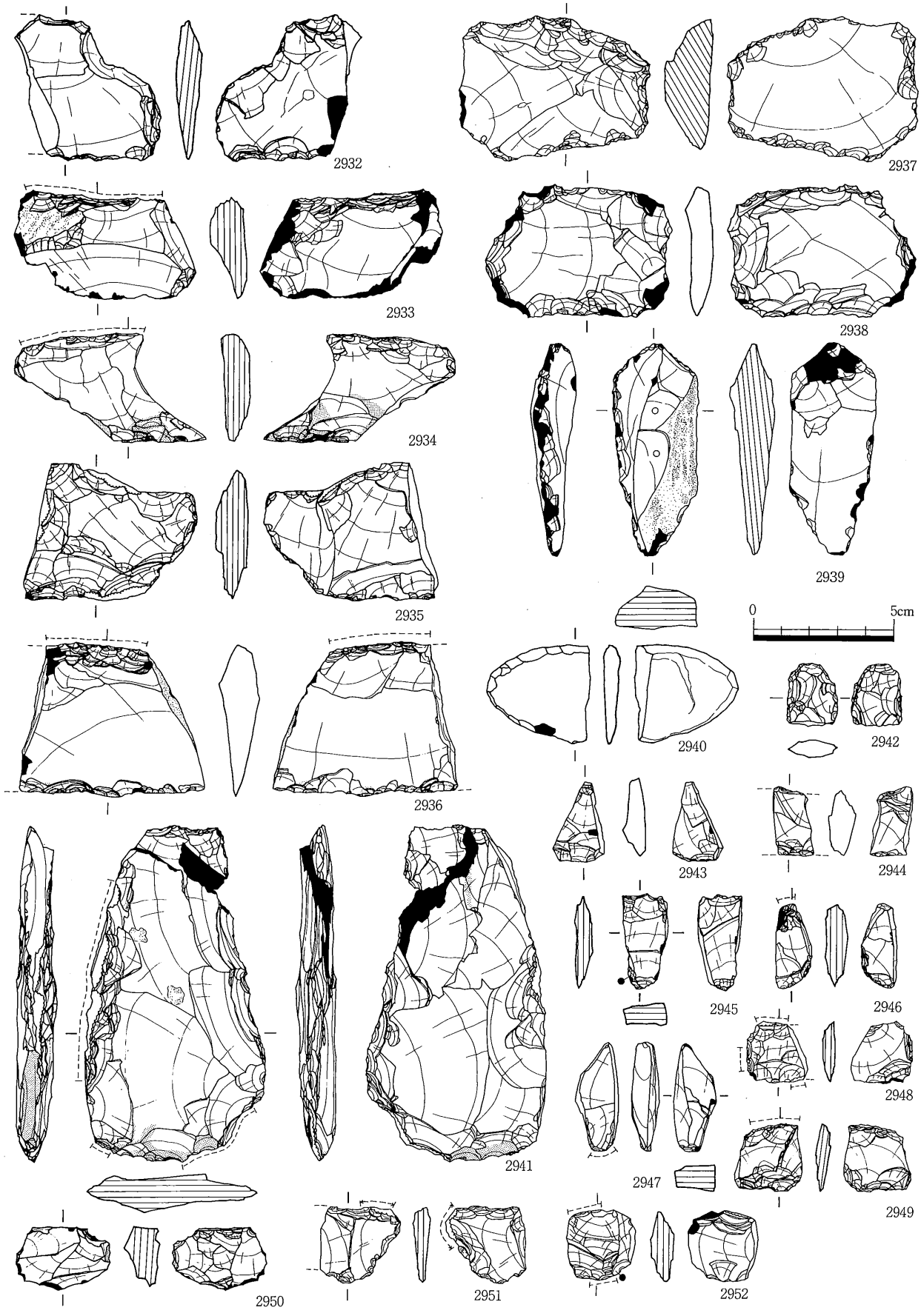
第218図　包含層等出土土器(2)(1/4)・石器(1)(1/2)



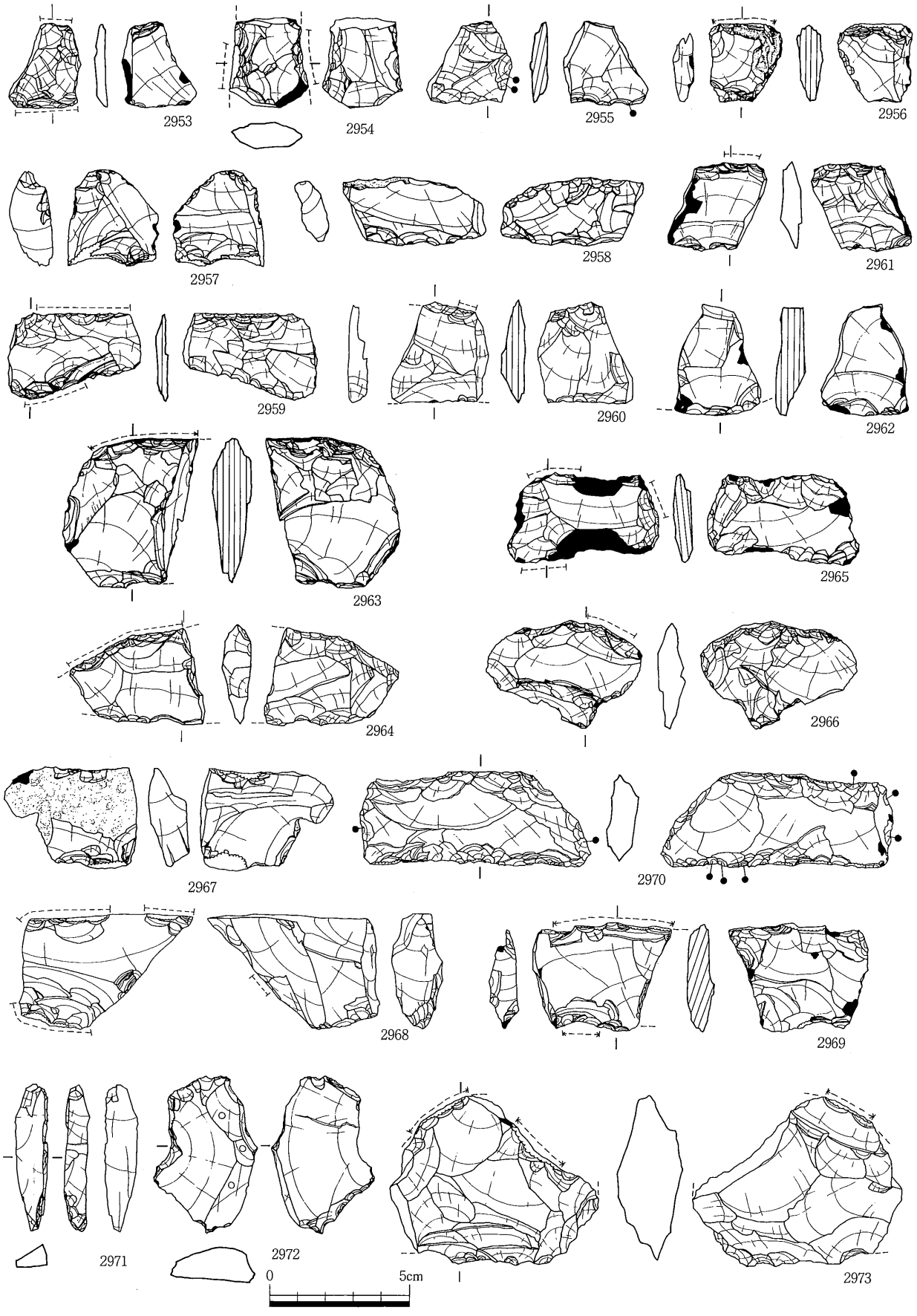
第219図　包含層等出土石器(2)(1/2)



第220図　包含層等出土石器(3)(1/2)



第221図　包含層等出土石器(4)(1/2)

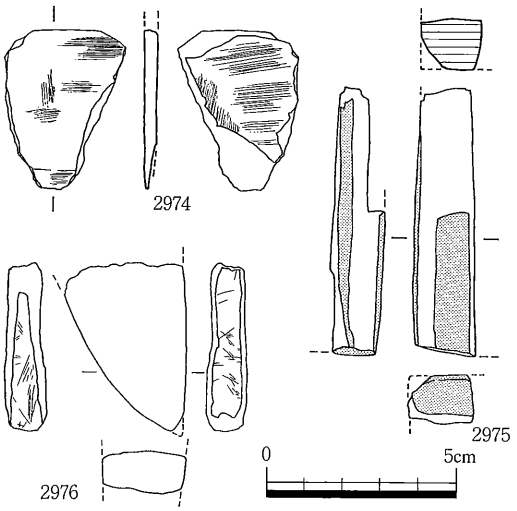


第222図　包含層等出土石器(5)(1/2)

第４章　自然科学調査の成果

第１節　香川県、多肥松林遺跡におけるプラント・オパール分析

古環境研究所



第223図　包含層等出土石器(6)(1/2)

１．はじめに

植物珪酸体は，ガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が植物の細胞内に蓄積したものであり，植物が枯死した後も微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。この微化石は植物によりそれぞれ固有の形態的特徴を持っていることから，これを土壌中より検出してその組成や量を明らかにすることで過去の植生環境の復原に役立てることができる。プラント・オパール（植物珪酸体）分析と呼ばれるこの方法は，とくに埋蔵水田跡の確認や探査において極めて有効であり，これまでに多くの実績をあげている。

さて，多肥松林遺跡の発掘調査では土層断面の観察等により，複数の土層において稲作跡の可能性が推定された。そこで，プラント・オパール分析を用いて，これらの層における稲作跡の探査を試みた。

２．試料

調査地点は，Ⅶ区中央畦とⅧ区北壁の２地点である。層名は各地点において層相の変化ごとに付けられた番号であり，地点間の対応関係を示すものではない。各地点の地質層序と分析試料の採取箇所は以下のとおりである。

(1)　Ⅶ区中央畦

本地点の土層は上位より１層～12層に分層された。１層は層厚35cmの現耕作土，２層は１層の床土とみられる層厚８cmの橙褐色粘質土，３層は層厚10cmの黄褐色粘質土，４層は中世に堆積したとみられる層厚10cmの白茶色シルト，５層はこれも中世に堆積したとみられる層厚43cmの茶色シルト，６層は層厚13cmの黄灰茶色シルト，７層は調査断面の東側に堆積する層厚10cmの淡黒褐色粘土，８層は弥生時代中期～後期の推積層で調査断面中央から西側に堆積する層厚20cmの灰茶色シルト，９層はこれも調査断面中央から西側に堆積する層厚30cmの灰黒色シルト，10層は厚い所で層厚80cm，薄い所で層厚30cmを計る暗灰色シルト，11層は層厚20cm～50cmの暗灰色シルト，12層は一部に認められる層厚15cmの灰色砂である。分析試料は１層～８層において採取された。

(2)　Ⅷ区北壁

本地点の土層は上位より１層～９層に分層された。１層は層厚13cmの現耕作土，２層は層厚５cmの旧耕作土，３層は２層の床土とみられる層厚５cmの淡灰黄色粘質土，４層は層厚８cmの黄褐色粘質土，５

層は北壁断面では中央部にのみ堆積する層厚３㎝の黄色粘質土，６層は層厚22㎝の淡茶灰色混細砂粘質土，７層は層厚18㎝の黒褐色粘土，８層は地山，９層は調査断面西端に堆積する層厚15㎝で４層に７層がブロック状に混じる土層である。分析試料は１層～７層において採取された。

第224図に，各地点の土層断面図と分析試料の採取箇所を示す。

３．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は，「プラント・オパール定量分析法（藤原，1976)」をもとに，次の手順で行った。

１）試料土の絶乾（105℃・24時間)，仮比重測定

２）試料土約１gを秤量，ガラスビーズ添加（直径約40μm，約0.02g)

※電子分析天秤により１万分の１gの精度で秤量

３）電気炉灰化法による脱有機物処理

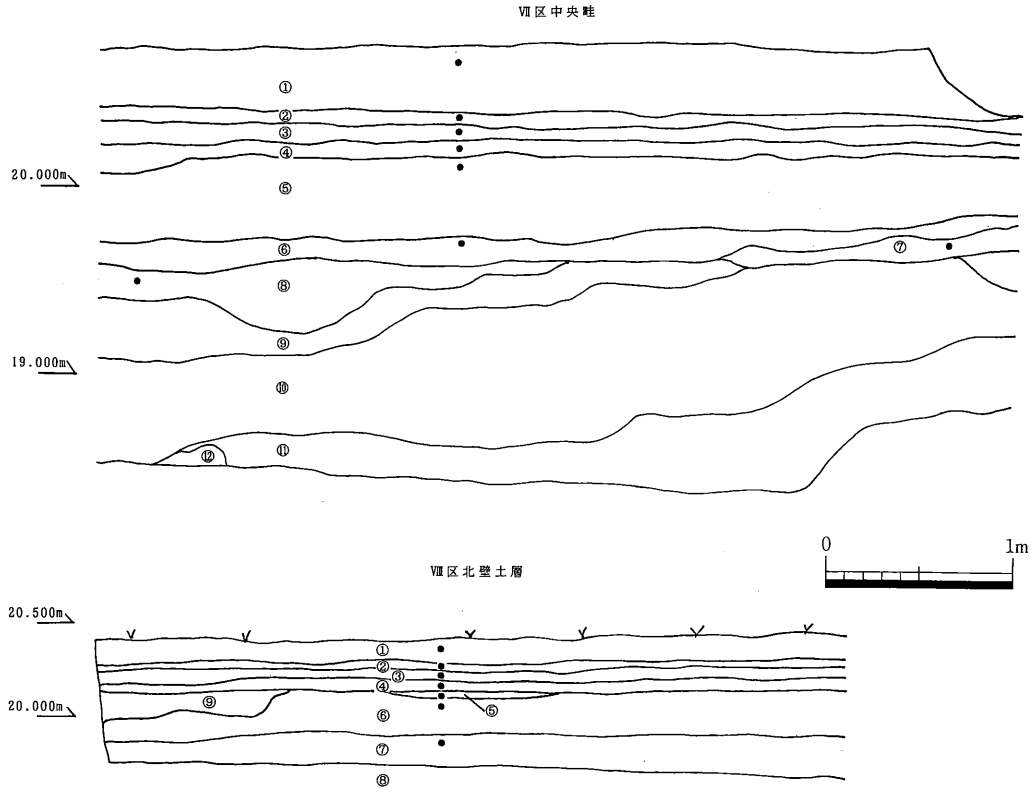
４）超音波による分散（300W・42KHz・10分間）

５）沈底法による微粒子（20μm以下）除去，乾燥

６）封入剤（オイキット）中に分散，プレパラート作成

７）検鏡・計数

検鏡は，おもに機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパール（以下，プラント・オパールと略す）



第224図　土層断面図と分析試料の採取箇所

を同定の対象とし，偏光顕微鏡（100～400倍）下で行った。なお，稲作跡の探査が主目的であるため，同定および定量は，イネ，ヨシ属，タケ亜科，ウシクサ族（ススキやチガヤなどが含まれる），キビ族（ヒエなどが含まれる）の主要な5分類群に限定した。計数は，ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は，計数値を試料1g中のプラント・オパール個数（試料1gあたりのガラスビーズ個数に，計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また，この値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重，単位：10^{-5}g）を乗じて，単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出し図示した。換算係数は，イネは赤米，ヨシ属はヨシ，タケ亜科はゴキダケの値を用いた。その値は，それぞれ2.94（種実重は1.03），6.31，0.48である（杉山・藤原，1987）。

4．分析結果

試料1g中のプラント・オパール個数を第3表に示す。なお，イネに関してはダイアグラムにして第

Ⅶ区中央畦－1地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個／g	(籾総量) t／10a	ヨシ属 個／g	タケ亜科 個／g	ウシクサ族 個／g	キビ族 個／g
1－1	0	18	1.40	13,100	34.30	700	20,500	1,400	0
1－2	18	18	1.00	5,900	11.01	700	46,000	2,200	0
2	36	7	1.57	8,400	9.58	0	32,400	1,400	0
3	43	7	1.61	9,300	10.89	0	38,900	2,800	0
4	50	10	1.62	5,700	9.66	700	33,200	700	0
5－1	60	11	1.49	3,400	5.79	0	28,000	1,300	0
5－2	71	11	1.00	7,400	8.49	1,400	20,900	1,400	0
5－3	82	10	1.00	5,000	5.17	700	26,500	700	0
5－4	92	10	1.00	2,700	2.79	600	27,700	2,700	0
6	102	13	1.55	2,100	4.43	700	39,700	1,400	0
8－1	115	9	1.40	3,300	4.32	600	27,200	1,300	0
8－2	124	9	1.00	4,300	4.00	2,100	25,800	700	0

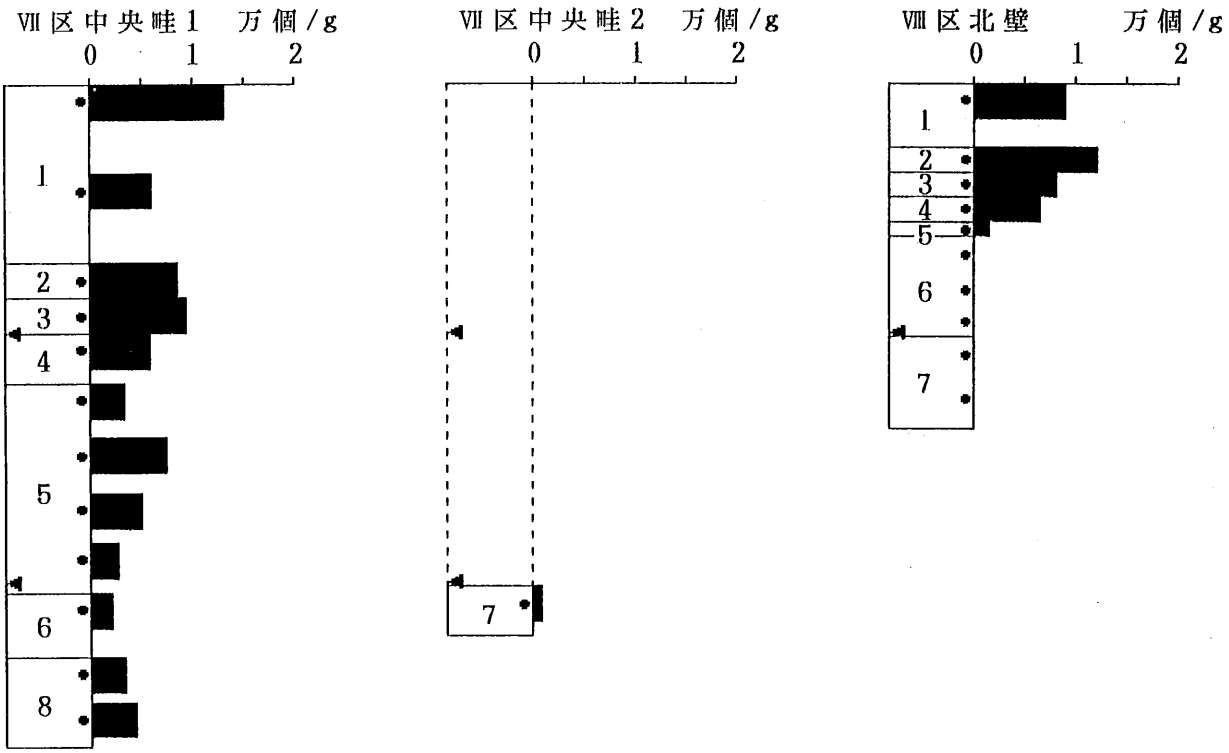
Ⅶ区中央畦－2地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個／g	(籾総量) t／10a	ヨシ属 個／g	タケ亜科 個／g	ウシクサ族 個／g	キビ族 個／g
7	101	10	1.46	700	1.14	1,500	22,600	0	0

Ⅷ区北壁地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個／g	(籾総量) t／10a	ヨシ属 個／g	タケ亜科 個／g	ウシクサ族 個／g	キビ族 個／g
1	0	13	1.00	8,900	11.93	2,900	20,000	1,400	0
2	13	5	1.00	12,000	6.19	700	19,000	700	0
3	18	5	1.00	8,000	4.16	0	37,400	0	0
4	23	5	1.00	6,400	3.32	600	20,600	1,200	0
5	28	3	1.00	1,400	0.46	700	9,600	700	0
6－1	31	7	1.58	0	0.00	0	10,900	0	0
6－2	38	7	1.00	0	0.00	0	11,000	0	0
6－3	45	6	1.00	0	0.00	0	11,100	0	0
7－1	51	9	1.39	0	0.00	0	23,600	3,000	0
7－2	60	9	1.00	0	0.00	700	13,100	2,100	0

第3表　プラント・オパール分析結果



（注）◀印は50cmスケール，●印は分析試料の採取箇所

第225図　イネのプラント・オパールの検出状況

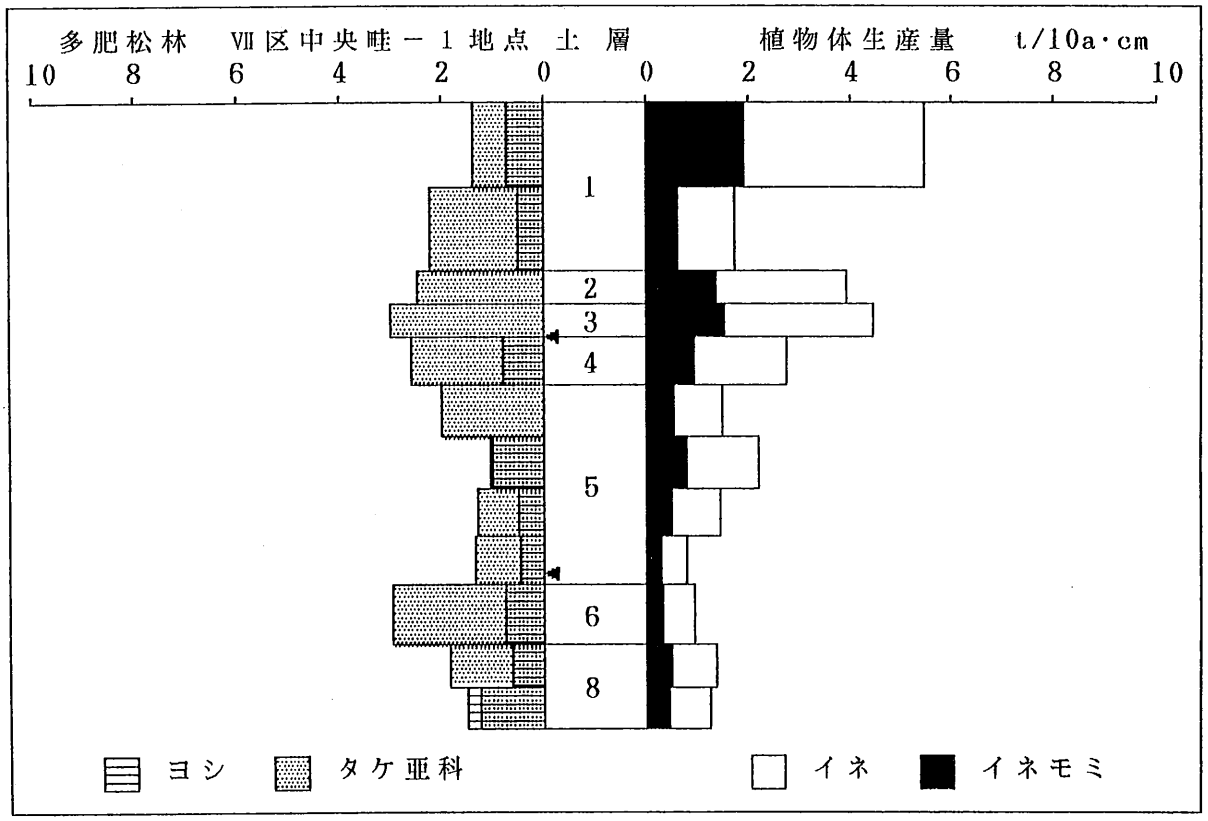
225図に示した。また，各植物の推定生産量と変遷について第226・227図に示した。巻末に主な分類群の顕微鏡写真（図版168）を示した。

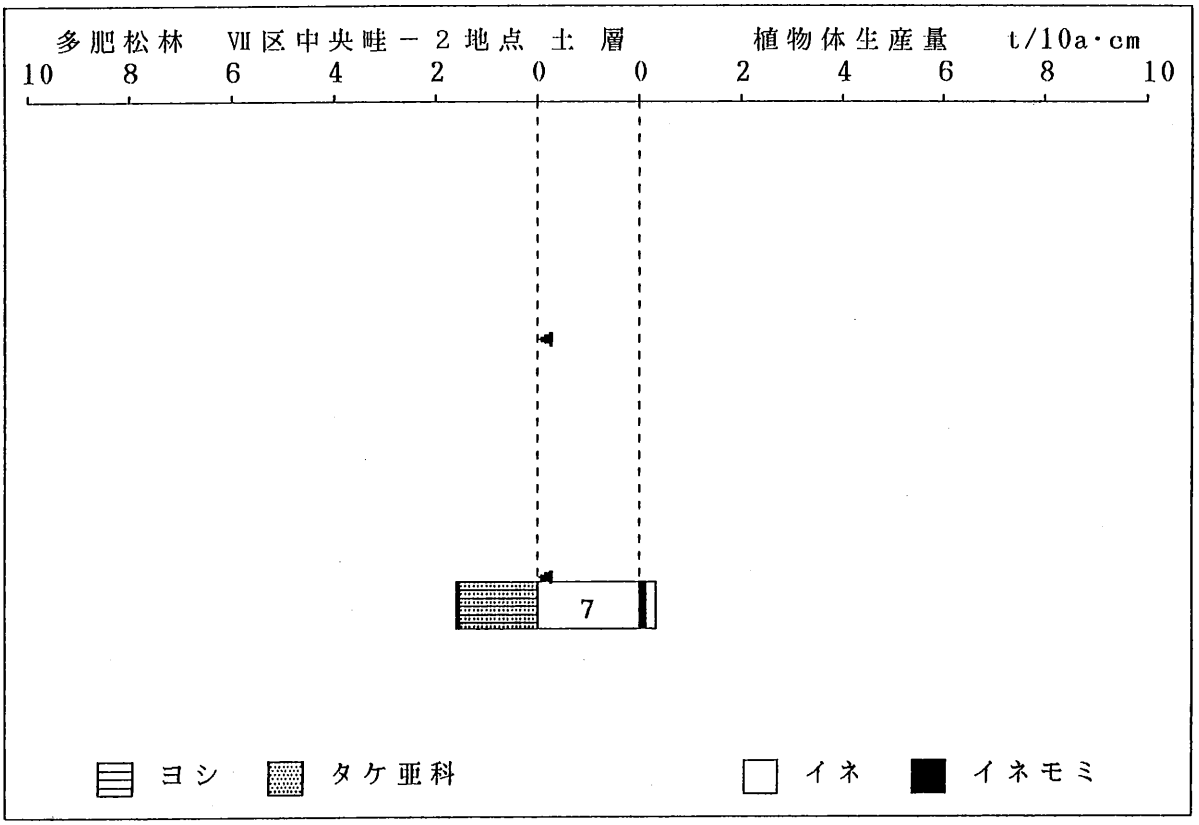
(1)　Ⅶ区中央畦

本地点では，１層～８層について分析を行った。その結果，イネは，すべての層から検出された。このうち，１層，２層，３層，４層，５層の各層については高い密度である。ヨシ属は，２層と３層を除く各層から検出されたがいずれも低い密度である。タケ亜科は，すべての層から高い密度で検出された。ウシクサ族は，７層を除く各層から検出されたがいずれも低い密度である。キビ族は検出されなかった。

(2)　Ⅷ区北壁

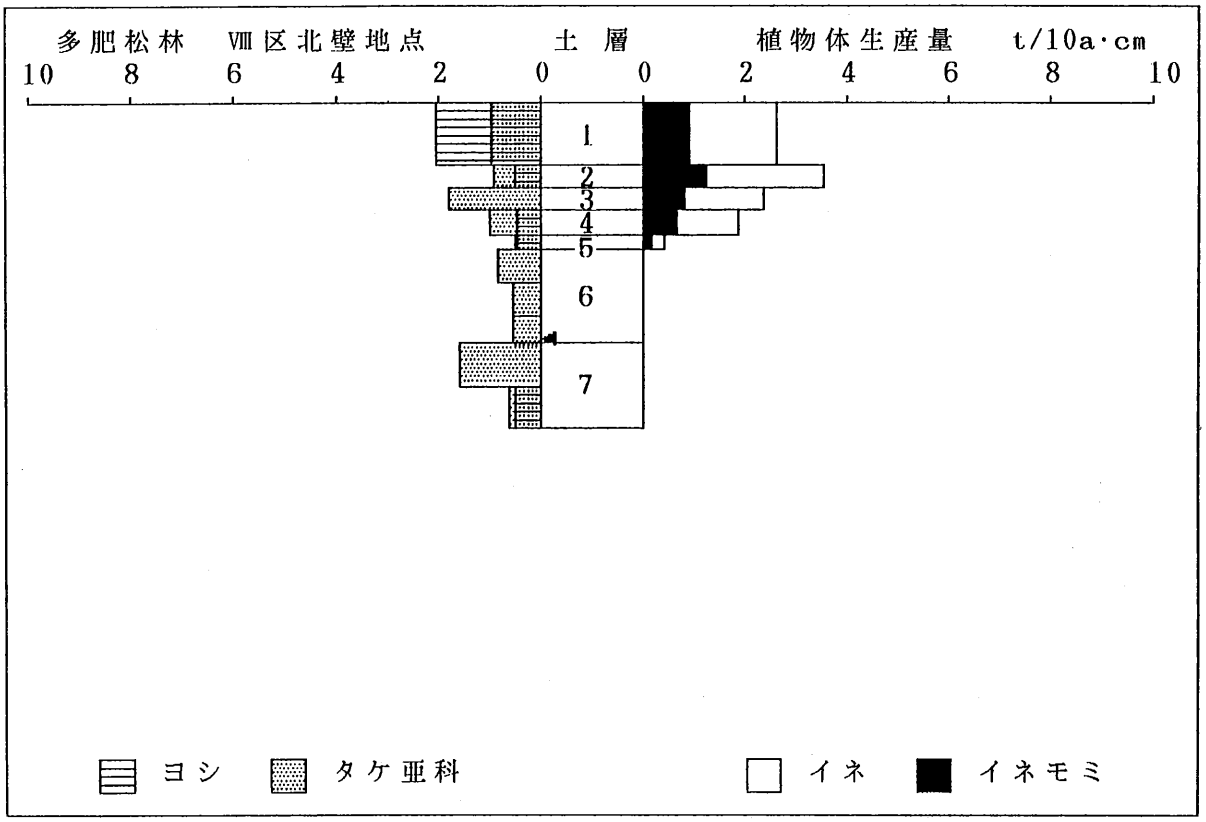
本地点では，１層～７層について分析を行った。その結果，イネは，１層，２層，３層，４層，５層の各層から検出された。このうち，５層を除くといずれも高い密度である。ヨシ属は，３層と６層を除く各層から検出されたがいずれも低い密度である。タケ亜科は，すべての試料から高い密度で検出された。ウシクサ族は，３層と６層を除く各層から検出された。このうち，７層上部では比較的高い密度である。キビ族は検出されなかった。





（注）◀印は50cmスケール

第226図　おもな植物の推定生産量と変遷(1)



(注) ◀印は50cmスケール

第227図　おもな植物の推定生産量と変遷(2)

5．考察

(1) 稲作の可能性について

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合，一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ5,000個以上と高い密度で検出された場合に，そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。また，その層にプラント・オパール密度のピークが認められれば，上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり，その層で稲作が行われていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて，各地点ごとに稲作の可能性について検討を行った。

1）Ⅶ区中央畦

本地点では，分析を行ったすべての層からイネのプラント・オパールが検出された。このうち，1層と2層において検出されたプラント・オパールは現在もしくは比較的最近の水田耕作によるものと考えられる。3層以下の層では，6層と7層を除けばいずれも高い密度である。したがって，これらの層で稲作が行われていた可能性は高いと考えられる。このうち，3層，4層，5層では，密度が5,000個／g以上と高くそれぞれピークが認められることから，これらの層ではその可能性が極めて高いと考えられる。6層と7層については稲作が行われていた可能性は考えられるものの，上層もしくは他所からの混入の危険性も否定できない。

2）Ⅷ区北壁

本地点では，１層～５層においてイネのプラント・オパールが検出された。このうち，１層，２層，３層の各層において検出されたプラント・オパールは現在もしくは比較的最近の水田耕作によるものと考えられる。４層では，プラント・オパール密度が6,400個／gと判断基準値を大きく上廻っていることから，同層で稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。５層については密度が低いことから，上層もしくは他所からの混入の可能性が考えられる。

(2) 古環境の推定（第226・227図参照）

ネザサなどのタケ亜科植物は比較的乾いた土壌条件のところに生育し，ヨシは比較的湿った土壌条件のところに生育している。このことから，両者の出現傾向を比較することによって土層の堆積環境（乾湿）を推定することができる。

本遺跡では，全体にタケ亜科が卓越しており，ススキ属も見られるがヨシ属は少量である。タケ亜科やススキ属は比較的乾いた土壌条件を好むことから，本遺跡一帯は弥生時代以後ほぼ継続して比較的乾いた土壌環境で推移したものと推定される。

６．まとめ

多肥松林遺跡においてプラント・オパール分析を行い，稲作跡の探査を行った。その結果，Ⅶ区中央畦の３層，４層，５層，８層とⅧ区北壁の４層において稲作が行われていた可能性が高いと判断された。

参考文献

杉山真二・藤原宏志（1987）川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析．赤山－古環境編－．川口市遺跡調査会報告，10：281－298.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，９：15－29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17：73－85.

第２節　多肥松林遺跡の古植生復元

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

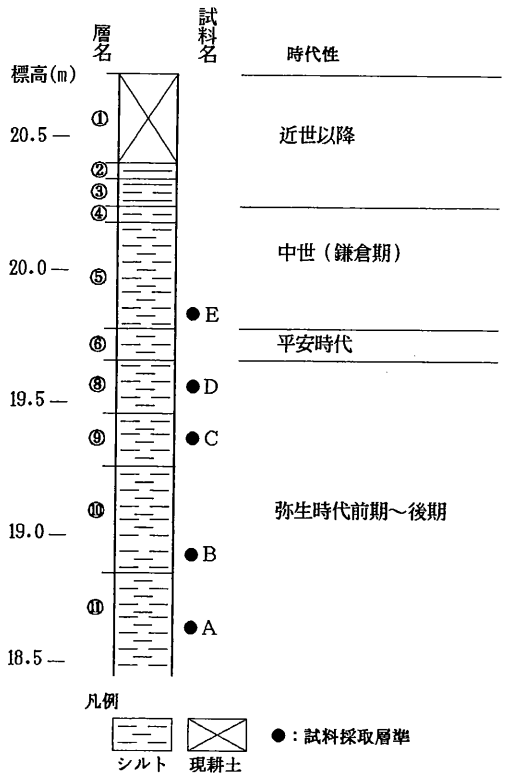
高松平野は，東端の屋島から西端の五色台にいたる，東西９km・南北８kmの扇状地性海岸平野であり，平野南部に多肥松林遺跡は位置する。本遺跡の発掘調査では，弥生時代前期～後期，平安時代，中世（鎌倉期），近世以降の遺物・遺構が検出されており，弥生時代から現代に至る人間活動の状況の一端が明らかにされつつある。

今回の分析調査では，弥生時代～中世における人間の活動の舞台であった遺跡周辺の古環境，とりわけ古植生に関する基礎資料を得ることを目的として，調査区内の堆積層を対象として花粉分析を行う。

1．試料

今回の分析調査は，Ⅶ区中央畦南面の断面について実施する。調査地点の堆積層の層相を模式柱状図として第228図に示す。

堆積層の層相は，下位より⑪層が上部に腐植が集積する暗灰色シルト，⑩層が暗灰色シルト，⑨層が灰黒色シルト，⑧層が灰茶色シルト，⑥層が黄灰茶色シルト，⑤層が茶色シルト，④層が白茶色シルト，③層が黄褐色粘質土，②層が橙褐色粘質土，①層が現耕作土である。このうち，上位の④層ではマンガン，③・②層では酸化鉄・マンガンが沈着している。これら堆積層の時代は，遺物の出土状況から次のように推定されている。⑪～⑧層が弥生時代前期～後期，⑥層が平安時代，⑤・④層が中世（鎌倉期），③～①層が近世～現代とされる。試料は，調査目的を考慮し，⑪・⑩・⑨・⑧・⑤層より層位試料として採取された５点（試料番号Ａ～Ｅ）である。



第228図　調査地点の層序および試料採取層準

2．分析方法

湿重約10gの試料について，水酸化カリウム（10％KOH）処理，重液分離（ZnBr2：比重2.3），フッ化水素（HF）処理，アセトリシス（硫酸１・無水酢酸９の混液）処理の物理・化学処理を施し，花粉・胞子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後，光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら出現する種類の同定・計数を行う。

結果は，同定・計数結果の一覧表と花粉化石群集の層位分布図として示す。分布図中の出現率は，木本花粉が木本花粉総数，草本花粉・シダ類胞子が不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお，●○は１％未満の出現，＋は花粉化石の保存が悪かった試料において出現した種類を示す。また，図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは，種類間の区別が現時点で困難なものである。

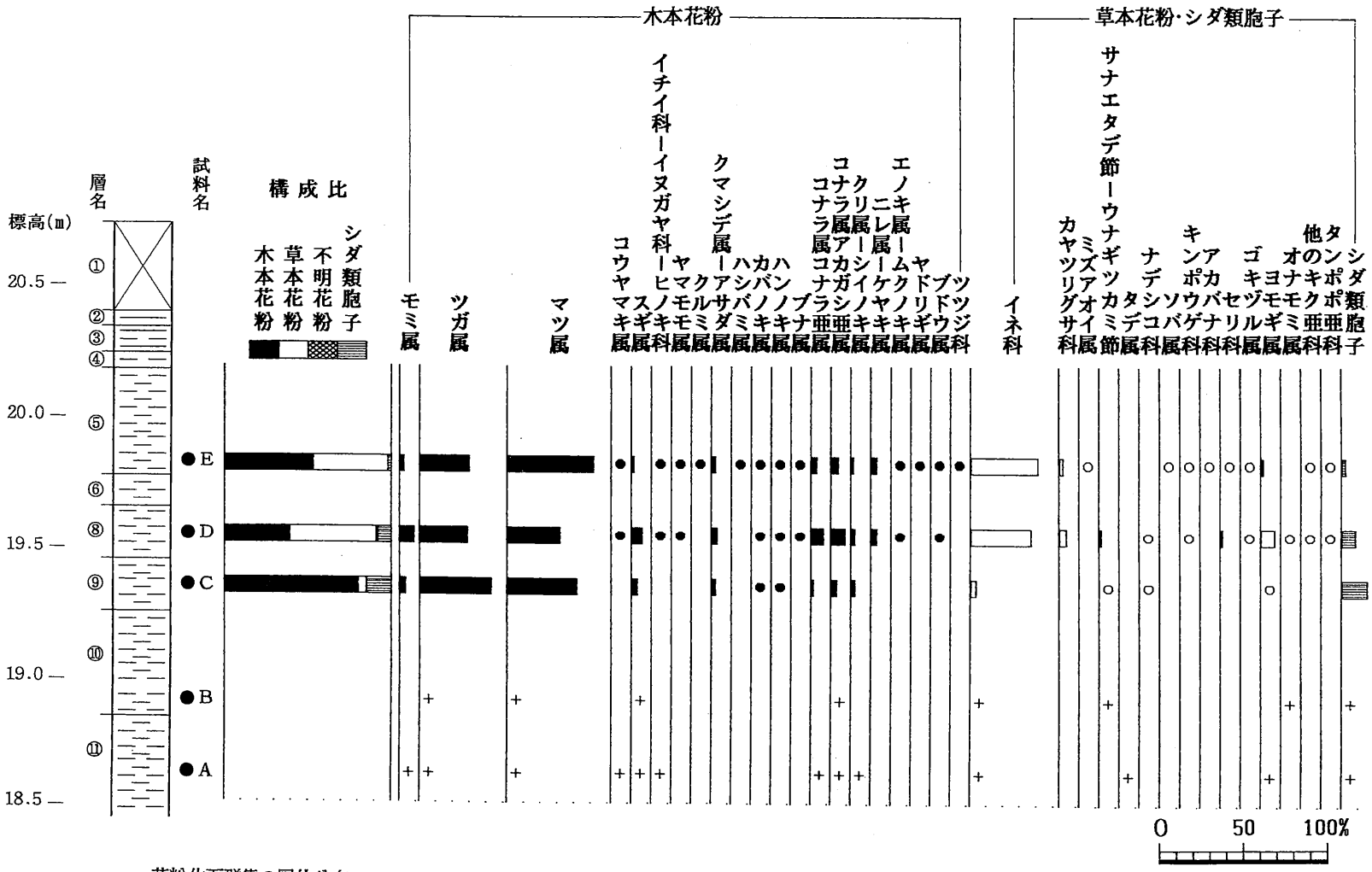
3．結果

結果を第４表・第229図に示す。分析を行った試料のうち，⑪層～⑧層（試料番号Ａ～Ｄ）では花粉化石の保存状態が悪い。とくに⑪層・⑩層（試料番号Ａ・Ｂ）では化石数も少なく，後述するような理由から統計的に扱うことを控える。花粉化石が比較的多産した層準の花粉化石群集について，以下に記載する。

⑨層（試料番号Ｃ）の花粉化石群集は，木本花粉が優占する。その中ではマツ属・ツガ属が高率に出現し，スギ属，クマシデ属－アサダ属，アカガシ亜属，コナラ亜属などを伴う。草本花粉ではイネ科，ヨモギ属などが低率に出現する。

種　類（Ｔａｘａ）	試料番号	Ｅ	Ｄ	Ｃ	Ｂ	Ａ
木　本　花　粉						
モミ属		１１	２５	5	－	5
ツガ属		１８２	８４	６１	4	２２
マツ属		３１５	９３	５９	2	２４
コウヤマキ属		2	1	－	－	1
スギ属		8	１８	4	1	4
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科		3	2	－	－	2
ヤマモモ属		1	1	－	－	－
クルミ属		1	－	－	－	－
クマシデ属－アサダ属		１０	１０	3	－	－
ハシバミ属		1	－	－	－	－
カバノキ属		6	2	1	－	－
ハンノキ属		2	1	1	－	－
ブナ属		5	3	－	－	－
コナラ属コナラ亜属		１６	２０	2	－	5
コナラ属アカガシ亜属		２７	２４	5	2	4
クリ属－シイノキ属		9	6	3	－	2
ニレ属－ケヤキ属		２０	8	－	－	－
エノキ属－ムクノキ属		1	1	－	－	－
ヤドリギ属		1	－	－	－	－
ブドウ属		1	2	－	－	－
ツツジ科		1	－	－	－	－
草　本　花　粉						
イネ科		４７２	２８０	6	2	1
カヤツリグサ科		２９	３２	－	－	－
ミズアオイ属		7	－	－	－	－
サナエタデ節－ウナギツカミ節		－	8	1	1	－
タデ属		－	－	－	－	－
アカザ科		－	－	－	－	2
ナデシコ科		－	2	1	－	－
ソバ属		2	－	－	－	－
キンポウゲ科		1	1	－	－	－
アカバナ科		3	－	－	－	－
セリ科		2	１０	－	－	－
ゴキヅル属		1	2	－	－	－
ヨモギ属		１２	６１	1	－	4
オナモミ属		－	1	－	1	－
他のキク亜科		3	7	－	－	－
タンポポ亜科		3	2	－	－	－
不明花粉		5	8	－	－	１１
シ　ダ　類　胞　子						
シダ類胞子		２２	６５	２８	４５	１８
合　計						
木　本　花　粉		６２３	３０１	１４４	9	６９
草　本　花　粉		５３５	４０６	9	4	7
不　明　花　粉		5	8	0	0	１１
シ　ダ　類　胞　子		２２	６５	２８	４５	１８
総　花　粉　・　胞　子		１１８５	７８０	１８１	５８	１０５

第４表　花粉分析結果



花粉化石群集の層位分布

出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子が総花粉・胞子数から不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。●○は１％未満、＋は花粉化石の保存が悪かった試料において出現した種類を示す。

第229図　花粉化石群集の層位分布

⑧層（試料番号Ｄ）では，草本花粉が占める割合が高くなる。木本花粉は依然としてマツ属・ツガ属が高率に出現するが，種類数は増える。草本花粉ではイネ科が高率に出現し，キンポウゲ科，キク亜科，湿地生植物のゴキヅル属などを伴う。

⑤層（試料番号Ｅ）の花粉化石群集は，⑧層（試料番号Ｄ）の花粉化石群集と類似する。木本花粉ではマツ属・ツガ属が高率に出現し，コナラ亜属，アカガシ亜属などを伴う。多産するマツ属の大部分はマツ属複維管束亜属に同定されるものである。草本花粉ではイネ科が高率に出現し，キンポウゲ科，キク亜科，湿地生植物のゴキヅル属，ミズアオイ属などを伴う。また，栽培種のソバ属も低率ながら出現する。

４．考察

弥生時代中期～後期とされる堆積層では，花粉化石の保存状態が悪く，下位の⑪層・⑩層では花粉化石がほとんど検出されなかった。このような産状は，花粉化石が堆積後に土壌微生物の活動など何らかの風化作用の影響を受けていることを示唆している。花粉化石の風化に対する抵抗性が種類によって異なり，一般に広葉樹花粉に比較して針葉樹花粉の方が強いとされることから，本時期の堆積層中の花粉化石群集は偏った組成となっている可能性がある。⑨層から⑧層では花粉化石群集が層位的に変化し，周辺植生が変化したことが示唆されるが，偏った組成となっている可能性があることから特定はできない。ここでは，同定された種類が周辺植生を構成する要素であったことを指摘するにとどめておく。

中世（鎌倉期）とされる⑥層の花粉化石群集は，針葉樹のマツ属・ツガ属が高率に出現することが特徴であり，これらが主要素となる植生が成立していたと考えられる。マツ属は上記したように大部分がマツ属複維管束亜属に同定されるものであったことから，周辺には極端な陽樹であるアカマツなどの二葉松類が分布していたことが推定される。このような植生は，総花粉・胞子数に占める草本花粉の比率が高く，周辺での広い林分の形成が考えにくいこと，栽培種のソバ属花粉化石の出現から人間の生業活動の影響も示唆されることなどから，二次林的性格の強いものであったことが推定される。

また，マツ属とともに多産したツガ属は，花粉化石群集において照葉樹林の主要構成要素であるアカガシ亜属を伴うことから，温帯性針葉樹のツガに由来すると考えられる。ツガはモミとともに暖温帯から冷温帯の推移帯に成立する中間温帯林の構成要素でもあり，現在の香川県下では普通に認められる針葉樹である。当時も周辺に分布していたことが推定されるが，どのような立地環境に分布していたかは不明である。

ところで，高松平野における植生史については，平野中央部に位置する林・坊城遺跡で検討されている。そこでは，弥生時代以降の層準でアカガシ亜属・コナラ亜属の多産を特徴とする花粉化石群集からマツ属の卓越する花粉化石群集への変化が捉えられており，弥生時代以降にナラ類・カシ類を主とした暖温帯性の森林から二次林的性格の強いマツ林へ変化したことが推定されている。今回の分析調査で得られた花粉化石群集および古植生は，林・坊城遺跡で捉えられているマツ属が卓越する時期に対比される可能性があるが，ツガ属が多産するなどの点で単純には比較できない。今後，両地域における層序対比を行い，本地域における古地理の変化を考慮しながら周辺植生について検討することが必要である。

第３節　多肥松林遺跡から出土した木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

多肥松林遺跡は，高松平野のほぼ中央部に位置する。発掘調査により，弥生時代～鎌倉時代までの各時代や江戸時代の遺構・遺物が検出されている（香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター，1994）。調査区の中央には，北流する旧河道が検出されており，大量の土器や木製品が出土している。

本遺跡では，これまでに中央畦の断面から採取した土壌試料の花粉分析から，古植生に関する資料を得ている（本報告前節）。その結果では，マツ属やツガ属などが多いことから，風化に対して耐性のある花粉が強調されていると考えられている。また，周辺地域では，空港跡地遺跡や林・坊城遺跡など，多くの遺跡で微化石分析や植物質遺物（木材・種実）などの同定が行われており，各時期の古植生や植物利用に関する資料が蓄積されつつある。

本報告では，旧河道を中心とした遺構から出土した木製品について樹種を明らかにし，各時期の用材選択に関する資料を得る。

１．試料

試料は，出土した木製遺品など204点である。多くは生木の状態であるが，木器番号1917は炭化材であった。各試料の詳細は，樹種同定結果と共に第５～８表に記した。

２．方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を作製し，ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し，プレパラートを作製する。作製したプレパラートは，生物顕微鏡で観察・同定する。

炭化材は，３断面の割断面を作製し，双眼実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し，種類を同定する。

３．結果

樹種同定結果を第５～８表に示す。試料の中には，保存状態が良好でない等の理由で樹種の同定に至らないものがあった。それらの試料については，観察できた範囲で針葉樹・広葉樹の別を示し，樹皮についてはその旨を示した。その他の試料は，針葉樹８種類（マツ属複維管束亜属・モミ属・ツガ属・スギ・コウヤマキ・ヒノキ・マキ属・イヌガヤ），広葉樹21種類（ヤナギ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・コナラ属アカガシ亜属・クリ・ツブラジイ・スダジイ・ケヤキ・ヤマグワ・クスノキ・タブノキ属・クスノキ科・ヤブツバキ・サカキ・ヒサカキ・マタタビ属・サクラ属・ムクロジ・トチノキ・アオキ・エゴノキ属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・マツ属複維管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）　　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで，晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射組織は仮道管，柔細胞とエピセリウム細胞よりなり，分野壁孔は窓状，仮道

管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列，１～15細胞高のものと水平樹脂道をもつ紡錘形のものがある。

・モミ属（*Abies*）　　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで，晩材部の幅は薄い。放射組織は柔細胞のみで構成され，柔細胞壁は粗く，じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で１～４個。放射組織は単列，１～20細胞高。

・ツガ属（*Tsuga*）　　マツ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は急，試料は年輪界で割れている。樹脂細胞が認められる。放射組織は仮道管と柔細胞よりなり，柔細胞壁は滑らかで，じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はヒノキ型で１～４個。放射組織は単列，１～20細胞高。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L.f.）D. Don）　　スギ科スギ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で，晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され，柔細胞壁は滑らか，分野壁孔はスギ型で２～４個。放射組織は単列，１～15細胞高。

・コウヤマキ（*Sciadopitys verticillata*（Thunb.）Sieb. et Zucc.）

コウヤマキ科コウヤマキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。放射組織は柔細胞のみで構成され，柔細胞壁は滑らか，分野壁孔は窓状。放射組織は単列，１～５細胞高。

・ヒノキ（*Chamaecyparis obtusa*（Sieb. et Zucc.）Endlcher）　　ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で，晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され，柔細胞壁は滑らか，分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で１～３個。放射組織は単列，１～15細胞高。

・マキ属（*Podocarpus*）　　マキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。樹脂細胞は早・晩材部の別なく散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され，柔細胞壁は滑らか，分野壁孔はヒノキ型で１～２個。放射組織は単列，１～10細胞高。

・イヌガヤ（*Cephalotaxus harringtonia*（Knight）K. Koch f.）　　イヌガヤ科イヌガヤ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。樹脂細胞は早・晩材部の区別なく散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され，分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個。放射組織は単列，１～10細胞高。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。

・ヤナギ属（*Salix*）　　ヤナギ科

散孔材で，道管は年輪全体にほぼ一様に分布するが年輪界付近でやや管径を減少させる。管壁厚は中庸で，横断面では楕円形～やや角張った楕円形，単独および２～３個が複合する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性，単列，１～15細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*）　　ブナ科

環孔材で孔圏部は１～３列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。

木器番号	地区	グリッド	器　種	遺構	時代・時期	樹　　種
195	Ⅰ	G-10	曲げ物底板	SR01	古代末～中世	ヒノキ
196	Ⅰ	G-10	板材	SR01	古代末～中世	ヒノキ
202	Ⅰ	G･H-10	角棒	SR01	古代末～中世	マツ属複維管束亜属
347			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
348			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
349	Ⅲ	G･H-9	鍬	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
350	Ⅲ	G･H-9	板	SR01	弥生時代	アオキ
355	Ⅲ	H-8	小型鋤状	SR01中央畦	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
356			横槌		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
359	Ⅲ	G･H-9	男根形	SR01	弥生時代	クスノキ
361			椀		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
362			槽		弥生時代中期	クスノキ
363			槽		弥生時代中期	クスノキ
365	Ⅲ	H-8	板	SR01	弥生時代	アオキ
366			剣形		弥生時代中期	ヒノキ
367			舟形		弥生時代中期	スギ
368	Ⅲ	H-8	板	SR01中央畦	弥生時代	ヒノキ
374	Ⅲ	G･H-9	杭	SR01	弥生時代	ツブラジイ
375	Ⅲ	G･H-9	加工木（杭状）	SR01	弥生時代	コナラ属コナラ亜属コナラ節
382	Ⅲ	G･H-9	加工木（板）	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
383	Ⅲ	G･H-9･10	板	SR01	弥生時代	ヒノキ
393	11ﾄﾚﾝﾁ		板材		弥生時代	ヒノキ
394	Ⅲ	G･H-9	板	SR01中央畦	弥生時代	ヒノキ
412			用途不明		弥生時代中期	ヒノキ
780			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
781	Ⅶ	H･I-6･7	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
782	Ⅶ	I-6･7	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
783	Ⅶ	I-6･7	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
784	Ⅶ	H･I-7	板材	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
785	Ⅶ	I-6･7	板材	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
786			膝柄鍬		弥生時代中期	広葉樹
787	Ⅶ	I-6	用途不明	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
788	Ⅶ	I-7	加工木	SR01	弥生時代	広葉樹
789	Ⅶ	H-8･9	竪杵？	SR01	弥生時代	ヤブツバキ
790	Ⅶ	I-7･8	用途不明	SR01	弥生時代	クスノキ
791			盤		弥生時代中期	ヤマグワ
792			片口容器		弥生時代中期	ヤマグワ
793	Ⅶ	I-6･7	板材	SR01	弥生時代	クスノキ
794	Ⅲ	H-8	梯子	SR01	弥生時代	ツブラジイ
795	Ⅲ	H-8	梯子	SR01	弥生時代	ツブラジイ
796	Ⅶ	I-7･8	梯子	SR01	弥生時代	スダジイ
797	Ⅲ	H-8	梯子	SR01	弥生時代	スダジイ
798	Ⅶ	H-8	梯子	SR01	弥生時代	ツブラジイ
800	Ⅶ	H-7･8,I-7	用途不明	SR01	弥生時代	ヒノキ
801			用途不明		弥生時代中期	サカキ
802			用途不明		弥生時代中期	クスノキ科
803			用途不明		弥生時代中期	クスノキ科
804	Ⅶ	H-8	加工木	SR01	弥生時代	クスノキ
805	Ⅶ	I-7	杭	SR01	古代末～中世	ヒサカキ
809	Ⅶ	H-7･8,I-7	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
812			用途不明		弥生時代中期	サカキ
822	Ⅶ	I-6･7	板材	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
824	Ⅶ	I-6･7	板材	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
850	Ⅶ	H-7	板材	SR01	弥生時代	ヒノキ
851	Ⅶ	H-7	板材	SR01	弥生時代	ヒノキ

第５表　樹種同定結果(1)

木器番号	地区	グリッド	器　種	遺構	時代・時期	樹　　種
852	Ⅶ	H-7	板材	SR01	弥生時代	ヒノキ
853	Ⅶ	H-7	板材	SR01	弥生時代	ヒノキ
859	Ⅶ	I-6･7	板	SR01	古代末～中世	ヒノキ
862	Ⅶ	I-6･7	板材	SR01	弥生時代	ヒノキ
902	Ⅶ	I-6	鳥形？	SR01	古代末～中世	ヒノキ
903	Ⅶ	H-7･8,I-7	鳥形？	SR01	古代末～中世	ヒノキ
1286	X	I-6	加工木	SR01	弥生時代	サカキ
1287			斧柄		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1288			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1289			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1290			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1291			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1292	X	I-6	広鍬	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1293	X	H･I-5	加工木（板状）	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1294	X	I-6	広鍬	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1295	X	H-5	角材	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1293	X	I-6	板材	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1297	X	I-6	板	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1298	X	H-5	板状	SR01	弥生時代	樹皮
1299	X	I-6	ナスビ形？	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1300	X	I-6	板状	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1301	X	H-5	板状	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1303	X	I-6	加工木（板状）	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1304			膝柄鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1305	X	I-6	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1306	X	I-6	板状	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1307			鋤		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1309			スプーン状		弥生時代中期	広葉樹（環孔材）
1310			スプーン状		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1311	X	H-5	円盤状の板	SR01	古代末～中世	ケヤキ
1312	X	H-5	板	SR01	古代末～中世	ヒノキ
1313			高台付盤		弥生時代中期	クスノキ
1314			剣形		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1315	X	H･I-5･6	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
1316	X	I-6	用途不明	SR01	弥生時代	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
1317	X	I-6	不明	SR01	弥生時代	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
1323	X	I-6	男根形	SR01	弥生時代	マキ属
1324	X	H-5	角材	SR01	弥生時代	エゴノキ属
1325	X	H･I-5･6	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1329	X	I-6	加工木	SR01	弥生時代	ムクロジ
1330	X	I-6	加工木	SR01	弥生時代	マタタビ属
1332	X	H･I-5	加工木（板状）	SR01	弥生時代	スダジイ
1338	X	H･I-5	棒	SR01	弥生時代	ヒノキ
1340	X	I-6	板材	SR01	古代末～中世	ヒノキ
1341	X	H･I-5	板	SR01	弥生時代	ヒノキ
1355	X	I-6	みかん割り材	SR01	弥生時代	コナラ属コナラ亜属コナラ節
1376	X	H-5	板	SR01	弥生時代	ヒノキ
1388	X	H-5	板	SR01	弥生時代	ヒノキ
1397	X	I-6	棒状	SR01	弥生時代	ヒノキ
1485			斧柄		弥生時代中期	広葉樹（環孔材）
1486			斧柄		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1487			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1488			狭鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1489			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1490			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属

第６表　樹種同定結果(2)

木器番号	地区	グリッド	器　種	遺構	時代・時期	樹　　種
1491			広鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1492	Ⅱ	G･H-5	柄壺（鍬）	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1493	Ⅱ	G･H-5	柄壺（鍬）	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1495	Ⅱ	G･H-5	柄壺（鍬）	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1496	21ﾄﾚﾝﾁ		鍬		弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1497			泥除具		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1498	Ⅱ	G･H-5	板	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1499			膝柄鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1500			膝柄鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1501	Ⅱ	G･H-5	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1505	Ⅱ	G･H-5	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1507			竪臼		弥生時代中期	広葉樹（環孔材）
1508	Ⅱ	G･H-5	丸太材	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1509	Ⅱ	G･H-5	柄	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1510	Ⅱ	G･H-5	小型臼	SR01	弥生時代	クスノキ
1511	Ⅱ	G･H-5	小型臼	SR01	弥生時代	クスノキ
1512	Ⅱ	G･H-5	板材	SR01	弥生時代	サクラ属
1513	21ﾄﾚﾝﾁ		板材		古代末～中世	ヒノキ
1514	Ⅱ	G･H-5	用途不明	SR01	弥生時代	クスノキ
1515	Ⅱ	G･H-5	棒	SR01	弥生時代	イヌガヤ
1516	21ﾄﾚﾝﾁ		織機具		弥生時代	ヒノキ
1517			梯子		弥生時代中期	サカキ
1518			梯子		弥生時代中期	スダジイ
1519	Ⅱ	G･H-5	加工木	SR01	弥生時代	サカキ
1520	Ⅱ	G･H-5	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1521			用途不明		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1522	Ⅱ	G･H-5	柄	SR01	弥生時代	ヤマグワ
1523	Ⅱ	G･H-5	杭	SR01	弥生時代	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
1526	Ⅱ	G･H-5	用途不明	SR01	弥生時代	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
1527	Ⅱ	G･H-5	加工木	SR01	弥生時代	ヤマグワ
1531. 1	Ⅱ	G･H-5	用途不明	SR01	弥生時代	スダジイ
1531. 2	Ⅱ	G･H-5	用途不明	SR01	弥生時代	タブノキ属
1532	Ⅱ	G･H-5	棒	SR01	弥生時代	ツブラジイ
1533	Ⅱ	G･H-5	棒	SR01	弥生時代	タブノキ属
1534	Ⅱ	G･H-5	棒	SR01	弥生時代	タブノキ属
1537	Ⅱ	G･H-5	加工木	SR01	弥生時代	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
1551	Ⅱ	G･H-5	板材	SR01	弥生時代	ヒノキ
1651	Ⅱ	G･H-5	板	SR01	弥生時代	モミ属
1786	Ⅱ	G･H-5	斎串	SR02	古代末～中世	ヒノキ
1909	Ⅵ	F-10	加工木	SD02	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1910			斧柄		弥生時代中期	広葉樹
1911			狭鍬		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1914			鋤		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1917	Ⅵ	F-9	竪杵？	SD02	弥生時代	コナラ属アカガシ亜属
1918	Ⅵ	F-9	小型臼	SD02	弥生時代	クリ
1919			剣形		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1920			剣形		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
1929	Ⅵ	F-10	板材	SD02	弥生時代	クスノキ
1988	Ⅵ	F･G-9･10	栓	SR01	古代末～中世	スギ
1990	Ⅵ	F･G-9･10	板	SR01	古代末～中世	ヒノキ
1991	Ⅵ	F･G-9･10	曲げ物の底板？	SR01	古代末～中世	ヒノキ
1992	Ⅵ	F･G-11	板	SR01	古代末～中世	針葉樹
1993	Ⅵ	F･G-9･10	曲げ物の底板	SR01	古代末～中世	ヒノキ
1994	Ⅵ	G-10	板	SR01	古代末～中世	ヒノキ
1995	Ⅵ	F･G-12	棒	SR01	古代末～中世	ヒノキ

第７表　樹種同定結果(3)

木器番号	地区	グリッド	器　種	遺構	時代・時期	樹　　種
1996	Ⅵ	F-11	棒（杭状）	SR01	古代末～中世	マツ属複維管束亜属
1997	Ⅵ	F·G-9·10	加工木	SR01	古代末～中世	マツ属複維管束亜属
1998	Ⅵ	F·G-10	用途不明	SR01	古代末～中世	ヒノキ
1999	Ⅵ	F·G-9·10	加工木	SR01	古代末～中世	ヒノキ
2079	暗B1		斧柄	(SR01)	弥生時代	イヌガヤ
2543	Ⅵ	F-10	板	SD03	弥生時代	ヒノキ
2593			一木鋤		弥生時代中期	コナラ属アカガシ亜属
2608	Ⅲ	G·H-7·8	曲げ物底板	SD03	古代末～中世	ヒノキ
2609	Ⅲ	G·H-7·8	板	SD03	古代末～中世	ヒノキ
2610	Ⅲ	G·H-9	板	SD03	古代末～中世	ヒノキ
2611	Ⅲ	G·H-10	板（斎串？）	SD03	古代末～中世	ヒノキ
2615	Ⅲ	G·H-9	杭	SD03	古代末～中世	ヤナギ属
2618	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2619	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2620	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	針葉樹
2621	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2622	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2623	Ⅲ	G·H-7	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2624	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2625	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2626	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2627	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2628	Ⅲ	G·H-7	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2629	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2630	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2631	Ⅲ	G·H-7·8	斎串	SD03	古代末～中世	ヒノキ
2632	Ⅲ	G·H-9	剣形？	SD03	古代末～中世	ヒノキ
2634	Ⅲ	G·H-10	斎串	SD03	古代末～中世	針葉樹
2635	Ⅲ	G·H-7·8	斎串？	SD03	古代末～中世	針葉樹
2653	Ⅲ	G-8·9	棒	SD03	古代末～中世	ヒノキ
2654	Ⅲ	G·H-9	棒	SD03	古代末～中世	ヒノキ
2655	Ⅲ	G·H-7·8	棒	SD03	古代末～中世	コウヤマキ
2674			剣形		平安時代末？	ツガ属
2675	Ⅵ	F-9·10	板	SD02	古代末～中世	ヒノキ
2679			男根形		平安時代末	モミ属
2766	Ⅲ	G-9	漆塗り椀	SD02	中世	トチノキ
2769	暗A4	G·H-13	曲げ物の底板	SD01	古代末～中世	スギ
2770	暗A4	G·H-13	漆塗り椀	SD01	中世	トチノキ

第８表　樹種同定結果(4)

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*）　　ブナ科

環孔材で孔圏部は１～２列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。柔組織は周囲状および短接線状。

・コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）　　ブナ科

放射孔材で，管壁厚は中庸～厚く，横断面では楕円形，単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，１～15細胞高のものと複合放射組織とがある。柔組織は短接線状および散在状。柔細胞はしばしば結晶を含む。

・ツブラジイ（*Castanopsis cuspidata*（Thunberg）Schottky）　　ブナ科シイノキ属

環孔材～放射孔材で孔圏部は３～４列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら火炎状に配

列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと集合～複合放射組織とがある。

・スダジイ（*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii*（Makino）Nakai）　ブナ科シイノキ属

環孔材～放射孔材で孔圏部は3～4列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高。

・ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）　ニレ科ケヤキ属

試料は，年輪界で割れているが，年輪界でわずかに観察できる道管径の変化から環孔材と考えられる。孔圏部の道管はほとんど観察できない。小道管は漸減しながら塊状に複合し，接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型，1～10細胞幅，1～30細胞高で，結晶細胞が認められる。

・ヤマグワ（*Morus australis* Poiret）　クワ科クワ属

環孔材で孔圏部は1～5列，晩材部へ向かって管径を漸減させ，のち塊状に複合する。道管は単穿孔を有し，壁孔は密に交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型，1～6細胞幅，1～50細胞高で，しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状～翼状および散在状。

・クスノキ（*Cinnamomum camphora*（L.）Presl）　クスノキ科

散孔材で管壁は薄く，横断面では楕円形，単独まれに2～3個が放射方向に複合する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ型，1～3細胞幅，1～20細胞高。柔組織は周囲状～翼状。柔細胞はしばしば大型の油細胞となる。

・タブノキ属（*Persea*）　クスノキ科

散孔材で管壁は厚く，横断面では楕円形，単独および2～3個が放射方向に複合する。道管は単および階段穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型，1～3細胞幅，1～20細胞高。柔組織は周囲状，翼状および散在状。柔細胞はしばしば大型の油細胞となる。

・クスノキ科（Lauraceae）

いずれの試料も保存状態が悪い。散孔材で管壁は薄く，横断面では角張った楕円形，単独まれに2～3個が放射方向に複合する。道管は単穿孔または階段穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性，1～3細胞幅，1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

・ヤブツバキ（*Camellia japonica* L.）　ツバキ科ツバキ属

散孔材で管壁は薄く，横断面では多角形～角張った楕円形，単独および2～3個が複合する。道管は階段穿孔を有し，壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性Ⅱ～Ⅰ型，1～2(3)細胞幅，1～20細胞高であるが時に上下に連結する。柔細胞には結晶細胞が顕著に認められる。

・サカキ（*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.）　ツバキ科サカキ属

散孔材で管壁は薄く，横断面では多角形，単独または2～3個が複合する。道管は階段穿孔を有し，壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性，単列，1～20細胞高。

・ヒサカキ（*Eurya japonica* Thunberg）　ツバキ科ヒサカキ属

散孔材で管壁は薄く，横断面では多角形，単独または2～3個が複合する。道管は階段穿孔を有し，壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型，1～4細胞幅，1～40細胞高。

・マタタビ属（*Actinidia*）　マタタビ科

環孔材で，孔圏部は1～4列，孔圏外で急激に管径を減じて散在する。道管はほぼ単独で，時に2個が

複合する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型，１～４細胞幅，１～60細胞高。

・サクラ属（*Prunus*）　　バラ科

散孔材で管壁厚は中庸，横断面では角張った楕円形，単独または２～８個が複合，晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型，１～３細胞幅，１～30細胞高。

以上の特徴から，少なくとも常緑のバクチノキ亜属や栽培種のウメ・モモ等は除外される。

・ムクロジ（*Sapindus mukorossi* Gaertn.）　　ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で孔圏部は１列，孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減，塊状に複合する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性，１～３細胞幅，１～40細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状，帯状およびターミナル状。

・トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume）　トチノキ科トチノキ属

散孔材で管壁は厚く，横断面では角張った楕円形，単独または２～３(5)個が複合する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列，内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性，単列，１～15細胞高で階層状に配列する。

・アオキ（*Aucuba japonica* Thunb.）　　ミズキ科アオキ属

散孔材で管壁は薄く，横断面では多角形，単独まれに複合する。分布密度は中～やや低い。道管は階段穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は単列異性のものと，大型で異性Ⅱ型，５～８細胞幅，100細胞高以上となるものとがある。放射組織の外周にはしばしば鞘細胞が認められる。

・エゴノキ属（*Styrax*）　　エゴノキ科

散孔材で，横断面では楕円形，２～４個が複合または単独で，年輪界付近で管径を減ずる。道管は階段穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型，１～３細胞幅，１～20細胞高。柔組織は短接線状および散在状。

４．考察

樹種同定を行った木製品の時代は，弥生時代中期および弥生時代が最も多く，全体の3/4近くを占める。古代～中世とされる試料が次に多く，その他平安時代末？および中世とされる試料がわずかにある。

遺跡から出土する木製品については，奈良国立文化財研究所（1985,1993）により，用途の分類が行われている。また，奈良国立文化財研究所（1985,1993）で扱われていない木製品については，島地・伊東（1988）が用途の分類を行っている。本報告では，これらの報告を参考にして，製品の用途分類を行った。

試料数が最も多い弥生時代中期および弥生時代の木製品は，建築・土木材，農・工具，食事具，紡績具，祭祀具と用途不明に分類される（第９表）。その中でも比較的試料数が多いのは，農・工具と食事具である。農・工具では，鍬・鋤を中心に斧柄，横槌，臼，杵等が出土している。樹種は，基本的にはアカガシ亜属を中心とする構成である。これらは，いずれも強度を必要とする製品であることから，強度の高いアカガシ亜属の木材は適材といえる。とくに鍬・鋤は，各地で行われた樹種同定結果でも，時代に関わらずその多くがアカガシ亜属であり，今回の結果も調和的といえる。また，建築・土木材に分類される梯子に認められたスダジイ，ツブラジイ，サカキも，強度の高い材質を有しており，同様に強

時期	用途分類	用途 \ 樹種	針葉樹					広葉樹																				皮	合計
			モミ属	スギ	ヒノキ	マキ属	イヌガヤ	クヌギ節	コナラ節	アカガシ亜属	クリ	ツブラジイ	スダジイ	ヤマグワ	クスノキ	タブノキ属	クスノキ科	ヤブツバキ	サカキ	マタタビ属	サクラ属	ムクロジ	アオキ	エゴノキ属	種類不明	樹皮	
中期	建築・土木	梯子											1						1								2
	農・工具	斧柄								2															2		4
		横槌								1																	1
		竪臼																							1		1
		広鍬								11																	11
		狭鍬								2																	2
		泥除具								1																	1
		膝柄鍬								3															1		4
		鋤								2																	2
		一木鋤								1																	1
	食事具	椀								1																	1
		槽													2												2
		片口容器												1													1
		スプーン状								1															1		2
		盤												1													1
		高台付盤													1												1
	祭祀具	剣形			1					3																	4
		舟形		1																							1
	不明	用途不明			1					1							2		2								6
	建築・土木	梯子										3	2														5
		杭						1				1															2
不明	農・工具	斧柄					1																				1
		柄								1				1													2
		柄壺（鍬）								3																	3
		鍬								2																	2
		広鍬								2																	2
		ナスビ形？								1																	1
		小型鋤状								1																	1
		小型臼									1				2												3
		竪杵？								1								1									2
	紡績具	織機具			1																						1
	祭祀具	男根形				1									1												2
	不明	板材	1		13					14			1		2						1		2			1	35
		加工木						2	1	10				1	1				2	1		1			1		20
		棒			2		1					1				2											6
		丸太材								1																	1
		角材								1														1			2
		みかん割材							1																		1
		用途不明			1			3		1			1		2	1											9
合計			1	1	19	1	2	6	2	67	1	5	5	4	11	3	2	1	5	1	1	1	2	1	6	1	149

注）板・加工木（板）・加工木（板状）・板状は、全て板材に一括した。

第９表　弥生時代の木製品の用途別樹種構成

度の高い木材が選択された様子がうかがえる。しかし，梯子については静岡県登呂遺跡などで針葉樹のスギが認められており（亘理，1949；亘理・山内，1954），農・工具に比較して用材選択の幅が広かった可能性もある。

一方，臼については，出土した４点のうち，種類不明を除く３点でアカガシ亜属以外の種類が認められていることから，アカガシ亜属以外の種類が選択されていた可能性がある。

食事具には，椀，槽，片口容器，スプーン状，盤・高台付盤が含まれる。椀がアカガシ亜属，槽の２点と高台付盤がクスノキ，片口容器と盤がヤマグワであった。また，スプーン状は，１点がアカガシ亜属，１点が種類不明であった。

田崎（1996）によれば，四国・瀬戸内地方における木製食事具・容器に挽物が出現するのは８世紀以降であり，それ以前は全て刳物である。田崎（1996）には，本遺跡の平成５年度調査の結果（香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター，1994）も含まれていることから，基本的には本遺跡の容器も刳物と考えられる。

刳物の容器等にヤマグワが多い事例は，畿内でも多く見られ（島地ほか，1987；パリノ・サーヴェイ株式会社，1996），今回の片口容器も同様の用材選択が指摘できる。また，槽は，２点ともクスノキで

時代・時期	用途分類	用途 ＼ 樹種	針葉樹							広葉樹					
			複維管束亜属	モミ属	ツガ属	スギ	コウヤマキ	ヒノキ	針葉樹	ヤナギ属	コナラ属	ケヤキ	ヒサカキ	トチノキ	合計
古代末～中世	土木材	杭								1			1		2
	容器	曲げ物底板				1		4							5
	容器	栓				1									1
	祭祀具	斎串					12	3	3						18
		剣形？						1							1
		鳥形？						2							2
	用途不明	板材						10	1						11
		角棒	1												1
		棒	1				1	3							5
		加工木	1					1							2
		用途不明						1			1				2
		円盤状の板										1			1
平安時代末？	祭祀具	剣形			1										1
		男根形		1											1
中世	食事具	漆塗り椀												2	2
			3	1	1	2	13	25	4	1	1	1	1	2	55

注：板（斎串？）は斎串に含めた。棒（杭状）は棒に含めた。？が付された製品は、それぞれの製品に含めた。

第10表　弥生時代以外の木製品の用途別樹種構成

あることから，選択的な利用が示唆される。一方，椀のアカガシ亜属は，あまり類例がない。しかし，比較的近い東山崎・水田遺跡では，近縁種のコナラ亜属コナラ節が漆塗椀に認められており（パリノ・サーヴェイ株式会社，1992），本地域ではこれらの種類が椀として利用されていたことがうかがえる。スプーン状にアカガシ亜属が認められたことも同様の用材選択の一つと見ることができる。

これらの結果から，容器類が用途や形状によって樹種構成が異なっている様子がうかがえる。埼玉県寿能遺跡で行われた調査では，縄文時代の刳物にトチノキ・イヌガヤ・サクラ類が確認されているが，これらの種類は用途や形状によって使い分けが行われている（山田ほか，1990）。今回の結果もこのような木材の使い分けを示している可能性がある。

祭祀具では，剣形・舟形・男根形が確認され，剣形はアカガシ亜属３点，ヒノキ１点，舟形はスギ，男根形はマキ属であった。アカガシ亜属が比較的多いのが特徴といえる。このような祭祀具については，各地で樹種同定が行われているが，針葉樹が比較的多いながらも，様々な種類が確認されており，用材選択の傾向がつかみにくい。今回の結果についても，比較的加工が容易な針葉樹類と，加工がやや困難なアカガシ亜属とが確認されており，現段階では用材選択の詳細は不明である。

弥生時代以外では，古代末～中世，平安時代末？，中世の木製品について樹種同定を行った（表10）。木製品には斎串などの祭祀具が多く含まれ，他に容器，食事具，土木材などがある。全体的に針葉樹が多利用されている点で，弥生時代とは異なった傾向が見られる。とくにヒノキが多いが，同様の傾向は周辺遺跡でも確認されており，畿内の影響があった可能性も指摘されている（鈴木・能城，1995）。また，ヒノキに次いで多いコウヤマキは，日本書紀の中で木棺の材に指定されるなど，古くから特殊な用途に利用されていたことがうかがえる。現在の香川県では，徳島県との県境付近に生育しているものの，高

松平野には自生していない。しかし，高松平野や丸亀平野の遺跡からの出土した例は多く，中には柱材に確認された例もある。そのため，過去には今よりも広い範囲に生育していた可能性も指摘されているが，詳細は不明である。

祭祀具は，全て針葉樹類（モミ属・ツガ属・コウヤマキ・ヒノキ）であり，弥生時代のスギ，ヒノキ，マキ属の利用と基本的には一致する。しかし，点数に対して広葉樹類が１点も確認できなかったことから，古代以降では針葉樹類を主とする用材選択に変化している可能性がある。

容器も全て針葉樹材であり，弥生時代とはやや異なった用材選択がみられる。一方，中世の椀はいずれもトチノキであり，広葉樹が使用されている点では弥生時代と共通する。曲物は，板状の加工を施すことから，板状の加工が容易な針葉樹材の方が適材である。その中でヒノキが多いのは，曲げ強度が比較的高く，耐水性・耐朽性に優れた材質を有していることが考慮されたと考えられる。中世の漆椀に認められたトチノキは，同様の用途に一般的な樹種であり，現在でも利用される。橋本（1979）によれば，トチノキは漆器木地の分類の中ではブナと同様に扱われ，狂いが出やすいが大木が得やすいので大量生産されるという。本地域では，東山崎・水田遺跡で近世の漆器椀にクリやトネリコ属など共にトチノキが確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1992）。今回の結果から，本地域におけるトチノキの利用が，少なくとも中世まで遡ることが示唆される。

本遺跡では，弥生時代から中世までの用材選択の変化を捉えることができた。しかし，遺跡によっては，用材選択に違いが見られる場合もあり，過去の用材選択の全容を明らかにできたとはいえない。そのため，今後さらに周辺地域で調査を進め，同一地域内における用材選択の違いなどについてもその背景を明らかにしたい。

＜引用文献＞

橋本鉄男（1979）ものと人間の文化史31　ろくろ．444p.，法政大学出版局．

香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター（1994）高校新設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　多肥松林遺跡　平成５年度．10p.，香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター．

奈良国立文化財研究所（1985）木器集成図録　近畿古代篇．223p.

奈良国立文化財研究所（1993）木器集成図録　近畿原始篇．410p.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1992）木製品の樹種．「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第１冊　東山崎・水田遺跡　第１分冊」，p.358-368，香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1996）出土木製品の樹種．「宮ノ下遺跡第１次発掘調査報告書　－第１分冊－」，p.113-138，東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会．

島地　謙・伊東隆夫編（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．296p.，雄山閣．

島地　謙・林　昭三・植田弥生（1987）鬼虎川遺跡出土木製品の樹種（第７次）．「鬼虎川の木質遺物　－第７次発掘調査報告書　第４冊－」，p.39-67，財団法人東大阪市文化財協会．

鈴木三男・能城修一（1995）高松市居石遺跡出土木材の樹種．「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第７冊」，p.165-171，高松市教育委員会・建設省四国地方建設局．

田崎博之（1996）四国・瀬戸内における木製食事具・容器の変遷と画期．第39回埋蔵文化財研究集会　古代の木製食器　－弥生期から平安期にかけての木製食器－＜第Ⅰ分冊　発表要旨＞，p.119-137，埋蔵文化財研究会・第39回埋蔵文化財研究集会実行委員会．

亘理俊次（1949）木材．日本考古学協会編「登呂　前編」，p.83-90，東京堂出版．
亘理俊次・山内　文（1954）木材．「登呂　本編」，p.344-353，日本考古学協会．
山田昌久・鈴木三男・能城修一（1990）考古学における木製遺物の樹種選択研究の現状　－木製品と樹種・森林資源の選択・使用樹種と工具（製作法）－．日本民具学会編「木と民具」，p.121-135，雄山閣．

第５章　まとめ

第１節　遺構の変遷

１　縄文時代晩期（第230図）

西②区で弥生時代前期の溝の下層で，縄文時代晩期の土器を出土する川跡を検出しているのみである。また縄文土器（突帯文土器）は，遺構に伴わない形で，西水路調査区やＸⅡ区で包含層から出土している。

２　弥生時代前期（第231図）

Ⅺ区から西水路②区にかけての大溝ＳＤ01がある。前期中葉の土器が出土している。また，このＳＤ01に合流すると考えられる溝が出土している。ＳＲ01から前期中葉以降の土器が出土するが数は少ない。このころはまだＳＲ01には流水が見られた可能性がある。

３　弥生時代中期中葉（第232図）

ＳＲ01は，流水が停止し，木本質の泥炭層の堆積が見られる。この泥炭層から大量の木製品及び土器が出土した。川の東側の微高地（東微高地）では，竪穴住居跡及び掘立柱建物跡が存在する。竪穴住居跡は残存状況が悪く，ほとんどは柱穴のみが検出されるに過ぎない。Ⅸ区ＳＨ01のように残りが良いものでも，壁面の立ち上がりまでは残存しておらず，壁溝や炉跡の残存までにとどまる。集落の中心は当遺跡東に隣接する日暮・松林遺跡である。

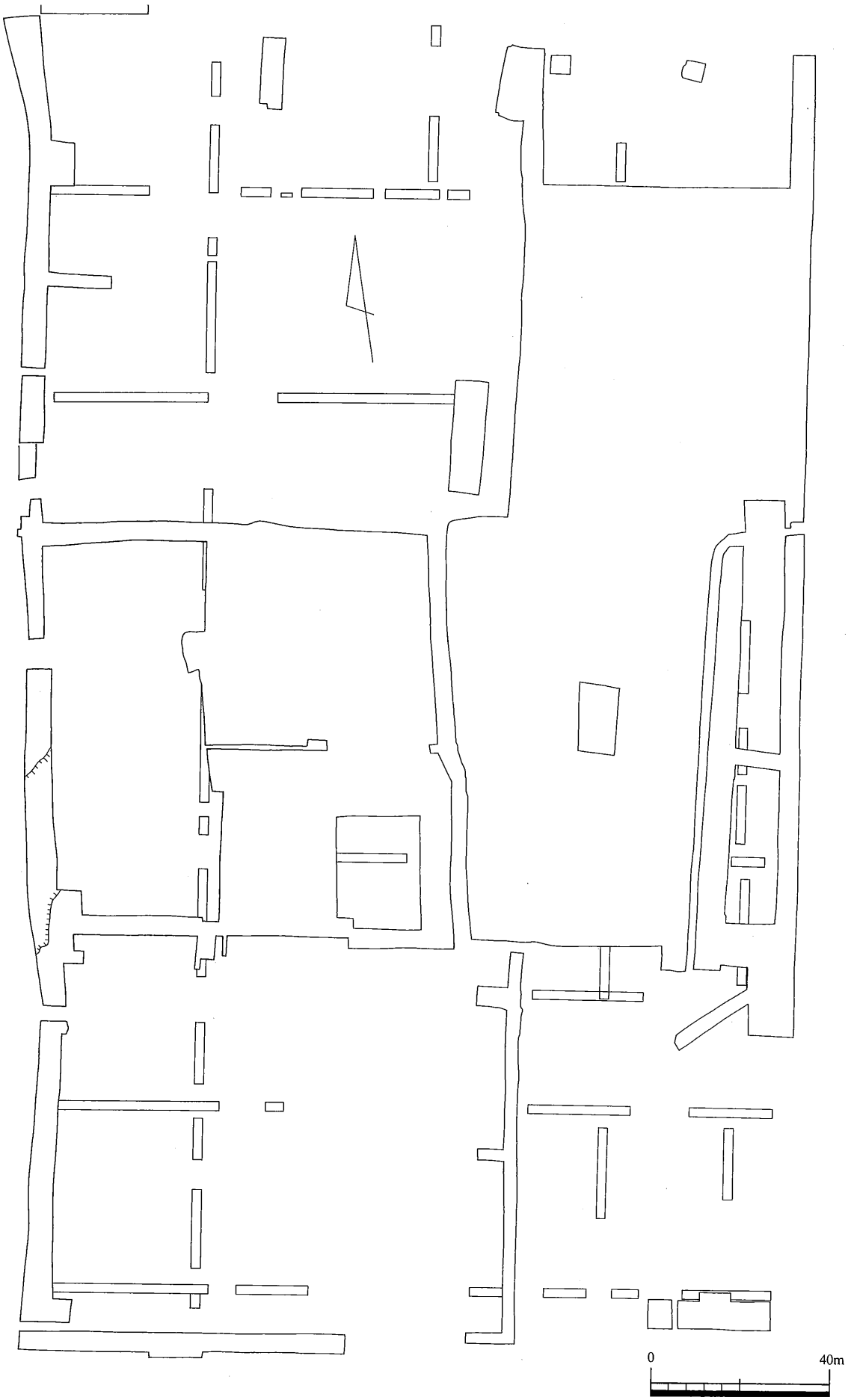
川の西側の微高地（西微高地）では，円形周溝がいくつか見られる。これについては，周溝に囲まれる部分に主体部などの遺構がほとんど検出されてないことから，性格は不明とせざるを得ない。ただ，Ⅻ区ＳＨ01としたものは，周溝で囲まれた部分に竪穴住居跡の柱穴のみが残存したように見えることから，これらの円形周溝が竪穴住居跡の周溝である可能性を考える必要はあろう。

西水路調査区では，洪水砂と考えられる砂層中から弥生時代中期の土器が出土することから，当遺跡西北部はこの時期に洪水におそわれた可能性がある。

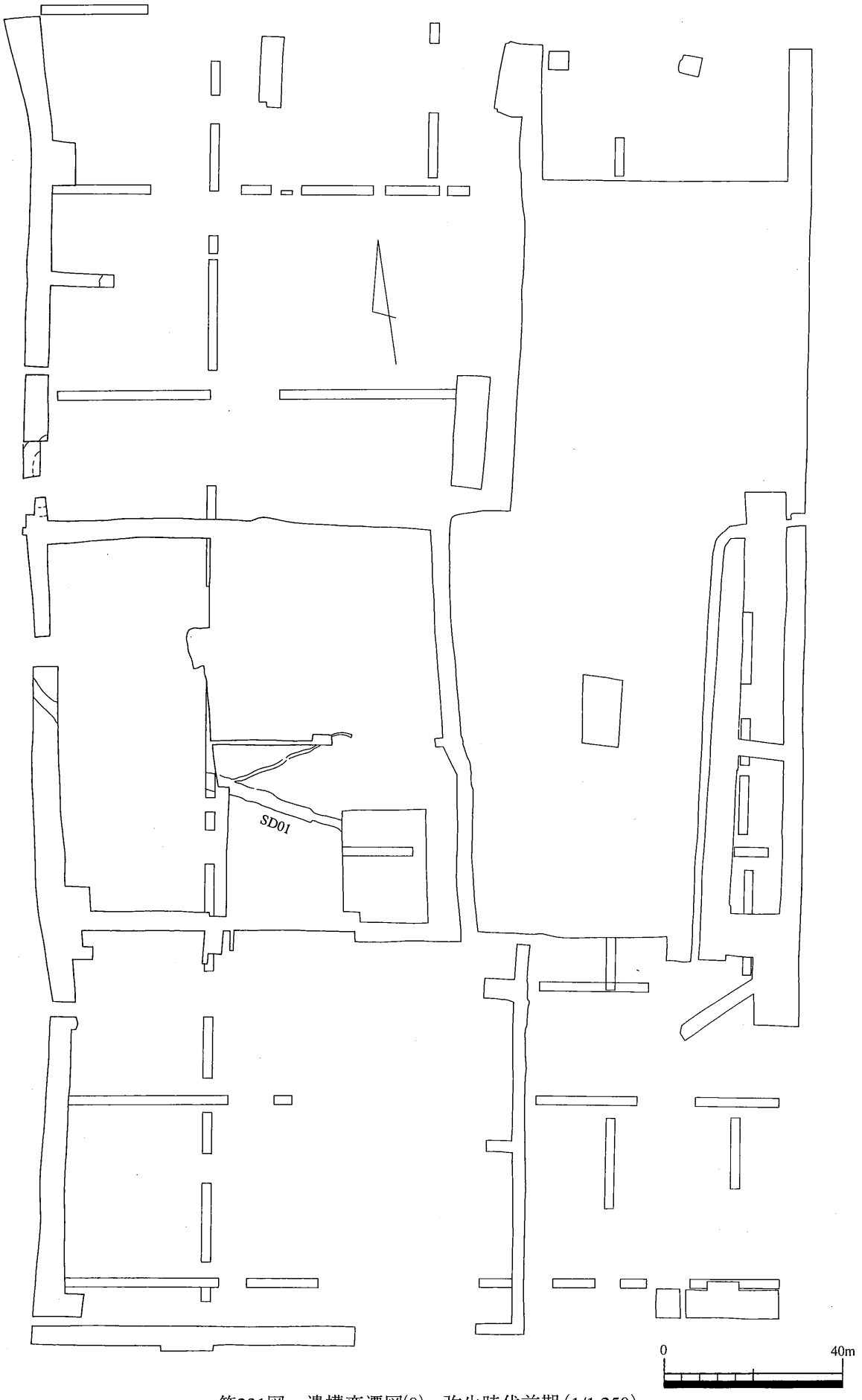
Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅴ区で検出されたＳＲ02は埋土が砂礫層であるものが多く，ＳＲ01より古い流路である。Ⅰ・Ⅴ区で検出されたものは南東方向への延長が予備調査トレンチ等で確認されている。Ⅱ区ＳＲ02はおそらく東西方向の流路であろうが，その延長ははっきりしない。

４　弥生時代後期中葉（第233図）

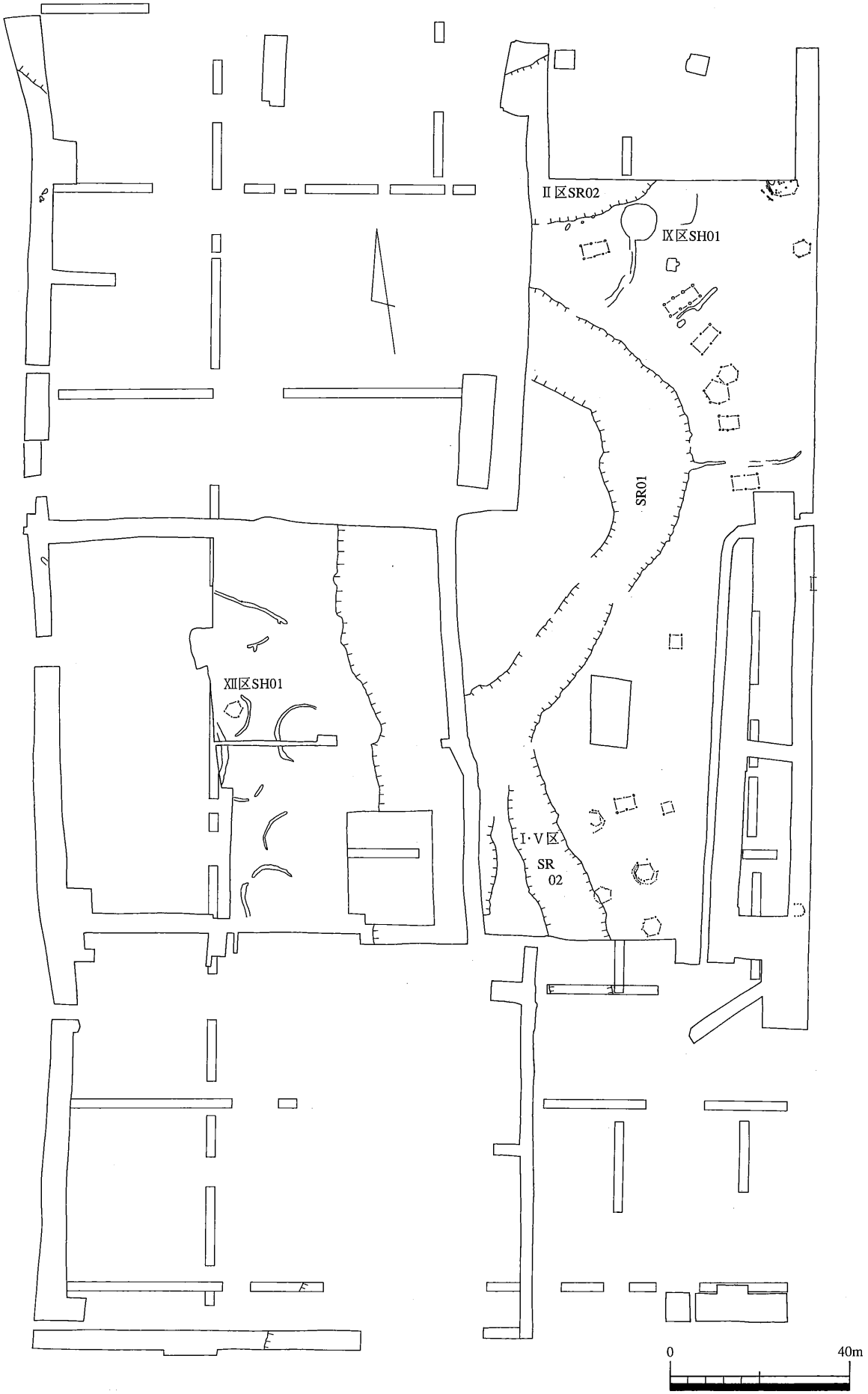
川跡部分は弥生時代中期の土器を包含する泥炭層の上面に当期の土器の出土が見られる。東側微高地



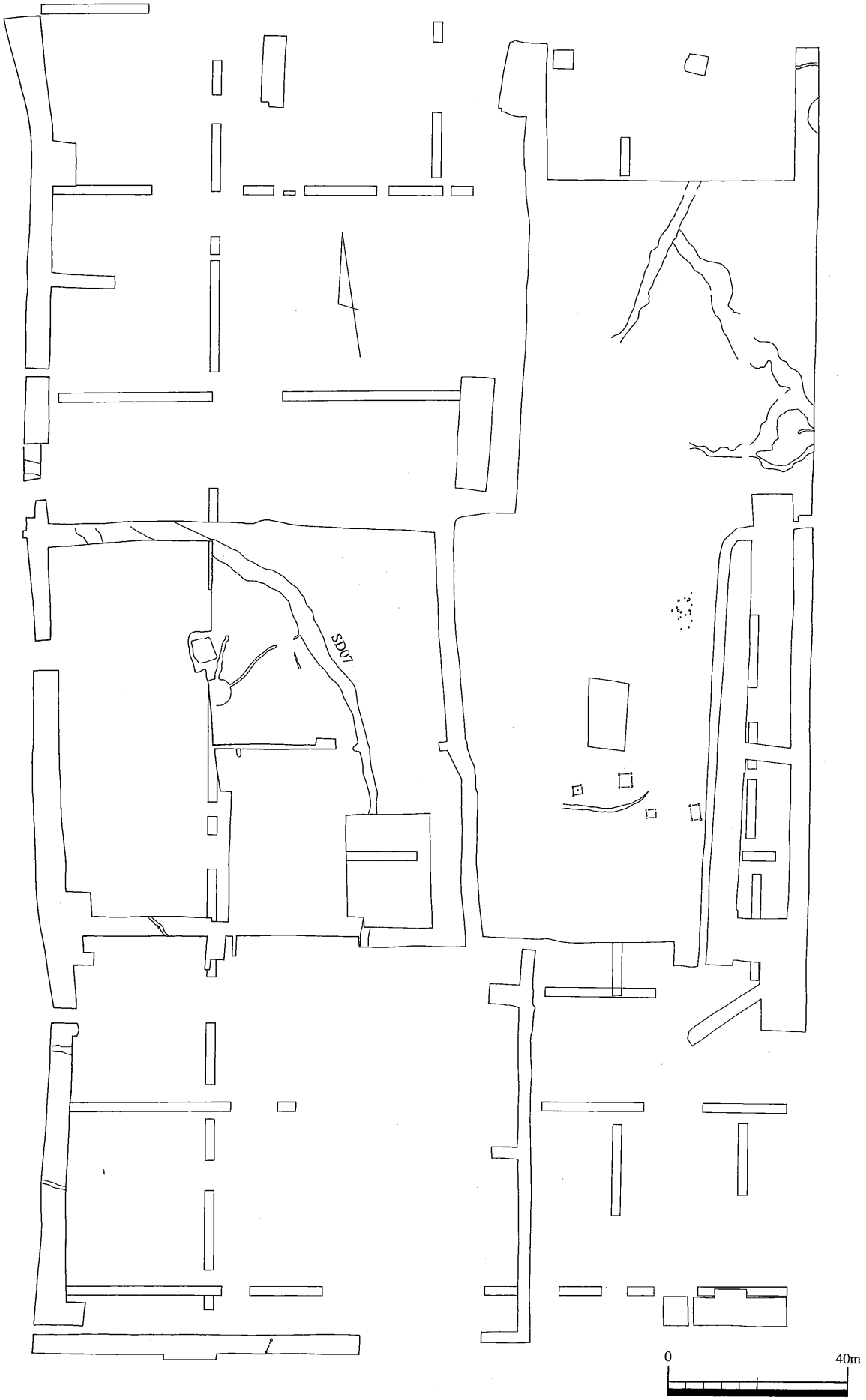
第230図　遺構変遷図(1)　縄文時代晩期(1/1,250)



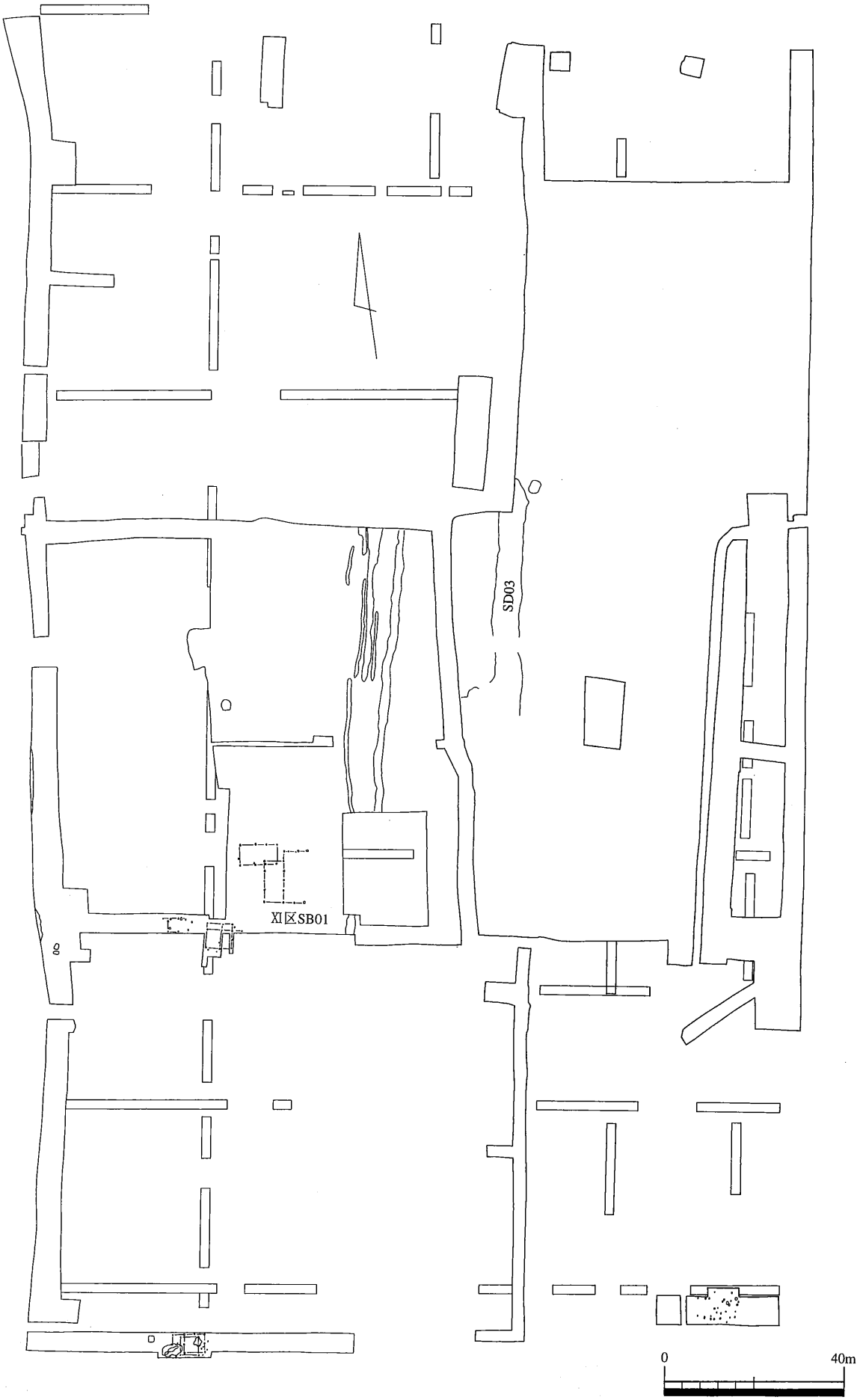
第231図　遺構変遷図(2)　弥生時代前期(1/1,250)



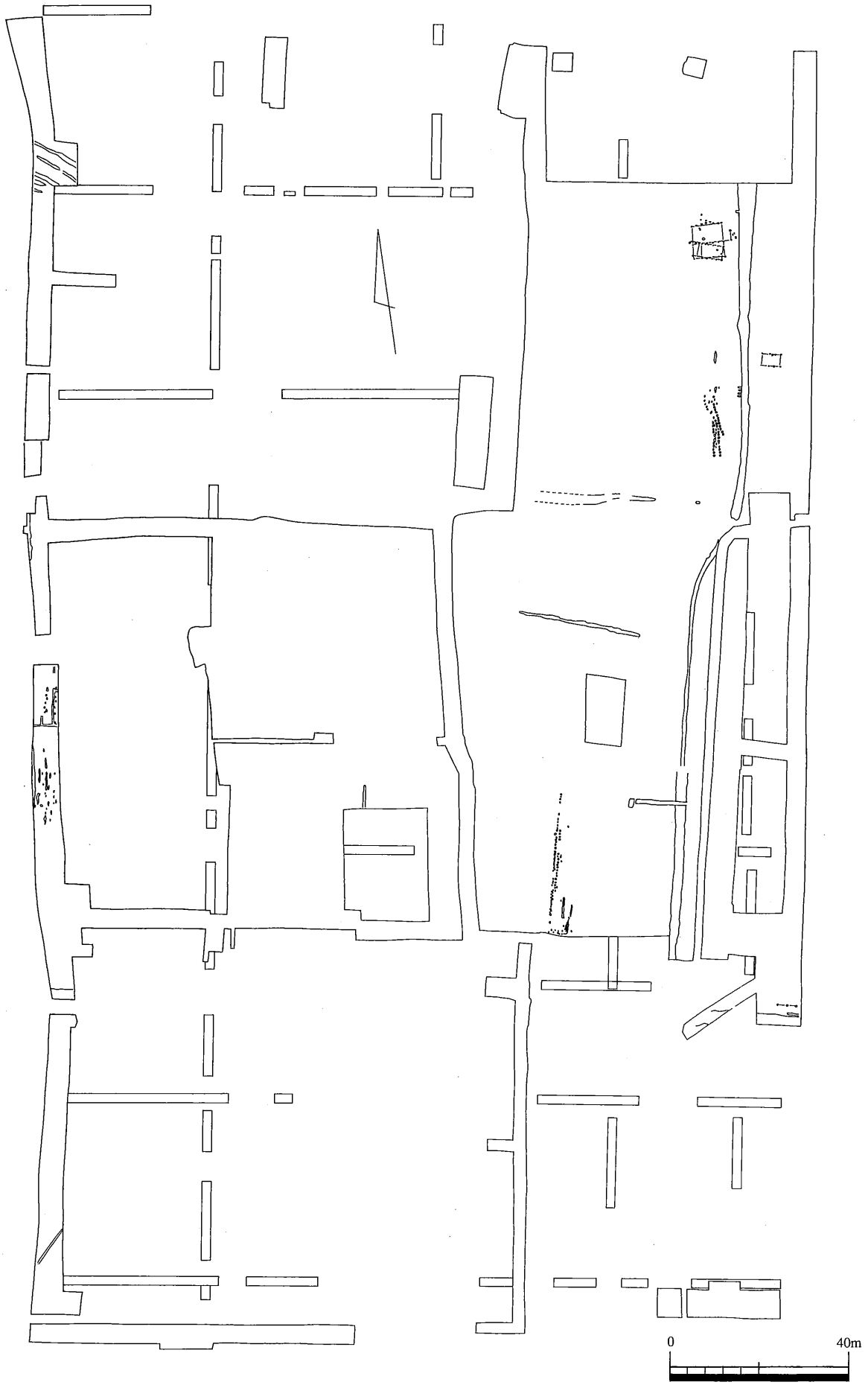
第232図　遺構変遷図(3)　弥生時代中期中葉(1/1,250)



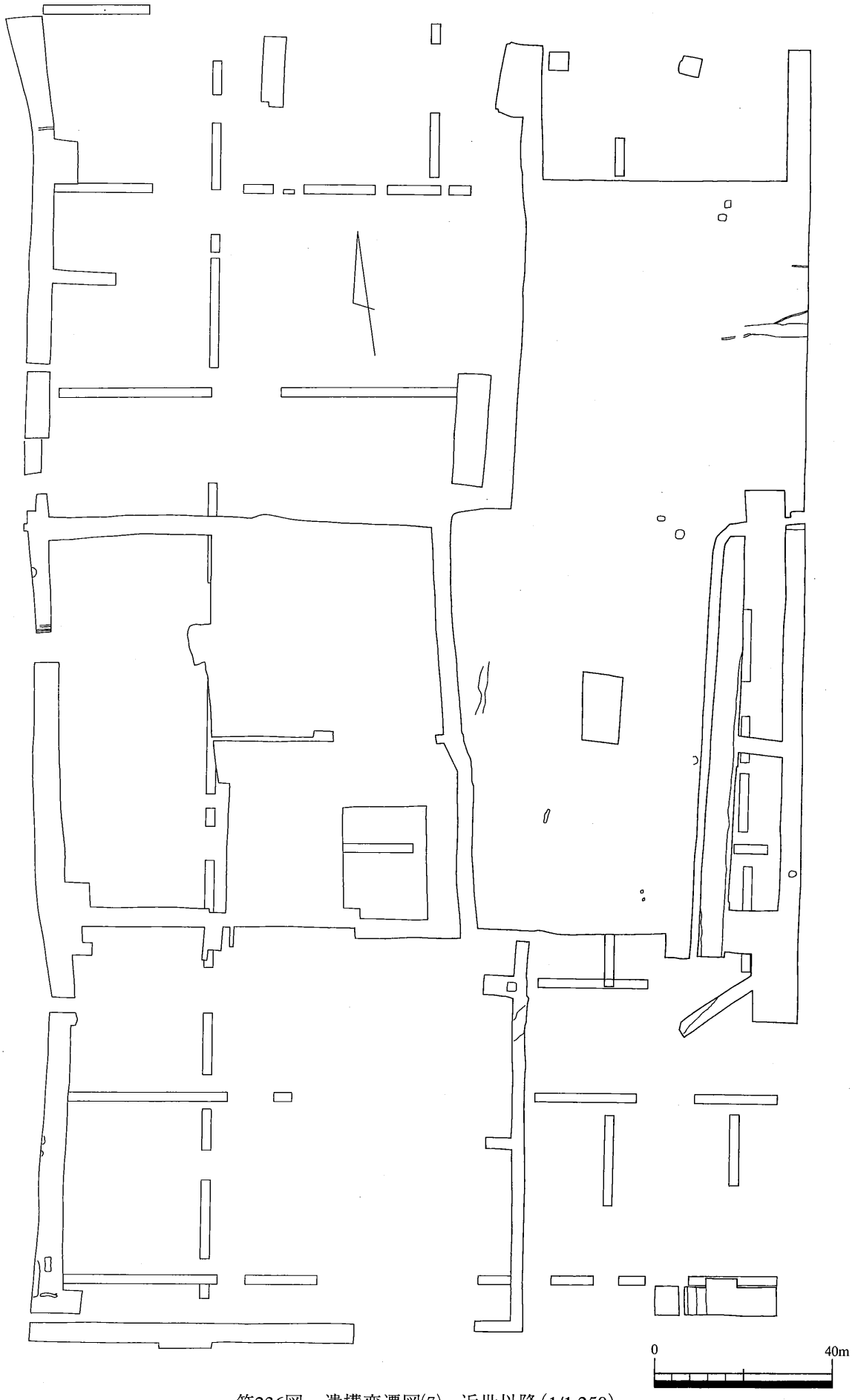
第233図　遺構変遷図(4)　弥生時代後期中葉(1/1,250)



第234図　遺構変遷図(5)　平安時代後半(1/1,250)



第235図　遺構変遷図(6)　中世(1/1,250)



第236図　遺構変遷図(7)　近世以降(1/1,250)

では，竪穴住居跡，掘立柱建物跡及びこれらに関連する排水溝などが見られる。竪穴住居跡は残存状況が悪く，柱穴のみが検出されるに過ぎない。

西側微高地では，竪穴住居跡が２棟検出されている。この時期の大溝であるＳＤ07がⅥ区から西④区の方向へ掘削されている。この溝から大量の弥生時代後期中葉の土器が出土している。

5　古墳時代前期

この時期の遺構は検出されていないと考えられる。ＳＲ01の弥生時代中期の土器包含層の上面あるいは弥生時代後期中葉の溝の埋土の上面から，いわゆる布留式土器が若干出土してるのみである。

6　平安時代後半（第234図）

この時期には，ＳＲ01はほぼ埋没を終え，Ⅰ・Ⅲ区ではこの上に溝ＳＤ03が掘削されている。この溝は，東肩は基盤層に類似した土を盛土して形成しており，護岸用に杭が一列に打ち込まれている。埋土からは多量の斎串が出土しており，祭祀に使用される溝であったことがわかる。この時期の建物としては，ＸⅠ区の掘立柱建物跡群及びＢ２区掘立柱建物跡群などがある。特にⅪ区ＳＢ01はかなり大型の建物と考えられ，ＳＤ03の斎串を使用した祭祀と関連する可能性がある。また　ＳＤ03に平行するⅥ区の溝もほぼ同時期と考えられる。

7　中世（第235図）

時期の特定できる遺構は少ない。調査区のあちこちにいわゆる鋤溝等の痕跡と考えられる小溝や畑跡の関連すると考えられるピット列が存在するのみである。当時期として報告した建物跡はいくつかあるが，時期は確実ではない。

8　近世以降（第236図）

水溜用の土坑や溝跡が検出されている。

第２節　川跡出土の木製品について

1　川跡出土の弥生時代木製品の構成

弥生時代の川跡からは大量の木製品が出土している。伴出した土器は弥生時代前期中葉から中期後葉のものがあるが，圧倒的に量が多いのは弥生時代中期中葉（Ⅲ期）の土器である。また，曲柄鍬にはいわゆるナスビ形のものが含まれていないことから，時期的には中期に限定できる木器群と考えられる。出土した木器群の種類とその数は第11表のとおりであるが，ここには不明木製品や板材などの材は含めず，形態及び性格の判明するものに限って掲載した。また，曲柄鍬については，軸部の破片で平鍬か又鍬かは判断できないものは，集計表ではすべて平鍬に入れている。また，集計は破片の点数で行っているので，同一個体のものを複数回数えている可能性は免れない。

板材及び割材には，筆者の肉眼観察では，クヌギやヒノキが多い。クヌギは木器にはほとんど使われ

ておらず，小径木の割材が多いこと（木製品の製作はできない）や部分的に炭化したものが多いことから，燃料として使用された可能性が高いのではないかと思われる。

斧直柄	1
斧膝柄	6
広鍬	1
広鍬状木製品	27
狭鍬	2
泥除	2
曲柄平鍬	22
曲柄又鍬	4
一木鋤	2
組合せ鋤	1
竪臼	1
竪杵	3
編み台目盛り板	1
柄	4
横槌	2
槽	4
小型臼	3
台付片口皿	1
合子	1
蓋	2
杓子	5
杓子形木器	1
匙	1
梯子	8
杭	9
銅剣形	2
剣形	2
船形	1
計	119

第11表　木器集計表

2　広鍬状木製品について

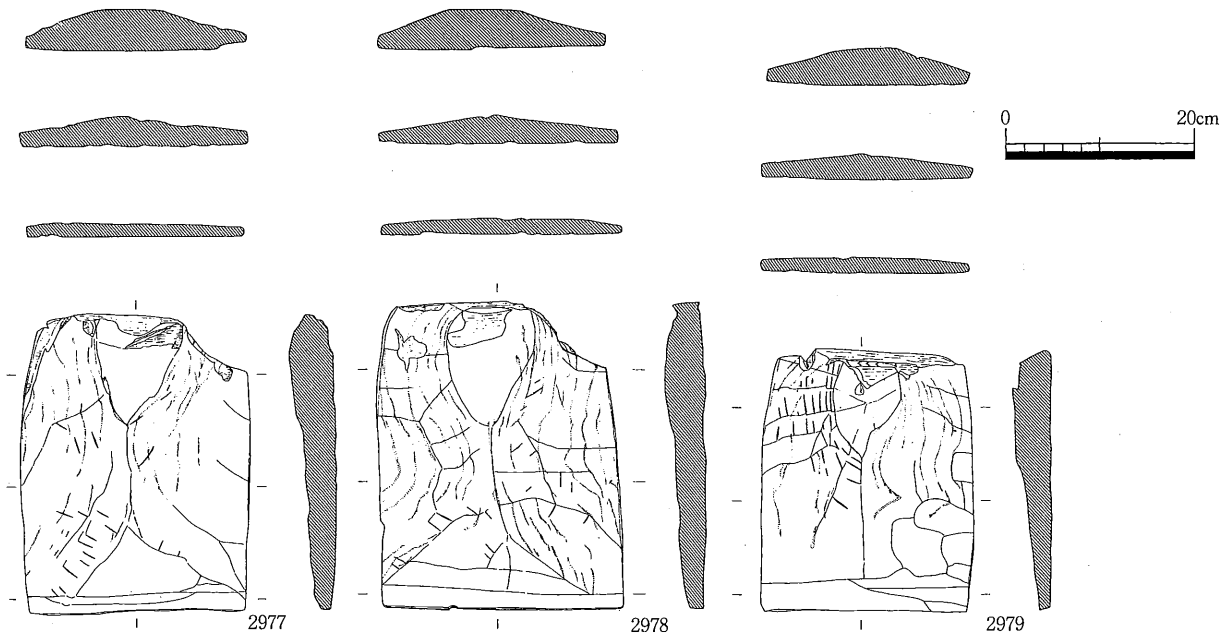
第11表で広鍬状木製品としたものは，本文中でも述べたが，平面的な輪郭は広鍬とほぼ同じであるが，柄孔周囲の隆起があまり発達せず，木取りの方向が通常の鍬とは異なり，泥除やエブリと同じように，広葉樹柾目材で刃部と平行する方向が原木の軸方向になるものである。たとえば，347・348・780～783・1288～1295・1489～1496などがあげられる。ただ，泥除については，当遺跡で出土している1497は薄い板状のもので，これとは全く異なる。また広鍬状木製品の出土数量は多く，これをすべて泥除にすると，それとセットとなるはずの広鍬は未製品の1487を除いて出土していないことから，著しくバランスを欠く組成となる。

広鍬状木製品には柄孔の両脇に孔があるものがあることから，これに泥除が付くことを想定したほうがよいと考えられる。また，出土した泥除はその大きさから考えて，広鍬状木製品と組合わせた方が，バランスが良いように思われる。泥除の装着は柄孔の両脇にある孔と泥除の孔を緊縛する方法によるもので，広鍬状木製品後面に段等の泥除装着装置はみられない。また，木取りの方向から考えて刃部の強度が落ちるものと思われる（事実，刃部と同じ方向で割れているものが多い）が，泥除とセットになる広鍬自体が水分の多い泥の掻きならし程度の使用しか想定できない以上，強度が落ちると思われる木取り方法はさほど問題にはならないと考えられる。

なお，樹種は通常の広鍬と同様アカガシ亜属のものがほとんどである。木器集成図録*1によれば，弥生時代中期には弥生時代前期以来の狭鍬にかわり，曲柄平鍬が登場するとされているが，当地域では広鍬の方も広鍬状木製品に取って代わられた可能性があろう。その原因としては，原材の利用方法に可能性の一つを見いだしたい。

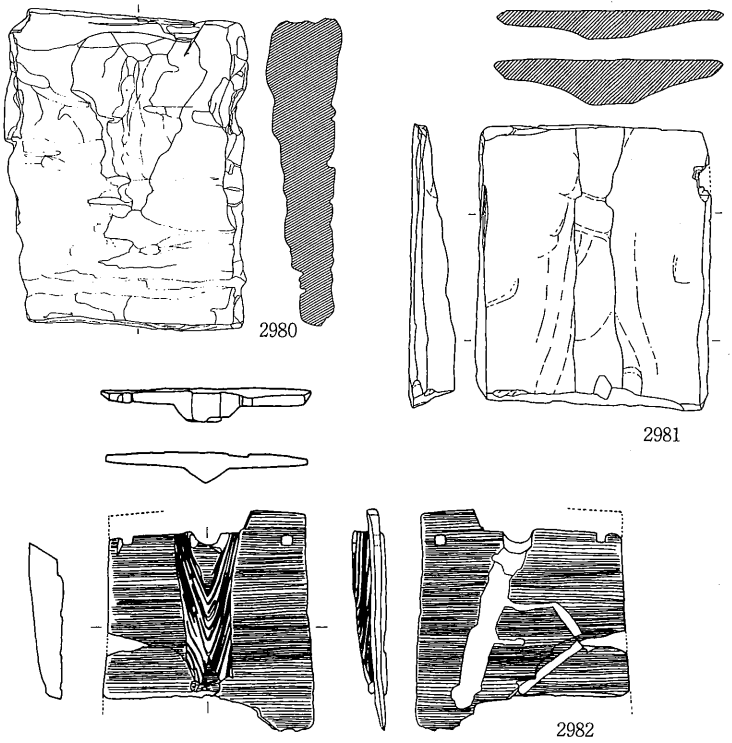
狭鍬・広鍬と曲柄平鍬・広鍬状木製品の間の違いは，製作に必要な原材の大きさにあると考えられ，後者の方がより小さい原材で作成でき，あるいは原材をより効率的に利用できると考えられる。つまり，曲柄平鍬では，狭鍬より薄い割材で製作でき，広鍬状木製品では柄穴周囲の隆起を作り出すために削り出される木屑の量は著しく小さいと考えられる。また，広鍬状木製品の原材（割材）の表皮側の厚さは柄穴周囲の隆起の厚さとほぼ同じですむのに対し，通常の広鍬の原材（割材）の表皮側の厚さは柄穴周囲の隆起より原理的に厚くなくては，製作できない。なお，当遺跡における広鍬状木製品の未製品784から考えると，割材から最初に一つ一つの製品の大きさに分割してから細部の加工が行われたといえる。

*1　奈良国立文化財研究所『木器集成図録　近畿原始編』1993　を指す。



この広鍬状木製品の当遺跡外での出土状況である（第237図，筆者の管見による）が，県内では高松市井手東Ⅰ遺跡*1，善通寺市乾遺跡*2があげられる。いずれも原材（割材）から，柄孔周囲の隆起を削りだしただけで，柄孔の穿孔は行われていない。乾遺跡の1例2980は，当遺跡784と同様，割材を分割した段階に留まっている。井手東Ⅰ遺跡例2981は弥生時代中期のものと考えられるが，乾遺跡例2977～2980は弥生時代前期の可能性はあるものの報告書の記載では時期はよくわからない。

四国地方の他県では，徳島市の庄遺跡で弥生時代中期と考えられる事例があるようである。愛媛県では，弥生時代後期の今治市中寺州尾遺跡*3の例2982がある。



第237図　他遺跡の広鍬状木製品（1/8）

*1　高松市教育委員会『高松市埋蔵文化財調査報告第26集　一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第四冊　井出東Ⅰ遺跡』1995

*2　香川県教育委員会・日本道路公団『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第一冊　中村遺跡　乾遺跡　上一坊遺跡』1987

*3　財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター『一般国道196号今治道路埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』1989

また，神奈川県池子遺跡*1でも同様な事例が知られているようであるが，柄が装着したまま出土した事例によれば鍬ではなく，鋤ということである。

第３節　石器について

多肥松林遺跡から出土した石器の数量及び重量については，第12・13表で示した。ただ，この表はやや精度が低いことをお断りしておく。

器種	数	重量(g)
石鏃	105	156.32
石槍	9	222.3
打製石庖丁	55	1386
石錐	18	40.8
スクレイパー	106	2770.5
打製石斧	9	1404.8
楔形	97	1257.7
石匙	1	19.8
その他	2796	14121.5
計	3196	21379.72

第12表　サヌカイト製石器一覧表

器種	数
磨製石庖丁	3
扁平片刃石斧	5
柱状片刃石斧	3
太型蛤刃石斧	1

第13表　磨製石器一覧表

*1　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所・東日本埋蔵文化財研究会・東海考古学フォーラム『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所設立10周年記念シンポジウム　第４回東日本埋蔵文化財研究会・第２回東海考古学フォーラム　古代における農具の変遷　稲作技術史を農具から見る』1994

出土遺物観察表

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1	縄文土器	浅鉢	水路西②区　SR101	黒色粘土層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ後ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
3	弥生土器	壺	水路西②区　包含層	トレンチ掘り砂と粘土の境目付近	粗砂多量	粗砂少量			5YR5/6明赤褐色	1/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
4	弥生土器	壺	水路西②区(拡)　B-10　包含層	⑯層　淡灰茶色細～中層（Mn多い）	粗砂多量	粗砂含			10YR6/3にぶい黄橙色	7/8	指おさえ後板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
5	弥生土器	甕	水路西②区 B-10 包含層	⑯層　淡灰茶色細～中層（Mn多い）	粗砂多量	粗砂含			7.5YR6/4にぶい橙色	6/8	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴上半板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ,胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
6	弥生土器	甕	水路西②区(拡) B-10包含層	⑯層　淡灰茶色細～中層（Mn多い）	粗砂多量	粗砂多量			10YR6/3にぶい黄橙色	3/8	板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
7	弥生土器	壺	水路西②区 B-11･12包含層	暗茶褐色粘土	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y8/2灰白色	5/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
8	弥生土器	壺	水路西②区 B-11･12包含層	暗茶褐色粘土	粗砂含				10YR8/3浅黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
9	弥生土器	鉢	水路西②区 B-11･12包含層	暗茶褐色粘土	粗砂含				10YR3/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾏﾒﾂ	
10	弥生土器	底部	水路西②区(北半)包含層	上面精査	粗砂多量				2.5Y3/3暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色	3/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
11	弥生土器	甑	水路西②区 B-9･10･11 包含層	淡茶色細～中砂層	粗砂少量				10YR7/4にぶい黄橙色	3/8	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
12	弥生土器	鉢	水路西②区(北半)包含層	上面精査	粗砂多量				10YR6/3にぶい黄橙色	3/8	ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	穿孔途中で中止のものあり
13	紡錘車		水路西②区(北半)包含層	上面精査	細砂含				5YR4/6赤褐色	4/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
14	土師器	杯	水路西②区 B-9 包含層					粗砂含	5YR6/6橙色	6/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ，底ﾍﾗｷﾘ後板状圧痕	
15	土師器	鍋	水路西②区 B-11･12包含層	暗茶褐色粘土	粗砂多量				10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ	
21	縄文土器	深鉢	12区D-9 包含層	黒褐色粘質土	粗砂多量				10YR8/4浅黄橙色～10YR4/1褐灰色	1/8	不明	ﾏﾒﾂ	概4図1
22	縄文土器	深鉢	12区D-8 包含層	黒褐色粘質土				粗砂多量	7.5YR3/1黒褐色	1/8	不明	不明	概4図2
23	縄文土器	深鉢	水路西①区 B･C-13包含層はずし	淡茶褐色粘質土	粗砂多量				10YR3/1黒褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
24	縄文土器	深鉢	水路西①区 B･C-13包含層掘り下げ	暗茶褐色粘質土	粗砂含	粗砂少量			2.5Y6/4にぶい黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
25	縄文土器	深鉢	水路西②区　ＳＤ１０２　掘り下げ		粗砂多量	粗砂含			10YR7/2にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	

土器観察表（1）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
26	縄文土器	深鉢	水路西②区　包含層	トレンチ掘り砂と粘土の境目付近	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
27	縄文土器	深鉢	水路西②区　包含層	壁切り	粗砂多量				5Y6/4オリーブ黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
28	縄文土器	深鉢	水路西②区 包含層	側溝	粗砂多量	細砂含			2.5Y7/3浅黄色	1/8	ﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
29	縄文土器	深鉢	水路西③区 B-5 包含層はずし	細砂層　第２遺構面（淡黒褐色粘土）直上	粗砂多量				10YR8/2灰白色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
30	縄文土器	深鉢	水路西③区 B-4 包含層	黒褐色粘土	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	1/8	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
31	縄文土器	深鉢	水路西③区 B-4･5包含層	黒褐色粘土の上層	粗砂多量				7.5YR7/4にぶい橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
32	弥生土器	高杯	Ⅵ区　SD06		粗砂多量	粗砂含	細砂含		10YR6/4にぶい黄橙色	3/8	脚ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底ﾍﾗｹｽﾞﾘ,脚板ﾅﾃﾞ	
33	弥生土器	壺	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	口頸境ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
34	弥生土器	壺	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂多量				10R6/6赤橙色	6/8	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	概5図1
35	弥生土器	壺	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂多量				10YR8/2灰白色	6/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗ描き沈線
36	弥生土器	壺	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	4/8	胴下半板ﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴下半ﾐｶﾞｷ	
37	弥生土器	壺	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂多量				7.5YR3/1黒褐色～2.5Y8/2灰白色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	概5図3
38	弥生土器	壺	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂多量				10YR6/3にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
39	弥生土器	壺	11区　E-10 SD01上面	SD01上層	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
40	縄文土器	深鉢	水路西②区ＳＤ１０２掘り下げ		粗砂多量				10YR4/3にぶい黄褐色	8/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
41	弥生土器	甕	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂含				5YR6/6橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
42	弥生土器	甕	11区　（道路下）D･E-10 SD01	下層	粗砂多量				10YR7/3にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	
43	弥生土器	甕	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂多量				10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾊｹﾒ	
44	弥生土器	甕	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂多量				5YR4/8赤褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾊｹﾒ	
45	弥生土器	甕	11区　D･E-10 SD01	上層	粗砂多量				10YR5/3にぶい黄褐色	2/8		ﾊｹﾒ	
46	弥生土器	甕	11区（道路下）D･E-10 SD01	下層	細礫多量				5YR3/2暗赤褐色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹﾒ	ﾍﾗ描き沈線
47	弥生土器	甕	11区　E-10 SD01上面	SD01上層	粗砂多量				10YR3/3暗褐色	1/8	ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
48	弥生土器	甕	11区（道路下）D･E-10 SD01	下層	細礫多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	指おさえ後ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗ描き沈線

土器観察表（2）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
49	弥生土器	甕	11区　D·E-10 SD01	上層	粗砂含				5YR5/2灰褐色～10YR6/2灰黄褐色	2/8	口縁ヨコナデ，胴一部ハケメ	不明	概5図4
50	弥生土器	甕	11区　E-10 SD01上面	SD01上層	粗砂多量				10YR7/2にぶい黄橙色	1/8	不明	ハケメ	
51	弥生土器	甕	11区　E-10 SD01上面	SD01上層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	5/8	板ナデ	口縁ヨコナデ,胴ハケメ,底ヘラミガキ,ヘラ描き沈線	
52	弥生土器	甕	11区　D·E-10 SD01	上層	粗砂多量				10YR7/4にぶい黄橙色	1/8	指おさえ後ナデ	マメツ	
53	弥生土器	甕	11区（道路下）D·E-10 SD01	下層	粗砂多量				10YR7/3にぶい黄橙色	1/8	ヘラミガキ	マメツ	
54	弥生土器	壺	11区（道路下）D·E-10 SD01	上層	粗砂多量				7.5YR3/3暗褐色	1/8	板ナデ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	
55	弥生土器	鉢	11区（道路下）D·E-10 SD01	上層	細礫多量				2.5Y8/2灰白色	1/8	マメツ	マメツ	半截竹管による沈線
56	弥生土器	鉢	11区　D·E-10 SD01	上層	細礫含				5Y8/1灰白色～10Y2/1黒色	2/8	ナデ	ハケメ後ナデ	概5図6
57	弥生土器	甕	12区（道路下）D-8 SD07	下層	粗砂多量				5YR7/6橙色	3/8	マメツ	ハケメ	
58	弥生土器	底部	11区　D·E-10 SD01	上層	細礫含				5YR4/6赤褐色	4/8	ハケメ	マメツ	
59	弥生土器	底部	11区（道路下）D·E-10 SD01	下層	粗砂含				7.5YR4/2灰褐色	1/8	マメツ	マメツ	
60	弥生土器	甑	11区（道路下）D·E-10 SD01	下層	粗砂多量				10R6/4にぶい赤橙色	4/8	指おさえ後ナデ	ハケメ	
61	弥生土器	底部	11区　D·E-10 SD01	上層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	5/8	マメツ	マメツ	
62	弥生土器	底部	11区　D-10 SD01西畦	上層	細礫多量				7.5YR8/3浅黄橙色	6/8	マメツ	マメツ	
63	弥生土器	底部	11区　D·E-10 SD01東畦	上面	粗砂多量				2.5YR6/3にぶい黄色	5/8	ヘラミガキ	ハケメ後ミガキ	
64	弥生土器	底部	11区　D·E-10 SD01東畦	上面	粗砂多量	中砂含			2.5Y6/2灰黄色	1/8	板ナデ	ハケメ後板ナデ	
65	弥生土器	底部	11区　D·E-10 SD01	上層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	5/8	マメツ	マメツ	
66	弥生土器	壺	11区　D·E-10 SD01	上層	粗砂多量				2.5YR5/8明赤褐色	6/8	マメツ	ヘラミガキ	
72	弥生土器	壺	東水路②区 J-4 SP22		粗砂多量	粗砂多量			10YR4/2灰黄褐色	1/8	マメツ	マメツ	
78	弥生土器	壺	Ⅸ区 H·I-4 SH01		粗砂多量				10YR6/3にぶい黄橙色	2/8	頸ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，頸～胴ハケメ	
79	弥生土器	壺	Ⅸ区 H·I-4 SH01		粗砂含	粗砂含	粗砂少量		10YR4/2灰黄褐色	1/8	マメツ	ヨコナデ	
80	弥生土器	壺	Ⅸ区 H·I-4 SH01		粗砂含	粗砂少量			7.5YR7/4にぶい橙色	1/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ	
81	弥生土器	甕	Ⅸ区 H·I-4 SH01		粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		7.5YR5/4にぶい褐色	1/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ	
82	弥生土器	甕	Ⅸ区 H·I-4 SH01内 SK01		粗砂少量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	マメツ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	

土器観察表（3）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
83	弥生土器	壺	Ⅸ区 H･I-4 SH01内 SP18		粗砂多量				10YR6/4にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	口縁内面２条櫛描斜格子文
84	弥生土器	底部	Ⅸ区 H･I-4 SH01内 SP35		粗砂多量				2.5YR5/6明赤褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
85	紡錘車		Ⅸ区 H-4 SH01内 SP01		粗砂多量				10YR2/2黒褐色	7/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
86	紡錘車		Ⅸ区 H･I-4 SH01内 SK01		粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		10YR6/3にぶい黄橙色	8/8			
87	紡錘車		Ⅸ区 H･I-4 SH01		粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	8/8			
105	弥生土器	壺	Ⅱ区 G･H-4 SP07 方形掘り形		粗砂多量	粗砂多量			10YR4/6褐色	5/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
107	弥生土器	壺	Ⅸ区 I-4 SK03		粗砂多量				5YR4/2灰褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
108	弥生土器	甕	Ⅸ区 I-4 SK03		粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
110	弥生土器	壺	Ⅸ区 I-5 SK04		粗砂多量				10YR8/4浅黄橙色	3/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
111	弥生土器	壺	Ⅸ区 I-5 SK04		粗砂多量				10YR7/2にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
112	弥生土器	壺	Ⅸ区 I-5 SK04		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR4/6褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
113	弥生土器	甕	Ⅸ区 I-5 SK04		粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		7.5YR5/6明褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
114	弥生土器	壺	西水路④区B-7 SK01		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR5/4にぶい褐色	5/8	口縁ﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸～胴上半ﾊｹﾒ,胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
115	弥生土器	壺	西水路④区B-7 SK01		粗砂多量				10YR6/2灰黄褐色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指ﾅﾃﾞ，下半ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	概報６図１
116	弥生土器	甕	西水路④区B-7 SK01		粗砂含				10YR7/3にぶい黄橙色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ･下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	連続刺突文後ﾊｹﾒ
120	弥生土器	壺	11区 D-10 SD04		粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	6/8	胴上半指おさえ，他はﾏﾒﾂ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	櫛描直線文条数不明
121	弥生土器	壺	12区（道路下）D-9 SD15		粗砂多量	粗砂多量			5YR4/6赤褐色	3/8	胴上半指おさえ，下半板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ,胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
122	弥生土器	壺	12区 E-9 SD08		粗砂多量				5YR7/6橙色	3/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
123	弥生土器	甕	12区 E-9 SD08		粗砂多量				7.5YR6/4にぶい橙色	6/8	胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
124	弥生土器	壺	Ⅰ区H9･G9 SR01ﾄﾚﾝﾁ	D層	粗砂含	粗砂含			7.5YR3/1黒褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	上段刺突文 不連続
125	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
126	弥生土器	壺	Ⅰ区H9･G9 SR01ﾄﾚﾝﾁ	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	

土器観察表（4）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
127	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･H9 SR01ﾄﾚﾝﾁ②		粗砂多量	粗砂多量			10YR6/3にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
128	弥生土器	壺	Ⅰ区G11 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/2黒褐色	5/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
129	弥生土器	壺	Ⅰ区G10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR6/3にぶい黄橙色	3/8	ﾏﾒﾂ	胴上半ﾊｹﾒ；下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
130	弥生土器	壺	Ⅰ区G11 SR01 中央畦	D層	粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	4/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
131	弥生土器	壺	Ⅰ区G10･G11 SR01	D層	粗砂多量	細砂少量			10YR4/2灰黄褐色	1/8	ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	不明	
132	弥生土器	壺	Ⅰ区G11 SR01	D層	粗砂多量				5Y8/2灰白色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
133	弥生土器	壺	Ⅰ区H9･G9 SR01ﾄﾚﾝﾁ	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y5/3灰オリーブ色	4/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
134	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
135	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	頸ﾊｹﾒ	
136	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･G10･H9･H10 SR01北畦	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR5/3にぶい黄褐色	3/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
137	弥生土器	壺	Ⅰ区G10 SR01	C層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
138	弥生土器	壺	Ⅰ区G10 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	3/8	頸ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
139	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･H9 SR01ﾄﾚﾝﾁ②		粗砂多量	粗砂少量			2.5Y5/2暗灰黄色	1/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	円形浮文の数不明
140	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･H9 SR01ﾄﾚﾝﾁ②		粗砂多量				10YR8/3浅黄橙色	4/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
141	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･H9 SR01ﾄﾚﾝﾁ②		粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
142	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･H9 SR01ﾄﾚﾝﾁ②		粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
143	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	2/8	胴板ﾅﾃﾞ	不明	
144	弥生土器	壺	Ⅰ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	5/8	胴ﾊｹﾒ,底ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
145	弥生土器	底部	Ⅰ区G10 SR01	D層	粗砂多量				7.5YR8/3浅黄橙色	3/8	板ﾅﾃﾞ		
146	弥生土器	底部	Ⅰ区G9･H9 SR01ﾄﾚﾝﾁ②		粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	5/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
147	弥生土器	甕	Ⅰ区G9･G10･H9･H10 SR01北畦	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
148	弥生土器	甕	Ⅰ区G10 SR01	C層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	胴ﾊｹﾒ	
149	弥生土器	甕	Ⅰ区G11 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR4/2灰黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，底板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，底ﾍﾗﾐｶﾞｷ	

土器観察表（5）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
150	弥生土器	甕	Ⅰ区G9・G10・H9・H10 SR01北畦	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ， 胴ハケメ	口縁ヨコナデ， 胴ハケメ	
151	弥生土器	甕	Ⅰ区G9・G10・H9・H10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y5/2暗灰黄色	2/8	口縁ヨコナデ， 胴ハケメ	胴上部櫛描直線文の可能性	
152	弥生土器	甕	Ⅰ区G9・G10・H9・H10 SR01北畦	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ， 胴ハケメ	
153	弥生土器	甕	Ⅰ区G9・G10・H9・H10 SR02北畦		粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	6/8	不明	ヘラミガキ	
154	弥生土器	壺	Ⅰ区G9・H9 SR01トレンチ②		粗砂含				2.5Y6/2灰黄色	1/8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
155	弥生土器	鉢	Ⅰ区G9・H9 SR01トレンチ②		粗砂含	粗砂含			10YR4/2灰黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ,胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ,胴ハケメ後下部ヘラミガキ	
156	弥生土器	鉢	Ⅰ区H9・G9 SR01トレンチ	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ハケメ	ヨコナデ	
157	弥生土器	鉢	Ⅰ区G9・G10・H9・H10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/2黒褐色	1/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ	
158	弥生土器	底部	Ⅰ区G11 SR01 中央畦	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	4/8	マメツ	マメツ	穿孔2孔1組で2組
159	弥生土器	高杯	Ⅰ区G9・G10・H9・H10 SR01	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	体ヘラミガキ	マメツ	
160	弥生土器	鉢	Ⅰ区G9・H9 SR01トレンチ②		粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	1/8	ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ， 体ヘラミガキ	
161	弥生土器	脚	Ⅰ区H9・G9 SR01トレンチ	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	脚端ヨコナデ	脚端ヨコナデ	
162	弥生土器	脚部	Ⅰ区H9・G9 SR01トレンチ	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	2/8	脚端ヨコナデ	脚端ヨコナデ	透孔4
163	弥生土器	鉢	Ⅰ区G9・H9 SR01トレンチ②		粗砂多量	粗砂多量			5Y3/2オリーブ黒色	1/8	ヘラミガキ	口縁ヨコナデ， 体ヘラミガキ	
164	弥生土器	蓋	Ⅰ区G9・G10・H9・H10 SR01	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	6/8	不明	不明	
165	紡錘車		Ⅰ区G11 43トレンチ再掘削		粗砂多量				7.5YR3/3暗褐色	7/8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
166		椀	Ⅰ区G11 SR01	D層	粗砂含				2.5Y3/3暗オリーブ褐色	1/8	不明	不明	
167	土師器	杯	Ⅰ区G10 SR01	C層				砂粒含まず	5Y7/2灰白色	1/8	回転ナデ	回転ナデ	
168	土師器	甕	Ⅰ区G9・G10・H9・H10 SR01	C層	粗砂多量				7.5YR8/3浅黄橙色	2/8	マメツ	マメツ	
169	須恵器	杯	Ⅰ区G9・H10・H9・H10 SR01	C層					N7/0灰白色	1/8	回転ナデ	回転ナデ	
170	須恵器	瓶	Ⅰ区G9・G10・H9・H10 SR01	C層				砂粒含まず	5PB3/1暗青灰色	1/8	回転ナデ	回転ナデ	
171	黒色土器A類	椀	Ⅰ区G9・H10・H9・H10 SR01	C層				粗砂少量	2.5YR5/6明赤褐色	2/8	ヘラミガキ	回転ナデ	

土器観察表（6）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
172	瓦器	椀	Ⅰ区G10･G11 SR01	C層				砂粒含まず	N3/0暗灰色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾍﾗﾐｶﾞｷ,体指おさえ	
173	中国産白磁	Ⅲ	Ⅰ区G9･G10･G11･H9･H10･H11 上面がりかけ	A層（淡灰茶色シルト層）				砂粒含まず	5Y8/1灰白色	2/8	施釉	底面以外施釉	
174	中国産白磁	椀	Ⅰ区G10,G11,H10,H11	A層				砂粒含まず	5GY8/1灰白色	1/8	施釉	施釉	
175	中国産青磁	椀	Ⅰ区H9	A層（淡灰茶色シルト層）				砂粒含まず	7.5GY6/1緑灰色	3/8	施釉	高台畳付及び内面無釉	
205	弥生土器	甕	Ⅲ区G9･H9 SR01（東肩近く･写真あり）	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	3/8	ﾏﾒﾂ	板ﾅﾃﾞ	ヘラ描沈線５条
206	弥生土器	鉢	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂含				5Y6/2灰オリーブ色	2/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
207	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	8条櫛描直線文3段
208	弥生土器	甕	Ⅲ区G9･H9 SR01（南畦畔）	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	2/8	胴板ﾅﾃﾞ	胴ﾊｹﾒ	
209	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8		ﾊｹﾒ	
210	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/1黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
211	弥生土器	壺	予備調査11ﾄﾚﾝﾁSR	第⑧層 濁青灰色粘土	粗砂含	細砂含			2.5Y3/1黒褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
212	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01（中央畦）一個体･写真あり	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	7/8	ﾊｹﾒ後底部ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
213	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01（中央畦）一個体	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	6/8	胴ﾊｹﾒ	頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
214	弥生土器	底部	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR2/2黒褐色	4/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
215	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量				5Y5/3灰オリーブ色	3/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
216	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01（中央畦）	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR4/3褐色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
217	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01（中央畦）	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y3/1黒褐色	3/8	口頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	口頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	
218	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01（調査区南畦･SD03の下）	D層	粗砂多量				10YR3/2黒褐色	4/8	ﾏﾒﾂ	頸～胴ﾊｹﾒ	
219	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01（中央畦）	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半板ﾅﾃﾞ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
220	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01（南畦･SD03の畦除去）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
221	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR5/4にぶい赤褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
222	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR2/1黒色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	

土器観察表（7）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
223	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	2/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
224	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y6/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
225	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ，胴ﾏﾒﾂ	
226	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y3/1オリーブ黒色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴連続刺突文後ﾍﾗﾐｶﾞｷ
227	弥生土器	壺	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			10YR5/2灰黄褐色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
228	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂含				2.5Y6/2灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
229	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ後胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
230	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			5Y5/2灰オリーブ色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
231	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01(南畦畔)	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
232	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	2条櫛描斜格子文
233	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)一個体	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ，胴上半ﾊｹﾒ･下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
234	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	粗砂少			2.5Y3/1黒褐色	3/8	ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
235	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/2暗灰黄色	2/8	不明	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
236	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y3/1黒褐色	6/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
237	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
238	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	6/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	透孔不貫通
239	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01(南畦･SD03の畦除去)	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y6/2灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
240	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	3/8	ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	破片の位置関係は任意。
241	弥生土器	壺	Ⅲ区G9･H9 SR01(南畦･SD03の畦除去)	D層	粗砂含	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
242	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y3/3暗オリーブ褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾅﾃﾞ	胴ﾊｹﾒ	

土器観察表（8）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
243	弥生土器	無頸壺	予備調査11ﾄﾚﾝﾁSR	第⑧層 濁青灰色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ,底ﾅﾃﾞ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁部に底部と対応する位置に2孔1組の穿孔あり。7組の棒状浮文
244	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	指おさえ後板ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	10条櫛描直線文，3条斜格文，上から順に施文
245	弥生土器	壺	Ⅲ区G9・G10・H9・H10 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y3/2黒褐色	1/8	不明	ﾏﾒﾂ	
246	弥生土器	壺	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y3/2黒褐色	2/8	ﾅﾃﾞ	胴上半ﾊｹﾒ，下半板ﾅﾃﾞ	
247	弥生土器	壺	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量				10YR3/2黒褐色	7/8	胴下半板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
248	弥生土器	壺	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量				10YR3/1黒褐色	2/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
249	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)一個体	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	器高はやや不確実
250	弥生土器	壺	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量				5Y5/2灰オリーブ色	3/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
251	弥生土器	壺	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y3/2黒褐色	2/8	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
252	弥生土器	壺	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂含				5Y6/3オリーブ黄色	4/8	板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
253	弥生土器	壺	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y7/2灰白色	3/8	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
254	弥生土器	甕	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾏﾒﾂ	
255	弥生土器	甕	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂少				2.5Y3/2黒褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
256	弥生土器	甕	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
257	弥生土器	甕	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR2/1黒色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
258	弥生土器	甕	Ⅲ区G9・H9 SR01(南畦・SD03の畦除去)	D層	粗砂多量				2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	不明	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
259	弥生土器	甕	Ⅲ区G9・H9 SR01(南畦・SD03の畦除去)	D層	粗砂多量	粗砂少量			5Y6/3オリーブ黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴上半ﾊｹﾒ後板ﾅﾃﾞ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半板ﾅﾃﾞ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	貝殻による連続刺突文
260	弥生土器	甕	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量				10YR6/3にぶい黄橙色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
261	弥生土器	甕	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y5/2灰オリーブ色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
262	弥生土器	甕	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半板ﾅﾃﾞ状ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
263	弥生土器	甕	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		10YR6/4にぶい黄橙色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
264	弥生土器	甕	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR2/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	

土器観察表（9）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
265	弥生土器	甕	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	細砂含	粗砂含			10YR3/2黒褐色	1/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
266	弥生土器	甕	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	4/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
267	弥生土器	底部	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	6/8	ヘラミガキ	ハケメ	
268	弥生土器	甕	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	7/8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
269	弥生土器	甕	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y5/2暗灰黄色	4/8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外面すす付着
270	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)一個体	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	板ナデ	ヘラミガキ	
271	弥生土器	鉢	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR2/3黒褐色	7/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	
272	弥生土器	鉢	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR7/3にぶい黄橙色	5/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	器高はやや不確実
273	弥生土器	鉢	Ⅲ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ヨコナデ，体上半板ナデ下半ケズリ状ナデ，底ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ，底ナデ	
274	弥生土器	鉢	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR3/2黒褐色	1/8	口縁ヨコナデ，体板ナデ	口縁ヨコナデ，体ハケメ	
275	弥生土器	鉢	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口縁ヘラミガキ，体ナデ後ヘラミガキ	体上半ナデ，体下半ヘラミガキ	
276	弥生土器	底部	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR3/3暗褐色	7/8	不明	ヘラミガキ	
277	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区H8 SR01(中央畦･土器密集部･写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR2/1黒色	1/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体マメツ	
278	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂含				2.5Y7/3浅黄色	2/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	
279	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量				5Y5/2灰オリーブ色	1/8	口縁ヨコナデ，体ナデ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
280	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ，脚板ナデ	
281	弥生土器	台付鉢	予備調査11トレンチSR	第⑧層 濁青灰色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ,体ヘラミガキ	
282	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区H8 SR01(中央畦･土器密集部･写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	6/8	体ハケメ後ヘラミガキ，脚ヨコナデ	ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
283	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y5/2灰オリーブ色	6/8	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ，脚下半ヨコナデ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ，脚上部板ナデ	
284	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	6/8	マメツ	体ヘラミガキ，脚ハケメ後ヨコナデ	

土器観察表（10）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
285	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	6/8	体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾍﾗｹｽﾞﾘ,脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	体～脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
286	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量				10R5/4赤褐色	4/8	体ﾊｹﾒ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚板ﾅﾃﾞ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	四方透し
287	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区G9･H9 SR01(南畦･SD03の畦除去)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/2黒褐色	1/8	板ﾅﾃﾞ,脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
288	弥生土器	底部	Ⅲ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	7/8	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
289	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	3/8	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾖｺﾅﾃﾞ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾖｺﾅﾃﾞ	
290	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	291と同一個体
291	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y3/2黒褐色	1/8	ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	290と同一個体
292	弥生土器	脚部	Ⅲ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/1黄灰色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
293	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区G9･H9 SR01(南畦･SD03の畦除去)	D層	細砂含				7.5YR3/1黒褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
294	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量				10YR2/2黒褐色	1/8	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾏﾒﾂ	透孔不貫通
295	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区G9･G10･H9･H10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	体板ﾅﾃﾞ，脚ﾖｺﾅﾃﾞ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	透孔14
296	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾍﾗｹｽﾞﾘ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ,脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	透孔不貫通
297	弥生土器	高杯	Ⅲ区H8 SR01(中央畦･土器密集部･写真あり)	D層	粗砂多量				2.5Y3/1黒褐色	6/8	杯板ﾅﾃﾞ，脚板ﾅﾃﾞ後ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ杯～脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ	穿孔口縁１孔のみ残存，脚部に２孔１組の穿孔が２組
298	弥生土器	高杯	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量				5Y5/2灰オリーブ色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	６方透かし
299	弥生土器	高杯	Ⅲ区G9･H9 SR01(南畦･SD03の畦除去)	D層	粗砂多量	粗砂少			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，底ﾍﾗﾐｶﾞｷ	底ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
300	弥生土器	高杯	Ⅲ区G9･H9 SR01(南畦畔)	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	7/8	底ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾏﾒﾂ	
301	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01	D層	細砂含	細砂含			5Y6/2灰オリーブ色	8/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
302	弥生土器	鉢	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y4/3暗オリーブ色	7/8	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，外底ﾖｺﾅﾃﾞ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底ﾖｺﾅﾃﾞ	
303	弥生土器	脚部	Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量				10YR2/2黒褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
304	紡錘車		Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	8/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
305	紡錘車		Ⅲ区G9･H9 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	5/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
306	紡錘車		Ⅲ区G9･H9 SR01(南畦･SD03の畦除去)	D層	細砂含				10YR3/2黒褐色	8/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
307	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	ﾖｺﾅﾃﾞ	

土器観察表（11）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
308	弥生土器	壺	Ⅲ区G9・G10・H9・H10 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ;下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ後胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
309	弥生土器	甕	Ⅲ区G9・H9 SR01(南畦・SD03の畦除去)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
310	弥生土器	底部	Ⅲ区 SR01	D層	粗砂含	細砂含	粗砂含		10YR4/2灰黄褐色	2/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
311	弥生土器	高杯	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
312	土師器	椀	Ⅲ区G9・H9 SR01(SD03の畦)	C'層				細砂少	2.5Y7/3浅黄色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	回転ﾅﾃﾞ	
313	須恵器	杯	Ⅲ区G9・H9 SR01(SD03の畦)	C'層				粗砂少量	5Y8/1灰白色	2/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ，底回転ﾍﾗｷﾘ後ﾅﾃﾞ	
314	須恵器	杯	Ⅲ区G9・H9 調査区南畦	C'層				粗砂含	2.5Y8/1灰白色	2/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ，底ﾍﾗｷﾘ	
315	須恵器	甕	Ⅲ区H8 SR01(中央畦)	C'層				粗砂含	5PB6/1青灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
316	須恵器	鉢	Ⅲ区G9・H9 SR01 (SD03の畦)	C'層				粗砂含	5Y7/1灰白色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
317	弥生土器	甕	Ⅲ区G9・H9 SR01	C層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
318	不明		Ⅲ区G9・H9 SR01	C層	粗砂少量				2.5Y6/3にぶい黄色	8/8		ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
319	須恵器	杯	Ⅲ区G9・H9 SR01	C層				粗砂含	10Y4/1灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	径やや不確実
320	土師器	杯	Ⅲ区G9	B・C層				粗砂含	10YR8/3浅黄橙色	4/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ，底回転ﾍﾗｷﾘ	
321	須恵器	壺	Ⅲ区H7・H8 ｶﾞﾘｶｹ(B層下の礫の上面)					粗砂含	N7/0灰白色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
322	土師器	小皿	Ⅲ区G9 南壁ﾄﾚﾝﾁ	B層				細砂含	2.5Y6/4にぶい黄色	2/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
323	土師器	小皿	Ⅲ区G9・H9	B層				砂粒含まず	2.5Y7/2灰黄色	6/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,底回転ﾍﾗｷﾘ	
324	須恵器	杯	Ⅲ区G8・H8 中央畦	B層				粗砂含	5Y8/1灰白色	4/8	回転ﾅﾃﾞ，中心部ﾅﾃﾞ	回転ﾍﾗｷﾘ後ﾅﾃﾞ	墨書。
325	黒色土器A類	椀	Ⅲ区G9・H9	B層				粗砂少	5Y7/2灰白色	1/8	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底ﾖｺﾅﾃﾞ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底ﾖｺﾅﾃﾞ	
326	緑釉陶器	椀	Ⅲ区G8・G9・H8・H9 B層上面ｶﾞﾘｶｹ						5PB7/1明青灰色	1/8	施釉	高台内面無釉	削り出し高台
416	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR6/3にぶい黄橙色	2/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾏﾒﾂ	
417	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y6/2灰黄色	2/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	

土器観察表（12）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
418	弥生土器	甕	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR7/3にぶい黄橙色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	不明	破片の位置関係は不確実，6条櫛描文
419	弥生土器	甕	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	2/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	不明	
420	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
421	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR6/3にぶい褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
422	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/1黒褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
423	弥生土器	壺	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，底板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
424	弥生土器	壺	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	3/8	胴板ﾅﾃﾞ	胴上半ﾊｹﾒ,下半ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
425	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01(12)	D層	粗砂含				2.5Y6/1黄灰色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸～胴ﾊｹﾒ	約11条の櫛描文
426	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01(4)	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	頸ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
427	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01中央畦のすぐ北（ひとまとまり3 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂多量			10R6/4にぶい赤橙色	7/8	胴板ﾅﾃﾞ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
428	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	
429	弥生土器	壺	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				7.5YR6/2灰褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
430	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01(5)	D層	粗砂少量	粗砂少量			10YR2/2黒褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
431	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01(2)	D層	粗砂多量				10YR5/2灰黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
432	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり12 写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR4/2灰黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
433	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	細砂少			2.5YR4/2灰赤色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
434	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂含				7.5YR5/3にぶい褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
435	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8 SR01(ひとまとまり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y3/1オリーブ黒色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾊｹﾒ	
436	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR3/1黒褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
437	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01(ひとまとまり 写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR6/4にぶい黄橙色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
438	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
439	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
440	弥生土器	壺	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁端ﾖｺﾅﾃﾞ，口縁下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	頸部突帯に爪形の痕跡

土器観察表（13）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
441	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR6/6橙色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
442	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･I7 SR01（ひとまとまり 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	3/8	口頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ,胴ﾊｹﾒ,底ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
443	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
444	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/4にぶい黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
445	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
446	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	6/8	胴指おさえ後ﾊｹﾒ	頸～胴上半ﾊｹﾒ,胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
447	弥生土器	壺	Ⅶ区H7 SR01（写真あり No.3）	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR7/4にぶい黄橙色	8/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
448	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01（土器集中部 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y4/2灰オリーブ色	6/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ，底ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
449	弥生土器	壺	Ⅶ区H7 SR01（写真あり No.4）	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾅﾃﾞ，胴下半ﾊｹﾒ	頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
450	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂含				2.5Y8/2灰白色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
451	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01（土器集中部 写真あり）	D層	粗砂含				2.5Y6/2灰黄色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
452	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01（12）	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y8/1灰白色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	９条櫛描文
453	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量				10YR8/3浅黄橙色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	１０条櫛描直線文波状文，５条櫛描斜格子文
454	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR4/2灰黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
455	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		10YR5/3にぶい黄褐色	5/8	口縁ﾊｹﾒ，口縁端ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
456	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01（土器集中部 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR8/3浅黄橙色	5/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
457	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR8/2灰白色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
458	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量				5Y8/1灰白色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
459	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量				7.5YR6/4にぶい橙色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ頸ﾅﾃﾞ	
460	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR8/3浅黄橙色	2/8	ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
461	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/2暗灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	

土器観察表（14）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
462	弥生土器	壺	Ⅶ区H6・I6 SR01（調査区北壁ﾄﾚﾝﾁ掘削）	D層	粗砂含				7.5YR8/4浅黄橙色	1/8	ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
463	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01	D層	粗砂多量				7.5YR8/3浅黄橙色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
464	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
465	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y7/2灰黄色	8/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
466	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01（土器集中部 写真あり）	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	8/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
467	弥生土器	壺	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR8/4浅黄橙色	1/8	口縁ﾍﾗﾐｶﾞｷ，口縁端部ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
468	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
469	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR7/3にぶい黄橙色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
470	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
471	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/4オリーブ褐色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴上半指おさえ,下半ﾅﾃﾞ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
472	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR4/3にぶい赤褐色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
473	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01（8）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	3/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
474	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり16 写真あり）	D層	粗砂含	粗砂含			5Y3/2オリーブ黒色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
475	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり30 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
476	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	
477	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			5Y7/2灰白色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ．	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
478	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾊｹﾒ，頸ﾊｹﾒ	
479	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
480	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01（ひとまとまり 写真あり）	D層	粗砂含				2.5Y6/2灰黄色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
481	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01 （ひとまとまり17 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ	

土器観察表（15）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
482	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
483	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
484	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾅﾃﾞ後しぼり目	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半ﾊｹﾒ	
485	弥生土器	壺	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y6/2灰黄色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
486	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
487	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y3/1黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
488	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01(14)	D層	粗砂含				10YR8/3浅黄橙色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
489	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
490	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01(4)	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR6/3にぶい黄橙色	5/8		口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
491	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	不明	
492	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	孔，３孔１組のみ残存
493	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
494	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y8/3淡黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾖｺﾅﾃﾞ	穿孔２孔１組のみ残存
495	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01(土器集中部 写真あり)	D層	粗砂多量				10YR8/2灰白色	5/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	2条櫛描斜格子文
496	弥生土器	壺	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
497	弥生土器	壺	Ⅶ区H6・I6 SR01(調査区北壁ﾄﾚﾝﾁ掘削)	D層	粗砂含	粗砂少量			2.5YR2/1赤黒色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
498	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/2灰黄褐色	3/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ頸ﾊｹﾒ	
499	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
500	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01 中央畦北面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量				10YR3/2黒褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
501	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR4/2灰褐色	3/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	胴上部櫛描文
502	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり2 写真あり)	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	5/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴指押さえ・ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
503	弥生土器	壺	Ⅶ区I6・I7 SR01(14)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	６条櫛描直線文・波状文，２条櫛描斜格子文

土器観察表（16）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
504	弥生土器	壺	Ⅶ区I6·I7 SR01(1)	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y5/3黄褐色	3/8	頸ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
505	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01(土器集中部 写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/4黄褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
506	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01(集石遺構より出土 図面写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂含			7.5YR8/4浅黄橙色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
507	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8·I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
508	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8·I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
509	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり30 写真あり)	D層	粗砂多量				10YR5/2灰黄褐色	3/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
510	弥生土器	壺	Ⅶ区I6·I7 SR01(14)	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y7/3浅黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	頸突帯連続刺突後ﾊｹﾒ
511	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
512	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴ﾊｹﾒ	棒状浮文8
513	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8·I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
514	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR5/4にぶい赤褐色	6/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
515	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y7/2灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	
516	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR8/3浅黄橙色	3/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
517	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			7.5YR8/4浅黄橙色	4/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
518	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量				2.5Y7/1灰白色	2/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
519	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8·I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	6/8	口頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
520	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8·I7 SR01(写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	胴上端8条以上の櫛描直線文
521	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり7 写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y4/2灰オリーブ色	7/8	ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	半截竹管による斜格子文
522	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR5/3にぶい黄褐色	6/8	ﾏﾒﾂ	頸ﾊｹﾒ	
523	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR5/4にぶい黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
524	弥生土器	壺	Ⅲ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
525	弥生土器	壺	Ⅶ区H7·H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
526	弥生土器	壺	Ⅶ区H8·I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/2灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	

土器観察表（17）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
527	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01（土器集中部 写真あり）	D層	粗砂含	細砂多量			2.5Y5/2暗灰黄色	2/8	板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	4条以上の櫛描原体連続刺突文後ﾊｹﾒ
528	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
529	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
530	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ	
531	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y3/2黒褐色	4/8	胴上半板ﾅﾃﾞ，下半ﾊｹﾒ	胴上半板ﾅﾃﾞ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	連続刺突文後板ﾅﾃﾞ
532	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	ﾊｹﾒ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
533	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01（東肩近く）（写真あり No.9）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y8/2灰白色	5/8	胴ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	連続刺突文後ﾊｹﾒ
534	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	6/8	上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
535	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01（ひとまとまり 写真あり）	D層	粗砂多量				2.5Y7/1灰色白	6/8	胴ﾊｹﾒ，底指ﾅﾃﾞ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底ﾖｺﾅﾃﾞ	
536	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR7/2にぶい黄橙色	2/8	ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ	
537	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01（ひとまとまり 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	3/8	胴ﾊｹﾒ，底ﾅﾃﾞ	胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
538	弥生土器	壺	Ⅶ区H7 SR01（写真あり No.6）	D層	粗砂多量				10YR4/1褐灰色	5/8	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ，低ﾅﾃﾞ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
539	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y7/3浅黄色	6/8	板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
540	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり9 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	6/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
541	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	4/8	底ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
542	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	5/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
543	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
544	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y7/2灰黄色	2/8	底ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
545	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
546	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			5Y3/2オリーブ黒色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	頸ﾊｹﾒ	
547	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01(5)	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	4/8	ﾏﾒﾂ	ﾊｹﾒ	
548	弥生土器	壺	Ⅶ区H6･I6 SR01（調査区北壁ﾄﾚﾝﾁ掘削）	D層	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	2/8	板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
549	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/2灰黄色	7/8	ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
550	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり17 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y7/3浅黄色	3/8	胴指おさえ後ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半・胴中央ﾍﾗﾐｶﾞｷ	

土器観察表（18）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
551	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01(1)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	指おさえ後板ﾅﾃﾞ	頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	櫛描原体連続刺突文後ﾍﾗﾐｶﾞｷ
552	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR4/1褐灰色	2/8	ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ	
553	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･I7 SR01(ひとまとまり 写真あり)	D層	粗砂多量				10YR8/4浅黄橙色	2/8	ﾏﾒﾂ	頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
554	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂含				10YR2/3黒褐色	1/8	板ﾅﾃﾞ	不明	9条櫛描文
555	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01(5)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR2/2黒褐色	1/8	板ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	8～10条櫛描直線・波状文,4条斜格子文
556	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	不明	頸ﾖｺﾅﾃﾞ	11条櫛描直線文
557	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01(10)	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	2/8	ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	12条櫛描直線文,波状文,4条櫛描斜格子文,上から2段目と3段目の櫛描直線文の間隔はやや不確実
558	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･I7 SR01（ひとまとまり）	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR6/2灰黄褐色	1/8	ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
559	弥生土器	体部	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり15 写真あり)	D層	粗砂多量				7.5YR3/1黒褐色	2/8	ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹﾒ原体状の工具による櫛描文
560	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	2/8	ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	4条櫛描斜格子文，6条櫛描直線文
561	弥生土器	壺	Ⅶ区H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y8/2灰白色	1/8	板ﾅﾃﾞ	不明	
562	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	5/8	胴ﾊｹﾒ，底板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
563	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01(東肩近く)（写真あり No.9）	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		10YR5/4にぶい黄褐色	6/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
564	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂含				2.5Y6/2灰黄色	2/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
565	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01(集石遺構より出土 図面写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/2灰黄色	6/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
566	弥生土器	底部	Ⅶ区H8 SR01(土器集中部 写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	5/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ後底端ﾖｺﾅﾃﾞ	
567	弥生土器	底部	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	3/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
568	弥生土器	底部	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	6/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
569	弥生土器	底部	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	胴ﾊｹﾒ，底ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
570	弥生土器	底部	Ⅶ区H7･I7 SR01（ひとまとまりで出土）	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
571	弥生土器	底部	Ⅶ区H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
572	弥生土器	底部	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	5/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
573	弥生土器	底部	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
574	弥生土器	底部	Ⅶ区I6･I7 SR01(1)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	4/8	ﾊｹﾒ後底ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	

土器観察表（19）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
575	弥生土器	壺	Ⅶ区H7 SR01(写真あり No.3)	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	3/8	板ﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
576	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01(10)	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	ﾊｹﾒ	ﾏﾒﾂ	
577	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	板ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ後胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	3条櫛描原体連続刺突文後ﾊｹﾒ
578	弥生土器	壺	Ⅶ区H8 SR01(土器集中部 写真あり)	D層	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	6/8	指おさえ後板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	連続刺突文後ﾍﾗﾐｶﾞｷ
579	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂含				10YR2/2黒褐色	2/8	胴板ﾅﾃﾞ，底ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
580	弥生土器	底部	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂含				10YR6/1褐灰色	6/8	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
581	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂少量				10YR5/2灰黄褐色	2/8	胴板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
582	弥生土器	壺	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/1黄灰色	3/8	ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	不明	
583	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂含				2.5Y7/3浅黄色	5/8	しぼり目後ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
584	弥生土器	壺	Ⅶ区H7･I7 SR01	D層	粗砂含				2.5Y7/3浅黄色	2/8	板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
585	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･I7 SR01(ひとまとまり)	D層	粗砂含	粗砂少			10YR4/2灰黄褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
586	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01(10)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR3/1黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
587	弥生土器	甕	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
588	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量				5YR6/6橙色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
589	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
590	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/1黒褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
591	弥生土器	甕	Ⅶ区H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
592	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01(集石遺構より出土 図面写真あり)	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
593	弥生土器	甕	Ⅶ区H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴板ﾅﾃﾞ	
594	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01(10)	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
595	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR6/3にぶい黄橙色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
596	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
597	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01(14)	D層	粗砂含				2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁～胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
598	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01(集石遺構より出土 図面写真あり)	D層	粗砂少量	粗砂含			2.5Y5/4黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	

土器観察表（20）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
599	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01(8)	D層	粗砂少量				2.5Y6/2灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
600	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂含				2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
601	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01(4)	D層	粗砂含				2.5Y6/2灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
602	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR7/3にぶい橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
603	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR4/4にぶい赤褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
604	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
605	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
606	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
607	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴板ﾅﾃﾞ	
608	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	細砂含			10YR5/3にぶい黄褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
609	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y7/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
610	弥生土器	甕	Ⅶ区H8 SR01(ひとまとまりで出土)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
611	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂少量	粗砂含			10YR4/1褐灰色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 銅ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
612	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01(10)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
613	弥生土器	甕	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			5YR6/3にぶい橙色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	ﾏﾒﾂ	
614	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01(13)	D層	粗砂含	粗砂少量			2.5Y5/2暗灰黄色	1/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ, 胴板ﾅﾃﾞ	頸ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
615	弥生土器	甕	Ⅶ区H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				5Y6/2灰オリーブ色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
616	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･I7 SR01（ひとまとまり）	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
617	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･I7 SR01（ひとまとまり）	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR4/2灰黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
618	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり7写真あり)	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	
619	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5YR4/2暗灰黄色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ, 底ﾊｹﾒ後板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
620	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ, 胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
621	弥生土器	甕	Ⅶ区H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
622	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			5YR4/3にぶい赤褐色	3/8	口縁ヨコナデ	マメツ	
623	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり30 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	口縁ヨコナデ,胴板ナデ	口縁ヨコナデ,胴板ナデ	
624	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	2/8	ヨコナデ	ヨコナデ	
625	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR5/3にぶい黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ・胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ	
626	弥生土器	甕	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR5/6明赤褐色	1/8	マメツ	マメツ	
627	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01（1）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/2灰黄色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	
628	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり30 写真あり）	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
629	弥生土器	甕	Ⅶ区H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁ハケメ後ヨコナデ，胴ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
630	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂少量				2.5Y8/2灰白色	1/8	口縁ヨコナデ，頸ナデ	口縁ヨコナデ	
631	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ハケメ	口縁ヨコナデ	
632	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	1/8	マメツ	口縁ヨコナデ	
633	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR5/4にぶい褐色	5/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ,胴ハケメ	
634	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	5/8	口縁ヨコナデ，胴板ナデ	口縁ヨコナデ，胴上半ハケメ，下半ヘラミガキ	
635	弥生土器	甑	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり30 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/3オリーブ褐色	3/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	
636	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり15 写真あり）	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	7/8	口縁ヨコナデ,胴上半ハケメ，下半ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴上半ハケメ，下半ヘラミガキ	
637	弥生土器	甕	Ⅶ区H7 SR01（写真あり No.7）	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	口縁ヨコナデ，胴上半板ナデ，下半ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴上半ハケメ，下半ヘラミガキ	連続刺突文後ヘラミガキ
638	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR4/1褐灰色	2/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ後ヘラミガキ	
639	弥生土器	甕	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	
640	弥生土器	甑	Ⅶ区H7･I7 SR01（ひとまとまり 写真あり）	D層	粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	8/8	不明	ヘラミガキ後底端ヨコナデ	
641	弥生土器	甕	Ⅶ区I6･I7 SR01（8）	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR3/1黒褐色	3/8	不明	板ナデ	
642	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR3/2黒褐色	2/8	板ナデ	ヘラミガキ	
643	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR3/1黒褐色	3/8	板ナデ	ヘラミガキ	
644	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	胴上半ハケメ，下半ヘラミガキ	ヘラミガキ	
645	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR3/1黒褐色	3/8	ハケメ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	
646	弥生土器	甕	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y3/2黒褐色	3/8	板ナデ	ヘラミガキ	

土器観察表（22）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
647	弥生土器	壺	Ⅶ区H7・I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	胴ﾊｹﾒ，底ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
648	弥生土器	鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01(10)	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR5/4にぶい赤褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
649	弥生土器	鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01(3)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
650	弥生土器	鉢	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
651	弥生土器	鉢	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y6/2灰オリーブ色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
652	弥生土器	鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01(12)	D層	粗砂多量				10YR3/3暗褐色	7/8	ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
653	弥生土器	鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01	D層	粗砂含	粗砂少量			10YR4/2灰黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ	
654	弥生土器	鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01(14)	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR6/2灰黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ	
655	弥生土器	鉢	Ⅶ区H7・I7 SR01(中央畦)	D層	粗砂多量				2.5YR6/8橙色	4/8	底部ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
656	弥生土器	鉢	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量				5YR5/3にぶい赤褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
657	弥生土器	底部	Ⅶ区I6・I7 SR01(7)	D層	粗砂多量				2.5YR5/6明赤褐色	2/8	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	
658	弥生土器	鉢	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y3/2黒褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体中央板ﾅﾃﾞ，体下部ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
659	弥生土器	鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01	D層	粗砂多量				10YR2/2黒褐色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
660	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01(3)	D層	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
661	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり6写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
662	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・I7 SR01 中央畦北面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
663	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01(3)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
664	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
665	弥生土器	台付鉢	Ⅲ区G9・H9 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
666	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/1黄灰色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾏﾒﾂ	
667	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂多量	細砂少量			10YR4/2灰黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	

土器観察表（23）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
668	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂含	粗砂少量			10YR4/1褐灰色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
669	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7･I7 SR01（ひとまとまりで出土）	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
670	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I6･I7 SR01(14)	D層	粗砂多量	細砂含			10YR6/2灰黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
671	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I6･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y3/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
672	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7･I7 SR01(中央畦)	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
673	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I6･I7 SR01(13)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後分割ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
674	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I6･I7 SR01(4)	D層	粗砂多量				2.5Y6/4にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
675	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y3/1黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
676	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7･I7 SR01（ひとまとまり）	D層	粗砂多量				10YR7/3にぶい黄橙色	1/8	不明	ﾖｺﾅﾃﾞ	
677	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			7.5YR6/3にぶい褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
678	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり30写真あり)	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
679	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y3/3暗オリーブ褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
680	弥生土器	高杯	Ⅶ区H8 SR01(ひとまとまり 写真あり)	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	7/8	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	体～脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
681	弥生土器	高杯	Ⅶ区H7･I7 SR01中央畦南面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂含	粗砂含			2.5YR6/6橙色	3/8	脚上半ﾅﾃﾞ，脚下半ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
682	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I6･I7 SR01(2)	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR5/2灰黄褐色	5/8	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	体ﾊｹﾒ・ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚板ﾅﾃﾞ	
683	弥生土器	脚部	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂含	粗砂少量			10YR6/4にぶい黄橙色	2/8	脚上半ﾅﾃﾞ，下半ﾖｺﾅﾃﾞ	脚上半ﾍﾗﾐｶﾞｷ，下半ﾖｺﾅﾃﾞ	
684	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
685	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	7/8	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾖｺﾅﾃﾞ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚板ﾅﾃﾞ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
686	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7･H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	6/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
687	弥生土器	脚部	Ⅶ区H7･H8･I7 SR01	D層	粗砂多量				5Y7/2灰白色	2/8	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
688	弥生土器	脚部	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり2写真あり)	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
689	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり29写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR4/4にぶい赤褐色	7/8	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚指おさえ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ	

土器観察表（24）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
690	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり28 写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR5/4にぶい赤褐色	5/8	脚端ヨコナデ	脚ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
691	弥生土器	脚部	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y3/2オリーブ黒色	1/8	マメツ	マメツ	
692	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・I7 SR01中央畦南面トレンチ掘削	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	脚板ナデ，脚端ヨコナデ	ヘラミガキ	
693	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01(1)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	ナデ，脚端ヨコナデ	脚端ヨコナデ	
694	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR6/3にぶい黄橙色	2/8	ヘラケズリ，脚端ヨコナデ	脚端ヨコナデ	
695	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	5/8	体ヘラミガキ，脚上半ケズリ状ナデ，下半ヨコナデ	ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
696	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・I7 SR01中央畦南面トレンチ掘削	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y4/2灰オリーブ色	1/8	体ヘラミガキ，脚板ナデ	脚ハケメ後ヘラミガキ	
697	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		5Y5/2灰オリーブ色	4/8	体ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	脚ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
698	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・H8 SR01(写真あり)	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y5/3黄褐色	7/8	体ヘラミガキ，脚ヨコナデ	脚ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
699	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H6・H7・I6・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR6/3にぶい黄橙色	3/8	脚板ナデ，脚端ヨコナデ	体ヘラミガキ，脚ハケメ，脚端ヨコナデ	
700	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	ヨコナデ	ハケメ，脚端ヨコナデ	
701	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量	細砂少			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ヘラケズリ，脚端ヨコナデ	ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	透孔4
702	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y4/4暗オリーブ色	3/8	ナデ	ヨコナデ	
703	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I7 SR01(ひとまとまり1 写真あり)	D層	粗砂多量	中砂少量			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	5/8	口縁ヨコナデ，体3分割ヘラミガキ，台ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ台板ナデ	
704	弥生土器	脚部	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	5/8	底ヘラミガキ	底ヘラミガキ，脚ナデ	
705	弥生土器	底部	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/2灰黄褐色	3/8	板ナデ	板ナデ	
706	弥生土器	底部	Ⅶ区I6・I7 SR01(4)	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	ハケメ	ヘラミガキ	
707	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I6・I7 SR01 (2)	D層	粗砂含	粗砂少量			2.5Y7/2灰黄色	2/8	体ハケメ，脚ヨコナデ	体ヘラミガキ，脚ヨコナデ	
708	弥生土器	底部	Ⅶ区I6・I7 SR01(14)	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR4/2灰黄褐色	5/8	体ハケメ，脚ナデ	体板ナデ，脚ヨコナデ	
709	弥生土器	底部	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y6/4にぶい黄色	1/8	ナデ	板ナデ	
710	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	5/8	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ，底板ナデ，脚板ナデ，脚端ヨコナデ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ，脚板ナデ，脚端ヨコナデ	
711	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	7/8	脚端ヨコナデ	脚端ヨコナデ	透孔貫通しないものあり

土器観察表（25）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
712	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	脚端ヨコナデ	ハケメ後ヘラミガキ	透孔16
713	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y4/4暗オリーブ色	6/8	体ヘラミガキ	体ヘラミガキ	透孔11
714	弥生土器	把手	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり10 写真あり）	D層	粗砂多量				5YR4/6赤褐色	8/8		マメツ	
715	弥生土器	把手	Ⅶ区H8 SR01（ひとまとまりで出土）	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	1/8		マメツ	
716	弥生土器	把手	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂含				2.5YR6/6橙色	8/8		マメツ	
717	弥生土器	把手	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	マメツ	不明	
718	弥生土器	台付鉢	Ⅶ区H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	7/8	体板ナデ後ヘラミガキ，脚ヘラケズリ	ハケメ後脚端ヨコナデ後ヘラミガキ	
719	弥生土器	脚部	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	7/8	マメツ	マメツ	
720	弥生土器	高杯	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量				10YR6/2灰黄褐色	1/8	不明	マメツ	
721	弥生土器	高杯	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ハケメ	
722	弥生土器	高杯	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂少量	粗砂含			2.5Y7/2灰黄色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	穿孔１残存
723	弥生土器	高杯	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり26 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	6/8	体板ナデ，脚ヘラケズリ，脚端ヨコナデ	体～脚上半板ナデ，脚下半ハケメ後ヨコナデ	
724	弥生土器	高杯	Ⅶ区H7・H8 SR01（写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR5/4にぶい赤褐色	7/8	口縁ヘラミガキ，体ヘラミガキ	体ヘラミガキ，脚ヨコナデ	
725	弥生土器	不明	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり15 写真あり）	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	8/8	ナデ	マメツ	
726	弥生土器	ミニチュア	Ⅶ区I6・I7 SR01	D層	粗砂含				2.5Y5/2暗灰黄色	6/8	板ナデ	板ナデ	
727	製塩土器		Ⅶ区I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含	粗砂多量		10YR5/3にぶい黄褐色	5/8	不明	胴ヘラケズリ，脚指おさえ	
728	製塩土器		Ⅶ区I7 SR01（中央畦）	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	5/8	ナデ	ヘラケズリ，脚指ナデ	
729	製塩土器		Ⅶ区H7・I7 SR01中央畦南面トレンチ掘削	D層	粗砂含				2.5YR4/4にぶい赤褐色	1/8	板ナデ	マメツ	
730	紡錘車		Ⅶ区H7・I7 SR01中央畦南面トレンチ掘削	D層	粗砂多量				10YR5/3にぶい黄褐色	8/8		不明	
731	紡錘車		Ⅶ区H8 SR01（土器集中部 写真あり）	D層				砂粒ほとんど含まず	7.5YR3/1黒褐色	7/8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
732	紡錘車		Ⅶ区I6・I7 SR01（7）	D層	粗砂含				2.5Y3/2黒褐色		ヘラミガキ	ヘラミガキ	
733	紡錘車		Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR2/1黒色	8/8	ハケメ	ヘラミガキ	
734	紡錘車		Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		2.5Y4/2暗灰黄色	8/8		ヘラミガキ	土器片利用
735	紡錘車		Ⅶ区I6・I7 SR01（4）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	8/8	ヘラミガキ	ハケメ	
736	紡錘車		Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR2/2黒褐色	7/8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
737	不明		Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり8 写真あり）	D層	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色			不明	

土器観察表（26）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
738	分銅形土製品		Ⅶ区H7・H8・I7 SR01	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ，外縁ﾅﾃﾞ	不明	6条櫛描文
739	弥生土器	壺	Ⅶ区H6・I6 SR01（調査区北壁ﾄﾚﾝﾁ掘削）	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		2.5Y3/3暗オリーブ褐色	6/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴指おさえ後ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾀﾀｷﾒ後ﾊｹﾒ	
740	弥生土器	壺	Ⅶ区I7 SR01（ひとまとまり22 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		10YR6/4にぶい黄橙色	7/8	指おさえ	頸ﾊｹﾒ	
741	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01（弥生後期土器密集部 写真あり）	D層	粗砂多量		粗砂含		2.5Y6/3にぶい黄色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾀﾀｷﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	
742	弥生土器	甕	Ⅶ区I7 SR01（弥生後期土器密集部 写真あり）	D層	粗砂含				7.5YR3/2黒褐色	3/8	口縁ﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾀﾀｷﾒ後ﾊｹﾒ	
743	弥生土器	甕	Ⅶ区H7・I7 SR01（中央畦）	D層	粗砂多量	粗砂含	細砂含		2.5Y5/3黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
744	弥生土器	甕	Ⅶ区H7・I7 SR01 中央畦北面ﾄﾚﾝﾁ掘削	D層	粗砂含	粗砂含	粗砂含		2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
745	弥生土器	甕	Ⅶ区H7・I7 SR01	D層	粗砂含				2.5Y7/2灰黄色	4/8	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾏﾒﾂ	
746	弥生土器	鉢	Ⅶ区I7 SR01（弥生後期土器密集部 写真あり）	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾅﾃﾞ	
747	弥生土器	高杯	Ⅶ区I7 SR01（弥生後期土器密集部 写真あり）	D層	粗砂多量	粗砂多量	細砂少		10YR5/3にぶい黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，杯底分割ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，杯底ﾍﾗｹｽﾞﾘ後分割ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
748	弥生土器	高杯	Ⅶ区H8・I7 SR01	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		2.5Y5/3黄褐色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，底分割ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，底ﾍﾗｹｽﾞﾘ後分割ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
749	弥生土器	高杯	Ⅶ区H7・H8 SR01	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y6/4にぶい黄色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
750	中国産青磁	椀	Ⅶ区H7・H8・H9・I7・I8・I9	B層				砂粒含まず	2.5GY6/1オリーブ灰色	2/8	施釉	施釉，高台内面無釉	
751	東播系須恵器	鉢	Ⅶ区H7・H8・H9・I7・I8・I9 B層上面遺構検出作業					粗砂含	10BG6/1青灰色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾅﾃﾞ	
752	白磁	壺	Ⅶ区H7・I7（調査区中央畦）	A層				砂粒含まず	白色	1/8	無釉	高台畳付無釉	
904	弥生土器	壺	Ⅹ区 H5・H6・I5・I6 SR01（7区画）4・5回目	D層	粗砂含	中砂含			5Y6/2灰オリーブ色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
905	弥生土器	壺	Ⅹ区 H5・I5 SR01（9区画）2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR3/1黒褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
906	弥生土器	壺	Ⅹ区I6 SR01（3区画）土器密集部 その1	D層	粗砂少量				5Y4/2灰オリーブ色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
907	弥生土器	壺	X区 H5･I5 SR01（9区画）3回目	D層	粗砂含				2.5Y6/2灰黄色	2/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
908	弥生土器	壺	X区 H5･I5 SR01（9区画）3回目	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
909	弥生土器	壺	X区 H5 SR01（10区画）3回目 その2	D層	粗砂多量	粗砂少量			5Y6/2灰オリーブ色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ後口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
910	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（1区画）その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR5/4にぶい褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
911	弥生土器	壺	X区 H5 SR01（10区画）2回目	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR5/2灰黄褐色	7/8	板ﾅﾃﾞ	不明	
912	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（2区画）密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/4にぶい黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
913	弥生土器	壺	X区 H5･I5 SR01（9区画）2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	ﾏﾒﾂ	頸～胴ﾊｹﾒ	
914	弥生土器	壺	X区 I5･I6 SR01（3･7区画）3回目 土器密集部･写真あり	D層	粗砂多量				2.5YR5/6明赤褐色	3/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
915	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂少量				2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
916	弥生土器	壺	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)3回目	D層	粗砂多量				10YR5/2灰黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
917	弥生土器	壺	X区 H5 SR01（10区画）2回目	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指ﾅﾃﾞ，下半板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	透孔2孔1組で3組
918	弥生土器	壺	X区 H5 SR01（10区画）2回目	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	6/8	頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指ﾅﾃﾞ，下半板ﾅﾃﾞ	頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
919	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（3区画）土器密集部 その2	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	2/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴下半板ﾅﾃﾞ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
920	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（2区画）密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
921	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（1区画）その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
922	弥生土器	壺	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)4･5回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	
923	弥生土器	壺	X区 I5･I6 SR01（3･7区画）3回目 土器密集部･写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	１０条櫛描直線文，５条以上櫛描波状文
924	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（2区画）その1	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	棒状浮文貼り付け後突帯の連続刺突
925	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 写真1	D層	細礫多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	7/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	頸ﾊｹﾒ	３条櫛描文

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
926	弥生土器	壺	X区 H5 SR01（10区画）3回目 その2	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ		3条櫛描波状文
927	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（2区画）密集部	D層	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
928	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量				10YR8/3浅黄橙色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ？	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
929	弥生土器	壺	X区 H5・I5 SR01（9区画）2回目	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾏﾒﾂ	
930	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（2区画）土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR7/2にぶい黄橙色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，体ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
931	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y7/2灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
932	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（2区画）	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	3/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
933	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その2	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR8/2灰白色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
934	弥生土器	壺	X区 I6 SR01（1区画）その1	D層	粗砂多量				5YR7/3にぶい橙色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
935	弥生土器	壺	X区 H5 SR01（10区画）2回目	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
936	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
937	弥生土器	壺	X区 H5・I5 SR01（9区画）2回目	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	7/8	頸～胴ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
938	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂少量			5Y4/1灰色	6/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
939	弥生土器	壺	X区 H5 SR01（10区画）4回目 その1	D層	粗砂含	粗砂少量			2.5Y3/2黒褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ後胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
940	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)3回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/2黒褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
941	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01②	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/1黄灰色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
942	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
943	弥生土器	壺	X区 H5 SR01（10区画）4回目 その1	D層	粗砂多量	中砂含			5Y3/2オリーブ黒色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸同上半ﾊｹﾒ，胴上半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
944	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01⑧	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/4褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
945	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y7/4浅黄色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	
946	弥生土器	壺	X区 H5 SR01（10区画）3回目 その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	6/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	

土器観察表（29）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
947	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量				2.5Y3/1黒褐色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
948	弥生土器	壺	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
949	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01⑨	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
950	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1区画)その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/2灰黄色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
951	弥生土器	壺	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y8/2灰白色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
952	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その4	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y7/3浅黄色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
953	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)4回目	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y8/3淡黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
954	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
955	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1区画)その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
956	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01①	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
957	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
958	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その2	D層	粗砂含				7.5YR2/1黒色	3/8	ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	
959	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
960	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y4/1灰色	2/8	ﾊｹﾒ	頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
961	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	粗砂含				N6/0灰色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁端ﾖｺﾅﾃﾞ	
962	弥生土器	壺	X区 H5 SR01	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴指おさえ，底ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸～胴上半ﾊｹﾒ,胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
963	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y7/2灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，頸胴境ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
964	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その2	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
965	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/1黄灰色	3/8	ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴ﾊｹﾒ	
966	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01②	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y7/2灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	

土器観察表（30）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
967	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y8/2灰白色	2/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ	ヨコナデ	
968	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その2	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ	口縁ヨコナデ	
969	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) その1	D層	粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	7/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ	口縁端凹線文２条
970	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その4	D層	粗砂多量	粗砂含			5Y4/3暗オリーブ色	1/8	マメツ	マメツ	
971	弥生土器	壺	X区 H6･I6 SR01⑧	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ後ヨコナデ	
972	弥生土器	壺	X区 H6 SR01(8区画) 1回目 ひとまとまり	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/4黄褐色	3/8	口縁ヨコナデ，胴上半～頸ハケメ後ヘラミガキ，胴上半ハケメ	口頸ヨコナデ，胴ハケメ後ヘラミガキ	高さは推定復元，口縁ヘラ描斜格子文
973	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y5/3灰オリーブ色	2/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ	口頸ヨコナデ，胴ハケメ	口縁端簾状文手法を用いた連続刺突文
974	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 2回目	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	マメツ	マメツ	
975	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂含				7.5YR2/2黒褐色	5/8	分割ヘラミガキ	口縁ヨコナデ後ヘラミガキ，頸ヘラミガキ	
976	弥生土器	壺	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)4･5回目	D層	粗砂含				2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ	７条以上の櫛描波状文
977	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) その1	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	1/8	頸ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ	
978	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 4･5回目	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	3/8	口縁ハケメ	ハケメ後口縁ヨコナデ	孔２孔１組３組残(推定７組)，浮文１組残
979	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) その2	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		10YR5/3にぶい黄褐色	6/8	頸ヘラミガキ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴上半ハケメ・下半ヘラミガキ	口頸部黒色物の付着，ハケメ後刺突文
980	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) 密集部	D層	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	4/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ	ヨコナデ	
981	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画)	D層	粗砂多量	粗砂少量			10R5/6赤色	2/8	マメツ	マメツ	口縁内面3条櫛描斜格子文
982	弥生土器	壺	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	
983	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量				10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	マメツ	マメツ	口縁内面３条櫛描斜格子文
984	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1区画) その1	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	2/8	ヘラミガキ	ハケメ	3条櫛描斜格子文，6条櫛描原体押引文
985	弥生土器	壺	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y5/2灰オリーブ色	4/8	口頸ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ	穿孔2孔不貫通
986	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) 密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y8/3淡黄色	1/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ	口頸境ヘラミガキ，頸ハケメ	透孔2孔1組で5組

土器観察表（31）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
987	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	頸ヨコナデ	口縁ヨコナデ，頸上半ハケメ・下半ヨコナデ	2条櫛描斜格子文
988	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その2	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y8/2灰白色	2/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，頸～胴上半ハケメ，胴下半ヘラミガキ	口縁内面2条櫛描文
989	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01⑨	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR4/3にぶい黄褐色	4/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ	口縁内面2条櫛描斜格子文
990	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)4回目 その1	D層	粗砂含				2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ	
991	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	ナデ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ	
992	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その3	D層	粗砂含				2.5Y7/2灰黄色	1/8	口縁ヨコナデ後ヘラミガキ	ヨコナデ	
993	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01⑧	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/2灰黄色	3/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ	
994	弥生土器	壺	X区 H5・I5 SR01(9区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	4/8	口縁板ナデ後ヘラミガキ	口縁端板ナデ，口頸ヨコナデ	突帯下に2条櫛描文
995	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その2	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	5/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，頸板ナデ	
996	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	細砂含	細砂含			7.5YR2/3極暗褐色	5/8	ハケメ後頸ヘラミガキ	ハケメ後口縁ヨコナデ	口縁内面3条櫛描斜格子文，口縁端羽状沈線文
997	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR4/3にぶい黄褐色	7/8	口縁ヨコナデ，頸ナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ	
998	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01③	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	マメツ	マメツ	口縁部櫛描斜格子文
999	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	2/8	マメツ	ヨコナデ	
1000	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	細礫多	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁内面3条櫛描文
1001	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1区画)その2	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	
1002	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画)その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/4にぶい黄色	1/8	マメツ	マメツ	
1003	弥生土器	壺	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ	
1004	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01①	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	頸～胴ハケメ	口縁部ヨコナデ，頸～胴ハケメ	4条櫛原体
1005	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画)密集部	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	4/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，頸ハケメ・胴ハケメ	5条原体の櫛描文
1006	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)1回目	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1007	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	2/8	板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1008	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)4・5回目	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾅﾃﾞ下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1009	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01(6区画)	D層	粗砂多量	細砂多量			5Y3/1オリーブ黒色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	ﾊｹ原体によるﾖｺﾅﾃﾞ
1010	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01(6区画)	D層	粗砂多量				2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色	2/8	板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底面ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1011	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01②	D層	粗砂含				2.5Y5/2暗灰黄色	1/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ，胴指おさえ後ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴連続刺突文施文後ﾍﾗﾐｶﾞｷ
1012	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01①	D層	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	2/8		ﾖｺﾅﾃﾞ	
1013	弥生土器	壺	X区 I6 SR01 (4区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/2暗灰黄色	3/8	頸ﾖｺﾅﾃﾞ	頸上半ﾊｹﾒ，下半ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	8条櫛描直線文
1014	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その3	D層	粗砂多量	中粗砂含			2.5Y4/3オリーブ褐色	6/8	ﾏﾒﾂ	頸上半ﾊｹﾒ，下半ﾖｺﾅﾃﾞ	
1015	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)4・5回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR4/3褐色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	頸上半ﾊｹﾒ，下半ﾖｺﾅﾃﾞ	
1016	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その4	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	4/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	頸上半ﾊｹﾒ，下半ﾖｺﾅﾃﾞ	
1017	弥生土器	壺	X区 H5・I5 SR01(9区画)2回目	D層	粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	6/8	頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指押さえ下半ﾅﾃﾞ	頸ﾊｹﾒ，胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ，口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1018	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂含				7.5YR4/1褐灰色	2/8	胴ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1019	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01②	D層	粗砂多量	粗砂少量			7.5YR8/4浅黄橙色	5/8	口縁板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1020	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)4・5回目	D層	粗砂多量	粗砂少量			5Y5/3灰オリーブ色	3/8	不明	ﾏﾒﾂ	4条原体連続刺突文
1021	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y6/1黄灰色	4/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ，胴板ﾅﾃﾞ	頸～胴ﾊｹﾒ	
1022	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その2	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	指おさえ後ﾊｹﾒ	頸ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	櫛描（5条斜格子文,9条直線文,5条波状文）
1023	弥生土器	壺	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	板ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	7条原体の櫛描文
1024	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01①	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/3ｵﾘｰﾌﾞ褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	3条櫛描斜格子文,5条櫛描直線文
1025	弥生土器	壺	X区 I6 SR01 (2区画) その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	板ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	3条櫛描斜格子文，6条以上櫛描直線文，7条原体押引文

土器観察表（33）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1026	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/2灰黄褐色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ		11条以上の櫛描波状文・直線文,4条斜格子文,円形浮文剥落 1027と同一個体の可能性あり
1027	弥生土器	壺	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	不明	12条以上櫛描波状文・直線文,4条櫛描斜格子文,4条原体連続刺突文1026と同一の可能性あり
1028	弥生土器	壺	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	不明	13条以上の櫛描原体
1029	弥生土器	壺	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/4黄褐色	2/8	板ﾅﾃﾞ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	櫛描直線文は5・6条以上
1030	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	櫛描直線文はﾊｹﾒ原体によるものと考えられ条数は不明確
1031	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR2/1黒色	2/8	ﾊｹﾒ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	6条櫛描直線文,3条櫛描斜格子文,3条櫛描連続刺突文
1032	弥生土器	壺	X区 H5・I5 SR01(9区画)2回目	D層	粗砂含				10YR5/2灰黄褐色	5/8	ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ,下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1033	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂含	粗砂多量			2.5Y3/2黒褐色	2/8	ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	刺突文はﾊｹﾒ調整以前に施す。
1034	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	1/8	胴上半指おさえ後板ﾅﾃﾞ,下半板ﾅﾃﾞ	胴上半ﾊｹﾒ,下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1035	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	板ﾅﾃﾞ	胴上半ﾊｹﾒ,下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1036	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	不明	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1037	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1区画) その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	不明	胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1038	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂含	粗砂含			5Y7/3浅黄色	1/8	ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ後胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹﾒ後連続刺突文後ﾍﾗﾐｶﾞｷ
1039	弥生土器	壺	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	ﾊｹﾒ	胴下半ﾊｹﾒ,下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1040	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(5区画)	D層	粗砂含				2.5Y3/1黒褐色	1/8	ﾊｹﾒ	不明	

土器観察表（34）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1041	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画)密集部	D層	粗砂多量	粗砂含	粗砂含		10R5/8赤色	2/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ	擬口縁の可能性あり。胴下半斜格子文か,棒状浮文10組
1042	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/4黄褐色	2/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	ヨコナデ	孔一つのみ残存
1043	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その3	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y3/1黒褐色	1/8	ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1044	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ，胴ハケメ	
1045	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/4黄褐色	4/8	板ナデ	ヘラミガキ	
1046	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	粗砂含				10YR3/1黒褐色	4/8	板ナデ	ヘラミガキ	
1047	弥生土器	底部	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR2/2黒褐色	7/8	ヘラミガキ後下半ナデ	ヘラミガキ後下端ナデ	内外黒色物質付着
1048	弥生土器	甕	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y7/3浅黄色	1/8	板ナデ	ヘラミガキ	
1049	弥生土器	底部	暗渠A5 E・F-16 SR01	C層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	マメツ	ヘラミガキ	
1050	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)4回目	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	7/8	指ナデ	ヘラミガキ	
1051	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1区画)その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/4褐色	6/8	ハケメ	ヘラミガキ	
1052	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1 一個体	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色～5YR5/3にぶい赤褐色	5/8	板ナデ後ハケメ	ヘラミガキ	
1053	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	3/8	板ナデ	ヘラミガキ	
1054	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	粗砂含	粗砂含	粗砂少量		5Y6/2灰オリーブ色	4/8	ハケメ	ヘラミガキ	
1055	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR3/2黒褐色	6/8	ヘラミガキ（板ナデ状）	ヘラミガキ	
1056	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その3	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y4/2暗灰色	3/8	板ナデ	ヘラミガキ	
1057	弥生土器	壺	X区 H6・I6 SR01⑨	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR6/2灰黄褐色	4/8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
1058	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/4黄褐色	3/8	ハケメ	ヘラミガキ	
1059	弥生土器	壺（底部）	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂多量			結晶片岩粗砂含	2.5Y7/2灰黄色	6/8	ナデ	ヘラミガキ	
1060	弥生土器	底部	X区 H5 SR01(10区画)4回目 その1	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	5/8	ヘラミガキ	ハケメ後ヘラミガキ	
1061	弥生土器	壺	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)4・5回目	D層	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	7/8	ハケメ	胴ヘラミガキ，底ナデ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1062	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹﾒ	底面砂粒圧痕
1063	弥生土器	甕	X区 H5･I5 SR01(9区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5Y5/1灰色	7/8	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1064	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1065	弥生土器	甕	X区 H5･I5 SR01(9区画)2回目	D層	粗砂含				2.5Y4/1黄灰色	1/8	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾏﾒﾂ	
1066	弥生土器	甕	X区 H5･I5 SR01(9区画)2回目	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y7/2灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴部連続刺突文後ﾍﾗﾐｶﾞｷ
1067	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その1	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y6/2灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	連続刺突文後ﾍﾗﾐｶﾞｷ
1068	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1区画) その2	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1069	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	外面炭化物付着
1070	弥生土器	甕	X区 H5･I5 SR01(9区画)3回目	D層	粗砂含	粗砂少			2.5Y6/2灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1071	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂含	粗砂含			2.5YR6/6橙色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1072	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層				砂粒ほとんど含まず	5Y6/2灰オリーブ色	2/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	連続刺突文後ﾊｹﾒ，外面炭化物付着
1073	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層	粗砂多量	中砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴部刺突文施文後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，内面炭化物付着
1074	弥生土器	甕	X区 H5･I5 SR01(9区画)2回目	D層	粗砂含	粗砂少			2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1075	弥生土器	甕	X区 I5･I6 SR01(3･7区画)3回目 土器密集部･写真あり	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1076	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)4回目 その1	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR3/2黒褐色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1077	弥生土器	甕	X区 H5･I5 SR01(9区画)4･5回目	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1078	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その1	D層	粗砂含	粗砂含			7.5YR3/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴下半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1079	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)4回目 その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR3/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴不明	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	連続刺突文後ﾍﾗﾐｶﾞｷ

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1080	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その3	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	5/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ	
1081	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01①	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR3/1黒褐色	3/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴上半ハケメ，下半ヘラミガキ	
1082	弥生土器	甕	X区 H5･I5 SR01(9区画)3回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	口縁ヨコナデ，胴板ナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1083	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ，胴板ナデ	口縁ヨコナデ，胴板ナデ	
1084	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その3	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR2/2黒褐色	1/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1085	弥生土器	甕	X区 H5･I5 SR01(9区画)4･5回目	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴マメツ	
1086	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5YR3/6暗赤褐色	2/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴上半ハケメ，下半ヘラミガキ	
1087	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂含				2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1088	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)4･5回目	D層	粗砂含	粗砂少量			2.5Y3/2黒褐色	5/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1089	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂少量	粗砂少量			2.5Y6/3にぶい黄色	4/8	口縁ヨコナデ後ヘラミガキ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ後下半ヘラミガキ	
1090	弥生土器	甕	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)4･5回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR4/3褐色	5/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1091	弥生土器	甕	X区 I5･I6 SR01(3･7区画)3回目 土器密集部･写真あり	D層	粗砂多量	細砂多量			2.5Y7/3浅黄色	2/8	口縁ヨコナデ，頸ヘラミガキ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ後板ナデ	
1092	弥生土器	甕	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)3回目 石組み遺構清掃中	D層	粗砂含	細砂含		結晶片岩粗砂多量	7.5YR2/1黒色	1/8	口縁ハケメ後ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	
1093	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂多量				7.5YR7/3にぶい橙色	1/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1094	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1･2区画)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5YR6/4にぶい橙色	1/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1095	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01⑨	D層	粗砂多量	粗砂含			10R6/6赤橙色	1/8	マメツ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1096	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画) その2	D層	粗砂多量				10R5/6赤色	5/8	口縁ヨコナデ，胴板ナデ	口縁ヨコナデ，胴下半ヘラミガキ	
1097	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画) その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1098	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01⑩	D層	粗砂多量	細砂含	粗砂多量		2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	

土器観察表（37）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1099	弥生土器	甕	X区 I5･I6 SR01(3･7区画)3回目 土器密集部･写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR7/3にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1100	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1･2区画)	D層	粗砂含	細砂含			10YR6/2灰黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	
1101	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 4･5回目	D層	粗砂含				2.5Y3/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1102	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1･2区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1103	弥生土器	甕	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)4･5回目	D層	粗砂含				5Y7/2灰白色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ後上部ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1104	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01④	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR5/2灰褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1105	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1区画) その1	D層	粗砂多量	粗砂含			5YR4/3にぶい赤褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1106	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画) その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	
1107	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1･2区画)	D層	粗砂多量				10R6/6赤橙色	2/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1108	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01(6区画)	D層	粗砂多量				10YR7/3にぶい黄橙色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1109	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂多量	粗砂少量			5GY8/1灰白色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ胴板ﾅﾃﾞ	
1110	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	
1111	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01④	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1112	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画) 密集部	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1113	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その2	D層	粗砂多量	粗砂多量	中砂含		2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1114	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01⑧	D層	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1115	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01⑩	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	
1116	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂少量				2.5Y3/2黒褐色	1/8	板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴連続刺突文後ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ
1117	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1区画) その2	D層				砂粒ほとんど含まず	2.5Y7/2灰黄色	2/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1118	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その1	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	胴ﾊｹﾒ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1119	弥生土器	甕	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)4･5回目	D層	粗砂多量				5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	

土器観察表（38）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1120	弥生土器	甕	X区 I5·I6 SR01(3·7区画)3回目 土器密集部·写真あり	D層	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	穿孔２孔１組で１組残
1121	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	5/8	口縁ヨコナデ，頸～胴ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1122	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1·2区画)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1123	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	胴ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴板ナデ	径やや不確実
1124	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR5/6明褐色	2/8	マメツ	マメツ	
1125	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その4	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		10R4/4赤褐色	1/8	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	口縁ヨコナデ	
1126	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1区画)その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/4にぶい黄褐色	3/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1127	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1·2区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			7.5YR4/4褐色	1/8	マメツ	マメツ	
1128	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR7/3にぶい黄橙色	1/8	口縁ハケメ後ヨコナデ	マメツ	
1129	弥生土器	甕	X区 H6·I6 SR01③	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	1/8	口縁ヨコナデ		
1130	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画)その2	D層	粗砂多量				5Y8/1灰白色	3/8	口縁板ナデ後ヨコナデ，胴ハケメ	胴下半ヘラミガキ	貝殻刺突文
1131	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	2/8	ヨコナデ	ヨコナデ	3条櫛描斜格子文
1132	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その2	D層	粗砂含	粗砂少			2.5Y5/2暗灰黄色	2/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ	
1133	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)4回目 その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/4オリーブ褐色	2/8	口縁ヨコナデ，胴板ナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1134	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1135	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その4	D層	粗砂多量	細砂含			10YR6/4にぶい黄橙色	1/8	胴ナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1136	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y5/2灰オリーブ色	1/8	胴ハケメ	不明	
1137	弥生土器	甕	X区 H5·I5 SR01(9区画)3回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	3/8	口縁ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1138	弥生土器	甕	X区 I5·I6 SR01(3·7区画)3回目 土器密集部·写真あり	D層	粗砂多量	粗砂少量			5YR4/1褐灰色	1/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ	
1139	弥生土器	甕	X区 I5·I6 SR01(3·7区画)3回目 土器密集部·写真あり	D層	粗砂含				2.5YR6/4にぶい橙色	1/8	マメツ	マメツ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1140	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画)2回目	D層	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	1/8	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁端凹線文
1141	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層	粗砂含				2.5Y8/2灰白色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1142	弥生土器	甕	X区 H5･I5 SR01(9区画)4･5回目	D層	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1143	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画)	D層	粗砂多量				2.5Y3/2黒褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1144	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01③	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1145	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その1	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y3/2黒褐色	1/8	ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1146	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1区画)その1	D層	粗砂多量				7.5Y8/1灰白色	2/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ	
1147	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01(6区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR3/2黒褐色	5/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1148	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01⑧	D層	粗砂多量	粗砂含			10YR4/2灰黄褐色	3/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1149	弥生土器	甕	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その1	D層	粗砂含	粗砂含			10YR2/2黒褐色	4/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外炭化物付着
1150	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1区画)一個体	D層	粗砂多量				5YR7/2明褐灰色	3/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1151	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(2区画)土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	5/8	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1152	弥生土器	鉢	X区 H5 SR01(10区画)4回目 その1	D層	細礫多				2.5Y4/2暗灰黄色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底面ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底ﾖｺﾅﾃﾞ，底面ﾅﾃﾞ	
1153	弥生土器	鉢	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	中砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1154	弥生土器	鉢	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	粗砂多量				10YR6/2灰黄褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底面ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底面ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1155	弥生土器	鉢	X区 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴上半板ﾅﾃﾞ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1156	弥生土器	鉢	X区 I5･I6 SR01(3･7区画)3回目 土器密集部･写真あり	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y6/3にぶい黄色	5/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴櫛状具による連続刺突文
1157	弥生土器	鉢	X区 I6 SR01(3区画)土器密集部 その1	D層	粗砂含				2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1158	弥生土器	鉢	X区 H5･H6･I5･I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂含				2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	口縁ﾊｹﾒ，胴上半板ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，胴下半～底ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1159	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(3区画)	D層	粗砂含				10YR3/2黒褐色	4/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ，脚板ナデ後ヨコナデ	口縁ヨコナデ，体～脚ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
1160	弥生土器	台付鉢	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/2黒褐色	6/8	体分割ヘラミガキ，脚板ナデ後ヨコナデ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ，脚ハケメ後ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
1161	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/1黒褐色	7/8	杯ハケメ後ヘラミガキ，脚板ナデ後端ヨコナデ	口縁ヨコナデ後刻み目，杯ハケメ後ヘラミガキ，脚ハケメ後ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
1162	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/2灰黄色	7/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後分割ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ，脚端ヨコナデ後ヘラミガキ	口縁端部3条櫛描文
1163	弥生土器	台付鉢	X区 H6・I6 SR01②	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		2.5Y5/3黄褐色	1/8	マメツ	マメツ	
1164	弥生土器	台付鉢	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その4	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/2灰黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ，体板ナデ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1165	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂含	粗砂少量			2.5YR6/4にぶい橙色	1/8	ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	
1166	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(3区画) 4・5回目	D層	粗砂多量				2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1167	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1168	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(1区画) その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	体ヘラミガキ	
1169	弥生土器	台付鉢	X区 H5 SR01(10区画)4回目 その2	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR3/2黒褐色	6/8	板ナデ後分割ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ハケメ	透孔2孔1組で2組
1170	弥生土器	台付鉢	X区 H5・I5 SR01(9区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR3/1黒褐色	2/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後分割ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1171	弥生土器	台付鉢	X区 H6・I6 SR01②	D層	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	ヘラミガキ	口縁ハケメ後ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1172	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y7/1灰白色	2/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1173	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	3/8	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	
1174	弥生土器	台付鉢	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その3	D層	粗砂多量				5Y4/2灰オリーブ色	1/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ	ヨコナデ	口縁3条櫛描斜格子文
1175	弥生土器	台付鉢	X区 H6・I6 SR01④	D層	粗砂含				10R5/8赤色	1/8	マメツ	マメツ	
1176	弥生土器	台付鉢	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	6/8	口縁部ハケ後ヨコナデ，体分割ヘラミガキ，脚ヨコナデ	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ，脚ハケメ	脚透孔6，口縁端半截竹管押し引き後ヨコナデによる凹線，円形浮文6個1組で9組
1177	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(1区画) その2	D層	細砂多量	細砂含			2.5Y3/2黒褐色	1/8	ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	

土器観察表（41）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1178	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5YR4/4にぶい赤褐色	1/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後分割ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1179	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
1180	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01	D層	粗砂多量	粗砂含			5YR4/4にぶい赤褐色	2/8	口縁ヨコナデ，体マメツ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1181	弥生土器	台付鉢	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その1	D層	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	1/8	ハケメ	ヘラミガキ	
1182	弥生土器	台付鉢	X区 H5・I5 SR01(9区画)2回目	D層	細礫多				2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	板ナデ後ヘラミガキ	板ナデ後ヘラミガキ	黒色物付着
1183	弥生土器	台付鉢	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			5YR3/3暗赤褐色	1/8	ヘラミガキ	マメツ	
1184	弥生土器	台付鉢	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	中砂含			7.5YR6/4にぶい橙色	1/8	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1185	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	口縁ヨコナデ,胴ヘラミガキ	
1186	弥生土器	台付鉢	X区 H5・I5 SR01(9区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		2.5YR4/6赤褐色	1/8	ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	
1187	弥生土器	台付鉢	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)3回目 石組み遺構清掃中	D層	粗砂多量	細砂含			2.5Y5/4黄褐色	1/8	不明	不明	
1188	弥生土器	台付鉢	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)4・5回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	ハケメ	ヘラミガキ	
1189	弥生土器	台付鉢	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR3/2黒褐色	3/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後ヘラミガキ，脚下半ヨコナデ	口縁ヨコナデ，体～脚上半マメツ，脚下半ハケメ	
1190	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y3/2黒褐色	3/8	ハケメ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	
1191	弥生土器	台付鉢	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層		細礫多			5Y5/3灰オリーブ色	1/8	体ヘラミガキ	体ヘラミガキ	脚透孔6
1192	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画) その1	D層	粗砂含				2.5Y7/3浅黄色	6/8	鉢分割ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	鉢分割ヘラミガキ，脚ハケメ後ヨコナデ	
1193	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	8/8	体ヘラミガキ，脚上半板ナデ・下半ヨコナデ	脚ヘラミガキ，脚下端ヨコナデ	
1194	弥生土器	台付鉢	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層	粗砂多量				10YR2/2黒褐色	6/8	脚下半ヨコナデ	脚端ヨコナデ	
1195	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂多量	粗砂少量			7.5YR6/4にぶい橙色	5/8	体ヘラミガキ，脚板ナデ，脚端ヨコナデ	ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
1196	弥生土器	台付鉢	X区 H6・I6 SR01⑦	D層	粗砂多量	粗砂含			5Y5/3灰オリーブ色	3/8	板ナデ	脚端ヨコナデ	

土器観察表（42）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1197	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	7/8	脚端ヨコナデ	脚ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
1198	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y3/2黒褐色	4/8	体ヘラミガキ，脚上半ナデ，下半ヨコナデ	体ナデ，脚ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
1199	弥生土器	台付鉢	X区 I5・I6 SR01(3・7区画)3回目 土器密集部・写真あり	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y7/2灰黄色	2/8	脚下半ヨコナデ	板ナデ	
1200	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂多量				2.5YR6/6橙色	7/8	体ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	体～脚ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	
1201	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量	粗砂含			5Y4/2灰オリーブ色	7/8	体ナデ，脚中央ヨコナデ	体ヘラミガキ	
1202	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画) 密集部	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5YR6/4にぶい橙色	3/8	体ヘラミガキ	ヘラミガキ	
1203	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画) その1	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5YR3/6暗赤褐色	4/8	脚中央ハケメ端ヨコナデ	ヘラミガキ端ヨコナデ	
1204	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(3区画)	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	体ヘラミガキ，脚下半ヨコナデ	ヘラミガキ	
1205	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(2区画) 密集部	D層	粗砂多量	粗砂含	粗砂含		5YR5/3にぶい赤褐色	6/8	脚端ヨコナデ	脚端ヨコナデ	
1206	弥生土器	台付鉢	X区 H6・I6 SR01④	D層	粗砂多量	粗砂含			5Y5/3灰オリーブ色	4/8	マメツ	脚板ナデ，脚端ヨコナデ	
1207	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(1区画) その1	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	体ヘラミガキ，脚上半ヘラケズリ，下半ヨコナデ	ハケメ後脚端ヨコナデ	
1208	弥生土器	台付鉢	X区 H6 SR01(8区画) 2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量			5Y6/2灰オリーブ色	4/8	マメツ	マメツ	
1209	弥生土器	台付鉢	X区 H6・I6 SR01④	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	マメツ	マメツ	
1210	弥生土器	ジョッキ形	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	5/8	胴ヘラミガキ，底指ナデ，脚ヨコナデ	ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	透孔8
1211	弥生土器	底部	X区 H6・I6 SR01⑩	D層	粗砂多量	粗砂少量			5Y4/4暗オリーブ色	1/8	ヘラミガキ	指おさえ後ナデ	
1212	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(1区画) その2	D層	粗砂多量				7.5YR6/6橙色	5/8	ハケメ	板ナデ	
1213	弥生土器	脚	X区 I6 SR01(3区画) 2回目	D層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	2/8	不明	不明	
1214	弥生土器	台付鉢	X区 H6 SR01(8区画) 3回目	D層	細砂含				7.5YR7/3にぶい橙色	7/8	板ナデ，台部指おさえ	指おさえ	
1215	弥生土器	台付鉢	X区 I6 SR01(1区画) その2	D層	粗砂含				2.5Y7/2灰黄色	6/8	体ヘラミガキ	体ヘラミガキ，脚指おさえ	
1216	弥生土器	脚部	X区 H6・I6 SR01(6区画)	D層	粗砂含	細砂多量			2.5Y5/3黄褐色	6/8	体ナデ，脚ヨコナデ	体ハケメ，脚ヨコナデ	
1217	弥生土器	高杯	X区 H5 SR01(10区画)3回目 その2	D層	粗砂含	粗砂含			2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	マメツ	

土器観察表（43）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1218	弥生土器	高杯	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y3/1黒褐色	2/8	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁穿孔1つ残存
1219	弥生土器	高杯	X区 I6 SR01(2区画) 土器密集部	D層	粗砂多量				10YR6/2灰黄褐色	2/8	杯ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚下半ﾖｺﾅﾃﾞ	脚上下端ﾖｺﾅﾃﾞ，中央ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1220	弥生土器	蓋	X区 I6 SR01(1･2区画)	D層	粗砂多量	粗砂含			2.5YR2/3極暗赤褐色	7/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1221	弥生土器	蓋	X区 H5 SR01(10区画)4回目 その1	D層	粗砂含	中砂含			5YR7/3にぶい橙色	4/8	口縁部板ﾅﾃﾞによるﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ後口縁部板ﾅﾃﾞによるﾖｺﾅﾃﾞ	穿孔２孔１組で１組のみ残存
1222	弥生土器	蓋	X区 I6 SR01(1･2区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/1黒褐色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1223	紡錘車		X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂含	粗砂含			7.5YR3/1黒褐色	7/8	不明	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	土器転用
1224	紡錘車		X区 H5･I5 SR01(9区画)3回目	D層	粗砂含	中砂含			7.5YR2/2黒褐色	8/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	中央に小さな凹み
1225	弥生土器	壺	X区 H6･I6 SR01⑩	D層	粗砂多量	粗砂多量	細砂含		2.5Y3/3暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ，胴下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1226	弥生土器	壺	X区 H6･I6 SR01⑪	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		2.5Y5/2暗灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1227	弥生土器	壺	X区 H6 SR01(8区画) 2回目	D層	粗砂多量				10YR8/4浅黄橙色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ,胴板ﾅﾃﾞ	
1228	弥生土器	壺	X区 H6 SR01(8区画) 1回目 ひとまとまり	D層	粗砂含	粗砂多量	粗砂多量		2.5Y4/2暗灰黄色	6/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ・下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1229	弥生土器	壺	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層	細砂含	細砂多	細砂含		10YR4/2灰黄褐色	1/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴指おさえ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1230	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その2	D層	粗砂含	粗砂含	粗砂少量		10YR5/4にぶい黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	口径やや不確実
1231	弥生土器	壺	X区 H6･I6 SR01⑩	D層	粗砂含	粗砂多量	粗砂多量		10YR4/2灰黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1232	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01④	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		10YR4/3にぶい黄褐色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ・下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1233	弥生土器	甕	X区 H6･I6 SR01⑩	D層	粗砂多量	粗砂少量			10YR5/3にぶい黄褐色	1/8	胴上半指押さえ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面炭化物付着
1234	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(1区画) その1	D層	粗砂含	細砂含	細砂含		5Y5/2灰オリーブ色	6/8	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹﾒ	
1235	弥生土器	甕	X区 H6 SR01(8区画) 3回目	D層	粗砂多量	中砂含	粗砂多量		5Y4/2灰オリーブ色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾅﾃﾞ	胴ﾀﾀｷﾒ後ﾅﾃﾞ	
1236	弥生土器	鉢	X区 I6 SR01(1区画) その1	D層				砂粒ほとんど含まず	10YR8/3浅黄橙色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	径やや不確実

土器観察表（44）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1237	弥生土器	鉢	X区 I6 SR01(3区画) 土器密集部 その1	D層				砂粒ほとんど含まず	7.5YR5/4にぶい褐色	2/8	口縁ヨコナデ，体ヘラミガキ	口縁ヨコナデ	
1238	弥生土器	鉢	X区 I6 SR01(1区画)	D層				砂粒含まず	2.5Y7/2灰黄色	3/8	ヘラミガキ	ハケメ後ヘラミガキ	
1239	弥生土器	鉢	X区 H6・I6 SR01⑩	D層				砂粒ほとんど含まず	5YR7/6橙色	1/8	口縁ヨコナデ	マメツ	
1240	弥生土器	鉢	X区 I6 SR01(4区画)	D層	粗砂少量				2.5Y7/2灰黄色	2/8	ナデ	底指おさえ	
1241	弥生土器	鉢	X区 SR01	D層				砂粒はほとんど含まず	7.5YR6/2灰褐色	6/8	指ナデ	底，指押さえ	
1242	弥生土器	甕	X区 I6 SR01(3区画) 2回目 一個体	D層	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	4/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1243	弥生土器	鉢	X区 H5 SR01(10区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		10YR6/4にぶい黄橙色	1/8	胴ヘラミガキ	マメツ	
1244	弥生土器	鉢	X区 H5・H6・I5・I6 SR01(7区画)2回目	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		10YR4/3にぶい黄褐色	4/8	口縁ヨコナデ，体ハケメ後分割ヘラミガキ	口縁ヨコナデ，体ヘラケズリ後分割ヘラミガキ	
1245	弥生土器	高杯	X区 H6・I6 SR01(6区画)ひとまとまり	D層	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	7/8	底分割ヘラミガキ	底ヘラケズリ	
1246	弥生土器	高杯	X区 I6 SR01(1・2区画)	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ，底格子ヘラミガキ，脚ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，底ヘラケズリ後分割ヘラミガキ脚ヘラミガキ	
1247	弥生土器	高杯	X区 H6・I6 SR01⑥ ひとまとまり	D層	粗砂多量	中砂多量	粗砂多量		10YR5/3にぶい黄褐色	7/8	口縁ヨコナデ，体分割ヘラミガキ，脚ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，体分割ヘラミガキ	
1248	弥生土器	高杯	X区 H6・I6 SR01④	D層	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		10YR5/4にぶい黄褐色	3/8	口縁ヨコナデ，体分割ヘラミガキ，脚ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，体ヘラケズリ後分割ミガキ，脚板ナデ	穿孔１つ残存（貫通せず）
1249	弥生土器	高杯	X区 H6・I6 SR01⑦	D層	粗砂多量	粗砂含	粗砂含		5Y5/3灰オリーブ色	6/8	体マメツ，脚ヘラケズリ	体ヘラケズリ後ヘラミガキ，脚板ナデ	
1250	弥生土器	高杯	X区 H6・I6 SR01④	D層	粗砂含	細砂多	細砂含		5Y6/2灰オリーブ色	6/8	体分割ヘラミガキ，脚ヘラケズリ	体分割ヘラミガキ，脚板ナデ	
1251	弥生土器	壺	X区 I6 SR01(1区画) 写真あり	D層	粗砂含	粗砂含	粗砂含		2.5Y7/3浅黄色	8/8	口縁ヨコナデ,胴上半指おさえ,下半ヘラケズリ	口頸ヨコナデ,胴ハケメ後ヘラミガキ	
1252	弥生土器	鉢	X区 H6・I6 SR01⑩	D層				砂粒含まず	2.5Y7/1灰白色	1/8	口縁指おさえ，底指ナデ	指おさえ	
1253	弥生土器	脚部	X区 H6・I6 SR01⑩	D層				砂粒ほとんど含まず	2.5Y8/2灰白色	6/8	マメツ	指おさえ	
1254	須恵器	高杯	X区 H6・I6 SR01⑩	D層				細礫含	5PB4/1暗青灰色	8/8	回転ナデ	回転ナデ	三方すかし

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1403	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含				10YR5/4にぶい黄褐色	3/8	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1404	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含	粗砂含			7.5YR2/1黒色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1405	弥生土器	甕	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y5/4黄褐色	1/8	指おさえ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1406	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	細砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸～胴ﾊｹﾒ	
1407	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂少量				7.5YR3/1黒褐色	3/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ,胴板ﾅﾃﾞ	口頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	
1408	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y4/3オリーブ褐色	4/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1409	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/2灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴板ﾅﾃﾞ	
1410	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	7/8	ﾅﾃﾞ	頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1411	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	6/8	胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
1412	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1413	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				10YR3/1黒褐色	1/8	口縁ﾊｹﾒ後端部ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1414	弥生土器	壺	予備調査21ﾄﾚﾝﾁ SR 旧河道の埋土	第10層 濁青灰色粘土	粗砂多量	粗砂含			2.5Y8/3淡黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1415	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含				2.5Y6/2灰黄色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1416	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			10YR4/1褐灰色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	
1417	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ,胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ，胴ﾊｹﾒ後上部ﾅﾃﾞ	
1418	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			5Y3/1オリーブ黒色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾅﾃﾞ	
1419	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂少量			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	胴ﾊｹﾒ	
1420	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				10YR2/2黒褐色	3/8	ﾍﾗｹｽﾞﾘ後板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1421	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				5Y5/3灰オリーブ色	4/8	ﾍﾗｹｽﾞﾘ状ﾅﾃﾞ，後ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1422	弥生土器	甕	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y3/2黒褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
1423	弥生土器	甕	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y6/4にぶい黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1424	弥生土器	甕	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y6/4にぶい黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴板ﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	

土器観察表（46）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1425	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/4黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1426	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	細砂含			5Y4/3暗オリーブ色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
1427	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-5 SR01		粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1428	弥生土器	甕	Ⅱ区 G-3 SR01	茶灰色細砂	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1429	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/3暗オリーブ褐色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1430	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y3/3暗オリーブ褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1431	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1432	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	細砂含			5YR2/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1433	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			7.5YR3/3暗褐色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1434	弥生土器	鉢	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	7/8	ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1435	弥生土器	鉢	Ⅱ区 G-2 SR01	茶灰色細砂	粗砂多量				7.5YR4/2灰褐色	5/8	胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1436	弥生土器	台付鉢	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				10YR2/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1437	弥生土器	台付鉢	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/2暗灰黄色	2/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	2孔1組のみ残存
1438	弥生土器	台付鉢	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			10YR6/3にぶい黄橙色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
1439	弥生土器	台付鉢	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含	粗砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
1440	弥生土器	脚部	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				10YR7/3にぶい黄橙色	3/8	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ,脚板ﾅﾃﾞ	脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ,脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
1441	弥生土器	脚部	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂少量			5Y7/3浅黄色	6/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	穿孔 貫通8，未貫通8
1442	弥生土器	脚部	Ⅱ区 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			5Y2/2オリーブ黒色	7/8	体ﾅﾃﾞ，脚ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	穿孔上段15，下段17うち1つのみ貫通
1443	弥生土器	脚部	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含	細砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
1444	弥生土器	底部	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			10YR5/4にぶい黄褐色	6/8	ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	
1445	弥生土器	高杯	Ⅱ区 G･H-5 SR01		粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1446	弥生土器	高杯	Ⅱ区 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			10YR4/2灰黄褐色	6/8	底ﾍﾗﾐｶﾞｷ	底ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ,脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1447	弥生土器	蓋	Ⅱ区 G･H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含	粗砂少量		2.5Y4/3オリーブ褐色	6/8	板ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	
1448	弥生土器	鉢	Ⅱ区 G-2 SR01	茶灰色細砂	粗砂多量				7.5YR5/3にぶい褐色	4/8	ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	

土器観察表（47）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1449	紡錘車		Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/1黒褐色	8/8	ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	
1450	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含	細砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1451	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含	細砂含	細砂多量		2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ後ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1452	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含	粗砂含	粗砂多量		2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ，胴上半指おさえ後ﾅﾃﾞ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ後胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1453	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半指おさえ，胴下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸～胴ﾊｹﾒ後胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1454	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			5Y5/3灰オリーブ色	3/8	頸指おさえ後ﾊｹﾒ，胴上半指おさえ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	頸～胴ﾊｹﾒ	
1455	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1456	弥生土器	甕	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1457	弥生土器	甕	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		7.5YR4/4褐色	3/8	胴上部指おさえ，中下部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	胴ﾀﾀｷﾒ	
1458	弥生土器	鉢	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含				2.5Y7/3浅黄色	8/8	板ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
1459	弥生土器	鉢	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂含				5Y6/2灰オリーブ色	1/8	ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,体指おさえ	径，高さとも不確実
1460	弥生土器	高杯	Ⅱ区 G·H-5 SR01	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		2.5Y6/3にぶい黄色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，底ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，底ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚板ﾅﾃﾞ	
1461	土錘		Ⅱ区 G·H-4 SR01	灰褐色粘土				粗砂少量	2.5Y8/2灰白色	5/8		ﾏﾒﾂ	
1462	弥生土器	壺	Ⅱ区 G-2·3 包含層	包含層掘削	粗砂多量	粗砂含			7.5YR5/3にぶい褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
1463	弥生土器	把手	Ⅱ区SR01	排土中	粗砂含				2.5Y7/3浅黄色	8/8		不明	
1656	弥生土器	壺	Ⅰ区G10 SR02 土器集中部(写真あり)		粗砂多量				10YR5/4にぶい黄褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1657	弥生土器	甕	Ⅰ区G10 SR02 土器集中部(写真あり)		粗砂多量	粗砂多量			10YR4/3にぶい黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1658	弥生土器	甕	Ⅰ区G10 SR02 土器集中部(写真あり)		粗砂多量				10YR5/2灰黄褐色	4/8	ﾏﾒﾂ	底ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1659	弥生土器	甕	Ⅰ区G10 SR02 土器集中部(写真あり)		粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	3/8	底ﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1660	弥生土器	壺	Ⅰ区H11·H12 SR02	4層（黒茶色ｼﾙﾄ層掘）	粗砂多量	粗砂少量			10YR6/2灰黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸板ﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
1661	弥生土器	鉢	Ⅰ区H11·H12 SR02	4層（黒茶色ｼﾙﾄ層掘）	粗砂含				5Y7/2灰白色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
1662	弥生土器	甕	Ⅰ区H11·H12 SR02	4層（黒茶色ｼﾙﾄ層掘）	粗砂多量				10YR6/4にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾖｺﾅﾃﾞ	

土器観察表（48）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1663	弥生土器	台付鉢	Ⅰ区H11･H12 SR02	4層（黒茶色ｼﾙﾄ層掘）	粗砂多量	細砂含			2.5Y6/4にぶい黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1664	弥生土器	底部	Ⅰ区H11･H12 SR02	4層（黒茶色ｼﾙﾄ層掘）	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1665	弥生土器	壺	Ⅰ区G10･H10 SR02		粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ	
1666	弥生土器	壺	Ⅴ区H11･H12 SR02		粗砂多量	粗砂多量			10YR4/6褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1667	弥生土器	壺	Ⅰ区H11 SR02		粗砂多量	粗砂多量			10YR4/4褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1668	弥生土器	壺	Ⅰ区H11 SR02		粗砂多量	粗砂含			10YR5/4にぶい黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1669	弥生土器	壺	Ⅰ区G11･H11 SR02ﾄﾚﾝﾁ①		粗砂少量				10YR8/4浅黄橙色	4/8	ﾏﾒﾂ	頸ﾊｹﾒ	
1670	弥生土器	壺	Ⅰ区G11･H11 SR02		粗砂多量				10YR5/2灰黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1671	弥生土器	鉢	Ⅰ区H12 SR02ﾄﾚﾝﾁ③		粗砂含				7.5YR5/4にぶい褐色	1/8	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ？	
1672	弥生土器	甕	Ⅰ区H12 SR02 ③ﾄﾚﾝﾁ		粗砂多量	粗砂多量			5YR4/4にぶい赤褐色	1/8	胴ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
1673	弥生土器	甕	Ⅰ区H12 SR02ﾄﾚﾝﾁ③		粗砂多量	粗砂含			7.5YR5/4にぶい褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1674	弥生土器	甕	Ⅰ区H12 SR02ﾄﾚﾝﾁ③		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR4/4褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
1675	弥生土器	甕	Ⅴ区H11･H12 SR02		粗砂含	細砂含			10YR5/4にぶい黄褐色	1/8	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1676	弥生土器	甕	Ⅰ区H12 SR02ﾄﾚﾝﾁ③		粗砂多量	粗砂多量			10YR3/3暗褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1677	弥生土器	甕	Ⅰ区H12 SR02ﾄﾚﾝﾁ③		粗砂多量	粗砂多量			10YR4/3にぶい黄褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
1678	弥生土器	甕	Ⅰ区H12 SR02ﾄﾚﾝﾁ③		粗砂多量				10YR3/4暗褐色	1/8	口縁ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
1679	弥生土器	甕	Ⅰ区H12 SR02ﾄﾚﾝﾁ③		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR4/4褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1680	弥生土器	甕	Ⅴ区H11･H12 SR02		粗砂多量	細砂含			7.5YR5/4にぶい褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	
1681	弥生土器	台付鉢	Ⅰ区G10 SR02		粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/4黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1682	弥生土器	台付鉢	Ⅰ区H11 SR02		粗砂多量	粗砂多量			2.5YR5/6明赤褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1683	弥生土器	台付鉢	Ⅰ区G11･H11 SR02		粗砂多量				10YR8/4浅黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1684	弥生土器	高杯	Ⅰ区H12 SR02ﾄﾚﾝﾁ③		粗砂含	粗砂含			10YR4/2灰黄褐色	6/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1685	弥生土器	高杯	Ⅰ区G11･H11 SR02ﾄﾚﾝﾁ①		粗砂多量				7.5YR8/4浅黄橙色	3/8	底ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	脚上部ﾍﾗ描き沈線
1686	弥生土器	鉢	Ⅰ区H11 SR02		粗砂多量				7.5YR2/3極暗褐色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1687	弥生土器	台付鉢	Ⅴ区H11･H12 SR02		粗砂多量	粗砂含			5YR4/6赤褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
1688	弥生土器	高杯	Ⅰ区H11 SR02		粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	穿孔1のみ残
1689	紡錘車		Ⅴ区H11･H12 SR02		粗砂多量	細砂含			10YR3/2黒褐色	3/8		ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1716	弥生土器	壺	Ⅱ区 G･H-4 SR02土器A群		粗砂多量				5YR7/4にぶい橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1717	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂含				10YR4/2灰黄褐色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ,胴板ﾅﾃﾞ	
1718	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量				10R5/6赤色	2/8	ﾏﾒﾂ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1719	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR5/6明赤褐色	8/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1720	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂少量			10YR6/2灰黄褐色	3/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1721	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR6/3にぶい褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	穿孔貫通せず
1722	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	3/8	胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1723	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量				10YR6/4にぶい黄橙色	3/8	ﾏﾒﾂ	頸ﾊｹﾒ	
1724	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂少量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1725	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂含			2.5YR5/6明赤褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1726	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR5/6明褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1727	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			5Y7/2灰白色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1728	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR4/6褐色	7/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1729	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量				10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1730	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂含			10YR6/4にぶい黄橙色	4/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1731	弥生土器	壺	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR5/4にぶい褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	穿孔2孔1組で2組
1732	弥生土器	底部	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	5/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1733	弥生土器	甕	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			10YR3/3暗褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾅﾃﾞ	
1734	弥生土器	甕	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			7.5YR5/8明赤褐色	3/8	ﾏﾒﾂ	ﾊｹﾒ	
1735	弥生土器	甕	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量				2.5YR5/6明赤褐色	2/8	胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1736	弥生土器	底部	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1737	弥生土器	底部	Ⅱ区 G·H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂含			2.5YR6/6橙色	5/8		ﾍﾗﾐｶﾞｷ	

土器観察表（50）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1738	弥生土器	台付鉢	Ⅱ区 G･H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂多量			5YR3/6暗赤褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾏﾒﾂ	
1739	弥生土器	台付鉢	Ⅱ区 G-4 SR02	濁青灰色細砂層上面	粗砂多量				10R5/6赤色	5/8	ﾏﾒﾂ	体～脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1740	弥生土器	台付鉢	Ⅱ区 G･H-4 SR02土器A群		粗砂多量	粗砂含	細砂少		10YR6/4にぶい黄橙色	7/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1741	弥生土器	甕	Ⅱ区 G･H-4 SR02土器D群		粗砂多量	粗砂多量			2.5YR5/6明赤褐色	6/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1742	弥生土器	把手付台付鉢	Ⅱ区 G･H-4 SR02土器D群		粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	7/8	ﾏﾒﾂ	脚ﾊｹﾒ	
1743	弥生土器	壺	Ⅱ区 G-3 SR02	茶褐色混礫粘質土	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1744	弥生土器	壺	Ⅱ区 G-4 SR02	濁青灰色細砂層上面	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	胴連続刺突文後ﾅﾃﾞ
1745	弥生土器	壺	Ⅱ区 G-4 SR02	濁青灰色細砂層上面	粗砂多量	粗砂含			10YR6/2灰黄褐色	8/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1746	弥生土器	甕	Ⅱ区 G-4 SR02	濁青灰色細砂層上面	粗砂多量				5YR5/6明赤褐色	4/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1747	弥生土器	甕	Ⅱ区 G-4 SR02	濁青灰色細砂層上面	粗砂多量	粗砂含			5YR4/1褐灰色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾊｹﾒ	
1748	弥生土器	甕	Ⅱ区 G-4 SR02	濁青灰色細砂層上面	粗砂含				7.5YR3/3暗褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1749	弥生土器	鉢	Ⅱ区 G-2･3･4 SR02	暗灰褐色混礫粘質土層	粗砂多量	粗砂多量			2.5YR4/4にぶい赤褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1750	弥生土器	底部	Ⅱ区 G-3 SR02	青灰色細～中砂	粗砂多量	細砂含			7.5YR7/3にぶい橙色	3/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1751	弥生土器	把手	Ⅱ区 G-4 SR02	茶褐色混礫粘質土	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	8/8		ﾏﾒﾂ	
1752	紡錘車		Ⅱ区 G-2･3･4 SR02	暗灰褐色混礫粘質土層	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	8/8	ﾏﾒﾂ		
1753	紡錘車		Ⅱ区 G-2･3･4 SR02	暗灰褐色混礫粘質土層	粗砂多量	粗砂多量			5YR7/4にぶい橙色	8/8		ﾏﾒﾂ	
1754	弥生土器	壺	予備調査4ﾄﾚﾝﾁ	第12層 濁青灰色シルト	粗砂多量	粗砂多量			2.5YR5/6明赤褐色	2/8	ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ,下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1755	弥生土器	壺	Ⅸ区 I-3 SR02	北壁土器溜り	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/4褐色	3/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1756	弥生土器	壺	Ⅸ区 I-3 SR02	北壁土器溜り	粗砂多量	粗砂少量			10YR7/2にぶい黄橙色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1757	弥生土器	壺	Ⅸ区 H-4 SR02	濁青灰色細砂	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
1758	弥生土器	壺	Ⅸ区 I-3 SR02	北壁土器溜り	粗砂多量	粗砂含			2.5Y8/2灰白色	3/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	口縁部連続刺突文は部分的に施されている

土器観察表（51）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1759	弥生土器	壺	Ⅸ区 H－4 SR02	濁青灰色細砂	粗砂含				2.5YR6/8橙色	5/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1760	弥生土器	壺	Ⅸ区 H－4 SR02	濁青灰色細砂	粗砂多量	粗砂含			10R6/6赤橙色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1761	弥生土器	壺	Ⅸ区 I－3 SR02	北壁土器溜り	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y4/3オリーブ褐色	3/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸板ﾅﾃﾞ	口縁３条櫛描斜格子文，胴８条櫛描直線文・波状文
1762	弥生土器	壺	Ⅸ区 H－4 SR02	濁青灰色細砂	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/4にぶい黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
1763	弥生土器		Ⅸ区 H－3 SR02	西壁土器溜り	粗砂多量	粗砂多量			5YR4/6赤褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	５条櫛描文
1764	弥生土器	壺	Ⅸ区 H－3 SR02	西壁土器溜り	粗砂含				10YR7/3にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	６条櫛描直線文・波状文，３条櫛描斜格子文
1765	弥生土器	壺	Ⅸ区 H－3 SR02	北壁土器溜り	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1766	弥生土器	壺	Ⅸ区 H－4 SR02	濁青灰色細砂	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	6/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1767	弥生土器	甕	Ⅸ区 H－4 SR02	濁青灰色細砂	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/4オリーブ黄色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	不明	３条単位の櫛描文，２条櫛描原体連続刺突文
1768	弥生土器	甕	Ⅸ区 H－3 SR02	西壁土器溜り	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1769	弥生土器	甕	Ⅸ区 I－3 SR02	北壁土器溜り	粗砂多量	粗砂含			10YR6/2灰黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1770	弥生土器	甕	Ⅸ区 I－3 SR02	北壁土器溜り	粗砂含	粗砂含			10YR7/2にぶい黄橙色	1/8	胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴板ﾅﾃﾞ	
1771	弥生土器	甕	Ⅸ区 H－3 SR02	北壁土器溜り	粗砂多量				5Y6/3オリーブ黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1772	弥生土器	台付鉢	Ⅸ区 H－4 SR02	濁青灰色細砂	粗砂多量				10R6/6赤橙色	6/8	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚下半ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚板ﾅﾃﾞ	
1773	弥生土器	台付鉢	Ⅸ区 H－3 SR02	西壁土器溜り	粗砂多量	粗砂多量			5YR4/6赤褐色	7/8	脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	
1788	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	不明	不明	ﾍﾗ描沈線
1789	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－11 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1790	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－11 SR02	黒色粘土	粗砂多量				10YR8/3浅黄橙色	1/8	ﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	4条櫛描文
1791	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－9･10 SR02	灰色砂礫（最下層）	粗砂含				10YR4/2灰黄褐色	1/8	不明	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	4条櫛描文
1792	弥生土器	壺	Ⅵ区 F･G－10 SR02	灰褐色粘土とその下の砂礫層	粗砂多量				2.5Y3/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ後ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	14条櫛描文
1793	弥生土器	壺	12区 E･F－8･9 SR02	黒色混礫粘土	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1794	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				10YR3/3暗褐色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1795	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y3/2黒褐色	5/8	胴下半指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	12条以上の櫛描原体

土器観察表（52）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1796	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	細砂多			2.5Y5/2暗灰黄色	1/8	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	頸ﾊｹﾒ	12条櫛描文
1797	弥生土器	壺	Ⅵ区 F·G－9 SR02	黒色粘土	粗砂多量				10YR2/2黒褐色	2/8	ﾊｹﾒ	胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1798	弥生土器	壺	Ⅵ区 F·G－9 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			10YR3/2黒褐色	1/8	ﾊｹﾒ後ﾅﾃﾞ	胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	2本1組の原体による連続刺突文，12条櫛描文
1799	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	細砂含			5Y7/2灰白色	1/8	ﾅﾃﾞ	不明	11条櫛描文
1800	弥生土器	壺	Ⅵ区（拡張部） F·G－9 SR02	黒色粘土	粗砂多量				10YR3/2黒褐色	4/8	板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1801	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他（ひとかたまり）	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	頸ﾊｹﾒ	
1802	弥生土器	壺	12区E·F－9 SR02	黒褐色混粘土	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	4/8	ﾏﾒﾂ	頸ﾊｹﾒ	
1803	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y3/2黒褐色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1804	弥生土器	壺	Ⅵ区 F·G－9 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1805	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂含				2.5Y6/2灰黄色	1/8	胴ﾊｹﾒ	頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1806	弥生土器	壺	Ⅵ区 F·G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y5/2暗灰黄色	4/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ	
1807	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y3/3暗オリーブ褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1808	弥生土器	壺	Ⅵ区 F·G－9 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂少量			5Y4/2灰オリーブ色	1/8	不明	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1809	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9·10 SR02	灰色砂礫（最下層）	粗砂含				2.5Y3/2黒褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1810	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
1811	弥生土器	壺	12区E·F－8·9 SR02	黒色混礫粘土	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
1812	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂少量				10YR2/3黒褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1813	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1814	弥生土器	壺	Ⅵ区 F·G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴ﾊｹﾒ	
1815	弥生土器	壺	Ⅵ区 F·G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量				5Y7/3淡黄色	4/8	胴ｹｽﾞﾘ状ﾅﾃﾞ	頸ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1816	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				5Y7/3浅黄色	2/8	ﾏﾒﾂ	底板ﾅﾃﾞ	
1817	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量			5Y5/3灰オリーブ色	8/8	板ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1818	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	6/8	ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	
1819	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/2灰黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1820	弥生土器	底部	予備調査10ﾄﾚﾝﾁ	第⑤層 黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1821	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y4/2暗灰黄色	6/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面に木の実のような炭化物付着

土器観察表（53）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1822	弥生土器	鉢	Ⅵ区 F－9･10 SR02	灰色砂礫（最下層）	粗砂多量	粗砂多量			10YR2/2黒褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ	
1823	弥生土器	台付鉢	Ⅵ区 F－9･10 SR02	灰色砂礫（最下層）	粗砂含				5Y6/2灰オリーブ色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1824	弥生土器	台付鉢	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	3/8	板ﾅﾃﾞ	体ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚指押さえ後ﾅﾃﾞ	
1825	弥生土器	不明	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	細砂含				2.5Y3/2黒褐色	7/8	体指おさえ，脚端ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ，脚端ﾅﾃﾞ	
1826	紡錘車		12区E･F－8･9 SR02	黒色混礫粘土	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	8/8	不明	ﾊｹﾒ	中期土器の転用
1827	弥生土器	壺	Ⅵ区 F･G－9 SR02	黒色粘土	粗砂少量	細砂含	細砂含		10YR4/3にぶい黄褐色	1/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1828	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂含	粗砂含	粗砂多量		10YR4/2灰黄褐色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1829	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y3/2黒褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1830	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	細砂含	粗砂多量		10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1831	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂含	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1832	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		10YR4/3にぶい黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1833	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		2.5Y5/3黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ	
1834	弥生土器	壺	Ⅵ区ﾄﾚﾝﾁ②	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			10YR5/4にぶい黄褐色	8/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ	
1835	弥生土器	壺	Ⅵ区 F･G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ	頸部線刻
1836	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量		粗砂多量		10YR5/3にぶい黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1837	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂含	粗砂含		2.5Y5/3黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1838	弥生土器	壺	Ⅵ区 F･G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		10YR5/3にぶい黄褐色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
1839	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半指おさえ，胴下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	
1840	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		10YR5/3にぶい黄褐色	5/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	
1841	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂少量	細砂含	粗砂少量		2.5Y6/2灰黄色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	
1842	弥生土器	壺	Ⅵ区 F･G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴上部指おさえ胴下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1843	弥生土器	壺	Ⅵ区 F−9･10 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		5Y5/2灰オリーブ色	5/8	胴上半指おさえ,下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹﾒ	
1844	弥生土器	壺	Ⅵ区 F−9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	細砂含	細砂含		10YR4/2灰黄褐色	2/8	胴上半指おさえ,下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1845	弥生土器	壺	Ⅵ区 F･G−10 SR02	黒色粘土	細砂多	粗砂含	細砂含		7.5YR3/4暗褐色	8/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ後下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ，胴上半指おさえ下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1846	弥生土器	壺	Ⅵ区 F−10 SR02	黒色粘土他	細砂少	細砂含	細砂多		2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
1847	弥生土器	壺	Ⅵ区 F･G−9 SR02	黒色粘土	粗砂少量	細砂含	粗砂少量		2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ	
1848	弥生土器	壺	Ⅵ区 F−9 SR02	黒色粘土他	粗砂少量	細砂含	細砂含		2.5Y6/3にぶい黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
1849	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		10YR5/3にぶい黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1850	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴上半ﾊｹﾒ	
1851	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂含	粗砂多量		2.5Y4/3オリーブ褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1852	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ・下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1853	弥生土器	甕	Ⅵ区 F･G−10 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含	粗砂含		2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ・下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ・下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1854	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂含	粗砂多量		10YR4/3にぶい黄褐色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴上半指おさえ・下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1855	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−10 SR02	黒色粘土他	粗砂含	粗砂含	粗砂含		2.5Y4/3オリーブ褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
1856	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−11 SR02	黒色粘土（ひとまとまり）	粗砂多量	粗砂多量			10YR6/3にぶい黄橙色	6/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾀﾀｷﾒ後ﾊｹﾒ後下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1857	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−9 SR02	黒色粘土他（ひとかたまり）	粗砂多量		粗砂少量		10YR5/4にぶい黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴上半指おさえ,下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴上半ﾊｹﾒ,下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1858	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−11 SR02	黒色粘土（ひとまとまり）	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y6/3にぶい黄色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ,下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴上半指おさえ,下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1859	弥生土器	甕	Ⅵ区 F−9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		10YR3/2黒褐色	4/8	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1860	弥生土器	鉢	Ⅵ区 F−10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂含	粗砂含		2.5Y6/2灰黄色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,体ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,体板ﾅﾃﾞ,底面ﾍﾗﾐｶﾞｷ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1861	弥生土器	鉢	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量		粗砂含		10YR4/3にぶい黄褐色	4/8	口縁ヨコナデ,体板ナデ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ,体板ナデ後ヘラミガキ	
1862	弥生土器	高杯	Ⅵ区 F･G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		10YR5/3にぶい黄褐色	4/8	口縁ヨコナデ，底ヘラミガキ，脚ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，底ヘラケズリ後ヘラミガキ，脚板ナデ	
1863	弥生土器	高杯	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量	細砂含		10YR5/3にぶい黄褐色	4/8	口縁ヨコナデ,底ヘラミガキ,脚ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，底ヘラケズリ後ヘラミガキ，脚ナデ	
1864	弥生土器	高杯	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂多量	粗砂少量		2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	口縁ヨコナデ,底ヘラケズリ	口縁ヨコナデ,底ヘラケズリ	
1865	弥生土器	高杯	Ⅵ区 F･G－9 SR02	黒色粘土	粗砂含	粗砂多量			5Y5/3灰オリーブ色	3/8	口縁ヨコナデ，脚ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，底ヘラケズリ後ヘラミガキ	
1866	弥生土器	高杯	Ⅵ区 F･G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		2.5Y5/3黄褐色	1/8	ヘラケズリ	ヘラミガキ，脚端ヨコナデ	穿孔下段2,上段2残存
1867	弥生土器	高杯	Ⅵ区 F－11 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量	細砂含		10YR6/3にぶい黄橙色	5/8	底ヘラミガキ，脚ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，底ヘラケズリ後ヘラミガキ	穿孔7残存
1868	弥生土器	壺	Ⅵ区 F･G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量	細砂多			10YR5/3にぶい黄褐色	7/8	ヨコナデ	頸ハケメ	
1869	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	1/8	口頸ヨコナデ，胴板ナデ	口縁ヨコナデ，頸～胴ハケメ後ヘラミガキ	
1870	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－11 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	2/8	胴ヘラケズリ	頸ハケメ，胴ハケメ後ヘラミガキ	
1871	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土				砂粒ほとんど含まず	2.5Y7/2灰黄色	4/8	マメツ	ヨコナデ	
1872	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量	粗砂少量			10YR5/3にぶい黄褐色	3/8	胴ヘラケズリ	ハケメ	
1873	弥生土器	壺	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	4/8	マメツ	マメツ	
1874	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	5/8	胴下半ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1875	弥生土器	甕	Ⅵ区 F･G－9 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	1/8	ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1876	弥生土器	甕	Ⅵ区 F･G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	3/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴タタキメ	
1877	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				10YR8/4浅黄橙色	2/8	胴指おさえ後ハケメ	胴タタキメ後ハケメ	
1878	弥生土器	甕	Ⅵ区 F･G－9 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂多量			2.5Y5/3黄褐色	5/8	胴ヘラケズリ	ナデ	
1879	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	3/8	口縁ヨコナデ,胴ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1880	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他				砂粒ほとんど含まず	2.5Y7/2灰黄色	1/8	口縁ヨコナデ,底ヘラミガキ	口縁ヨコナデ,胴タタキメ	高さは不確実
1881	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－11 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y8/3淡黄色	4/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，胴ヘラミガキ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1882	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－11 SR02	黒色粘土（ひとまとまり）	粗砂多量				10YR7/2にぶい黄橙色	4/8	口縁ヨコナデ，胴ヘラケズリ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1883	弥生土器	甕	Ⅵ区 F－10 SR02	黒色粘土他	粗砂多量				2.5Y5/3黄褐色	2/8	胴ナデ	ー	
1884	弥生土器	底部	Ⅵ区 F－11 SR02	黒色粘土				砂粒ほとんど含まず	10YR8/2灰白色	2/8	ハケメ後ナデ	タタキメ後ハケメ	
1885	弥生土器	鉢	Ⅵ区 F·G－9 SR02	黒色粘土				砂粒ほとんど含まず	2.5Y3/2黒褐色	1/8	口縁ヨコナデ，体板ナデ	口縁ヨコナデ	
1886	弥生土器	高杯	Ⅵ区 F·G－9 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			10YR7/2にぶい黄橙色	4/8	脚下半板ナデ	ヘラミガキ	穿孔3
1887	弥生土器	高杯	Ⅵ区 F·G－10 SR02	黒色粘土	粗砂少量				2.5Y7/2灰黄色	3/8	杯ヘラミガキ,脚上半ヘラケズリ	口縁ヨコナデ,脚ヘラミガキ,脚端ヨコナデ	透孔4
1888	土師器	壺	Ⅵ区 F·G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含	粗砂含		2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	底ヘラケズリ	ハケメ	
1889	土師器	甕	Ⅵ区 F－9 SR02	黒色粘土他	粗砂含	細砂含			2.5Y5/2暗灰黄色	4/8	口縁ヨコナデ，胴上半指おさえ，下半板ナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1890	土師器	甕	Ⅵ区 F·G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量				2.5Y6/3にぶい黄色	3/8	胴ヘラケズリ	胴上半ハケメ，下半ヘラケズリ	
1891	土師器	甕	Ⅵ区 F·G－10 SR02	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			5Y6/3オリーブ黄色	2/8	口縁ハケメ後端ヨコナデ，胴指ナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1892	弥生土器	壺	Ⅵ区 F·G－10 トレンチ②		粗砂多量				10YR4/2灰黄褐色	6/8	口縁ヨコナデ,頸ハケメ	口縁ヨコナデ,頸～胴ハケメ	胴上部櫛描直線文
1893	弥生土器	壺	Ⅵ区 F·G－10 トレンチ②		粗砂多量				2.5Y8/2灰白色	2/8	口縁ヨコナデ,頸ハケメ後ヘラミガキ	口縁ヨコナデ,頸ハケメ	
1894	弥生土器	壺	Ⅵ区トレンチ②	黒色粘土	粗砂多量				5Y7/3浅黄色	2/8	口縁ヨコナデ	口縁ケズリ状ヨコナデ，ケズリ状ナデ	
1895	弥生土器	甕	Ⅵ区トレンチ②	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含	粗砂多量		10YR4/3にぶい黄褐色	2/8	口縁ヨコナデ,胴上半指おさえ．下半ヘラケズリ	口縁ヨコナデ,胴上半ハケメ,下半タタキ後ヘラミガキ	
1896	弥生土器	高杯	Ⅵ区トレンチ③	黒色粘土（下の黒）	粗砂多量	粗砂多量	粗砂含		10YR5/3にぶい黄褐色	5/8	口縁ヨコナデ,底ヘラミガキ	口縁ヨコナデ,底ヘラケズリ	
1897	弥生土器	高杯	Ⅵ区トレンチ②	黒色粘土	粗砂多量	粗砂含			2.5Y5/3黄褐色	3/8	ハケメ，脚端ヨコナデ	ハケメ後ヘラミガキ	穿孔2残存（推定4）
1960	土師器	椀	12区F－8 SR01	灰褐色粘質土				粗砂多量	2.5Y8/2灰白色	5/8	マメツ	マメツ	
1961	土師器	羽釜	Ⅵ区 F·G－9 SR01	Ⅱ層				粗砂多量	2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	
1962	土師器	羽釜	Ⅵ区 F·G－11 SR01					粗砂多量	2.5Y5/3黄褐色	2/8	口縁ヨコナデ,胴板ナデ	口縁ヨコナデ,胴板ナデ	
1963	土師器	羽釜	Ⅵ区 F·G－11 SR01					粗砂多量	2.5Y3/2黒褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	
1964	土師器	羽釜	Ⅵ区 F－11 SR01上	ＳＲ０１上の黒褐色粘土				粗砂多量	2.5Y6/4にぶい黄色	2/8	口縁ヨコナデ,胴板ナデ	口縁ヨコナデ,胴ハケメ	
1965	土師器	鍋	Ⅵ区 F－11 SR01上	ＳＲ０１上の黒褐色粘土				粗砂多量	10YR4/2灰黄褐色	1/8	口縁ヨコナデ	口縁ヨコナデ，胴ハケメ	
1966	土師器	かまど	Ⅵ区トレンチ②	Ⅱ層				粗砂多量	7.5YR3/1黒褐色	1/8	ヨコナデ	ヨコナデ	

土器観察表（57）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
1967	須恵器	杯蓋	Ⅵ区F･G－10 SR01	Ⅱ層（濁茶灰色粘土）				粗砂少量	N5/0灰色	3/8	回転ﾅﾃﾞ，天井ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ，天井回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
1968	須恵器	杯	Ⅵ区F･G－9 ﾄﾚﾝﾁ①					粗砂少量	N3/0暗灰色	3/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,底ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
1969	須恵器	短頸壺	Ⅵ区F･G－9 SR01	Ⅱ層				粗砂含	5PB6/1青灰色	3/8	回転ﾅﾃﾞ	胴上半ｶｷﾒ,下半回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
1970	須恵器	蓋	Ⅵ区F･G－12 SR01	黒褐色粘土上の黒				粗砂少量	N5/0灰色	1/8	口縁回転ﾅﾃﾞ,天井ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
1971	須恵器	杯	12区F－9 SR01	灰褐色粘質土				砂粒含まず	5Y7/2灰白色～5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色	2/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ，底部回転ﾍﾗｷﾘ	
1972	須恵器	杯	Ⅵ区G－10 SR01	濁茶灰色粘土				粗砂少量	N6/0灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	内面に漆付着
1973	須恵器	底部	Ⅵ区F･G－11 SR01					粗砂少量	N7/0灰白色	1/8	ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
1974	須恵器	甕	Ⅵ区 ﾄﾚﾝﾁ②	Ⅱ層				細砂少量	5PB5/1青灰色	8/8	同心円ﾀﾀｷ	平行ﾀﾀｷ後ｶｷﾒ	
1975	須恵器	風字硯	Ⅵ区 F･G－10 包含層	Ⅱ層（濁茶色粘土）				粗砂少量	10Y6/1灰色	8/8		ﾍﾗｹｽﾞﾘ	墨残存
1976	黒色土器A類	椀	12区E･F－8 SR01	灰褐色粘土				細砂含	2.5Y6/2灰黄褐色	2/8	分割ﾍﾗﾐｶﾞｷ	体上半分割ﾍﾗﾐｶﾞｷ，底ｹｽﾞﾘ状ﾅﾃﾞ	墨書
1977	黒色土器A類	椀	Ⅵ区F･G－9 SR01	Ⅱ層				細砂含	2.5Y6/3にぶい黄色	2/8	ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	回転ﾅﾃﾞ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1978	瓦器	椀	Ⅵ区（北拡張区）F－9 SR01	Ⅱ層				砂粒ほとんど含まず	N3/0暗灰色	2/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	指おさえ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1979	中国産白磁	椀	Ⅵ区 包含層	Ⅱ層（濁茶灰色粘土）				砂粒含まず	2.5Y8/3淡黄色	1/8	施釉	底部無釉	
1980	土師器	土釜	Ⅵ区SD?	淡灰白色細砂				粗砂多量	2.5Y7/2灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
1981	黒色土器A類	椀	Ⅵ区F･G－9 包含層	ガリカケ				細砂含	2.5Y7/3浅黄色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1982	黒色土器A類	椀	Ⅵ区 包含層	表採				細砂含	2.5Y7/2灰黄色	3/8	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	
1983	黒色土器B類	椀	Ⅵ区F･G－9 包含層	ガリカケ				砂粒含まず	10YR2/1黒色	1/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
1984	中国産白磁	椀	12区 E－8･9 表土剥ぎ	耕作土～暗茶褐色の上層まで				砂粒含まず	5Y7/1灰白色	1/8	施釉	施釉（下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ）	
1985	中国産青磁	椀	Ⅵ区 西拡張区 E･F－9･10 包含層	表土剥ぎ				砂粒含まず	10Y6/2オリーブ灰色	1/8	施釉	施釉	
1986	中国産青磁	椀	12区 F－8 表土剥ぎ					砂粒含まず	10Y4/2オリーブ灰色	1/8	施釉	施釉	
2028	須恵器	底部	暗渠A5 SR01	A層				粗砂含	5PB4/1暗青灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
2029	須恵器	高台付杯	暗渠A5 SR01	A層				細砂含	5PB6/1青灰色	2/8	回転ﾅﾃﾞ,底中央ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,底ﾅﾃﾞ	
2030	須恵器	高台付杯	暗渠A5 SR01	A層				粗砂少量	10BG6/1青灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
2031	須恵器	甕	暗渠A5 SR01	A層				粗砂含	5PB4/1暗青灰色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
2032	須恵器	蓋	暗渠A5 SR01	A層				細砂含	5B6/1青灰色	6/8	不明	ﾅﾃﾞ	
2033	黒色土器A類	椀	暗渠A5 SR01	A層				粗砂少量	2.5Y7/3浅黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2034	土師器	皿	暗渠A5 SR01	B層				粗砂多量	5YR4/8赤褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾏﾒﾂ	内面赤彩残
2035	土師器	椀	暗渠A5 SR01	B層				細砂含	10YR7/3にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2036	土師器	鉢	暗渠A5 SR01	B層				粗砂多量	2.5Y8/3淡黄色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
2037	土師器	鍋	暗渠A5 SR01	B層				粗砂多量	2.5Y6/1黄灰色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
2038	土師器	土釜	暗渠A5 SR01	B層				粗砂多量	2.5Y7/2灰黄色	1/8		ﾖｺﾅﾃﾞ	
2039	須恵器	杯蓋	暗渠A5 SR01	B層				細砂含	N6/0灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
2040	須恵器	蓋	暗渠A5 SR01	B層				粗砂多量	10G7/1明緑灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,天井回転ﾍﾗｷﾘ後ﾅﾃﾞ	
2041	須恵器	杯	暗渠A5 SR01	B層				細砂含	5B6/1青灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,底回転ﾍﾗｷﾘ後ﾅﾃﾞ	
2042	土師器	杯	暗渠A5 SR01	B層				粗砂多量	2.5YR6/4にぶい橙色	2/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,底回転ﾍﾗｷﾘ	
2043	須恵器	高台付杯	暗渠A5 SR01	B層				粗砂少量	N8/0灰白色	2/8	回転ﾅﾃﾞ後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,底回転ﾍﾗｷﾘ後ﾅﾃﾞ	
2044	須恵器	高台付杯	暗渠A5 SR01	B層				粗砂少量	5BG5/1青灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,底回転ﾍﾗｷﾘ後ﾅﾃﾞ	
2045	須恵器	高台付杯	暗渠A5 SR01	B層				粗砂少量	N7/0灰白色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,底回転ﾍﾗｷﾘ後板ﾅﾃﾞ	
2046	須恵器	高台付杯	暗渠A5 SR01	B層				粗砂含	N7/0灰白色	2/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
2047	須恵器	高杯	暗渠A5 SR01	B層				粗砂含	5PB7/1明青灰色	2/8	底回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
2048	須恵器	壺	暗渠A5 SR01	B層				細砂少量	5PB3/1暗青灰色	1/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	
2049	須恵器	壺	暗渠A5 E·F−16 SR01	B層				砂粒含まず	N7/0灰白色	2/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後ｶｷﾒ	
2050	緑釉陶器	椀	暗渠A5 SR01	B層				砂粒ほとんど含まず	7.5Y7/3浅黄色	1/8	施釉	高台内面無釉	
2056	弥生土器	高杯	暗渠A5 E·F−16 SR01	C層（一個体）	粗砂多量		粗砂多量		10YR4/6褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,底ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ,脚ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,底ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ,脚ﾍﾗﾐｶﾞｷ	脚穿孔残２
2057	朝鮮系無文土器	甕	暗渠A5 E·F−16 SR01	C層	粗砂多量				10YR3/3暗褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2058	分銅形土製品		暗渠A5 E·F−16 SR01	C層	粗砂少量				10YR8/2灰白色	8/8		ﾏﾒﾂ	
2060	弥生土器	甕	暗渠A5 E·F−16 SR01	D層	粗砂多量	細砂少			2.5Y5/3黄褐色	1/8	ﾅﾃﾞ	不明	櫛描直線文
2061	須恵器	杯蓋	暗渠A5 包含層	側溝掘り				細砂含	10GY5/1緑灰色	2/8	回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ,天井ﾅﾃﾞ	
2062	須恵器	蓋	暗渠A5 包含層	側溝掘り				粗砂含	5P6/1紫灰色	2/8	回転ﾅﾃﾞ	天井回転ﾍﾗｷﾘ後ﾅﾃﾞ,回転ﾅﾃﾞ	
2064	土師器	鍋	暗渠A4（南）SR01					粗砂多量	2.5Y6/1黄灰色	1/8	ﾊｹﾒ後口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	

土器観察表（59）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
2073	飯蛸壺		水路西③区 B－2 SR01	黒褐色粘土層				粗砂多量	2.5Y6/4にぶい黄色	4/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2074	弥生土器	壺	暗渠B1 SR01	C層	粗砂多量	細砂含			10YR6/6明黄褐色	4/8	胴ﾊｹﾒ	ﾏﾒﾂ	円形浮文3個1組で4組
2075	弥生土器	壺	暗渠B1 SR	C層	粗砂多量	粗砂含			2.5Y6/2灰黄色	2/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,頸ﾊｹﾒ後ﾖｺﾅﾃﾞ	
2076	弥生土器	壺	暗渠B1 SR	C層	粗砂多量				7.5Y7/2灰白色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
2077	弥生土器	壺	暗渠B1 SR	C層（黒色粘土～礫の上まで）	粗砂多量	粗砂含			2.5Y4/2暗灰黄色	1/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ,胴指ﾅﾃﾞ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
2078	弥生土器	甕	暗渠B1 SR	C層（黒色粘土～礫の上まで）	粗砂多量	細砂含	粗砂多量		10YR4/3にぶい黄褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴上半指おさえ,下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ,胴ﾊｹﾒ	
2083	弥生土器	壺	水路西③区 B－4･5包含層	茶灰色細砂層	粗砂多量				7.5YR5/4にぶい褐色	1/8	口縁ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
2084	弥生土器	壺	水路西③区 B･C－6包含層	側溝掘り	粗砂含	粗砂少量			10YR7/4にぶい黄橙色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
2085	弥生土器	壺	水路西③区 B－4･5包含層	茶灰色細砂層	粗砂多量				7.5YR6/4にぶい橙色	4/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半ﾊｹﾒ	
2086	弥生土器	甕	水路西③区 B－4･5包含層	茶灰色細砂層	粗砂多量				2.5Y7/3浅黄色	2/8	ﾊｹﾒ後板ﾅﾃﾞ	胴上半ﾊｹﾒ，胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
2087	弥生土器	甕	水路西③区 B－4･5包含層	茶灰色細砂層	粗砂多量	粗砂含			7.5YR7/4にぶい橙色	4/8	胴板ﾅﾃﾞ	胴ﾊｹﾒ	
2088	弥生土器	甕	水路西③区 B－6包含層	第1遺構面のベース灰茶色細砂上面	粗砂多量				10YR3/3暗褐色	2/8	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	胴ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
2089	弥生土器	台付鉢	水路西③区 B－3包含層	壁きり・側溝掘り	粗砂多量				2.5Y6/2灰黄色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾊｹﾒ，脚端ﾖｺﾅﾃﾞ	
2109	弥生土器	甕	12区（道路下）D－9 SD18		粗砂含	中砂多量	粗砂多量		10YR6/4にぶい黄橙色	7/8	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口頸ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半ﾊｹﾒ，下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	概9図
2110	弥生土器	壺	12区（道路下）D－8 SX02のSD01		中砂含	細砂含	粗砂少量		10YR5/4にぶい黄褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
2111	弥生土器	壺	12区（道路下）D－9 SX02		粗砂含	細砂含	粗砂多量		7.5YR3/2黒褐色	2/8	上半指おさえ・下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	上半ﾊｹﾒ・下半ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
2112	弥生土器	鉢	12区SX02のK01		粗砂多量				10YR8/3浅黄橙色	3/8	板ﾅﾃﾞ	不明	
2114	弥生土器	壺	東水路②区 J－3 SH01		粗砂含	粗砂含	粗砂多量		7.5YR4/6褐色	1/8	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	
2115	弥生土器	鉢	東水路②区 J－3･4 SH01		粗砂含	粗砂少量	粗砂含		5YR4/4にぶい赤褐色	1/8	体ﾅﾃﾞ	不明	
2116	弥生土器	鉢	東水路②区 J－3･4 SH01		粗砂多量	粗砂多量	細砂含		10YR2/3黒褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	

土器観察表（60）

番号	種類	器種	遺構名	層位	長石・石英	雲母	角閃石	その他	色調	残存率	内面調整	外面調整	備考
2117	土師器	小型丸底壺	東水路②区 J－4 SH01 SP01		粗砂含				2.5Y8/2灰白色	2/8	胴～底板ﾅﾃﾞ		
2118	弥生土器	壺	12区D－7 SX01		粗砂含	粗砂少量	粗砂多量		7.5YR6/4にぶい橙色	3/8	胴上半指おさえ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹﾒ	
2119	弥生土器	甕	12区D－7 SX01		粗砂多量	粗砂多量	粗砂多量		7.5YR5/6明褐色	2/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴上半指おさえ，下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，胴ﾊｹﾒ	
2120	弥生土器	甕	12区D－7 SX01		粗砂多量	細砂含			5YR6/8橙色	2/8	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
2121	弥生土器	高杯	12区D－7 SX01		粗砂多量	中砂含	粗砂多量		5YR5/6明赤褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ	
2122	弥生土器	甕	Ⅴ区I10 SD01		粗砂多量	粗砂多量			10YR6/3にぶい黄橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2123	弥生土器	壺	Ⅰ区H10 SD01（一個体,写真あり）		粗砂多量	粗砂含			7.5YR6/6橙色	7/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半指おさえ，胴下半ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴上半ﾊｹﾒ胴下半ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
2124	弥生土器	片口鉢	Ⅰ区H10 SD01		粗砂多量	粗砂含	細砂含		7.5YR5/6明赤褐色	1/8	ﾍﾗｹｽﾞﾘ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ	径・傾きとも不確実
2125	弥生土器	壺	12区E･F－8･9 SR02	黒色混礫粘土	粗砂多量				2.5Y7/1灰白色	2/8	板ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ後ﾍﾗﾐｶﾞｷ？	
2126	弥生土器	底部	12区（道路下） E－8 SD07	下層	粗砂含				2.5Y8/3淡黄色	5/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2127	弥生土器	壺	12区（道路下） D･E－8 SD07	下層	粗砂多量				2.5YR4/6赤褐色	1/8	胴上半板ﾅﾃﾞ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸～胴ﾊｹﾒ，底ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
2128	弥生土器	壺	西水路④区B－6 SD07	上層 暗茶褐色粘土	粗砂多量		粗砂含		7.5YR4/4褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2129	弥生土器	壺	12区D－7 SD07（ﾄﾚﾝﾁ①）		粗砂多量				2.5Y7/2灰黄色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2130	弥生土器	壺	12区E－8 SD07	下層	粗砂多量				7.5YR3/3暗褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，底ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ，胴上半ﾊｹﾒ後分割ﾍﾗﾐｶﾞｷ，下半板ﾅﾃﾞ	
2131	弥生土器	無頸壺	12区D－8 SD07	下層	粗砂多量				7.5YR7/4にぶい橙色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2132	弥生土器	甕	12区D－8 SD07	下層	粗砂多量				10YR5/2灰黄褐色	5/8	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
2133	弥生土器	壺	西水路④区C－7 SD07	上層	粗砂多量	細砂含	粗砂含		10YR5/6黄褐色	1/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2134	弥生土器	壺	12区C－7 SD07	上層暗茶褐色粘土	粗砂含	中砂多量	粗砂含		7.5YR5/6明褐色	2/8	ﾏﾒﾂ	ﾏﾒﾂ	
2135	弥生土器	壺	12区E－8 SD07		中砂多量	細砂含	中砂多量		10YR5/4にぶい黄褐色	3/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ後ﾊｹﾒ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾀﾀｷﾒ後ﾊｹﾒ	
2136	弥生土器	壺	12区E－8 SD07	下層⑤	粗砂含		粗砂多量		10YR5/3にぶい黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	
2137	弥生土器	壺	12区C－7 SD07	上層	粗砂含	粗砂含	粗砂多量		10YR5/3にぶい黄褐色	1/8	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸指おさえ	口縁ﾖｺﾅﾃﾞ，頸ﾊｹﾒ	

土器観察表（61）